

平成 26 年 度  
酪 農 全 国 基 礎 調 査  
結 果 報 告 書

平成 27 年 3 月

一般社団法人 中央酪農会議



## はじめに

本報告書の発刊にあたり、本年度の「酪農全国基礎調査」の円滑な実施に多大なるご理解、ご協力を賜りました酪農家の皆様、指定団体及び会員団体の皆様に、深く感謝を申し上げます。

本調査は、平成3年度に始まり、平成4年度からはおおむね3年ごとに実施してきた悉皆調査で、今回は平成19年度から7年ぶりの実施となります。酪農家及び関係者のご協力もあり、毎回高い回収率（本年度：99.1%）を確保でき、「生乳生産現場の生の声」として、日本酪農の振興のため、様々な検討の基礎資料として活用されています。

本年度の調査の背景には、わが国酪農が直面する諸問題があります。高齢化や後継者不足による廃業、流通飼料価格の高騰等による生産コストの上昇、自由貿易交渉の進展など国際環境の変化等、わが国酪農をめぐる情勢が大きく変化する中であって、生乳生産基盤の弱体化に歯止めがかかりません。また、わが国酪農の競争力強化をめぐる議論、とくに産業競争力会議や規制改革会議等においては、生乳生産者団体、とくに指定生乳生産者団体の組織、運営、機能面等からの見直しの必要性が議論の俎上に上っています。

このような状況の中、指定生乳生産者団体では「酪農全国基礎調査」を実施し、酪農経営の実態と課題、とくに生乳生産量の減少要因、酪農家の経営計画・意向等を明らかにするとともに、生乳生産基盤の再構築に向けて、今後の指定生乳生産者団体等の取組を検討することとなりました。

本報告書では、調査した各項目及びその調査結果を基に加工した項目についての「全国・ブロック別」の単純集計結果及び「全国・北海道・都府県における経産牛飼養頭数別」のクロス集計結果に加え、生乳生産構造の現状を明らかにするための経営類型化分析結果、さらに将来の生乳生産構造の変化を見通すためのマルコフ分析結果も掲載しています。

本報告書が、指定生乳生産者団体等の機能強化及び生乳生産基盤の再構築等に少しでも役立てれば幸いです。最後になりましたが、本調査の実施にあたり、ご指導、ご協力を賜りました農林水産省並びに農畜産業振興機構に心から感謝の意を表します。

平成27年3月  
一般社団法人 中央酪農会議



# 目 次

I 調査の概要と調査結果 .....	1
I - i 調査の概要 .....	3
1 調査趣旨 .....	5
2 調査計画 .....	5
(1) 調査対象 .....	5
(2) 調査方法 .....	5
(3) 調査基準月日 .....	6
(4) 調査内容 .....	6
(5) 調査結果の報告 .....	7
(6) 表記上の注意 .....	7
3 調査票の回収結果 .....	8
I - ii 調査結果 .....	9
1 経営主年齢 .....	11
2 酪農経営従事者数 .....	12
<推定値>酪農従事者1人当たり経産牛飼養頭数 .....	14
3 経営形態 .....	15
4 飼養形態 .....	16
5 搾乳形態 .....	17
6 経産牛飼養頭数(平成26年4月1日現在) .....	18
7 経産牛の年間増減頭数(平成25年度) .....	19
<推定値1>経産牛飼養頭数(平成25年4月1日現在) .....	20
<推定値2>経産牛飼養頭数の伸び率(平成25年度) .....	21
8 未經産牛飼養頭数(平成26年4月1日現在) .....	22
<推定値>未經産牛/経産牛比率 .....	23
8-付 2歳未満経産牛の飼養頭数(平成26年4月1日現在) .....	24
9 飼料作物作付面積 .....	25
<推定値>経産牛1頭当たり飼料作物作付面積 .....	26
9-付1 牧草地面積 .....	27
<推定値>牧草地率 .....	28
9-付2 借地面積 .....	29
<推定値>借地率 .....	30
10 搾乳牛舎の築年数 .....	31
11 搾乳牛舎の空きスペース .....	32

1 2	TMRセンターの利用状況	34
1 3	コントラクターの利用状況	35
1 4	性判別精液・受精卵の利用状況	36
1 5	高栄養粗飼料の利用状況	37
1 6	総出生頭数（平成 25 年度）	38
1 6 - 付 1	乳用メス牛出生頭数（平成 25 年度）	39
1 6 - 付 2	乳用オス牛出生頭数（平成 25 年度）	40
1 6 - 付 3	交雑種出生頭数（平成 25 年度）	41
1 6 - 付 4	肉専用種出生頭数（平成 25 年度）	42
	<推定値 1>交雑種産子率	43
	<推定値 2>肉専用種産子率	44
1 7	妊娠牛の販売・導入頭数	45
1 8	廃用時平均産次数（平成 25 年度）	47
1 9	出荷乳量	48
2 0	平均分娩間隔（平成 25 年度）	50
2 1	今後の生乳出荷予定	52
2 2	今後の施設・設備の増改築・購入予定	54
2 3	後継者の有無	62
	<推定値>担い手の確保状況	63
2 4	搾乳中止予定の有無	64
2 5	酪農経営の状況	66
2 6	生乳増産の阻害要因	70
2 7	平成 26 年度生乳生産目標数量の達成可能性	71
2 8	酪農経営継続上の期待事項	72
2 9	現酪農経営者の酪農経験	73
3 0	酪農部門以外への取り組み	75
<b>II</b>	<b>生乳生産構造の現状と変容に関する分析</b>	<b>77</b>
1	生乳生産構造の現状に関する分析	79
	（1）後継者及び担い手の確保状況	79
	（2）搾乳牛舎の状態	80
	（3）生乳生産及び出荷規模	82
	（4）生乳生産及び酪農経営上の特徴	90
	（5）自給飼料生産の状況	95
	（6）酪農経営の状況	99
	（7）今後の予定・経営計画	107
	（8）生乳生産の阻害要因・促進条件	118

2	生乳生産構造の変容に関する分析	135
	(1)「経営主年齢×後継者確保状況」に基づく類型化と生産構造の変容分析	136
	[1] 北海道	136
	[2] 都府県	137
	[3] 東北	138
	[4] 関東	139
	[5] 北陸	140
	[6] 東海	141
	[7] 近畿	142
	[8] 中国	143
	[9] 四国	144
	[10] 九州	145
	(2)「経営主年齢×生乳出荷規模」に基づく類型化と生産構造の変容分析	146
	[1] 北海道	147
	[2] 都府県	148
	[3] 東北	149
	[4] 関東	150
	[5] 北陸	151
	[6] 東海	152
	[7] 近畿	154
	[8] 中国	155
	[9] 四国	156
	[10] 九州	158
	(3)「経産牛飼養規模×1頭当り出荷乳量」に基づく類型化と生産構造の変容分析	159
	[1] 北海道	160
	[2] 都府県	161
	[3] 東北	163
	[4] 関東	164
	[5] 北陸	165
	[6] 東海	167
	[7] 近畿	168
	[8] 中国	169
	[9] 四国	171
	[10] 九州	173

III	生乳生産構造の将来展望と生乳生産量の予測	175
1	生乳生産構造の将来動向と生産量に関する推定	177
	（1）分析の課題と内容	177
	（2）マルコフ分析の適用方法	177
	（3）生乳生産構造と生産量に関する推定結果	179
	【1】北海道	179
	【2】東北	181
	【3】関東	183
	【4】北陸	185
	【5】東海	187
	【6】近畿	189
	【7】中国	191
	【8】四国	193
	【9】九州	195
	【10】都府県計	197
2	「酪農全国基礎調査」に基づく業況分析	199
	（1）分析の課題と内容	199
	（2）基本的な考え方と分析方法	199
	【1】基本的な考え方	199
	【2】業況指標の作成方法	200
	（3）業況指標の計測及び分析結果	201
	【1】生乳生産の継続性	201
	【2】生乳生産の成長性	202
	【3】設備投資意欲の強さ	204
	【4】将来意向の実現可能性	205
	【5】業況指標の総合評価	205
IV	統計表（「I 調査結果」掲載項目以外）	207
付	調査票	215

# I 調査の概要と調査結果



## I - i 調査の概要



## 1 調査趣旨

従来の酪農全国基礎調査（以下、「基礎調査」という）では、酪農経営の実態把握に主眼を置き、そのための設問と分析方法を採用してきた。したがって、指定団体等の事業、とくに生乳需給調整対策に、その調査結果を反映させる機会はごく限られていたと推察される。

しかし、生乳生産量の減少傾向が常態化している状況の下で、「平成 27 年度以降の計画生産をどうすべきか」という問題がクローズアップされ、生乳需給調整対策の見直しに際しては、基礎調査から得られたデータを有効に活用すべきではないかという提案が、平成 25 年 12 月に開催された指定団体・全国連実務責任者会議においてなされたところである。

また、TPPを始めとする自由貿易交渉の進展や、流通飼料価格の高騰等による収益性の低下など、酪農経営をめぐる情勢は厳しさを増しており、それらが酪農家の経営計画や意向にいつそう大きな影響を及ぼすことが懸念されている。

そこで平成 26 年度の基礎調査は、酪農経営の実態把握に加え、酪農家の情勢認識、経営計画、経営意向などの分析を通じて、将来の生乳生産基盤の変化を見通し、新たな生乳需給調整対策の検討に資することを目的として実施することとした。

## 2 調査計画

平成 26 年度の酪農全国基礎調査は、酪農家及び生産者組織の負担軽減に配慮して、「加工原料乳供給安定緊急特別対策事業」に係る酪農家アンケート調査との調整を図って同時に実施し、農林水産省の了解を得て同事業から得られたデータも本調査で活用することとした。本調査の具体的な仕様は以下のとおりである。

### (1) 調査対象

平成 26 年 8 月 1 日現在において、指定団体の直接会員又は間接会員となっていた酪農家 16,524 戸。

### (2) 調査方法

酪農経営主自らが調査票に記入するアンケート方式による。なお、調査票の配布・回収は以下の流れに従って行った。

農畜産振興機構（「加工原料乳供給安定緊急特別対策事業」、中央酪農会議（「酪農全国基礎調査」） ⇄ 指定団体 ⇄ 指定団体会員 ⇄ 農協等 ⇄ 酪農家

### (3) 調査基準月日

平成26年4月1日を基準とした。

### (4) 調査内容

#### 【1】「加工原料乳供給安定緊急特別対策事業」調査票

##### [1] 基本情報

- 1) 経営主年齢
- 2) 経営従事者数
- 3) 経営形態
- 4) 飼養形態（搾乳牛舎形態）
- 5) 搾乳形態

##### [2] 飼養管理状況

- 6) 乳用牛、肉専用種、交雑種の飼養頭数
- 7) 飼料作物作付面積
- 8) 搾乳牛舎の築年数、空きスペース
- 9) TMR、高栄養粗飼料の利用状況
- 10) 農作業受託組織の利用状況
- 11) 性判別精液・受精卵の利用状況

##### [3] 平成25年度実績

- 12) 経産牛の増減頭数
- 13) 出生牛頭数
- 14) 妊娠牛の販売・導入頭数
- 15) 廃用牛の理由別頭数、平均廃用産次数
- 16) 細菌数、体細胞数
- 17) 分娩間隔、空胎日数

##### [4] 今後の計画

- 18) 今後の生乳出荷予定
- 19) 今後の畜舎・機器等の増改築・購入予定
- 20) 後継者の有無
- 21) 今後の搾乳中止予定

##### [5] 飼養衛生管理状況

#### 【2】「酪農全国基礎調査」調査票

##### [1] 酪農経営の状況

- 1) 生乳生産コストの現況と将来見通し
- 2) 酪農所得の現況と将来見通し

- [2] 生乳増産の阻害要因
- [3] 生乳生産目標数量の達成可能性
- [4] 酪農経営継続上の期待事項
- [5] 経営主の酪農経験
- [6] 酪農部門以外の部門への取組状況

## (5) 調査結果の報告

平成 26 年度酪農全国基礎調査の結果は、「加工原料乳供給安定緊急特別対策事業」の結果も併用して以下のような方針に従い本報告書に取りまとめた。

まず、本報告書では、平成 23 年度調査（「酪農家調査」）に関する基本的な集計結果から読み取れることがらを簡単に取りまとめた。具体的には、『酪農家全体』、『ブロック別』、『経産牛飼養規模別（全国・北海道・都府県別）』の 3 視点から集計した結果を掲載し、それぞれの特徴点を簡単に列記した。

次いで、今回と前回の悉皆調査（平成 26 年度調査及び平成 19 年度調査）で得たデータを用いて、経営主年齢、後継者の確保状況、経営規模、地域等様々な視点から生乳生産構造の現状と変容に関する分析を試みた。

また、平成 26 年度酪農全国基礎調査の結果等を基礎データとして、これにマルコフ分析（推移確率行列）を援用し、規模階層別酪農家戸数、経産牛頭数、生乳出荷量に関する将来動向を推定するとともに、酪農家の業況感や将来意向に基づく業況分析を行ってこれを補正し、生乳生産構造に関する将来展望を行った。

## (6) 表記上の注意

この報告書では、数値回答形式の調査項目の集計結果に関して、「有効回答平均（0 含む）」「平均（0 除く）」のいずれか、または双方の平均値を表示した。これらには、それぞれ下記のような相違があるので注意されたい。

「有効回答平均（0 含む）」は、当該調査事項が“皆無（0）”のものを含めて算出した回答者全体としての平均値である。また、「平均（0 除く）」は、当該調査事項が“皆無（0）”のものを除いて算出した該当者限定の平均値である。

また、掲載した集計結果表で、影を付した数値（）は「全体」の値よりも 10 ポイント以上大きいこと、下線を付した数値（    ）は「全体」の値よりも 10 ポイント以上小さいことを表している。

### 3 調査票の回収結果

平成 26 年度酪農全国基礎調査における調査票の回収結果は下表の通りであった。

ただし、同表の「調査対象酪農家戸数」は、『加工原料乳供給安定緊急特別対策事業』における平成 26 年 4 月 1 日現在の戸数を基本とし、『酪農全国基礎調査』の実施に際して一部修正を加えたものであり、表中の「回収率」は飽くまで参考値である。

【調査票の回収結果】

【単位：戸、％】

	調査対象酪農家戸数	回収戸数	回収率
全 国	16,524	16,383	99.1
北海道	6,125	6,086	99.4
(都府県計)	10,399	10,297	99.0
東 北	2,510	2,476	98.6
関 東	3,199	3,199	100.0
北 陸	356	342	96.1
東 海	907	900	99.2
近 畿	562	562	100.0
中 国	748	747	99.9
四 国	405	402	99.3
九 州	1,712	1,669	97.5

## I - ii 調查結果



# 1 経営主年齢

◆我が国全体でみると、『40代』以下が23.9%、『50代』が30.2%、『60代』以上が42.4%という構成になっており、平均年齢は56.3歳であった。

◆地域別には、北海道と都府県の間大きな差がみられた。北海道では『50代』以下の割合（北海道66.1%、都府県47.0%）、都府県では『60代』以上の割合（北海道26.0%、都府県52.1%）が高く、平均年齢では都府県（58.5歳）が北海道（52.3歳）を6.2歳上回った。なお、都府県の中では、九州の平均年齢（55.9歳）が最も低く、近畿の平均年齢（61.5歳）が最も高かった。また、地域間で年齢階層別戸数分布を比較すると、北海道では「30代」、北陸では「60代」、近畿では「70代以上」の割合が高いという特徴がみられた。

◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれについても、『60代』以上の割合と平均年齢が小規模層で高く、規模の増大に伴って徐々に低下して行くが、最大規模層の付近（北海道では150頭以上規模、都府県では50頭以上規模）になると僅かながら上昇に転ずるという傾向がみられた。また、飼養規模間で年齢階層別戸数分布を比較すると、北海道では40頭未満層で『60代以上』、75頭以上層で『30代』の割合が高く、都府県では20頭未満層で『60代』以上、75頭以上層で『30代』、『40代』の割合が高いという特徴がみられた。

I (5) 経営主年齢

[単位：戸、%、歳]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	平均 (0除く) 均	
		10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答		
全体	16,383	0.7	8.0	15.2	30.2	34.2	8.2	3.5	56.3	
北海道 (都府県計)	北海道	6,086	0.9	12.5	18.9	33.8	24.4	1.6	7.9	52.3
	都府県計	10,297	0.5	5.3	13.1	28.1	40.0	12.1	0.9	58.5
	北	2,476	0.8	5.0	12.5	29.1	42.1	9.5	1.1	58.1
	東	3,199	0.2	4.1	11.8	28.1	41.3	14.4	0.1	59.6
	北	342	0.6	5.3	7.9	26.6	48.0	11.7	-	59.4
	東	900	1.0	4.9	15.3	28.8	35.6	14.3	0.1	58.1
	近	562	0.4	2.1	12.3	19.4	38.4	21.2	6.2	61.5
	中	747	0.7	8.3	12.6	26.8	39.4	12.3	-	57.8
	四	402	1.0	5.7	9.5	25.9	41.5	14.2	2.2	59.6
九	1,669	0.5	8.2	17.5	30.7	35.4	6.8	0.9	55.9	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	1.1	1.1	4.6	19.9	41.8	30.1	1.4	64.2
	10頭未満	792	0.5	1.9	6.2	19.9	40.4	30.2	0.9	64.0
	20頭未満	2,191	0.4	3.0	9.4	25.2	43.7	17.0	1.3	60.8
	30頭未満	2,554	0.4	4.8	12.8	30.5	40.5	9.4	1.5	58.2
	40頭未満	2,533	0.8	5.4	15.4	32.8	36.3	6.3	3.0	56.5
	50頭未満	2,091	0.9	9.6	18.1	32.7	30.2	4.4	4.2	54.3
	75頭未満	3,076	1.0	11.6	18.5	34.2	27.5	2.4	4.7	53.1
	100頭未満	1,198	0.5	15.3	20.2	31.3	25.5	2.7	4.5	52.1
	150頭未満	899	0.6	16.2	20.6	28.9	27.1	1.9	4.7	51.9
	150頭以上	664	0.3	12.0	20.3	29.2	30.0	3.9	4.2	53.3
無回答	103	-	2.9	1.0	9.7	23.3	4.9	58.3	60.0	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	-	-	-	33.3	61.1	-	5.6	60.6
	10頭未満	41	2.4	2.4	9.8	31.7	24.4	17.1	12.2	58.8
	20頭未満	147	-	3.4	14.3	28.6	38.8	5.4	9.5	57.3
	30頭未満	325	0.3	6.8	15.7	33.2	30.2	5.5	8.3	55.7
	40頭未満	708	0.4	6.9	18.1	33.6	29.5	2.1	9.3	54.4
	50頭未満	961	1.4	11.7	19.4	34.0	24.3	0.9	8.3	52.1
	75頭未満	1,948	1.1	13.3	19.7	36.3	21.7	0.7	7.0	51.6
	100頭未満	828	0.7	16.7	19.9	33.6	21.6	1.2	6.3	50.9
	150頭未満	626	0.8	18.7	19.8	31.2	22.7	0.3	6.5	50.5
	150頭以上	435	0.5	12.9	20.5	30.6	26.4	3.0	6.2	52.5
無回答	49	-	2.0	2.0	14.3	14.3	-	67.3	56.6	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	1.1	1.1	4.9	18.9	40.5	32.2	1.1	64.5
	10頭未満	751	0.4	1.9	6.0	19.3	41.3	30.9	0.3	64.2
	20頭未満	2,044	0.4	2.9	9.0	25.0	44.1	17.9	0.7	61.0
	30頭未満	2,229	0.4	4.5	12.4	30.1	42.0	10.0	0.5	58.5
	40頭未満	1,825	0.9	4.8	14.4	32.5	39.0	7.9	0.5	57.2
	50頭未満	1,130	0.5	7.8	17.0	31.6	35.1	7.3	0.6	56.0
	75頭未満	1,128	0.9	8.5	16.5	30.4	37.6	5.3	0.8	55.6
	100頭未満	370	-	12.2	20.8	26.2	34.3	5.9	0.5	54.6
	150頭未満	273	-	10.6	22.3	23.8	37.4	5.5	0.4	55.0
	150頭以上	229	-	10.5	20.1	26.6	36.7	5.7	0.4	54.8
無回答	54	-	3.7	-	5.6	31.5	9.3	50.0	62.0	

## 2 酪農経営従事者数

### (1) 家族等従事者数

◆全体的にみると、『2人』の経営が約41.6%、『3人』の経営が約29.1%を占めており、平均家族等従事者数は2.6人であった。

◆地域別にみると、北海道は都府県に比べて『3人』以上の割合（北海道59.6%、都府県40.0%）が高く、平均家族等従事者数では北海道（2.9人）が都府県（2.5人）を0.4人上回った。なお、都府県では九州（2.6人）、東北（2.5人）、東海（2.5人）の平均従事者数が多く、北陸（2.3人）、近畿（2.2人）の平均従事者数が少なかった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道の30頭未満層を除けば、北海道、都府県のいずれについても、規模の増大に連れて家族等従事者数の多い経営の割合が増大し、平均家族等従事者数も増加するという傾向がみられた。やや立ち入ってみると、北海道の30頭未満層では『1～2人』、75頭以上層では『4人』、「150頭以上」では『5～9人』の割合が高く、都府県の30頭未満層では『1～2人』、50頭以上層では『3～4人』の割合が高いという点が特徴的であった。

I (8) ①酪農経営従事者数（家族）

[単位：戸、%、人]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	有効回答平均 (0含む)	
		0人	1人	2人	3人	4人	5～9人	10人以上	無回答		
全体	16,383	0.5	9.4	41.6	29.1	14.8	3.4	-	1.3	2.6	
北海道 (都府県計)	北海道	6,086	0.4	5.4	33.3	32.3	21.6	5.7	-	1.3	2.9
	(都府県計)	10,297	0.6	11.7	46.5	27.1	10.8	2.1	-	1.2	2.4
	東北	2,476	0.0	11.3	46.4	27.1	10.0	2.7	-	2.3	2.5
	関東	3,199	0.4	12.1	49.5	27.2	9.4	1.3	-	0.2	2.4
	北陸	342	-	12.6	54.7	26.9	4.4	0.9	-	0.6	2.3
	東海	900	1.2	12.9	41.9	30.3	10.7	2.6	-	0.4	2.5
	近畿	562	1.6	14.9	50.2	19.8	6.0	2.3	-	5.2	2.2
	中国	747	1.5	13.4	46.2	26.5	10.2	1.6	-	0.7	2.4
	四国	402	-	12.7	48.5	23.1	11.9	1.7	-	2.0	2.4
九州	1,669	1.0	8.7	39.8	29.2	17.3	3.0	-	1.0	2.6	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	0.4	34.4	50.7	10.3	1.8	1.1	-	1.4	1.8
	10頭未満	792	0.6	25.4	56.1	12.2	2.8	1.3	-	1.6	2.0
	20頭未満	2,191	0.5	20.5	57.9	15.7	3.3	1.1	-	0.8	2.1
	30頭未満	2,554	0.4	11.2	56.0	24.4	5.8	1.7	-	0.6	2.3
	40頭未満	2,533	0.2	7.4	46.2	32.2	11.8	1.6	-	0.6	2.5
	50頭未満	2,091	0.3	4.4	40.7	35.5	16.1	2.2	-	0.7	2.7
	75頭未満	3,076	0.4	4.2	31.0	38.1	22.0	3.9	-	0.4	2.9
	100頭未満	1,198	0.3	3.3	21.0	37.3	30.2	6.8	-	1.0	3.2
	150頭未満	899	0.6	2.4	19.8	34.0	32.7	9.9	-	0.6	3.3
	150頭以上	664	3.6	3.6	15.5	26.2	30.7	15.1	-	5.3	3.4
無回答	103	-	4.9	17.5	6.8	5.8	2.9	-	62.1	2.6	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	-	11.1	61.1	27.8	-	-	-	-	2.2
	10頭未満	41	2.4	26.8	34.1	22.0	9.8	2.4	-	2.4	2.2
	20頭未満	147	-	23.8	44.2	21.1	8.8	2.0	-	-	2.2
	30頭未満	325	0.6	17.2	51.1	23.4	7.1	0.6	-	-	2.2
	40頭未満	708	0.3	8.5	47.9	29.2	11.7	2.0	-	0.4	2.5
	50頭未満	961	0.2	4.7	46.4	32.2	13.3	3.0	-	0.2	2.6
	75頭未満	1,948	0.3	3.6	32.0	36.9	22.4	4.5	-	0.4	2.9
	100頭未満	828	0.2	2.1	21.4	35.4	32.9	7.4	-	0.7	3.3
	150頭未満	626	-	2.2	18.4	33.4	34.3	11.3	-	0.3	3.4
	150頭以上	435	2.1	3.9	14.7	24.4	32.2	17.5	-	5.3	3.6
無回答	49	-	2.0	16.3	4.1	6.1	4.1	-	67.3	2.8	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	0.4	36.0	50.0	9.1	1.9	1.1	-	1.5	1.8
	10頭未満	751	0.5	25.3	57.3	11.7	2.4	1.2	-	1.6	1.9
	20頭未満	2,044	0.6	20.3	58.9	15.4	2.9	1.1	-	0.9	2.0
	30頭未満	2,229	0.4	10.3	56.7	24.6	5.6	1.9	-	0.7	2.3
	40頭未満	1,825	0.2	7.0	45.6	33.4	11.8	1.5	-	0.6	2.6
	50頭未満	1,130	0.4	4.2	35.9	38.4	18.4	1.5	-	1.1	2.8
	75頭未満	1,128	0.6	5.2	29.3	40.2	21.5	2.8	-	0.4	2.9
	100頭未満	370	0.5	6.2	20.3	41.6	24.3	5.4	-	1.6	3.0
	150頭未満	273	1.8	2.9	23.1	35.5	28.9	6.6	-	1.1	3.1
	150頭以上	229	6.6	3.1	17.0	29.7	27.9	10.5	-	5.2	3.1
無回答	54	-	7.4	18.5	9.3	5.6	1.9	-	57.4	2.5	

## (2) 家族以外の従事者数

◆全体的にみると、雇用等の家族以外の従事者がいる経営（『0人・無回答を除く合計』）は19.0%で、その平均家族以外従事者数（『0人除く平均』）は2.7人であった。また、家族以外の従事者がいない経営も含めた平均家族以外従事者数（『0人含む平均』）は0.5人であった。

◆地域別にみると、家族以外の従事者がいる経営の割合は東海（26.7%）、北海道（23.0%）で高く、東北（9.7%）で低かったが、その平均家族以外従事者数（『0人除く平均』）では、関東（3.2人）、中国（3.2人）、東海（3.1人）が多く、北陸（1.9人）、東北（2.1人）が少なかった。そのため、家族以外の従事者がいない経営も含めた平均家族以外従事者数（『0人含む平均』）でみると、東海（0.8人）が最も多く、次いで北海道（0.6人）、関東（0.6人）と続いており、逆に最も少ないのは東北（0.2人）であった。

◆経産牛飼養規模別には、家族以外の従事者がいる経営の割合は、北海道では100頭、都府県では50頭超えると急激に上昇する傾向を示した。また、平均家族以外従事者数（『0人除く平均』、『0人含む平均』）は、北海道、都府県ともに、150頭未満層に比べて「150頭以上」が著しく多かった。

I (8) ②酪農経営従事者数（家族以外）

		酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	合計 0人・無回答を除く	有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)
			0人	1人	2人	3人	4人	5〜9人	10人以上	無回答			
全 体		16,383	78.5	10.0	4.0	2.1	0.9	1.2	0.8	2.5	19.0	0.5	2.7
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	76.0	12.3	4.9	2.1	1.2	1.6	0.9	1.0	23.0	0.6	2.5
	(都府県計)	10,297	79.9	8.7	3.4	2.0	0.8	1.0	0.8	3.3	16.7	0.5	2.9
	東 北	2,476	88.1	6.3	1.8	0.8	0.2	0.4	0.2	2.2	9.7	0.2	2.1
	関 東	3,199	82.6	9.1	3.3	2.1	0.6	1.2	0.9	0.3	17.2	0.6	3.2
	北 陸	342	79.2	10.8	5.6	2.6	0.6	0.9	-	0.3	20.5	0.4	1.9
	東 海	900	72.3	12.0	5.6	3.2	1.9	2.6	1.4	1.0	26.7	0.8	3.1
	近 畿	562	75.6	9.6	3.9	2.7	1.4	1.4	0.9	4.4	19.9	0.6	2.8
	中 国	747	82.7	7.8	3.7	1.9	0.8	1.3	1.5	0.3	17.0	0.5	3.2
	四 国	402	24.4	11.7	3.2	1.0	1.2	0.7	1.5	56.2	19.3	1.2	2.8
九 州	1,669	80.7	8.4	4.3	2.9	1.1	0.8	0.7	1.1	18.2	0.5	2.8	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	93.3	2.5	0.4	-	-	-	-	3.9	2.9	0.0	1.2
	10頭未満	792	92.4	1.9	1.1	-	-	-	-	4.5	3.0	0.0	1.4
	20頭未満	2,191	92.5	3.1	0.9	-	0.1	0.0	-	3.4	4.1	0.1	1.3
	30頭未満	2,554	89.7	5.4	1.1	0.4	0.1	0.1	0.0	3.1	7.1	0.1	1.5
	40頭未満	2,533	87.6	7.7	1.4	0.7	0.1	0.2	0.1	2.3	10.2	0.2	1.5
	50頭未満	2,091	84.5	10.5	2.5	0.9	0.2	0.0	0.0	1.2	14.1	0.2	1.5
	75頭未満	3,076	76.5	15.3	4.8	1.7	0.4	0.5	0.1	0.7	22.8	0.4	1.6
	100頭未満	1,198	61.4	20.4	10.8	4.5	1.2	1.1	0.1	0.7	38.1	0.7	1.8
	150頭未満	899	40.3	23.8	16.6	10.0	4.7	3.7	0.4	0.6	59.2	1.3	2.2
	150頭以上	664	10.2	9.3	12.0	14.0	10.8	20.5	19.0	4.1	85.6	6.2	6.9
無 回 答	103	36.9	1.9	1.0	-	-	-	-	60.2	2.9	0.1	1.3	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	94.4	5.6	-	-	-	-	-	-	5.6	0.1	1.0
	10頭未満	41	92.7	2.4	2.4	-	-	-	-	2.4	4.8	0.1	1.5
	20頭未満	147	93.2	4.8	2.0	-	-	-	-	-	6.8	0.1	1.3
	30頭未満	325	93.2	4.0	1.8	0.3	-	-	-	0.6	6.1	0.1	1.8
	40頭未満	708	91.8	6.2	1.1	0.3	0.1	-	-	0.4	7.7	0.1	1.3
	50頭未満	961	90.4	7.4	1.2	0.6	0.2	0.1	-	-	9.5	0.1	1.4
	75頭未満	1,948	84.6	11.8	2.6	0.3	0.3	0.3	0.1	0.2	15.4	0.2	1.4
	100頭未満	828	70.8	19.1	7.4	1.3	0.6	0.5	-	0.4	28.9	0.4	1.5
	150頭未満	626	47.6	26.5	14.4	7.2	1.8	1.8	0.5	0.3	52.2	1.0	1.9
	150頭以上	435	14.5	12.9	15.2	13.8	10.6	17.2	12.2	3.7	81.9	4.2	4.9
無 回 答	49	32.7	-	-	-	-	-	-	67.3	-	0.0	-	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	93.2	2.3	0.4	-	-	-	-	4.2	2.7	0.0	1.2
	10頭未満	751	92.4	1.9	1.1	-	-	-	-	4.7	3.0	0.0	1.4
	20頭未満	2,044	92.5	3.0	0.8	-	0.1	0.0	-	3.6	3.9	0.1	1.3
	30頭未満	2,229	89.2	5.6	1.0	0.4	0.1	0.1	0.0	3.5	7.2	0.1	1.4
	40頭未満	1,825	86.0	8.3	1.5	0.8	0.1	0.2	0.1	3.0	11.0	0.2	1.5
	50頭未満	1,130	79.5	13.2	3.6	1.2	0.2	-	0.1	2.3	18.3	0.3	1.6
	75頭未満	1,128	62.6	21.5	8.6	4.2	0.6	0.8	0.1	1.7	35.8	0.6	1.7
	100頭未満	370	40.3	23.2	18.4	11.6	2.4	2.4	0.3	1.4	58.3	1.2	2.1
	150頭未満	273	23.4	17.6	21.6	16.5	11.4	8.1	0.4	1.1	75.6	2.1	2.7
	150頭以上	229	2.2	2.6	6.1	14.4	11.4	26.6	31.9	4.8	93.0	9.9	10.2
無 回 答	54	40.7	3.7	1.9	-	-	-	-	53.7	5.6	0.2	1.3	

## <推定値>酪農従事者1人当たり経産牛飼養頭数

酪農従事者1人当たり経産牛飼養頭数は、本年度の調査結果に基づき次式により推定した。

《従事者1人当たり経産牛飼養頭数=『経産牛飼養頭数』÷(『家族等酪農従事者数』+『家族以外酪農従事者数』)》

◆全体としてみると、酪農従事者1人当たり10頭未満の経営が25.7%、10～20頭未満の経営が43.2%、20頭以上の経営が28.3%という割合になっており、平均酪農従事者1人当たり飼養頭数は16.7頭であった。

◆地域別には、北海道・都府県間の差異が大きく、1人当たり20頭以上経営の割合は北海道(50.2%)が都府県(15.5%)を34.7ポイント上回った。また、平均1人当たり飼養頭数は、北海道(21.1頭)が都府県(13.5頭)よりも7.7頭多かった。なお、都府県の中では、平均1人当たり飼養頭数は東海(15.2頭)、中国(14.5頭)、九州(14.5頭)、関東(14.4頭)、四国(14.1頭)が多く、東北(10.5頭)、北陸(11.5頭)が少なかった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県の双方について、飼養規模の増大に伴い酪農従事者1人当たり経産牛飼養頭数も増大するという傾向がみられた。

II (1) 酪農従事者1人当たり経産牛飼養頭数

[単位: 戸、%、頭]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	有効回答平均 (0含む)
		10頭未満	10～15頭未満	15～20頭未満	20～25頭未満	25～30頭未満	30～35頭未満	35～40頭未満	40～50頭未満	50頭以上	
全 体	16,383	25.7	24.5	18.7	12.7	7.1	5.9	1.8	0.8	2.8	16.7
北 海 道	6,086	7.8	17.9	22.7	20.3	12.8	11.6	3.7	1.8	1.3	21.1
(都府県計)	10,297	36.2	28.3	16.3	8.2	3.8	2.6	0.6	0.3	3.7	13.5
東 北	2,476	50.8	24.9	12.5	4.7	1.9	1.8	0.4	0.2	2.8	10.5
関 東	3,199	32.1	32.1	18.2	9.8	3.9	3.0	0.6	0.1	0.2	14.4
北 陸	342	40.6	35.1	13.2	4.7	2.9	1.8	0.9	0.3	0.6	11.5
東 海	900	30.4	25.4	19.3	11.9	6.0	4.1	0.9	0.4	1.4	15.2
近 畿	562	35.2	26.9	16.4	9.1	4.1	2.1	0.5	-	5.7	13.3
中 国	747	38.0	28.6	16.3	6.8	5.4	2.5	0.8	0.7	0.8	14.5
四 国	402	15.9	11.9	8.5	5.0	1.7	0.5	0.2	-	56.2	14.1
九 州	1,669	29.3	30.6	19.3	10.1	5.1	2.9	0.8	0.4	1.5	14.5
経産牛飼養頭数(全国)											
5頭未満	282	96.5	-	-	-	-	-	-	-	3.5	1.6
10頭未満	792	95.5	-	-	-	-	-	-	-	4.5	3.5
20頭未満	2,191	77.5	10.0	8.8	-	-	-	-	-	3.6	6.8
30頭未満	2,554	35.3	52.3	0.0	5.6	3.7	-	-	-	3.1	10.1
40頭未満	2,533	15.9	34.6	42.3	-	-	5.0	-	-	2.2	12.6
50頭未満	2,091	4.6	40.5	15.8	35.2	-	0.0	2.6	-	1.3	14.9
75頭未満	3,076	2.0	19.8	34.1	18.5	14.5	9.0	0.0	1.4	0.7	18.2
100頭未満	1,198	1.0	6.4	23.5	26.8	21.8	12.4	7.2	0.2	0.8	21.9
150頭未満	899	0.3	3.4	11.2	22.2	25.8	24.5	6.9	4.9	0.7	25.4
150頭以上	664	0.6	1.5	5.9	16.7	20.8	30.0	12.8	6.9	4.8	28.8
無 回 答	103	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
経産牛飼養頭数(北海道)											
5頭未満	18	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8
10頭未満	41	97.6	-	-	-	-	-	-	-	2.4	3.2
20頭未満	147	78.2	8.2	13.6	-	-	-	-	-	-	6.5
30頭未満	325	34.5	49.8	-	7.7	7.7	-	-	-	0.3	10.6
40頭未満	708	16.0	30.4	47.0	-	-	6.4	-	-	0.3	13.2
50頭未満	961	4.5	33.5	16.0	42.9	-	0.1	3.0	-	-	15.8
75頭未満	1,948	1.4	16.6	33.6	19.7	16.1	10.9	0.1	1.5	0.2	19.0
100頭未満	828	0.6	4.6	20.0	28.3	23.3	14.3	8.5	0.1	0.4	22.9
150頭未満	626	0.3	2.6	7.0	20.9	26.2	28.0	8.8	5.9	0.3	26.9
150頭以上	435	-	0.7	2.8	11.7	18.9	35.4	16.6	9.4	4.6	32.2
無 回 答	49	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
経産牛飼養頭数(都府県)											
5頭未満	264	96.2	-	-	-	-	-	-	-	3.8	1.6
10頭未満	751	95.3	-	-	-	-	-	-	-	4.7	3.5
20頭未満	2,044	77.5	10.2	8.5	-	-	-	-	-	3.9	6.9
30頭未満	2,229	35.4	52.7	0.0	5.3	3.1	-	-	-	3.5	10.0
40頭未満	1,825	15.8	36.3	40.5	-	-	4.4	-	-	3.0	12.3
50頭未満	1,130	4.8	46.4	15.6	28.6	-	-	2.2	-	2.5	14.2
75頭未満	1,128	3.0	25.4	34.9	16.3	11.7	5.7	-	1.2	1.7	17.0
100頭未満	370	1.9	10.5	31.1	23.5	18.4	8.4	4.3	0.3	1.6	19.8
150頭未満	273	0.4	5.5	20.9	25.3	24.9	16.5	2.6	2.6	1.5	22.6
150頭以上	229	1.7	3.1	11.8	26.2	24.5	19.7	5.7	2.2	5.2	25.0
無 回 答	54	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-

### 3 経営形態

- ◆全体的にみると、法人経営が8.4%、『非法人経営』が89.9%という状況であった。
- ◆地域別にみると、法人経営の割合は九州（13.2%）、北海道（9.3%）、中国（9.2%）が比較的高く、東北（5.0%）、近畿（6.6%）が比較的低かった。
- ◆経産牛飼養規模別には、北海道では100頭、都府県では50頭を超えると法人経営の割合が急激に増加し始め、「150頭以上」については北海道では55.2%、都府県では75.1%が法人経営であった。

I (9) 経営形態

[単位：戸、%]

		酪農家数	1	2	3
			法人経営	法人経営以外	無回答
全 体		16,383	8.4	89.8	1.8
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	9.3	90.0	0.7
	(都府県計)	10,297	7.9	89.7	2.4
	東 北	2,476	5.0	91.7	3.4
	関 東	3,199	7.4	92.2	0.4
	北 陸	342	7.3	92.7	-
	東 海	900	8.1	90.1	1.8
	近 畿	562	6.6	75.4	18.0
	中 国	747	9.2	90.8	-
	四 州	402	7.2	90.5	2.2
九 州	1,669	13.2	85.1	1.7	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	2.1	93.3	4.6
	10 頭 未 満	792	2.7	92.8	4.5
	20 頭 未 満	2,191	1.9	95.5	2.6
	30 頭 未 満	2,554	3.4	95.0	1.6
	40 頭 未 満	2,533	3.8	94.8	1.5
	50 頭 未 満	2,091	4.8	94.2	1.0
	75 頭 未 満	3,076	7.9	91.6	0.4
	100 頭 未 満	1,198	12.8	86.7	0.5
	150 頭 未 満	899	24.4	75.5	0.1
	150 頭 以 上	664	62.0	37.5	0.5
無 回 答	103	2.9	35.9	61.2	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	100.0	-
	10 頭 未 満	41	2.4	97.6	-
	20 頭 未 満	147	1.4	98.6	-
	30 頭 未 満	325	2.5	97.2	0.3
	40 頭 未 満	708	1.8	97.7	0.4
	50 頭 未 満	961	3.0	97.0	-
	75 頭 未 満	1,948	4.4	95.5	0.1
	100 頭 未 満	828	8.9	90.9	0.1
	150 頭 未 満	626	18.2	81.8	-
	150 頭 以 上	435	55.2	44.6	0.2
無 回 答	49	2.0	30.6	67.3	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	2.3	92.8	4.9
	10 頭 未 満	751	2.7	92.5	4.8
	20 頭 未 満	2,044	1.9	95.3	2.8
	30 頭 未 満	2,229	3.5	94.7	1.8
	40 頭 未 満	1,825	4.5	93.6	1.9
	50 頭 未 満	1,130	6.4	91.8	1.9
	75 頭 未 満	1,128	14.0	84.9	1.1
	100 頭 未 満	370	21.4	77.3	1.4
	150 頭 未 満	273	38.5	61.2	0.4
	150 頭 以 上	229	75.1	24.0	0.9
無 回 答	54	3.7	40.7	55.6	

#### 4 飼養形態

◆全体的にみると、『繋ぎ』形式(78.8%)が8割を占めており、『フリーストール』(14.0%)と『フリーバーン』(5.3%)が合わせて2割という状況であった。

◆地域別にみると、北陸、東北では『繋ぎ』(北陸92.7%、東北90.9%)が一層多く、いずれも9割以上を占めた。

また、北海道では『フリーストール』(23.5%)、四国、九州、中国では『フリーバーン』(四国21.1%、九州17.3%、中国10.4%)の割合が他地域に比べて多かった。

◆経産牛飼養規模との関係でみると、北海道では75頭未満層までは9割前後を『繋ぎ』が占めており、同規模を超える辺りから急激に『フリーストール』が増え、「150頭以上」では9割以上に及んでいる。なお、北海道では、規模の大小に係わらず、『フリーバーン』の経営はほとんどみられない。

一方、都府県では、50頭未満層までは『繋ぎ』が9割前後を占めており、同規模を超える辺りから『フリーストール』と『フリーバーン』の割合が急激に増加している。なお、都府県の「150頭以上」層では、9割以上の経営が『フリーストール』(56.3%)か『フリーバーン』(36.2%)を採用している。

I (10) 飼養形態

[単位:戸、%]

	酪農家数	飼養形態					
		1 フリーストール	2 フリーバーン	3 繋ぎ	4 その他	5 無回答	
全 体	16,383	14.0	5.3	78.8	1.2	0.7	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	23.5	1.8	73.0	0.9	0.9
	(都府県計)	10,297	8.4	7.4	82.2	1.5	0.5
	東 北	2,476	5.7	1.7	90.9	1.3	0.5
	関 東	3,199	9.3	5.8	82.5	2.3	0.1
	北 陸	342	5.0	2.0	92.7	0.3	-
	東 海	900	11.8	4.8	82.0	1.1	0.3
	近 畿	562	6.6	5.9	81.9	1.4	4.3
	中 国	747	9.1	10.4	79.4	1.1	-
	四 国	402	6.0	21.1	68.9	2.2	1.7
九 州	1,669	10.4	17.3	71.4	0.7	0.4	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	1.4	1.8	90.1	5.7	1.1
	10 頭 未 満	792	1.1	1.5	93.3	3.2	0.9
	20 頭 未 満	2,191	1.4	1.4	95.4	1.6	0.2
	30 頭 未 満	2,554	2.5	2.7	93.6	1.0	0.2
	40 頭 未 満	2,533	4.1	4.3	90.9	0.7	0.1
	50 頭 未 満	2,091	5.5	4.5	88.8	0.9	0.2
	75 頭 未 満	3,076	14.8	7.4	76.8	0.9	0.2
	100 頭 未 満	1,198	33.7	10.6	54.1	1.2	0.4
	150 頭 未 満	899	63.2	11.6	23.1	1.3	0.8
	150 頭 以 上	664	80.1	14.0	3.5	2.1	0.3
無 回 答	103	5.8	-	33.0	-	61.2	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	5.6	-	88.9	5.6	-
	10 頭 未 満	41	2.4	-	92.7	4.9	-
	20 頭 未 満	147	3.4	0.7	90.5	5.4	-
	30 頭 未 満	325	4.6	1.5	91.4	2.5	-
	40 頭 未 満	708	3.7	2.3	93.1	0.8	0.1
	50 頭 未 満	961	4.0	0.9	94.2	0.7	0.2
	75 頭 未 満	1,948	12.2	1.6	85.4	0.5	0.3
	100 頭 未 満	828	33.0	2.5	63.3	0.6	0.6
	150 頭 未 満	626	68.2	2.4	28.0	0.5	1.0
	150 頭 以 上	435	92.6	2.3	3.9	0.7	0.5
無 回 答	49	2.0	-	30.6	-	67.3	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	1.1	1.9	90.2	5.7	1.1
	10 頭 未 満	751	1.1	1.6	93.3	3.1	0.9
	20 頭 未 満	2,044	1.3	1.5	95.7	1.3	0.2
	30 頭 未 満	2,229	2.2	2.9	93.9	0.8	0.2
	40 頭 未 満	1,825	4.2	5.0	90.0	0.6	0.1
	50 頭 未 満	1,130	6.9	7.6	84.2	1.1	0.2
	75 頭 未 満	1,128	19.1	17.4	61.8	1.6	0.1
	100 頭 未 満	370	35.4	28.6	33.5	2.4	-
	150 頭 未 満	273	51.6	32.6	12.1	3.3	0.4
	150 頭 以 上	229	56.3	36.2	2.6	4.8	-
無 回 答	54	9.3	-	35.2	-	55.6	

## 5 搾乳形態

◆全体的にみると、『パイプライン』の経営が74.3%、『パーラー』の経営が16.0%を占めており、『搾乳ロボット』の経営は極僅かであった。

◆地域別にみると、北陸、東海、関東では『パイプライン』の経営（北陸81.3%、東海79.4%、関東78.8%）、九州、四国、北海道では『パーラー』の経営（九州23.8%、四国21.9%、北海道20.0%）がやや多くみられた。また、東北、四国では、他地域に比べて『その他』の経営（東北21.4%、四国13.9%）が多かったが、その多くはバケットによる搾乳を行っているものと推察される。

◆経産牛飼養規模別には、小規模層から大規模層へと向かうに従って、搾乳形態の主流が『その他』（多くはバケットと推察される）、『パイプライン』、『パーラー』へと移行している。

即ち、北海道では、「5頭未満」を除けば、20頭未満までは『その他』、20～75頭未満層では『パイプライン』、75頭を超えると『パーラー』の割合が最も高かった。

一方、都府県では、20頭未満までは『その他』、20～50頭未満層では『パイプライン』、75頭を超えると『パーラー』の割合が他の形態を上回った。

I (11) 搾乳形態

[単位：戸、%]

	酪農家数	1	2	3	4	5	
		パーラー	パイプライン	搾乳ロボット	その他	無回答	
全 体	16,383	16.0	74.3	1.4	7.6	0.7	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	20.0	74.5	2.3	2.5	0.8
	(都府県計)	10,297	13.6	74.2	0.8	10.7	0.6
	東 北	2,476	6.1	70.9	1.0	21.4	0.6
	関 東	3,199	13.0	78.8	0.6	7.3	0.2
	北 陸	342	6.7	81.3	1.2	10.8	-
	東 海	900	13.9	79.4	1.4	5.0	0.2
	近 畿	562	12.1	76.3	0.7	6.6	4.3
	中 国	747	17.8	73.8	0.5	7.9	-
	四 国	402	21.9	61.4	0.7	13.9	2.0
九 州	1,669	23.8	68.8	0.9	6.0	0.5	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	4.3	32.3	0.4	62.1	1.1
	10 頭 未 満	792	3.8	42.9	0.1	52.0	1.1
	20 頭 未 満	2,191	2.2	76.0	0.3	21.1	0.5
	30 頭 未 満	2,554	4.0	91.3	0.2	4.3	0.2
	40 頭 未 満	2,533	5.7	92.7	0.5	1.0	0.2
	50 頭 未 満	2,091	7.3	91.4	0.6	0.6	0.1
	75 頭 未 満	3,076	17.2	80.2	1.8	0.7	0.1
	100 頭 未 満	1,198	36.1	58.7	3.9	1.0	0.3
	150 頭 未 満	899	63.7	28.7	6.0	1.2	0.3
	150 頭 以 上	664	89.0	4.8	4.5	0.9	0.8
無 回 答	103	4.9	30.1	-	3.9	61.2	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	5.6	66.7	-	27.8	-
	10 頭 未 満	41	2.4	31.7	-	65.9	-
	20 頭 未 満	147	3.4	59.9	0.7	36.1	-
	30 頭 未 満	325	4.9	84.9	0.6	9.2	0.3
	40 頭 未 満	708	3.4	94.2	0.8	1.3	0.3
	50 頭 未 満	961	2.6	96.5	0.3	0.6	-
	75 頭 未 満	1,948	9.2	89.2	1.2	0.3	0.1
	100 頭 未 満	828	26.6	68.0	4.1	0.8	0.5
	150 頭 未 満	626	57.7	34.0	6.9	1.0	0.5
	150 頭 以 上	435	87.6	4.8	5.7	0.7	1.1
無 回 答	49	2.0	28.6	-	2.0	67.3	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	4.2	29.9	0.4	64.4	1.1
	10 頭 未 満	751	3.9	43.5	0.1	51.3	1.2
	20 頭 未 満	2,044	2.1	77.2	0.2	20.0	0.5
	30 頭 未 満	2,229	3.9	92.2	0.2	3.6	0.2
	40 頭 未 満	1,825	6.6	92.1	0.3	0.9	0.1
	50 頭 未 満	1,130	11.2	87.1	0.8	0.6	0.3
	75 頭 未 満	1,128	30.9	64.7	2.8	1.4	0.2
	100 頭 未 満	370	57.3	37.8	3.5	1.4	-
	150 頭 未 満	273	77.7	16.5	4.0	1.8	-
	150 頭 以 上	229	91.7	4.8	2.2	1.3	-
無 回 答	54	7.4	31.5	-	5.6	55.6	

## 6 経産牛飼養頭数（平成26年4月1日現在）

◆全体的にみると、経産牛飼養頭数の戸数分布は30頭未満が35.5%、30～50頭未満が28.3%、50頭以上が35.7%となっており、平均経産牛飼養頭数は52.7頭であった。

◆地域別にみると、北海道・都府県間の差が大きく、50頭以上層の割合では北海道（63.0%）が都府県（19.5%）を43.5ポイント、平均飼養頭数では北海道（74.9頭）が都府県（39.6頭）を35.3頭上回った。

また、都府県では、50頭以上層の割合、平均飼養頭数ともに、東海（29.2%、50.5頭）、九州（27.6%、45.9頭）が多く、東北（11.3%、28.9頭）、北陸（15.5%、31.1頭）が少なかった。

II (1) 経産牛飼養頭数(平成26年4月1日現在)

[単位：戸、%、頭]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	有効回答平均 (0含む)	
		0頭	1～5頭未満	5～10頭未満	10～20頭未満	20～30頭未満	30～40頭未満	40～50頭未満	50～75頭未満	75～100頭未満	100～150頭未満	150頭以上	無回答		
全体	16,383	0.1	1.6	4.8	13.4	15.6	15.5	12.8	18.8	7.3	5.5	4.1	0.6	52.7	
北海道 (都府県計)	北海道	6,086	0.1	0.2	0.7	2.4	5.3	11.6	15.8	32.0	13.6	10.3	7.1	0.8	74.9
	(都府県計)	10,297	0.1	2.5	7.3	19.9	21.6	17.7	11.0	11.0	3.6	2.7	2.2	0.5	39.6
	東 北	2,476	-	4.6	12.6	25.4	21.2	15.7	8.7	7.0	2.2	1.1	1.0	0.5	28.9
	東 北	3,199	0.1	1.3	5.5	19.0	23.9	18.2	12.6	11.0	3.2	2.7	2.5	-	42.2
	北 陸	342	-	2.9	7.0	22.2	25.1	17.5	9.6	11.7	2.6	0.9	0.3	-	31.1
	東 海	900	0.3	2.3	5.8	12.3	18.1	19.0	12.6	16.0	4.4	4.4	4.4	0.2	50.5
	近 畿	562	0.2	2.1	7.7	21.4	21.0	17.1	8.7	10.1	3.0	2.3	2.0	4.4	37.7
	中 国	747	0.1	3.6	8.3	21.0	20.1	18.2	8.8	8.7	4.6	3.1	3.1	0.4	42.1
	四 国	402	0.2	2.0	8.2	21.1	20.9	16.9	9.7	13.2	2.0	2.0	2.5	1.2	38.7
九 州	1,669	0.1	1.0	2.9	15.5	20.4	19.4	12.7	14.6	6.3	4.4	2.3	0.4	45.9	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	6.7	93.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.9
	10頭未満	792	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.1
	20頭未満	2,191	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	14.5
	30頭未満	2,554	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	24.3
	40頭未満	2,533	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	33.9
	50頭未満	2,091	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	43.7
	75頭未満	3,076	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	59.6
	100頭未満	1,198	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	84.7
	150頭未満	899	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	118.9
	150頭以上	664	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	284.1
無回答	103	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	44.4	55.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.7
	10頭未満	41	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.1
	20頭未満	147	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	14.9
	30頭未満	325	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	24.8
	40頭未満	708	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	34.4
	50頭未満	961	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	43.9
	75頭未満	1,948	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	60.0
	100頭未満	828	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	84.8
	150頭未満	626	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	119.1
	150頭以上	435	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	261.0
無回答	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	4.2	95.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
	10頭未満	751	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.1
	20頭未満	2,044	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	14.5
	30頭未満	2,229	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	24.3
	40頭未満	1,825	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	33.7
	50頭未満	1,130	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	43.5
	75頭未満	1,128	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	58.9
	100頭未満	370	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	84.3
	150頭未満	273	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	118.4
	150頭以上	229	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	328.0
無回答	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	

## 7 経産牛の年間増減頭数（平成25年度）

◆酪農経営全体でみると、平成25年度に『20頭未満減少』した経営が38.0%、『増減なし』の経営が22.7%、『20頭未満増加』した経営が26.4%を占めており、合計9割弱の経営が『20頭未満減少』～『20頭未満増加』の範囲内であった。また、全増加経営の割合は28.2%、全減少経営の割合は39.1%で、1戸当たり平均の年間増減頭数（『0頭含む平均』）は△0.2頭であった。

◆地域別にみると、平均年間増減頭数（『0頭含む平均』）がプラス（増加）となったのは北海道（+0.8頭）、九州（+0.1頭）のみであり、東海（△1.4頭）を筆頭として他の7地域は全てマイナス（減少）であった。なお、北海道では『減少』経営の割合（33.7%）が最も低く、『増加』経営の割合（34.2%）が九州に次いで高く、九州では『増加』経営の割合（36.6%）が全国で最も高かった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれにおいても、小規模層では『減少』経営の割合、大規模層では『増加』経営の割合が高く、平均年間増減頭数（『0頭含む平均』）は概ね規模の増大に伴い増加するという傾向をみせている。平均年間増減頭数（『0頭含む平均』）を今少し詳細にみると、両地域ともに、50頭未満層ではマイナス値（減少）、50頭以上層ではゼロ（不変）又はプラス値（増加）を取っている。

Ⅲ（1）平成25年度の経産牛増減頭数

[単位：戸、頭]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)
		100頭以上減少	80頭未満減少	60頭未満減少	40頭未満減少	20頭未満減少	0頭未満減少	増加なし(0頭)	増加0～20頭未満増	増加20～40頭未満増	増加40～60頭未満増	増加60～80頭未満増	増加80～100頭未満増	100頭以上増加	無回答		
全体	16,383	0.0	0.0	0.0	0.2	0.9	38.0	22.7	26.4	1.2	0.4	0.1	0.0	0.1	9.8	△ 0.2	△ 0.2
プロック	北海道(都府県計)	6,086	0.0	0.0	0.1	0.2	0.7	32.7	24.7	31.6	1.6	0.6	0.2	0.1	7.3	△ 0.8	△ 1.1
	北	10,297	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	41.2	21.6	23.3	1.0	0.2	0.1	0.0	11.3	△ 0.7	△ 1.0
	東	2,476	-	-	0.0	0.1	0.9	37.6	14.3	20.1	0.6	0.1	-	-	26.2	△ 0.9	△ 1.1
	関	3,199	-	0.1	0.0	0.2	1.2	46.8	28.5	20.5	0.9	0.3	0.2	-	1.2	△ 0.9	△ 1.3
	北	342	-	-	-	0.3	1.2	39.8	30.4	25.7	-	0.3	-	-	2.3	△ 1.0	△ 1.5
	東	900	0.1	0.1	0.1	0.4	1.1	42.3	26.0	23.9	1.7	0.2	0.1	-	3.7	△ 1.4	△ 1.9
	近	562	-	-	-	-	0.9	36.7	8.4	18.0	1.2	0.2	-	-	34.5	△ 0.8	△ 0.9
	中	747	-	-	-	-	0.4	37.3	23.7	25.3	0.5	-	-	-	12.7	△ 0.8	△ 1.1
	四	402	-	-	0.2	-	0.5	48.0	18.4	20.9	1.5	-	0.5	-	9.7	△ 0.0	△ 0.1
九	1,669	0.1	-	-	0.1	1.0	37.0	19.0	34.4	1.6	0.4	0.1	0.1	6.5	0.1	0.2	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	0.4	-	-	0.4	1.1	45.0	26.2	6.0	-	-	-	-	20.9	△ 3.7	△ 5.5
	10頭未満	792	-	-	-	0.1	0.1	46.3	22.5	11.4	-	-	-	-	19.7	△ 1.7	△ 2.4
	20頭未満	2,191	-	-	0.0	-	0.3	48.5	21.1	16.8	0.0	-	-	-	13.3	△ 1.9	△ 2.5
	30頭未満	2,554	-	-	-	0.0	1.8	45.8	20.2	21.8	0.6	-	-	-	9.8	△ 1.6	△ 2.1
	40頭未満	2,533	-	-	-	0.1	1.1	41.0	22.9	23.8	0.8	-	-	-	10.3	△ 1.1	△ 1.5
	50頭未満	2,091	-	-	-	0.4	0.4	34.8	25.9	28.9	0.5	0.5	-	-	8.5	△ 0.5	△ 0.7
	75頭未満	3,076	0.0	0.0	0.1	0.2	0.4	31.8	25.3	34.9	0.5	0.4	0.3	-	6.2	0.1	0.1
	100頭未満	1,198	0.1	0.2	0.1	-	0.8	30.5	24.7	36.1	1.2	0.3	0.3	0.1	5.9	0.4	0.6
	150頭未満	899	-	-	-	-	1.0	28.0	21.1	39.5	4.7	1.1	0.1	0.1	0.2	4.1	2.8
	150頭以上	664	0.3	0.3	0.5	1.4	3.0	21.2	14.9	33.4	12.5	3.5	1.1	0.9	2.3	4.8	11.5
無回答	103	-	-	-	-	-	5.8	6.8	6.8	-	-	-	-	-	79.6	2.5	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	-	-	-	5.6	11.1	50.0	11.1	-	-	-	-	-	22.2	△ 16.1	△ 18.8
	10頭未満	41	-	-	-	-	-	41.5	17.1	24.4	-	-	-	-	17.1	△ 0.2	△ 0.3
	20頭未満	147	-	-	-	-	0.7	38.8	27.2	19.0	-	-	-	-	14.3	△ 1.6	△ 2.3
	30頭未満	325	-	-	-	0.3	0.9	45.5	24.3	18.5	1.5	-	-	-	8.9	△ 1.7	△ 2.3
	40頭未満	708	-	-	-	-	0.6	42.8	24.0	22.0	0.4	-	-	-	10.2	△ 1.2	△ 1.6
	50頭未満	961	-	-	-	0.3	-	35.2	26.7	29.3	0.3	0.5	-	-	7.6	△ 0.4	△ 0.5
	75頭未満	1,948	0.1	-	0.1	0.1	0.4	30.3	27.0	35.5	0.3	0.3	0.3	-	5.8	0.1	0.2
	100頭未満	828	0.1	0.1	0.1	-	0.6	30.1	26.4	35.6	1.0	0.4	0.1	0.1	5.3	0.4	0.6
	150頭未満	626	-	-	-	-	1.1	28.3	22.0	38.5	5.4	1.0	0.2	0.2	3.2	2.9	3.8
	150頭以上	435	0.2	-	0.5	1.4	2.5	23.4	14.5	36.1	9.2	4.4	0.7	1.1	1.6	4.4	9.7
無回答	49	-	-	-	-	-	2.0	2.0	6.1	-	-	-	-	-	87.8	10.0	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	0.4	-	-	-	0.4	44.7	27.3	6.4	-	-	-	-	20.8	△ 2.8	△ 4.3
	10頭未満	751	-	-	-	-	0.1	46.6	22.8	10.7	-	-	-	-	19.8	△ 1.8	△ 2.5
	20頭未満	2,044	-	-	0.0	-	0.2	49.2	20.6	16.6	0.0	-	-	-	13.2	△ 1.9	△ 2.5
	30頭未満	2,229	-	-	-	-	1.9	45.8	19.6	22.3	0.5	-	-	-	10.0	△ 1.6	△ 2.1
	40頭未満	1,825	-	-	-	0.1	1.3	40.3	22.5	24.5	0.9	-	-	-	10.4	△ 1.1	△ 1.5
	50頭未満	1,130	-	-	-	0.4	0.8	34.5	25.2	28.6	0.6	0.5	-	-	9.3	△ 0.6	△ 0.9
	75頭未満	1,128	-	0.1	0.2	0.4	0.3	34.3	22.3	33.7	0.9	0.7	0.3	-	6.8	0.0	0.0
	100頭未満	370	-	0.3	-	-	1.1	31.4	20.8	37.0	1.6	-	0.5	-	7.3	0.4	0.6
	150頭未満	273	-	-	-	-	0.7	27.5	19.0	41.8	2.9	1.5	-	-	0.4	6.2	2.6
	150頭以上	229	0.4	0.9	0.4	1.3	3.9	17.0	15.7	28.4	18.8	1.7	1.7	0.4	3.5	5.7	14.9
無回答	54	-	-	-	-	-	9.3	11.1	7.4	-	-	-	-	-	72.2	△ 0.5	

<推定値1>経産牛飼養頭数（平成25年4月1日現在）

前述の「経産牛飼養頭数（平成26年4月1日現在）」、「経産牛の年間増減頭数（平成25年度）」に関する調査結果に基づき、昨年度期首（平成25年4月1日）における経産牛飼養頭数を推定すると下表のようになる。なお、推定は次式により行った。

≪経産牛飼養頭数(平成25年4月1日現在)

＝経産牛飼養頭数(平成26年4月1日現在)－経産牛の増減頭数(平成25年度)≫

II (1) 経産牛飼養頭数(平成25年4月1日現在)

[単位:戸、%、頭]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	有効回答平均 (0含む)
		0頭	1～5頭未満	5～10頭未満	10～20頭未満	20～30頭未満	30～40頭未満	40～50頭未満	50～75頭未満	75～100頭未満	100～150頭未満	150頭以上	無回答	
全体	16,383	0.1	1.2	3.4	10.8	13.8	14.5	12.2	17.8	7.1	5.3	3.7	10.0	54.4
北海道 (都府県計)	6,086	-	0.4	0.6	1.8	4.9	10.4	15.0	30.0	13.1	9.7	6.7	7.4	75.2
	10,297	0.1	1.7	5.1	16.2	19.0	16.9	10.5	10.6	3.6	2.7	2.0	11.5	41.5
	2,476	-	2.4	7.3	19.7	16.2	11.5	7.3	5.6	1.7	0.8	0.9	26.6	30.8
	3,199	0.1	1.3	4.6	16.6	22.1	20.3	13.1	12.2	3.3	3.1	2.2	1.2	43.3
	342	-	2.9	5.3	21.9	26.0	14.9	9.6	13.2	2.9	0.6	0.3	2.3	31.8
	900	-	2.4	5.4	10.3	17.6	18.6	11.2	16.3	5.2	5.0	4.2	3.7	52.4
	562	1.1	1.1	2.8	12.5	12.8	14.4	7.8	7.7	2.0	1.4	1.4	35.1	40.5
	747	-	1.9	5.9	16.5	18.5	17.3	9.1	7.9	4.4	3.1	2.5	13.0	42.4
	402	0.7	1.7	5.7	16.7	20.1	17.7	9.2	11.4	2.2	2.0	2.2	10.2	38.8
1,669	0.1	0.9	2.8	13.2	18.9	18.5	12.2	13.5	6.8	4.2	2.3	6.7	46.7	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	1.8	42.2	28.4	3.9	1.1	1.1	-	0.4	-	0.4	20.9	6.6
	10頭未満	792	-	3.2	51.0	24.9	0.9	0.1	-	-	-	-	19.9	8.9
	20頭未満	2,191	0.2	0.5	2.7	63.9	17.3	1.9	0.1	-	0.0	-	13.4	16.5
	30頭未満	2,554	0.0	0.7	0.1	5.9	64.7	16.4	1.5	0.9	0.0	-	9.8	26.0
	40頭未満	2,533	0.0	0.4	0.1	0.3	8.3	65.5	13.4	1.5	0.2	-	10.3	35.0
	50頭未満	2,091	-	0.6	0.1	0.2	0.2	11.1	65.9	12.7	0.7	-	8.5	44.2
	75頭未満	3,076	-	0.3	0.3	0.2	0.0	0.5	7.6	79.5	5.1	0.4	0.0	6.2
	100頭未満	1,198	-	-	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	11.9	75.2	6.0	0.3	5.9
	150頭未満	899	-	0.1	-	0.1	0.1	0.1	-	0.8	10.1	81.9	2.7	4.1
	150頭以上	664	-	-	-	0.2	-	0.2	-	-	-	6.9	88.0	4.8
無回答	103	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	-	11.1	22.2	11.1	16.7	11.1	-	5.6	-	-	22.2	17.6
	10頭未満	41	-	9.8	56.1	17.1	-	-	-	-	-	-	17.1	7.4
	20頭未満	147	-	0.7	2.0	59.2	21.8	2.0	-	-	-	-	14.3	16.7
	30頭未満	325	-	1.5	0.3	2.8	64.6	18.5	2.5	0.6	0.3	-	8.9	26.5
	40頭未満	708	-	0.4	-	-	7.1	65.3	15.8	1.3	-	-	10.2	35.6
	50頭未満	961	-	0.5	0.1	0.2	0.1	10.0	67.4	13.7	0.3	-	7.6	44.3
	75頭未満	1,948	-	0.3	0.2	0.1	0.1	0.3	7.2	81.3	4.6	0.2	0.1	5.8
	100頭未満	828	-	-	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	11.4	76.9	5.4	0.4	5.3
	150頭未満	626	-	0.2	-	-	0.2	0.2	-	0.8	11.0	81.9	2.6	3.2
	150頭以上	435	-	-	-	-	-	0.2	-	-	-	6.2	89.2	4.4
無回答	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	1.9	44.3	28.8	3.4	-	0.4	-	-	-	0.4	20.8	5.8
	10頭未満	751	-	2.8	50.7	25.3	0.9	0.1	-	-	-	-	20.1	9.0
	20頭未満	2,044	0.2	0.4	2.7	64.2	17.0	1.9	0.1	-	0.0	-	13.4	16.5
	30頭未満	2,229	0.0	0.5	0.0	6.3	64.7	16.1	1.4	0.9	-	-	10.0	26.0
	40頭未満	1,825	0.1	0.4	0.2	0.4	8.8	65.6	12.5	1.5	0.3	-	10.4	34.8
	50頭未満	1,130	-	0.6	0.2	0.2	0.4	12.0	64.5	11.8	1.1	-	9.3	44.1
	75頭未満	1,128	-	0.3	0.4	0.4	-	0.8	8.3	76.3	5.9	0.7	6.8	59.0
	100頭未満	370	-	-	0.3	-	0.3	-	-	13.2	71.4	7.3	0.3	7.3
	150頭未満	273	-	-	-	0.4	-	-	-	0.7	8.1	81.7	2.9	6.2
	150頭以上	229	-	-	-	0.4	-	-	-	-	-	8.3	85.6	5.7
無回答	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	

<推定値 2> 経産牛飼養頭数の伸び率（平成 25 年度）

平成 25 年度の 1 年間における経産牛飼養頭数の伸び率は、前述の「経産牛飼養頭数（平成 26 年 4 月 1 日現在）」<調査値>、「経産牛飼養頭数（平成 25 年 4 月 1 日現在）」<推定値>に基づき次式により推定した。

$$\langle \text{経産牛飼養頭数の伸び率(25 年度)} = \text{『経産牛飼養頭数(26 年 4 月)』} \div (\text{『経産牛飼養頭数(25 年 4 月)』}) \rangle$$

◆平成 25 年度における経産牛飼養頭数の伸び率を全体としてみると、『80～100%未満』が 31.6%、『100%』、『100 超～120%未満』がそれぞれ 22.7%、23.5%を占めており、『80%未満』、『120%以上』の経営はいずれも 1 割未満であった。また、経産牛飼養頭数の『平均伸び率（0%を含む）』は 99.7%と僅かながら 100%を下回った。

◆地域別にみると、伸び率 100%超の経営の割合と、平均伸び率（『0 頭含む平均』）は九州（36.3%、100.3%）、北海道（34.2%、101.0%）でやや高く、東海（26.0%、97.4%）、東北（20.8%、97.0%）でやや低かった。

◆経産牛飼養規模別には、一部の例外を除けば、北海道、都府県の両地域で、規模の増大に伴い、伸び率 100%超の経営の割合、平均伸び率（『0 頭含む平均』）がともに増加するという傾向がみられた。なお、伸び率 100%超の経営の割合、平均伸び率（『0 頭含む平均』）の双方に関して、大部分の規模階層で北海道値と都府県値が近似している点が目を引いた。

II (1) 平成25年度経産牛飼養頭数伸び率

[単位: 戸、%]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	有効回答平均 (0含む)	
		0%	0超 20%未満	20以上 40%未満	40以上 60%未満	60以上 80%未満	80以上 100%未満	100以上 120%未満	100超 120%未満	120以上 140%未満	140以上 160%未満	160以上 180%未満		180以上 200%未満
全 体	16,383	0.1	0.0	0.2	1.9	5.3	31.6	22.7	23.5	2.9	1.7	10.0	99.7	
北海道 (都府県計)	6,086	0.1	0.0	0.1	0.4	2.2	31.0	24.6	30.4	2.5	1.3	7.4	101.0	
	10,297	0.0	0.0	0.3	2.8	7.1	32.0	21.5	19.4	3.2	2.0	11.6	98.2	
	2,476	-	0.1	0.3	3.2	8.0	26.8	14.2	15.1	3.5	2.2	26.6	97.0	
	3,199	0.0	0.1	0.3	3.2	8.0	36.8	28.4	17.8	2.6	1.6	1.3	97.9	
	342	-	-	0.9	2.6	7.3	30.4	30.4	19.3	4.7	2.0	2.3	96.8	
	900	0.3	-	0.4	4.0	6.1	33.3	26.0	20.8	2.8	2.6	3.7	97.4	
	562	-	-	0.2	3.4	6.0	27.9	8.4	14.1	2.3	1.6	36.1	97.8	
	747	-	-	0.4	1.9	7.5	28.0	23.4	21.4	3.1	1.3	13.0	98.2	
	402	0.2	-	-	2.2	7.5	38.8	18.4	17.7	2.2	2.0	10.9	99.6	
九州	1,669	-	-	0.1	1.3	4.9	31.9	18.9	29.3	4.5	2.5	6.7	100.3	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	4.3	1.4	5.7	13.1	14.9	7.4	25.2	-	1.4	3.9	22.7	44.6
	10 頭 未 満	792	-	0.1	1.1	8.2	20.3	16.7	22.5	3.7	3.5	3.9	19.9	80.5
	20 頭 未 満	2,191	-	0.0	0.1	4.4	15.0	29.2	21.1	9.6	4.4	2.5	13.6	88.5
	30 頭 未 満	2,554	-	-	0.0	2.2	6.2	39.1	20.2	17.0	3.6	1.8	9.9	93.7
	40 頭 未 満	2,533	-	-	-	1.1	3.6	37.4	22.9	20.8	2.4	1.4	10.3	96.8
	50 頭 未 満	2,091	-	-	-	0.7	1.3	33.6	25.9	26.4	2.2	1.3	8.5	98.8
	75 頭 未 満	3,076	-	-	0.1	0.3	1.3	30.8	25.3	32.3	2.4	1.3	6.2	100.1
	100 頭 未 満	1,198	-	-	0.1	0.3	0.9	30.3	24.7	34.6	2.3	0.8	5.9	100.5
	150 頭 未 満	899	-	-	-	-	0.4	28.6	21.1	40.4	3.3	2.0	4.1	102.4
	150 頭 以 上	664	-	-	-	0.2	0.3	26.2	14.9	48.3	3.5	1.8	4.8	104.2
無 回 答	103	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	38.9	5.6	5.6	-	5.6	11.1	11.1	-	-	-	22.2	8.9
	10 頭 未 満	41	-	-	-	4.9	17.1	19.5	17.1	9.8	2.4	12.2	17.1	96.8
	20 頭 未 満	147	-	-	0.7	3.4	11.6	23.8	27.2	9.5	6.8	2.7	14.3	90.4
	30 頭 未 満	325	-	-	0.3	1.5	7.7	37.2	24.3	14.5	2.8	2.8	8.9	93.7
	40 頭 未 満	708	-	-	-	0.4	4.9	38.0	24.0	19.8	1.7	1.0	10.2	96.7
	50 頭 未 満	961	-	-	-	0.3	1.1	34.0	26.7	27.1	2.1	1.0	7.6	99.2
	75 頭 未 満	1,948	-	-	0.1	0.2	1.3	29.4	27.0	33.1	2.4	0.9	5.8	100.2
	100 頭 未 満	828	-	-	0.1	0.2	0.7	30.0	26.4	34.2	2.2	0.8	5.3	100.5
	150 頭 未 満	626	-	-	-	-	0.6	28.8	22.0	39.8	3.7	1.9	3.2	102.5
	150 頭 以 上	435	-	-	-	0.2	-	27.8	14.5	48.5	3.0	1.6	4.4	103.8
無 回 答	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	1.9	1.1	5.7	14.0	15.5	7.2	26.1	-	1.5	4.2	22.7	51.8
	10 頭 未 満	751	-	0.1	1.2	8.4	20.5	16.5	22.8	3.3	3.6	3.5	20.1	79.7
	20 頭 未 満	2,044	-	0.0	0.1	4.5	15.3	29.5	20.6	9.6	4.2	2.4	13.6	88.3
	30 頭 未 満	2,229	-	-	-	2.3	6.0	39.4	19.6	17.4	3.7	1.7	10.0	93.7
	40 頭 未 満	1,825	-	-	-	1.4	3.1	37.2	22.5	21.2	2.6	1.5	10.4	96.9
	50 頭 未 満	1,130	-	-	-	1.1	1.4	33.3	25.2	25.9	2.3	1.5	9.3	98.5
	75 頭 未 満	1,128	-	-	0.1	0.6	1.3	33.2	22.3	30.9	2.6	2.0	6.8	100.0
	100 頭 未 満	370	-	-	-	0.3	1.4	31.1	20.8	35.7	2.7	0.8	7.3	100.5
	150 頭 未 満	273	-	-	-	-	-	28.2	19.0	41.8	2.6	2.2	6.2	102.3
	150 頭 以 上	229	-	-	-	-	0.9	23.1	15.7	48.0	4.4	2.2	5.7	104.8
無 回 答	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	

## 8 未經産牛飼養頭数（平成 26 年 4 月 1 日現在）

◆全体としてみると、10 頭未満の経営が 37.8%、10～30 頭未満の経営と 30 頭以上の経営がそれぞれ 31.6%、28.7%という戸数構成になっており、平均飼養頭数（『0 頭含む平均』）は 25.8 頭であった。また、全酪農経営の 1 割弱は未經産牛を飼養しておらず、それらの経営を除いた平均飼養頭数（『0 頭除く平均』）は 28.0 頭であった。

◆地域別には、経産牛と同様、北海道・都府県間の差異が大きく、北海道は 30 頭以上経営の割合（北海道 58.5%、都府県 10.9%）が都府県の 5 倍以上、平均飼養頭数（『0 頭含む平均』）：北海道 45.7 頭、都府県 14.0 頭）が都府県の 3 倍以上であった。また、都府県の中では、九州、中国で 30 頭以上経営の割合（九州 16.0%、中国 14.4%）、平均飼養頭数（『0 頭含む平均』）：九州 17.1 頭、中国 17.3 頭）が多く、北陸（3.3%、7.7 頭）、東北（7.8%、11.1 頭）で少なかった。なお、未經産牛の非飼養経営（『0 頭』）は、北陸（21.9%）、東海（16.1%）で特に多かった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道と都府県の双方について、規模の増大に伴い平均未經産牛飼養頭数は急激に増加するという傾向がみられた。また、経産牛飼養規模別の平均未經産牛飼養頭数は、全ての規模階層で、北海道が都府県を大きく上回った。

II (2) 未經産牛頭数

	酪農家数	飼養頭数												合計・無回答を除く	[単位：戸、%、頭]		
		0 頭	1 ～ 5 頭未満	5 ～ 10 頭未満	10 ～ 20 頭未満	20 ～ 30 頭未満	30 ～ 40 頭未満	40 ～ 50 頭未満	50 ～ 75 頭未満	75 頭未満	100 頭未満	150 頭未満	150 頭以上		無回答	有効回答平均 (0 含む)	平均 (0 除く)
全 体	16,383	7.6	16.1	14.1	19.1	12.5	8.7	6.2	7.6	2.7	2.0	1.5	1.9	90.5	25.8	28.0	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	1.8	3.6	5.0	13.4	16.6	15.8	12.8	16.2	5.9	4.6	3.2	1.0	97.1	45.7	46.5
	(都府県計)	10,297	11.0	23.5	19.5	22.5	10.1	4.5	2.3	2.5	0.7	0.5	0.4	2.4	86.6	14.0	15.7
	東 北	2,476	9.5	29.0	20.5	21.0	9.4	3.6	1.7	1.7	0.4	0.2	0.2	3.0	87.5	11.1	12.3
	関 東	3,199	12.6	21.5	19.6	24.1	10.7	4.7	2.3	2.4	0.8	0.6	0.6	-	87.4	14.7	16.9
	北 陸	342	21.9	32.5	17.5	16.1	8.8	1.5	-	-	-	0.3	-	-	78.1	7.7	9.8
	東 海	900	16.1	22.6	16.8	22.6	8.7	5.2	2.7	2.4	1.0	0.8	0.8	0.4	83.4	14.4	17.2
	近 畿	562	7.7	20.6	19.0	18.5	6.2	2.5	0.9	2.1	-	-	0.4	22.1	70.3	11.4	12.7
	中 国	747	10.4	19.8	19.8	23.3	11.4	5.1	3.5	3.2	1.2	0.5	0.9	0.8	88.8	17.3	19.3
	四 国	402	13.9	24.4	19.2	19.2	8.5	4.0	1.0	2.0	0.7	0.2	0.5	6.5	79.6	12.2	14.4
九 州	1,669	5.9	20.3	20.0	24.9	11.9	6.0	3.7	4.3	1.2	0.6	0.2	1.0	93.2	17.1	18.2	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	47.5	42.2	3.5	1.8	0.4	-	-	-	-	-	-	4.6	47.9	1.4	2.9
	10 頭 未 満	792	26.8	51.9	13.0	1.5	0.4	0.4	0.1	0.3	-	-	-	5.7	67.6	2.6	3.7
	20 頭 未 満	2,191	14.2	42.2	27.9	12.3	0.5	0.1	0.1	0.1	-	-	-	2.5	83.3	4.8	5.6
	30 頭 未 満	2,554	7.9	21.0	29.3	34.8	4.8	0.5	0.0	0.1	-	-	-	1.4	90.6	8.6	9.4
	40 頭 未 満	2,533	5.5	11.3	16.1	36.8	23.4	5.0	0.5	0.1	0.1	0.0	-	1.2	93.3	14.1	15.0
	50 頭 未 満	2,091	3.2	6.9	9.0	24.8	31.7	17.6	5.1	0.8	0.0	0.1	0.0	0.7	96.1	20.8	21.5
	75 頭 未 満	3,076	3.2	4.1	5.3	11.8	17.4	23.8	20.2	13.2	0.5	0.3	-	0.4	96.4	31.0	32.1
	100 頭 未 満	1,198	2.6	3.4	3.3	5.8	6.2	10.4	17.2	41.3	8.8	0.5	-	0.3	97.1	46.4	47.7
	150 頭 未 満	899	3.3	2.7	3.1	5.0	2.9	4.0	6.6	27.7	27.5	15.8	0.8	0.7	96.0	65.8	68.1
	150 頭 以上	664	2.0	3.3	2.3	4.7	3.3	2.0	1.5	9.3	10.1	25.6	35.4	0.6	97.4	140.8	143.6
無 回 答	103	2.9	3.9	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	92.2	4.9	4.9	7.8	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	44.4	22.2	5.6	16.7	5.6	-	-	-	-	-	-	5.6	50.0	5.0	9.4
	10 頭 未 満	41	14.6	51.2	19.5	2.4	-	4.9	-	2.4	-	-	-	4.9	80.5	5.7	6.8
	20 頭 未 満	147	2.7	29.9	32.0	29.3	1.4	2.0	-	1.4	-	-	-	1.4	95.9	8.5	8.8
	30 頭 未 満	325	4.9	10.5	17.8	49.2	14.5	2.2	-	0.6	-	-	-	0.3	94.8	12.9	13.5
	40 頭 未 満	708	1.7	4.0	11.4	31.5	37.9	11.3	1.3	0.3	0.3	0.1	-	0.3	98.0	19.3	19.6
	50 頭 未 満	961	1.5	2.7	4.1	17.4	36.3	27.6	8.6	1.4	-	0.2	0.1	0.2	98.3	25.7	26.1
	75 頭 未 満	1,948	1.5	1.4	2.3	8.5	15.2	26.1	26.0	17.8	0.7	0.4	-	0.2	98.4	36.1	36.6
	100 頭 未 満	828	1.1	1.1	1.4	3.4	3.9	8.9	18.6	49.5	11.4	0.7	-	-	98.9	52.8	53.3
	150 頭 未 満	626	1.6	2.1	1.0	3.2	2.2	2.4	4.3	28.4	33.2	20.3	1.1	0.2	98.2	74.8	76.1
	150 頭 以上	435	0.9	2.1	1.4	1.4	0.7	1.6	-	6.7	9.9	31.7	43.4	0.2	98.9	162.3	163.8
無 回 答	49	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98.0	2.0	3.0	3.0	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	47.7	43.6	3.4	0.8	-	-	-	-	-	-	-	4.5	47.7	1.2	2.4
	10 頭 未 満	751	27.4	51.9	12.6	1.5	0.4	0.1	0.1	0.1	-	-	-	5.7	66.8	2.5	3.5
	20 頭 未 満	2,044	15.1	43.1	27.6	11.1	0.4	-	0.1	0.0	-	-	-	2.5	82.4	4.5	5.4
	30 頭 未 満	2,229	8.4	22.6	31.0	32.8	3.4	0.3	0.0	-	-	-	-	1.6	90.0	8.0	8.7
	40 頭 未 満	1,825	7.0	14.2	17.9	38.8	17.8	2.5	0.2	0.1	-	-	-	1.5	91.5	12.1	13.0
	50 頭 未 満	1,130	4.7	10.5	13.3	31.1	27.7	9.1	2.1	0.4	0.1	-	-	1.1	94.2	16.6	17.4
	75 頭 未 満	1,128	6.2	8.6	10.5	17.5	21.2	19.9	10.1	5.3	-	-	-	0.8	93.0	22.3	23.8
	100 頭 未 満	370	5.9	8.6	7.6	11.4	11.4	13.8	14.1	23.0	3.2	-	-	1.1	93.0	32.2	34.2
	150 頭 未 満	273	7.3	4.0	8.1	9.2	4.4	7.7	11.7	26.0	14.3	5.5	-	1.8	90.8	44.9	48.5
	150 頭 以上	229	3.9	5.7	3.9	10.9	8.3	2.6	4.4	14.4	10.5	14.0	20.1	1.3	94.8	99.6	103.7
無 回 答	54	5.6	5.6	-	-	-	1.9	-	-	-	-	-	87.0	7.4	5.1	9.0	

<推定値>未経産牛／経産牛比率

未経産牛／経産牛比率は、本年度の調査結果に基づき次式により推定した。

《未経産牛／経産牛比率＝『未経産牛飼養頭数』÷『経産牛飼養頭数』》

◆全体的にみると、0.3未満（0.0未満含む）が34.3%、0.3～0.6未満が33.3%、0.6以上が30.3%の3層がそれぞれ3割強を占めており、平均未経産牛／経産牛比率（『0含む』）は0.49であった。

◆地域別には、北海道・都府県間の差異が大きく、北海道では半数強が0.6以上であるのに対して、都府県では約8割が0.6未満であり、平均未経産牛／経産牛比率（『0含む』）は北海道（0.61）が都府県（0.35）の1.7倍であった。なお、都府県の中では、平均未経産牛／経産牛比率（『0含む』）は、中国（0.41）、東北（0.38）、九州（0.37）で高く、北陸（0.25）、東海（0.29）で低かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、経産牛飼養規模と平均未経産牛／経産牛比率（0を含む）との関係は次の3つに大別できる。まず、北海道では30頭未満、都府県では20頭未満の各層では平均未経産牛／経産牛比率（0を含む）は飼養規模の増大に伴い低下している。次いで、北海道では30頭～150頭未満、都府県では20頭～150頭未満の各層では、平均未経産牛／経産牛比率（0を含む）は飼養規模の増大に伴い上昇または停滞する傾向を示している。そして、150頭規模を超えると、北海道、都府県ともに、平均未経産牛／経産牛比率（0を含む）は再び低下傾向へと転じている。また、飼養規模別平均未経産牛／経産牛比率を北海道・都府県間で比較すると、全ての規模階層で北海道の値が都府県の値を上回っている点が目を引いた。

II (2) 未経産牛率(未経産牛率/経産牛)

[単位: 戸、対比]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)
		0・0	を0・1未満(ゼロ)	満0・1	満0・2	満0・3	満0・4	満0・5	満0・6	満0・7	満0・8		
全体	16,383	7.5	6.6	10.1	10.1	10.2	10.5	12.6	11.7	18.6	2.1	0.49	0.51
北海道	6,086	1.8	2.7	4.2	5.0	6.8	9.7	16.0	18.6	34.1	1.2	0.61	0.62
都府県計	10,297	10.9	8.9	13.6	13.1	12.2	11.0	10.7	7.7	9.4	2.6	0.35	0.38
東北	2,476	9.4	7.2	14.5	12.6	11.8	10.0	11.6	8.4	11.3	3.2	0.38	0.40
関東	3,199	12.5	8.9	12.5	12.5	12.8	12.0	11.5	8.1	8.9	0.1	0.35	0.38
北陸	342	21.9	16.7	14.9	13.2	10.5	8.8	7.0	4.1	2.9	-	0.25	0.29
東海	900	15.9	13.9	12.7	11.0	10.8	10.2	8.8	7.4	8.6	0.8	0.29	0.32
近畿	562	7.7	8.2	11.4	14.2	9.6	7.8	8.0	4.8	6.0	22.2	0.29	0.31
中国	747	10.2	5.4	10.7	11.5	12.0	13.8	12.3	9.5	13.5	1.1	0.41	0.44
四国	402	13.7	9.7	13.4	14.4	11.9	11.2	8.7	5.2	5.0	6.7	0.32	0.35
九州	1,669	5.8	8.5	16.4	15.9	14.0	11.4	10.0	7.3	9.6	1.0	0.37	0.39
経産牛飼養頭数(全国)													
5頭未満	282	42.9	-	-	6.7	8.2	-	7.1	3.2	20.6	11.3	0.41	0.81
10頭未満	792	26.8	-	16.0	13.0	8.0	5.3	6.6	5.9	12.8	5.7	0.37	0.51
20頭未満	2,191	14.2	7.9	16.3	15.1	12.3	8.1	8.7	5.7	9.3	2.5	0.33	0.38
30頭未満	2,554	7.9	8.1	14.4	14.6	13.9	12.3	11.0	6.7	9.6	1.4	0.35	0.38
40頭未満	2,533	5.5	7.1	11.5	11.4	12.4	12.1	14.0	11.0	13.7	1.2	0.42	0.44
50頭未満	2,091	3.2	6.4	7.9	9.5	10.8	13.4	14.1	14.1	20.0	0.7	0.48	0.49
75頭未満	3,076	3.2	5.2	6.7	6.8	8.1	10.8	16.4	16.9	25.5	0.4	0.52	0.54
100頭未満	1,198	2.6	6.5	4.3	5.7	6.6	10.4	13.9	18.8	30.8	0.3	0.55	0.56
150頭未満	899	3.3	7.1	5.2	3.8	6.6	9.2	14.0	16.9	33.1	0.7	0.55	0.57
150頭以上	664	2.3	12.3	5.6	4.7	5.6	9.8	12.3	14.6	32.2	0.6	0.50	0.50
無回答	103	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
経産牛飼養頭数(北海道)													
5頭未満	18	22.2	-	-	5.6	-	-	-	5.6	16.7	50.0	1.00	2.25
10頭未満	41	14.6	-	17.1	9.8	7.3	4.9	2.4	12.2	26.8	4.9	0.80	0.94
20頭未満	147	2.7	5.4	8.2	12.9	15.0	7.5	12.2	6.1	28.6	1.4	0.57	0.59
30頭未満	325	4.9	4.0	7.1	8.9	9.8	12.9	15.7	11.1	25.2	0.3	0.52	0.54
40頭未満	708	1.7	2.0	6.9	8.6	8.2	10.0	18.2	16.7	27.4	0.3	0.56	0.57
50頭未満	961	1.5	2.7	3.3	5.0	8.3	12.7	16.6	17.6	32.0	0.2	0.59	0.59
75頭未満	1,948	1.5	1.9	4.0	4.6	6.3	9.5	17.1	21.1	33.9	0.2	0.60	0.61
100頭未満	828	1.1	2.4	2.5	3.5	5.2	9.3	15.2	21.6	39.1	-	0.62	0.63
150頭未満	626	1.6	3.5	3.7	2.1	5.3	7.5	15.0	19.3	41.9	0.2	0.63	0.64
150頭以上	435	0.9	5.5	2.3	3.0	4.6	7.1	14.0	19.1	43.2	0.2	0.62	0.63
無回答	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
経産牛飼養頭数(都府県)													
5頭未満	264	44.3	-	-	6.8	8.7	-	7.6	3.0	20.8	8.7	0.39	0.77
10頭未満	751	27.4	-	16.0	13.2	8.0	5.3	6.8	5.6	12.0	5.7	0.35	0.48
20頭未満	2,044	15.1	8.0	16.9	15.2	12.1	8.1	8.4	5.7	7.9	2.5	0.31	0.36
30頭未満	2,229	8.4	8.7	15.5	15.5	14.4	12.2	10.4	6.1	7.4	1.6	0.33	0.36
40頭未満	1,825	7.0	9.2	13.3	12.5	14.0	12.9	12.4	8.8	8.4	1.5	0.36	0.39
50頭未満	1,130	4.7	9.5	11.8	13.3	12.9	14.0	11.9	11.1	9.8	1.1	0.38	0.40
75頭未満	1,128	6.2	10.9	11.3	10.5	11.3	13.1	15.0	9.8	11.1	0.8	0.38	0.40
100頭未満	370	5.9	15.7	8.4	10.5	9.7	13.0	11.1	12.4	12.2	1.1	0.38	0.41
150頭未満	273	7.3	15.4	8.8	7.7	9.5	13.2	11.7	11.4	13.2	1.8	0.38	0.41
150頭以上	229	4.8	25.3	11.8	7.9	7.4	14.8	9.2	6.1	11.4	1.3	0.30	0.31
無回答	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-

8 - 付 2歳未満未經産牛の飼養頭数（平成26年4月1日現在）

◆全国的には、10頭未満の経営が45.4%、10～30頭未満の経営が30.6%、30頭以上の経営が19.2%という戸数構成になっており、2歳以上未經産牛も含む未經産牛全体と比べると10頭未満経営の割合が1割高く、30頭以上経営の割合が1割低かった。また、2歳未満経産牛の平均飼養頭数（『0頭含む平均』：19.4頭）は、未經産牛全体の平均飼養頭数（『0頭含む平均』：25.8頭）より6.4頭少なかった。

◆地域別には、北海道・都府県間の差異が大きく、30頭以上経営の割合（北海道40.1%、都府県6.5%）では北海道が都府県を約34ポイント上回り、平均飼養頭数（『0頭含む平均』：北海道34.3頭、都府県10.2頭）では北海道が都府県の3倍以上であった。また、都府県の中では、特に九州で30頭以上経営の割合（10.6%）、平均飼養頭数（『0頭含む平均』：13.5頭）が多く、北陸（2.4%、5.7頭）で少なかった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道・都府県のいずれについても、規模の増大に伴って30頭以上経営の割合、平均飼養頭数（『0頭含む平均』）が増加するという傾向がみられた。また、30頭以上経営の割合、平均飼養頭数（『0頭含む平均』）のいずれについても、全ての規模階層で、北海道が都府県を大きく上回った。

II (2) i) 2歳未満の未經産牛頭数

	酪農家数	飼養頭数												合計・無回答を除く	平均	
		0頭	1～5頭未満	5～10頭未満	10～20頭未満	20～30頭未満	30～40頭未満	40～50頭未満	50～75頭未満	75～100頭未満	100～150頭未満	150頭以上	無回答		有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)
全 体	16,383	12.8	18.4	14.2	19.4	11.2	6.8	3.9	4.7	1.6	1.2	1.0	5.0	82.2	19.4	22.4
北海道 (都府県計)	6,086	5.0	5.0	7.6	21.3	18.2	13.3	8.3	10.2	3.5	2.6	2.2	2.8	92.2	34.3	36.1
都府県	10,297	17.4	26.3	18.1	18.2	7.0	2.9	1.3	1.4	0.4	0.3	0.2	6.3	76.3	10.2	12.6
北 海 道	2,476	13.0	31.5	18.2	16.8	5.8	2.3	1.1	0.6	0.2	0.2	0.1	10.0	76.9	8.5	10.0
東 海 道	3,199	22.0	23.9	19.1	20.1	7.7	3.1	1.4	1.3	0.6	0.5	0.3	0.0	77.9	10.7	13.7
北 陸 道	342	34.2	29.5	14.9	14.3	4.7	1.5	0.6	0.3	-	-	-	-	65.8	5.7	8.6
東 海 道	900	25.8	22.6	15.9	18.0	8.6	3.3	2.1	1.6	0.8	0.3	0.6	0.6	73.7	11.2	15.2
近 畿 道	562	10.0	25.6	13.7	15.1	3.9	2.1	0.5	1.2	-	-	0.4	27.4	62.6	9.1	10.6
中 国 道	747	15.5	26.8	17.9	11.8	5.2	2.0	0.4	0.9	0.1	0.3	0.1	18.9	65.6	8.4	10.4
四 国 道	402	18.9	26.1	17.9	15.2	5.7	2.2	0.5	1.5	0.2	-	-	11.7	69.4	8.1	10.3
九 州 道	1,669	10.1	24.7	19.7	22.3	9.4	4.5	2.0	2.8	0.6	0.5	0.2	3.1	86.8	13.5	15.0
5頭未満	282	54.6	30.1	2.1	0.7	0.4	-	-	-	-	-	-	12.1	33.3	0.9	2.4
10頭未満	792	36.6	45.7	5.1	0.5	0.3	0.1	-	0.3	-	-	-	11.5	51.9	1.7	2.8
20頭未満	2,191	21.9	44.8	19.6	5.7	0.2	0.0	-	0.1	-	-	-	7.7	70.5	3.4	4.4
30頭未満	2,554	13.5	30.1	28.0	21.6	1.7	0.1	0.0	-	-	-	-	4.9	81.5	6.2	7.2
40頭未満	2,533	10.2	15.4	20.9	35.3	12.4	1.9	0.1	0.0	-	-	-	3.8	85.9	10.5	11.8
50頭未満	2,091	7.5	8.6	13.2	34.8	23.4	8.0	1.6	0.2	-	0.1	-	2.6	90.0	15.5	16.8
75頭未満	3,076	7.4	5.2	7.6	22.4	22.0	17.7	9.5	5.5	0.2	-	-	2.5	90.1	22.7	24.6
100頭未満	1,198	6.8	3.2	4.6	8.8	16.3	18.5	14.9	21.8	2.3	-	-	2.6	90.7	33.7	36.3
150頭未満	899	5.9	3.1	3.4	5.3	8.5	10.6	12.2	26.9	15.9	5.8	0.2	2.1	92.0	49.7	52.8
150頭以上	664	7.4	2.9	2.4	4.2	4.4	4.5	3.3	12.3	11.4	19.9	23.6	3.6	89.0	109.2	118.3
無 回 答	103	3.9	1.9	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	93.2	2.9	4.0	9.3
5頭未満	18	50.0	16.7	11.1	11.1	5.6	-	-	-	-	-	-	5.6	44.4	4.2	8.9
10頭未満	41	29.3	46.3	4.9	2.4	2.4	-	-	2.4	-	-	-	12.2	58.5	3.8	5.8
20頭未満	147	12.9	33.3	31.3	14.3	0.7	0.7	-	0.7	-	-	-	6.1	81.0	5.8	6.8
30頭未満	325	8.9	20.3	25.2	36.6	4.9	0.9	0.3	-	-	-	-	2.8	88.3	9.0	10.0
40頭未満	708	4.2	7.1	17.2	42.2	21.2	5.2	0.3	0.1	-	-	-	2.4	93.4	14.5	15.2
50頭未満	961	4.4	3.4	8.3	35.7	30.2	13.3	3.0	0.2	-	0.3	-	1.1	94.5	19.2	20.1
75頭未満	1,948	5.1	2.1	4.6	21.7	23.7	20.8	12.3	7.6	0.4	-	-	1.7	93.2	26.3	27.7
100頭未満	828	3.5	1.8	2.8	6.2	16.7	19.8	17.4	26.6	3.0	0.5	-	1.8	94.7	38.3	39.7
150頭未満	626	3.4	2.4	1.9	3.8	7.0	9.7	12.1	30.8	19.6	7.5	0.3	1.3	95.4	56.2	58.2
150頭以上	435	3.4	2.3	1.6	2.8	1.1	2.8	3.0	12.9	13.1	23.7	30.6	2.8	93.8	128.8	133.5
無 回 答	49	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98.0	2.0	3.0	3.0
5頭未満	264	54.9	31.1	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	12.5	32.6	0.7	1.8
10頭未満	751	37.0	45.7	5.1	0.4	0.1	0.1	-	0.1	-	-	-	11.5	51.5	1.6	2.7
20頭未満	2,044	22.5	45.6	18.8	5.1	0.2	-	-	0.0	-	-	-	7.8	69.7	3.2	4.2
30頭未満	2,229	14.2	31.5	28.4	19.4	1.2	-	-	-	-	-	-	5.2	80.5	5.7	6.8
40頭未満	1,825	12.5	18.6	22.3	32.5	8.9	0.7	0.1	-	-	-	-	4.4	83.1	9.0	10.3
50頭未満	1,130	10.1	12.9	17.4	34.0	17.6	3.5	0.4	0.2	-	-	-	3.8	86.1	12.2	13.7
75頭未満	1,128	11.4	10.6	12.8	23.6	19.1	12.3	4.6	1.8	-	-	-	3.8	84.8	16.4	18.6
100頭未満	370	14.1	6.2	8.6	14.6	15.4	15.7	9.2	11.1	0.8	-	-	4.3	81.6	23.4	27.4
150頭未満	273	11.7	4.8	7.0	8.8	11.7	12.5	12.5	17.9	7.3	1.8	-	4.0	84.2	34.1	38.9
150頭以上	229	14.8	3.9	3.9	7.0	10.5	7.9	3.9	11.4	8.3	12.7	10.5	5.2	79.9	71.1	84.3
無 回 答	54	7.4	1.9	-	-	1.9	-	-	-	-	-	-	88.9	3.7	4.2	12.5

## 9 飼料作物作付面積

◆全体としてみると、5ha未満（0haを含む）が32.2%、5～30ha未満が29.1%、30ha以上の経営が33.7%とそれぞれ3割前後ずつという構成になっており、非作付経営を含めた平均作付面積（『0ha含む平均』）は29.4haであった。

◆地域別には、北海道と都府県の間で、20ha未満の経営の割合（北海道6.0%、都府県84.5%）と20ha以上の経営の割合（北海道92.6%、都府県7.9%）がほぼ逆転しており、平均作付面積（『0ha含む平均』）でみると北海道（63.7ha）は都府県（7.8ha）の約8倍に及んだ。

また、都府県では、東北（12.8ha）、九州（8.8ha）の平均（『0ha含む』）が大きく、四国（3.5ha）、近畿（4.4ha）、関東（4.8ha）の平均（『0ha含む』）が小さかった。

◆経産牛飼養規模別には、該当戸数の少ない北海道の「5頭未満層」除けば、北海道・都府県ともに、規模の拡大に伴い平均作付面積（『0ha含む平均』）は増加する傾向を示した。

また、全ての規模階層で、北海道の平均作付面積（『0ha含む平均』）は都府県を3～6倍上回った。

II (4) 飼料作物作付地面積

	酪農家数	[単位：戸、%、ha]													0ヘクタールを 除く合計・無 回答	平均 (0除く)	
		1 0ヘクタール	2 1ヘクタール (ゼロを除く)	3 1ヘクタール 未満	4 3ヘクタール 未満	5 5ヘクタール 未満	6 10ヘクタール 未満	7 20ヘクタール 未満	8 30ヘクタール 未満	9 40ヘクタール 未満	10 50ヘクタール 未満	11 75ヘクタール 未満	12 100ヘクタール 以上	13 無回答			
全体	16,383	9.0	4.2	10.1	8.9	13.0	10.3	5.8	5.4	5.1	12.4	6.1	4.7	5.2	85.8	29.4	32.5
北海道 (都府県計)	6,086	0.3	0.1	0.2	0.2	1.2	4.0	8.5	11.9	12.7	31.8	15.7	12.0	1.3	98.3	63.7	63.9
プロ ンク	10,297	14.1	6.5	15.9	14.0	20.0	14.0	4.2	1.5	0.6	0.9	0.3	0.4	7.5	78.4	7.8	9.1
北	2,476	3.5	3.7	11.4	12.9	21.3	22.6	9.7	3.8	1.3	1.6	0.6	0.8	6.7	89.8	12.8	13.3
東	3,199	20.8	7.5	21.2	16.8	20.4	10.0	1.9	0.5	0.1	0.5	0.1	0.1	0.2	79.1	4.8	6.0
北	342	33.9	10.2	11.4	9.1	17.0	14.0	1.8	0.3	0.9	0.3	0.6	0.6	-	66.1	6.0	9.1
東	900	30.8	6.9	16.9	11.7	15.4	10.8	2.9	0.9	0.4	1.2	0.7	1.0	0.4	68.8	7.1	10.3
近	562	21.2	15.5	11.6	3.4	3.7	2.1	1.1	0.4	0.2	0.4	-	0.5	40.0	38.8	4.4	6.8
中	747	-	6.4	18.2	8.7	16.6	14.3	3.2	1.1	0.3	0.5	0.3	-	30.4	69.6	7.8	7.8
四	402	12.7	17.7	22.9	14.7	10.4	5.0	1.2	0.5	0.2	0.2	-	-	14.4	72.9	3.5	4.1
九	1,669	8.3	2.3	11.6	18.5	29.6	16.4	3.8	1.6	0.9	0.9	0.4	0.5	5.3	86.4	8.8	9.6
5頭未満	282	16.0	17.7	26.2	12.8	8.2	3.2	1.1	0.4	-	-	0.4	-	14.2	69.9	3.1	3.8
10頭未満	792	11.5	15.4	27.4	14.0	13.3	4.8	1.5	0.5	-	0.3	-	-	11.4	77.1	3.5	4.1
20頭未満	2,191	14.3	8.6	22.1	16.8	16.3	8.1	2.6	1.2	0.6	0.7	0.3	0.1	8.1	77.5	5.8	6.9
30頭未満	2,554	11.8	6.4	14.9	15.3	19.2	13.2	6.0	3.2	1.9	1.7	0.6	0.4	5.4	82.8	9.7	11.1
40頭未満	2,533	9.3	2.8	9.2	9.8	18.5	14.6	9.6	8.5	5.4	5.6	1.3	0.9	4.6	86.1	17.7	19.6
50頭未満	2,091	6.6	1.7	5.3	6.9	14.2	12.8	9.6	9.0	9.2	17.2	3.9	1.0	2.9	90.6	28.1	30.1
75頭未満	3,076	6.3	1.1	2.9	3.4	8.5	8.3	5.5	7.8	10.0	27.9	11.0	4.4	2.9	90.9	43.3	46.3
100頭未満	1,198	4.7	0.7	2.8	1.5	4.8	9.1	4.5	6.2	6.6	29.2	18.1	9.6	2.2	93.2	53.8	56.5
150頭未満	899	5.1	0.7	1.9	2.3	3.9	8.2	3.1	3.6	5.0	19.6	23.6	20.8	2.2	92.7	67.5	71.2
150頭以上	664	7.8	0.3	1.2	1.7	4.5	5.9	4.7	2.6	2.0	11.0	12.7	42.8	3.0	89.2	102.2	111.1
無回答	103	1.9	1.0	1.9	1.0	3.9	3.9	1.9	-	1.9	3.9	2.9	-	75.7	22.3	30.3	32.9
5頭未満	18	16.7	11.1	11.1	5.6	22.2	11.1	11.1	5.6	-	-	5.6	-	-	83.3	13.3	15.9
10頭未満	41	-	9.8	7.3	2.4	31.7	34.1	7.3	2.4	-	-	-	-	4.9	95.1	9.9	9.9
20頭未満	147	-	-	1.4	3.4	12.9	37.4	14.3	11.6	8.2	6.1	3.4	0.7	0.7	99.3	25.1	25.1
30頭未満	325	0.6	-	0.9	0.6	4.0	19.1	29.8	19.7	11.7	9.8	3.1	0.6	-	99.4	31.2	31.4
40頭未満	708	-	-	0.1	0.1	0.8	7.8	21.8	27.3	17.8	18.9	3.5	1.6	0.3	99.7	40.1	40.1
50頭未満	961	0.5	-	0.1	0.1	0.4	3.6	12.4	16.9	19.1	36.4	8.2	1.8	0.4	99.1	49.3	49.6
75頭未満	1,948	0.4	-	-	0.1	0.5	0.7	4.9	10.6	15.1	43.3	17.2	6.6	0.8	98.9	61.0	61.3
100頭未満	828	0.1	-	-	-	0.1	0.4	2.5	6.6	8.7	40.9	26.0	13.5	1.1	98.8	70.7	70.7
150頭未満	626	0.3	-	-	-	-	0.2	0.5	2.7	6.4	26.7	33.4	29.4	0.5	99.2	88.9	89.1
150頭以上	435	0.2	-	0.2	-	0.5	0.5	1.6	1.4	13.3	17.5	63.4	0.9	98.9	141.6	141.9	
無回答	49	-	-	-	-	-	2.0	2.0	-	2.0	6.1	6.1	-	81.6	18.4	60.8	60.8
5頭未満	264	15.9	18.2	27.3	13.3	7.2	2.7	0.4	-	-	-	-	-	15.2	68.9	2.2	2.8
10頭未満	751	12.1	15.7	28.5	14.6	12.3	3.2	1.2	0.4	-	0.3	-	-	11.7	76.2	3.2	3.7
20頭未満	2,044	15.4	9.2	23.6	17.8	16.5	6.0	1.8	0.5	0.1	0.3	0.1	0.0	8.7	76.0	4.3	5.2
30頭未満	2,229	13.4	7.3	17.0	17.5	21.4	12.4	2.5	0.8	0.4	0.5	0.2	0.4	6.2	80.3	6.3	7.4
40頭未満	1,825	12.9	3.8	12.8	13.5	25.4	17.3	4.8	1.3	0.5	0.4	0.4	0.6	6.2	80.9	8.5	9.8
50頭未満	1,130	11.7	3.1	9.7	12.7	25.8	20.5	7.2	2.3	0.7	0.8	0.2	0.3	5.0	83.4	9.2	10.5
75頭未満	1,128	16.5	3.0	7.9	9.3	22.3	21.5	6.6	3.1	1.1	1.2	0.4	0.6	6.5	77.0	10.8	13.1
100頭未満	370	14.9	2.2	9.2	4.9	15.4	28.6	8.9	5.1	1.9	3.0	0.5	0.8	4.6	80.5	14.7	17.4
150頭未満	273	16.1	2.2	6.2	7.7	12.8	26.7	9.2	5.5	1.8	3.3	1.1	1.1	6.2	77.7	15.5	18.8
150頭以上	229	22.3	0.9	3.1	4.8	12.2	16.2	12.7	4.4	3.1	6.6	3.5	3.5	7.0	70.7	22.4	29.4
無回答	54	3.7	1.9	3.7	1.9	7.4	5.6	1.9	-	1.9	1.9	-	-	70.4	25.9	13.1	15.0

## <推定値>経産牛1頭当たり飼料作物作付面積

経産牛1頭当たり飼料作物作付面積は、本年度の調査結果に基づき次式により推定した。

《経産牛1頭当たり飼料作物作付面積＝『飼料作物作付面積』÷『経産牛飼養頭数』》

◆全体としてみると、0.1ha未満（0haを含む）が21.2%、0.1～0.3ha未満が22.3%、0.3～0.8ha未満が25.2%、0.8ha以上の経営が25.8%とそれぞれ2～3割ずつを占めており、平均1頭当たり飼料作物作付面積（『0ha含む平均』）は0.55haであった。

◆地域別にみると、北海道と都府県の方に著しい差異がみられた。北海道では9割以上の経営が0.4ha以上であるのに対して、都府県では7割以上の経営が0.4ha未満であり、平均1頭当たり作付面積（『0ha含む平均』）は北海道（0.85ha）が都府県（0.19ha）4.3倍に及んだ。また、都府県の中では、平均1頭当たり作付面積（『0ha含む平均』）は、東北（0.44ha）で大きく、四国（0.09ha）、関東（0.11ha）、東海（0.14ha）、近畿（0.12ha）等で小さかった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道と都府県の双方について、規模の増大に伴い平均1頭当たり作付面積（『0ha含む平均』）が低下して行くという傾向がみられた。また、平均1頭当たり作付面積（『0ha含む平均』）を北海道・都府県間で比較すると、全ての規模階層で北海道の値が都府県の値を上回っている点が目を引いた。

II (4) 経産牛1頭当たり飼料作物作付地面積

[単位：戸、%、ha]

	酪農家数	飼料作物作付面積階層													有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)	
		1 0 ヘクタール	2 0 ヘクタール (ゼロを除く)	3 0 ヘクタール 未満	4 0 ヘクタール 未満	5 0 ヘクタール 未満	6 0 ヘクタール 未満	7 0 ヘクタール 未満	8 0 ヘクタール 未満	9 0 ヘクタール 未満	10 0 ヘクタール 未満	11 0 ヘクタール 未満	12 0 ヘクタール 未満	13 0 ヘクタール 未満			
全体	16,383	9.1	12.1	13.5	8.8	5.5	5.2	4.9	9.6	7.8	6.9	5.4	5.7	5.5	0.55	0.59	
北海道 (都府県計)	6,086	0.3	0.3	0.7	1.2	2.8	5.8	7.2	19.5	18.5	16.8	13.2	12.1	1.6	0.85	0.85	
	10,297	14.3	19.1	21.2	13.3	7.1	4.9	3.5	3.8	1.5	1.0	0.8	1.9	7.8	0.19	0.23	
	2,476	3.5	7.4	11.5	12.7	12.2	11.4	9.7	11.3	4.1	2.7	2.3	4.2	7.1	0.44	0.45	
	3,199	21.0	26.6	27.2	14.3	4.6	2.1	1.2	0.9	0.5	0.3	0.2	0.8	0.3	0.11	0.14	
	342	34.2	18.4	13.2	13.7	8.2	2.6	3.2	2.6	0.6	1.2	0.9	1.2	-	0.19	0.29	
	900	31.3	20.9	19.3	9.6	6.0	4.1	1.9	2.6	0.6	0.4	0.6	2.0	0.8	0.14	0.24	
	562	21.5	24.9	6.4	2.0	1.2	0.5	0.2	0.4	0.4	0.7	0.2	1.4	40.2	0.12	0.18	
	747	0.1	18.3	20.2	12.9	6.2	5.1	2.4	2.5	0.8	0.3	-	0.5	30.7	0.17	0.17	
	402	14.2	36.6	22.4	5.7	2.0	0.7	0.7	1.0	0.7	0.5	-	0.7	14.7	0.09	0.11	
九国	1,669	8.3	15.4	31.6	20.1	8.0	3.8	1.8	1.4	0.9	0.8	0.7	1.6	5.6	0.19	0.21	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	14.5	3.2	8.5	4.6	4.6	5.7	6.0	9.6	1.8	3.9	3.2	14.2	20.2	0.77	0.94
	10頭未満	792	11.5	10.0	13.6	10.7	7.1	6.8	5.7	7.7	3.2	3.3	2.7	6.4	11.4	0.50	0.57
	20頭未満	2,191	14.4	14.1	16.7	12.8	8.5	5.7	4.4	4.4	2.4	2.0	1.6	4.9	8.1	0.40	0.47
	30頭未満	2,554	12.0	16.6	19.5	12.9	6.5	4.7	4.2	4.7	3.1	3.1	2.3	5.1	5.4	0.40	0.45
	40頭未満	2,533	9.4	13.9	16.8	10.7	6.1	4.7	3.4	6.7	6.2	5.7	4.9	6.7	4.6	0.52	0.58
	50頭未満	2,091	6.6	11.9	13.0	9.7	4.4	4.0	3.5	8.8	7.7	9.1	9.9	8.5	2.9	0.64	0.69
	75頭未満	3,076	6.5	8.9	9.1	5.0	2.6	3.4	4.6	11.8	13.8	13.9	10.9	6.6	2.9	0.73	0.78
	100頭未満	1,198	4.8	7.6	9.6	4.3	3.5	5.8	6.2	21.0	17.4	10.2	5.0	2.5	2.2	0.64	0.67
	150頭未満	899	5.6	10.2	8.1	3.7	4.4	9.1	9.6	22.2	13.6	6.8	2.7	1.8	2.2	0.57	0.60
	150頭以上	664	8.4	15.2	8.9	4.4	9.8	13.1	11.1	15.2	6.0	3.0	1.4	0.5	3.0	0.36	0.39
無回答	103	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	5.6	-	5.6	-	-	5.6	5.6	-	-	-	5.6	27.8	44.4	2.58	2.87
	10頭未満	41	-	7.3	7.3	2.4	-	-	4.9	7.3	2.4	14.6	4.9	43.9	4.9	1.41	1.41
	20頭未満	147	-	0.7	2.7	0.7	2.0	4.1	6.8	8.2	10.2	11.6	10.2	42.2	0.7	1.68	1.68
	30頭未満	325	0.6	0.3	0.6	2.5	0.9	2.5	4.9	13.5	13.2	17.8	13.8	29.2	-	1.25	1.26
	40頭未満	708	-	0.3	0.3	0.8	1.4	3.0	3.8	16.1	18.4	18.8	16.4	20.5	0.3	1.16	1.16
	50頭未満	961	0.5	0.1	0.5	0.5	1.2	3.5	4.4	14.9	16.1	19.0	20.9	17.8	0.4	1.12	1.13
	75頭未満	1,948	0.4	0.1	0.4	0.5	1.0	3.5	6.0	17.1	21.5	21.7	17.0	10.0	0.8	1.02	1.02
	100頭未満	828	0.1	0.1	0.1	1.1	3.1	6.9	8.5	29.1	24.8	14.6	7.2	3.3	1.1	0.83	0.83
	150頭未満	626	0.3	-	0.2	1.9	5.6	11.8	13.4	31.5	19.2	9.7	3.5	2.4	0.5	0.75	0.75
150頭以上	435	0.5	1.4	3.0	5.3	14.0	19.5	16.6	22.5	9.2	4.4	2.1	0.7	0.9	0.54	0.54	
無回答	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	15.2	3.4	8.7	4.9	4.9	5.7	6.1	10.2	1.9	4.2	3.0	13.3	18.6	0.69	0.85
	10頭未満	751	12.1	10.1	14.0	11.2	7.5	7.2	5.7	7.7	3.2	2.7	2.5	4.4	11.7	0.45	0.52
	20頭未満	2,044	15.5	15.1	17.7	13.6	9.0	5.8	4.2	4.1	1.8	1.3	1.0	2.3	8.7	0.30	0.35
	30頭未満	2,229	13.7	19.0	22.2	14.4	7.3	5.0	4.0	3.4	1.7	0.9	0.7	1.5	6.2	0.26	0.30
	40頭未満	1,825	13.0	19.2	23.2	14.6	7.9	5.4	3.3	3.1	1.5	0.7	0.5	1.4	6.2	0.25	0.29
	50頭未満	1,130	11.9	21.9	23.6	17.4	7.1	4.4	2.8	3.6	0.6	0.6	0.5	0.5	5.0	0.21	0.24
	75頭未満	1,128	17.0	24.1	24.1	12.7	5.5	3.1	2.1	2.7	0.6	0.4	0.4	0.7	6.5	0.18	0.22
	100頭未満	370	15.4	24.3	30.8	11.6	4.3	3.2	1.1	2.7	0.8	0.3	-	0.8	4.6	0.17	0.21
	150頭未満	273	17.6	33.7	26.4	7.7	1.8	2.9	0.7	1.1	0.7	-	0.7	0.4	6.2	0.13	0.16
150頭以上	229	23.6	41.5	20.1	2.6	1.7	0.9	0.9	1.3	-	0.4	-	-	7.0	0.07	0.09	
無回答	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	

9 - 付1 牧草地面積

◆飼料作物のうち牧草のみに関して作付面積別戸数分布をみると、5ha未満（0haを含む）が37.9%、5～30ha未満が24.1%、30ha以上が26.9%と3割前後であった。また、非作付経営を含めた平均牧草地面積（『0ha含む平均』：24.3ha）は、平均飼料作物作付面積（『0ha含む平均』：29.4ha）よりも5.1ha小さかった。また、牧草非作付経営の割合（19.9%）は、飼料作物非作付経営の割合（9.0%）よりも10.9ポイント高かった。

◆牧草地面積を地域別にみると、北海道では約9割の経営が10ha以上であったが、都府県では約7割の経営が10ha未満であり、平均牧草地面積（『0ha含む平均』：北海道52.3ha、都府県5.0ha）は北海道が都府県の約10倍であった。また、都府県では、平均牧草地面積（『0ha含む』）でみると、東北（9.6ha）、中国（5.5ha）、九州（5.1ha）が大きく、近畿（2.4ha）、関東（2.6ha）が小さかった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道の「5頭未満」を除けば、北海道・都府県ともに、規模の増大に伴い平均牧草地面積（『0ha含む平均』）も増加するという傾向がみられた。また、全ての規模階層で、北海道の平均牧草地面積（『0ha含む平均』）は都府県の平均牧草地面積（『0ha含む平均』）を4～9倍上回った。

II (4) i) 飼料作物作付地面積(牧草地面積)

[単位：戸、%、ha]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	0ヘクタール・無回答を除く合計	有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)
		0ヘクタール	1ヘクタール未満 (ゼロを除く)	1～3ヘクタール未満	3～5ヘクタール未満	5～10ヘクタール未満	10～20ヘクタール未満	20～30ヘクタール未満	30～40ヘクタール未満	40～50ヘクタール未満	50～75ヘクタール未満	75～100ヘクタール未満	100ヘクタール以上	無回答			
全体	16,383	19.9	3.8	7.9	6.3	9.5	8.9	5.7	4.5	4.4	10.1	4.6	3.3	11.0	69.1	24.3	31.3
北海道 (都府県計)	6,086	2.8	0.2	0.3	0.8	3.2	10.0	11.4	10.5	11.1	26.5	12.2	8.7	2.3	94.9	52.3	53.8
プロック	10,297	30.0	6.0	12.3	9.6	13.2	8.3	2.4	0.9	0.4	0.4	0.1	0.2	16.2	53.2	5.0	7.8
北	2,476	8.7	5.2	12.5	12.2	19.2	17.4	6.6	2.4	1.0	0.7	0.3	0.4	13.4	77.9	9.6	10.6
東	3,199	47.7	7.9	14.8	10.4	11.7	5.3	0.8	0.3	0.1	0.1	-	-	0.8	51.5	2.6	4.9
北	342	53.2	5.6	8.8	5.6	14.6	10.2	1.2	-	-	-	0.6	0.3	-	46.8	3.9	8.3
東	900	49.8	5.8	12.1	7.2	13.1	6.3	1.1	0.8	0.4	0.6	0.3	0.4	2.0	48.2	4.3	8.7
近	562	23.1	11.2	7.8	2.3	2.3	1.4	0.9	0.4	0.2	-	-	0.2	50.2	2.4	4.4	
畿	747	4.3	0.1	3.9	2.7	1.7	2.4	0.7	0.1	0.1	0.1	-	-	83.8	11.9	5.5	7.5
中	402	20.9	11.7	17.9	7.7	7.2	4.0	0.7	0.2	0.2	0.5	-	-	28.9	50.2	3.1	4.4
四	1,669	28.4	3.4	11.9	12.3	17.4	7.0	1.4	0.5	0.4	0.7	0.1	0.4	16.1	55.5	5.1	7.7
九	282	29.1	12.1	17.7	8.5	6.0	2.5	1.1	0.4	-	-	0.4	-	22.3	48.6	2.6	4.1
5頭未満	792	23.9	14.8	17.9	9.8	9.7	3.2	0.3	0.3	-	0.3	-	-	19.9	56.2	2.5	3.6
10頭未満	2,191	27.8	7.9	16.1	10.1	11.8	5.5	1.3	0.9	0.6	0.5	0.3	0.0	17.1	55.1	4.4	6.6
20頭未満	2,554	26.0	5.5	11.4	10.5	13.2	10.4	4.4	2.3	1.3	1.5	0.3	0.2	13.2	60.9	7.5	10.7
30頭未満	2,533	20.8	3.0	8.2	7.5	13.1	12.6	7.2	5.6	4.2	4.3	0.9	0.5	12.1	67.1	13.9	18.3
40頭未満	2,091	18.4	1.8	5.0	5.7	10.1	12.4	7.8	6.4	7.7	14.1	2.7	0.6	7.2	74.4	23.0	28.7
50頭未満	3,076	14.2	0.9	2.9	2.5	6.8	8.9	7.9	7.1	8.0	22.4	8.9	3.3	6.2	79.5	37.1	43.7
75頭未満	1,198	11.4	0.8	2.2	2.0	5.1	7.9	7.9	6.6	6.8	22.3	14.7	6.8	5.6	83.0	45.0	51.2
100頭未満	899	12.2	0.7	1.7	2.3	3.3	7.5	7.8	5.8	4.7	16.7	16.6	15.8	5.0	82.8	54.4	62.5
150頭以上	664	17.5	0.5	1.1	1.7	3.8	4.1	5.0	4.2	5.4	13.9	8.7	29.2	5.1	77.4	74.3	91.1
無回答	103	2.9	1.9	2.9	1.0	1.9	2.9	1.9	1.0	-	3.9	1.0	-	78.6	18.4	23.2	26.8
経産牛飼養頭数(全国)	18	22.2	5.6	11.1	5.6	22.2	11.1	11.1	5.6	-	-	5.6	-	-	77.8	13.0	16.8
5頭未満	41	-	14.6	-	4.9	34.1	29.3	2.4	2.4	-	-	-	-	12.2	87.8	9.1	9.1
10頭未満	147	4.8	-	4.1	6.1	15.0	30.6	11.6	8.8	8.2	5.4	3.4	0.7	1.4	93.9	22.1	23.2
20頭未満	325	2.2	-	0.9	2.5	10.2	24.3	22.5	15.7	9.2	8.9	2.5	0.6	0.6	97.2	27.1	27.7
30頭未満	708	2.4	-	0.7	1.1	6.2	17.1	19.1	17.8	14.0	15.1	3.0	1.0	2.5	95.1	32.6	33.4
40頭未満	961	4.0	0.1	0.2	0.5	3.0	12.6	12.7	11.9	16.3	30.3	5.7	1.2	1.5	94.6	40.9	42.7
50頭未満	1,948	2.4	-	0.1	0.4	1.8	7.6	10.0	10.0	12.2	34.8	14.0	5.0	1.7	95.9	52.3	53.6
75頭未満	828	2.1	0.2	-	0.2	1.0	5.3	8.8	8.7	9.1	31.9	21.1	9.7	1.9	96.0	59.5	60.8
100頭未満	626	2.7	-	-	0.2	0.5	4.5	8.9	7.3	5.8	23.3	23.5	22.4	1.0	96.3	71.2	73.2
150頭以上	435	3.2	-	0.2	0.7	0.7	1.8	4.1	5.1	7.1	20.0	12.6	43.2	1.1	95.6	102.9	106.4
無回答	49	-	-	-	-	-	4.1	2.0	2.0	-	8.2	2.0	-	81.6	18.4	49.3	49.3
経産牛飼養頭数(北海道)	264	29.5	12.5	18.2	8.7	4.9	1.9	0.4	-	-	-	-	-	23.9	46.6	1.6	2.7
5頭未満	751	25.2	14.8	18.9	10.1	8.4	1.7	0.1	0.1	-	0.3	-	-	20.4	54.5	2.1	3.1
10頭未満	2,044	29.5	8.5	17.0	10.4	11.5	3.7	0.6	0.3	0.1	0.1	0.0	-	18.2	52.3	2.9	4.5
20頭未満	2,229	29.4	6.3	12.9	11.7	13.6	8.4	1.7	0.3	0.1	0.4	-	0.1	15.0	55.6	4.2	6.4
30頭未満	1,825	28.0	4.2	11.1	9.9	15.8	10.8	2.6	0.8	0.4	0.1	0.2	0.3	15.8	56.2	5.6	8.3
40頭未満	1,130	30.6	3.3	9.1	10.1	16.2	12.2	3.7	1.7	0.4	0.3	0.2	0.1	12.1	57.3	6.0	9.2
50頭未満	1,278	34.7	2.6	7.7	6.3	15.3	11.2	4.2	2.0	0.7	0.9	0.2	0.3	14.1	51.2	6.9	11.6
75頭未満	320	32.4	1.9	7.0	5.9	14.3	13.8	5.9	1.9	1.6	0.8	0.3	0.3	13.8	53.8	8.2	13.2
100頭未満	273	34.1	2.2	5.5	7.3	9.9	14.3	5.1	2.2	2.2	1.5	0.7	0.7	14.3	51.6	9.9	16.4
150頭以上	229	44.5	1.3	2.6	3.5	9.6	8.3	6.6	2.6	2.2	2.2	1.3	2.6	12.7	42.8	12.9	26.3
無回答	54	5.6	3.7	5.6	1.9	3.7	1.9	1.9	-	-	-	-	-	75.9	18.5	5.0	6.6

<推定値>牧草地率

牧草地率（飼料作物作付面積に占める牧草地面積の割合）は、本年度の調査結果に基づき次式により推定した。

$$\llcorner \text{牧草地率} = \text{『牧草地面積』} \div \text{『飼料作物作付面積』} \gg$$

◆全体としてみると、『牧草地面積』又は『飼料作物作付面積』の無回答が2割あり、残る8割のうち50%未満（0%を含む）が19.2%、50～100%未満が23.0%がそれぞれ2割前後、『100%』が37.8%という構成になっており、平均牧草地率（『0%含む平均』）は79.5%であった。

◆地域別には、北海道・都府県間の差異が大きく、平均牧草地率（『0%含む平均』）で見ると、北海道（82.0%）は都府県（64.8%）より17.2ポイント高かった。また、都府県では、他の地域に比べて東北（76.1%）が高く、中国（48.1%）、関東（53.3%）が低かった。

◆経産牛飼養規模との関係は北海道、都府県ともにあまり明瞭ではないが、全体的に規模の増大に伴って平均牧草地率（『0%含む平均』）が低下するという傾向がみられた。また、平均牧草地率（『0%含む平均』）を北海道・都府県間で比較すると、全ての規模階層で北海道の値が都府県の値を15～32ポイント上回っている点が目を引いた。

II (4) i) 牧草地率<牧草地/牧草・飼料作物作付地>

	酪農家数	[単位:戸、%]											有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)			
		1 0 %	2 を1 0 %未 満 (ゼ ロ)	3 1 0 %未 満	4 2 0 %未 満	5 3 0 %未 満	6 4 0 %未 満	7 5 0 %未 満	8 6 0 %未 満	9 7 0 %未 満	10 8 0 %未 満	10 満9 0 %未 満			10 1 0 0 %	11 無 回 答	
全 体	16,383	11.1	0.7	1.5	1.9	1.7	2.3	4.1	5.5	5.6	5.4	2.4	37.8	20.0	79.5	83.2	
プ ロ ク	北 海 道	6,086	2.4	0.6	1.4	1.7	1.8	3.2	5.4	9.0	9.5	9.8	4.3	48.1	2.7	82.0	83.9
	(都府県計)	10,297	16.2	0.7	1.6	2.0	1.7	1.8	3.3	3.4	3.2	2.9	1.3	31.7	30.2	64.8	78.5
	東 北	2,476	5.1	0.7	1.9	2.2	2.1	2.1	4.3	5.9	6.7	5.7	2.2	43.9	17.4	76.1	80.5
	関 東	3,199	27.0	1.1	1.8	2.2	1.9	1.9	3.2	2.7	2.4	2.0	1.1	31.2	21.6	53.3	76.5
	北 海 道	342	19.3	0.3	-	1.5	0.9	0.9	1.5	1.2	2.0	2.3	0.6	35.7	33.9	64.4	88.9
	東 北	900	19.0	0.4	1.0	1.6	2.6	2.0	4.1	3.7	2.7	1.3	1.1	27.8	32.8	60.3	75.7
	近 畿	562	5.9	0.2	0.2	0.5	0.4	0.4	0.7	0.7	0.4	0.5	0.2	22.4	67.6	64.3	87.4
	中 国	747	4.3	0.4	0.3	0.9	0.8	0.8	1.2	1.9	1.5	1.2	0.5	2.4	83.8	48.1	65.5
	四 国	402	11.4	0.2	1.2	1.5	0.7	1.0	0.5	1.7	1.2	1.5	0.5	39.6	38.8	78.7	90.1
九 州	1,669	20.1	0.9	2.5	2.8	1.6	2.5	4.6	3.2	2.3	3.3	1.6	30.2	24.6	57.6	74.8	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	13.1	-	0.7	0.7	1.4	0.7	4.3	2.1	1.8	2.8	1.4	31.6	39.4	80.5	92.0
	10 頭 未 満	792	13.0	0.9	1.3	1.6	1.9	1.4	3.3	4.0	3.3	3.4	1.0	33.8	31.1	70.7	81.7
	20 頭 未 満	2,191	13.7	0.6	1.5	1.4	1.5	1.9	3.0	3.0	3.8	2.6	1.0	34.6	31.4	74.5	84.9
	30 頭 未 満	2,554	14.2	0.4	1.3	2.0	1.9	2.1	2.9	3.9	4.0	4.0	1.8	36.4	25.1	76.4	82.9
	40 頭 未 満	2,533	12.0	1.0	2.0	2.3	1.9	2.2	3.6	5.4	4.9	5.8	2.5	35.4	21.0	76.6	81.8
	50 頭 未 満	2,091	12.0	0.5	2.0	1.9	2.1	2.6	3.9	5.6	5.9	6.4	3.2	40.3	13.7	80.4	85.4
	75 頭 未 満	3,076	8.1	0.8	1.1	2.0	1.2	2.4	4.6	6.5	6.6	6.6	3.3	44.4	12.4	84.0	86.8
	100 頭 未 満	1,198	6.8	0.7	1.4	2.0	1.4	2.7	5.2	8.1	9.6	7.8	3.2	41.0	10.3	82.2	85.0
	150 頭 未 満	899	7.1	0.7	1.7	1.3	2.4	3.9	6.7	7.7	7.6	8.6	2.9	39.4	10.1	79.2	81.6
	150 頭 以上	664	9.6	0.6	2.1	2.3	2.6	3.2	8.9	10.8	9.0	6.5	2.9	28.6	13.0	71.4	74.7
無 回 答	103	1.0	1.0	1.9	1.0	-	-	-	1.9	1.9	1.0	-	9.7	80.6	69.8	71.2	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	5.6	-	-	-	-	-	5.6	-	5.6	-	5.6	61.1	16.7	98.4	98.5
	10 頭 未 満	41	-	-	-	-	4.9	-	2.4	2.4	7.3	9.8	4.9	56.1	12.2	89.1	89.1
	20 頭 未 満	147	4.1	0.7	2.0	0.7	1.4	4.1	3.4	4.1	7.5	8.8	1.4	59.9	2.0	88.1	91.0
	30 頭 未 満	325	1.5	-	2.5	2.2	2.2	2.8	1.5	7.1	10.2	10.2	6.5	52.3	1.2	86.5	87.2
	40 頭 未 満	708	2.4	1.0	1.8	2.3	2.5	3.4	3.2	9.7	9.0	12.9	4.8	44.4	2.5	81.6	83.4
	50 頭 未 満	961	3.4	0.3	1.7	1.4	1.9	3.1	3.9	7.6	8.7	10.3	5.1	50.6	2.1	83.5	86.8
	75 頭 未 満	1,948	2.1	0.8	1.0	1.7	1.2	2.6	5.2	8.4	8.6	8.5	4.3	53.5	2.1	85.7	87.4
	100 頭 未 満	828	1.9	0.5	1.0	1.6	1.0	3.0	6.2	10.0	11.8	9.7	3.9	47.5	2.1	84.2	85.7
	150 頭 未 満	626	2.4	0.3	1.8	1.1	2.9	5.0	8.3	9.9	10.1	10.5	3.5	43.0	1.3	80.1	81.6
	150 頭 以上	435	3.0	0.5	2.1	3.2	3.2	4.4	11.7	15.2	12.4	9.4	4.1	29.4	1.4	72.5	74.5
無 回 答	49	-	-	2.0	-	-	-	-	2.0	2.0	2.0	-	10.2	81.6	81.2	81.2	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	13.6	-	0.8	0.8	1.5	0.8	4.2	2.3	1.5	3.0	1.1	29.5	40.9	70.9	87.7
	10 頭 未 満	751	13.7	0.9	1.3	1.7	1.7	1.5	3.3	4.1	3.1	3.1	0.8	32.6	32.1	67.1	80.0
	20 頭 未 満	2,044	14.4	0.6	1.4	1.4	1.5	1.8	3.0	2.9	3.5	2.2	1.0	32.8	33.5	67.5	81.2
	30 頭 未 満	2,229	16.1	0.4	1.1	2.0	1.8	2.0	3.1	3.4	3.1	3.1	1.2	34.1	28.6	67.7	78.5
	40 頭 未 満	1,825	15.8	1.0	2.0	2.4	1.6	1.7	3.7	3.7	3.3	3.1	1.6	31.9	28.2	66.0	77.8
	50 頭 未 満	1,130	19.2	0.7	2.2	2.4	2.3	2.2	3.9	3.9	3.5	3.0	1.6	31.5	23.6	64.8	77.3
	75 頭 未 満	1,128	18.6	0.9	1.3	2.5	1.2	2.1	3.4	3.2	3.0	3.2	1.8	28.5	30.2	65.0	79.8
	100 頭 未 満	370	17.6	1.1	2.4	3.0	2.4	1.9	3.0	3.8	4.6	3.5	1.6	26.5	28.6	57.7	74.1
	150 頭 未 満	273	17.9	1.5	1.5	1.8	1.5	1.5	2.9	2.6	1.8	4.0	1.5	31.1	30.4	64.1	80.9
	150 頭 以上	229	22.3	0.9	2.2	0.4	1.3	0.9	3.5	2.6	2.6	0.9	0.4	27.1	34.9	56.8	78.4
無 回 答	54	1.9	1.9	1.9	1.9	-	-	-	1.9	1.9	-	-	9.3	79.6	35.8	38.9	

9 - 付2 借地面積

◆全体としてみると、飼料作物の作付に借地をしている経営は64.5%で、その平均借地面積（『0ha 除く平均』）は12.4haであった。

また、借地をしていない経営も含めた平均借地面積（『0ha 含む平均』）は8.7haであった。

◆借地をしていない経営も含めた平均借地面積（『0ha 含む平均』）を地域間で比較すると、北海道（15.1ha）は都府県（4.5ha）の3倍以上であった。

また、都府県では、東北（7.1ha）、中国（5.7ha）、九州（5.0ha）が大きく、四国（1.9ha）、近畿（2.5ha）、関東（2.7ha）が小さかった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県の双方について、非借地経営を含む平均借地面積（『0ha 含む平均』）は規模の増大に伴い増加するという傾向がみられた。

また、全ての規模階層で、北海道の平均借地面積（『0ha 含む平均』）が都府県の平均借地面積（『0ha 含む平均』）を2倍前後上回った。

II (4) iii) 飼料作物作付地面積(借地面積)

[単位: 戸、%、ha]

	酪農家数	借地面積階層													0ヘクタール・無回答を除く合計	有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)
		0ヘクタール	1ヘクタール未満 (ゼロを除く)	1ヘクタール未満 1ヘクタール未満	2ヘクタール未満 2ヘクタール未満	3ヘクタール未満 3ヘクタール未満	4ヘクタール未満 4ヘクタール未満	5ヘクタール未満 5ヘクタール未満	6ヘクタール未満 6ヘクタール未満	7ヘクタール未満 7ヘクタール未満	8ヘクタール未満 8ヘクタール未満	9ヘクタール未満 9ヘクタール未満	10ヘクタール未満 10ヘクタール未満	11ヘクタール未満 11ヘクタール未満			
全体	16,383	27.5	5.9	12.6	9.3	13.3	12.1	5.0	2.3	1.5	1.4	0.5	0.6	8.0	64.5	8.7	12.4
北海道 (都府県計)	6,086	29.9	0.5	3.4	5.2	13.9	20.2	10.4	5.3	3.2	3.0	1.0	1.5	2.6	67.5	15.1	21.8
プロセック	10,297	26.2	9.1	18.0	11.6	13.0	7.3	1.9	0.6	0.5	0.4	0.1	0.1	11.2	62.6	4.5	6.3
東	2,476	16.6	6.7	17.0	13.2	17.6	13.4	3.8	1.4	0.9	0.6	0.4	0.2	8.1	75.4	7.1	8.7
北	3,199	37.0	11.2	20.6	12.9	11.6	3.8	0.8	0.2	0.1	0.2	-	0.1	1.4	61.6	2.7	4.3
東	342	48.8	7.3	9.9	9.9	13.7	7.6	1.2	-	0.9	-	0.3	0.3	-	51.2	3.8	7.4
北	900	44.2	8.0	15.2	8.3	10.1	7.9	1.8	0.2	0.7	0.7	-	0.3	2.6	53.2	4.3	7.8
東	562	27.4	10.7	5.9	2.0	2.5	1.4	0.4	0.2	0.2	0.4	-	0.2	48.9	23.7	2.5	5.3
近	747	-	7.4	11.6	7.0	10.3	7.5	1.7	-	-	0.1	-	-	54.4	45.6	5.7	5.7
中	402	21.9	18.4	21.6	6.5	4.7	2.0	0.5	-	0.2	-	-	-	24.1	54.0	1.9	2.7
四	402	21.9	18.4	21.6	6.5	4.7	2.0	0.5	-	0.2	-	-	-	24.1	54.0	1.9	2.7
九	1,669	17.7	7.5	23.8	15.6	17.2	7.5	2.1	1.0	0.6	0.5	0.1	0.1	6.3	76.0	5.0	6.2
経産牛飼養頭数(全国)																	
5頭未満	282	41.1	18.1	16.3	3.2	1.8	1.8	-	-	-	-	-	-	17.7	41.1	0.9	1.9
10頭未満	792	32.2	18.9	18.6	6.6	4.9	1.4	0.1	0.1	-	-	-	-	17.2	50.6	1.4	2.3
20頭未満	2,191	29.6	13.6	21.6	9.7	8.3	3.2	0.7	0.4	0.2	0.1	0.0	-	12.5	57.9	2.5	3.8
30頭未満	2,554	27.3	7.7	20.0	13.6	13.4	6.5	1.6	0.5	0.4	0.2	0.1	0.0	8.6	64.1	3.9	5.6
40頭未満	2,533	24.4	5.1	14.3	13.1	16.9	12.9	3.6	0.8	0.4	0.6	0.2	0.2	7.7	67.9	6.1	8.3
50頭未満	2,091	27.5	2.9	11.4	10.5	18.0	15.7	5.4	2.2	1.0	0.8	0.1	0.0	4.5	67.9	7.3	10.3
75頭未満	3,076	30.3	2.0	6.3	6.6	14.9	18.6	8.5	4.0	2.1	1.4	0.3	0.2	4.8	64.9	9.9	14.5
100頭未満	1,198	27.1	0.9	3.8	5.6	15.0	19.8	10.6	5.0	3.9	2.4	1.1	0.5	4.2	68.7	13.4	18.6
150頭未満	899	24.2	0.7	3.2	5.7	13.0	20.1	10.7	6.7	4.9	4.3	1.7	1.1	3.7	72.1	17.4	23.3
150頭以上	664	18.1	0.8	2.4	2.9	8.0	11.7	11.7	7.5	6.3	10.2	4.1	11.1	5.1	76.8	42.2	52.1
無回答	103	3.9	-	1.9	4.9	4.9	1.9	1.9	-	1.0	2.9	-	-	76.7	19.4	14.5	17.5
経産牛飼養頭数(北海道)																	
5頭未満	18	61.1	11.1	16.7	-	-	11.1	-	-	-	-	-	-	-	38.9	1.6	4.1
10頭未満	41	34.1	9.8	7.3	17.1	19.5	-	-	-	-	-	-	-	12.2	53.7	2.4	3.9
20頭未満	147	36.1	0.7	8.2	11.6	22.4	8.8	4.1	2.7	0.7	-	-	-	4.8	59.2	5.8	9.3
30頭未満	325	32.6	-	7.4	12.3	18.2	17.8	6.2	1.2	1.5	0.6	0.3	-	1.8	65.5	7.4	11.1
40頭未満	708	30.6	0.8	4.8	8.3	19.8	20.8	8.6	1.8	0.7	0.7	-	0.6	2.4	66.9	9.0	13.1
50頭未満	961	36.0	0.3	4.4	6.6	14.4	22.1	7.5	4.0	1.7	1.6	0.1	0.1	1.5	62.5	9.5	14.9
75頭未満	1,948	32.8	0.4	2.8	4.2	13.6	22.1	11.3	5.5	2.8	2.0	0.5	0.1	2.0	65.2	11.7	17.6
100頭未満	828	28.1	0.4	2.3	3.3	13.9	20.7	13.0	6.6	5.0	2.9	1.4	0.5	1.9	69.9	15.0	21.1
150頭未満	626	23.5	0.5	1.8	3.2	10.5	22.4	12.9	8.8	6.1	5.8	2.2	1.3	1.1	75.4	20.5	26.9
150頭以上	435	11.7	0.5	0.9	0.7	4.4	12.0	14.3	10.1	8.0	13.3	5.7	16.3	2.1	86.2	55.7	63.3
無回答	49	-	-	-	2.0	2.0	4.1	4.1	-	-	6.1	-	-	81.6	18.4	28.6	28.6
経産牛飼養頭数(都府県)																	
5頭未満	264	39.8	18.6	16.3	3.4	1.9	1.1	-	-	-	-	-	-	18.9	41.3	0.9	1.7
10頭未満	751	32.1	19.4	19.2	6.0	4.1	1.5	0.1	0.1	-	-	-	-	17.4	50.5	1.4	2.2
20頭未満	2,044	29.2	14.6	22.6	9.6	7.2	2.8	0.5	0.2	0.1	0.1	0.0	-	13.0	57.8	2.3	3.4
30頭未満	2,229	26.5	8.8	21.8	13.8	12.7	4.8	1.0	0.4	0.2	0.2	0.1	0.0	9.6	63.9	3.4	4.8
40頭未満	1,825	22.0	6.7	18.0	15.0	15.8	9.8	1.6	0.3	0.3	0.5	0.2	0.1	9.7	68.3	4.9	6.5
50頭未満	1,130	20.4	5.0	17.3	13.8	21.2	10.3	3.5	0.6	0.4	0.2	0.1	-	7.2	72.5	5.4	6.9
75頭未満	1,128	26.1	4.8	12.2	10.8	17.2	12.7	3.6	1.4	0.9	0.4	-	0.3	9.7	64.3	6.4	9.0
100頭未満	370	24.9	2.2	7.3	10.8	17.6	17.8	5.1	1.4	1.6	1.4	0.3	0.5	9.2	65.9	9.3	12.8
150頭未満	273	26.0	1.1	6.6	11.4	18.7	15.0	5.5	1.8	2.2	1.1	0.4	0.7	9.5	64.5	9.7	13.6
150頭以上	229	30.1	1.3	5.2	7.0	14.8	11.4	7.0	2.6	3.1	4.4	0.9	1.3	10.9	59.0	14.0	21.2
無回答	54	7.4	-	3.7	7.4	7.4	-	-	-	-	1.9	-	-	72.2	20.4	6.1	8.3

<推定値>借地率

飼料作物作付地の借地率（飼料作物作付面積に占める借地面積の割合）は、本年度の調査結果に基づき次式により推定した。

$$\text{借地率} = \text{『借地面積』} \div \text{『飼料作物作付面積』}$$

◆全体としてみると、『借地面積』又は『飼料作物作付面積』の無回答が16.8%あり、残る83.2%のうち20%未満（0%を含む）が30.3%、20～60%未満が29.2%、60%以上が23.9%という構成になっており、平均借地率（『0%含む平均』）は29.0%であった。

◆地域間で平均借地率（『0%含む平均』）を比較すると、北海道・都府県間の差異が大きく、都府県（56.8%）は北海道（23.7%）を2倍以上上回った。また、都府県では、平均借地率（『0%含む平均』）は中国（69.6%）、北陸（63.0%）、東海（60.9%）が高かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、都府県では、規模の増大に伴い平均借地率（『0%含む平均』）が上昇するという傾向がみられた。これに対して、北海道では、該当経営数の少ない「5頭未満」を除くと、50～75頭未満層までは規模の増大に伴って平均借地率（『0%含む平均』）が低下しており、同層を超えてからは上昇傾向へと転じている。また、全ての規模階層で、都府県の平均借地率（『0%含む平均』）は北海道の平均借地率（『0%含む平均』）の2～3倍であった。

II (4) iii) 借地率<借地面積/牧草・飼料作物作付地>

	酪農家数	[単位: 戸、%]													有効回答平均 (0%含む)	平均 (0%除く)
		0%	を10%未満(ゼロを除く)	10%未満	20%未満	30%未満	40%未満	50%未満	60%未満	70%未満	80%未満	90%未満	100%未満	100%以上		
全	16,383	18.8	3.8	7.7	8.0	6.4	6.5	8.3	6.7	5.5	5.6	3.1	3.0	16.8	29.0	38.6
北海道	6,086	29.5	8.6	15.9	13.5	8.6	7.0	5.5	2.9	2.0	1.5	0.8	1.3	3.0	23.7	32.9
都府県計	10,297	12.4	0.9	2.8	4.7	5.1	6.3	9.9	9.0	7.5	8.0	4.4	4.1	24.9	56.8	63.1
東北	2,476	13.0	1.3	3.5	5.9	6.5	8.3	12.1	10.5	9.8	8.6	4.6	4.2	11.6	55.1	60.2
関東	3,199	16.2	0.6	2.9	4.8	5.0	6.6	10.2	9.2	7.4	8.1	3.9	2.9	22.2	55.5	62.9
北陸	342	14.9	1.8	-	1.2	5.0	2.6	5.6	3.5	4.7	8.8	6.7	11.4	33.9	63.0	69.5
東海	900	13.4	0.4	1.3	2.7	3.6	3.2	8.2	6.6	4.2	9.2	7.3	6.4	33.3	60.9	73.0
近畿	562	10.0	0.5	1.2	2.8	2.7	2.3	3.2	3.4	1.4	1.8	1.4	2.8	66.4	51.1	70.5
中国	747	-	0.4	1.2	2.8	2.0	4.4	7.0	6.7	6.4	6.6	3.3	4.8	54.4	69.6	69.6
四国	402	12.9	0.5	3.5	4.5	4.5	5.5	8.0	7.2	6.0	5.5	3.5	5.5	33.1	53.0	61.6
九州	1,669	9.4	1.6	4.0	6.2	6.1	7.5	12.0	12.0	9.6	9.2	4.8	3.1	14.6	57.2	62.5
経産牛飼養頭数(全国)																
5頭未満	282	24.8	2.5	3.2	4.3	5.3	3.2	7.8	5.3	2.8	2.8	0.7	3.2	34.0	29.6	42.7
10頭未満	792	21.3	1.5	3.8	6.2	4.9	5.6	7.8	8.3	4.4	3.7	1.1	3.3	28.0	39.6	51.9
20頭未満	2,191	15.7	1.1	3.3	6.0	5.5	6.8	9.9	7.6	5.9	5.6	2.5	3.6	26.4	43.1	53.9
30頭未満	2,554	15.5	1.4	4.7	5.3	4.7	6.7	10.0	9.6	7.1	6.9	3.6	4.3	20.4	40.4	51.5
40頭未満	2,533	15.6	2.7	6.5	7.3	6.8	6.6	9.4	7.3	6.8	7.3	4.3	3.1	16.5	34.0	44.7
50頭未満	2,091	21.2	4.4	7.8	7.8	6.9	6.9	8.1	7.4	5.6	6.5	3.4	2.9	10.9	26.2	38.3
75頭未満	3,076	24.2	6.0	11.5	10.1	7.0	5.8	6.6	4.7	4.2	4.5	2.5	1.9	10.9	22.7	32.9
100頭未満	1,198	22.5	7.4	12.2	11.5	7.3	6.6	6.5	3.7	4.8	3.8	2.6	2.3	8.8	24.5	33.6
150頭未満	899	19.1	8.6	13.3	12.0	7.7	7.9	6.0	4.2	3.2	3.7	3.6	1.9	8.8	25.7	33.0
150頭以上	664	10.2	4.1	11.3	10.4	8.9	9.0	7.7	5.4	4.8	6.6	3.9	4.7	13.0	40.9	45.6
無回答	103	1.9	-	1.9	3.9	1.0	1.0	1.9	4.9	1.0	-	1.9	1.9	78.6	49.4	49.9
経産牛飼養頭数(北海道)																
5頭未満	18	44.4	5.6	5.6	5.6	5.6	11.1	5.6	-	-	-	-	-	16.7	12.2	19.5
10頭未満	41	34.1	2.4	7.3	7.3	4.9	12.2	9.8	-	4.9	2.4	-	2.4	12.2	23.5	41.5
20頭未満	147	36.1	2.7	11.6	12.2	3.4	8.2	4.8	7.5	2.0	1.4	1.4	4.1	4.8	22.8	36.3
30頭未満	325	32.0	4.3	19.4	11.7	6.2	5.2	6.8	4.3	3.4	1.8	0.9	1.5	2.5	23.7	35.3
40頭未満	708	30.6	7.3	16.0	12.3	10.2	6.8	5.4	2.5	2.3	1.7	0.6	2.0	2.4	22.3	32.8
50頭未満	961	35.5	8.7	14.3	11.8	9.2	6.3	4.4	2.5	2.1	1.1	1.0	1.1	2.0	19.4	30.7
75頭未満	1,948	32.4	9.2	15.9	14.1	8.2	5.6	5.5	2.8	1.4	1.1	0.6	0.7	2.3	19.2	28.9
100頭未満	828	28.0	10.5	16.8	15.3	8.2	7.5	4.5	2.3	2.1	1.3	0.5	1.0	2.1	21.2	29.7
150頭未満	626	23.2	12.0	18.4	15.2	9.1	8.8	6.1	2.1	1.1	1.4	0.8	0.5	1.4	23.1	30.0
150頭以上	435	11.5	5.7	16.3	14.0	11.5	12.0	8.0	5.3	3.2	4.4	2.1	3.7	2.3	39.2	43.6
無回答	49	-	-	2.0	6.1	2.0	-	-	2.0	2.0	-	2.0	2.0	81.6	47.1	47.1
経産牛飼養頭数(都府県)																
5頭未満	264	23.5	2.3	3.0	4.2	5.3	2.7	8.0	5.7	3.0	3.0	0.8	3.4	35.2	38.2	52.5
10頭未満	751	20.6	1.5	3.6	6.1	4.9	5.2	7.7	8.8	4.4	3.7	1.2	3.3	28.9	42.6	53.3
20頭未満	2,044	14.2	1.0	2.7	5.6	5.6	6.7	10.3	7.6	6.2	5.9	2.6	3.6	28.0	52.4	59.7
30頭未満	2,229	13.1	0.9	2.6	4.4	4.5	6.9	10.5	10.3	7.6	7.6	3.9	4.7	23.0	53.3	61.2
40頭未満	1,825	9.8	0.9	2.8	5.4	5.5	6.5	10.9	9.2	8.6	9.4	5.7	3.5	21.9	56.6	61.9
50頭未満	1,130	9.1	0.8	2.4	4.5	5.0	7.4	11.2	11.6	8.7	11.0	5.4	4.4	18.4	58.4	62.7
75頭未満	1,128	10.0	0.5	4.0	3.3	4.9	5.9	8.5	8.2	9.0	10.3	5.9	3.9	25.7	58.1	62.8
100頭未満	370	10.0	0.5	1.9	3.0	5.4	4.6	11.1	6.8	11.1	9.2	7.3	5.1	24.1	62.0	68.8
150頭未満	273	9.9	0.7	1.8	4.8	4.4	5.9	9.2	8.1	8.8	9.9	5.1	25.6	62.6	70.0	
150頭以上	229	7.9	0.9	1.7	3.5	3.9	3.5	7.0	5.7	7.9	10.9	7.4	6.6	33.2	65.6	72.4
無回答	54	3.7	-	1.9	1.9	-	1.9	3.7	7.4	-	-	1.9	1.9	75.9	57.3	60.0

# 10 搾乳牛舎の築年数

◆全体としては、30年未満が31.1%、30年～40年未満が32.2%、40年以上が33.2%とそれぞれ3割強であった。

また、平均築年数（『0年含む平均』）は32.0年であった。

◆地域間で平均築年数（『0年含む平均』）を比較すると、近畿（36.4年）、北陸（35.0年）、中国（34.7年）、四国（34.5年）がやや長く、北海道（28.7年）、九州（30.5年）がやや短かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、平均築年数（『0年含む平均』）は、北海道、都府県ともに規模の増大に伴って急速に低下するという傾向がみられた。また、経産牛飼養規模別に北海道・都府県間で平均築年数（『0年含む平均』）を比較すると、30頭未満の階層ではほぼ同年数、30～100頭未満の階層では北海道、100頭以上の階層では都府県の方が築年数が長かった。

II (5) 搾乳牛舎築年数

		[単位：戸、年]											
		酪農家数	1 5 年 未 満	2 1 0 年 未 満	3 2 0 年 未 満	4 3 0 年 未 満	5 4 0 年 未 満	6 5 0 年 未 満	7 5 0 年 以 上	8 無 回 答	有 効 回 答 平 均 ( 0 含 む)	平 均 ( 0 除 く)	
全 体		16,383	2.2	3.7	11.7	13.5	32.2	26.8	6.4	3.5	32.0	32.0	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	3.5	5.3	15.3	11.9	29.9	25.4	5.7	3.2	28.7	28.8	
	(都府県計)	10,297	1.4	2.8	9.6	14.4	33.6	27.6	6.9	3.7	33.2	33.3	
	東 北	2,476	1.3	2.7	9.1	16.4	33.4	24.6	8.0	4.5	32.6	32.6	
	関 東	3,199	1.4	2.7	9.7	13.9	35.8	29.7	6.4	0.5	33.6	33.6	
	北 陸	342	0.6	1.5	5.8	9.6	44.2	33.6	4.4	0.3	35.0	35.0	
	東 海	900	1.4	1.7	8.9	13.7	37.1	29.2	7.0	1.0	34.1	34.5	
	近 畿	562	1.1	0.7	3.6	10.7	22.2	30.4	7.5	23.8	36.3	36.4	
	中 国	747	1.5	3.3	9.4	13.9	26.5	29.7	8.6	7.1	34.7	34.8	
	四 国	402	1.7	2.0	8.5	10.7	33.1	27.1	9.7	7.2	34.5	34.7	
九 州	1,669	1.8	4.7	13.7	16.1	33.1	24.3	4.9	1.4	30.5	30.5		
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	1.4	1.1	2.5	6.4	24.8	32.6	22.0	9.2	39.2	39.4	
	10 頭 未 満	792	0.5	0.6	2.3	8.0	29.3	34.2	18.3	6.8	38.4	38.4	
	20 頭 未 満	2,191	0.8	0.7	3.5	11.5	34.8	33.5	11.1	4.1	36.0	36.0	
	30 頭 未 満	2,554	0.6	1.1	4.5	14.0	38.3	32.2	6.4	3.0	34.5	34.6	
	40 頭 未 満	2,533	0.9	1.4	5.7	14.2	40.4	28.8	5.8	2.8	33.7	33.7	
	50 頭 未 満	2,091	1.2	2.1	6.9	13.2	38.6	30.5	5.0	2.5	32.8	32.9	
	75 頭 未 満	3,076	3.1	4.7	14.0	13.0	32.4	25.8	4.6	2.5	27.2	27.3	
	100 頭 未 満	1,198	5.2	10.9	26.2	14.7	22.0	16.6	2.4	2.0	20.3	20.3	
	150 頭 未 満	899	6.9	12.5	38.8	18.1	11.5	9.6	1.3	1.3	15.3	15.3	
	150 頭 以 上	664	7.4	13.9	48.3	21.1	5.3	2.4	0.6	1.1	14.6	14.6	
無 回 答	103	-	1.0	-	3.9	7.8	6.8	1.9	78.6	33.0	33.0		
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	-	-	-	33.3	38.9	22.2	5.6	40.4	40.4	
	10 頭 未 満	41	-	4.9	-	14.6	19.5	31.7	22.0	7.3	38.6	38.6	
	20 頭 未 満	147	-	2.0	2.0	9.5	33.3	33.3	15.6	4.1	36.6	36.6	
	30 頭 未 満	325	1.8	0.9	3.1	9.8	36.3	34.2	9.8	4.0	35.0	35.2	
	40 頭 未 満	708	0.6	0.6	4.5	9.3	38.6	35.2	8.6	2.7	35.5	35.5	
	50 頭 未 満	961	1.0	0.7	5.0	9.8	40.3	34.2	6.5	2.5	34.9	34.9	
	75 頭 未 満	1,948	2.7	3.1	10.4	10.7	35.0	29.1	6.1	2.9	29.2	29.3	
	100 頭 未 満	828	6.2	11.0	23.4	13.3	23.1	18.4	2.8	1.9	20.0	20.0	
	150 頭 未 満	626	7.7	13.3	37.5	16.8	12.5	9.6	1.4	1.3	14.4	14.4	
	150 頭 以 上	435	9.4	15.4	47.6	20.0	5.1	1.1	0.5	0.9	13.0	13.0	
無 回 答	49	-	-	-	2.0	8.2	4.1	2.0	83.7	33.5	33.5		
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	1.5	1.1	2.7	6.8	24.2	32.2	22.0	9.5	39.2	39.4	
	10 頭 未 満	751	0.5	0.4	2.4	7.6	29.8	34.4	18.1	6.8	38.4	38.4	
	20 頭 未 満	2,044	0.9	0.6	3.6	11.6	34.9	33.5	10.8	4.1	36.0	36.0	
	30 頭 未 満	2,229	0.4	1.1	4.7	14.6	38.5	31.9	5.9	2.9	34.4	34.5	
	40 頭 未 満	1,825	1.0	1.8	6.2	16.1	41.2	26.3	4.7	2.8	33.0	33.0	
	50 頭 未 満	1,130	1.4	3.2	8.5	16.2	37.3	27.3	3.7	2.5	31.3	31.5	
	75 頭 未 満	1,128	3.6	7.4	20.3	16.9	28.0	20.1	1.9	1.7	24.8	24.9	
	100 頭 未 満	370	3.0	10.5	32.4	17.8	19.7	12.7	1.6	2.2	20.8	20.8	
	150 頭 未 満	273	5.1	10.6	41.8	21.2	9.2	9.5	1.1	1.5	18.0	18.0	
	150 頭 以 上	229	3.5	10.9	49.8	23.1	5.7	4.8	0.9	1.3	17.5	17.5	
無 回 答	54	-	1.9	-	5.6	7.4	9.3	1.9	74.1	32.8	32.8		

## 1 1 搾乳牛舎の空きスペース

### (1) 空きスペースの有無

◆全体としてみると、空きスペースが『ある』経営は52.3%であった。

◆地域別には、空きスペースが『ある』という経営は、北海道(38.8%)よりも都府県(60.2%)に多かった。また、都府県で空きスペースが『ある』という経営は、とりわけ北陸(69.3%)、関東(66.1%)、東海(64.1%)に多かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、北海道、都府県の双方について、空きスペースが『ある』経営の割合はおおむね規模の拡大に伴い低下するという傾向がみられた。ただし、北海道では、50頭以上になると、空きスペースが『ある』経営の割合に大きな差異はみられなかった。

II (6) 搾乳牛舎の空きスペース

[単位：戸、%]

		酪農家数	1	2	3
			ない	ある	無回答
全 体		16,383	46.0	52.3	1.8
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	59.7	38.8	1.5
	(都府県計)	10,297	37.8	60.2	2.0
	東 北	2,476	42.2	56.3	1.4
	関 東	3,199	33.8	66.1	0.2
	北 陸	342	30.7	69.3	-
	東 海	900	34.6	64.1	1.3
	近 畿	562	26.5	53.0	20.5
	中 国	747	41.9	58.1	-
	四 国	402	42.0	53.2	4.7
九 州	1,669	43.1	56.0	0.9	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	22.0	75.2	2.8
	10 頭 未 満	792	21.0	75.9	3.2
	20 頭 未 満	2,191	24.5	73.2	2.4
	30 頭 未 満	2,554	30.0	68.6	1.4
	40 頭 未 満	2,533	45.0	53.9	1.1
	50 頭 未 満	2,091	53.3	45.5	1.1
	75 頭 未 満	3,076	62.2	36.9	0.8
	100 頭 未 満	1,198	63.4	35.9	0.8
	150 頭 未 満	899	67.7	31.7	0.6
	150 頭 以 上	664	68.1	31.5	0.5
無 回 答	103	7.8	18.4	73.8	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	27.8	72.2	-
	10 頭 未 満	41	19.5	75.6	4.9
	20 頭 未 満	147	32.7	65.3	2.0
	30 頭 未 満	325	37.2	60.6	2.2
	40 頭 未 満	708	47.6	51.6	0.8
	50 頭 未 満	961	56.7	42.1	1.1
	75 頭 未 満	1,948	67.0	32.3	0.7
	100 頭 未 満	828	66.5	32.9	0.6
	150 頭 未 満	626	66.0	33.7	0.3
	150 頭 以 上	435	68.5	31.3	0.2
無 回 答	49	8.2	10.2	81.6	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	21.6	75.4	3.0
	10 頭 未 満	751	21.0	75.9	3.1
	20 頭 未 満	2,044	23.9	73.7	2.4
	30 頭 未 満	2,229	29.0	69.8	1.3
	40 頭 未 満	1,825	44.0	54.8	1.2
	50 頭 未 満	1,130	50.4	48.4	1.2
	75 頭 未 満	1,128	54.0	44.9	1.2
	100 頭 未 満	370	56.2	42.7	1.1
	150 頭 未 満	273	71.8	27.1	1.1
	150 頭 以 上	229	67.2	31.9	0.9
無 回 答	54	7.4	25.9	66.7	

## (2) 空きスペースの収容頭数

◆搾乳牛舎に空きスペースが『ある』経営について、そのスペース（収容可能頭数）を調べると、全体的には『5頭未満』が30.4%、『5～10頭未満』が26.3%、『10～20頭未満』が27.3%とそれぞれ3割前後ずつ、20頭以上が1割強を占めており、平均収容可能頭数は10.2頭という状況であった。

◆これを地域別にみると、四国では、空きスペース5頭未満の割合（22.4%）が9地域の中で最も低かった。また、東海、北海道で、空きスペース20頭以上の割合（東海20.2%、北海道18.2%）がやや高く、平均収容可能頭数（東海11.4頭、北海道11.8頭）もやや多かった。一方、東北、北陸は、空きスペース5頭未満の割合（東北42.6%、北陸39.2%）が他地域より高く、平均収容可能頭数（東北7.5頭、北陸8.2頭）も他地域に比べて少なかった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道では「40～50頭未満」、都府県では「30～40頭未満」までは、規模の拡大に伴って空きスペース20頭以上の割合と平均収容可能頭数が減少し、これらの階層を超えると逆に増加に転ずるという傾向をみせた。また、各規模階層ごとに、空きスペース20頭以上の割合、平均収容可能頭数を北海道・都府県間で比較すると、40頭未満層では北海道、40頭以上層では都府県の方が両指標の値が高かった。

Ⅱ(6) 空きスペース収容頭数

[単位：戸、頭]

	酪農家数	1 5 頭 未 満	2 5 ～ 1 0 頭 未 満	3 1 0 ～ 2 0 頭 未 満	4 2 0 ～ 3 0 頭 未 満	5 3 0 ～ 4 0 頭 未 満	6 4 0 ～ 5 0 頭 未 満	7 1 5 0 ～ 0 頭 未 満	8 1 0 0 頭 以 上	9 無 回 答	有効回答平均 (0含む)
全 体	8,564	30.4	26.3	27.3	8.6	3.2	1.1	1.4	0.4	1.4	10.2
北海道 (都府県計)	2,361 6,203	27.4 31.5	24.6 26.9	28.7 26.7	9.3 8.4	4.1 2.8	1.9 0.8	2.1 1.1	0.8 0.3	1.1 1.5	11.8 9.6
東北	1,395	42.6	26.2	20.9	5.2	1.6	0.6	0.6	0.1	2.3	7.5
関東	2,113	27.0	28.1	30.0	9.0	3.7	0.7	1.2	0.3	0.0	10.4
北陸	237	39.2	25.3	24.5	8.4	1.3	0.4	0.8	-	-	8.2
東海	577	26.7	22.4	27.2	12.5	4.7	1.0	1.7	0.3	3.5	11.4
近畿	298	24.2	26.8	33.2	9.4	1.7	0.3	0.3	0.3	3.7	9.7
中国	434	29.0	29.0	27.4	9.2	3.2	0.2	1.6	0.2	-	10.4
四国	214	22.4	31.3	30.8	5.6	2.8	1.9	-	0.5	4.7	9.8
九州	935	31.8	26.8	24.9	9.1	2.1	1.4	1.7	0.4	1.7	9.9
経産牛飼養頭数(全国)											
5頭未満	212	34.9	22.6	23.6	9.0	3.3	2.4	0.5	-	3.8	9.9
10頭未満	601	31.9	26.3	27.5	8.2	2.8	1.0	0.2	0.2	2.0	9.3
20頭未満	1,603	28.4	28.5	27.9	8.5	2.9	0.9	0.6	0.1	2.2	9.7
30頭未満	1,752	34.5	28.9	26.1	6.3	1.9	0.6	0.5	0.1	1.0	8.3
40頭未満	1,365	36.8	29.9	23.7	6.1	1.8	0.4	0.7	0.1	0.7	7.9
50頭未満	952	36.0	28.6	26.2	5.1	1.8	0.3	0.5	-	1.5	7.8
75頭未満	1,136	27.9	26.1	28.9	10.0	3.3	1.0	1.5	0.3	1.1	10.1
100頭未満	430	16.0	15.3	38.1	18.1	5.3	3.0	3.0	0.2	0.7	13.9
150頭未満	285	10.2	9.8	37.2	19.3	13.7	3.5	4.9	1.1	0.4	18.7
150頭以上	209	2.9	4.8	18.7	20.6	12.9	7.2	19.6	12.0	1.4	40.9
無回答	19	47.4	10.5	26.3	5.3	-	-	5.3	-	5.3	9.7
経産牛飼養頭数(北海道)											
5頭未満	13	30.8	7.7	15.4	7.7	7.7	15.4	7.7	-	7.7	19.6
10頭未満	31	45.2	22.6	6.5	3.2	6.5	12.9	-	-	3.2	12.1
20頭未満	96	25.0	30.2	26.0	9.4	3.1	2.1	1.0	-	3.1	10.3
30頭未満	197	32.5	22.3	32.5	9.1	1.0	1.0	1.0	-	0.5	9.0
40頭未満	365	30.7	34.5	24.7	6.6	1.9	0.5	0.5	-	0.5	8.1
50頭未満	405	38.0	30.1	24.4	4.0	1.2	0.2	0.5	-	1.5	7.2
75頭未満	630	31.0	28.6	28.3	6.7	2.7	0.5	1.0	0.2	1.3	8.8
100頭未満	272	19.5	14.7	39.0	14.7	5.1	3.7	2.6	-	0.7	13.1
150頭未満	211	10.0	10.9	38.9	19.0	13.3	4.3	1.9	1.4	0.5	17.6
150頭以上	136	2.2	6.6	19.9	20.6	12.5	8.1	17.6	11.8	0.7	41.3
無回答	5	40.0	-	60.0	-	-	-	-	-	-	8.2
経産牛飼養頭数(都府県)											
5頭未満	199	35.2	23.6	24.1	9.0	3.0	1.5	-	-	3.5	9.2
10頭未満	570	31.2	26.5	28.6	8.4	2.6	0.4	0.2	0.2	1.9	9.2
20頭未満	1,507	28.7	28.4	28.0	8.5	2.9	0.9	0.5	0.1	2.1	9.7
30頭未満	1,555	34.7	29.8	25.3	6.0	2.1	0.6	0.4	0.1	1.1	8.2
40頭未満	1,000	39.0	28.2	23.3	5.9	1.7	0.4	0.7	0.1	0.7	7.8
50頭未満	547	34.6	27.4	27.4	6.0	2.2	0.4	0.5	-	1.5	8.2
75頭未満	506	24.1	22.9	29.6	14.2	4.2	1.6	2.2	0.4	0.8	11.8
100頭未満	158	10.1	16.5	36.7	24.1	5.7	1.9	3.8	0.6	0.6	15.4
150頭未満	74	10.8	6.8	32.4	20.3	14.9	1.4	13.5	-	-	21.6
150頭以上	73	4.1	1.4	16.4	20.5	13.7	5.5	23.3	12.3	2.7	39.9
無回答	14	50.0	14.3	14.3	7.1	-	-	7.1	-	7.1	10.2

## 1 2 TMR センターの利用状況

◆TMR センターを『(現在) 利用している』経営は全酪農経営の 11.7%、『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という経営が 6.0%ある。

◆地域別にみると、『(現在) 利用している』という割合は僅かながら東海 (13.9%)、関東 (13.6%) で高く、『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という割合は中国 (19.9%) で高かった。また、『利用していない』という割合は、他地域に比べて北陸 (86.5%) で高かった。

◆経産牛飼養規模別には次のような傾向がみられた。『(現在) 利用している』割合は、北海道、都府県の双方で、100 頭未満層までは規模の増大に伴い増加するが、この規模を超えると逆に減少して行くという傾向をみせた。『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という割合は、北海道では、150 頭未満層までは規模の増大に伴い概ね増加、この規模を超えると逆に漸減へと転じた。都府県では、50 頭未満層までは規模の増大に伴い概ね増加し、50～150 頭未満までは規模の増大に伴い漸減するという変化をみせたが、150 頭規模を超えると一転して大きく跳ね上がっている。

II (7) TMRセンターの利用状況

[単位:戸、%]

	酪農家数	1	2	3	4	
		利用している	利用していない	今後利用したい	無回答	
全 体	16,383	11.7	80.3	6.0	2.0	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	11.1	81.1	7.0	0.8
	(都府県計)	10,297	12.0	79.8	5.5	2.7
	東 北	2,476	11.2	82.6	4.0	2.1
	関 東	3,199	13.6	82.2	3.9	0.3
	北 陸	342	8.2	86.5	5.0	0.3
	東 海	900	13.9	78.1	5.8	2.2
	近 畿	562	7.8	69.0	2.8	20.3
	中 国	747	9.5	64.8	19.9	5.8
	四 国 九 州	402 1,669	10.7 12.8	82.8 80.2	3.5 5.3	3.0 1.7
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	9.9	81.9	2.5	5.7
	10 頭 未 満	792	9.3	82.1	2.9	5.7
	20 頭 未 満	2,191	9.4	83.9	3.7	3.0
	30 頭 未 満	2,554	10.3	82.7	4.9	2.1
	40 頭 未 満	2,533	11.4	81.0	6.3	1.3
	50 頭 未 満	2,091	12.2	79.6	7.5	0.7
	75 頭 未 満	3,076	12.6	79.5	7.3	0.6
	100 頭 未 満	1,198	16.1	76.1	7.3	0.4
	150 頭 未 満	899	14.6	77.6	7.2	0.6
	150 頭 以 上	664	13.0	78.5	8.3	0.3
無 回 答	103	1.9	27.2	1.9	68.9	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	100.0	-	-
	10 頭 未 満	41	4.9	87.8	4.9	2.4
	20 頭 未 満	147	2.7	93.2	2.7	1.4
	30 頭 未 満	325	4.3	91.4	4.0	0.3
	40 頭 未 満	708	8.6	85.3	5.9	0.1
	50 頭 未 満	961	10.4	82.4	7.1	0.1
	75 頭 未 満	1,948	11.5	80.9	7.5	0.1
	100 頭 未 満	828	14.7	77.5	7.6	0.1
	150 頭 未 満	626	14.4	77.2	8.3	0.2
	150 頭 以 上	435	13.8	78.4	7.8	-
無 回 答	49	-	22.4	2.0	75.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	10.6	80.7	2.7	6.1
	10 頭 未 満	751	9.6	81.8	2.8	5.9
	20 頭 未 満	2,044	9.9	83.3	3.7	3.1
	30 頭 未 満	2,229	11.2	81.5	5.0	2.3
	40 頭 未 満	1,825	12.4	79.3	6.5	1.8
	50 頭 未 満	1,130	13.8	77.2	7.9	1.2
	75 頭 未 満	1,128	14.5	77.0	7.1	1.4
	100 頭 未 満	370	19.2	73.0	6.8	1.1
	150 頭 未 満	273	15.0	78.8	4.8	1.5
	150 頭 以 上	229	11.4	78.6	9.2	0.9
無 回 答	54	3.7	31.5	1.9	63.0	

### 13 コントラクターの利用状況

◆コントラクターを『(現在) 利用している』経営は全酪農経営の25.0%、その他に『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という経営が6.0%ある。

◆地域別にみると、『(現在) 利用している』割合は、北海道(48.5%)が都府県(11.1%)を大きく上回っている。都府県では、九州(19.2%)、中国(17.1%)がやや高く、近畿(2.8%)、東海(5.3%)、北陸(6.4%)が特に低かった。また、『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という割合は、他地域に比べて中国(17.3%)が高かった。

◆経産牛飼養規模別には次のような傾向がみられた。『(現在) 利用している』割合は、概ね規模の増大に伴い増加するという傾向をみせた。ただし、北海道では、150頭以上においてこの割合がやや低下している。また、『(現在) 利用している』割合は、全ての規模階層において北海道が都府県を上回っているという点も目を引いた。

『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という割合は、北海道では、30~75頭未満の規模層で比較的高かった。一方、都府県では、40頭未満層までは概ね規模の増大に伴い増加するが、この規模を超えると規模が増大してもあまり変化しないという傾向がみられた。また、『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という割合は、10頭以上の全ての階層で都府県が北海道を上回った。

II (8) 農作業受託組織(コントラクター)の利用状況

[単位:戸、%]

		酪農家数	1 利用 している	2 利用 してい ない	3 今後 利用し たい	4 無回 答
全 体		16,383	25.0	67.0	6.0	2.1
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	48.5	44.9	5.8	0.8
	(都府県計)	10,297	11.1	80.0	6.1	2.8
	東 北	2,476	10.6	82.4	4.5	2.5
	関 東	3,199	9.5	83.9	6.2	0.4
	北 陸	342	6.4	89.5	3.8	0.3
	東 海	900	5.3	86.3	6.2	2.1
	近 畿	562	2.8	72.4	3.7	21.0
	中 国	747	17.1	60.0	17.3	5.6
	四 国 九 州	402 1,669	9.0 19.2	83.1 74.5	4.7 4.8	3.2 1.4
経 産 牛 飼 養 頭 数 (全 国)	5 頭 未 満	282	5.0	85.5	2.5	7.1
	10 頭 未 満	792	6.8	86.2	1.8	5.2
	20 頭 未 満	2,191	7.9	85.2	3.9	3.1
	30 頭 未 満	2,554	11.7	81.0	5.4	1.9
	40 頭 未 満	2,533	19.0	71.8	7.6	1.7
	50 頭 未 満	2,091	27.2	64.3	7.6	0.9
	75 頭 未 満	3,076	36.3	55.8	7.3	0.7
	100 頭 未 満	1,198	49.2	44.2	6.2	0.5
	150 頭 未 満	899	51.4	42.5	5.7	0.4
	150 頭 以上 無 回 答	664 103	49.2 4.9	45.0 24.3	5.1 1.9	0.6 68.9
経 産 牛 飼 養 頭 数 (北 海 道)	5 頭 未 満	18	11.1	83.3	5.6	-
	10 頭 未 満	41	17.1	75.6	4.9	2.4
	20 頭 未 満	147	17.7	79.6	1.4	1.4
	30 頭 未 満	325	26.8	68.0	4.9	0.3
	40 頭 未 満	708	39.1	54.1	6.5	0.3
	50 頭 未 満	961	41.6	51.2	7.1	0.1
	75 頭 未 満	1,948	49.5	43.6	6.7	0.2
	100 頭 未 満	828	61.4	33.5	5.1	0.1
	150 頭 未 満	626	65.5	29.7	4.8	-
	150 頭 以上 無 回 答	435 49	60.7 6.1	35.6 16.3	3.4 2.0	0.2 75.5
経 産 牛 飼 養 頭 数 (都 府 県)	5 頭 未 満	264	4.5	85.6	2.3	7.6
	10 頭 未 満	751	6.3	86.8	1.6	5.3
	20 頭 未 満	2,044	7.1	85.6	4.1	3.2
	30 頭 未 満	2,229	9.5	82.9	5.5	2.1
	40 頭 未 満	1,825	11.2	78.6	8.0	2.2
	50 頭 未 満	1,130	14.9	75.5	8.1	1.6
	75 頭 未 満	1,128	13.5	76.7	8.3	1.5
	100 頭 未 満	370	21.9	68.1	8.6	1.4
	150 頭 未 満	273	19.0	71.8	7.7	1.5
	150 頭 以上 無 回 答	229 54	27.5 3.7	62.9 31.5	8.3 1.9	1.3 63.0

## 1 4 性判別精液・受精卵の利用状況

◆性判別精液・受精卵を『(現在) 利用している』経営は全酪農経営の 53.8%であり、『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という経営は 5.1%、『利用していない』という経営は 39.7%であった。

◆地域別にみると、『(現在) 利用している』割合は、中国 (71.9%)、九州 (67.8%) で高く、四国 (37.8%) で低かった。また、『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という割合は、僅かながら中国 (8.0%)、北陸 (7.3%) で高かった。

◆経産牛飼養規模別には次のような傾向がみられた。

まず、北海道、都府県のいずれにおいても、『(現在) 利用している』割合は概ね規模の増大に伴い増加するが、150 頭以上を超えると僅かながら低下するという傾向をみせた。また、『(現在) 利用している』割合は、経産牛 5 頭以上の全ての規模階層において都府県が北海道を上回っている点も目を引いた。『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という割合は、北海道では 20 頭未満層、都府県では 20～30 頭未満層までは規模の増大に伴い増加するが、これらの規模を超えると逆に漸減して行くという傾向をみせた。また、『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という割合は、経産牛 10 頭以上の全ての規模階層で北海道が都府県を上回った。

II (9) 性判別精液・受精卵の利用状況

[単位: 戸, %]

		酪農家数	1 利用している	2 利用していない	3 今後利用したい	4 無回答
全 体		16,383	53.8	39.7	5.1	1.4
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	53.3	40.5	5.4	0.8
	(都府県計)	10,297	54.0	39.3	5.0	1.7
	東 北	2,476	50.2	44.3	4.6	1.0
	関 東	3,199	49.4	44.8	5.5	0.3
	北 陸	342	48.2	44.2	7.3	0.3
	東 海	900	57.3	37.0	4.4	1.2
	近 畿	562	42.5	33.5	4.8	19.2
	中 国	747	71.9	20.1	8.0	-
	四 国	402	37.8	56.2	3.7	2.2
九 州	1,669	67.8	27.8	3.6	0.8	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	15.2	78.7	3.2	2.8
	10 頭 未 満	792	23.7	69.4	4.0	2.8
	20 頭 未 満	2,191	39.7	52.4	6.0	1.9
	30 頭 未 満	2,554	49.4	43.3	6.2	1.1
	40 頭 未 満	2,533	56.8	37.1	5.1	0.9
	50 頭 未 満	2,091	58.9	35.4	5.2	0.5
	75 頭 未 満	3,076	60.4	34.0	5.1	0.5
	100 頭 未 満	1,198	66.4	28.5	5.0	0.2
	150 頭 未 満	899	71.7	24.4	3.7	0.2
	150 頭 以上	664	69.4	26.8	3.6	0.2
	無 回 答	103	14.6	16.5	1.0	68.0
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	27.8	72.2	-	-
	10 頭 未 満	41	19.5	73.2	2.4	4.9
	20 頭 未 満	147	25.2	67.3	6.8	0.7
	30 頭 未 満	325	32.3	60.9	6.5	0.3
	40 頭 未 満	708	40.8	53.2	5.6	0.3
	50 頭 未 満	961	48.9	45.4	5.6	0.1
	75 頭 未 満	1,948	55.5	38.4	5.8	0.3
	100 頭 未 満	828	63.5	31.3	5.2	-
	150 頭 未 満	626	68.1	27.6	4.3	-
	150 頭 以上	435	66.4	29.4	4.1	-
	無 回 答	49	14.3	10.2	-	75.5
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	14.4	79.2	3.4	3.0
	10 頭 未 満	751	24.0	69.2	4.1	2.7
	20 頭 未 満	2,044	40.8	51.3	6.0	2.0
	30 頭 未 満	2,229	51.9	40.8	6.1	1.2
	40 頭 未 満	1,825	63.1	30.9	4.8	1.2
	50 頭 未 満	1,130	67.3	27.0	4.9	0.8
	75 頭 未 満	1,128	68.8	26.3	3.9	1.0
	100 頭 未 満	370	72.7	22.2	4.6	0.5
	150 頭 未 満	273	80.2	16.8	2.2	0.7
	150 頭 以上	229	75.1	21.8	2.6	0.4
	無 回 答	54	14.8	22.2	1.9	61.1

## 15 高栄養粗飼料の利用状況

◆コーンサイレージ等高栄養粗飼料の利用状況を全体的にみると、『(現在) 利用している』経営は 40.0%と半数に満たず、『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という経営も 2.6%と少なかった。

◆地域別にみると、『(現在) 利用している』割合は、他の地域に比べて北海道 (46.8%)、九州 (46.4%)、関東 (45.7%) で高く、近畿 (8.4%)、北陸 (16.4%)、中国 (16.5%)、四国 (20.9%)、東海 (28.1%) で低かった。また、『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という割合は、地域を問わず低く、いずれの地域でも 4%に満たなかった。

◆経産牛飼養規模別には次のような傾向がみられた。『(現在) 利用している』割合は、概ね規模の増大に伴って増加する傾向を示した。ただし、北海道の 30~75 頭未満にかけてはむしろ漸減傾向をみせており、都府県の 50 頭以上層ではそれ未満の層に比べると増加幅が著しく小さくなっている。また、『(現在は利用していないが) 今後利用したい』という割合も、概ね規模の増大に伴い増加する傾向をみせた。

II (10) 高栄養粗飼料の利用状況

[単位: 戸、%]

	酪農家数	1	2	3	4	
		利用している	利用していない	今後利用したい	無回答	
全 体	16,383	40.0	55.7	2.6	1.7	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	46.8	48.9	3.3	0.9
	(都府県計)	10,297	36.0	59.7	2.1	2.1
	東 北	2,476	36.8	59.2	2.2	1.8
	関 東	3,199	45.7	51.6	2.3	0.4
	北 陸	342	16.4	81.3	2.0	0.3
	東 海	900	28.1	68.6	1.6	1.8
	近 畿	562	8.4	68.3	3.0	20.3
	中 国	747	16.5	83.5	-	-
	四 国	402	20.9	75.6	1.0	2.5
九 州	1,669	46.4	49.4	2.9	1.3	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	15.6	79.8	1.1	3.5
	10 頭 未 満	792	22.7	73.1	1.3	2.9
	20 頭 未 満	2,191	28.5	67.4	1.7	2.4
	30 頭 未 満	2,554	37.1	59.5	1.8	1.6
	40 頭 未 満	2,533	42.5	54.5	1.9	1.1
	50 頭 未 満	2,091	43.7	52.7	2.6	1.0
	75 頭 未 満	3,076	41.5	54.4	3.4	0.7
	100 頭 未 満	1,198	49.7	46.0	4.2	0.2
	150 頭 未 満	899	51.8	43.4	4.3	0.4
	150 頭 以 上	664	63.6	31.9	4.2	0.3
無 回 答	103	12.6	19.4	-	68.0	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	16.7	77.8	-	5.6
	10 頭 未 満	41	34.1	58.5	2.4	4.9
	20 頭 未 満	147	36.1	61.9	1.4	0.7
	30 頭 未 満	325	46.2	52.3	1.2	0.3
	40 頭 未 満	708	48.2	49.4	2.1	0.3
	50 頭 未 満	961	41.8	54.8	2.8	0.5
	75 頭 未 満	1,948	41.5	54.9	3.3	0.2
	100 頭 未 満	828	50.1	44.9	5.0	-
	150 頭 未 満	626	55.6	39.3	5.0	0.2
	150 頭 以 上	435	71.0	24.8	3.9	0.2
無 回 答	49	12.2	12.2	-	75.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	15.5	79.9	1.1	3.4
	10 頭 未 満	751	22.1	73.9	1.2	2.8
	20 頭 未 満	2,044	28.0	67.8	1.7	2.5
	30 頭 未 満	2,229	35.8	60.5	1.9	1.8
	40 頭 未 満	1,825	40.3	56.5	1.8	1.4
	50 頭 未 満	1,130	45.3	50.9	2.5	1.3
	75 頭 未 満	1,128	41.4	53.4	3.6	1.6
	100 頭 未 満	370	48.6	48.4	2.4	0.5
	150 頭 未 満	273	43.2	52.7	2.9	1.1
	150 頭 以 上	229	49.3	45.4	4.8	0.4
無 回 答	54	13.0	25.9	-	61.1	

## 16 総出生頭数（平成25年度）

◆全体的にみると、20頭未満の経営が26.2%、20～50頭未満の経営が41.5%、50頭以上の経営が28.6%という構成になっており、平均総出生頭数（『0頭含む平均』）は46.8頭であった。

◆地域別には、北海道・都府県間の差異が大きく、30頭以上の割合（北海道83.6%、都府県35.7%）では北海道、30頭未満の割合（北海道14.9%、都府県59.5%）では都府県の方が著しく高かった。また、平均総出生頭数（『0頭含む平均』）は、北海道（67.5頭）が都府県（34.0頭）の約2倍であった。なお、平均総出生頭数（『0頭含む平均』）でみると、都府県では東海（43.4頭）、九州（39.6頭）、中国（38.4頭）が多く、東北（24.8頭）、北陸（24.8頭）が少なかった。

◆経産牛飼養規模別には、当然のことながら、飼養規模の増大に伴い平均総出生頭数（『0頭含む平均』）も増加するという傾向がみられた。また、各規模階層ごとに、北海道・都府県間で平均総出生頭数（『0頭含む平均』）を比較すると、経産牛150頭未満の全階層で北海道が都府県を上回った。ただし、「150頭以上」については、都府県の超大規模経営の影響が推察され、都府県の値が北海道の値を上回っている。

Ⅲ（2）平成25年度出生頭数(全体)

[単位：戸、%、頭]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	有効回答平均 (0含む)	
		0頭	1～5頭未満	5～10頭未満	10～20頭未満	20～30頭未満	30～40頭未満	40～50頭未満	50～75頭未満	75～100頭未満	100～150頭未満	150頭以上		無回答
全 体	16,383	1.0	2.7	6.5	16.0	16.6	14.2	10.7	15.0	5.7	7.9	3.6	46.8	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	0.2	0.3	1.1	4.2	9.1	15.1	15.4	27.5	11.1	14.5	1.4	67.5
	(都府県計)	10,297	1.5	4.2	9.8	23.0	21.0	13.8	7.9	7.6	2.5	3.9	4.9	34.0
	東 北	2,476	0.5	7.3	15.8	26.7	18.9	11.9	6.4	4.7	1.4	1.7	4.7	24.8
	関 東	3,199	1.8	3.6	9.0	23.4	24.3	15.3	8.3	7.3	2.4	4.4	0.3	36.1
	北 陸	342	2.0	4.4	11.4	27.2	24.6	15.5	7.6	5.3	0.9	1.2	-	24.8
	東 海	900	2.4	4.2	7.4	15.7	21.3	14.7	9.0	12.1	4.6	6.7	1.9	43.4
	近 畿	562	0.2	3.7	6.8	21.4	17.4	11.2	6.0	3.9	1.8	2.7	24.9	31.9
	中 国	747	0.9	2.8	7.5	23.7	17.9	13.0	7.6	7.2	2.7	5.2	11.4	38.4
	四 国	402	1.0	2.2	11.4	24.9	17.2	10.4	7.0	7.0	2.7	3.0	13.2	32.2
九 州	1,669	2.6	1.7	4.8	19.7	20.6	14.8	9.9	12.0	3.6	5.3	5.0	39.6	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	11.0	56.4	9.2	7.8	2.5	0.7	0.4	0.4	-	0.7	11.0	7.4
	10頭未満	792	2.0	22.6	57.6	8.5	0.6	0.3	0.6	0.3	0.1	-	7.4	6.7
	20頭未満	2,191	1.6	3.6	23.1	60.5	4.9	0.6	0.1	0.2	-	0.2	5.2	12.2
	30頭未満	2,554	0.8	0.5	2.2	38.5	46.9	5.2	0.9	0.4	0.0	-	4.4	20.3
	40頭未満	2,533	1.1	0.4	0.6	6.8	43.3	39.0	4.9	0.8	0.1	0.1	2.9	28.5
	50頭未満	2,091	0.4	0.1	0.1	1.7	9.9	43.9	34.5	6.9	0.5	-	2.1	37.8
	75頭未満	3,076	0.5	0.1	0.1	0.5	2.7	8.4	26.5	55.8	3.3	0.7	1.4	52.1
	100頭未満	1,198	0.8	-	-	0.3	0.3	1.6	3.9	40.7	45.5	5.9	1.0	74.7
	150頭未満	899	0.3	0.1	0.2	0.1	0.1	-	0.7	6.6	28.9	61.4	1.6	105.5
	150頭以上	664	0.2	-	-	0.2	-	0.2	0.5	0.8	2.0	95.2	1.2	256.9
無 回 答	103	2.9	-	4.9	1.9	6.8	1.0	1.9	3.9	1.0	1.0	74.8	29.9	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	16.7	16.7	11.1	27.8	11.1	11.1	-	5.6	-	-	-	14.5
	10頭未満	41	-	22.0	63.4	2.4	-	-	7.3	-	2.4	-	2.4	10.6
	20頭未満	147	2.0	1.4	19.0	64.6	7.5	0.7	-	1.4	-	1.4	2.0	15.2
	30頭未満	325	-	0.9	2.2	32.3	55.1	6.8	0.6	0.6	-	-	1.5	21.4
	40頭未満	708	0.3	0.3	0.4	4.8	33.9	48.9	8.6	1.6	0.1	0.1	1.0	30.8
	50頭未満	961	0.1	-	-	1.0	7.6	42.6	38.9	8.0	0.6	-	1.1	39.1
	75頭未満	1,948	0.3	0.1	-	0.3	2.1	6.3	23.9	61.6	4.0	0.9	0.8	53.9
	100頭未満	828	0.1	-	-	0.1	0.2	1.6	2.8	40.5	48.4	6.3	-	76.3
	150頭未満	626	-	-	0.2	-	0.2	-	0.8	6.5	29.1	63.1	0.2	107.0
150頭以上	435	-	-	-	0.2	-	-	0.7	0.7	1.8	96.1	0.5	236.0	
無 回 答	49	-	-	2.0	-	8.2	2.0	-	6.1	2.0	-	79.6	39.6	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	10.6	59.1	9.1	6.4	1.9	-	0.4	-	-	0.8	11.7	6.9
	10頭未満	751	2.1	22.6	57.3	8.8	0.7	0.3	0.3	0.3	-	-	7.7	6.5
	20頭未満	2,044	1.5	3.8	23.4	60.2	4.7	0.6	0.1	0.1	-	0.1	5.4	12.0
	30頭未満	2,229	0.9	0.5	2.2	39.4	45.7	5.0	0.9	0.4	0.0	-	4.8	20.1
	40頭未満	1,825	1.4	0.4	0.7	7.6	47.0	35.2	3.5	0.5	0.1	0.1	3.7	27.6
	50頭未満	1,130	0.7	0.3	0.2	2.2	11.8	45.0	30.7	5.9	0.4	-	2.8	36.7
	75頭未満	1,128	0.9	0.3	0.3	0.9	3.7	12.0	31.0	45.8	2.1	0.5	2.5	49.1
	100頭未満	370	2.2	-	-	0.5	0.5	1.6	6.5	41.4	38.9	5.1	3.2	71.1
	150頭未満	273	1.1	0.4	0.4	0.4	-	-	0.4	6.6	28.6	57.5	4.8	101.8
	150頭以上	229	0.4	-	-	-	-	-	0.4	0.9	2.2	93.4	2.6	297.5
無 回 答	54	5.6	-	7.4	3.7	5.6	-	3.7	1.9	-	1.9	70.4	23.9	

16 - 付1 乳用メス牛出生頭数（平成25年度）

◆乳用メス牛に関する出生状況を全体的にみると、5頭未満の経営が29.1%、5～20頭未満の経営が41.5%、20頭以上の経営が25.5%という構成になっており、出生実績がなかった経営も含めた平均乳用メス牛出生頭数（『0頭含む平均』）は15.7頭であった。また、乳用メス牛を出生しなかった経営が1割あり、出生実績がなかった経営を除いた平均乳用メス牛出生頭数（『0頭除く平均』）は17.6頭であった。

◆地域別には、北海道・都府県間の差異が大きく、10頭以上の割合（北海道84.3%、都府県28.7%）では北海道、10頭未満の割合（北海道14.3%、都府県66.4%）では都府県が著しく高かった。また、出生実績がなかった経営も含めた平均乳用メス牛出生頭数（『0頭含む平均』）は、北海道（27.2頭）が都府県（8.7頭）の約3倍であった。なお、出生実績がなかった経営も含めた平均乳用メス牛出生頭数（『0頭含む平均』）でみると、都府県では中国（10.1頭）、九州（10.4頭）が多く、北陸（5.8頭）が少なかった。

◆経産牛飼養規模別には、該当経営数の少ない北海道の「5頭未満」を除けば、飼養規模の増大に伴い平均乳用メス牛出生頭数（『0頭含む平均』、『0頭除く平均』）も増加するという傾向がみられた。また、各規模階層ごとに、北海道・都府県間で平均乳用メス牛出生頭数（『0頭含む平均』、『0頭除く平均』）を比較すると、全ての階層で北海道が都府県を上回っているのが目を引いた。

Ⅲ（2）i）平成25年度出生頭数（乳用メス）

	酪農家数	出生頭数											合計・無回答を除く 0頭・無回答	有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)	
		0頭	1～5頭未満	5～10頭未満	10～20頭未満	20～30頭未満	30～40頭未満	40～50頭未満	50～75頭未満	75～100頭未満	100頭以上	150頭以上				無回答
全 体	16,383	10.3	18.8	17.8	23.7	12.1	6.0	2.8	2.7	0.8	1.1	3.7	86.0	15.7	17.6	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	1.7	3.5	9.1	31.3	24.0	12.5	6.3	5.9	1.9	2.4	1.5	96.9	27.2	27.6
	(都府県計)	10,297	15.5	27.9	23.0	19.3	5.1	2.2	0.7	0.9	0.2	0.3	5.0	79.5	8.7	10.3
	東 北	2,476	15.4	34.0	22.7	17.0	3.9	1.5	0.4	0.3	0.2	0.1	4.4	80.2	6.9	8.2
	東 東	3,199	17.6	26.7	24.9	20.0	5.3	2.0	0.8	1.1	0.2	0.5	0.8	81.5	9.0	10.9
	北 陸	342	24.0	32.2	22.8	17.0	2.3	0.6	0.3	0.3	0.3	-	0.3	75.7	5.8	7.6
	東 海	900	22.4	22.2	21.0	19.3	6.4	2.7	0.8	1.8	0.3	0.8	2.2	75.3	9.7	12.5
	近 畿	562	6.6	27.4	18.9	15.5	2.5	1.2	0.5	1.1	-	0.4	26.0	67.4	8.5	9.3
	中 国	747	9.6	30.0	22.9	18.5	4.7	3.1	0.8	0.9	0.4	0.5	8.6	81.8	10.1	11.2
	四 国	402	17.7	27.4	17.7	12.9	3.7	1.5	0.7	-	0.5	0.2	17.7	64.7	7.4	9.5
九 州	1,669	11.0	22.6	23.5	24.7	7.5	3.7	1.1	1.1	0.1	0.2	4.6	84.5	10.4	11.7	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	52.5	31.9	2.8	1.8	0.4	-	-	-	-	-	10.6	36.9	1.1	2.7
	10頭未満	792	35.7	50.4	4.0	0.6	-	0.4	0.1	-	-	-	8.7	55.6	1.7	2.7
	20頭未満	2,191	20.7	52.0	19.7	2.0	-	0.0	0.0	0.0	-	-	5.4	73.8	2.9	3.7
	30頭未満	2,554	11.6	32.2	38.3	13.2	0.3	0.2	-	0.1	-	-	4.2	84.2	5.4	6.1
	40頭未満	2,533	7.3	14.7	32.7	40.1	2.1	0.2	0.0	-	-	-	3.0	89.8	8.7	9.4
	50頭未満	2,091	4.5	5.5	18.4	55.2	13.1	1.0	0.1	-	-	-	2.2	93.3	12.6	13.3
	75頭未満	3,076	3.8	3.1	6.3	36.3	38.1	9.8	0.8	0.2	-	0.1	1.4	94.8	18.8	19.6
	100頭未満	1,198	4.1	1.4	2.7	11.9	29.7	34.6	12.4	2.0	0.1	0.1	1.1	94.8	27.6	28.8
	150頭未満	899	4.1	2.1	0.8	5.1	10.6	22.6	25.6	25.8	1.6	0.2	1.6	94.3	39.1	40.8
	150頭以上	664	3.9	1.7	2.7	2.4	3.2	5.3	7.2	27.6	17.8	26.8	1.5	94.6	84.1	87.6
無 回 答	103	5.8	3.9	3.9	3.9	4.9	1.0	-	-	1.0	-	75.7	18.4	12.6	16.6	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	38.9	16.7	16.7	22.2	5.6	-	-	-	-	-	-	61.1	5.6	9.2
	10頭未満	41	24.4	58.5	4.9	4.9	-	2.4	2.4	-	-	-	2.4	73.2	4.2	5.6
	20頭未満	147	8.2	41.5	37.4	9.5	-	0.7	0.7	-	-	-	2.0	89.8	5.3	5.7
	30頭未満	325	4.3	15.7	48.0	28.6	0.6	0.6	-	0.3	-	-	1.8	93.8	8.0	8.3
	40頭未満	708	1.7	5.1	25.4	61.9	4.4	0.1	0.1	-	-	-	1.3	97.0	11.4	11.6
	50頭未満	961	0.8	1.2	9.1	65.9	20.2	1.1	0.2	-	-	-	1.5	97.7	15.3	15.4
	75頭未満	1,948	1.2	0.6	2.9	32.7	47.7	13.0	1.1	0.1	-	0.1	0.6	98.2	21.5	21.7
	100頭未満	828	1.3	0.6	0.6	6.9	30.1	41.7	16.1	2.4	0.1	0.1	0.1	98.6	31.0	31.4
	150頭未満	626	0.6	1.0	0.3	3.4	7.2	21.9	31.3	31.9	1.9	0.3	0.2	99.2	43.6	43.9
	150頭以上	435	-	-	0.7	1.1	1.1	2.3	6.7	31.0	23.4	32.6	0.9	99.1	98.3	98.3
無 回 答	49	-	4.1	4.1	2.0	8.2	2.0	-	-	-	-	79.6	20.4	16.0	16.0	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	53.4	33.0	1.9	0.4	-	-	-	-	-	-	11.4	35.2	0.8	2.0
	10頭未満	751	36.4	49.9	4.0	0.4	-	0.3	-	-	-	-	9.1	54.6	1.5	2.5
	20頭未満	2,044	21.6	52.8	18.4	1.5	-	-	-	0.0	-	-	5.7	72.7	2.7	3.6
	30頭未満	2,229	12.6	34.6	36.8	11.0	0.2	0.1	-	0.0	-	-	4.6	82.8	5.0	5.7
	40頭未満	1,825	9.4	18.4	35.6	31.6	1.2	0.2	-	-	-	-	3.6	87.0	7.5	8.4
	50頭未満	1,130	7.6	9.1	26.4	46.2	7.1	0.8	-	-	-	-	2.8	89.6	10.4	11.3
	75頭未満	1,128	8.3	7.4	12.3	42.6	21.5	4.3	0.3	0.4	-	-	2.7	88.9	14.2	15.5
	100頭未満	370	10.3	3.2	7.3	23.2	28.9	18.6	4.1	1.1	-	-	3.2	86.5	19.9	22.2
	150頭未満	273	12.1	4.8	1.8	9.2	18.3	24.2	12.5	11.7	0.7	-	4.8	83.2	28.3	32.4
	150頭以上	229	11.4	4.8	6.6	4.8	7.0	10.9	8.3	21.0	7.0	15.7	2.6	86.0	56.8	64.4
無 回 答	54	11.1	3.7	3.7	5.6	1.9	-	-	-	-	-	72.2	16.7	10.4	17.3	

16 - 付2 乳用オス牛出生頭数（平成25年度）

◆乳用オス牛に関する出生状況は、乳用メス牛の場合と同様であり、全体的にみると5頭未満の経営が30.3%、5～20頭未満の経営が39.2%、20頭以上の経営が26.3%となっており、出生実績がなかった経営も含めた平均乳用オス牛出生頭数（『0頭含む平均』）は15.9頭であった。また、乳用オス牛を産出しなかった経営は12.3%であり、出生実績がなかった経営を除いた平均乳用オス牛出生頭数（『0頭除く平均』）は18.3頭であった。

◆地域別には、北海道・都府県間の差異が大きく、10頭以上の割合（北海道83.5%、都府県28.9%）では北海道、10頭未満の割合（北海道13.8%、都府県66.0%）では都府県が著しく高かった。また、出生実績がなかった経営も含めた平均乳用オス牛出生頭数（『0頭含む平均』）は、北海道（28.3頭）が都府県（8.4頭）の3.5倍であった。なお、出生実績がなかった経営も含めた平均乳用オス牛出生頭数（『0頭含む平均』）でみると、都府県では中国（9.8頭）、九州（9.4頭）が多く、北陸（5.3頭）が少なかった。

◆経産牛飼養規模別には、該当経営数の少ない北海道の「5頭未満」を除けば、飼養規模の増大に伴い平均乳用オス牛出生頭数（『0頭含む平均』、『0頭除く平均』）も増加するという傾向がみられた。また、各規模階層ごとに、北海道・都府県間で平均乳用オス牛出生頭数（『0頭含む平均』、『0頭除く平均』）を比較すると、全ての階層で北海道の値が都府県の値を上回った。

Ⅲ（2）ⅱ 平成25年度出生頭数（乳用オス）

	酪農家数	出生頭数											合計 0頭・無回答を除く	有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)	
		0頭	1～5頭未満	5～10頭未満	10～20頭未満	20～30頭未満	30～40頭未満	40～50頭未満	50～75頭未満	75～100頭未満	100～150頭未満	150頭以上				無回答
全体	16,383	12.3	18.0	16.4	22.8	12.2	6.0	2.9	3.2	0.8	1.2	4.3	83.4	15.9	18.3	
北海道 (都府県計)	北海道	6,086	2.2	3.9	7.7	28.2	24.2	12.8	6.4	7.4	1.9	2.6	2.7	95.1	28.3	29.0
	都府県計	10,297	18.2	26.3	21.5	19.6	5.2	1.9	0.9	0.8	0.2	0.3	5.3	76.5	8.4	10.4
	東 北	2,476	16.6	31.1	22.1	18.6	4.2	1.1	0.4	0.6	0.1	0.2	5.0	78.4	7.1	8.7
	関 東	3,199	21.0	24.0	22.7	21.0	6.0	2.0	1.0	0.8	0.3	0.5	0.9	78.1	8.9	11.3
	北 海 道	342	25.4	34.5	19.6	17.5	2.0	-	0.3	0.3	-	-	0.3	74.3	5.3	7.1
	東 海	900	26.4	21.4	19.3	19.1	5.9	2.3	0.9	1.7	0.3	0.3	2.2	71.3	8.6	11.8
	近 畿	562	8.4	26.0	20.1	12.5	3.7	0.9	0.4	0.4	0.2	0.2	27.4	64.2	7.7	8.7
	中 国	747	12.9	26.8	21.0	19.8	5.0	2.7	1.3	0.7	0.1	0.7	9.1	78.0	9.8	11.4
	四 国	402	16.7	25.9	17.4	14.7	3.7	2.2	0.7	-	-	0.2	18.4	64.9	7.3	9.2
九 州	1,669	15.2	24.4	21.4	22.3	6.2	3.2	1.4	1.0	0.2	0.1	4.6	80.3	9.4	11.2	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	50.7	32.6	2.1	1.8	0.4	-	-	-	-	-	12.4	36.9	1.1	2.7
	10頭未満	792	37.4	48.1	4.8	0.6	0.3	0.1	-	-	-	-	8.7	53.9	1.6	2.7
	20頭未満	2,191	25.4	45.4	19.5	3.5	0.1	-	0.0	0.1	-	0.0	5.9	68.7	3.1	4.2
	30頭未満	2,554	14.1	29.8	35.5	15.7	0.5	-	0.0	-	-	-	4.4	81.5	5.4	6.3
	40頭未満	2,533	9.9	14.6	28.0	40.1	3.6	0.2	-	-	-	-	3.7	86.4	8.7	9.7
	50頭未満	2,091	5.5	6.5	15.7	52.1	16.0	1.3	-	-	-	-	3.0	91.6	13.0	13.7
	75頭未満	3,076	4.9	4.4	6.5	30.3	36.8	12.7	1.8	0.4	0.0	0.0	2.1	92.9	19.2	20.2
	100頭未満	1,198	4.5	2.3	2.7	10.4	26.2	29.4	17.0	4.9	0.2	0.1	2.4	93.1	29.0	30.4
	150頭未満	899	4.7	2.7	1.2	5.9	10.2	18.7	20.1	32.7	1.7	0.1	2.0	93.3	39.9	41.8
	150頭以上	664	5.1	2.9	2.0	3.8	3.3	5.1	5.7	24.4	17.2	28.2	2.4	92.5	83.6	88.2
無回答	103	5.8	2.9	6.8	4.9	1.0	1.9	-	1.0	-	-	75.7	18.4	10.6	14.0	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	33.3	22.2	16.7	22.2	5.6	-	-	-	-	-	66.7	5.8	8.7	
	10頭未満	41	26.8	61.0	2.4	2.4	2.4	2.4	-	-	-	-	2.4	70.7	3.1	4.3
	20頭未満	147	10.9	45.6	32.7	6.1	0.7	-	-	1.4	-	-	2.7	86.4	5.1	5.7
	30頭未満	325	4.3	16.3	40.6	36.3	-	-	-	-	-	-	2.5	93.2	7.8	8.2
	40頭未満	708	3.1	4.5	19.6	62.0	7.5	0.3	-	-	-	-	3.0	93.9	12.0	12.4
	50頭未満	961	1.2	1.5	8.3	58.4	25.7	2.1	-	-	-	-	2.8	95.9	16.0	16.2
	75頭未満	1,948	1.5	1.5	2.5	26.1	46.6	17.2	2.4	0.5	0.1	0.1	1.6	96.9	22.5	22.8
	100頭未満	828	1.4	0.5	0.6	5.4	25.6	35.5	21.7	6.8	0.2	0.1	2.1	96.5	33.3	33.8
	150頭未満	626	1.4	0.8	0.8	3.4	7.2	18.2	22.8	42.0	2.4	0.2	0.8	97.8	45.3	46.0
	150頭以上	435	0.7	0.5	0.7	1.6	1.6	2.5	4.6	27.6	21.8	36.1	2.3	97.0	100.7	101.4
無回答	49	2.0	-	6.1	6.1	-	4.1	-	2.0	-	-	79.6	18.4	18.6	20.7	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	51.9	33.3	1.1	0.4	-	-	-	-	-	-	13.3	34.8	0.8	1.9
	10頭未満	751	37.9	47.4	4.9	0.5	0.1	-	-	-	-	-	9.1	53.0	1.5	2.6
	20頭未満	2,044	26.4	45.4	18.6	3.3	0.0	-	0.0	-	-	0.0	6.1	67.5	2.9	4.0
	30頭未満	2,229	15.5	31.7	34.8	12.7	0.6	-	0.0	-	-	-	4.7	79.8	5.0	6.0
	40頭未満	1,825	12.5	18.5	31.3	31.6	2.0	0.1	-	-	-	-	4.0	83.5	7.4	8.5
	50頭未満	1,130	9.0	10.8	21.9	46.7	7.8	0.6	-	-	-	-	3.1	87.9	10.4	11.5
	75頭未満	1,128	10.9	9.4	13.3	37.6	20.0	5.0	0.7	0.2	-	-	2.9	86.2	13.5	15.2
	100頭未満	370	11.4	6.2	7.3	21.4	27.6	15.7	6.5	0.8	-	-	3.2	85.4	19.2	21.8
	150頭未満	273	12.1	7.0	2.2	11.7	17.2	19.8	13.9	11.4	-	-	4.8	83.2	26.8	30.7
	150頭以上	229	13.5	7.4	4.4	7.9	6.6	10.0	7.9	18.3	8.3	13.1	2.6	83.8	51.0	59.2
無回答	54	9.3	5.6	7.4	3.7	1.9	-	-	-	-	-	72.2	18.5	5.3	8.0	

16 - 付3 交雑種出生頭数（平成25年度）

◆交雑種に関する出生状況を全体的にみると、5頭未満の経営が31.3%、5～20頭未満の経営が48.9%、20頭以上の経営が16.0%となっており、出生実績がなかった経営も含めた平均交雑種出生頭数（『0頭含む平均』）は13.5頭であった。また、交雑種の出生がなかった経営は12.3%であり、出生実績がなかった経営を除いた平均交雑種出生頭数（『0頭除く平均』）は15.4頭であった。

◆地域別にみると、東海、四国では他地域に比べて20頭以上の割合（東海25.8%、四国26.3%）が高く、平均交雑種出生頭数（『0頭含む平均』：東海22.2頭、四国18.9頭／『0頭除く平均』：東海25.2頭、四国20.7頭）も多かった。逆に、東北、北海道では5頭未満の割合（東北41.1%、北海道34.3%）が高く、平均交雑種出生頭数（『0頭含む平均』：東北9.3頭、北海道10.9頭／『0頭除く平均』：東北10.5頭、北海道13.1頭）が少なかった。

◆経産牛飼養規模別には、「5頭未満」を除いてみれば、飼養規模の増大に伴い平均交雑種出生頭数（『0頭含む平均』、『0頭除く平均』）も増加するという傾向がみられた。また、各規模階層ごとに、北海道・都府県間で平均交雑種出生頭数（『0頭含む平均』、『0頭除く平均』）を比較すると、乳用メス牛、乳用オス牛の場合とは逆に、全ての階層で都府県が北海道を上回った。

Ⅲ（2）ⅲ 平成25年度出生頭数（交雑種 F1）

	酪農家数	[単位：戸、%、頭]											合計 0頭・無回答を除く	有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)	
		1 0頭	2 1～5頭未満	3 5～10頭未満	4 10～20頭未満	5 20～30頭未満	6 30～40頭未満	7 40～50頭未満	8 50～75頭未満	9 75～100頭未満	10 100頭以上	11 無回答				
全体	16,383	12.3	19.0	23.5	25.4	8.1	3.2	1.5	1.5	0.7	1.0	3.8	83.9	13.5	15.4	
北海道 (都府県計)	北海道	6,086	16.1	18.2	23.6	26.1	7.3	2.9	1.2	1.3	0.5	0.5	2.2	81.6	10.9	13.1
	（都府県計）	10,297	10.1	19.5	23.4	25.0	8.7	3.4	1.7	1.6	0.7	1.3	4.7	85.2	15.0	16.8
	東 北	2,476	10.8	30.3	24.8	20.7	5.8	1.6	0.5	0.7	0.2	0.5	4.2	85.1	9.3	10.5
	東 海	3,199	10.1	16.5	25.7	27.8	10.2	3.5	1.7	1.5	0.8	1.4	0.9	89.1	16.2	18.1
	北 陸	342	11.7	17.8	21.9	31.3	10.5	2.9	2.3	0.9	-	0.3	0.3	88.0	11.9	13.5
	近 畿	900	11.8	17.7	18.4	23.6	10.2	4.8	2.4	3.4	2.0	3.0	2.7	85.6	22.2	25.2
	中 国	562	5.0	14.1	19.6	22.4	5.2	2.8	1.8	1.8	0.2	0.7	26.5	68.5	15.6	16.7
	四 国	747	7.1	16.7	26.5	23.2	8.8	3.3	2.4	1.1	0.7	2.0	8.2	84.7	16.0	17.4
	九 州	402	7.7	12.9	19.4	23.6	12.2	6.2	3.2	2.2	1.0	1.5	10.0	82.3	18.9	20.7
無回答	1,669	11.3	15.1	20.6	27.4	9.0	4.9	2.1	2.3	1.1	1.4	4.6	84.1	16.2	18.4	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	29.4	51.1	6.0	3.5	-	-	-	-	-	0.7	9.2	61.3	4.9	7.2
	10頭未満	792	19.1	49.4	22.1	2.3	0.3	-	-	0.1	-	-	6.8	74.1	3.2	4.0
	20頭未満	2,191	12.6	32.5	32.9	16.4	0.4	-	-	-	-	-	5.2	82.2	5.5	6.3
	30頭未満	2,554	8.9	20.3	29.5	31.7	5.4	0.1	-	-	-	0.0	4.0	87.1	8.4	9.3
	40頭未満	2,533	10.6	14.8	29.1	29.0	10.3	2.7	0.1	0.0	-	0.0	3.3	86.1	9.9	11.1
	50頭未満	2,091	11.1	14.2	25.3	30.8	10.2	4.6	1.0	0.1	0.0	-	2.7	86.1	10.8	12.2
	75頭未満	3,076	12.4	12.8	20.0	32.6	10.7	4.4	3.2	1.9	0.1	0.1	1.8	85.9	12.8	14.6
	100頭未満	1,198	14.0	12.8	12.9	27.6	15.5	5.7	3.0	5.3	1.3	-	1.9	84.1	16.2	18.9
	150頭未満	899	13.9	10.0	11.5	18.1	15.8	10.9	4.0	7.0	4.2	2.9	1.7	84.4	23.7	27.6
	150頭以上	664	15.1	5.0	5.7	12.0	8.1	9.2	7.5	8.6	7.5	19.7	1.5	83.4	79.3	93.6
無回答	103	6.8	7.8	3.9	3.9	1.9	1.0	-	-	-	-	74.8	18.4	6.7	9.2	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	44.4	27.8	16.7	11.1	-	-	-	-	-	-	-	55.6	2.9	5.3
	10頭未満	41	22.0	53.7	14.6	4.9	2.4	-	-	-	-	-	2.4	75.6	3.2	4.1
	20頭未満	147	29.3	34.7	22.4	8.8	2.0	-	-	-	-	-	2.7	68.0	4.0	5.7
	30頭未満	325	16.6	38.8	28.3	11.4	2.8	-	-	-	-	-	2.2	81.2	5.1	6.1
	40頭未満	708	15.7	21.0	38.6	18.8	1.8	1.4	0.3	0.1	-	-	2.3	82.1	6.6	7.9
	50頭未満	961	14.7	20.2	33.1	25.1	3.7	0.6	-	-	-	-	2.6	82.7	7.1	8.3
	75頭未満	1,948	14.7	16.0	23.8	35.0	6.3	1.3	0.9	0.6	0.1	-	1.3	84.0	9.2	10.8
	100頭未満	828	16.1	16.3	15.5	32.5	13.9	2.9	0.4	1.2	0.1	-	1.2	82.7	10.9	13.1
	150頭未満	626	17.1	13.3	13.9	21.6	16.1	9.4	2.2	3.8	1.3	0.8	0.5	82.4	16.1	19.4
	150頭以上	435	20.0	6.9	7.6	16.1	9.9	12.0	7.6	7.6	5.3	6.0	1.1	78.9	34.5	43.2
無回答	49	4.1	8.2	4.1	4.1	-	-	-	-	-	-	79.6	16.3	4.2	5.3	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	28.4	52.7	5.3	3.0	-	-	-	-	0.8	9.8	61.7	5.0	7.3	
	10頭未満	751	18.9	49.1	22.5	2.1	0.1	-	-	0.1	-	-	7.1	74.0	3.2	4.0
	20頭未満	2,044	11.4	32.4	33.6	16.9	0.3	-	-	-	-	-	5.4	83.2	5.6	6.3
	30頭未満	2,229	7.8	17.6	29.7	34.7	5.7	0.1	-	-	-	0.0	4.3	87.9	8.9	9.7
	40頭未満	1,825	8.6	12.4	25.4	33.0	13.5	3.2	-	-	-	0.1	3.7	87.7	11.1	12.2
	50頭未満	1,130	8.1	9.0	18.6	35.8	15.7	8.0	1.8	0.2	0.1	-	2.8	89.0	13.9	15.2
	75頭未満	1,128	8.3	7.4	13.3	28.5	18.4	9.6	7.2	4.2	0.3	0.3	2.6	89.1	19.0	20.7
	100頭未満	370	9.5	4.9	7.3	16.8	19.2	11.9	8.9	14.3	3.8	-	3.5	87.0	28.2	31.2
	150頭未満	273	6.6	2.6	5.9	10.3	15.0	14.3	8.1	14.3	11.0	7.7	4.4	89.0	42.0	45.1
	150頭以上	229	5.7	1.3	2.2	4.4	4.8	3.9	7.4	10.5	11.8	45.9	2.2	92.1	165.3	175.5
無回答	54	9.3	7.4	3.7	3.7	3.7	1.9	-	-	-	-	70.4	20.4	8.3	12.0	

16 - 付4 肉専用種出生頭数（平成25年度）

◆肉専用種に関する出生状況を全体的にみると、出生実績があった経営が20.9%、出生実績がなかった経営が73.4%となっており、出生実績がなかった経営を含めた平均肉専用種出生頭数（『0頭含む平均』）は1.9頭、出生実績がなかった経営を除いた平均肉専用種出生頭数（『0頭除く平均』）は8.5頭であった。

◆地域別にみると、九州、東海、中国では他地域に比べて出生実績があった経営の割合（九州36.1%、東海33.8%、中国33.5%）が高く、出生実績がなかった経営を含めた平均肉専用種出生頭数（『0頭含む平均』：九州3.7頭、東海3.1頭、中国2.7頭）も多かった。逆に、北海道、近畿、四国では出生実績があった経営の割合（北海道12.7%、近畿14.8%、四国16.9%）が低く、出生実績がなかった経営を含めた平均肉専用種出生頭数（『0頭含む平均』：北海道1.2頭、近畿1.9頭、四国1.4頭）も少なかった。ただし、出生実績があった経営に限定して求めた平均肉専用種出生頭数（『0頭除く平均』）でみると、九州（9.8頭）、北海道（9.5頭）で多く、東北（6.4頭）、北陸（6.5頭）で少なかった。

◆経産牛飼養規模別には、出生実績があった経営に限定して求めた平均肉専用種出生頭数（『0頭除く平均』）でみると、北海道、都府県の双方について、飼養規模の増大に伴い増加するという傾向が認められた。しかし、出生実績がなかった経営を含めて求めた平均肉専用種出生頭数（『0頭含む平均』）でみると、都府県については同様の傾向が認められたものの、北海道の75頭未満の階層についてはほとんど傾向性が認められなかった。

Ⅲ（2）iv）平成25年度出生頭数（肉専用種）

	酪農家数	出生頭数											合計・無回答を除く	[単位：戸、%、頭]		
		0頭	1～5頭未満	5～10頭未満	10～20頭未満	20～30頭未満	30～40頭未満	40～50頭未満	50～75頭未満	75頭未満	100頭以上	無回答		有効回答平均（0含む）	平均（0除く）	
全体	16,383	73.4	11.8	4.4	3.0	0.9	0.4	0.1	0.2	0.0	0.1	5.5	21.1	1.9	8.5	
ブロック	北海道	6,086	84.7	6.7	2.1	2.1	0.8	0.3	0.2	0.2	0.0	0.1	2.6	12.7	1.2	9.5
	(都府県計)	10,297	66.7	14.9	5.7	3.5	1.0	0.5	0.1	0.2	0.0	0.1	7.2	26.1	2.3	8.2
	東北	2,476	72.1	14.3	4.3	2.9	0.6	0.2	0.0	0.2	-	0.0	5.2	22.7	1.5	6.4
	関東	3,199	76.7	13.0	4.9	2.8	0.9	0.3	0.1	0.2	0.1	0.2	0.9	22.4	2.0	8.8
	北陸	342	69.6	15.8	8.2	4.1	1.8	0.3	-	-	-	0.3	30.1	2.0	6.5	
	東海	900	63.6	15.3	8.2	6.9	1.4	1.0	0.3	0.3	-	0.2	2.7	33.8	3.1	8.9
	近畿	562	37.2	10.1	2.8	1.2	-	0.2	-	-	0.2	0.2	48.0	14.8	1.9	6.6
	中国	747	56.6	20.6	6.4	4.0	1.3	0.5	-	0.4	-	0.1	9.9	33.5	2.7	7.3
	四国	402	50.2	10.0	3.7	2.2	0.7	0.2	-	-	-	-	32.8	16.9	1.4	5.7
九州	1,669	58.7	19.1	8.4	4.6	1.8	1.1	0.2	0.4	0.1	0.2	5.2	36.1	3.7	9.8	
経産牛飼養頭数（全国）	5頭未満	282	80.1	5.7	1.1	0.7	0.4	-	-	-	-	-	12.1	7.8	0.4	4.8
	10頭未満	792	81.1	6.7	1.8	0.3	-	0.1	-	-	-	-	10.1	8.8	0.4	3.8
	20頭未満	2,191	72.5	12.8	3.7	2.1	0.4	0.0	-	0.1	-	-	8.4	19.2	1.0	4.7
	30頭未満	2,554	70.7	14.1	4.9	3.2	0.7	0.2	-	0.0	-	-	6.3	23.1	1.3	5.5
	40頭未満	2,533	71.0	14.4	5.4	2.5	0.9	0.4	0.1	-	0.0	-	5.2	23.8	1.5	5.8
	50頭未満	2,091	74.1	12.5	5.0	3.4	0.8	0.3	0.2	0.1	-	-	3.4	22.4	1.6	6.7
	75頭未満	3,076	77.8	10.6	3.9	2.7	1.1	0.5	0.3	0.3	0.0	-	2.9	19.3	1.6	7.9
	100頭未満	1,198	75.2	10.4	4.7	4.1	1.2	0.8	0.1	0.5	-	0.2	2.8	22.0	2.2	9.5
	150頭未満	899	72.3	10.8	4.8	5.0	2.3	0.9	0.2	0.6	0.2	0.3	2.6	25.1	3.1	12.1
	150頭以上	664	67.5	7.7	4.4	6.5	3.3	2.6	0.9	1.7	0.6	2.3	2.7	29.8	11.0	36.0
	無回答	103	18.4	4.9	1.0	-	-	-	-	-	-	-	75.7	5.8	0.9	3.7
経産牛飼養頭数（北海道）	5頭未満	18	94.4	5.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.6	0.2	3.0
	10頭未満	41	95.1	-	2.4	-	-	-	-	-	-	-	2.4	2.4	0.1	5.0
	20頭未満	147	83.0	9.5	2.7	1.4	-	-	-	0.7	-	-	2.7	14.3	0.9	6.2
	30頭未満	325	88.3	4.9	1.8	2.2	0.6	-	-	-	-	-	2.2	9.5	0.6	6.2
	40頭未満	708	85.7	6.6	2.1	1.6	0.8	-	0.3	-	-	-	2.8	11.4	0.8	7.1
	50頭未満	961	85.1	6.8	2.4	2.1	0.5	0.2	0.2	0.1	-	-	2.6	12.3	0.9	7.3
	75頭未満	1,948	88.2	6.1	1.7	1.3	0.5	0.3	0.1	0.2	0.1	-	1.6	10.2	0.8	7.7
	100頭未満	828	84.2	8.0	1.9	2.5	0.6	0.6	0.1	0.1	-	0.1	1.8	14.0	1.2	8.7
	150頭未満	626	80.7	8.6	3.0	3.4	1.8	0.5	0.3	0.3	0.2	0.3	1.0	18.4	2.2	11.9
	150頭以上	435	77.9	5.7	2.8	4.8	2.8	1.1	0.7	1.1	0.2	0.7	2.1	20.0	3.9	19.1
	無回答	49	16.3	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-	79.6	4.1	0.8	4.0
経産牛飼養頭数（都府県）	5頭未満	264	79.2	5.7	1.1	0.8	0.4	-	-	-	-	-	12.9	8.0	0.4	4.9
	10頭未満	751	80.3	7.1	1.7	0.3	-	0.1	-	-	-	-	10.5	9.2	0.4	3.8
	20頭未満	2,044	71.7	13.0	3.8	2.2	0.4	0.0	-	0.0	-	-	8.8	19.5	1.0	4.6
	30頭未満	2,229	68.1	15.4	5.3	3.4	0.7	0.2	-	0.0	-	-	6.9	25.0	1.5	5.4
	40頭未満	1,825	65.3	17.5	6.7	2.9	0.9	0.5	-	-	0.1	-	6.1	28.6	1.7	5.6
	50頭未満	1,130	64.8	17.4	7.3	4.6	1.0	0.4	0.2	0.2	-	-	4.2	31.1	2.1	6.5
	75頭未満	1,128	59.9	18.4	7.6	5.1	2.1	0.8	0.6	0.4	-	-	5.1	35.0	2.9	8.0
	100頭未満	370	55.1	15.9	10.8	7.6	2.4	1.4	-	1.4	-	0.3	5.1	39.7	4.3	10.2
	150頭未満	273	53.1	15.8	8.8	8.8	3.7	1.8	-	1.1	0.4	0.4	6.2	40.7	5.3	12.3
	150頭以上	229	47.6	11.4	7.4	9.6	4.4	5.2	1.3	2.6	1.3	5.2	3.9	48.5	24.8	49.2
	無回答	54	20.4	5.6	1.9	-	-	-	-	-	-	-	72.2	7.4	0.9	3.5

16 - 付4 肉専用種出生頭数（平成25年度）

◆肉専用種に関する出生状況を全体的にみると、出生実績があった経営が20.9%、出生実績がなかった経営が73.4%となっており、出生実績がなかった経営を含めた平均肉専用種出生頭数（『0頭含む平均』）は1.9頭、出生実績がなかった経営を除いた平均肉専用種出生頭数（『0頭除く平均』）は8.5頭であった。

◆地域別にみると、九州、東海、中国では他地域に比べて出生実績があった経営の割合（九州36.1%、東海33.8%、中国33.5%）が高く、出生実績がなかった経営を含めた平均肉専用種出生頭数（『0頭含む平均』：九州3.7頭、東海3.1頭、中国2.7頭）も多かった。逆に、北海道、近畿、四国では出生実績があった経営の割合（北海道12.7%、近畿14.8%、四国16.9%）が低く、出生実績がなかった経営を含めた平均肉専用種出生頭数（『0頭含む平均』：北海道1.2頭、近畿1.9頭、四国1.4頭）も少なかった。ただし、出生実績があった経営に限定して求めた平均肉専用種出生頭数（『0頭除く平均』）でみると、九州（9.8頭）、北海道（9.5頭）で多く、東北（6.4頭）、北陸（6.5頭）で少なかった。

◆経産牛飼養規模別には、出生実績があった経営に限定して求めた平均肉専用種出生頭数（『0頭除く平均』）でみると、北海道、都府県の双方について、飼養規模の増大に伴い増加するという傾向が認められた。しかし、出生実績がなかった経営を含めて求めた平均肉専用種出生頭数（『0頭含む平均』）でみると、都府県については同様の傾向が認められたものの、北海道の75頭未満の階層についてはほとんど傾向性が認められなかった。

Ⅲ（2）iv）平成25年度出生頭数（肉専用種）

	酪農家数	出生頭数											合計・無回答を除く	[単位：戸、%、頭]		
		0頭	1～5頭未満	5～10頭未満	10～20頭未満	20～30頭未満	30～40頭未満	40～50頭未満	50～75頭未満	75頭未満	100頭以上	無回答		有効回答平均（0含む）	平均（0除く）	
全体	16,383	73.4	11.8	4.4	3.0	0.9	0.4	0.1	0.2	0.0	0.1	5.5	21.1	1.9	8.5	
ブロック	北海道	6,086	84.7	6.7	2.1	2.1	0.8	0.3	0.2	0.2	0.0	0.1	2.6	12.7	1.2	9.5
	(都府県計)	10,297	66.7	14.9	5.7	3.5	1.0	0.5	0.1	0.2	0.0	0.1	7.2	26.1	2.3	8.2
	東北	2,476	72.1	14.3	4.3	2.9	0.6	0.2	0.0	0.2	-	0.0	5.2	22.7	1.5	6.4
	関東	3,199	76.7	13.0	4.9	2.8	0.9	0.3	0.1	0.2	0.1	0.2	0.9	22.4	2.0	8.8
	北陸	342	69.6	15.8	8.2	4.1	1.8	0.3	-	-	-	-	0.3	30.1	2.0	6.5
	東海	900	63.6	15.3	8.2	6.9	1.4	1.0	0.3	0.3	-	0.2	2.7	33.8	3.1	8.9
	近畿	562	37.2	10.1	2.8	1.2	-	0.2	-	-	0.2	0.2	48.0	14.8	1.9	6.6
	中国	747	56.6	20.6	6.4	4.0	1.3	0.5	-	0.4	-	0.1	9.9	33.5	2.7	7.3
	四国	402	50.2	10.0	3.7	2.2	0.7	0.2	-	-	-	-	32.8	16.9	1.4	5.7
九州	1,669	58.7	19.1	8.4	4.6	1.8	1.1	0.2	0.4	0.1	0.2	5.2	36.1	3.7	9.8	
経産牛飼養頭数（全国）	5頭未満	282	80.1	5.7	1.1	0.7	0.4	-	-	-	-	-	12.1	7.8	0.4	4.8
	10頭未満	792	81.1	6.7	1.8	0.3	-	0.1	-	-	-	-	10.1	8.8	0.4	3.8
	20頭未満	2,191	72.5	12.8	3.7	2.1	0.4	0.0	-	0.1	-	-	8.4	19.2	1.0	4.7
	30頭未満	2,554	70.7	14.1	4.9	3.2	0.7	0.2	-	0.0	-	-	6.3	23.1	1.3	5.5
	40頭未満	2,533	71.0	14.4	5.4	2.5	0.9	0.4	0.1	-	0.0	-	5.2	23.8	1.5	5.8
	50頭未満	2,091	74.1	12.5	5.0	3.4	0.8	0.3	0.2	0.1	-	-	3.4	22.4	1.6	6.7
	75頭未満	3,076	77.8	10.6	3.9	2.7	1.1	0.5	0.3	0.3	0.0	-	2.9	19.3	1.6	7.9
	100頭未満	1,198	75.2	10.4	4.7	4.1	1.2	0.8	0.1	0.5	-	0.2	2.8	22.0	2.2	9.5
	150頭未満	899	72.3	10.8	4.8	5.0	2.3	0.9	0.2	0.6	0.2	0.3	2.6	25.1	3.1	12.1
	150頭以上	664	67.5	7.7	4.4	6.5	3.3	2.6	0.9	1.7	0.6	2.3	2.7	29.8	11.0	36.0
	無回答	103	18.4	4.9	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	75.7	5.8	0.9
経産牛飼養頭数（北海道）	5頭未満	18	94.4	5.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.6	0.2	3.0
	10頭未満	41	95.1	-	2.4	-	-	-	-	-	-	-	2.4	2.4	0.1	5.0
	20頭未満	147	83.0	9.5	2.7	1.4	-	-	-	0.7	-	-	2.7	14.3	0.9	6.2
	30頭未満	325	88.3	4.9	1.8	2.2	0.6	-	-	-	-	-	2.2	9.5	0.6	6.2
	40頭未満	708	85.7	6.6	2.1	1.6	0.8	-	0.3	-	-	-	2.8	11.4	0.8	7.1
	50頭未満	961	85.1	6.8	2.4	2.1	0.5	0.2	0.2	0.1	-	-	2.6	12.3	0.9	7.3
	75頭未満	1,948	88.2	6.1	1.7	1.3	0.5	0.3	0.1	0.2	0.1	-	1.6	10.2	0.8	7.7
	100頭未満	828	84.2	8.0	1.9	2.5	0.6	0.6	0.1	0.1	-	0.1	1.8	14.0	1.2	8.7
	150頭未満	626	80.7	8.6	3.0	3.4	1.8	0.5	0.3	0.3	0.2	0.3	1.0	18.4	2.2	11.9
	150頭以上	435	77.9	5.7	2.8	4.8	2.8	1.1	0.7	1.1	0.2	0.7	2.1	20.0	3.9	19.1
	無回答	49	16.3	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	79.6	4.1	0.8
経産牛飼養頭数（都府県）	5頭未満	264	79.2	5.7	1.1	0.8	0.4	-	-	-	-	-	12.9	8.0	0.4	4.9
	10頭未満	751	80.3	7.1	1.7	0.3	-	0.1	-	-	-	-	10.5	9.2	0.4	3.8
	20頭未満	2,044	71.7	13.0	3.8	2.2	0.4	0.0	-	0.0	-	-	8.8	19.5	1.0	4.6
	30頭未満	2,229	68.1	15.4	5.3	3.4	0.7	0.2	-	0.0	-	-	6.9	25.0	1.5	5.4
	40頭未満	1,825	65.3	17.5	6.7	2.9	0.9	0.5	-	-	0.1	-	6.1	28.6	1.7	5.6
	50頭未満	1,130	64.8	17.4	7.3	4.6	1.0	0.4	0.2	0.2	-	-	4.2	31.1	2.1	6.5
	75頭未満	1,128	59.9	18.4	7.6	5.1	2.1	0.8	0.6	0.4	-	-	5.1	35.0	2.9	8.0
	100頭未満	370	55.1	15.9	10.8	7.6	2.4	1.4	-	1.4	-	0.3	5.1	39.7	4.3	10.2
	150頭未満	273	53.1	15.8	8.8	8.8	3.7	1.8	-	1.1	0.4	0.4	6.2	40.7	5.3	12.3
	150頭以上	229	47.6	11.4	7.4	9.6	4.4	5.2	1.3	2.6	1.3	5.2	3.9	48.5	24.8	49.2
	無回答	54	20.4	5.6	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	72.2	7.4	0.9

## <推定値 2>肉専用種産子率

肉専用種産子率（総出生頭数に占める肉専用種出生頭数の割合）は、本年度の調査結果に基づき次式により推定した。

$$\text{肉専用種産子率} = \frac{\text{肉専用種出生頭数}}{\text{総出生頭数}} \times 100$$

◆全体の肉専用種産子率（『0%含む平均』）は4.0%、九州（9.4%）、北陸（7.9%）、東海（7.1%）、中国（6.8%）で高く、北海道（1.8%）、四国（4.0%）で低かった。

◆経産牛飼養規模別に平均肉専用種産子率（『0%含む平均』）をみると、北海道・都府県ともに、規模の増大に伴って10～20頭未満層までは増加するが、同層を超えると漸減傾向へと転ずる動きがみられた。ただし、都府県では、平均肉専用種産子率（『0%含む平均』）は「100～150頭未満」から「150頭以上」層にかけて大きく跳ね上がっている。また、平均肉専用種産子率（『0%含む平均』）は、全ての規模階層で都府県が北海道を上回った。

Ⅲ（2）iv）肉専用種産子率

		[単位：戸、%]										
		酪農家数	1 0%	2 を20% を除く 未満 (ゼロ)	3 20% 未満	4 40% 未満	5 60% 未満	6 80% 以上	7 無回答・ 非該当	有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)	
全 体		16,383	72.2	14.3	4.1	1.7	0.5	0.4	6.8	4.0	14.5	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	84.5	10.0	1.8	0.6	0.2	0.1	2.9	1.8	10.8	
	(都府県計)	10,297	65.0	16.9	5.4	2.3	0.7	0.6	9.1	6.7	16.4	
	東 北	2,476	71.4	14.0	5.0	2.3	0.8	0.5	6.0	6.2	18.3	
	関 東	3,199	75.0	15.2	4.5	1.9	0.4	0.4	2.7	5.5	15.1	
	北 陸	342	67.5	16.4	8.5	2.9	1.5	0.9	2.3	7.9	20.5	
	東 海	900	61.1	21.0	6.2	3.8	1.7	1.1	5.1	7.1	14.4	
	近 畿	562	37.0	10.7	3.0	0.7	-	-	48.6	5.1	12.4	
	中 国	747	55.2	22.9	6.6	1.7	0.8	0.5	12.3	6.8	13.3	
	四 国	402	48.3	10.0	4.0	1.5	0.2	-	36.1	4.0	13.0	
九 州	1,669	56.0	23.2	7.5	3.4	0.8	0.8	8.3	9.4	19.9		
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	69.5	1.1	1.8	1.1	1.8	0.7	24.1	4.9	53.8	
	10 頭 未 満	792	78.9	1.9	3.2	2.7	0.3	0.9	12.2	5.7	40.6	
	20 頭 未 満	2,191	70.9	8.8	5.0	3.2	1.1	0.7	10.2	7.7	29.6	
	30 頭 未 満	2,554	69.7	13.2	6.0	2.3	0.9	0.5	7.4	6.5	23.6	
	40 頭 未 満	2,533	69.7	16.4	4.6	1.8	0.4	0.5	6.6	5.1	18.6	
	50 頭 未 満	2,091	73.6	16.2	4.3	1.2	0.5	0.2	4.1	4.1	16.5	
	75 頭 未 満	3,076	77.2	14.7	2.8	1.2	0.3	0.2	3.6	3.0	14.4	
	100 頭 未 満	1,198	74.5	18.3	3.1	0.4	0.2	-	3.6	2.9	12.1	
	150 頭 未 満	899	72.0	21.4	2.9	0.7	-	0.2	2.9	2.9	10.8	
	150 頭 以上	664	67.3	25.9	3.0	0.6	0.2	-	3.0	4.3	11.2	
無 回 答	103	15.5	5.8	-	-	-	-	78.6	2.9	10.5		
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	77.8	5.6	-	-	-	-	16.7	1.1	16.7	
	10 頭 未 満	41	95.1	-	-	2.4	-	-	2.4	1.2	55.6	
	20 頭 未 満	147	81.0	5.4	4.1	2.7	1.4	0.7	4.8	6.0	37.4	
	30 頭 未 満	325	88.3	5.2	2.5	0.6	0.9	0.3	2.2	2.8	25.5	
	40 頭 未 満	708	85.5	7.6	2.4	1.1	0.1	0.1	3.1	2.7	19.8	
	50 頭 未 満	961	84.9	8.9	2.2	0.8	0.2	0.1	2.8	2.4	16.8	
	75 頭 未 満	1,948	87.9	8.3	1.3	0.5	0.1	0.1	2.0	1.5	13.0	
	100 頭 未 満	828	84.1	12.0	1.8	0.1	0.1	-	1.9	1.6	10.9	
	150 頭 未 満	626	80.7	16.0	1.8	0.5	-	0.2	1.0	2.1	10.3	
	150 頭 以上	435	77.9	18.4	1.4	-	0.2	-	2.1	1.7	6.8	
無 回 答	49	16.3	4.1	-	-	-	-	79.6	2.0	14.5		
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	68.9	0.8	1.9	1.1	1.9	0.8	24.6	5.5	58.3	
	10 頭 未 満	751	78.0	2.0	3.3	2.7	0.3	0.9	12.8	6.1	40.4	
	20 頭 未 満	2,044	70.2	9.0	5.1	3.3	1.1	0.7	10.6	7.9	29.2	
	30 頭 未 満	2,229	66.9	14.4	6.5	2.6	0.9	0.5	8.2	7.1	23.5	
	40 頭 未 満	1,825	63.6	19.8	5.5	2.1	0.4	0.7	7.9	6.1	18.4	
	50 頭 未 満	1,130	63.9	22.4	6.0	1.5	0.7	0.4	5.1	5.7	16.4	
	75 頭 未 満	1,128	58.9	25.9	5.5	2.4	0.6	0.4	6.4	6.0	15.2	
	100 頭 未 満	370	53.0	32.4	5.9	1.1	0.3	-	7.3	6.0	13.0	
	150 頭 未 満	273	52.0	33.7	5.5	1.1	-	0.4	7.3	5.2	11.3	
	150 頭 以上	229	47.2	40.2	6.1	1.7	-	-	4.8	8.3	13.9	
無 回 答	54	14.8	7.4	-	-	-	-	77.8	3.8	9.1		

# 17 妊娠牛の販売・導入頭数

## (1) 妊娠牛の販売頭数（平成25年度）

◆平成25年度に初妊牛等の妊娠牛を販売した経営は全体の23.9%であり、その平均販売頭数（『0頭除く平均』）は6.5頭であった。また、販売しなかった経営も含めた平均販売頭数（『0頭含む平均』）は1.8頭であった。

◆地域別には、販売経営の割合、販売経営の平均販売頭数（『0頭除く平均』）ともに、北海道（割合46.7%、平均7.3頭）が都府県（割合10.4%、平均4.2頭）を大きく上回っており、非販売経営も含めた平均販売頭数（『0頭含む平均』）は北海道（3.8頭）が都府県（0.5頭）の8倍近くに及んだ。なお、非販売経営も含めた平均販売頭数（『0頭含む平均』）でみると、都府県では中国（1.2頭）、近畿（1.3頭）が多く、関東（0.3頭）が少なかった。

◆経産牛飼養規模別にみると、北海道、都府県のいずれにおいても、販売経営の割合は40～100頭未満の階層で最も高く、販売経営の平均販売頭数（『0頭除く平均』）は飼養規模の増大に伴い増加するという傾向がみられた。また、各規模階層ごとに、妊娠牛の販売状況を比較すると、大部分の階層で北海道の値が都府県の値を上回ったが、「150頭以上」層における販売経営の平均販売頭数（『0頭除く平均』）に関しては、都府県の超大規模経営の影響が推察され、都府県の値が北海道の値を上回った。

III (3) 平成25年度妊娠牛販売頭数

		[単位：戸、頭]												
		酪農家数	1 0 頭	2 1 ～ 5 頭 未 満	3 5 ～ 1 0 頭 未 満	4 1 0 ～ 2 0 頭 未 満	5 2 0 ～ 3 0 頭 未 満	6 3 0 ～ 4 0 頭 未 満	7 4 0 ～ 5 0 頭 未 満	8 5 0 頭 以 上	9 無 回 答	有効回答平均 (0を含む)	平 (0除く) 均	
全 体		16,383	60.7	12.1	6.8	3.9	0.8	0.1	0.1	0.1	15.4	1.8	6.5	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	43.5	19.4	15.4	9.3	1.9	0.3	0.2	0.2	9.8	3.8	7.3	
	(都府県計)	10,297	70.9	7.8	1.7	0.7	0.1	0.1	0.0	0.0	18.7	0.5	4.2	
	東 北	2,476	47.0	8.5	1.5	0.6	0.1	0.0	-	-	42.4	0.6	3.2	
	関 東	3,199	92.2	6.2	1.1	0.3	0.0	-	0.0	0.0	0.2	0.3	3.5	
	北 陸	342	91.5	5.8	1.5	0.3	0.6	0.3	-	-	-	0.5	5.7	
	東 海	900	79.3	6.9	2.6	1.4	-	-	-	0.1	9.7	0.6	5.0	
	近 畿	562	47.0	10.1	3.6	1.6	0.2	0.4	-	-	37.2	1.3	5.1	
	中 国	747	70.7	7.6	1.9	1.3	0.1	0.4	0.3	0.1	17.5	1.2	8.4	
	四 国	402	57.2	7.2	0.5	0.7	0.5	-	0.2	-	33.6	0.7	5.1	
九 州	1,669	68.3	10.3	2.3	0.8	0.1	-	-	-	18.2	0.6	3.4		
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	60.6	7.4	0.7	0.7	0.4	-	-	-	30.1	0.5	3.8	
	10 頭 未 満	792	63.3	5.6	1.0	0.1	0.1	-	-	-	29.9	0.3	3.0	
	20 頭 未 満	2,191	68.6	7.5	1.6	0.3	-	-	0.0	-	22.0	0.4	3.2	
	30 頭 未 満	2,554	69.7	9.1	2.0	0.8	0.1	0.0	-	-	18.3	0.5	3.7	
	40 頭 未 満	2,533	66.3	12.9	4.9	1.3	0.4	0.2	0.1	-	14.1	1.0	4.5	
	50 頭 未 満	2,091	57.8	17.6	9.4	2.7	0.3	0.0	0.0	0.1	12.0	1.7	5.0	
	75 頭 未 満	3,076	51.5	16.9	13.3	7.7	0.7	0.1	0.1	0.2	9.6	2.8	6.5	
	100 頭 未 満	1,198	50.1	14.9	11.4	11.9	2.1	0.1	0.3	0.2	9.1	3.7	8.2	
	150 頭 未 満	899	57.4	9.8	10.1	9.7	3.8	0.4	-	0.3	8.5	3.8	10.1	
	150 頭 以上	664	60.1	5.4	8.3	8.7	3.8	1.2	0.6	0.8	11.1	5.0	15.4	
無 回 答	103	8.7	3.9	1.0	1.9	-	-	-	-	84.5	2.7	6.1		
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	55.6	11.1	5.6	11.1	5.6	-	-	-	11.1	3.7	9.8	
	10 頭 未 満	41	43.9	19.5	4.9	2.4	-	-	-	-	29.3	1.6	4.2	
	20 頭 未 満	147	55.1	16.3	6.8	2.0	-	-	-	-	19.7	1.2	4.0	
	30 頭 未 満	325	53.2	21.2	7.1	3.4	0.3	0.3	-	-	14.5	1.8	4.6	
	40 頭 未 満	708	47.6	24.6	13.0	3.2	0.8	0.3	0.3	-	10.2	2.4	5.1	
	50 頭 未 満	961	40.9	26.5	17.9	4.8	0.6	0.1	0.1	0.2	8.8	3.0	5.4	
	75 頭 未 満	1,948	40.2	20.6	19.3	11.1	1.0	0.2	0.1	0.2	7.3	3.8	6.7	
	100 頭 未 満	828	39.7	17.8	15.5	15.7	2.9	-	0.2	0.2	8.0	4.7	8.4	
	150 頭 未 満	626	48.4	10.7	13.4	13.3	5.4	0.5	-	0.5	7.8	5.1	10.7	
	150 頭 以上	435	50.8	6.7	11.7	11.7	5.3	1.4	0.7	0.7	11.0	6.2	14.4	
無 回 答	49	4.1	4.1	2.0	4.1	-	-	-	-	85.7	5.6	7.8		
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	61.0	7.2	0.4	-	-	-	-	-	31.4	0.2	2.1	
	10 頭 未 満	751	64.3	4.8	0.8	-	0.1	-	-	-	30.0	0.2	2.7	
	20 頭 未 満	2,044	69.5	6.9	1.3	0.1	-	-	0.0	-	22.1	0.3	3.0	
	30 頭 未 満	2,229	72.1	7.3	1.3	0.4	0.0	-	-	-	18.8	0.4	3.2	
	40 頭 未 満	1,825	73.6	8.3	1.8	0.5	0.2	0.1	-	-	15.6	0.5	3.7	
	50 頭 未 満	1,130	72.1	10.1	2.2	0.9	0.1	-	-	-	14.6	0.6	3.6	
	75 頭 未 満	1,128	71.0	10.5	3.0	1.7	0.1	0.1	0.1	0.1	13.4	0.9	4.8	
	100 頭 未 満	370	73.2	8.6	2.4	3.2	0.3	0.3	0.3	-	11.6	1.1	6.6	
	150 頭 未 満	273	78.0	7.7	2.6	1.5	-	0.4	-	-	9.9	0.7	5.2	
	150 頭 以上	229	77.7	3.1	1.7	3.1	0.9	0.9	0.4	0.9	11.4	2.7	21.6	
無 回 答	54	13.0	3.7	-	-	-	-	-	-	83.3	0.4	2.0		

(2) 妊娠牛の導入頭数(平成25年度)

◆平成25年度に初妊牛等の妊娠牛を導入した経営は全体の32.1%であり、その平均導入頭数(『0頭除く平均』)は8.8頭であった。また、導入しなかった経営も含めた平均導入頭数(『0頭含む平均』)は3.2頭であった。

◆地域別にみると、妊娠牛導入経営の割合に関しては北陸(55.9%)、中国(45.5%)、東海(44.0%)等が高く、北海道(18.6%)、東北(33.1%)等が低かった。また、導入経営の平均導入頭数(『0頭除く平均』)に関しては東海(12.7頭)、北海道(11.4頭)、関東(9.5頭)等が多く、東北(5.7頭)、北陸(6.0頭)等が少なかった。また、非導入経営も含めた平均導入頭数(『0頭含む平均』)により総合的にみると、東海(5.9頭)が断然多く、北海道(2.5頭)、東北(2.6頭)が少なかった。

◆経産牛飼養規模別にみると、北海道、都府県のいずれにおいても、導入経営の割合、導入経営の平均導入頭数(『0頭除く平均』)は、概ね飼養規模の増大に伴い増加するという傾向をみせた。また、各規模階層ごとに、妊娠牛の導入状況を比較すると、導入経営の割合に関しては全階層で都府県が北海道を大きく上回ったが、導入経営の平均導入頭数(『0頭除く平均』)に関しては50頭未満の階層ではほとんど差がなく、50頭を超える辺りから徐々に都府県が北海道を上回るようになっている。

III (3) 平成25年度妊娠牛導入頭数

	酪農家数	[単位:戸、頭]									有効回答平均 (0含む)	平均 (0除く)	
		1 0 頭	2 1 5 頭 未 満	3 5 1 0 頭 未 満	4 1 0 2 0 頭 未 満	5 2 0 3 0 頭 未 満	6 3 0 4 0 頭 未 満	7 4 0 5 0 頭 未 満	8 5 0 頭 以 上	9 無 回 答			
全 体	16,383	54.8	18.9	6.8	3.9	1.0	0.5	0.3	0.7	13.1	3.2	8.8	
ブ ロ ッ ク	北 海 道 (都府県計)	6,086 10,297	65.7 48.4	8.7 25.0	4.6 8.1	3.1 4.4	0.9 1.0	0.4 0.6	0.3 0.2	0.6 0.8	15.7 11.6	2.5 3.7	11.4 8.1
	東 北	2,476	41.2	23.6	5.7	2.7	0.4	0.2	0.1	0.4	25.7	2.6	5.7
	関 東	3,199	59.3	24.9	8.6	4.2	1.2	0.6	0.3	0.9	0.2	3.8	9.5
	北 陸	342	43.9	35.1	11.4	6.4	1.8	0.9	-	0.3	0.3	3.4	6.0
	東 海	900	50.4	20.4	11.2	6.6	2.4	0.9	0.7	1.8	5.6	5.9	12.7
	近 畿	562	30.2	23.7	6.2	4.3	0.9	0.9	-	1.1	32.7	4.5	8.2
	中 国	747	43.9	30.1	9.4	3.7	0.4	0.7	0.3	0.9	10.6	3.5	6.9
	四 国	402	41.8	26.6	8.7	3.0	-	1.0	-	1.0	17.9	3.7	7.6
	九 州	1,669	47.7	25.3	8.1	6.2	1.4	0.6	0.2	0.6	9.7	3.2	6.9
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	55.3	17.7	0.4	-	-	-	-	0.7	25.9	1.3	5.3
	10 頭 未 満	792	53.3	23.9	0.8	0.1	-	-	-	-	22.0	0.6	1.9
	20 頭 未 満	2,191	51.8	31.8	2.8	0.2	-	-	-	-	13.5	1.0	2.5
	30 頭 未 満	2,554	50.0	28.7	8.1	1.5	0.1	-	0.0	-	11.5	1.6	3.6
	40 頭 未 満	2,533	53.3	21.7	9.9	2.9	0.3	0.0	-	-	11.8	1.7	4.4
	50 頭 未 満	2,091	57.1	17.6	9.1	3.9	0.1	0.0	0.2	0.0	11.9	1.9	5.3
	75 頭 未 満	3,076	60.8	10.5	7.2	7.3	1.0	0.5	0.1	0.2	12.3	2.5	8.1
	100 頭 未 満	1,198	58.8	7.6	7.7	8.1	3.8	0.8	0.1	0.3	12.9	3.4	10.5
	150 頭 未 満	899	59.5	7.8	5.1	7.2	5.5	3.3	1.4	1.2	8.9	5.9	17.1
	150 頭 以上	664	48.9	4.2	4.5	7.2	3.5	4.2	3.5	14.5	9.5	29.4	64.0
	無 回 答	103	13.6	2.9	1.0	-	-	-	-	-	81.6	2.4	9.0
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	77.8	5.6	-	-	-	-	-	-	16.7	0.3	4.0
	10 頭 未 満	41	51.2	14.6	2.4	-	-	-	-	-	31.7	0.6	2.3
	20 頭 未 満	147	68.0	12.2	0.7	-	-	-	-	-	19.0	0.4	2.3
	30 頭 未 満	325	63.4	11.1	3.1	1.8	0.9	-	0.3	-	19.4	1.3	6.0
	40 頭 未 満	708	63.3	11.6	5.5	1.3	0.3	0.1	-	-	17.9	1.0	4.5
	50 頭 未 満	961	65.9	11.9	5.6	1.6	-	-	0.4	0.1	14.6	1.3	5.7
	75 頭 未 満	1,948	68.9	8.0	4.3	3.5	0.5	0.2	-	0.1	14.5	1.4	7.3
	100 頭 未 満	828	65.1	5.9	6.0	4.0	1.6	0.5	-	0.4	16.5	2.1	9.4
	150 頭 未 満	626	67.6	7.5	3.7	5.0	2.6	1.3	1.1	0.8	10.5	3.6	14.5
	150 頭 以上	435	61.1	4.4	4.4	6.0	2.5	1.8	1.8	5.7	12.2	13.2	43.3
	無 回 答	49	12.2	2.0	-	-	-	-	-	-	85.7	0.3	2.0
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	53.8	18.6	0.4	-	-	-	-	0.8	26.5	1.4	5.3
	10 頭 未 満	751	53.4	24.4	0.7	0.1	-	-	-	-	21.4	0.6	1.9
	20 頭 未 満	2,044	50.6	33.2	2.9	0.2	-	-	-	-	13.1	1.0	2.5
	30 頭 未 満	2,229	48.0	31.3	8.9	1.4	-	-	-	-	10.4	1.6	3.4
	40 頭 未 満	1,825	49.4	25.6	11.7	3.6	0.3	-	-	-	9.5	2.0	4.3
	50 頭 未 満	1,130	49.6	22.6	12.0	5.9	0.3	0.1	-	-	9.6	2.3	5.1
	75 頭 未 満	1,128	46.8	14.8	12.4	14.0	2.0	1.0	0.2	0.3	8.6	4.2	8.7
	100 頭 未 満	370	44.9	11.4	11.4	17.3	8.6	1.4	0.3	-	4.9	6.1	11.5
	150 頭 未 満	273	41.0	8.4	8.4	12.5	12.1	8.1	2.2	2.2	5.1	11.0	19.4
	150 頭 以上	229	25.8	3.9	4.8	9.6	5.2	8.7	6.6	31.0	4.4	57.7	79.0
	無 回 答	54	14.8	3.7	1.9	-	-	1.9	-	-	77.8	3.6	10.8

## 18 廃用時平均産次数（平成25年度）

◆全体的にみると、3産未満が12.1%、3～4産未満が38.3%、4～5産未満が25.4%、5産以上が16.9%を占めており、平均廃用時産次数は3.7産であった。

◆地域間で平均廃用時産次数を比較すると、他地域に比べて北海道（4.0産）、四国（3.9産）、東北（3.8産）で高く、東海（3.2産）で低かった。なお、北海道、四国、東北では他地域に比べて5産以上の割合（北海道20.9%、四国21.4%、東北19.9%）が高く、東海では3産未満の割合（23.7%）が高かった。

◆経産牛飼養規模別には、10頭未満層の小規模層を除けば、北海道、都府県のいずれにおいても、飼養規模の増大に伴って4産未満の割合が上昇し、5産以上の割合が低下するという傾向がみられた。このため、両地域の平均廃用時産次数は、10頭を超えると、飼養規模の増大とともに漸減している。また、各規模階層ごとに、北海道・都府県間で平均廃用時産次数を比較すると、全ての階層で北海道が都府県を上回った。

III（5）平成25年度廃用時平均産次数

[単位：戸、%、産]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	有効回答平均 (0含む)	
		2産未満	2 ～ 3産未満	3 ～ 4産未満	4 ～ 5産未満	5 ～ 6産未満	6 ～ 7産未満	7産以上	無回答		
全 体	16,383	2.0	10.1	38.3	25.4	10.7	4.1	2.1	7.5	3.7	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	0.9	6.1	41.8	25.4	12.6	5.5	2.8	4.9	4.0
	(都府県計)	10,297	2.6	12.4	36.3	25.3	9.5	3.2	1.7	9.0	3.6
	東 北	2,476	2.8	10.5	28.2	25.8	12.3	4.9	2.7	12.7	3.8
	関 東	3,199	1.2	12.7	42.5	27.4	9.3	3.1	1.6	2.3	3.6
	北 陸	342	2.3	15.5	36.0	28.9	12.9	2.9	0.9	0.6	3.6
	東 海	900	11.0	12.7	36.8	22.1	9.8	2.7	0.8	4.2	3.2
	近 畿	562	1.6	11.4	29.2	19.6	5.5	2.1	0.9	29.7	3.5
	中 国	747	1.9	12.2	34.0	20.5	8.0	1.7	0.7	21.0	3.5
	四 国	402	0.5	8.5	32.1	26.4	13.4	4.0	4.0	11.2	3.9
九 州	1,669	1.7	15.3	40.5	25.5	6.1	2.1	1.1	7.6	3.5	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	7.4	9.6	17.7	21.3	10.3	4.6	3.2	25.9	3.6
	10頭未満	792	5.7	6.3	24.6	22.1	12.0	6.1	2.7	20.6	3.7
	20頭未満	2,191	3.3	9.5	29.7	26.7	13.1	5.1	3.2	9.5	3.8
	30頭未満	2,554	2.0	10.2	35.1	27.7	11.4	4.1	2.7	6.9	3.8
	40頭未満	2,533	1.3	9.1	37.6	27.7	11.3	4.3	1.7	6.9	3.8
	50頭未満	2,091	1.2	9.2	39.9	26.5	11.7	3.9	2.2	5.3	3.8
	75頭未満	3,076	1.2	9.4	41.8	26.2	10.9	4.2	1.8	4.5	3.8
	100頭未満	1,198	0.9	10.7	47.4	24.0	8.4	3.5	1.0	4.1	3.7
	150頭未満	899	1.1	13.6	52.3	20.4	6.1	2.0	1.2	3.3	3.6
	150頭以上	664	1.8	20.9	55.1	14.2	3.0	0.6	0.5	3.9	3.3
無 回 答	103	1.9	4.9	9.7	3.9	1.0	1.9	1.0	75.7	3.5	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	-	5.6	16.7	33.3	22.2	-	11.1	11.1	4.5
	10頭未満	41	-	-	19.5	26.8	22.0	4.9	4.9	22.0	4.4
	20頭未満	147	3.4	2.0	19.7	25.9	20.4	6.8	11.6	10.2	4.5
	30頭未満	325	2.2	4.6	25.5	25.5	17.5	10.2	6.8	7.7	4.3
	40頭未満	708	1.1	2.7	33.1	30.5	16.7	8.2	3.1	4.7	4.2
	50頭未満	961	0.8	5.3	38.3	27.0	14.7	6.6	3.4	4.0	4.1
	75頭未満	1,948	0.8	5.0	41.9	27.0	13.1	5.4	2.6	4.2	4.0
	100頭未満	828	0.2	6.3	48.6	25.6	10.6	4.7	0.8	3.1	3.8
	150頭未満	626	0.6	10.4	53.7	20.9	7.2	2.9	1.4	2.9	3.7
	150頭以上	435	0.7	15.9	60.5	14.5	3.7	0.9	0.7	3.2	3.4
無 回 答	49	-	4.1	6.1	4.1	2.0	2.0	2.0	79.6	4.3	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	8.0	9.8	17.8	20.5	9.5	4.9	2.7	26.9	3.5
	10頭未満	751	6.0	6.7	24.9	21.8	11.5	6.1	2.5	20.5	3.7
	20頭未満	2,044	3.3	10.0	30.4	26.8	12.5	4.9	2.6	9.4	3.7
	30頭未満	2,229	1.9	11.0	36.5	28.0	10.5	3.2	2.1	6.7	3.7
	40頭未満	1,825	1.4	11.6	39.3	26.6	9.3	2.8	1.2	7.8	3.6
	50頭未満	1,130	1.6	12.6	41.2	26.1	9.1	1.7	1.2	6.5	3.6
	75頭未満	1,128	2.0	17.0	41.7	24.7	7.0	2.2	0.4	5.0	3.5
	100頭未満	370	2.4	20.5	44.9	20.3	3.5	0.8	1.4	6.2	3.3
	150頭未満	273	2.2	20.9	49.1	19.0	3.7	-	0.7	4.4	3.3
	150頭以上	229	3.9	30.6	45.0	13.5	1.7	-	-	5.2	3.0
無 回 答	54	3.7	5.6	13.0	3.7	-	1.9	-	72.2	2.9	

# 19 出荷乳量

## (1) 総出荷乳量（平成25年度）

◆平成25年度における総出荷乳量の戸数分布をみると、200トン未満の経営（30.3%）、200～400トン未満の経営（32.5%）、400トン以上の経営（33.9%）がそれぞれ3割強を占めており、平均総出荷乳量は439.3トンであった。

◆地域別には、北海道・都府県間の差異が著しく、200トン未満の割合（北海道10.5%、都府県41.9%）は都府県が北海道を、400トン以上の割合（北海道57.6%、都府県20.1%）は北海道が都府県をそれぞれ大きく上回った。また、平均総出荷乳量は、北海道（612.8トン）が都府県（331.3トン）の1.8倍であった。なお、平均総出荷乳量で見ると、都府県では東海（424.8トン）、九州（384.0トン）、中国（376.8トン）が多く、東北（233.4トン）、北陸（252.5トン）が少なかった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県の「5頭未満」を除けば、規模の増大に伴って平均総出荷乳量も増加するという傾向が明瞭にみられた。また、北海道・都府県間で飼養規模階層別に平均総出荷乳量を比較すると、「5頭未満」を除く全階層で都府県の値が北海道の値を上回った。

III (6) 平成25年度総出荷乳量

[単位：戸、%、トン]

	酪農家数	出荷乳量階層																有効回答平均 (0含む)	
		1 50 トン 未満	2 150 00 トン 未満	3 110 00 トン 未満	4 210 00 トン 未満	5 220 00 トン 未満	6 320 00 トン 未満	7 330 00 トン 未満	8 430 00 トン 未満	9 440 00 トン 未満	10 540 00 トン 未満	11 550 00 トン 未満	12 650 00 トン 未満	13 760 00 トン 未満	14 870 00 トン 未満	15 800 00 トン 以上	16 無 回 答		17 計 300 00 トン 以上 小
全	16,383	4.4	7.7	9.1	9.1	9.2	8.9	8.0	6.4	5.6	4.2	3.4	2.9	4.1	3.2	10.5	3.3	48.4	439.3
北海道	6,086	0.9	1.8	3.2	4.6	6.2	8.3	8.6	8.7	8.1	6.9	5.7	4.9	7.2	5.7	19.1	0.1	74.9	612.8
(都府県計)	10,297	6.4	11.2	12.5	11.8	11.0	9.2	7.7	5.1	4.2	2.7	2.1	1.7	2.2	1.7	5.5	5.1	32.8	331.3
東	2,476	10.3	14.6	12.9	10.3	8.6	7.2	5.9	3.4	2.8	1.8	1.5	0.7	1.3	0.7	2.1	16.0	20.2	233.4
関	3,199	4.9	11.1	13.8	13.0	12.6	10.3	8.2	5.6	4.8	2.7	1.9	1.8	1.9	1.6	5.8	0.1	34.2	347.0
北	342	6.7	10.2	15.8	12.3	15.2	8.8	9.6	4.7	5.6	2.6	2.6	1.8	1.8	0.9	1.2	0.3	30.7	252.5
東	900	5.7	7.8	9.7	9.7	10.9	9.4	10.6	5.8	4.9	4.4	3.1	2.2	3.2	2.1	9.4	1.1	45.8	424.8
海	562	8.9	11.4	14.4	11.0	10.9	12.5	6.2	5.9	4.1	1.6	2.1	2.1	1.8	1.6	5.0	0.5	30.4	309.9
中	747	5.5	9.8	13.0	12.7	11.8	9.9	7.4	5.2	4.4	2.4	1.9	1.7	2.0	2.5	7.4	2.4	34.9	376.8
国	402	7.2	14.4	13.7	13.4	10.0	11.4	6.0	4.0	2.5	3.7	3.5	1.5	2.2	1.7	4.7	-	29.9	313.8
四	1,669	3.1	8.4	9.2	12.1	10.6	8.1	8.5	6.2	4.6	3.2	2.6	2.6	4.0	3.1	8.0	5.8	42.7	384.2
九	282	78.7	3.2	0.4	0.4	0.7	0.4	-	0.4	-	-	-	-	0.4	0.4	-	0.4	14.9	41.7
5頭未満	792	45.1	42.6	1.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.9	-	50.6
10頭未満	2,191	3.6	37.7	42.4	9.8	0.6	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.7	-	106.1
20頭未満	2,554	0.6	2.4	18.2	38.6	28.2	6.8	0.7	0.2	0.1	-	-	-	-	-	-	4.2	1.0	184.5
30頭未満	2,533	0.3	0.5	2.0	9.7	24.8	34.3	20.2	4.7	0.9	0.2	-	-	0.0	-	-	2.6	26.0	263.8
40頭未満	2,091	0.3	0.3	0.5	1.7	5.1	14.8	28.1	25.1	15.6	4.8	1.0	0.3	0.2	0.0	0.0	2.2	75.1	346.3
50頭未満	3,076	0.0	0.2	0.2	0.2	1.0	2.8	6.2	12.1	17.6	17.7	15.4	11.3	10.7	3.0	0.5	1.1	94.5	480.4
75頭未満	1,198	0.1	-	0.2	0.1	-	0.7	0.4	1.8	1.7	3.2	4.8	8.6	24.1	30.1	23.2	1.1	97.9	700.6
100頭未満	899	-	0.1	-	-	-	-	-	-	0.4	0.3	1.0	1.6	3.8	7.3	85.2	0.2	99.7	1,008.2
150頭未満	664	-	-	-	0.2	-	0.2	-	-	0.2	0.2	-	0.2	0.3	0.3	98.0	0.6	99.1	2,478.0
150頭以上	103	24.3	5.8	4.9	1.9	6.8	5.8	2.9	7.8	1.9	1.9	3.9	1.0	4.9	1.0	15.5	9.7	40.8	590.5
無回答	18	61.1	11.1	-	5.6	5.6	-	-	5.6	-	-	-	-	5.6	-	-	5.6	11.1	104.1
5頭未満	41	61.0	36.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.4	-	46.1
10頭未満	147	10.2	38.1	46.9	3.4	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.7	-	95.7
20頭未満	325	0.6	5.5	26.8	39.1	20.0	5.5	1.2	-	0.6	-	-	-	-	-	-	0.6	1.8	172.3
30頭未満	708	-	1.1	3.2	15.8	29.1	29.9	15.1	4.0	1.0	0.4	-	-	-	-	-	0.3	20.5	251.5
40頭未満	961	-	0.4	0.9	2.8	7.6	20.6	27.0	21.7	12.0	4.9	1.1	0.4	0.5	-	-	-	67.6	334.6
50頭未満	1,948	-	0.2	0.2	0.3	1.3	3.4	7.8	13.7	17.7	16.9	14.2	10.5	10.3	3.0	0.6	-	94.6	472.7
75頭未満	828	0.1	-	0.1	0.1	-	0.8	0.4	1.9	1.9	4.0	5.8	9.2	24.0	28.6	22.8	0.1	98.7	691.7
100頭未満	626	-	-	-	-	-	-	-	-	0.6	0.3	1.1	2.1	4.5	8.0	83.4	-	100.0	994.8
150頭未満	435	-	-	-	-	-	0.2	-	-	0.2	0.2	-	0.2	0.5	0.2	98.4	-	99.8	2,274.2
150頭以上	49	6.1	-	2.0	2.0	8.2	10.2	4.1	12.2	2.0	4.1	6.1	2.0	8.2	2.0	28.6	2.0	69.4	977.6
無回答	264	79.9	2.7	0.4	-	0.4	0.4	-	-	-	-	-	-	0.4	-	0.4	15.5	0.8	36.9
5頭未満	751	44.2	42.9	1.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.3	-	50.8
10頭未満	2,044	3.1	37.7	42.1	10.3	0.6	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.1	-	106.9
20頭未満	2,229	0.6	1.9	17.0	38.6	29.4	7.0	0.6	0.2	0.0	-	-	-	-	-	-	4.7	0.9	186.3
30頭未満	1,825	0.4	0.2	1.5	7.3	23.1	35.9	22.2	4.9	0.8	0.1	-	0.1	-	0.1	-	3.5	28.1	268.8
40頭未満	1,130	0.5	0.2	0.2	0.7	3.0	9.8	29.0	27.9	18.7	4.7	0.8	0.3	-	0.1	0.1	4.1	81.5	356.7
50頭未満	1,128	0.1	0.3	0.1	0.1	0.4	1.8	3.6	9.2	17.5	19.1	17.5	12.7	11.4	3.0	0.2	3.1	94.2	494.3
75頭未満	370	-	-	0.3	-	-	0.3	0.5	1.4	1.1	1.4	2.7	7.3	24.3	33.5	24.1	3.2	96.2	721.1
100頭未満	273	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	0.4	0.7	0.4	2.2	5.9	89.4	0.7	98.9	1,039.2
150頭未満	229	-	-	-	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	0.4	97.4	1.7	97.8	2,872.0	
150頭以上	54	40.7	11.1	7.4	1.9	5.6	1.9	1.9	3.7	1.9	-	-	-	1.9	-	3.7	16.7	14.8	177.6

(2) 1頭当たり平均乳量 (平成25年度)

- ◆平成25年度における1頭当たり平均乳量の戸数分布をみると、7,000 kg未満の経営が27.4%、7,000~9,000 kg未満の経営が45.3%、9,000 kg以上の経営が23.3%を占めており、平均1頭当たり乳量は8,172.7 kgであった。
- ◆地域間で平均1頭当たり乳量を比較すると、中国(8,745.2 kg)、東海(8,426.8 kg)、近畿(8,369.0 kg)が高く、東北(7,808.9 kg)が低かった。
- ◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれにおいても、概ね規模の増大に伴って平均1頭当たり乳量も増加するという傾向がみられた。ただし、都府県では、平均1頭当たり乳量は、150頭を超えると逆に僅かながら低下している。5~150頭未満の各規模階層では都府県の平均1頭当たり乳量が北海道のそれを上回っているが、「150頭以上」では僅かながら北海道が都府県を上回っている。

III (6) 平成25年度1頭当たり平均乳量

[単位: 戸、%、kg]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	有効回答平均 (0含む)	
		5000kg未満	6500kg未満	7600kg未満	8700kg未満	9800kg未満	19万0000kg未満	1万kg以上	無回答・非該当		
全体	16,383	5.1	7.5	14.8	22.0	23.3	15.2	8.1	3.9	8,172.7	
プロック	北海道	6,086	5.6	8.1	16.2	22.1	22.3	15.9	8.7	1.1	8,130.8
	(都府県計)	10,297	4.9	7.2	14.0	21.8	23.9	14.8	7.8	5.6	8,221.0
	東北	2,476	6.1	7.7	13.4	19.5	19.6	11.6	5.8	16.3	7,808.9
	関東	3,199	4.7	8.0	16.5	24.4	24.1	15.0	7.2	0.1	8,205.8
	北陸	342	4.1	4.1	16.1	22.5	27.2	17.0	8.8	0.3	8,104.1
	東海	900	4.8	4.8	12.2	22.7	27.0	17.0	10.0	1.6	8,426.8
	近畿	562	4.4	6.9	12.5	22.8	23.3	16.2	8.7	5.2	8,369.0
	中国	747	3.6	5.9	9.1	18.1	24.9	20.3	15.1	2.9	8,745.2
	四国九州	402	6.0	10.4	13.2	23.4	21.6	13.9	10.0	1.5	8,172.1
九州	1,669	4.0	6.7	13.4	20.8	27.7	15.0	6.5	5.9	8,235.8	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	15.2	12.8	11.0	14.2	10.3	7.1	8.9	20.6	6,916.8
	10頭未満	792	12.1	14.3	18.2	17.0	12.8	6.3	8.5	10.9	7,091.1
	20頭未満	2,191	8.8	12.5	18.3	23.1	15.4	9.9	6.3	5.7	7,297.9
	30頭未満	2,554	5.8	9.0	18.7	22.8	21.5	11.7	6.3	4.2	7,570.1
	40頭未満	2,533	4.2	7.7	16.2	22.5	26.5	13.7	6.6	2.6	7,782.6
	50頭未満	2,091	3.7	5.5	14.9	24.5	26.4	15.8	7.0	2.2	7,930.8
	75頭未満	3,076	3.0	6.0	13.4	24.5	24.9	17.5	9.5	1.1	8,058.3
	100頭未満	1,198	3.3	4.3	10.9	18.5	29.4	21.8	10.7	1.1	8,270.3
	150頭未満	899	2.8	2.7	8.1	18.6	29.3	26.3	12.1	0.2	8,477.3
	150頭以上	664	2.4	2.6	5.0	16.0	29.2	29.7	14.6	0.6	8,712.1
無回答	103	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	22.2	-	5.6	11.1	5.6	-	5.6	50.0	5,895.4
	10頭未満	41	29.3	19.5	9.8	17.1	4.9	14.6	2.4	2.4	6,450.4
	20頭未満	147	21.8	18.4	17.0	23.1	8.2	8.2	2.7	0.7	6,408.6
	30頭未満	325	13.5	15.7	25.5	19.4	13.8	5.8	5.5	0.6	6,931.8
	40頭未満	708	7.9	14.5	22.2	18.9	21.0	10.0	5.1	0.3	7,303.9
	50頭未満	961	5.5	8.8	20.0	26.6	19.8	11.6	7.7	-	7,627.9
	75頭未満	1,948	3.6	7.9	16.6	25.9	22.0	15.0	9.1	-	7,881.1
	100頭未満	828	3.9	4.8	13.8	19.3	26.1	21.9	10.1	0.1	8,156.5
	150頭未満	626	3.4	3.2	10.2	18.1	30.4	24.3	10.5	-	8,350.0
	150頭以上	435	3.0	1.8	5.3	17.2	28.5	28.7	15.4	-	8,714.4
無回答	49	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	14.8	13.6	11.4	14.4	10.6	7.6	9.1	18.6	6,959.9
	10頭未満	751	11.2	14.0	18.6	17.0	13.2	5.9	8.8	11.3	7,129.7
	20頭未満	2,044	7.9	12.0	18.4	23.1	15.9	10.0	6.6	6.1	7,367.6
	30頭未満	2,229	4.7	8.0	17.7	23.3	22.6	12.6	6.5	4.7	7,669.3
	40頭未満	1,825	2.8	5.0	13.9	23.9	28.7	15.1	7.2	3.5	7,978.7
	50頭未満	1,130	2.1	2.6	10.6	22.7	32.0	19.5	6.4	4.1	8,201.7
	75頭未満	1,128	1.9	2.7	7.8	22.3	30.1	21.9	10.3	3.1	8,379.4
	100頭未満	370	2.2	3.0	4.6	16.8	36.8	21.6	11.9	3.2	8,534.2
	150頭未満	273	1.5	1.5	3.3	19.8	26.7	30.8	15.8	0.7	8,773.1
	150頭以上	229	1.3	3.9	4.4	13.5	30.6	31.4	13.1	1.7	8,708.6
無回答	54	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	

## 20 平均分娩間隔（平成25年度）

◆全体的にみると、平成25年度の平均分娩間隔に関して回答のあった酪農経営は83.6%であり、13.1%が400日未満、48.7%が400～450日未満、21.8%が450日以上であった。また、全酪農経営平均の分娩間隔は425.8日であった。

◆地域間で平均分娩間隔を比較すると、他地域に比べて東海（418.7日）、関東（423.3日）、四国（426.6日）で短く、九州（433.2日）、中国（431.4日）、近畿（434.0日）で長かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、北海道・都府県ともに、各規模層には大きな差異はなかった。

Ⅲ（10）平成25年度平均分娩間隔日数

[単位：戸、日]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	有効回答平均 (0含む)	
		250日未満	未2満50日	未3満0日	未3満5日	未4満0日	未4満5日	500日以上	無回答		
全体	16,383	-	0.0	1.0	12.1	48.7	17.9	3.9	16.5	425.8	
北海道 (都府県計)	6,086	-	-	0.6	12.7	59.1	17.3	2.2	8.2	425.0	
	10,297	-	0.0	1.2	11.7	42.6	18.2	5.0	21.3	426.4	
	2,476	-	-	1.3	12.9	34.4	15.7	5.1	30.6	425.3	
	3,199	-	-	1.5	13.5	49.8	19.2	4.7	11.2	423.3	
	342	-	-	1.5	12.6	51.8	26.3	6.4	1.5	429.2	
	900	-	0.1	0.9	13.9	42.3	11.9	3.2	27.7	418.7	
	562	-	-	0.9	6.4	26.2	13.3	4.4	48.8	434.0	
	747	-	-	0.9	7.1	43.4	18.2	4.7	25.7	431.4	
	402	-	-	1.2	10.7	46.0	16.2	5.5	20.4	426.6	
九州	1,669	-	-	0.7	9.3	43.4	23.7	6.1	16.8	433.2	
経産牛飼養頭数 (全国)	5頭未満	282	-	0.4	1.1	8.5	28.7	16.3	4.6	40.4	427.1
	10頭未満	792	-	-	1.4	11.1	31.6	15.5	6.6	33.8	427.1
	20頭未満	2,191	-	-	1.5	12.6	36.9	17.5	6.6	25.0	426.1
	30頭未満	2,554	-	-	1.2	11.8	41.9	19.2	5.3	20.6	428.0
	40頭未満	2,533	-	-	0.9	13.8	44.5	20.1	4.2	16.6	426.3
	50頭未満	2,091	-	-	1.3	12.2	51.9	19.8	3.3	11.6	425.9
	75頭未満	3,076	-	-	0.6	11.3	57.1	18.3	3.2	9.6	426.7
	100頭未満	1,198	-	-	0.6	11.7	64.4	14.8	1.4	7.2	423.1
	150頭未満	899	-	-	0.4	12.5	64.7	15.9	0.6	5.9	421.9
	150頭以上	664	-	-	0.9	12.3	66.6	11.0	0.8	8.4	419.9
	無回答	103	-	-	-	2.9	8.7	3.9	-	84.5	427.9
経産牛飼養頭数 (北海道)	5頭未満	18	-	-	-	5.6	44.4	5.6	11.1	33.3	428.4
	10頭未満	41	-	-	-	19.5	31.7	12.2	2.4	34.1	423.7
	20頭未満	147	-	-	0.7	21.1	39.5	12.9	5.4	20.4	420.3
	30頭未満	325	-	-	1.5	13.8	48.3	20.3	3.4	12.6	426.0
	40頭未満	708	-	-	0.6	15.3	50.1	20.3	3.2	10.5	426.4
	50頭未満	961	-	-	0.9	13.5	56.0	20.0	2.5	7.1	426.0
	75頭未満	1,948	-	-	0.3	11.4	60.9	18.0	2.4	7.0	426.7
	100頭未満	828	-	-	0.5	10.7	67.1	14.9	1.3	5.4	423.4
	150頭未満	626	-	-	0.5	11.8	66.9	16.5	0.3	4.0	422.1
	150頭以上	435	-	-	0.9	14.0	68.7	11.3	0.9	4.1	420.4
	無回答	49	-	-	-	2.0	12.2	2.0	-	83.7	420.4
経産牛飼養頭数 (都府県)	5頭未満	264	-	0.4	1.1	8.7	27.7	17.0	4.2	40.9	427.0
	10頭未満	751	-	-	1.5	10.7	31.6	15.7	6.8	33.8	427.3
	20頭未満	2,044	-	-	1.5	11.9	36.7	17.9	6.7	25.3	426.6
	30頭未満	2,229	-	-	1.1	11.5	40.9	19.0	5.6	21.8	428.3
	40頭未満	1,825	-	-	1.0	13.2	42.2	20.0	4.6	19.0	426.3
	50頭未満	1,130	-	-	1.6	11.2	48.4	19.6	3.9	15.4	425.8
	75頭未満	1,128	-	-	1.0	11.1	50.5	18.9	4.4	14.1	426.6
	100頭未満	370	-	-	0.8	13.8	58.1	14.6	1.6	11.1	422.6
	150頭未満	273	-	-	0.4	13.9	59.7	14.7	1.1	10.3	421.6
	150頭以上	229	-	-	0.9	9.2	62.4	10.5	0.4	16.6	419.0
	無回答	54	-	-	-	3.7	5.6	5.6	-	85.2	435.4

## 2 1 今後の生乳出荷予定

### (1) 平成 26 年度出荷予定 (対前年度)

◆平成 25 年度との比較で、26 年度の出荷乳量を『増やす』予定の経営は全体の 30.7%、『減らす』という経営 (10.5%) を 20.2 ポイント上回った。生乳出荷に対する拡大意向 (『増やす』) と縮小意向 (『減らす』) の差を一種の業況指標 (『DI』) とみなし、生乳生産が拡大局面にあるか、縮小局面にあるかを推定する指標と考えると、平成 25 年度から 26 年度に向けての生乳生産は拡大局面にあると推定することができる。なお、26 年度の出荷予定で最も多かったのは、25 年度と『同程度』という予定 (56.3%) で、全体の 6 割近くに及んだ。

◆地域別にみると、『減らす』割合より『増やす』割合の方が地域間較差が大きく、『増やす』割合の高かった九州 (38.4%)、北海道 (36.4%) で業況指標 (『DI』: 九州 30.1 ポイント、北海道 26.8 ポイント) が高く、『増やす』割合の低かった東海 (22.1%)、四国 (22.1%)、関東 (24.2%) で業況指標 (『DI』: 東海 9.9 ポイント、四国 10.2 ポイント、関東 12.0 ポイント) が低かった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれにおいても、飼養規模の増大に伴って『増やす』割合は概ね増加、『減らす』割合は概ね減少しており、一部の例外を除けば飼養規模が大きくなるほど業況指標 (『DI』) も高くなっている。

IV (1) 今後の生乳出荷予定(平成 26 年度)

		[単位: 戸、%]					
		酪農家数	1 増やす	2 減らす	3 同程度	4 無回答	DI (増やすー減らす)
全 体		16,383	30.7	10.5	56.3	2.6	20.2
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	36.4	9.6	53.1	0.9	26.8
	(都府県計)	10,297	27.3	11.0	58.1	3.6	16.2
	東 北	2,476	27.0	9.7	61.6	1.7	17.3
	関 東	3,199	24.2	12.2	63.0	0.5	12.0
	北 海 道	342	30.1	14.0	55.8	-	16.1
	東 北	900	22.1	12.2	60.8	4.9	9.9
	近 畿	562	19.0	6.0	44.5	30.4	13.0
	中 国	747	30.1	16.9	47.8	5.2	13.3
	四 国	402	22.1	11.9	57.2	8.7	10.2
九 州	1,669	38.4	8.3	51.9	1.4	30.1	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	12.1	20.9	59.6	7.4	△ 8.9
	10 頭 未 満	792	14.6	17.7	62.9	4.8	△ 3.0
	20 頭 未 満	2,191	18.8	15.1	62.8	3.4	3.7
	30 頭 未 満	2,554	24.8	12.5	60.0	2.7	12.3
	40 頭 未 満	2,533	27.9	10.5	58.8	2.8	17.4
	50 頭 未 満	2,091	34.9	8.1	55.5	1.4	26.8
	75 頭 未 満	3,076	36.4	8.0	54.3	1.3	28.4
	100 頭 未 満	1,198	41.7	6.3	51.0	1.1	35.4
	150 頭 未 満	899	43.7	7.9	47.4	1.0	35.8
	150 頭 以上	664	54.5	5.6	39.0	0.9	48.9
無 回 答	103	15.5	2.9	27.2	54.4	12.6	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	5.6	61.1	33.3	-	△ 55.6
	10 頭 未 満	41	19.5	14.6	65.9	-	4.9
	20 頭 未 満	147	15.0	20.4	63.9	0.7	△ 5.4
	30 頭 未 満	325	21.2	16.6	61.2	0.9	4.6
	40 頭 未 満	708	27.3	13.7	58.3	0.7	13.6
	50 頭 未 満	961	34.5	8.6	56.5	0.3	25.9
	75 頭 未 満	1,948	36.9	8.7	54.3	0.2	28.2
	100 頭 未 満	828	42.0	6.6	51.2	0.1	35.4
	150 頭 未 満	626	44.4	8.6	46.6	0.3	35.8
	150 頭 以上	435	54.7	5.3	40.0	-	49.4
無 回 答	49	12.2	2.0	10.2	75.5	10.2	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	12.5	18.2	61.4	8.0	△ 5.7
	10 頭 未 満	751	14.4	17.8	62.7	5.1	△ 3.5
	20 頭 未 満	2,044	19.1	14.7	62.7	3.6	4.4
	30 頭 未 満	2,229	25.3	11.9	59.8	3.0	13.4
	40 頭 未 満	1,825	28.2	9.3	59.0	3.6	18.8
	50 頭 未 満	1,130	35.2	7.7	54.7	2.4	27.5
	75 頭 未 満	1,128	35.5	6.9	54.3	3.2	28.6
	100 頭 未 満	370	40.8	5.4	50.5	3.2	35.4
	150 頭 未 満	273	42.1	6.2	49.1	2.6	35.9
	150 頭 以上	229	54.1	6.1	37.1	2.6	48.0
無 回 答	54	18.5	3.7	42.6	35.2	14.8	

(2) 平成 27 年度出荷予定 (対前年度)

◆平成 26 年度(予定)との比較で、27 年度の出荷乳量を『増やす』予定の経営は全体の 34.1%、『減らす』という経営 (7.9%) を 26.1 ポイント上回った。従って、酪農経営の将来意向を前提とすると、我が国全体としての生乳生産は、平成 26 年度から 27 年度にかけてこの 1 年間以上に大きく拡大する可能性がある」と推定することができる。

◆地域別にみると、『減らす』割合から『増やす』割合を差し引いた業況指標 (『DI』) は、北海道 (35.9 ポイント)、九州 (31.5 ポイント) で高く、近畿 (10.7 ポイント)、四国 (12.2 ポイント)、東海 (16.3 ポイント) で低かった。このうち、北海道、九州では、他地域よりも『増やす』割合が高く、『減らす』割合が低かった。一方、近畿、東海では他地域よりも『増やす』割合が低く、四国では他地域よりも『増やす』割合が低く、『減らす』割合が高かった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれにおいても、飼養規模の増大に伴って『増やす』割合は概ね増加、『減らす』割合は概ね減少しており、一部の例外を除けば飼養規模が大きくなるほど業況指標 (『DI』) も高くなっている。

IV (1) 今後の生乳出荷予定(平成 27 年度)

[単位: 戸、%]

	酪農家数	1	2	3	4	す D I (増やすー減らす)	
		増やす	減らす	同程度	無回答		
全 体	16,383	34.1	7.9	54.1	3.9	26.1	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	42.0	6.1	50.5	1.4	35.9
	(都府県計)	10,297	29.4	9.0	56.2	5.4	20.4
	東 北	2,476	28.4	8.2	59.0	4.4	20.2
	関 東	3,199	27.7	10.3	59.6	2.4	17.3
	北 陸	342	29.2	9.9	59.9	0.9	19.3
	東 海	900	24.9	8.6	60.1	6.4	16.3
	近 畿	562	18.5	7.8	42.2	31.5	10.7
	中 国	747	37.1	11.1	46.2	5.6	26.0
	四 国	402	22.9	10.7	55.2	11.2	12.2
九 州	1,669	38.3	6.8	52.3	2.5	31.5	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	14.5	15.6	56.4	13.5	△ 1.1
	10 頭 未 満	792	16.7	15.2	59.7	8.5	1.5
	20 頭 未 満	2,191	23.3	12.4	57.7	6.6	10.9
	30 頭 未 満	2,554	28.0	10.1	57.5	4.4	17.9
	40 頭 未 満	2,533	30.8	8.4	57.2	3.6	22.4
	50 頭 未 満	2,091	36.7	6.5	54.8	2.0	30.2
	75 頭 未 満	3,076	41.1	5.5	51.9	1.6	35.6
	100 頭 未 満	1,198	45.1	3.0	50.7	1.3	42.1
	150 頭 未 満	899	49.9	3.4	45.3	1.3	46.5
	150 頭 以 上	664	55.1	2.9	41.3	0.8	52.3
無 回 答	103	19.4	2.9	22.3	55.3	16.5	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	44.4	44.4	11.1	△ 44.4
	10 頭 未 満	41	26.8	14.6	56.1	2.4	12.2
	20 頭 未 満	147	26.5	19.0	51.0	3.4	7.5
	30 頭 未 満	325	27.7	11.4	58.8	2.2	16.3
	40 頭 未 満	708	33.3	9.0	56.4	1.3	24.3
	50 頭 未 満	961	38.7	6.7	53.7	0.9	32.0
	75 頭 未 満	1,948	42.6	5.6	51.4	0.4	37.0
	100 頭 未 満	828	46.1	2.8	50.8	0.2	43.4
	150 頭 未 満	626	53.5	3.5	42.5	0.5	50.0
	150 頭 以 上	435	58.9	1.8	39.3	-	57.0
無 回 答	49	14.3	2.0	8.2	75.5	12.2	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	15.5	13.6	57.2	13.6	1.9
	10 頭 未 満	751	16.1	15.2	59.9	8.8	0.9
	20 頭 未 満	2,044	23.0	11.9	58.2	6.8	11.2
	30 頭 未 満	2,229	28.0	9.9	57.3	4.7	18.1
	40 頭 未 満	1,825	29.8	8.1	57.6	4.5	21.6
	50 頭 未 満	1,130	35.0	6.4	55.7	2.9	28.7
	75 頭 未 満	1,128	38.5	5.3	52.6	3.6	33.2
	100 頭 未 満	370	42.7	3.5	50.3	3.5	39.2
	150 頭 未 満	273	41.8	3.3	51.6	3.3	38.5
	150 頭 以 上	229	48.0	4.8	45.0	2.2	43.2
無 回 答	54	24.1	3.7	35.2	37.0	20.4	

### (3) 平成 28 年度出荷予定 (対前年度)

◆平成 27 年度(予定)との比較で、28 年度の出荷乳量を『増やす』予定の経営は全体の 29.4%、『減らす』という経営 (8.7%) を 20.7 ポイント上回った。平成 28 年度出荷予定に基づく業況指標 (『DI : 『増やす』割合 - 『増やす』割合) は、27 年度値を下回って、26 年度値とほぼ同水準となっており、平成 27 年度から 28 年度にかけての生乳生産の拡大可能性は概ねこの 1 年間と同程度であると推定することができる。

◆地域別にみると、『減らす』割合から『増やす』割合を差し引いた業況指標 (『DI』) は、北海道 (31.2 ポイント)、九州 (24.9 ポイント) で高く、近畿 (5.9 ポイント)、四国 (6.7 ポイント)、北陸 (9.9 ポイント) で低かった。このうち、北海道、九州では、他地域よりも『増やす』割合が高くて、『減らす』割合が低かった。一方、近畿では他地域よりも『増やす』割合が低く、四国では他地域よりも『増やす』割合が低くて『減らす』割合が高く、北陸では『減らす』割合が高かった。

◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれにおいても、飼養規模の増大に伴って『増やす』割合は概ね増加、『減らす』割合は概ね減少しており、一部の例外を除けば飼養規模が大きくなるほど業況指標 (『DI』) も高くなっている。なお、北海道の「5 頭未満」層、都府県の「5 頭未満」及び「5～10 頭未満」の 2 層では、業況指標 (『DI』) がマイナス値となっており、零細規模層での規模縮小が更に進む可能性のあることを示している。

IV (1) 今後の生乳出荷予定(平成 28 年度)

[単位: 戸、%]

	酪農家数	1	2	3	4	すDI (増やすー減らす)	
		増やす	減らす	同程度	無回答		
全 体	16,383	29.4	8.7	57.6	4.3	20.7	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	38.0	6.8	53.8	1.4	31.2
	(都 府 県 計)	10,297	24.3	9.9	59.8	6.0	14.5
	東 北	2,476	23.7	9.1	62.0	5.2	14.6
	関 東	3,199	23.6	11.5	62.1	2.8	12.0
	北 陸	342	22.8	12.9	63.5	0.9	9.9
	東 海	900	20.1	8.8	63.7	7.4	11.3
	近 畿	562	14.2	8.4	45.0	32.4	5.9
	中 国	747	29.0	11.5	53.3	6.2	17.5
	四 国	402	18.2	11.4	58.2	12.2	6.7
九 州	1,669	32.2	7.2	57.5	3.1	24.9	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	11.3	16.7	56.0	16.0	△ 5.3
	10 頭 未 満	792	12.5	16.8	60.4	10.4	△ 4.3
	20 頭 未 満	2,191	18.7	13.3	60.6	7.4	5.3
	30 頭 未 満	2,554	22.8	11.5	60.7	5.0	11.3
	40 頭 未 満	2,533	26.1	9.3	60.7	3.9	16.8
	50 頭 未 満	2,091	31.3	7.7	59.0	2.1	23.6
	75 頭 未 満	3,076	36.8	5.8	55.7	1.7	31.0
	100 頭 未 満	1,198	39.6	3.1	56.1	1.3	36.5
	150 頭 未 満	899	44.9	3.2	50.4	1.4	41.7
	150 頭 以 上	664	53.0	3.0	43.1	0.9	50.0
無 回 答	103	15.5	3.9	25.2	55.3	11.7	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	44.4	44.4	11.1	△ 44.4
	10 頭 未 満	41	22.0	14.6	61.0	2.4	7.3
	20 頭 未 満	147	24.5	22.4	49.0	4.1	2.0
	30 頭 未 満	325	26.2	13.2	58.5	2.2	12.9
	40 頭 未 満	708	29.1	11.3	58.2	1.4	17.8
	50 頭 未 満	961	33.8	7.5	57.8	0.9	26.3
	75 頭 未 満	1,948	38.2	6.0	55.3	0.5	32.2
	100 頭 未 満	828	40.6	2.7	56.5	0.2	37.9
	150 頭 未 満	626	49.0	3.4	47.1	0.5	45.7
	150 頭 以 上	435	58.9	2.1	38.9	0.2	56.8
無 回 答	49	12.2	4.1	8.2	75.5	8.2	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	12.1	14.8	56.8	16.3	△ 2.7
	10 頭 未 満	751	12.0	16.9	60.3	10.8	△ 4.9
	20 頭 未 満	2,044	18.2	12.7	61.4	7.7	5.6
	30 頭 未 満	2,229	22.3	11.3	61.0	5.4	11.1
	40 頭 未 満	1,825	25.0	8.5	61.6	4.8	16.4
	50 頭 未 満	1,130	29.1	7.9	60.0	3.0	21.2
	75 頭 未 満	1,128	34.4	5.3	56.4	3.9	29.1
	100 頭 未 満	370	37.3	4.1	55.1	3.5	33.2
	150 頭 未 満	273	35.5	2.9	57.9	3.7	32.6
	150 頭 以 上	229	41.9	4.8	51.1	2.2	37.1
無 回 答	54	18.5	3.7	40.7	37.0	14.8	

## 2 2 今後の施設・設備の増改築・購入予定

### (1) 搾乳牛舎の新設

- ◆今後搾乳牛舎を新設する予定のある経営は全体の7.0%であった。
- ◆地域別にみると、搾乳牛舎の新設予定経営の割合は、他地域に比べて北海道(12.0%)で高く、近畿(2.0%)、東海(2.6%)で低かった。
- ◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれにおいても、一部の零細規模層を除けば、搾乳牛舎の新設予定経営の割合は飼養規模の増大に伴って上昇する傾向を示した。

#### IV (2) 今後の搾乳牛舎の新設予定

[単位：戸、%]

		酪農家数	1	2	3
			ある	ない	無回答
全 体		16,383	7.0	89.5	3.4
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	12.0	86.7	1.3
	(都府県計)	10,297	4.1	91.2	4.7
	東 北	2,476	4.7	91.5	3.8
	関 東	3,199	3.6	96.0	0.4
	北 陸	342	3.2	96.8	-
	東 海	900	2.6	92.4	5.0
	近 畿	562	2.0	67.6	30.4
	中 国	747	3.7	91.0	5.2
	四 国	402	3.7	84.6	11.7
九 州	1,669	6.4	89.1	4.6	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	2.1	92.6	5.3
	10 頭 未 満	792	1.3	93.1	5.7
	20 頭 未 満	2,191	2.0	94.3	3.7
	30 頭 未 満	2,554	2.9	93.4	3.6
	40 頭 未 満	2,533	4.8	91.6	3.6
	50 頭 未 満	2,091	6.8	90.2	2.9
	75 頭 未 満	3,076	10.8	87.2	2.0
	100 頭 未 満	1,198	11.9	85.9	2.2
	150 頭 未 満	899	16.2	81.6	2.1
	150 頭 以 上	664	19.3	78.3	2.4
無 回 答	103	6.8	39.8	53.4	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	5.6	94.4	-
	10 頭 未 満	41	2.4	97.6	-
	20 頭 未 満	147	2.0	97.3	0.7
	30 頭 未 満	325	3.7	95.4	0.9
	40 頭 未 満	708	6.9	92.4	0.7
	50 頭 未 満	961	8.7	90.2	1.0
	75 頭 未 満	1,948	13.1	86.1	0.7
	100 頭 未 満	828	13.9	85.9	0.2
	150 頭 未 満	626	18.4	81.2	0.5
	150 頭 以 上	435	20.7	78.6	0.7
無 回 答	49	8.2	18.4	73.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	1.9	92.4	5.7
	10 頭 未 満	751	1.2	92.8	6.0
	20 頭 未 満	2,044	2.0	94.1	4.0
	30 頭 未 満	2,229	2.8	93.1	4.0
	40 頭 未 満	1,825	4.0	91.3	4.7
	50 頭 未 満	1,130	5.2	90.3	4.5
	75 頭 未 満	1,128	6.7	89.1	4.2
	100 頭 未 満	370	7.6	85.9	6.5
	150 頭 未 満	273	11.4	82.8	5.9
	150 頭 以 上	229	16.6	77.7	5.7
無 回 答	54	5.6	59.3	35.2	

## (2) 搾乳牛舎の増設

- ◆今後搾乳牛舎を増設する予定のある経営は全体の8.0%であった。
- ◆地域別にみると、搾乳牛舎の増設予定経営の割合は、他地域に比べて北海道(11.3%)、九州(9.6%)で高く、近畿(2.0%)、北陸(3.5%)、東海(3.9%)で低かった。
- ◆経産牛飼養規模別にみると、都府県に関しては、飼養規模の増大に伴い搾乳牛舎の増設予定経営の割合が増加する傾向を示した。

一方、北海道に関しては、経産牛30頭未満層ではむしろ飼養規模の大きい階層の方が搾乳牛舎の増設予定経営の割合が低く、30頭を超える辺りから増設予定経営の割合が上昇する傾向へと転じている。

IV (2) 今後の搾乳牛舎の増設予定

[単位：戸、%]

		酪農家数	1	2	3
			ある	ない	無回答
全 体		16,383	8.0	88.5	3.5
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	11.3	87.4	1.3
	(都府県計)	10,297	6.1	89.2	4.8
	東 北	2,476	7.3	89.1	3.6
	関 東	3,199	5.0	94.6	0.4
	北 陸	342	3.5	96.5	-
	東 海	900	3.9	91.3	4.8
	近 畿	562	2.0	66.5	31.5
	中 国	747	5.0	89.6	5.5
	四 国	402	7.2	80.8	11.9
九 州	1,669	9.6	85.7	4.7	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	2.1	92.2	5.7
	10 頭 未 満	792	1.8	92.4	5.8
	20 頭 未 満	2,191	3.0	93.3	3.7
	30 頭 未 満	2,554	3.7	92.5	3.8
	40 頭 未 満	2,533	6.0	90.2	3.8
	50 頭 未 満	2,091	8.2	89.0	2.8
	75 頭 未 満	3,076	10.6	87.3	2.1
	100 頭 未 満	1,198	12.5	85.6	1.8
	150 頭 未 満	899	16.7	81.0	2.3
	150 頭 以 上	664	27.1	70.9	2.0
無 回 答	103	2.9	43.7	53.4	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	5.6	94.4	-
	10 頭 未 満	41	2.4	97.6	-
	20 頭 未 満	147	3.4	95.9	0.7
	30 頭 未 満	325	1.5	97.5	0.9
	40 頭 未 満	708	5.8	93.2	1.0
	50 頭 未 満	961	7.7	91.5	0.8
	75 頭 未 満	1,948	11.4	87.7	0.8
	100 頭 未 満	828	11.6	87.8	0.6
	150 頭 未 満	626	17.9	81.5	0.6
	150 頭 以 上	435	29.4	70.6	-
無 回 答	49	2.0	24.5	73.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	1.9	92.0	6.1
	10 頭 未 満	751	1.7	92.1	6.1
	20 頭 未 満	2,044	3.0	93.2	3.9
	30 頭 未 満	2,229	4.0	91.7	4.2
	40 頭 未 満	1,825	6.0	89.0	4.9
	50 頭 未 満	1,130	8.6	86.9	4.5
	75 頭 未 満	1,128	9.2	86.4	4.3
	100 頭 未 満	370	14.6	80.8	4.6
	150 頭 未 満	273	13.9	79.9	6.2
	150 頭 以 上	229	22.7	71.6	5.7
無 回 答	54	3.7	61.1	35.2	

### (3) 乾乳舎の新設

- ◆今後乾乳舎を新設する予定のある経営は全体の10.1%であった。
- ◆地域別にみると、乾乳舎の新設予定経営の割合は、他地域に比べて北海道(16.0%)で高く、東海(3.4%)、近畿(3.4%)で低かった。
- ◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれにおいても、概ね飼養規模の増大に伴って乾乳舎の新設予定経営の割合が上昇するという傾向がみられた。

#### IV(2) 今後の乾乳舎の新設予定

[単位：戸、%]

		酪農家数	1	2	3
			ある	ない	無回答
全 体		16,383	10.1	86.1	3.7
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	16.0	82.8	1.2
	(都府県計)	10,297	6.7	88.1	5.2
	東 北	2,476	6.9	88.2	4.9
	関 東	3,199	6.7	92.7	0.6
	北 陸	342	5.6	94.4	-
	東 海	900	3.4	91.2	5.3
	近 畿	562	3.4	65.3	31.3
	中 国	747	6.0	88.4	5.6
	四 国	402	5.7	82.3	11.9
九 州	1,669	9.8	85.1	5.0	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	1.8	91.1	7.1
	10 頭 未 満	792	1.0	92.7	6.3
	20 頭 未 満	2,191	2.6	93.2	4.1
	30 頭 未 満	2,554	4.6	91.2	4.2
	40 頭 未 満	2,533	8.1	87.8	4.1
	50 頭 未 満	2,091	10.4	86.8	2.7
	75 頭 未 満	3,076	14.6	83.3	2.2
	100 頭 未 満	1,198	17.9	79.9	2.2
	150 頭 未 満	899	24.1	73.6	2.2
	150 頭 以上	664	24.5	73.0	2.4
	無 回 答	103	5.8	40.8	53.4
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	94.4	5.6
	10 頭 未 満	41	2.4	97.6	-
	20 頭 未 満	147	4.8	94.6	0.7
	30 頭 未 満	325	4.6	94.5	0.9
	40 頭 未 満	708	8.3	91.0	0.7
	50 頭 未 満	961	10.4	88.6	1.0
	75 頭 未 満	1,948	16.3	83.2	0.6
	100 頭 未 満	828	19.6	80.2	0.2
	150 頭 未 満	626	29.1	70.6	0.3
	150 頭 以上	435	30.1	69.7	0.2
無 回 答	49	4.1	22.4	73.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	1.9	90.9	7.2
	10 頭 未 満	751	0.9	92.4	6.7
	20 頭 未 満	2,044	2.5	93.2	4.4
	30 頭 未 満	2,229	4.6	90.8	4.6
	40 頭 未 満	1,825	8.1	86.6	5.4
	50 頭 未 満	1,130	10.4	85.4	4.2
	75 頭 未 満	1,128	11.6	83.4	5.0
	100 頭 未 満	370	14.3	79.2	6.5
	150 頭 未 満	273	12.8	80.6	6.6
	150 頭 以上	229	14.0	79.5	6.6
無 回 答	54	7.4	57.4	35.2	

#### (4) 乾乳舎の増設

- ◆今後乾乳舎を増設する予定のある経営は全体の7.2%であった。
- ◆地域別にみると、乾乳舎の増設予定経営の割合は、他地域に比べて北海道(9.3%)で高く、近畿(2.7%)、東海(4.0%)で低かった。
- ◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれにおいても、概ね飼養規模の増大に伴って乾乳舎の増設予定経営の割合が上昇するという傾向がみられた。

IV(2) 今後の乾乳舎の増設予定

[単位：戸、%]

		酪農家数	1	2	3
			ある	ない	無回答
全 体		16,383	7.2	88.6	4.2
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	9.3	88.9	1.7
	(都府県計)	10,297	5.9	88.4	5.7
	東 北	2,476	5.5	88.9	5.6
	関 東	3,199	6.0	93.2	0.8
	北 陸	342	4.7	95.3	-
	東 海	900	4.0	90.7	5.3
	近 畿	562	2.7	65.3	32.0
	中 国	747	6.6	87.1	6.3
	四 国	402	5.2	81.8	12.9
九 州	1,669	8.9	85.5	5.6	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	0.4	92.6	7.1
	10 頭 未 満	792	1.0	92.4	6.6
	20 頭 未 満	2,191	1.9	93.7	4.4
	30 頭 未 満	2,554	3.5	92.1	4.5
	40 頭 未 満	2,533	5.4	89.7	4.8
	50 頭 未 満	2,091	7.7	89.0	3.3
	75 頭 未 満	3,076	9.4	88.0	2.6
	100 頭 未 満	1,198	12.1	85.0	2.9
	150 頭 未 満	899	16.4	80.2	3.4
	150 頭 以上	664	23.2	73.9	2.9
	無 回 答	103	4.9	42.7	52.4
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	94.4	5.6
	10 頭 未 満	41	2.4	97.6	-
	20 頭 未 満	147	1.4	97.3	1.4
	30 頭 未 満	325	2.8	96.3	0.9
	40 頭 未 満	708	3.5	95.5	1.0
	50 頭 未 満	961	6.2	92.5	1.2
	75 頭 未 満	1,948	8.9	90.0	1.0
	100 頭 未 満	828	11.1	87.6	1.3
	150 頭 未 満	626	15.5	82.7	1.8
	150 頭 以上	435	24.4	74.9	0.7
	無 回 答	49	4.1	22.4	73.5
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	0.4	92.4	7.2
	10 頭 未 満	751	0.9	92.1	6.9
	20 頭 未 満	2,044	2.0	93.4	4.6
	30 頭 未 満	2,229	3.6	91.4	5.0
	40 頭 未 満	1,825	6.2	87.5	6.3
	50 頭 未 満	1,130	9.0	86.0	5.0
	75 頭 未 満	1,128	10.2	84.6	5.2
	100 頭 未 満	370	14.3	79.2	6.5
	150 頭 未 満	273	18.3	74.4	7.3
	150 頭 以上	229	21.0	72.1	7.0
	無 回 答	54	5.6	61.1	33.3

## (5) 搾乳機器の導入・更新

- ◆今後搾乳機器を導入・更新する予定のある経営は全体の15.9%であった。
- ◆地域別にみると、搾乳機器の導入・更新予定経営の割合は、他地域に比べて北海道(21.5%)で高く、東海(3.0%)、近畿(7.5%)、中国(9.5%)で低かった。
- ◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれにおいても、概ね飼養規模の増大に伴って搾乳機器の導入・更新予定経営の割合が上昇するという傾向がみられた。

### IV(2) 今後の搾乳機器の導入・更新予定

[単位：戸、%]

		酪農家数	1	2	3
			ある	ない	無回答
全 体		16,383	15.9	80.7	3.4
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	21.5	77.3	1.1
	(都府県計)	10,297	12.5	82.7	4.8
	東 北	2,476	15.1	81.2	3.8
	関 東	3,199	13.3	86.3	0.4
	北 陸	342	14.9	85.1	-
	東 海	900	3.0	91.2	5.8
	近 畿	562	7.5	61.6	31.0
	中 国	747	9.5	84.9	5.6
	四 国	402	10.4	78.1	11.4
九 州	1,669	15.5	80.2	4.3	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	4.6	88.7	6.7
	10 頭 未 満	792	5.7	88.1	6.2
	20 頭 未 満	2,191	7.1	89.1	3.8
	30 頭 未 満	2,554	10.0	86.5	3.5
	40 頭 未 満	2,533	14.3	81.8	3.8
	50 頭 未 満	2,091	17.4	79.7	2.9
	75 頭 未 満	3,076	21.6	76.6	1.8
	100 頭 未 満	1,198	25.2	73.0	1.8
	150 頭 未 満	899	26.0	72.1	1.9
	150 頭 以上	664	29.7	68.2	2.1
	無 回 答	103	8.7	37.9	53.4
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	94.4	5.6
	10 頭 未 満	41	14.6	85.4	-
	20 頭 未 満	147	6.8	92.5	0.7
	30 頭 未 満	325	8.3	90.8	0.9
	40 頭 未 満	708	12.1	87.1	0.7
	50 頭 未 満	961	17.5	81.9	0.6
	75 頭 未 満	1,948	24.2	75.5	0.4
	100 頭 未 満	828	26.2	73.3	0.5
	150 頭 未 満	626	28.8	70.6	0.6
	150 頭 以上	435	32.6	66.9	0.5
無 回 答	49	6.1	20.4	73.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	4.9	88.3	6.8
	10 頭 未 満	751	5.2	88.3	6.5
	20 頭 未 満	2,044	7.1	88.9	4.0
	30 頭 未 満	2,229	10.2	85.9	3.9
	40 頭 未 満	1,825	15.2	79.8	5.0
	50 頭 未 満	1,130	17.3	77.9	4.8
	75 頭 未 満	1,128	17.2	78.6	4.2
	100 頭 未 満	370	23.0	72.4	4.6
	150 頭 未 満	273	19.8	75.5	4.8
	150 頭 以上	229	24.0	70.7	5.2
無 回 答	54	11.1	53.7	35.2	

## (6) 給餌機器の導入・更新

- ◆ 今後給餌機器を導入・更新する予定のある経営は全体の12.7%であった。
- ◆ 地域別にみると、給餌機器の導入・更新予定経営の割合は、他地域に比べて北海道(19.9%)で高く、近畿(3.9%)、東北(6.6%)で低かった。
- ◆ 経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれにおいても、概ね飼養規模の増大に伴って給餌機器の導入・更新予定経営の割合が上昇するという傾向がみられた。

### IV (2) 今後の給餌機器の導入・更新予定

[単位：戸、%]

		酪農家数	[単位：戸、%]		
			1 ある	2 ない	3 無回答
全 体		16,383	12.7	83.7	3.6
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	19.9	79.0	1.2
	(都府県計)	10,297	8.5	86.5	5.1
	東 北	2,476	6.6	88.9	4.5
	関 東	3,199	9.9	89.6	0.5
	北 陸	342	7.9	92.1	-
	東 海	900	7.2	87.2	5.6
	近 畿	562	3.9	65.3	30.8
	中 国	747	7.5	87.0	5.5
	四 国	402	7.0	80.8	12.2
九 州	1,669	11.7	83.6	4.7	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	0.7	92.6	6.7
	10 頭 未 満	792	1.1	92.7	6.2
	20 頭 未 満	2,191	1.2	94.6	4.2
	30 頭 未 満	2,554	4.3	91.9	3.8
	40 頭 未 満	2,533	10.7	85.3	3.9
	50 頭 未 満	2,091	13.6	83.5	2.8
	75 頭 未 満	3,076	20.6	77.3	2.1
	100 頭 未 満	1,198	23.0	75.0	2.0
	150 頭 未 満	899	28.7	69.3	2.0
	150 頭 以 上	664	30.6	67.0	2.4
無 回 答	103	5.8	40.8	53.4	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	94.4	5.6
	10 頭 未 満	41	7.3	92.7	-
	20 頭 未 満	147	2.0	96.6	1.4
	30 頭 未 満	325	3.4	95.7	0.9
	40 頭 未 満	708	10.9	88.3	0.8
	50 頭 未 満	961	14.5	84.8	0.7
	75 頭 未 満	1,948	23.0	76.6	0.4
	100 頭 未 満	828	24.3	75.4	0.4
	150 頭 未 満	626	29.7	69.5	0.8
	150 頭 以 上	435	31.3	68.3	0.5
無 回 答	49	8.2	18.4	73.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	0.8	92.4	6.8
	10 頭 未 満	751	0.8	92.7	6.5
	20 頭 未 満	2,044	1.1	94.5	4.4
	30 頭 未 満	2,229	4.5	91.3	4.2
	40 頭 未 満	1,825	10.7	84.2	5.2
	50 頭 未 満	1,130	12.9	82.5	4.6
	75 頭 未 満	1,128	16.4	78.5	5.1
	100 頭 未 満	370	20.3	74.1	5.7
	150 頭 未 満	273	26.4	68.9	4.8
	150 頭 以 上	229	29.3	64.6	6.1
無 回 答	54	3.7	61.1	35.2	

## (7) 哺乳機器の導入・更新

- ◆今後哺乳機器を導入・更新する予定のある経営は全体の5.5%であった。
- ◆地域別にみると、哺乳機器の導入・更新予定経営の割合は、他地域に比べて北海道(8.7%)、九州(6.7%)でやや高かった。
- ◆経産牛飼養規模別には、北海道、都府県のいずれにおいても、概ね飼養規模の増大に伴って哺乳機器の導入・更新予定経営の割合が上昇するという傾向がみられた。

### IV(2) 今後の哺乳機器の導入・更新予定

[単位：戸、%]

		酪農家数	1 ある	2 ない	3 無回答
全 体		16,383	5.5	90.7	3.8
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	8.7	90.1	1.2
	(都府県計)	10,297	3.6	91.0	5.3
	東 北	2,476	2.9	91.6	5.4
	関 東	3,199	3.5	95.9	0.6
	北 陸	342	2.6	97.4	-
	東 海	900	2.7	91.9	5.4
	近 畿	562	0.9	<u>67.8</u>	31.3
	中 国	747	3.2	91.7	5.1
	四 国	402	3.5	83.6	12.9
九 州	1,669	6.7	88.4	4.9	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	0.4	93.3	6.4
	10 頭 未 満	792	1.0	92.9	6.1
	20 頭 未 満	2,191	1.0	94.6	4.4
	30 頭 未 満	2,554	2.0	93.9	4.1
	40 頭 未 満	2,533	2.4	93.4	4.2
	50 頭 未 満	2,091	4.0	92.9	3.1
	75 頭 未 満	3,076	7.0	90.8	2.2
	100 頭 未 満	1,198	10.9	87.0	2.1
	150 頭 未 満	899	18.7	<u>79.0</u>	2.3
	150 頭 以 上	664	24.1	<u>73.3</u>	2.6
無 回 答	103	1.9	44.7	53.4	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	100.0	-
	10 頭 未 満	41	-	100.0	-
	20 頭 未 満	147	1.4	97.3	1.4
	30 頭 未 満	325	2.5	96.6	0.9
	40 頭 未 満	708	2.7	96.6	0.7
	50 頭 未 満	961	3.3	95.8	0.8
	75 頭 未 満	1,948	7.1	92.4	0.6
	100 頭 未 満	828	11.7	87.9	0.4
	150 頭 未 満	626	19.3	<u>79.9</u>	0.8
	150 頭 以 上	435	25.3	<u>74.0</u>	0.7
無 回 答	49	2.0	24.5	73.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	0.4	92.8	6.8
	10 頭 未 満	751	1.1	92.5	6.4
	20 頭 未 満	2,044	1.0	94.4	4.6
	30 頭 未 満	2,229	2.0	93.5	4.5
	40 頭 未 満	1,825	2.2	92.2	5.6
	50 頭 未 満	1,130	4.5	90.4	5.0
	75 頭 未 満	1,128	6.7	88.1	5.1
	100 頭 未 満	370	9.2	84.9	5.9
	150 頭 未 満	273	17.2	<u>76.9</u>	5.9
	150 頭 以 上	229	21.8	<u>72.1</u>	6.1
無 回 答	54	1.9	63.0	35.2	

## (8) 堆肥処理機器の導入・更新

- ◆今後堆肥処理機器を導入・更新する予定のある経営は全体の14.6%であった。
- ◆地域別にみると、堆肥処理機器の導入・更新予定経営の割合は、他地域に比べて九州(17.4%)、北海道(16.5%)でやや高かった。
- ◆経産牛飼養規模別にみると、都府県に関しては、飼養規模の増大に伴い堆肥処理機器の導入・更新予定経営の割合が上昇する傾向を示した。

一方、北海道に関しては、20頭未満層ではむしろ飼養規模の大きい階層の方が堆肥処理機器の導入・更新予定経営の割合が低く、20頭を超える辺りから導入・更新予定経営の割合が上昇する傾向へと転じている。

IV(2) 今後の堆肥処理機器の導入・更新予定

[単位:戸、%]

	酪農家数	1	2	3	
		ある	ない	無回答	
全 体	16,383	14.6	81.9	3.5	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	16.5	82.3	1.2
	(都府県計)	10,297	13.4	81.7	4.9
	東 北	2,476	13.2	82.5	4.3
	関 東	3,199	13.1	86.4	0.5
	北 陸	342	14.0	86.0	-
	東 海	900	11.0	84.0	5.0
	近 畿	562	9.8	58.0	32.2
	中 国	747	12.3	82.9	4.8
	四 国	402	12.2	76.1	11.7
九 州	1,669	17.4	78.3	4.3	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	2.1	91.1	6.7
	10 頭 未 満	792	3.0	90.7	6.3
	20 頭 未 満	2,191	6.6	89.2	4.2
	30 頭 未 満	2,554	10.9	85.3	3.8
	40 頭 未 満	2,533	13.7	82.6	3.8
	50 頭 未 満	2,091	12.9	84.4	2.7
	75 頭 未 満	3,076	18.1	79.8	2.1
	100 頭 未 満	1,198	22.0	76.4	1.6
	150 頭 未 満	899	28.8	69.3	1.9
	150 頭 以 上	664	35.2	63.1	1.7
無 回 答	103	5.8	40.8	53.4	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	5.6	94.4	-
	10 頭 未 満	41	4.9	92.7	2.4
	20 頭 未 満	147	4.1	95.2	0.7
	30 頭 未 満	325	8.0	90.8	1.2
	40 頭 未 満	708	9.6	89.7	0.7
	50 頭 未 満	961	9.6	89.7	0.7
	75 頭 未 満	1,948	16.9	82.5	0.6
	100 頭 未 満	828	19.6	80.2	0.2
	150 頭 未 満	626	28.0	71.2	0.8
	150 頭 以 上	435	32.4	67.1	0.5
無 回 答	49	6.1	20.4	73.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	1.9	90.9	7.2
	10 頭 未 満	751	2.9	90.5	6.5
	20 頭 未 満	2,044	6.8	88.8	4.5
	30 頭 未 満	2,229	11.4	84.5	4.2
	40 頭 未 満	1,825	15.2	79.8	4.9
	50 頭 未 満	1,130	15.7	79.9	4.4
	75 頭 未 満	1,128	20.0	75.2	4.8
	100 頭 未 満	370	27.6	67.8	4.6
	150 頭 未 満	273	30.8	64.8	4.4
	150 頭 以 上	229	40.6	55.5	3.9
無 回 答	54	5.6	59.3	35.2	

## 2 3 後継者の有無

◆酪農経営全体としてみると、『後継者がいる』経営は『すでに就農』（24.4%）と『今後就農予定』（5.9%）を合計して約3割、『後継者はいない』経営は約40.7%、『わからない・未定・その他』の経営が26.7%という状況であった。

◆地域別にみると、『後継者がいる』経営の割合（すでに就農・今後就農予定の合計）は、北海道（34.2%）、九州（34.1%）で高く、北陸（22.5%）、中国（24.1%）、四国（22.7%）で低かった。<sup>（注）</sup>このうち、北陸と四国では、『後継者はいない』経営の割合（北陸57.3%、四国48.0%）が特に高かった。

（注）『無回答』の多い近畿は除く。

◆経産牛飼養規模別にみると、北海道の20頭未満層を除けば、北海道、都府県のいずれにおいても、飼養規模の増大に伴って『後継者がいる』経営の割合（すでに就農・今後就農予定の合計）が漸増し、『後継者はいない』経営の割合が漸減するという傾向がみられた。北海道の20頭未満層では、規模の増大に伴って『わからない・未定・その他』の経営の割合が急増しているのが目についた。

IV（3） 後継者の有無

[単位：戸、%]

	酪農家数	1	2	3	4	5	
		い16歳以上の後継者がいる	る予16歳の後継者が就農している	後継者はいない	定分・からそのい他・未	無回答	
全 体	16,383	24.4	5.9	40.7	26.7	2.3	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	27.6	6.6	34.7	30.3	0.8
	(都府県計)	10,297	22.4	5.5	44.3	24.6	3.1
	東 北	2,476	21.8	7.3	40.9	29.3	0.7
	関 東	3,199	22.7	5.4	49.3	22.4	0.2
	北 陸	342	17.5	5.0	57.3	20.2	-
	東 海	900	22.8	4.7	44.8	23.8	4.0
	近 畿	562	14.2	3.2	32.9	19.9	29.7
	中 国	747	20.2	3.9	44.3	26.8	4.8
	四 国	402	19.2	3.5	48.0	20.1	9.2
九 州	1,669	28.3	5.8	39.8	25.0	1.2	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	3.5	3.9	67.0	21.3	4.3
	10 頭 未 満	792	5.3	4.5	64.3	21.3	4.5
	20 頭 未 満	2,191	9.0	4.0	60.6	23.6	2.8
	30 頭 未 満	2,554	14.5	4.9	53.5	24.7	2.4
	40 頭 未 満	2,533	23.2	5.7	44.3	24.4	2.3
	50 頭 未 満	2,091	29.1	6.0	36.2	27.4	1.3
	75 頭 未 満	3,076	33.3	6.9	28.9	30.0	1.0
	100 頭 未 満	1,198	38.2	8.1	21.5	31.1	1.2
	150 頭 未 満	899	41.3	7.7	17.8	32.4	0.9
	150 頭 以 上	664	46.4	8.9	11.0	32.5	1.2
無 回 答	103	12.6	3.9	22.3	9.7	51.5	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	11.1	77.8	11.1	-
	10 頭 未 満	41	12.2	7.3	58.5	22.0	-
	20 頭 未 満	147	12.9	4.1	55.1	27.2	0.7
	30 頭 未 満	325	11.1	4.0	60.0	24.3	0.6
	40 頭 未 満	708	17.5	4.5	52.5	24.9	0.6
	50 頭 未 満	961	20.6	5.9	43.4	29.8	0.3
	75 頭 未 満	1,948	28.6	7.0	32.4	31.8	0.1
	100 頭 未 満	828	36.5	8.1	22.9	32.5	-
	150 頭 未 満	626	38.3	7.0	19.5	34.8	0.3
	150 頭 以 上	435	44.6	9.2	12.9	33.1	0.2
無 回 答	49	8.2	4.1	16.3	-	71.4	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	3.8	3.4	66.3	22.0	4.5
	10 頭 未 満	751	4.9	4.4	64.6	21.3	4.8
	20 頭 未 満	2,044	8.7	4.0	61.0	23.4	2.9
	30 頭 未 満	2,229	15.0	5.1	52.5	24.7	2.6
	40 頭 未 満	1,825	25.4	6.2	41.2	24.2	3.0
	50 頭 未 満	1,130	36.4	6.1	30.0	25.3	2.2
	75 頭 未 満	1,128	41.2	6.6	22.9	26.8	2.5
	100 頭 未 満	370	42.2	8.1	18.1	27.8	3.8
	150 頭 未 満	273	48.0	9.2	13.9	26.7	2.2
	150 頭 以 上	229	49.8	8.3	7.4	31.4	3.1
無 回 答	54	16.7	3.7	27.8	18.5	33.3	

## <推定値>担い手の確保状況（担い手確保率）

担い手確保率は、本年度の調査結果に基づき次式により推定した。

≪担い手確保率＝『経営主が50歳未満の割合』

＋『経営主が50歳以上又は年齢不詳で、16歳以上の後継者がいる割合』≫

◆全体としてみると、『経営主が50歳未満』の経営が23.9%、『経営主が50歳以上又は年齢不詳で、16歳以上の後継者がいる』経営が27.8%を占めており、両者を合計して担い手確保率を求めると51.7%であった。

◆地域別にみると、担い手確保率は、北海道（63.4%）、九州（56.8%）で高く、北陸（34.2%）、四国（36.8%）で低かった。（注）

（注）『無回答』の多い近畿は除く。

北海道、九州では、『経営主が50歳未満』の経営（北海道32.3%、九州26.2%）、『経営主が50歳以上又は年齢不詳で、16歳以上の後継者がいる』経営（北海道31.1%、九州30.6%）がともに多かった。また、北陸、四国では、『後継者はいない』経営（北陸51.5%、四国42.3%）が多かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、北海道、都府県の双方において、担い手確保率は飼養規模の増大に伴い漸増する傾向を示した。

IV（3） 担い手確保状況

〔単位：戸、％〕

	酪農家数	1				2		3	4	2) 担い手確保（1＋）
		経営主50歳未満	経営主50歳未満で、16歳以上の後継者がいる	経営主50歳未満で、16歳以上の後継者がいない	経営主50歳未満で、16歳以上の後継者がいる	経営主50歳未満で、16歳以上の後継者がいない	経営主50歳未満で、16歳以上の後継者がいる			
全 体	16,383	23.9	27.8	31.6	14.7				51.7	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	32.3	31.1	23.0	12.8			63.4	
	（都府県計）	10,297	18.9	25.9	36.7	15.9			44.8	
	東 北	2,476	18.3	26.9	34.0	20.3			45.2	
	関 東	3,199	16.1	26.1	43.0	14.7			42.2	
	北 陸	342	13.7	20.5	51.5	14.3			34.2	
	東 海	900	21.2	25.8	33.9	15.9			47.0	
	近 畿	562	14.8	16.5	29.0	14.1			31.3	
	中 国	747	21.6	22.6	34.5	17.3			44.2	
	四 国	402	14.9	21.9	42.3	11.7			36.8	
九 州	1,669	26.2	30.6	29.3	12.9			56.8		
経産牛飼養頭数（全国）	5 頭 未 満	282	6.7	7.4	62.8	19.1			14.2	
	10 頭 未 満	792	8.5	9.2	59.8	18.2			17.7	
	20 頭 未 満	2,191	12.4	12.0	54.5	18.3			24.5	
	30 頭 未 満	2,554	17.8	18.0	44.7	17.1			35.8	
	40 頭 未 満	2,533	21.4	26.9	34.5	15.0			48.3	
	50 頭 未 満	2,091	28.3	32.3	25.2	13.2			60.5	
	75 頭 未 満	3,076	31.1	37.2	17.4	13.5			68.3	
	100 頭 未 満	1,198	36.0	41.9	10.4	10.9			77.9	
	150 頭 未 満	899	37.0	43.6	8.1	10.5			80.6	
	150 頭 以 上	664	32.7	49.7	5.1	11.4			82.4	
無 回 答	103	29.1	14.6	20.4	7.8			43.7		
経産牛飼養頭数（北海道）	5 頭 未 満	18	-	11.1	77.8	11.1			11.1	
	10 頭 未 満	41	14.6	17.1	53.7	14.6			31.7	
	20 頭 未 満	147	17.7	15.6	48.3	17.7			33.3	
	30 頭 未 満	325	22.8	12.9	47.1	16.6			35.7	
	40 頭 未 満	708	25.4	20.6	39.7	14.0			46.0	
	50 頭 未 満	961	32.4	23.8	30.4	13.3			56.2	
	75 頭 未 満	1,948	34.2	32.5	19.7	13.6			66.7	
	100 頭 未 満	828	37.3	40.9	11.4	10.4			78.3	
	150 頭 未 満	626	39.3	40.9	9.1	10.5			80.2	
	150 頭 以 上	435	33.8	48.5	6.0	11.5			82.3	
無 回 答	49	4.1	10.2	14.3	-			14.3		
経産牛飼養頭数（都府県）	5 頭 未 満	264	7.2	7.2	61.7	19.7			14.4	
	10 頭 未 満	751	8.1	8.8	60.2	18.4			16.9	
	20 頭 未 満	2,044	12.0	11.8	54.9	18.4			23.8	
	30 頭 未 満	2,229	17.0	18.8	44.4	17.2			35.8	
	40 頭 未 満	1,825	19.8	29.4	32.5	15.4			49.2	
	50 頭 未 満	1,130	24.8	39.5	20.8	13.0			64.2	
	75 頭 未 満	1,128	25.7	45.2	13.6	13.3			70.9	
	100 頭 未 満	370	33.0	44.1	8.4	11.9			77.0	
	150 頭 未 満	273	31.9	49.8	5.9	10.3			81.7	
	150 頭 以 上	229	30.6	52.0	3.5	11.4			82.5	
無 回 答	54	51.9	18.5	25.9	14.8			70.4		

## 2 4 搾乳中止予定の有無

### (1) 平成 26 年度内の中止予定

- ◆平成 26 年度に搾乳を中止する予定の経営は、全酪農経営の 3.9%であった。
- ◆地域別にみると、平成 26 年度内の搾乳中止予定経営の割合は、関東 (5.0%) で僅かながら高く、中国 (2.8%) で僅かながら低かった。
- ◆経産牛飼養規模別には、平成 26 年度内の搾乳中止予定経営の割合は、北海道、都府県のいずれにおいても、飼養規模の増大に伴って漸減する傾向を示した。

IV (4) 平成 26 年度搾乳中止予定の有無

[単位：戸、%]

		酪農家数	1	2	3
			無	有	無回答
全 体		16,383	93.5	3.9	2.6
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	95.0	4.0	0.9
	(都府県計)	10,297	92.6	3.9	3.5
	東 北	2,476	95.0	3.7	1.3
	関 東	3,199	94.7	5.0	0.3
	北 陸	342	96.8	3.2	-
	東 海	900	92.2	3.6	4.2
	近 畿	562	66.5	3.0	30.4
	中 国	747	91.6	2.8	5.6
	四 国	402	87.6	3.7	8.7
九 州	1,669	94.7	3.2	2.0	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	75.5	17.4	7.1
	10 頭 未 満	792	83.3	10.6	6.1
	20 頭 未 満	2,191	89.7	7.0	3.2
	30 頭 未 満	2,554	93.3	4.0	2.6
	40 頭 未 満	2,533	94.2	3.0	2.8
	50 頭 未 満	2,091	96.4	2.3	1.3
	75 頭 未 満	3,076	96.0	2.9	1.1
	100 頭 未 満	1,198	97.1	1.8	1.2
	150 頭 未 満	899	97.1	1.9	1.0
	150 頭 以上	664	98.8	0.5	0.8
	無 回 答	103	44.7	2.9	52.4
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	38.9	50.0	11.1
	10 頭 未 満	41	82.9	17.1	-
	20 頭 未 満	147	85.7	12.9	1.4
	30 頭 未 満	325	90.2	9.2	0.6
	40 頭 未 満	708	92.8	6.2	1.0
	50 頭 未 満	961	96.8	2.9	0.3
	75 頭 未 満	1,948	96.0	3.8	0.2
	100 頭 未 満	828	97.8	2.2	-
	150 頭 未 満	626	97.4	2.2	0.3
	150 頭 以上	435	99.5	0.5	-
無 回 答	49	24.5	2.0	73.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	78.0	15.2	6.8
	10 頭 未 満	751	83.4	10.3	6.4
	20 頭 未 満	2,044	90.0	6.6	3.4
	30 頭 未 満	2,229	93.8	3.3	2.9
	40 頭 未 満	1,825	94.7	1.8	3.5
	50 頭 未 満	1,130	96.1	1.8	2.1
	75 頭 未 満	1,128	95.9	1.2	2.8
	100 頭 未 満	370	95.4	0.8	3.8
	150 頭 未 満	273	96.3	1.1	2.6
	150 頭 以上	229	97.4	0.4	2.2
	無 回 答	54	63.0	3.7	33.3

(2) 平成 27～28 年度内の中止予定

- ◆平成 27～28 年度に搾乳を中止する予定の経営は、全酪農経営の 7.2%であった。
- ◆地域別にみると、平成 27～28 年度内の搾乳中止予定経営の割合は、北陸 (10.2%)、九州 (9.2%) で僅かながら高く、北海道 (6.1%)、関東 (7.0%) で僅かながら低かった。
- ◆経産牛飼養規模別には、平成 27～28 年度内の搾乳中止予定経営の割合は、北海道、都府県のいずれにおいても、概ね飼養規模の増大に伴って漸減する傾向を示した。

IV (5) 平成 27～28 年度搾乳中止予定の有無

[単位：戸、%]

		酪農家数	1	2	3
			無	有	無回答
全 体		16,383	88.3	7.2	4.5
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	92.0	6.1	1.9
	(都府県計)	10,297	86.2	7.8	6.1
	東 北	2,476	89.3	7.8	2.8
	関 東	3,199	87.5	7.0	5.4
	北 陸	342	89.2	10.2	0.6
	東 海	900	86.3	7.7	6.0
	近 畿	562	60.7	7.5	31.9
	中 国	747	84.9	7.4	7.8
	四 国	402	81.6	7.5	10.9
九 州	1,669	88.3	9.2	2.5	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	65.6	19.5	14.9
	10 頭 未 満	792	69.3	18.2	12.5
	20 頭 未 満	2,191	79.0	13.4	7.7
	30 頭 未 満	2,554	86.4	8.6	5.0
	40 頭 未 満	2,533	89.3	6.8	3.9
	50 頭 未 満	2,091	92.9	4.3	2.8
	75 頭 未 満	3,076	94.0	4.4	1.6
	100 頭 未 満	1,198	95.7	2.8	1.5
	150 頭 未 満	899	95.9	2.7	1.4
	150 頭 以 上	664	98.0	0.9	1.1
無 回 答	103	44.7	1.0	54.4	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	38.9	44.4	16.7
	10 頭 未 満	41	80.5	9.8	9.8
	20 頭 未 満	147	76.9	17.0	6.1
	30 頭 未 満	325	85.5	11.4	3.1
	40 頭 未 満	708	85.3	11.9	2.8
	50 頭 未 満	961	92.2	6.0	1.8
	75 頭 未 満	1,948	94.1	5.5	0.4
	100 頭 未 満	828	96.6	3.3	0.1
	150 頭 未 満	626	96.6	2.7	0.6
	150 頭 以 上	435	99.1	0.9	-
無 回 答	49	24.5	-	75.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	67.4	17.8	14.8
	10 頭 未 満	751	68.7	18.6	12.6
	20 頭 未 満	2,044	79.1	13.1	7.8
	30 頭 未 満	2,229	86.5	8.2	5.3
	40 頭 未 満	1,825	90.8	4.9	4.3
	50 頭 未 満	1,130	93.5	2.8	3.6
	75 頭 未 満	1,128	93.8	2.6	3.6
	100 頭 未 満	370	93.8	1.6	4.6
	150 頭 未 満	273	94.1	2.6	3.3
	150 頭 以 上	229	96.1	0.9	3.1
無 回 答	54	63.0	1.9	35.2	

## 25 酪農経営の状況

### (1) 生乳生産コスト（平成 25 年度）

◆平成 25 年度の生乳生産コストを 24 年度との対比で調べると、全酪農経営の 66.0%が『高くなった』、23.2%が『変わらない』と答えており、『低くなった』という経営は 8.3%に過ぎなかった。

◆地域別にみると、『高くなった』経営の割合は、東海（77.4%）、北陸（76.6%）で特に高く、東北（59.7%）、北海道（62.0%）で低かった。一方、『低くなった』経営の割合は、四国（11.9%）、東北（10.9%）で僅かながら高かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、北海道、都府県のいずれにおいても、『高くなった』経営の割合は飼養規模の増大に伴って漸増する傾向をみせた。一方、『低くなった』経営の割合は、北海道では 20～40 頭未満の階層で最も高く、都府県では「5～10 頭未満」をピークとして飼養規模の増大に伴い漸減する傾向を示した。なお、『変わらない』経営の割合については、北海道、都府県の双方で、飼養規模の増大とともに漸減する傾向がみられた。

<基> (1) 酪農経営  
i) 平成 25 年度生乳生産コスト [単位：戸、%]

	酪農家数	1	2	3	4	
		低 く な っ た	変 わ ら な い	高 く な っ た	無 回 答	
全 体	16,383	8.3	23.2	66.0	2.5	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	7.4	28.6	62.0	1.9
	( 都 府 県 計 )	10,297	8.9	20.0	68.3	2.8
	東 北	2,476	10.9	28.3	59.7	1.1
	関 東	3,199	8.5	19.8	71.4	0.3
	北 陸	342	6.1	17.3	76.6	-
	東 海	900	7.9	11.6	77.4	3.1
	近 畿	562	7.8	11.2	58.9	22.1
	中 国	747	5.9	15.1	70.5	8.4
	四 国	402	11.9	13.2	70.4	4.5
九 州	1,669	8.6	20.0	70.1	1.4	
経 産 牛 飼 養 頭 数 (全 国)	5 頭 未 満	282	10.6	38.7	44.7	6.0
	10 頭 未 満	792	13.9	29.8	50.8	5.6
	20 頭 未 満	2,191	9.5	25.5	62.0	3.0
	30 頭 未 満	2,554	9.2	21.8	67.1	1.8
	40 頭 未 満	2,533	9.0	22.7	66.5	1.8
	50 頭 未 満	2,091	7.7	23.3	67.3	1.7
	75 頭 未 満	3,076	6.9	23.7	67.9	1.6
	100 頭 未 満	1,198	6.5	21.9	70.6	1.0
	150 頭 未 満	899	7.7	19.1	72.1	1.1
	150 頭 以 上	664	4.8	15.8	78.2	1.2
無 回 答	103	1.9	14.6	14.6	68.9	
経 産 牛 飼 養 頭 数 (北 海 道)	5 頭 未 満	18	-	38.9	55.6	5.6
	10 頭 未 満	41	7.3	34.1	51.2	7.3
	20 頭 未 満	147	8.2	34.0	55.1	2.7
	30 頭 未 満	325	10.2	32.3	55.4	2.2
	40 頭 未 満	708	9.7	30.8	57.5	2.0
	50 頭 未 満	961	7.4	32.5	58.8	1.4
	75 頭 未 満	1,948	6.7	30.1	61.9	1.3
	100 頭 未 満	828	6.9	25.8	66.8	0.5
	150 頭 未 満	626	8.5	23.0	68.2	0.3
	150 頭 以 上	435	5.3	20.0	73.8	0.9
無 回 答	49	2.0	12.2	10.2	75.5	
経 産 牛 飼 養 頭 数 (都 府 県)	5 頭 未 満	264	11.4	38.6	43.9	6.1
	10 頭 未 満	751	14.2	29.6	50.7	5.5
	20 頭 未 満	2,044	9.6	24.9	62.5	3.0
	30 頭 未 満	2,229	9.1	20.3	68.8	1.8
	40 頭 未 満	1,825	8.7	19.5	70.0	1.8
	50 頭 未 満	1,130	7.9	15.6	74.5	2.0
	75 頭 未 満	1,128	7.2	12.6	78.3	2.0
	100 頭 未 満	370	5.7	13.0	79.2	2.2
	150 頭 未 満	273	5.9	10.3	81.0	2.9
	150 頭 以 上	229	3.9	7.9	86.5	1.7
無 回 答	54	1.9	16.7	18.5	63.0	

## (2) 生乳生産コスト（平成 26 年度見通し）

◆生乳生産コストの平成 26 年度見通しを 25 年度との対比で調べると、全酪農経営の 62.4% が『高くなりそう』、25.4%が『変わらない』と答えており、『低くなりそう』という経営は 9.9%であった。

◆地域別にみると、『高くなりそう』な経営の割合は、東海（71.2%）、北陸（69.9%）が高く、東北（56.9%）、北海道（60.2%）で低かった。一方、『低くなりそう』な経営の割合は、東北（11.4%）、関東（10.9%）で僅かながら高かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、北海道、都府県のいずれにおいても、『高くなりそう』な経営の割合は飼養規模の増大に伴って漸増する傾向をみせた。一方、『低くなりそう』な経営の割合は、北海道では「30～40 頭未満」をピークとして両端の規模層に近づくとつれ低下しており、都府県では「5～10 頭未満」をピークとして飼養規模が増大するにつれ漸減する傾向を示した。なお、『変わらない』という経営の割合については、北海道、都府県の双方で、飼養規模の増大とともに漸減する傾向がみられた。

<基> (1) 酪農経営  
iii) 平成 26 年度生乳生産コスト  
(対平成 25 年度)

[単位：戸、%]

		酪農家数	1 低 く な り そ う	2 変 わ ら な い	3 高 く な り そ う	4 無 回 答
全 体		16,383	9.9	25.4	62.4	2.4
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	9.0	28.9	60.2	1.8
	(都 府 県 計)	10,297	10.4	23.3	63.6	2.7
	東 北	2,476	11.4	30.7	56.9	1.1
	関 東	3,199	10.9	22.9	66.0	0.2
	北 陸	342	10.2	19.9	69.9	-
	東 海	900	9.1	16.7	71.2	3.0
	近 畿	562	10.0	13.3	55.2	21.5
	中 国	747	8.7	16.9	66.4	8.0
	四 国	402	9.5	19.4	66.7	4.5
九 州	1,669	9.8	24.6	64.4	1.3	
経産牛飼養頭数（全国）	5 頭 未 満	282	10.6	38.3	44.3	6.7
	10 頭 未 満	792	16.7	30.2	48.0	5.2
	20 頭 未 満	2,191	11.9	26.4	59.0	2.7
	30 頭 未 満	2,554	10.0	25.2	63.0	1.8
	40 頭 未 満	2,533	10.6	24.0	63.6	1.7
	50 頭 未 満	2,091	8.8	25.5	64.0	1.6
	75 頭 未 満	3,076	8.2	25.3	65.1	1.4
	100 頭 未 満	1,198	9.4	26.0	63.6	1.0
	150 頭 未 満	899	7.5	22.6	68.9	1.1
	150 頭 以 上	664	8.1	20.9	69.7	1.2
無 回 答	103	1.0	14.6	14.6	69.9	
経産牛飼養頭数（北海道）	5 頭 未 満	18	5.6	38.9	44.4	11.1
	10 頭 未 満	41	7.3	34.1	53.7	4.9
	20 頭 未 満	147	9.5	34.0	53.7	2.7
	30 頭 未 満	325	7.7	31.7	59.1	1.5
	40 頭 未 満	708	12.4	30.1	55.6	1.8
	50 頭 未 満	961	9.6	31.9	57.1	1.4
	75 頭 未 満	1,948	8.1	29.5	61.2	1.2
	100 頭 未 満	828	9.5	29.1	61.0	0.4
	150 頭 未 満	626	8.0	23.8	67.7	0.5
	150 頭 以 上	435	9.2	21.8	68.0	0.9
無 回 答	49	-	12.2	10.2	77.6	
経産牛飼養頭数（都府県）	5 頭 未 満	264	11.0	38.3	44.3	6.4
	10 頭 未 満	751	17.2	30.0	47.7	5.2
	20 頭 未 満	2,044	12.1	25.8	59.3	2.7
	30 頭 未 満	2,229	10.3	24.3	63.5	1.9
	40 頭 未 満	1,825	9.9	21.7	66.7	1.7
	50 頭 未 満	1,130	8.2	20.1	69.8	1.9
	75 頭 未 満	1,128	8.3	18.1	71.8	1.8
	100 頭 未 満	370	9.2	18.9	69.5	2.4
	150 頭 未 満	273	6.2	19.8	71.4	2.6
	150 頭 以 上	229	6.1	19.2	72.9	1.7
無 回 答	54	1.9	16.7	18.5	63.0	

### (3) 酪農所得（平成25年度）

◆平成25年度の酪農所得を24年度との対比で調べると、全酪農経営の53.1%が『減少した』、29.2%が『変わらない』と答えており、『増加した』という経営は15.1%であった。

◆地域別にみると、『減少した』経営の割合については、北海道(43.4%)と都府県(58.9%)の間の差が大きく、特に東海(68.9%)、四国(67.4%)、北陸(64.6%)、関東(63.1%)が北海道を大きく上回った。一方、『増加した』経営の割合は、北海道(18.6%)、東北(17.0%)で僅かながら高かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、北海道、都府県のいずれにおいても、『減少した』経営の割合は「10～20頭未満」で最も高く、同層を超えると概ね飼養規模の増大に伴い漸減する傾向をみせた。ただし、都府県の「150頭以上」では『減少』経営の割合が大きく跳ね上がっている。また、『増加した』経営の割合は、北海道では、「5頭未満」を除けば飼養規模の増大に伴い漸増する傾向を示した。一方、都府県では、75頭未満の階層では飼養規模の増大に伴い高まる傾向を示したが、同層を超えたところで一旦低下する動きをみせている。なお、『変わらない』経営の割合については、北海道、都府県の双方で、飼養規模の増大とともに漸減する傾向がみられた。

<基> (1) 酪農経営  
ii) 平成25年度酪農所得 [単位:戸、%]

		酪農家数	1 増加した	2 変わらない	3 減少した	4 無回答
全体		16,383	15.1	29.2	53.1	2.5
ブ ロ ッ ク	北海道	6,086	18.6	36.1	43.4	1.9
	(都府県計)	10,297	13.1	25.1	58.9	2.9
	東北	2,476	17.0	31.1	50.6	1.3
	関東	3,199	11.3	25.2	63.1	0.4
	北陸	342	11.4	24.0	64.6	-
	東海	900	9.7	18.6	68.9	2.9
	近畿	562	7.1	14.9	56.0	21.9
	中国	747	13.1	17.1	61.4	8.3
	四国	402	10.4	17.7	67.4	4.5
九州	1,669	15.7	28.6	54.2	1.6	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	5.7	34.4	53.9	6.0
	10頭未満	792	5.9	32.3	56.3	5.4
	20頭未満	2,191	8.7	26.6	61.9	2.8
	30頭未満	2,554	12.6	26.4	58.9	2.0
	40頭未満	2,533	14.8	28.6	54.6	1.9
	50頭未満	2,091	17.0	31.6	49.6	1.8
	75頭未満	3,076	18.5	31.0	48.8	1.7
	100頭未満	1,198	19.2	33.0	46.8	1.0
	150頭未満	899	22.5	28.3	48.1	1.2
	150頭以上	664	25.3	25.0	48.3	1.4
無回答	103	4.9	13.6	12.6	68.9	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	11.1	44.4	38.9	5.6
	10頭未満	41	4.9	46.3	43.9	4.9
	20頭未満	147	6.1	38.1	53.7	2.0
	30頭未満	325	12.3	40.3	45.2	2.2
	40頭未満	708	14.8	37.0	46.2	2.0
	50頭未満	961	17.7	40.4	40.4	1.6
	75頭未満	1,948	18.1	36.7	43.9	1.3
	100頭未満	828	20.4	36.2	42.9	0.5
	150頭未満	626	24.8	30.2	44.7	0.3
	150頭以上	435	28.5	28.5	42.1	0.9
無回答	49	6.1	10.2	8.2	75.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	5.3	33.7	54.9	6.1
	10頭未満	751	6.0	31.6	57.0	5.5
	20頭未満	2,044	8.9	25.8	62.5	2.8
	30頭未満	2,229	12.7	24.4	60.9	2.0
	40頭未満	1,825	14.8	25.4	57.9	1.9
	50頭未満	1,130	16.5	24.2	57.4	1.9
	75頭未満	1,128	19.1	21.4	57.2	2.3
	100頭未満	370	16.5	25.7	55.7	2.2
	150頭未満	273	17.2	23.8	55.7	3.3
	150頭以上	229	19.2	18.3	60.3	2.2
無回答	54	3.7	16.7	16.7	63.0	

#### (4) 酪農所得（平成 26 年度）

- ◆平成 26 年度の酪農所得を 25 年度との対比で調べると、全酪農経営の 55.3%が『減少しそう』、30.6%が『変わらない』と答えており、『増加しそう』という経営は 11.7%であった。
- ◆地域別にみると、『減少しそう』な経営の割合については、北海道(49.2%)と都府県(58.9%)の間の差が大きく、特に東海(65.1%)、北陸(64.9%)、四国(63.2%)、中国(62.9%)、関東(62.8%)は北海道を 10 ポイント以上上回った。一方、『増加しそう』な経営の割合は、北海道(13.9%)、北陸(13.2%)、九州(13.0%)で僅かながら高かった。
- ◆経産牛飼養規模別にみると、北海道、都府県のいずれにおいても、『減少しそう』な経営の割合は概ね飼養規模の増大に伴い漸減する傾向をみせた。逆に、『増加しそう』な経営の割合は、北海道、都府県の双方において、飼養規模の増大に伴い漸増する傾向を示した。なお、『変わらない』という経営の割合は、北海道では 40～100 頭未満の階層が最も高く、都府県では 50～100 頭未満が最も低かった。

<基> (1) 酪農経営  
iv) 平成 26 年度酪農所得(対平成 25 年度) [単位: 戸、%]

		酪農家数	1 増加し そう	2 変 わ ら な い	3 減 少 し そ う	4 無 回 答
全 体		16,383	11.7	30.6	55.3	2.5
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	13.9	35.1	49.2	1.8
	( 都 府 県 計 )	10,297	10.4	27.9	58.9	2.8
	東 北	2,476	10.8	33.8	53.9	1.5
	関 東	3,199	9.7	27.2	62.8	0.3
	北 陸	342	13.2	21.9	64.9	-
	東 海	900	9.7	22.2	65.1	3.0
	近 畿	562	7.5	17.3	53.2	22.1
	中 国	747	9.0	20.1	62.9	8.0
	四 国	402	8.0	24.4	63.2	4.5
九 州	1,669	13.0	32.5	53.4	1.1	
経 産 牛 飼 養 頭 数 (全 国)	5 頭 未 満	282	2.8	35.1	55.7	6.4
	10 頭 未 満	792	5.3	29.4	59.7	5.6
	20 頭 未 満	2,191	7.9	28.4	60.9	2.8
	30 頭 未 満	2,554	10.1	29.2	59.0	1.7
	40 頭 未 満	2,533	11.1	29.0	58.0	1.9
	50 頭 未 満	2,091	13.5	32.0	52.7	1.8
	75 頭 未 満	3,076	13.6	32.8	52.0	1.7
	100 頭 未 満	1,198	13.6	33.0	52.4	1.0
	150 頭 未 満	899	15.9	32.6	50.5	1.0
	150 頭 以 上	664	21.2	29.7	47.9	1.2
無 回 答	103	3.9	9.7	16.5	69.9	
経 産 牛 飼 養 頭 数 (北 海 道)	5 頭 未 満	18	5.6	22.2	66.7	5.6
	10 頭 未 満	41	9.8	31.7	53.7	4.9
	20 頭 未 満	147	7.5	32.0	58.5	2.0
	30 頭 未 満	325	13.2	35.1	50.2	1.5
	40 頭 未 満	708	12.6	32.8	52.8	1.8
	50 頭 未 満	961	13.2	37.7	47.9	1.2
	75 頭 未 満	1,948	12.9	37.0	48.7	1.4
	100 頭 未 満	828	14.3	36.1	49.3	0.4
	150 頭 未 満	626	16.6	33.4	49.7	0.3
	150 頭 以 上	435	22.5	30.6	46.2	0.7
無 回 答	49	-	6.1	16.3	77.6	
経 産 牛 飼 養 頭 数 (都 府 県)	5 頭 未 満	264	2.7	36.0	54.9	6.4
	10 頭 未 満	751	5.1	29.3	60.1	5.6
	20 頭 未 満	2,044	7.9	28.1	61.1	2.9
	30 頭 未 満	2,229	9.6	28.3	60.3	1.7
	40 頭 未 満	1,825	10.5	27.6	60.1	1.9
	50 頭 未 満	1,130	13.8	27.2	56.8	2.2
	75 頭 未 満	1,128	14.8	25.5	57.6	2.0
	100 頭 未 満	370	12.2	25.9	59.5	2.4
	150 頭 未 満	273	14.3	30.8	52.4	2.6
	150 頭 以 上	229	18.8	27.9	51.1	2.2
無 回 答	54	7.4	13.0	16.7	63.0	

## 2 6 生乳増産の阻害要因

◆生乳生産の阻害要因を3択形式で調べると、『労働力不足（飼養管理が限界）』（29.8%）、『経営者の高齢化』（26.5%）、『今後の購入飼料価格の不透明さ』（25.6%）、『今後の制度・政策の不透明さ』（20.6%）、『労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）』（20.5%）、『設備・機械不足（飼養頭数が限界）』（19.0%）、『資金不足（乳牛の更新・増頭が不可）』（17.2%）等が多くあげられた。

◆地域別にみると、北海道は都府県に比べて、『労働力不足（飼養管理が限界）』（北海道 37.7%、都府県 25.1%）、『今後の制度・政策の不透明さ』（北海道 28.0%、都府県 16.2%）、『設備・機械不足（飼養頭数が限界）』（北海道 27.3%、都府県 14.1%）、『資金不足（土地・施設確保が不可）』（北海道 21.3%、都府県 10.8%）等が多く、『経営者の高齢化』（北海道 20.4%、都府県 30.1%）、『今後の購入飼料価格の不透明さ』（北海道 18.4%、都府県 29.9%）、『生乳の出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）』（北海道 6.0%、都府県 15.4%）等が少なかった。

◆経産牛飼養規模別にみると、『今後の購入飼料価格の不透明さ』、『今後の制度・政策の不透明さ』、『今後の生乳価格・需給の不透明さ』、『資金不足（土地・施設確保が不可）』等は規模の大きい階層で特に多くあげられた。『労働力不足（飼養管理が限界）』、『設備・機械不足（飼養頭数が限界）』等は中規模層で特に多くあげられた。『経営者の高齢化』、『資金不足（乳牛の更新・増頭が不可）』、『後継者難』等は小規模層で特に多くあげられた。また、自給飼料生産・ふん尿処理の制約要因として、北海道の大規模層で『労働力不足』、都府県の大規模層で『農地の狭さ』をあげる経営が多くみられた。

<基> (2) 生乳生産量を増産できない理由(三つ回答)

[単位: 戸、%]

	農業者数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
		産・農地がふん尿処理が自給飼料生産に不足している	施設用地が狭く、増産できない	労働力不足で自給飼料生産が限界	労働力不足で乳牛の飼養管理が限界	資金不足で土地や施設が確保できない	新・増頭ができない	給飼料設備・機械では自給飼料生産・ふん尿処理が限界	今の設備・機械では飼養頭数が限界	経営者が高齢化している	経営後継者が確保できない	生乳の出荷ペナルティ(細菌・体細胞数)が多い	生乳の出荷ペナルティ(細菌・体細胞数)が多い	生産者が今後不透明	生乳の価格や需給が今後不透明	購入飼料価格が今後不透明	酪農制度・政策が今後不透明	現在の経営規模に満足している	その他	無回答
全	16,383	16.4	10.7	20.5	29.8	14.7	17.2	10.1	19.0	26.5	15.9	11.9	2.6	2.0	16.8	25.6	20.6	7.1	3.8	3.4
北海道	6,086	13.6	10.7	19.5	37.7	21.3	13.0	9.4	27.3	20.4	15.7	6.0	0.9	2.3	16.3	18.4	28.0	11.2	3.9	3.3
都府県計	10,297	18.1	10.7	21.1	25.1	10.8	19.7	10.4	14.1	30.1	16.1	15.4	3.6	1.9	17.1	29.9	16.2	4.7	3.7	3.5
東北	2,476	19.1	10.6	21.7	27.8	11.3	16.6	10.4	15.5	33.0	18.4	18.7	3.6	1.9	11.9	25.8	14.9	4.9	3.1	2.2
関東	3,199	19.9	10.4	23.2	25.0	10.1	20.5	10.0	11.9	34.1	16.5	14.7	3.7	1.5	18.1	33.1	17.0	4.5	4.0	0.7
北陸	342	7.9	11.4	16.4	26.9	12.6	28.1	7.3	12.6	34.2	20.8	14.0	3.5	2.3	14.6	36.5	16.7	7.0	6.1	0.3
東海	900	13.6	9.1	16.3	24.9	10.7	24.6	12.7	17.4	27.0	15.0	16.3	4.1	0.9	17.8	30.2	19.1	4.4	5.4	3.6
近畿	562	13.7	10.5	13.5	18.9	9.6	17.6	9.4	11.6	23.7	13.5	9.3	2.5	1.4	22.6	27.4	9.8	3.2	3.0	22.2
中国	747	15.0	9.6	19.8	26.6	11.8	20.3	10.7	16.2	30.0	12.7	11.1	4.1	1.7	14.2	26.9	17.3	4.7	3.6	8.8
四国	402	20.9	15.4	23.6	21.9	8.5	12.2	11.4	12.7	29.6	16.9	19.7	4.7	1.2	16.2	30.6	12.9	3.0	4.5	4.7
九州	1,669	19.8	11.4	22.4	23.0	11.7	20.7	10.8	14.9	21.2	13.4	14.7	2.8	3.1	23.0	30.1	17.7	5.5	2.9	2.3
5頭未満	282	8.9	9.9	16.3	22.7	5.3	20.2	7.8	7.1	56.4	24.8	14.5	2.8	2.1	8.5	16.0	9.6	3.2	1.4	7.1
10頭未満	792	11.2	8.8	18.4	24.6	6.4	19.4	7.6	9.3	48.9	23.6	18.2	4.9	2.1	11.5	23.5	8.3	3.9	3.5	6.3
20頭未満	2,191	14.2	9.0	19.4	26.1	9.5	22.7	8.0	12.0	41.3	20.8	15.7	3.4	1.6	15.0	26.6	14.0	3.9	3.2	3.5
30頭未満	2,554	15.7	10.3	22.3	28.1	10.9	20.0	9.3	13.7	33.9	19.9	14.8	2.9	1.4	16.4	29.2	14.3	5.5	3.4	2.8
40頭未満	2,533	15.8	11.3	20.8	30.1	13.7	17.7	10.5	18.1	27.8	16.4	12.9	2.7	2.0	16.3	27.5	20.6	6.6	3.7	2.6
50頭未満	2,091	17.2	12.5	21.1	31.1	18.8	15.3	9.9	22.0	21.0	15.3	10.9	2.3	2.2	16.2	26.2	21.9	8.8	3.9	2.4
75頭未満	3,076	16.5	11.4	20.8	33.9	18.2	14.6	10.6	27.0	16.2	12.2	9.5	1.9	2.3	18.6	22.9	26.3	9.5	3.8	2.3
100頭未満	1,198	18.9	9.5	20.8	35.1	20.9	14.2	11.9	24.0	15.4	9.9	7.5	1.3	1.9	19.5	23.9	30.1	10.2	3.3	2.4
150頭未満	899	21.2	9.1	19.7	31.7	19.9	13.7	12.6	25.3	12.2	10.9	6.7	1.8	3.1	19.8	24.4	30.9	10.6	5.8	2.8
150頭以上	664	26.7	14.5	20.8	24.2	19.3	13.1	14.2	20.8	9.6	7.2	6.9	2.7	2.9	22.9	25.9	26.7	5.9	6.9	3.8
無回答	103	1.9	3.9	4.9	4.9	3.9	4.9	3.9	4.9	14.6	8.7	2.9	1.0	-	3.9	6.8	5.8	1.9	1.9	68.0
5頭未満	18	16.7	5.6	16.7	27.8	5.6	11.1	5.6	16.7	38.9	27.8	11.1	-	-	5.6	22.2	22.2	-	-	5.6
10頭未満	41	12.2	12.2	17.1	24.4	12.2	19.5	14.6	14.6	36.6	24.4	12.2	-	2.4	7.3	14.6	12.2	9.8	7.3	7.3
20頭未満	147	15.0	5.4	14.3	34.0	18.4	15.0	6.1	17.7	38.1	23.1	8.2	2.7	1.4	17.7	16.3	25.9	7.5	2.0	4.1
30頭未満	325	8.3	10.8	21.2	34.5	17.5	13.2	6.2	17.2	34.2	28.3	6.8	0.3	1.5	16.3	18.8	19.7	12.9	3.7	2.8
40頭未満	708	10.5	10.9	18.6	34.9	16.8	16.0	8.9	24.7	32.5	22.3	6.9	1.4	2.8	14.7	16.8	22.2	9.5	4.2	2.5
50頭未満	961	12.4	12.7	19.3	37.4	24.3	14.0	8.0	25.7	21.5	19.1	6.6	1.1	2.0	15.0	16.6	24.5	12.5	3.6	2.6
75頭未満	1,948	11.7	11.5	19.2	39.9	21.8	12.5	10.1	32.4	17.6	13.7	6.4	0.7	2.4	16.3	18.1	29.3	11.2	3.3	2.5
100頭未満	828	15.7	8.9	19.7	41.9	23.6	12.2	10.6	27.9	16.1	11.0	5.7	0.6	2.1	18.1	20.8	33.5	12.2	2.9	1.9
150頭未満	626	16.8	8.3	20.4	39.3	22.4	11.8	9.9	28.4	13.6	11.5	4.0	0.6	3.0	17.3	20.0	35.0	13.7	6.1	2.6
150頭以上	435	26.0	12.2	24.1	32.2	21.4	10.3	11.3	24.4	10.8	8.3	3.4	0.7	3.0	19.1	21.6	29.9	7.1	6.4	4.1
無回答	49	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	10.2	10.2	-	-	-	4.1	4.1	4.1	2.0	75.5	-
5頭未満	264	8.3	10.2	16.3	22.3	5.3	20.8	8.0	6.4	57.6	24.6	14.8	3.0	2.3	8.7	15.3	8.7	3.4	1.6	7.2
10頭未満	751	11.2	8.7	18.5	24.6	6.1	19.4	7.2	9.1	49.5	23.6	18.5	5.2	2.1	11.7	24.0	8.1	3.6	3.3	6.3
20頭未満	2,044	14.1	9.2	19.8	25.5	8.9	23.3	8.2	11.5	41.5	20.6	16.3	3.5	1.7	14.8	27.3	13.2	3.7	3.3	3.4
30頭未満	2,229	16.8	10.2	22.4	27.1	9.9	21.0	9.8	13.2	33.9	18.7	15.9	3.2	1.4	16.4	30.8	13.5	4.4	3.4	2.8
40頭未満	1,825	17.9	11.4	21.6	28.3	12.5	18.4	11.2	15.5	26.0	14.1	15.3	3.2	1.6	17.0	31.7	19.9	5.5	3.5	2.6
50頭未満	1,130	21.3	12.4	22.7	25.8	14.1	16.4	11.5	18.8	20.5	12.0	14.6	3.3	2.3	17.2	34.3	19.7	5.8	4.2	2.2
75頭未満	1,128	24.8	11.3	23.6	27.7	12.0	18.1	11.4	17.7	13.8	9.7	14.7	3.9	2.3	22.6	31.0	21.0	6.6	4.8	2.0
100頭未満	370	26.2	10.8	23.2	19.7	14.9	18.6	14.9	15.1	14.1	7.6	11.6	2.7	1.6	22.7	30.8	22.4	5.7	4.3	3.5
150頭未満	273	31.5	11.0	17.9	14.3	14.3	17.9	18.7	17.9	9.2	9.5	12.8	4.4	3.3	25.6	34.4	21.6	3.3	5.1	3.3
150頭以上	229	27.9	18.8	14.4	9.2	15.3	18.3	19.7	14.0	7.4	5.2	13.5	6.6	2.6	30.1	34.1	20.5	3.5	7.9	3.1
無回答	54	3.7	3.7	5.6	5.6	1.9	5.6	3.7	3.7	18.5	7.4	5.6	1.9	-	7.4	11.1	7.4	-	1.9	61.1

## 27 平成26年度生乳生産目標数量の達成可能性

◆酪農経営全体としてみると、『必ず達成』(7.5%)と『たぶん達成』(43.6%)を合わせて“達成できる”という経営が5割強、『ぜったい達成不可能』(7.0%)と『たぶん達成不可能』(27.6%)を合わせて“達成できない”という経営が3割強、『わからない』(11.1%)という経営が1割強という状況であった。

◆地域別にみると、“達成できる”という経営の割合は九州(65.7%)、北海道(56.1%)で高く、“達成できない”という経営の割合は東海(44.5%)、中国(41.2%)、北陸(39.5%)で高かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、北海道、都府県のいずれにおいても、飼養規模の増大に伴って“達成できる”という経営の割合は漸増、“達成できない”という経営の割合は漸減する傾向をみせた。

<基> (3) 平成26年度の生乳生産目標数量

[単位: 戸, %]

		酪農家数	1 必ず達成できる	2 たぶん達成できる	3 いたぶん達成できない	4 なぜつたい達成できない	5 わからない	6 無回答
全 体		16,383	7.5	43.6	27.6	7.0	11.1	3.2
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	9.8	46.3	27.6	6.5	7.7	2.1
	(都府県計)	10,297	6.2	42.1	27.5	7.3	13.1	3.8
	東 北	2,476	5.7	41.2	28.0	7.3	14.7	3.1
	関 東	3,199	5.0	42.4	28.9	8.2	14.9	0.7
	北 陸	342	6.1	42.7	31.6	7.9	11.7	-
	東 海	900	3.0	35.7	33.8	10.7	12.2	4.7
	近 畿	562	3.6	29.9	25.4	6.8	12.6	21.7
	中 国	747	4.7	34.9	31.7	9.5	10.0	9.1
	四 国	402	7.2	42.3	27.9	6.0	11.4	5.2
九 州	1,669	12.3	53.4	18.8	3.3	9.9	2.3	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	2.1	24.1	26.6	18.4	21.3	7.4
	10 頭 未 満	792	3.7	27.5	29.2	13.3	19.9	6.4
	20 頭 未 満	2,191	3.7	34.8	31.6	9.8	16.6	3.5
	30 頭 未 満	2,554	5.1	41.3	29.4	6.7	14.3	3.2
	40 頭 未 満	2,533	5.6	45.8	28.5	6.4	11.1	2.6
	50 頭 未 満	2,091	9.4	47.8	26.3	6.0	8.3	2.2
	75 頭 未 満	3,076	9.5	47.6	27.2	5.6	8.0	2.2
	100 頭 未 満	1,198	9.7	52.5	25.1	5.3	6.3	1.0
	150 頭 未 満	899	14.3	49.9	22.5	5.9	5.8	1.6
	150 頭 以上	664	17.0	50.0	21.4	5.1	5.4	1.1
無 回 答	103	-	12.6	11.7	-	6.8	68.9	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	5.6	11.1	33.3	16.7	33.3	-
	10 頭 未 満	41	9.8	31.7	19.5	14.6	22.0	2.4
	20 頭 未 満	147	7.5	37.4	25.9	10.2	17.0	2.0
	30 頭 未 満	325	7.4	36.3	34.5	7.7	11.7	2.5
	40 頭 未 満	708	6.6	44.1	28.2	8.3	10.5	2.3
	50 頭 未 満	961	9.1	45.5	30.0	7.0	6.9	1.7
	75 頭 未 満	1,948	9.6	47.3	28.3	5.7	7.3	1.7
	100 頭 未 満	828	9.3	52.1	27.1	5.6	5.8	0.2
	150 頭 未 満	626	14.1	48.6	23.8	6.9	5.9	0.8
	150 頭 以上	435	16.3	49.9	23.0	4.8	4.8	1.1
無 回 答	49	-	12.2	10.2	-	2.0	75.5	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	1.9	25.0	26.1	18.6	20.5	8.0
	10 頭 未 満	751	3.3	27.3	29.7	13.2	19.8	6.7
	20 頭 未 満	2,044	3.4	34.6	32.0	9.8	16.5	3.6
	30 頭 未 満	2,229	4.8	42.0	28.7	6.5	14.6	3.4
	40 頭 未 満	1,825	5.3	46.5	28.5	5.6	11.3	2.7
	50 頭 未 満	1,130	9.6	49.7	23.2	5.1	9.6	2.7
	75 頭 未 満	1,128	9.2	48.1	25.3	5.3	9.0	3.0
	100 頭 未 満	370	10.5	53.5	20.8	4.9	7.6	2.7
	150 頭 未 満	273	15.0	53.1	19.4	3.7	5.5	3.3
	150 頭 以上	229	18.3	50.2	18.3	5.7	6.6	0.9
無 回 答	54	-	13.0	13.0	-	11.1	63.0	

## 2 8 酪農経営継続上の期待事項

◆酪農経営継続上の期待事項を3択形式で調べると、『乳価の引き上げ』(76.9%)をあげる経営が圧倒的に多く、以下『生産資材の安定的供給』(41.9%)、『補助事業の実施』(35.0%)、『生乳需給の安定』(22.2%)、『作業労働支援の充実』(20.7%)等が多くあげられた。

◆地域別にみると、都府県に比べて北海道では『作業労働支援の充実』(北海道 30.1%、都府県 15.2%)が著しくあげられており、『補助事業の実施』(北海道 39.8%、都府県 32.2%)や『後継者対策』(北海道 11.9%、都府県 6.8%)等をあげる経営の割合も都府県を上回った。逆に、『乳価の引き上げ』(北海道 72.1%、都府県 79.8%)、『搾乳後継牛の安定的供給』(北海道 10.0%、都府県 16.0%)等をあげる経営は北海道より都府県の方が多かった。なお、『乳価の引き上げ』は特に関東(84.6%)、東海(83.0%)、『搾乳後継牛の安定的供給』は特に東海(18.6%)、近畿(18.5%)で多くあげられた。

◆経産牛飼養規模別にみると、『乳価の引き上げ』(北海道、都府県)、『補助事業の実施』(北海道、都府県)、『土地の斡旋』(北海道、都府県)等は規模の大きい階層、『生産資材の安定的供給』(北海道、都府県)、『作業労働支援の充実』(北海道、都府県)等は中規模以上の階層で特に多くあげられた。また、『生乳需給の安定』(北海道)、『搾乳後継牛の安定的供給』(北海道、都府県)等は小規模階層に多くみられた。

<基> (4) 酪農経営継続上の期待(三つ回答)

[単位: 戸、%]

	酪農家数	1 生乳需給の安定	2 乳価の引き上げ	3 生産需要の拡大	4 乳製品輸入量の抑制	5 搾乳後継牛の安定的供給	6 生産資材の安定的供給	7 経営管理指導(経営コンサル等)の充実	8 生産技術指導の充実	9 作業労働支援(ヘルコンパター等)の充実	10 酪農経営に関する情報の提供	11 後継者の育成・確保のため対策	12 土地の売買や賃借の斡旋	13 6次産業化の支援	14 酪農振興のための補助事業の実施	15 その他	16 無回答
全体	16,383	22.2	76.9	9.3	9.6	13.8	41.9	3.3	4.0	20.7	3.4	8.7	5.4	3.3	35.0	2.7	4.6
北海道(都府県計)	6,086	23.0	72.1	11.2	9.2	10.0	39.3	5.1	5.4	30.1	4.3	11.9	7.6	3.7	39.8	2.9	3.2
東 京	2,476	21.6	77.1	8.4	10.5	15.2	42.9	2.2	3.9	15.9	3.4	9.2	4.6	2.6	33.0	2.5	3.7
北 海 道	3,199	22.3	84.6	8.6	10.6	17.0	44.3	2.2	3.0	15.1	3.1	5.8	4.2	3.2	31.2	2.1	3.1
北 東 陸	342	18.7	79.8	8.8	7.0	17.8	45.9	1.8	3.5	18.4	2.6	6.7	2.9	1.8	37.1	5.8	2.9
東 海	900	18.1	83.0	6.1	10.0	18.6	47.4	3.2	2.9	12.4	2.6	7.2	3.7	4.1	30.9	3.2	5.8
近 畿	562	14.8	69.4	7.8	5.2	18.5	42.7	1.1	1.4	10.3	2.1	5.2	1.4	3.0	23.5	2.1	23.5
中 国	747	15.9	75.9	5.6	9.2	13.0	43.5	3.7	4.3	14.6	1.7	6.2	3.3	3.3	32.8	2.9	11.6
四 国	402	26.9	75.4	7.7	9.0	14.2	45.0	1.2	4.0	12.2	1.0	5.2	2.7	2.7	32.3	2.7	7.0
九 州	1,669	27.4	79.3	9.1	9.4	14.4	39.5	2.2	3.0	17.7	2.9	6.0	5.2	3.5	35.2	2.5	3.4
5頭未満	282	22.3	67.0	10.3	10.6	14.9	30.1	2.1	2.8	5.7	5.3	7.1	2.8	2.8	14.9	5.3	13.5
10頭未満	792	20.5	68.4	6.7	10.7	17.9	38.9	1.3	3.4	7.6	3.5	9.8	2.0	2.7	24.1	2.1	12.1
20頭未満	2,191	20.9	76.8	7.8	9.9	19.7	42.9	2.1	3.4	11.5	3.3	7.8	2.5	3.1	27.2	2.6	6.6
30頭未満	2,554	21.7	79.1	8.3	9.8	16.4	44.5	2.5	3.1	17.6	2.7	7.1	3.3	3.2	32.4	2.0	4.8
40頭未満	2,533	22.2	78.9	7.7	9.9	14.4	43.3	2.4	3.9	21.5	3.0	8.4	4.7	2.8	35.8	2.6	4.0
50頭未満	2,091	23.7	78.9	10.0	9.9	11.1	43.1	3.6	4.6	24.0	3.5	9.0	5.7	3.3	37.7	3.1	2.6
75頭未満	3,076	22.3	77.0	10.4	9.5	11.8	41.5	4.1	4.4	29.0	4.0	9.5	6.0	3.5	39.1	2.7	2.6
100頭未満	1,198	23.8	78.2	11.5	9.7	8.9	40.2	5.5	4.5	26.9	3.3	9.7	8.8	3.6	40.7	2.6	1.6
150頭未満	899	22.9	76.9	11.8	7.0	8.6	38.4	5.6	6.3	27.7	3.6	10.3	9.5	5.0	43.9	3.2	1.9
150頭以上	664	24.2	77.0	12.5	7.5	10.1	40.8	5.9	4.7	15.5	3.3	9.9	15.7	4.2	43.4	4.2	1.7
無回答	103	9.7	17.5	2.9	2.9	8.7	11.7	-	1.9	5.8	1.9	1.9	2.9	1.9	7.8	1.0	68.9
5頭未満	18	27.8	61.1	16.7	5.6	-	16.7	-	-	11.1	-	11.1	5.6	-	5.6	22.2	16.7
10頭未満	41	26.8	65.9	9.8	9.8	14.6	41.5	7.3	2.4	12.2	2.4	14.6	7.3	7.3	29.3	-	9.8
20頭未満	147	23.1	72.1	11.6	11.6	8.2	33.3	4.1	4.8	17.7	2.7	14.3	7.5	1.4	36.7	4.1	8.8
30頭未満	325	24.0	69.5	6.2	9.8	13.8	39.1	4.3	3.1	28.0	5.2	14.2	4.6	4.6	34.8	3.7	4.3
40頭未満	708	23.0	69.1	8.2	8.9	13.3	37.3	3.8	5.5	28.4	4.0	13.1	7.1	3.0	40.0	3.1	4.5
50頭未満	961	24.2	73.5	12.6	10.8	10.4	41.4	4.2	4.5	29.3	4.0	12.1	6.0	4.1	37.1	3.2	2.4
75頭未満	1,948	21.7	72.5	11.7	9.6	10.5	39.8	4.7	5.5	34.3	4.8	11.1	6.5	3.6	40.2	2.3	2.5
100頭未満	828	23.4	75.6	12.1	9.4	8.1	41.2	6.6	5.8	31.8	3.9	10.6	8.1	3.3	40.6	2.4	1.1
150頭未満	626	24.1	73.6	12.8	6.7	7.3	36.1	6.5	7.5	32.7	4.2	12.8	9.9	4.0	45.5	3.0	1.1
150頭以上	435	24.4	72.2	11.7	7.4	7.4	42.5	7.1	5.7	19.8	4.4	12.0	15.6	4.6	43.4	4.4	1.8
無回答	49	6.1	16.3	4.1	4.1	4.1	8.2	-	-	8.2	-	2.0	6.1	2.0	12.2	-	73.5
5頭未満	264	22.0	67.4	9.8	11.0	15.9	31.1	2.3	3.0	5.3	5.7	6.8	2.7	3.0	15.5	4.2	13.3
10頭未満	751	20.1	68.6	6.5	10.8	18.1	38.7	0.9	3.5	7.3	3.6	9.6	1.7	2.4	23.8	2.3	12.3
20頭未満	2,044	20.7	77.1	7.5	9.7	20.5	43.6	2.0	3.3	11.0	3.3	7.3	2.1	3.2	26.5	2.5	6.5
30頭未満	2,229	21.4	80.5	8.6	9.8	16.8	45.3	2.2	3.1	16.1	2.3	6.1	3.1	3.0	32.0	1.7	4.8
40頭未満	1,825	21.9	82.7	7.5	10.4	14.8	45.7	1.9	3.2	18.8	2.6	6.5	3.8	2.8	34.1	2.4	3.8
50頭未満	1,130	23.2	83.5	7.8	9.1	11.8	44.6	3.2	4.8	19.5	3.2	6.5	5.4	2.7	38.2	3.0	2.7
75頭未満	1,128	23.2	84.6	8.2	9.3	14.1	44.6	3.0	2.5	19.9	2.7	6.6	5.3	3.4	37.2	3.5	2.7
100頭未満	370	24.6	84.1	10.3	10.3	10.8	38.1	3.0	1.6	15.9	2.2	7.6	10.3	4.3	40.8	3.0	2.7
150頭未満	273	20.1	84.2	9.5	7.7	11.4	43.6	3.3	3.7	16.1	2.2	4.8	8.4	7.3	40.3	3.7	3.7
150頭以上	229	24.0	86.0	14.0	7.9	15.3	37.6	3.5	2.6	7.4	1.3	6.1	15.7	3.5	43.2	3.9	1.3
無回答	54	13.0	18.5	1.9	1.9	13.0	14.8	-	3.7	3.7	3.7	1.9	-	1.9	3.7	1.9	64.8

## 29 現酪農経営者の酪農経験

### (1) 酪農従事年数

◆現在の酪農経営者について酪農の経験年数を調べると、30年未満が29.3%、30年以上が66.1%を占めており、全酪農経営者平均の酪農経験年数は33.2年であった。

◆平均酪農経験年数を地域間で比較すると、他地域に比べて北陸(36.5年)、関東(36.4年)、近畿(36.2年)が長く、北海道(30.5年)が短かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、都府県では、規模が増大するに従って平均酪農経験年数が漸減するという傾向がみられた。これに対して、北海道においては、平均酪農経験年数は、50頭未満の階層では飼養規模の増大に伴い漸減する傾向を示したが、同階層を超えると違いがみられなかった。また、全ての規模階層について、北海道の平均酪農経験年数は都府県のそれを下回った。

<基> (5) 酪農経験

i) 酪農従事年数

[単位：戸、%、年]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	有効回答平均 (0含む)	
		5年未満	10年未満	20年未満	30年未満	30年以上	無回答		
全体	16,383	0.9	2.5	11.0	14.9	66.1	4.7	33.2	
ブ ロ ッ ク	北海道	6,086	0.9	3.3	14.7	18.2	58.9	4.0	30.5
	(都府県計)	10,297	0.9	2.1	8.7	12.8	70.4	5.1	34.8
	東北	2,476	0.8	2.7	8.8	13.0	70.1	4.6	33.9
	関東	3,199	0.9	1.7	7.3	12.0	76.5	1.6	36.4
	北陸	342	1.2	2.0	5.0	10.8	80.7	0.3	36.5
	東海	900	0.9	2.3	9.2	14.2	66.2	7.1	34.3
	近畿	562	0.7	1.4	5.2	11.4	56.6	24.7	36.2
	中国	747	1.1	2.8	10.8	12.2	63.2	9.9	33.5
	四国	402	1.2	2.0	9.0	10.7	70.1	7.0	35.4
九州	1,669	0.8	1.7	12.1	15.1	67.1	3.2	33.1	
経産牛飼養頭数(全国)	5頭未満	282	0.7	2.1	2.5	7.8	76.2	10.6	39.7
	10頭未満	792	0.9	1.8	4.7	10.1	74.6	8.0	38.4
	20頭未満	2,191	0.8	1.9	6.4	9.6	76.1	5.2	36.8
	30頭未満	2,554	1.1	2.0	7.6	12.8	72.0	4.5	35.0
	40頭未満	2,533	0.8	2.4	9.7	14.4	68.7	4.1	33.5
	50頭未満	2,091	1.0	3.3	13.4	16.7	61.9	3.6	31.2
	75頭未満	3,076	0.7	3.2	13.7	17.5	61.2	3.7	31.1
	100頭未満	1,198	0.8	2.8	16.6	19.9	57.6	2.3	30.4
	150頭未満	899	0.7	2.1	17.1	20.4	56.1	3.7	30.1
	150頭以上	664	1.1	3.0	17.3	17.9	57.7	3.0	30.1
無回答	103	1.9	1.0	1.0	2.9	24.3	68.9	34.9	
経産牛飼養頭数(北海道)	5頭未満	18	-	-	11.1	-	77.8	11.1	38.4
	10頭未満	41	2.4	2.4	4.9	17.1	68.3	4.9	35.4
	20頭未満	147	0.7	0.7	8.8	10.2	74.8	4.8	34.9
	30頭未満	325	1.2	1.8	12.0	15.7	64.6	4.6	33.0
	40頭未満	708	0.8	2.0	12.0	16.0	64.4	4.8	32.4
	50頭未満	961	1.2	4.8	15.0	17.8	57.6	3.5	29.6
	75頭未満	1,948	0.7	3.9	14.9	18.8	58.3	3.4	30.0
	100頭未満	828	0.5	3.6	15.5	22.0	56.3	2.2	29.8
	150頭未満	626	0.6	2.6	18.7	19.6	55.9	2.6	29.4
	150頭以上	435	1.1	2.8	16.8	18.6	57.9	2.8	30.0
無回答	49	2.0	-	-	2.0	22.4	73.5	35.3	
経産牛飼養頭数(都府県)	5頭未満	264	0.8	2.3	1.9	8.3	76.1	10.6	39.8
	10頭未満	751	0.8	1.7	4.7	9.7	75.0	8.1	38.6
	20頭未満	2,044	0.8	2.0	6.3	9.6	76.2	5.2	36.9
	30頭未満	2,229	1.1	2.1	7.0	12.3	73.1	4.5	35.3
	40頭未満	1,825	0.8	2.5	8.8	13.8	70.4	3.8	33.9
	50頭未満	1,130	0.8	2.1	12.0	15.8	65.6	3.7	32.6
	75頭未満	1,128	0.7	2.1	11.5	15.2	66.3	4.2	33.1
	100頭未満	370	1.4	0.8	19.2	15.4	60.5	2.7	31.7
	150頭未満	273	0.7	1.1	13.6	22.0	56.4	6.2	31.7
	150頭以上	229	0.9	3.5	18.3	16.6	57.2	3.5	30.3
無回答	54	1.9	1.9	1.9	3.7	25.9	64.8	34.6	

## (2) 酪農経営者年数

◆現在の酪農経営者について酪農の経験年数を調べると、全体の31.5%が『20年未満』、23.1%が『20～30年未満』、40.3%が『30年以上』という内訳になっており、平均酪農経営者年数は24.7年であった。

◆平均酪農経営者年数を地域間で比較すると、他地域に比べて北陸(30.1年)、近畿(29.8年)、四国(28.6年)が長く、北海道(21.4年)が短かった。

◆経産牛飼養規模別にみると、北海道、都府県のいずれにおいても、規模が増大するに従って平均酪農経営者年数が漸減するという傾向がみられた。また、全ての規模階層について、北海道の平均酪農経営者年数は都府県のそれを下回った。これは、同じく全ての規模階層について、北海道の平均酪農従事年数が都府県のそれを下回っていることと密接に関連しているものと推察される。

<基> (5) 酪農経験

ii) 酪農経営者年数

[単位: 戸、%、年]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	有効回答平均 (0含む)	
		5年未満	10年未満	20年未満	30年未満	30年以上	無回答		
全 体	16,383	8.4	7.4	15.7	23.1	40.3	5.1	24.7	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	10.9	9.1	18.0	26.9	30.7	4.4	21.4
	( 都 府 県 計 )	10,297	6.9	6.4	14.4	20.8	45.9	5.6	26.6
	東 北	2,476	6.9	6.7	15.1	21.8	44.3	5.1	25.5
	関 東	3,199	6.0	6.0	14.3	21.7	50.1	1.8	27.6
	北 陸	342	5.6	4.4	12.0	15.2	62.3	0.6	30.1
	東 海	900	8.7	7.8	14.9	20.3	40.9	7.4	25.4
	近 畿	562	4.3	4.4	9.6	14.1	42.9	24.7	29.8
	中 国	747	8.3	6.6	12.9	17.0	45.0	10.3	26.8
	四 国	402	7.2	4.2	11.4	18.9	49.5	8.7	28.6
九 州	1,669	8.1	7.7	16.6	23.3	40.2	4.1	24.8	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	3.9	4.3	7.1	16.7	56.4	11.7	32.2
	10 頭 未 満	792	3.5	3.7	11.6	15.9	56.7	8.6	31.3
	20 頭 未 満	2,191	4.7	4.8	12.3	20.0	52.6	5.6	29.1
	30 頭 未 満	2,554	6.3	6.7	13.8	22.0	46.4	4.8	26.6
	40 頭 未 満	2,533	7.1	6.7	16.0	23.3	42.4	4.5	25.1
	50 頭 未 満	2,091	9.4	8.6	17.7	25.1	35.0	4.2	22.7
	75 頭 未 満	3,076	10.1	9.0	17.4	26.1	33.3	4.1	22.2
	100 頭 未 満	1,198	13.4	8.8	19.2	25.5	30.0	3.0	21.0
	150 頭 未 満	899	14.1	10.5	18.5	24.6	28.5	3.9	20.3
150 頭 以 上	664	13.7	11.3	19.3	22.6	29.8	3.3	20.8	
無 回 答	103	5.8	1.0	4.9	8.7	10.7	68.9	21.8	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	-	5.6	11.1	11.1	61.1	11.1	27.8
	10 頭 未 満	41	7.3	2.4	17.1	17.1	51.2	4.9	27.6
	20 頭 未 満	147	6.1	2.7	13.6	30.6	41.5	5.4	26.5
	30 頭 未 満	325	6.8	7.1	14.8	25.2	40.9	5.2	24.4
	40 頭 未 満	708	6.5	7.1	18.1	24.2	39.3	4.9	23.7
	50 頭 未 満	961	9.2	10.0	20.0	25.1	31.8	4.0	21.3
	75 頭 未 満	1,948	10.5	9.9	18.0	29.2	28.5	3.8	21.0
	100 頭 未 満	828	14.9	8.6	18.2	28.6	26.9	2.8	20.2
	150 頭 未 満	626	16.5	10.7	18.4	25.9	25.9	2.7	19.2
150 頭 以 上	435	14.3	11.3	18.2	26.4	26.7	3.2	20.3	
無 回 答	49	4.1	-	4.1	12.2	6.1	73.5	21.2	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	4.2	4.2	6.8	17.0	56.1	11.7	32.5
	10 頭 未 満	751	3.3	3.7	11.3	15.8	57.0	8.8	31.5
	20 頭 未 満	2,044	4.5	4.9	12.2	19.3	53.4	5.6	29.3
	30 頭 未 満	2,229	6.2	6.6	13.7	21.6	47.2	4.8	26.9
	40 頭 未 満	1,825	7.4	6.6	15.2	22.9	43.7	4.3	25.7
	50 頭 未 満	1,130	9.6	7.3	15.8	25.1	37.7	4.3	23.9
	75 頭 未 満	1,128	9.4	7.4	16.3	20.8	41.4	4.7	24.4
	100 頭 未 満	370	10.3	9.5	21.4	18.6	36.8	3.5	22.7
	150 頭 未 満	273	8.8	9.9	18.7	21.6	34.4	6.6	23.0
150 頭 以 上	229	12.7	11.4	21.4	15.3	35.8	3.5	21.7	
無 回 答	54	7.4	1.9	5.6	5.6	14.8	64.8	22.3	

### 30 酪農部門以外への取り組み

◆酪農部門以外への取り組み状況を調べると、全体の22.9%が『稲作』、11.4%が『肉牛（繁殖）』に取り組んでおり、以下『畑作（飼料生産以外）』（5.9%）、『園芸（野菜・果樹）』（5.3%）、『肉牛（肥育）』（4.4%）、『消費者交流（教育ファームを含む）』（3.0%）、『乳製品製造』（1.8%）がそれぞれ1割未満で続くといった状況であった。

◆地域別にみると、『畑作（飼料生産以外）』を除く全ての部門で、北海道より都府県の方が取り組み経営の割合が高く、特に『稲作』（北海道0.7%、都府県36.1%）、『肉牛（繁殖）』（北海道4.5%、都府県15.5%）への取り組みは都府県が北海道を大きく上回った。なお、『稲作』への取り組みは北陸（55.0%）、東北（46.0%）、四国（40.3%）、『肉牛（繁殖）』への取り組みは九州（24.4%）、東北（17.0%）でとりわけ活発であった。

◆経産牛飼養規模別にみると、『稲作』、『畑作（飼料生産以外）』、『園芸（野菜・果樹）』への取り組みは、北海道、都府県のいずれにおいても、小規模階層ほど盛んであった。また、北海道においては、『肉牛（肥育）』への取り組みも小規模階層で盛んであった。これに対して、都府県における『肉牛（繁殖）』、『肉牛（肥育）』、『消費者交流（教育ファームを含む）』、『乳製品製造』への取り組みは、大規模階層になるほど活発であった。なお、全ての規模階層について、『稲作』、『肉牛（繁殖）』、『園芸（野菜・果樹）』への取り組みは都府県、『畑作（飼料生産以外）』への取り組みは北海道が高かった。

<基> (6) 酪農部門以外への取り組み部門(複数回答)

[単位: 戸、%]

	酪農家数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
		肉牛(肥育)	肉牛(繁殖)	稲作	畑作(飼料生産以外)	園芸(野菜・果樹)	乳製品製造	消費者交流(教育ファームを含む)	その他	無回答	
全 体	16,383	4.4	11.4	22.9	5.9	5.3	1.8	3.0	2.7	56.6	
ブ ロ ッ ク	北 海 道	6,086	3.6	4.5	0.7	7.9	1.3	1.2	2.1	1.4	81.1
	(都府県計)	10,297	4.9	15.5	36.1	4.8	7.6	2.1	3.5	3.5	42.1
	東 北	2,476	3.1	17.0	46.0	3.7	7.0	1.3	2.6	3.3	35.4
	関 東	3,199	4.4	13.5	28.8	5.0	8.2	2.4	3.7	4.4	47.4
	北 海 道	342	3.5	11.4	55.0	4.7	6.4	2.9	5.6	3.5	30.4
	東 海	900	9.0	13.6	25.4	6.4	8.8	2.6	5.2	2.6	48.8
	近 畿	562	3.4	6.4	35.6	6.8	12.6	4.3	4.1	2.3	48.4
	中 国	747	4.1	13.0	32.9	3.6	6.7	2.5	3.9	4.3	46.6
	四 国	402	7.0	11.4	40.3	3.7	11.7	1.7	2.5	4.2	40.5
九 州	1,669	6.8	24.4	37.7	5.3	5.0	1.6	3.2	2.3	36.9	
経産牛飼養頭数(全国)	5 頭 未 満	282	3.5	10.3	57.4	10.3	19.1	1.4	1.4	5.7	24.1
	10 頭 未 満	792	2.5	10.1	51.3	9.7	14.4	1.5	1.0	4.0	31.4
	20 頭 未 満	2,191	4.0	15.1	47.2	7.1	9.8	1.2	1.9	3.5	32.5
	30 頭 未 満	2,554	4.9	15.1	35.9	6.5	7.8	1.6	2.5	3.8	41.4
	40 頭 未 満	2,533	4.4	12.9	23.5	6.5	4.6	1.7	2.8	2.5	54.3
	50 頭 未 満	2,091	4.0	11.2	13.3	5.7	3.3	1.6	3.1	1.8	65.2
	75 頭 未 満	3,076	4.2	7.3	7.9	5.3	1.9	1.9	3.7	1.8	74.1
	100 頭 未 満	1,198	4.4	8.9	4.5	3.4	1.7	1.9	3.8	1.7	76.2
	150 頭 未 満	899	4.4	9.1	3.7	3.8	0.7	3.1	4.2	2.6	75.4
	150 頭 以上	664	9.6	10.5	3.9	3.0	2.1	3.8	5.4	2.9	72.0
無 回 答	103	1.9	2.9	5.8	1.9	1.0	-	-	2.9	89.3	
経産牛飼養頭数(北海道)	5 頭 未 満	18	5.6	5.6	11.1	16.7	5.6	-	-	5.6	72.2
	10 頭 未 満	41	12.2	-	7.3	17.1	4.9	2.4	2.4	7.3	56.1
	20 頭 未 満	147	10.2	7.5	4.1	19.0	2.7	-	1.4	4.1	57.8
	30 頭 未 満	325	7.4	6.8	3.1	17.5	3.4	2.2	3.7	1.5	63.7
	40 頭 未 満	708	3.7	5.1	0.7	13.3	2.1	1.1	1.3	2.1	74.4
	50 頭 未 満	961	3.3	5.5	0.2	9.1	1.5	1.2	1.8	1.1	80.2
	75 頭 未 満	1,948	3.0	2.9	0.5	6.5	1.0	1.0	2.2	1.1	84.7
	100 頭 未 満	828	2.7	4.3	0.2	4.1	1.1	1.1	1.9	1.0	86.0
	150 頭 未 満	626	3.5	5.1	0.2	4.5	0.2	1.8	1.9	0.8	85.8
	150 頭 以上	435	3.9	5.5	-	3.2	0.7	1.8	3.2	2.1	83.4
無 回 答	49	-	2.0	-	4.1	-	-	-	2.0	93.9	
経産牛飼養頭数(都府県)	5 頭 未 満	264	3.4	10.6	60.6	9.8	20.1	1.5	1.5	5.7	20.8
	10 頭 未 満	751	2.0	10.7	53.7	9.3	14.9	1.5	0.9	3.9	30.1
	20 頭 未 満	2,044	3.5	15.6	50.3	6.3	10.3	1.3	2.0	3.5	30.7
	30 頭 未 満	2,229	4.5	16.3	40.7	4.9	8.4	1.5	2.3	4.1	38.2
	40 頭 未 満	1,825	4.7	15.9	32.3	3.9	5.5	1.9	3.5	2.6	46.5
	50 頭 未 満	1,130	4.6	16.1	24.4	2.9	4.8	1.9	4.2	2.3	52.5
	75 頭 未 満	1,128	6.2	14.9	20.7	3.4	3.5	3.5	6.5	3.0	55.8
	100 頭 未 満	370	8.4	19.2	14.1	1.9	3.0	3.8	7.8	3.2	54.3
	150 頭 未 満	273	6.6	18.3	11.7	2.2	1.8	6.2	9.5	6.6	51.6
150 頭 以上	229	20.5	20.1	11.4	2.6	4.8	7.4	9.6	4.4	50.2	
無 回 答	54	3.7	3.7	11.1	-	1.9	-	-	3.7	85.2	



## Ⅱ 生乳生産構造の現状と変容に関する分析



# 1 生乳生産構造の現状に関する分析

## (1) 後継者及び担い手の確保状況

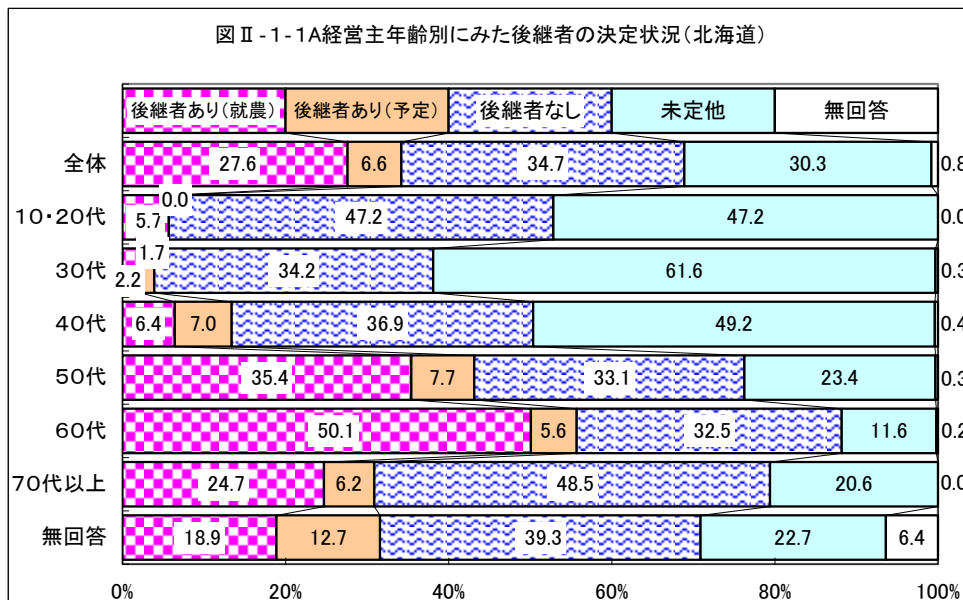
### [1] 後継者の確保状況

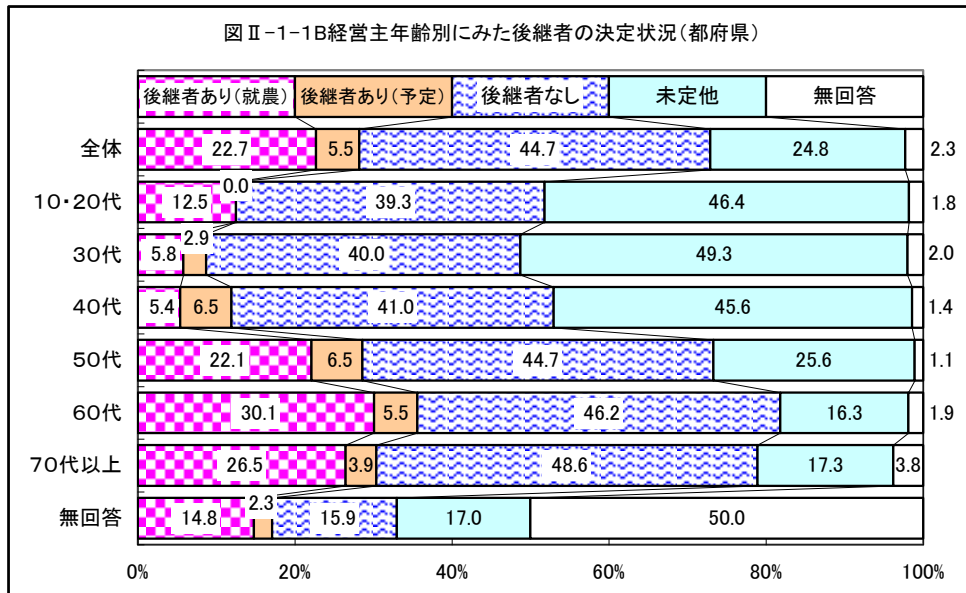
経営主年齢と後継者の確保状況との関係については、酪農全国基礎調査における後継者の定義が“16歳以上”となっているため、経営主年齢が『40代』以下の階層では「後継者既定（「就農中の後継者あり」、「就農予定の後継者あり」の合計）の経営の割合が低く、また北海道と都府県との間の後継者既定率の差も小さい。

北海道における「後継者既定」経営の割合は、『50代』43.1%、『60代』55.7%、『70代以上』30.9%となっており、『50代』から『60代』にかけては「後継者既定」が増加して「後継者未定」が減少するが、『60代』から『70代以上』にかけては「後継者既定」が大きく減少して「後継者不在」が大きく増加している。

一方、都府県における「後継者既定」経営の割合は、『50代』28.6%、『60代』35.6%、『70代以上』30.4%となっており、『50代』から『60代』にかけて「後継者既定」が増加して「後継者未定」が減少する点は北海道と同じであるが、『60代』から『70代以上』にかけては「後継者既定」、「後継者不在」、「後継者未定」の割合が北海道ほど大きく変化していない。

このため、経営主年齢が『50代』、『60代』の後継者既定率については北海道が都府県を大きく上回っているが、『70代以上』についてはほぼ同率となっている。

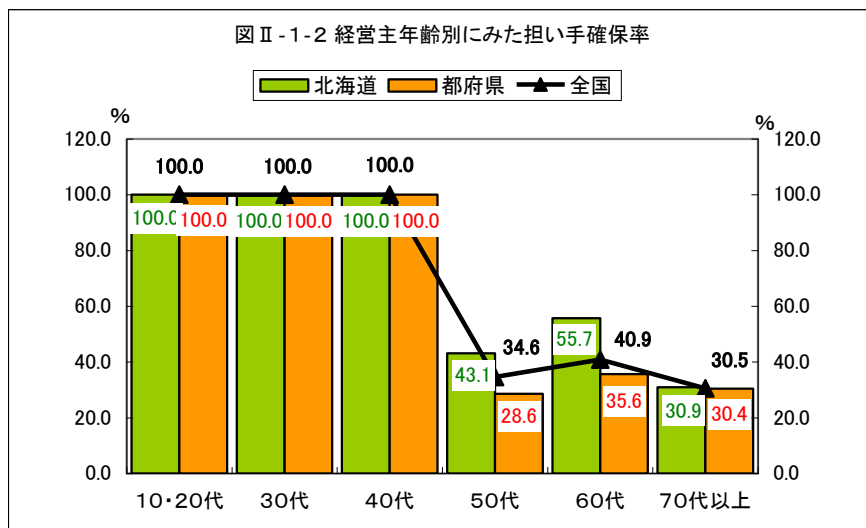




## [2] 担い手の確保状況

酪農全国基礎調査における担い手確保経営の定義が「経営主が50歳未満、又は16歳以上の後継者がいる経営」となっているため、北海道、都府県のいずれにおいても経営者年齢が『40代』以下の階層の「担い手確保率」は100%である。

また、『50代』以上の年齢階層については、「担い手確保率」は定義により前述の「後継者確保率」と同値になる。



## (2) 搾乳牛舎の状態

### [1] 搾乳牛舎の形態

搾乳牛舎の形態としては、「繋ぎ」牛舎が北海道73.0%、都府県82.2%と依然として圧倒的多数を占めているが、「フリーストール」牛舎、「フリーバーン」牛舎の普及も着実に進んで

おり、現時点ではその双方を合わせた割合が北海道 25.3%、都府県 15.8%に及んでいる。

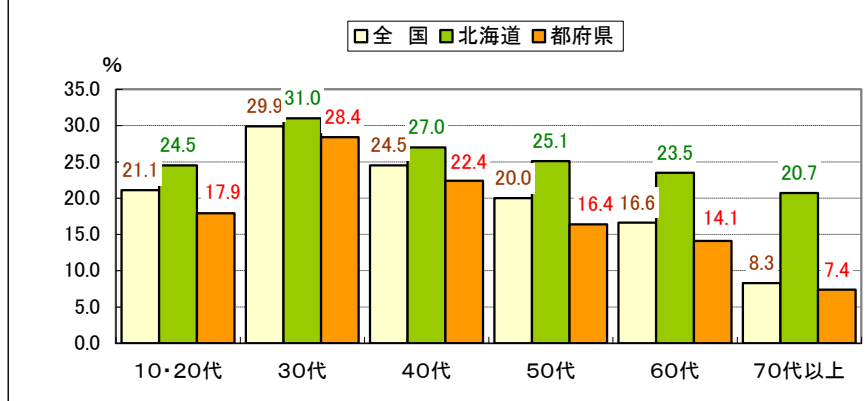
これを経営主年齢との関係でみると、フリーストール・フリーバーンの導入割合は、北海道、都府県のいずれにおいても経営主年齢『30代』層（北海道 31.0%、都府県 28.4%）が最も高く、『10・20代』から『30代』にかけて上昇した後は年齢階層が高まるにつれて漸減している。

また、フリーストール・フリーバーンの導入割合を北海道・都府県間で比較してみると、どの年齢階層でも北海道が都府県を上回っているが、『30代』以降、年齢階層が高まるほどその較差が広がっている。

表Ⅱ-1-1 搾乳牛舎の形態

【北海道】						【都府県】						[単位：戸、%]					
	酪農家数	1 フリーストール	2 フリーバーン	3 繋ぎ	4 その他	5 無回答		酪農家数	1 フリーストール	2 フリーバーン	3 繋ぎ	4 その他	5 無回答				
北海道						6,086	23.5	1.8	73.0	0.9	0.9	都府県					
経営主年齢	10・20代	53	22.6	1.9	75.5	-	-	10,297	8.4	7.4	82.2	1.5	0.5				
	30代	761	29.3	1.7	67.8	0.7	0.5	10・20代	56	12.5	5.4	80.4	1.8	-			
	40代	1,153	24.5	2.5	71.5	1.0	0.5	30代	550	14.0	14.4	69.6	2.0	-			
	50代	2,055	23.4	1.7	73.8	0.9	0.3	40代	1,344	13.2	9.2	76.3	1.1	0.2			
	60代	1,486	21.9	1.6	75.1	1.1	0.3	50代	2,896	8.4	8.0	82.1	1.3	0.2			
	70代以上	97	18.6	2.1	77.3	1.0	1.0	60代	4,117	7.4	6.7	84.5	1.2	0.1			
	無回答	481	18.1	1.0	74.2	-	6.7	70代以上	1,246	3.8	3.6	89.2	2.8	0.6			
							無回答	88	5.7	8.0	46.6	1.1	38.6				

図Ⅱ-1-3 経営主年齢別にみたフリーストール・フリーバーンの導入割合

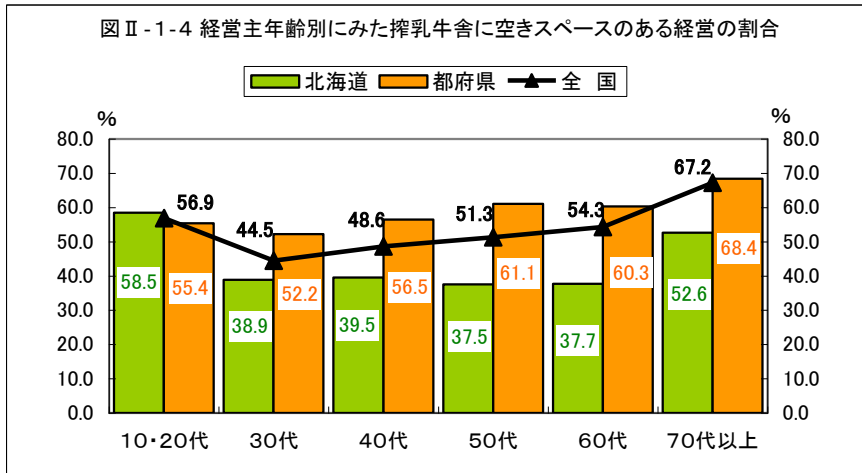


	北海道	都府県	全国
全酪農家	25.3%	15.8%	19.3%

## [2] 搾乳牛舎の稼働状況

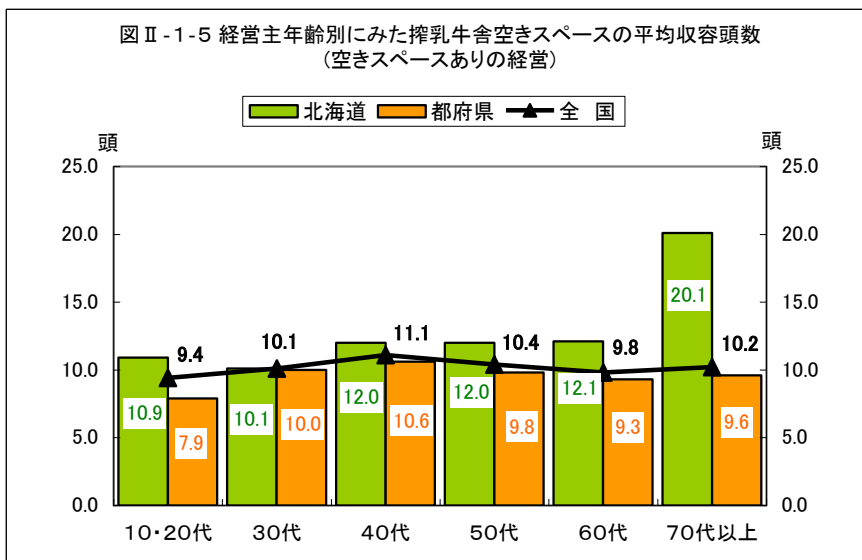
搾乳牛舎の有効利用度、あるいは現有搾乳牛舎での増頭余力をみるために、搾乳牛舎の空き具合を経営主年齢階層別に捉えると以下のようにになっている。

まず、現在、搾乳牛舎に空きスペースのある経営は、北海道で 38.8%、都府県で 60.2%に及んでいる。これを経営主年齢階層別にみると、空きスペースのある割合は、北海道では『10・20代』(58.5%)及び『70代以上』(52.6%)で高く、その間の年齢階層で低く、都府県では『70代以上』(68.4%)を筆頭に『50代』以上でやや高く、『40代』以下でやや低くなっている。



	北海道	都府県	全国
全酪農家	38.8%	60.2%	52.3%

次に、搾乳牛舎の空きスペースへの収容可能頭数を経営主年齢階層別にみると、北海道では『10・20代』（10.9頭）、『30代』（10.1頭）がやや少なく、『70代以上』（20.1頭）が著しく多い。一方、都府県では、『10・20代』（7.9頭）は北海道と同様やや少ないが、『30代』以降はどの年齢階層も概ね10頭前後となっている。



[単位：頭]

	北海道	都府県	全国
全酪農家	11.8	9.6	10.2

### (3) 生乳生産及び出荷規模

#### [1] 経産牛飼養頭数

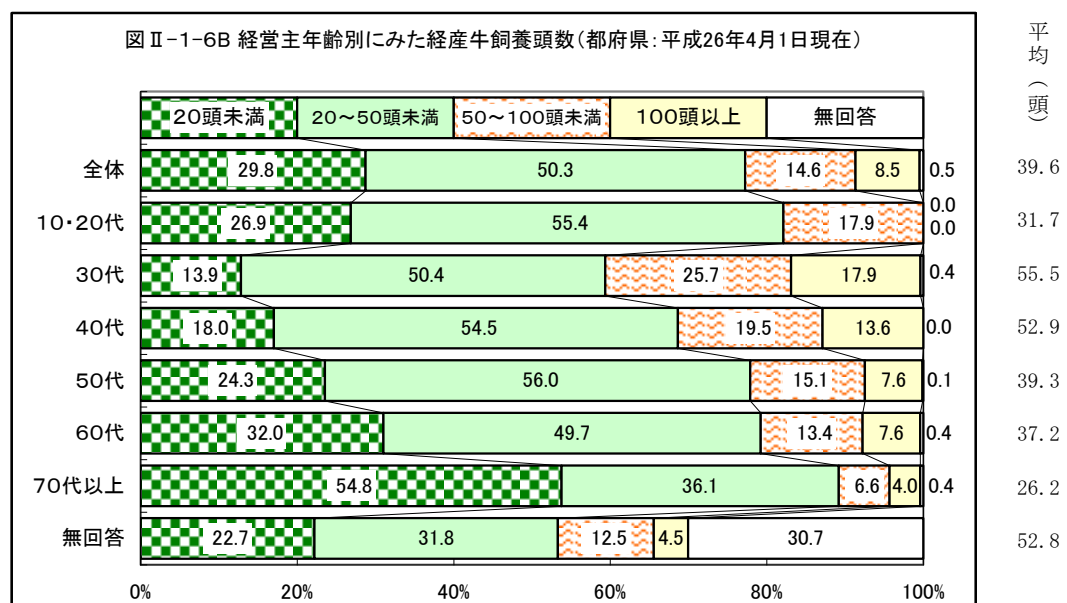
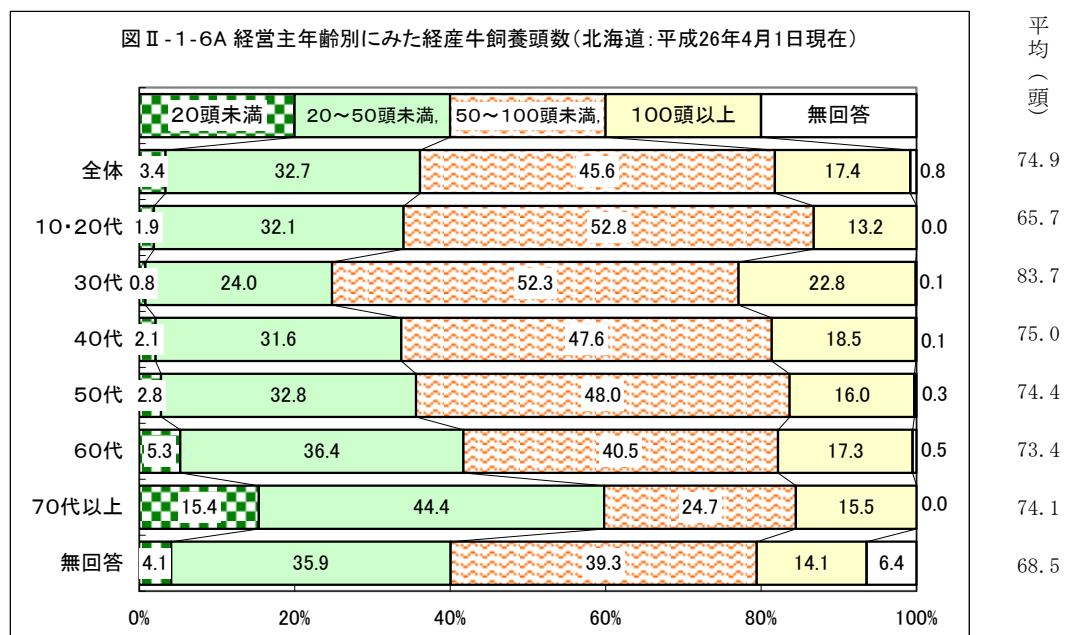
経営主年齢との関係から経産牛飼養規模別戸数分布の状況を見ると、北海道では『30代』以降年齢階層が高まるにつれて「50頭未満」の割合（30代24.8%、70代以上59.8%）が上昇し、「50頭以上」の割合（30代75.1%、70代以上40.2%）が低下しており、1戸当たり平均飼養頭数は『30代』の83.7頭から『70代以上』の74.1頭へと9.6頭減少している。

一方、都府県では『30代』以降年齢階層が高まるにつれて「20頭未満」の割合（30代13.9%、

70代以上 54.8%) が上昇し、「50頭以上」の割合(30代 43.6%、70代以上 10.6%)が低下しており、1戸当たり平均飼養頭数は『30代』の55.5頭から『70代以上』の26.2頭へと29.3頭減少している。

以上の点を照合すると、経産牛飼養頭数の経営主年齢間較差は北海道より都府県において大きいといえる。

なお、『10・20代』については、北海道では「50頭以上」の割合は『40代』とほぼ同じ(10・20代 66.0%、40代 66.1%)だが1戸当たり平均飼養頭数(65.7頭)は最小となっている。一方、都府県では「50頭以上」の割合は『60代』と『70代以上』の間(10・20代 17.9%、60代 21.0%、70代以上 10.6%)にあつて、1戸当たり平均飼養頭数(31.7頭)は第5位となっている。

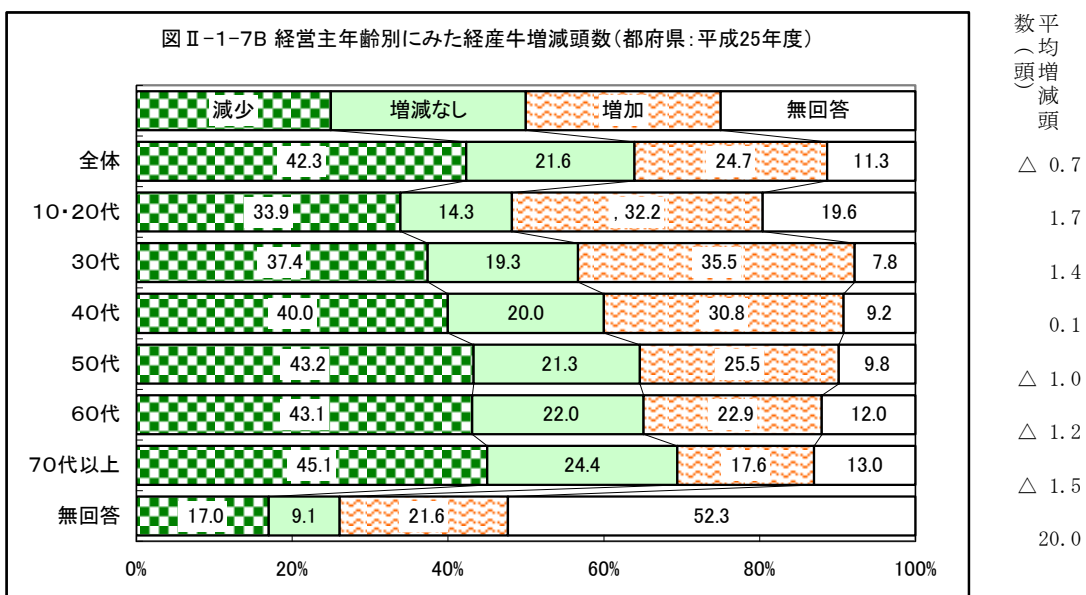
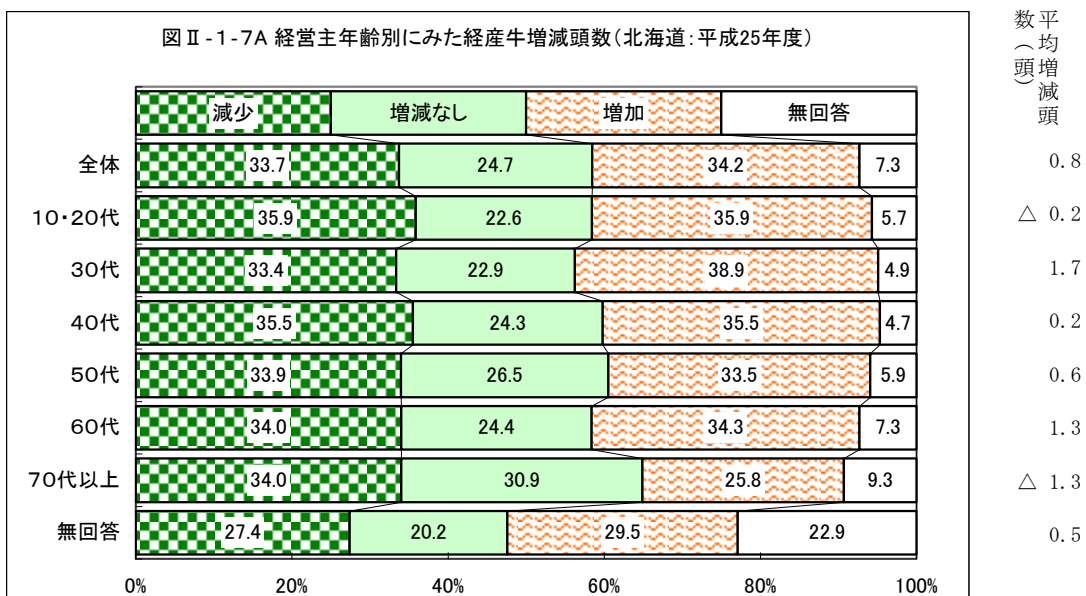


次に、この1年間における経産牛飼養頭数の増減変化を経営主年齢別階層別に示すと図Ⅱ-1-7A、図Ⅱ-1-7Bのとおりである。

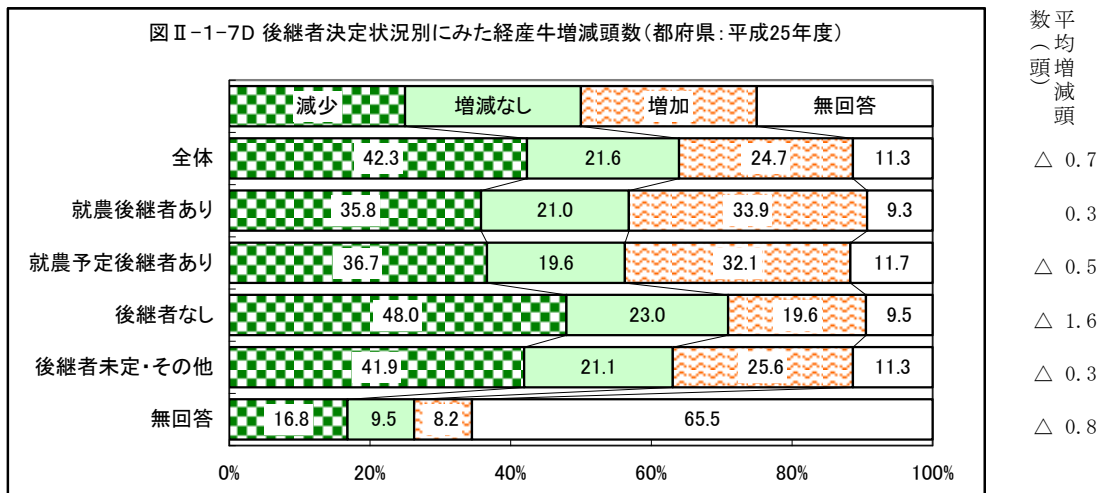
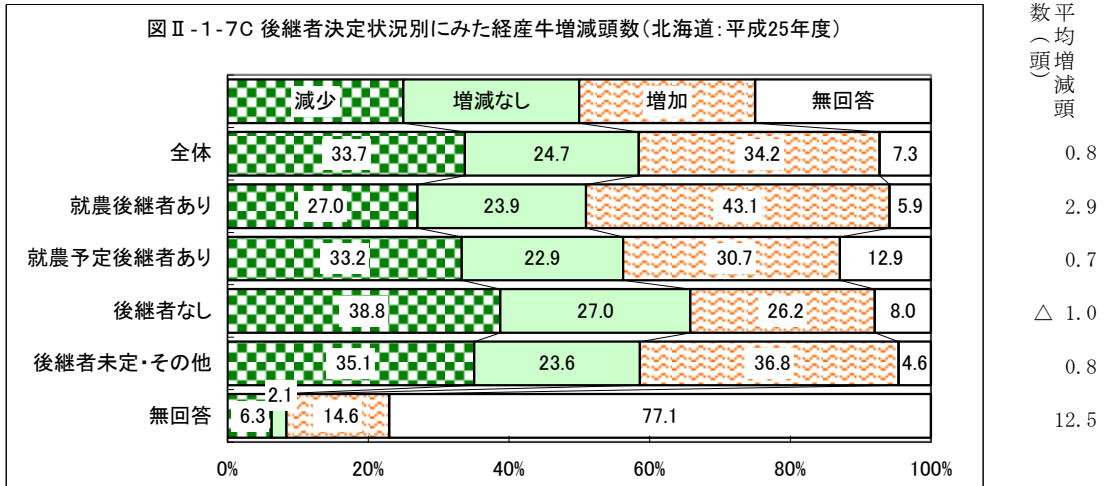
北海道においては、「増加」した経営の割合は『30代』(38.9%)から『70代以上』(25.8%)まで年齢階層が高まるにつれて傾向的に低下している。しかし、「減少」した経営の割合と経営主年齢との間にはほとんど関連性が認められず、経営主年齢階層別平均増減頭数についても傾向性はみられない。

一方、都府県においては、「増加」した経営の割合は『30代』(35.5%)から『70代以上』(17.6%)まで傾向的に低下、「減少」した経営の割合は『10・20代』(33.9%)から『70代以上』(45.1%)まで傾向的に上昇しており、経営主年齢階層別平均増減頭数も『10・20代』の1.7頭増から『70代以上』の1.5頭減まで一貫して減少している。

このことから、都府県における経営主年齢階層間の経産牛飼養規模較差は更に拡大する方向にあるといえる。



なお、経産牛飼養頭数の増減変化の状況は、後継者の確保状況によっても変わってくる。図Ⅱ-1-7C、Ⅱ-1-7Dにみられるように、北海道、都府県のいずれについても、『就農後継者あり』の経営は『後継者なし』の経営より「減少」した割合が低くて、「増加」した割合が高く、平均増減頭数も多くなっている。



## [2] 総出荷乳量

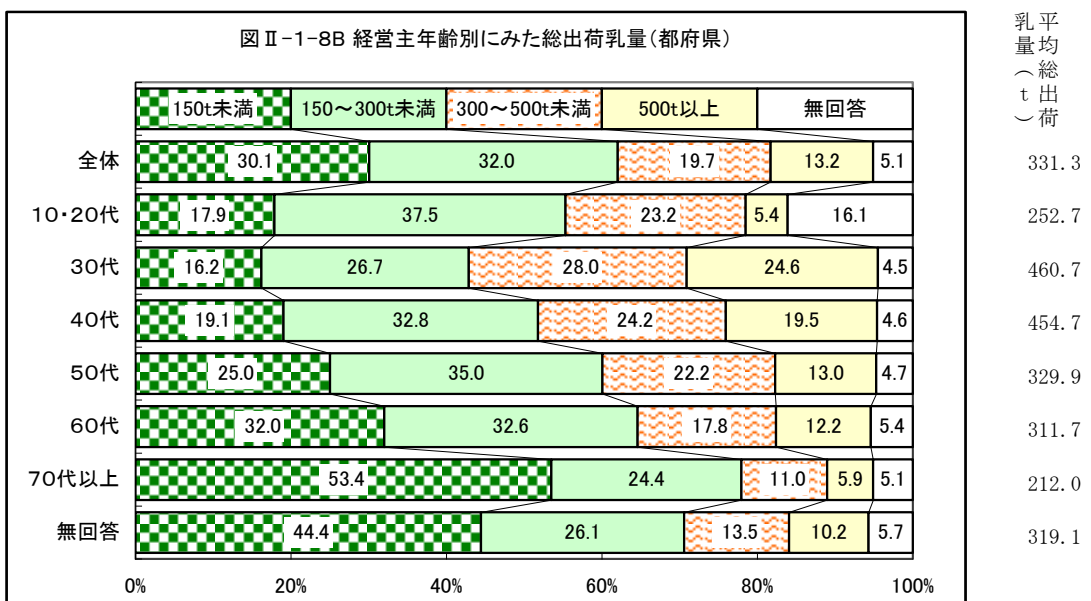
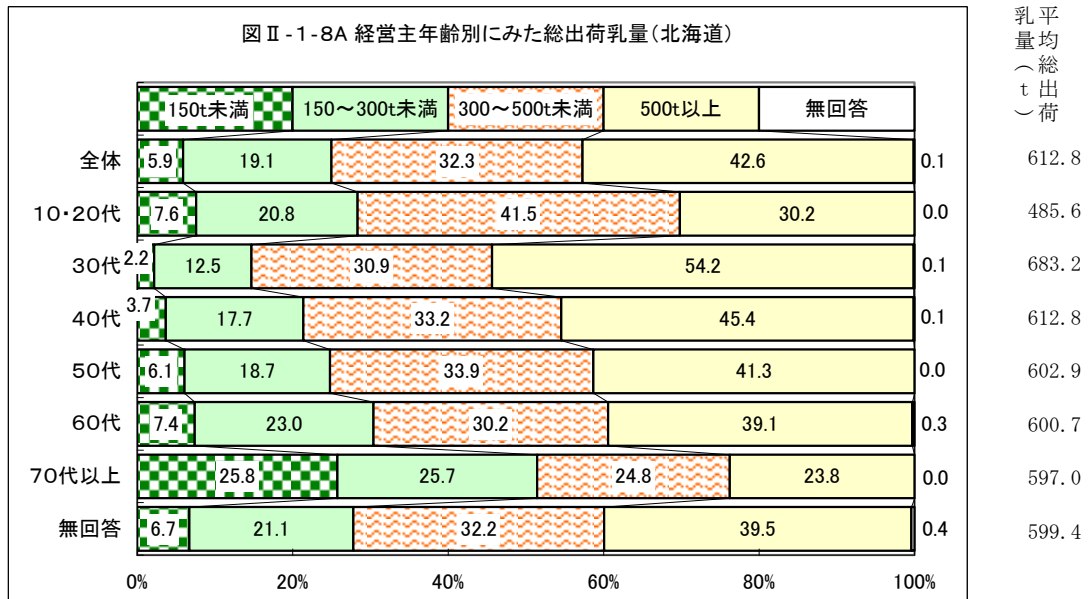
経営主年齢との関係から生乳出荷規模別戸数分布の状況をみると、北海道では『30代』以降年齢階層が高まるとともに「300トン未満」の割合(30代14.7%、70代以上51.5%)が上昇し、「500トン以上」の割合(30代54.2%、70代以上23.8%)が低下しており、1戸当たり平均総出荷乳量は『30代』の683.2トンから『70代以上』の597.0トンへと86.2トン減少している。

一方、都府県でも『30代』以降年齢階層が高まるとともに「150トン未満」の割合(30代16.2%、70代以上53.4%)が上昇し、「300トン以上」の割合(30代52.6%、70代以上16.9%)が低下しており、1戸当たり平均総出荷乳量は『30代』の460.7トンから『70代以上』の212.0トンへと248.7トン減少している。

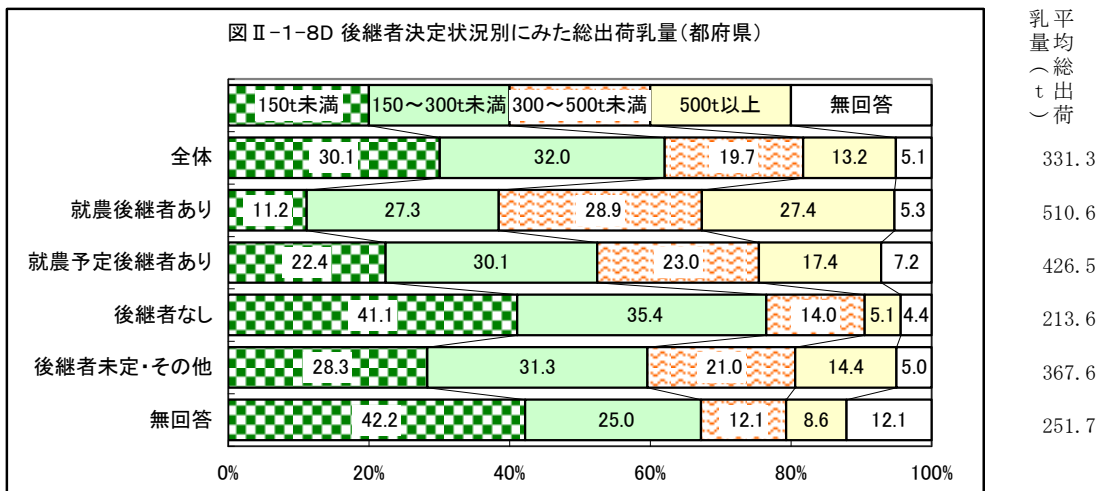
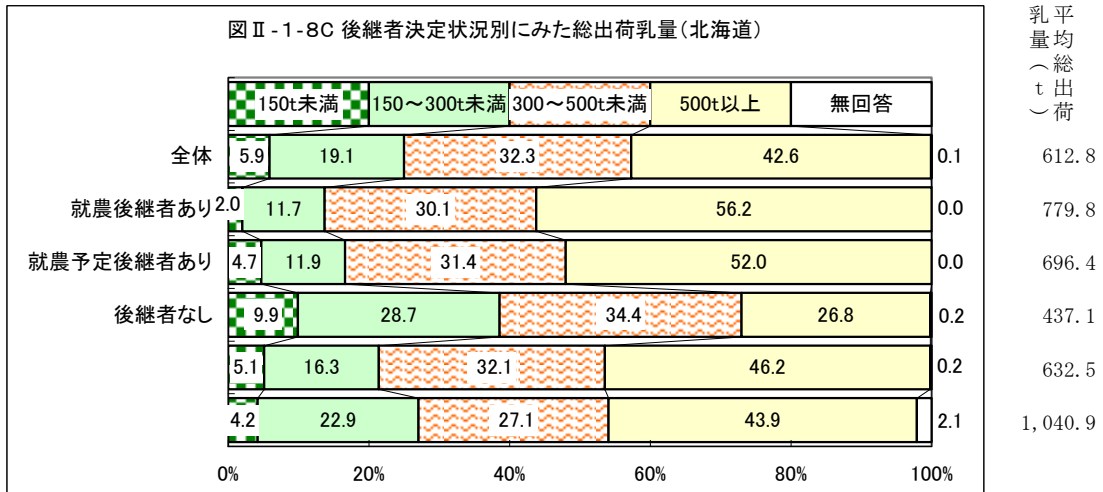
以上の点を照合すると、1戸当たり出荷乳量の経営主年齢間較差は北海道より都府県において大きいといえる。

なお、『10・20代』については、北海道では「500トン以上」の割合(30.2%)は『70代

以上』(23.8%)よりやや高いが、1戸当たり平均出荷乳量(485.6トン)は最小となっており、都府県では「300トン以上」の割合(28.6%)は『60代』(30.0%)に近く、1戸当たり平均出荷乳量(252.7トン)は第5位となっている。



後継者の確保状況も1戸当たり出荷乳量に強く関係している。図Ⅱ-1-8C、Ⅱ-1-8Dにみられるように、北海道では「500トン以上」の経営の割合と1戸当たり平均出荷乳量、都府県では「300トン以上」の経営の割合と1戸当たり平均出荷乳量が、『就農後継者あり』、『就農予定後継者あり』、『後継者未定・その他』、『後継者なし』の順に大きな値をとっている。



また、経営者経験年数別には、経験年数の短い階層ほど大規模層（北海道 500 トン以上、都府県 300 トン以上）の割合と 1 戸当たり平均出荷乳量が高くなっている。

表 II - 1 - 2A 経営者経験年数別にみた総出荷乳量（北海道）

[単位：戸、%、トン]

	酪農家数	1	2	3	4	16	有効回答平均 (0含む)	
		150t未満	150~300t未満	300~500t未満	500t以上	無回答		
北海道	6,086	5.9	19.1	32.3	42.6	0.1	612.8	
経営者経験年数	5年未満	664	3.8	13.4	26.3	55.8	0.6	729.4
	10年未満	555	2.3	14.4	35.3	47.9	-	666.4
	20年未満	1,095	4.4	19.6	33.6	42.4	0.2	608.8
	30年未満	1,637	6.5	17.5	32.8	43.2	0.1	602.4
	30年以上	1,871	7.7	23.2	31.9	37.3	0.1	566.3
無回答	264	8.3	22.3	34.0	34.9	0.4	620.9	

表Ⅱ - 1 - 2B 経営者経験年数別にみた総出荷乳量（都府県）

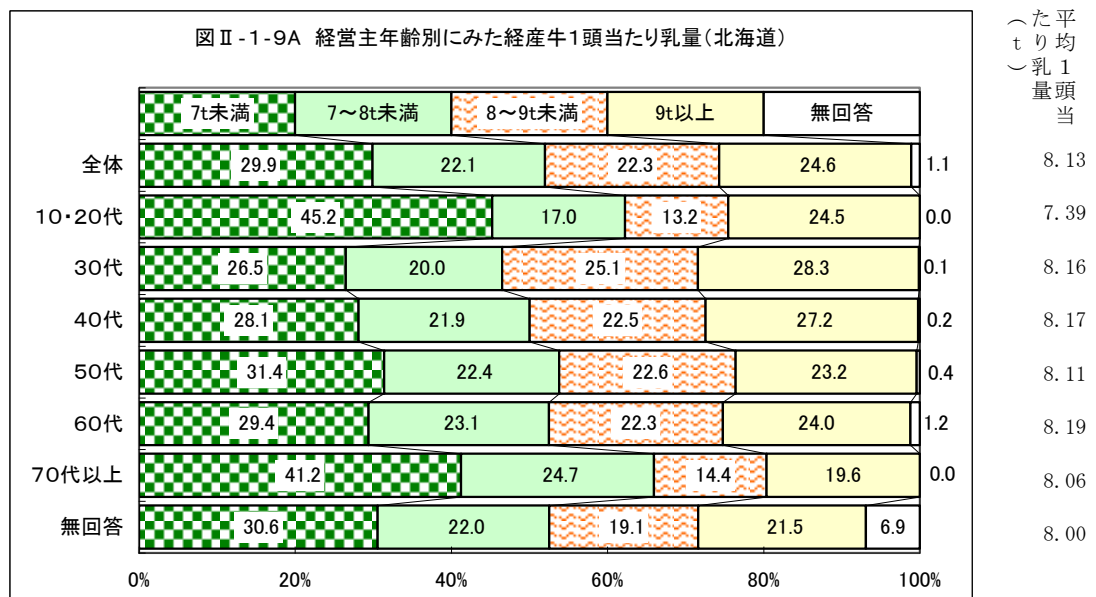
[単位：戸、%、トン]

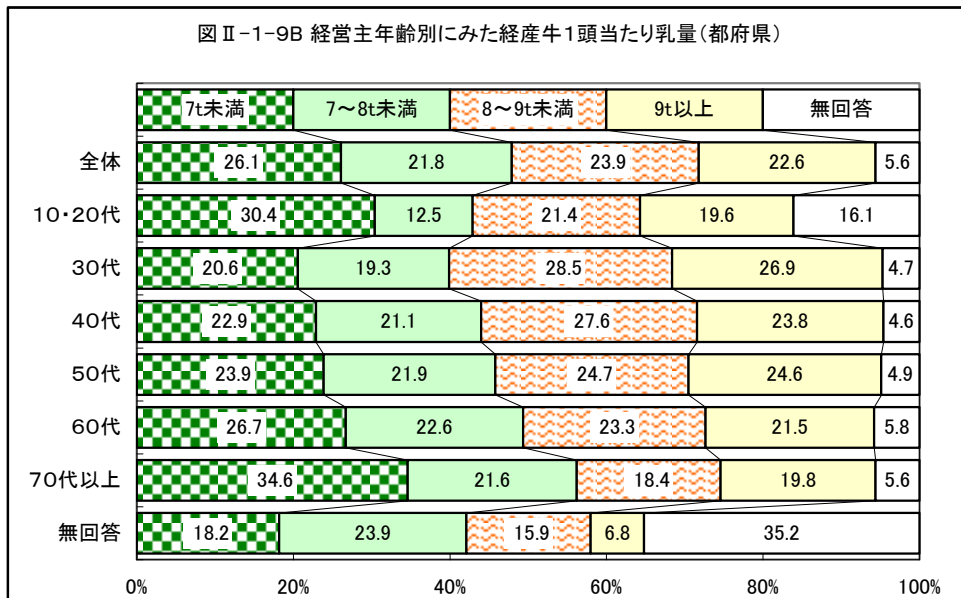
	酪農家数	1	2	3	4	16	有効回答平均 (0含む)	
		150トン未満	3100トン未満	5300トン未満	5000トン以上	無回答		
都府県	10,297	30.1	32.0	19.7	13.2	5.1	331.3	
経営者経験年数	5年未満	712	19.0	31.3	26.0	18.4	5.5	433.5
	10年未満	662	21.7	32.6	24.1	16.9	4.7	417.7
	20年未満	1,480	25.5	31.8	20.9	17.6	4.3	388.6
	30年未満	2,142	27.0	33.8	21.7	12.8	4.6	334.2
	30年以上	4,729	35.0	32.1	17.4	10.9	4.7	287.2
	無回答	572	37.6	25.7	13.1	11.0	12.6	308.4

[3] 経産牛1頭当たり出荷乳量

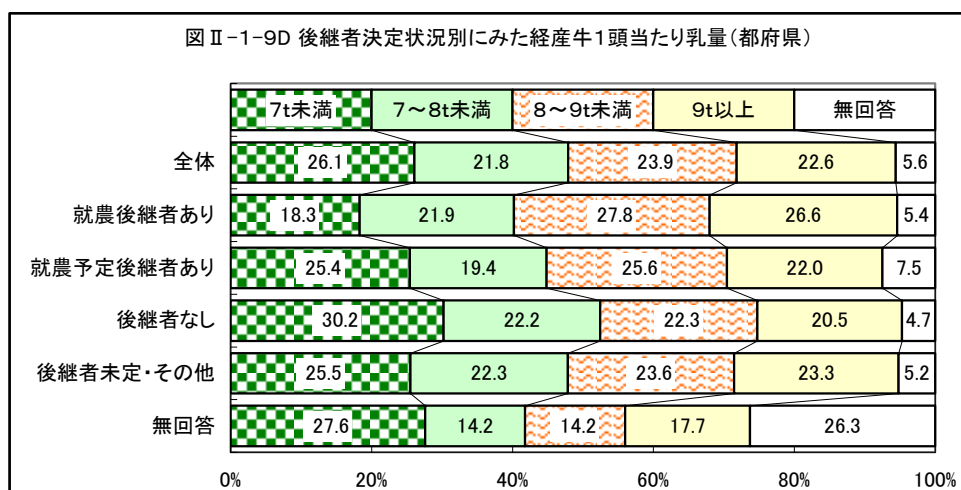
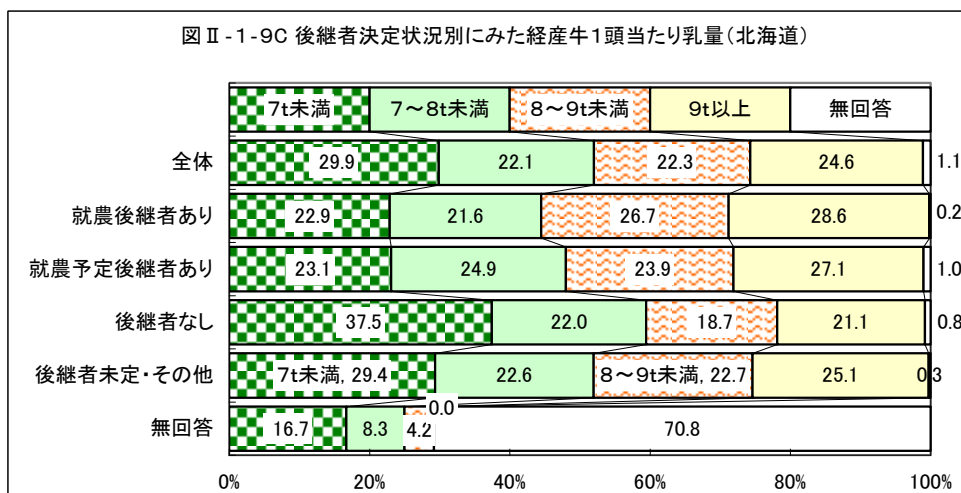
経営主年齢と経産牛1頭当たり出荷乳量の関係については、北海道と都府県でやや異なった傾向がみられる。北海道においては、『30代』～『60代』がほぼ同水準で並んでおり、『10・20代』と『70代以上』はそれらの年代に比べてやや低水準である。即ち、『30代』～『60代』では経産牛1頭当たり8,000kg以上の経営が5割前後を占めており、平均経産牛1頭当たり出荷乳量は8,100kg台となっている。これに対して、『10・20代』、『70代以上』では経産牛1頭当たり8,000kg以上の経営の割合は3割台、平均経産牛1頭当たり出荷乳量は『10代・20代』7,400kg、『70代以上』8,000kgとなっている。

一方、都府県においては、経産牛1頭当たり8,000kg以上の経営の割合は、『30代』(55.4%)以降70代以上(38.2%)まで経営主年齢が高まりにともない一貫して低下している。また、平均経産牛1頭当たり出荷乳量は、『30代』(8,150kg)がやや低いものの、『40代』(8,400kg)から『70代以上』(7,960kg)にかけて漸減する傾向を示している。なお、『10・20代』の水準がやや低い点は北海道と同じである。





経産牛1頭当たり出荷乳量は後継者確保の状況によっても異なる。図Ⅱ-1-9C、図Ⅱ-1-9Dにみられるように、北海道、都府県のいずれにおいても、経産牛1頭当たり8,000kg以上の経営の割合と平均経産牛1頭当たり出荷乳量が、『就農後継者あり』、『就農予定後継者あり』、『後継者未定・その他』、『後継者なし』の順に高くなっている。



経営者経験年数と経産牛1頭当たり出荷乳量との間の関係はさほど明瞭でなく、また北海道と都府県ではやや傾向が異なっている。北海道では、経営者経験年数20年未満の階層で平均経産牛1頭当たり出荷乳量がやや高く、20年以上の階層でやや低い。

これに対して都府県では、経営者経験年数30年未満の階層までは、経験年数が長い階層ほど経産牛1頭当たり出荷乳量が多くなるという傾向がみられる。ただし、『30年以上』層の経産牛1頭当たり出荷乳量は『5年未満』層に次いで低い。

表Ⅱ-1-3A 経営者経験年数別にみた経産牛1頭当たり平均乳量（北海道）

[単位：戸、%、kg]

	酪農家数	1	2	3	4	5	有効回答平均 (0含む)	
		7000kg未満	8700kg未満	9800kg未満	9000kg以上	無回答・非該当		
北海道	6,086	29.9	22.1	22.3	24.6	1.1	8,134.3	
経営者経験年数	5年未満	664	26.4	19.6	23.8	29.5	0.8	8,194.2
	10年未満	555	25.8	22.0	23.2	29.0	-	8,184.1
	20年未満	1,095	29.5	22.8	22.3	25.1	0.4	8,199.9
	30年未満	1,637	32.0	22.0	21.4	24.0	0.5	8,084.2
	30年以上	1,871	30.1	23.2	22.7	23.3	0.6	8,136.6
	無回答	264	34.1	19.3	19.7	13.6	13.3	7,795.5

表Ⅱ-1-3B 経営者経験年数別にみた経産牛1頭当たり平均乳量（都府県）

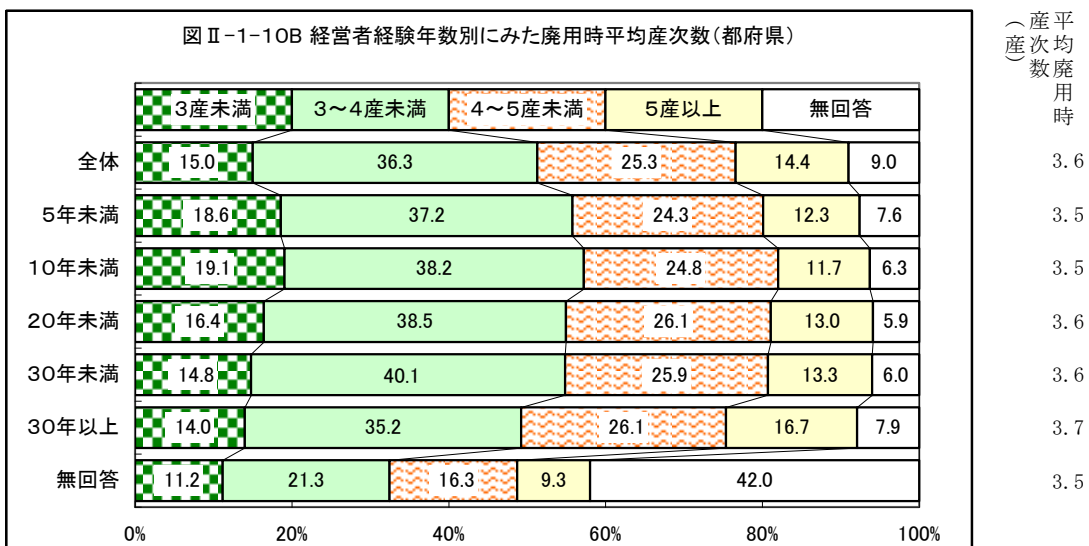
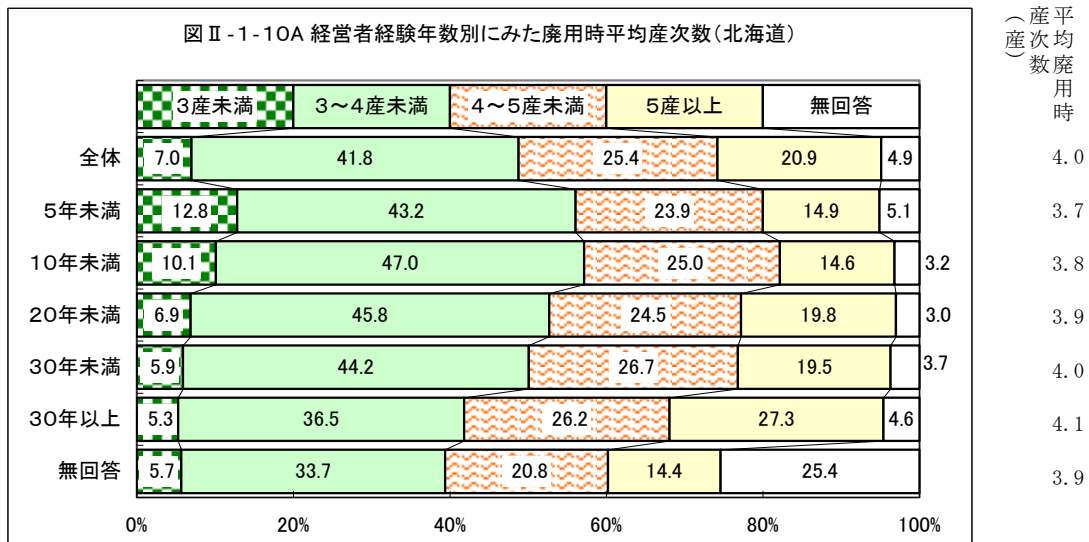
[単位：戸、%、kg]

	酪農家数	1	2	3	4	5	有効回答平均 (0含む)	
		7000kg未満	8700kg未満	9800kg未満	9000kg以上	無回答・非該当		
都府県	10,297	26.1	21.8	23.9	22.6	5.6	8,221.0	
経営者経験年数	5年未満	712	23.5	19.5	26.7	24.6	5.8	8,136.9
	10年未満	662	24.8	22.7	26.6	21.1	4.8	8,232.7
	20年未満	1,480	24.5	21.7	26.1	23.3	4.5	8,275.0
	30年未満	2,142	25.2	22.6	24.4	23.0	4.8	8,320.8
	30年以上	4,729	27.3	22.2	23.0	22.6	4.8	8,190.8
	無回答	572	27.1	18.2	16.8	19.1	18.9	7,986.3

#### (4) 生乳生産及び酪農経営上の特徴

##### [1] 平均廃用産次数

経営者経験年数別に乳用牛の廃用時平均産次数をみると、北海道、都府県の双方において、経験年数の長い階層ほど4産以上の経営の割合が高くなり、階層平均の産次数も高次になっている。即ち、北海道では、経験年数『5年未満』から『30年以上』にかけて、4産以上の経営の割合は38.8%から53.5%、平均産次数は3.7産から4.1産へと漸増している。また、都府県では、同じく経験年数『5年未満』から『30年以上』にかけて、4産以上の経営の割合は36.6%から42.8%、平均産次数は3.5産から3.7産へと漸増している。



## [2] 作業受託組織の利用状況

農作業受託組織（コントラクター）の利用状況を経営主年齢との関係からみると、北海道では『30代』、『40代』の階層で利用経営の割合（30代53.1%、40代53.7%）が最も高く、これに『10・20代』（52.8%）が続き、以下『50代』（49.5%）から『70代以上』（37.1%）にかけて漸減している。

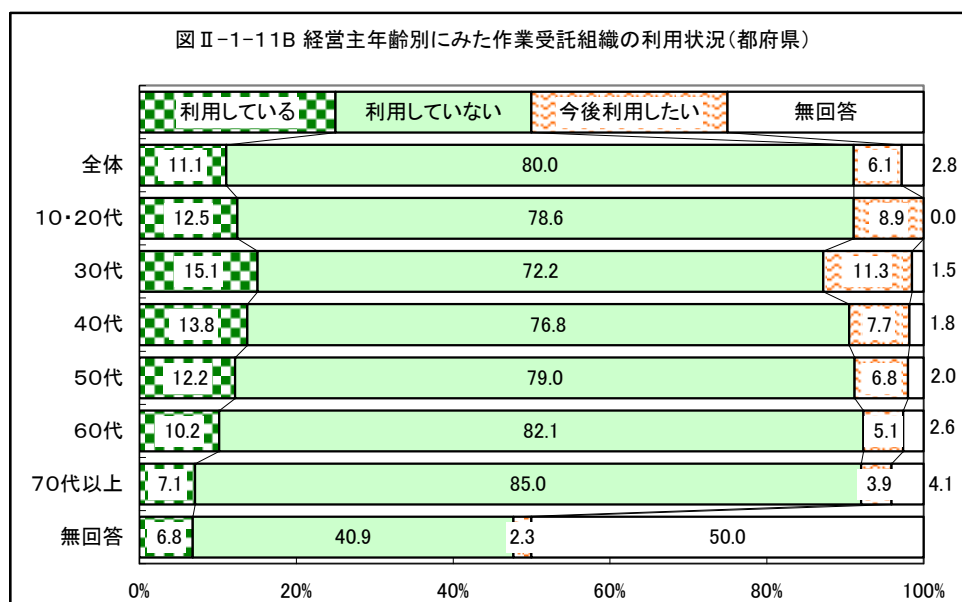
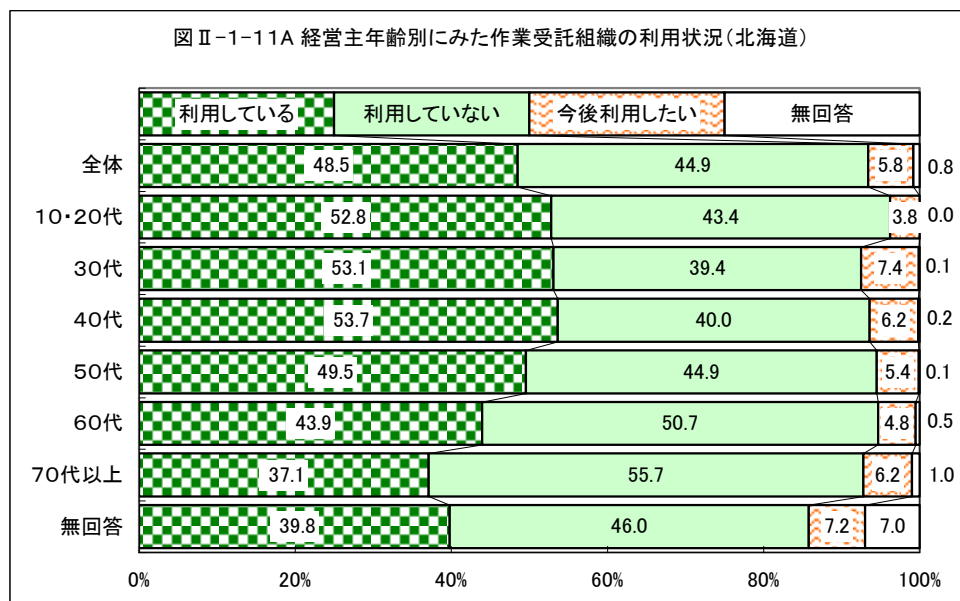
都府県においてもこれと類似した傾向がみられ、『30代』（15.1%）を筆頭に、『40代』（13.8%）、『10・20代』（12.5%）と続いた後、『50代』（12.2%）から『70代以上』（7.1%）にかけて漸減している。

なお、この経営主年齢階層別の利用割合を北海道・都府県間で比較してみると、どの階層でも北海道が都府県を大きく上回っているのが目を引く。

今後の利用意向については、都府県では『30代』（11.3%）を筆頭として、概ね各年齢階層の現在の利用状況に比例した利用意向が示されている。

北海道においてもこのような傾向が若干みられるが、『10・20代』の利用意向（3.8%）が他の年齢階層に比べて低く、『70代以上』の利用意向（6.2%）が高いという点が異なってい

る。



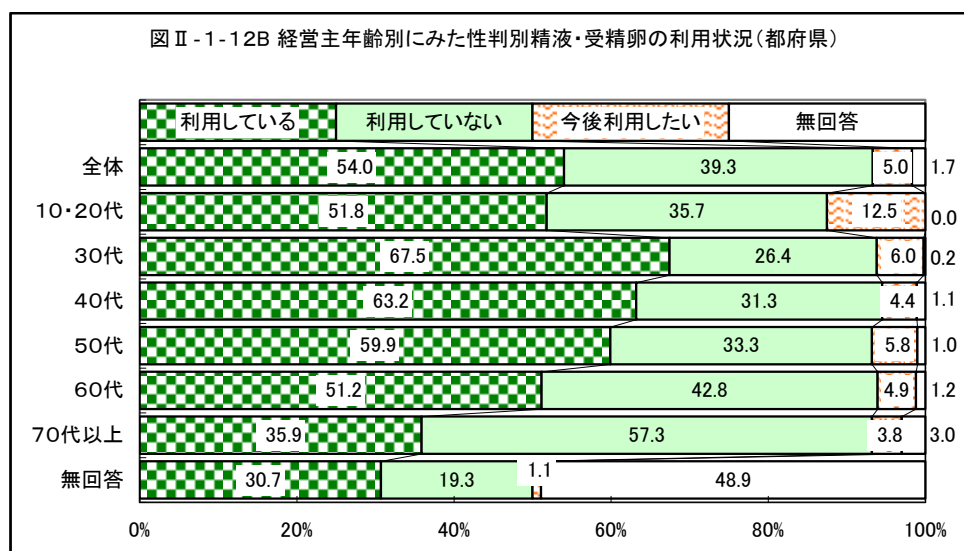
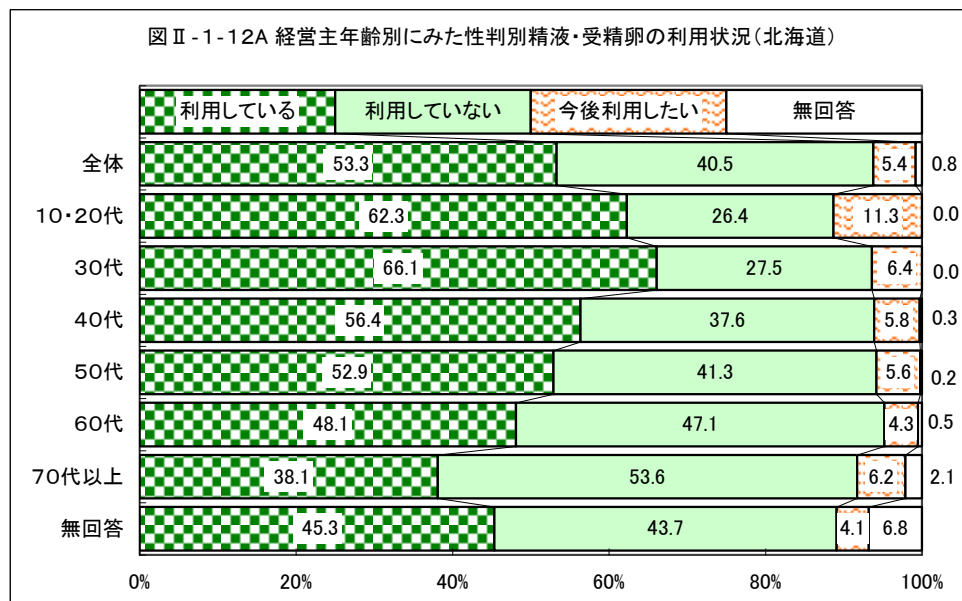
### [ 3 ] 性判別精液・受精卵の利用状況

性判別精液・受精卵の利用に関しては、北海道と都府県の状況が非常に似かよっている。地域全体でみた利用経営の割合は北海道が 53.3%、都府県が 54.0%とかなり近く、今後の利用意向も北海道 5.4%、都府県 5.0%とほとんど同率である。

また、利用経営の割合を経営主年齢別にみても、北海道、都府県ともに『30代』（北海道 66.1%、都府県 67.5%）が最も高く、年齢階層が高まるにつれて漸減し、『70代以上』（北海道 38.1%、都府県 35.9%）が最も低くなっている。北海道と都府県の間で違いがみられるのは、北海道では『10・20代』における利用割合（62.3%）が『30代』に次いで高いのに対して、都府県ではそれ（51.8%）が『70代以上』、『60代』に次いで低いということ位のものである。

なお、性判別精液・受精卵に関する今後の利用意向については、北海道、都府県ともに『10・

20代』の利用意向（北海道 11.3%、都府県 12.5%）が目立って高い点が注目される。



#### [4] 経営多角化の状況

酪農部門以外の部門への取組状況を経営主年齢階層別に示すと、表Ⅱ-1-4A、表Ⅱ-1-4Bのとおりである。

酪農部門以外への取組経営の割合（100－『無回答』）は北海道と都府県とで著しく異なっているが、いずれの地域においても『70代以上』（北海道 22.7%、都府県 61.5%）、『60代』（北海道 21.9%、都府県 61.6%）の年齢階層で特に高くなっている。

ただし、取組部門別に経営主年齢との関係を見ると、北海道では該当経営が少ないということもあって、「消費者交流」への取り組みが『30代』（北海道 2.4%、都府県 7.8%）、『40代』（北海道 2.5%、都府県 5.1%）でやや高いということ以外は、北海道と都府県に共通の傾向はほとんど見出せない。

都府県では、『60代』、『70代以上』の階層に「稲作」(60代 40.1%、70代以上 41.3%)、「園芸(野菜・果樹)」(60代 8.2%、70代以上 12.0%)、「畑作(飼料生産以外)」(60代 5.1%、70代以上 8.0%)、「肉牛(肥育)」(60代 5.1%、70代以上 5.1%)等に取り組む経営がやや多く、『30代』、『40代』、『50代』の階層に「肉牛(繁殖)」(30代 16.9%、40代 17.4%、50代 16.8%)に取り組む経営がやや多い。

これに対して、北海道では、「畑作(飼料生産以外)」は『40代』(9.3%)、「肉牛(繁殖)」、「園芸(野菜・果樹)」は『10・20代』(繁殖5.7%、園芸3.8%)が最も高くなっている。

表Ⅱ-1-4A 経営主年齢別にみた酪農部門以外への取組状況(複数回答:北海道)

[単位: %]

	無回答(100割)	稲作	肉牛(繁殖)	肉牛(肥育)	消費交流(教育ファームを含む)	園芸(野菜・果樹)	乳製品製造	稲作	その他	無回答
全体	18.9	7.9	4.5	3.6	2.1	1.3	1.2	0.7	1.4	81.1
10・20代	18.9	3.8	5.7	3.8	-	3.8	1.9	-	-	81.1
30代	17.7	6.8	5.4	3.7	2.4	0.8	0.9	0.1	1.1	82.3
40代	20.0	9.3	4.6	3.3	2.5	1.6	0.8	0.7	1.4	80.0
50代	18.3	7.3	3.9	4.0	2.1	1.3	1.5	0.7	1.5	81.7
60代	21.9	8.7	5.5	3.9	1.9	1.4	1.6	0.9	1.7	78.1
70代以上	22.7	8.2	5.2	3.1	2.1	3.1	-	1.0	2.1	77.3
無回答	11.2	6.4	1.5	2.3	0.8	0.6	0.8	0.4	0.8	88.8

表Ⅱ-1-4B 経営主年齢別にみた酪農部門以外への取組状況(複数回答:都府県)

[単位: %]

	無回答(100割)	稲作	肉牛(繁殖)	園芸(野菜・果樹)	肉牛(肥育)	畑作(飼料生産以外)	消費交流(教育ファームを含む)	乳製品製造	その他	無回答
全体	57.9	36.1	15.5	7.6	4.9	4.8	3.5	2.1	3.5	42.1
10・20代	58.9	35.7	16.1	7.1	3.6	3.6	3.6	1.8	8.9	41.1
30代	50.9	27.8	16.9	5.6	4.0	4.4	7.8	2.7	1.8	49.1
40代	55.3	31.3	17.4	5.0	4.8	3.8	5.1	2.3	3.3	44.7
50代	54.5	32.4	16.8	6.7	4.7	3.6	2.9	2.3	3.5	45.5
60代	61.6	40.1	15.2	8.2	5.1	5.1	3.3	2.1	3.7	38.4
70代以上	61.5	41.3	11.8	12.0	5.1	8.0	2.0	1.4	3.4	38.5
無回答	30.7	17.0	8.0	4.5	4.5	3.4	4.5	4.5	1.1	69.3

酪農部門以外の部門への取組状況を後継者の確保状況別に表示すると、表Ⅱ-1-4C、表Ⅱ-1-4Dのようになる。

酪農部門以外への取組経営の割合(100-『無回答』)に関しては、北海道、都府県のいずれにおいても、後継者の確保状況による差異はあまり大きくない。

ただし、取組部門別には、北海道、都府県の双方において、「畑作(飼料生産以外)」、「消費者交流」に取り組む割合が『就農後継者がいる』層で僅かながら高くなっている。

また、都府県では、「稲作」、「園芸(野菜・果樹)」に取り組む割合が『後継者なし』の層、「肉牛(繁殖)」、「肉牛(肥育)」に取り組む割合が『就農後継者あり』及び『就農予定後継者あり』の層で最も高くなっている。

表Ⅱ - 1 - 4C 後継者決定状況別にみた酪農部門以外への取組状況（複数回答：北海道）

[単位：％]

	無回答 (100割)	合組農家の割合	産畑作 以外 (飼料生)	肉牛 (繁殖)	肉牛 (肥育)	ム(消費 者交流 フア ー ムを 含む)	果園 芸 (野菜 ・ 樹)	乳製 品製 造	稲作	その他	無回答
全 体	18.9	7.9	4.5	3.6	2.1	1.3	1.2	0.7	1.4	81.1	
就農後継者あり	21.5	10.2	4.3	3.9	2.6	1.7	2.1	0.9	1.2	78.5	
就農予定後継者あり	19.7	6.0	5.2	4.2	2.2	1.5	1.2	0.7	2.0	80.3	
後継者なし	17.9	7.1	4.4	3.8	1.4	1.2	0.7	0.5	1.3	82.1	
後継者未定・その他	18.0	7.2	4.6	3.2	2.3	1.1	1.1	0.6	1.6	82.0	
無 回 答	6.2	4.2	2.1	2.1	-	-	-	-	-	93.8	

表Ⅱ - 1 - 4D 後継者決定状況別にみた酪農部門以外への取組状況（複数回答：都府県）

[単位：％]

	無回答 (100割)	稲作	肉牛 (繁殖)	果園 芸 (野菜 ・ 樹)	肉牛 (肥育)	産畑作 以外 (飼料生)	ム(消費 者交流 フア ー ムを 含む)	乳製 品製 造	その他	無回答
全 体	57.9	36.1	15.5	7.6	4.9	4.8	3.5	2.1	3.5	42.1
就農後継者あり	59.2	31.7	18.7	7.4	7.1	5.4	5.7	3.8	3.8	40.8
就農予定後継者あり	60.6	35.2	18.7	7.5	6.8	4.6	4.6	4.0	4.4	39.4
後継者なし	57.9	39.2	13.6	8.3	3.7	5.0	1.8	0.8	3.0	42.1
後継者未定・その他	59.3	36.8	16.2	7.1	4.7	4.3	4.5	2.7	4.0	40.7
無 回 答	23.3	12.9	7.3	2.6	3.0	2.2	1.7	0.4	1.7	76.7

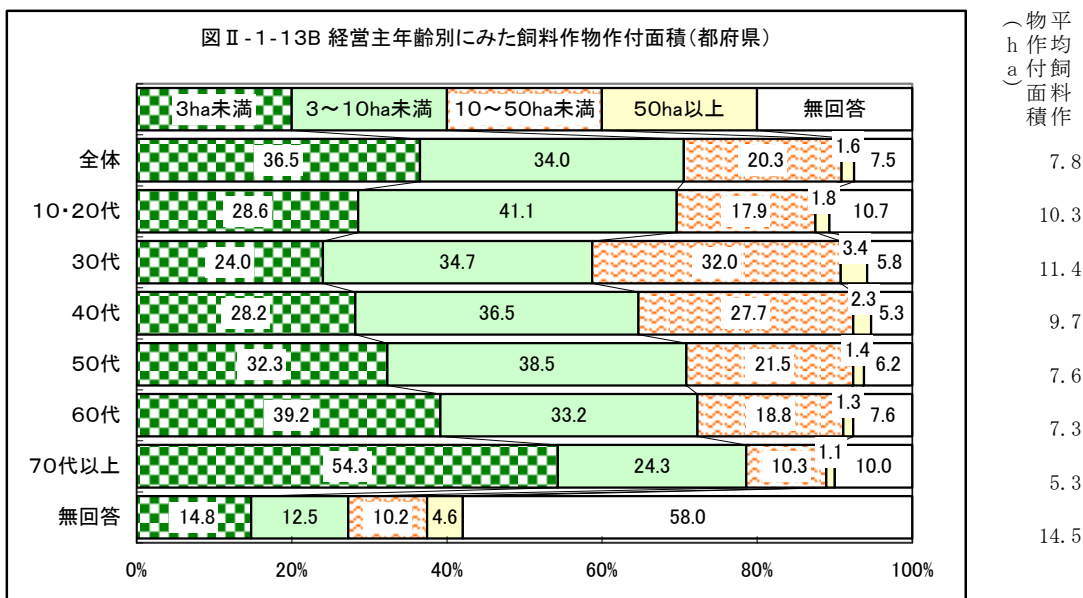
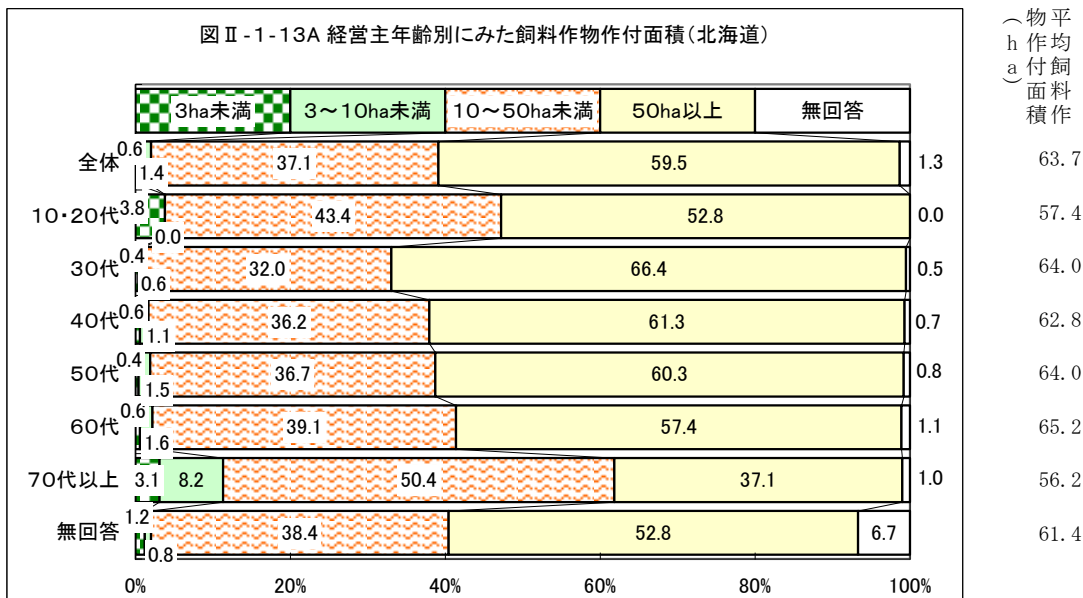
## (5) 自給飼料生産の状況

### [1] 飼料作物作付面積

経営主年齢と飼料作物作付状況の間関係については、北海道と都府県とでやや異なった傾向がみられる。

北海道では、作付面積「50ha以上」の経営の割合が『30代』（66.4%）で最も高く、以後『70代以上』（37.1%）にかけて年齢が高まるにつれて漸減しており、『10・20代』（52.8%）は『70代以上』に次ぐ低さとなっている。しかし、1戸当たり平均作付面積でみると、『30代』（64.0ha）～『60代』（65.2ha）の面積が大きく、『10・20代』（57.4ha）、『70代以上』（56.2ha）の面積が小さいという関係になっている。

一方、都府県では、作付面積「10ha以上」の経営の割合と1戸当たり平均作付面積の双方が『30代』（10ha以上35.4%、平均11.4ha）で最も高く、以後『70代以上』（10ha以上11.4%、平均5.3ha）にかけて年齢の高まりとともに漸減している。なお、都府県では、『10・20代』の1戸当たり平均作付面積（10.3ha）は、『30代』に次いで2番目に大きい値となっている。

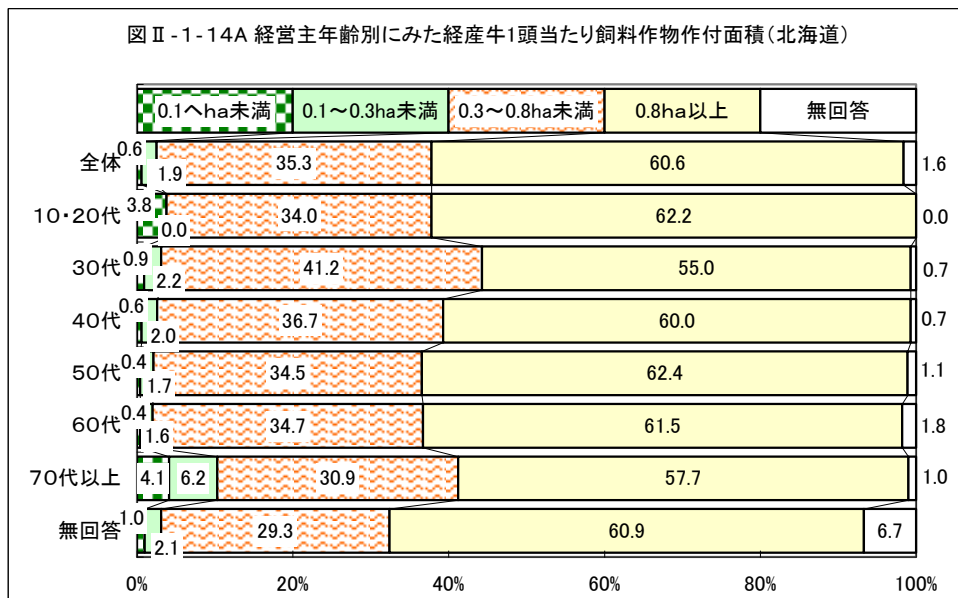


## [ 2 ] 経産牛 1 頭当たり飼料作物作付面積

経産牛 1 頭当たり飼料作物作付面積に関しては、経営主年齢との間にあまり明瞭な傾向性はみられない。

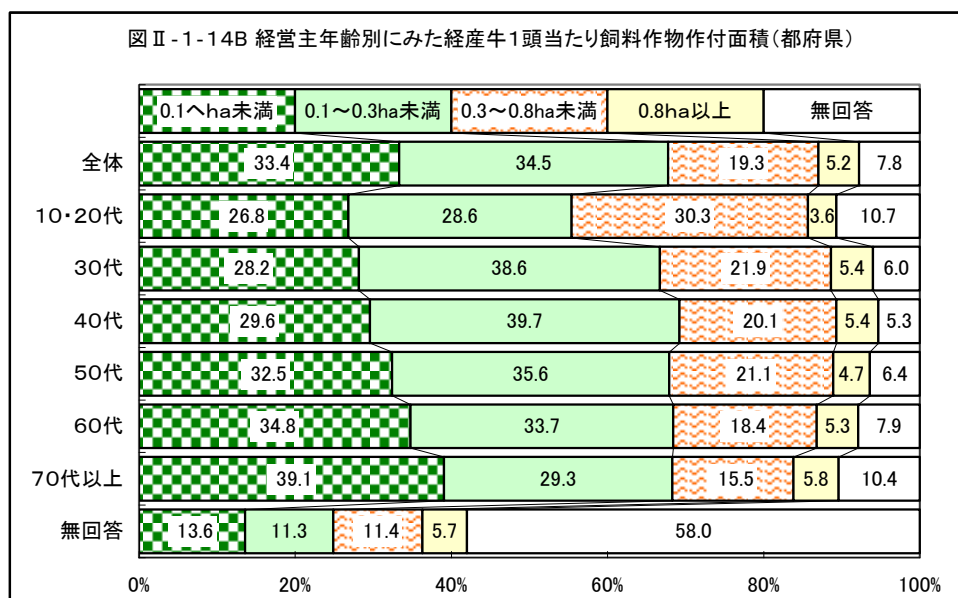
平均経産牛 1 頭当たり飼料作物作付面積でみると、北海道では『60 代』(0.89ha)、『10・20 代』(0.87ha) が比較的大きく、『70 代以上』(0.75ha)、『30 代』(0.76ha) が比較的小さい。

また、都府県では、『10・20 代』(0.33ha) が最も大きくて、『40 代』(0.18ha) が最も小さく、他の年齢階層は全て 0.19~0.21ha でほぼ同面積となっている。



(飼1平  
h料頭均  
a)作当経  
面た産  
積り牛

0.85  
0.87  
0.76  
0.84  
0.86  
0.89  
0.75  
0.90



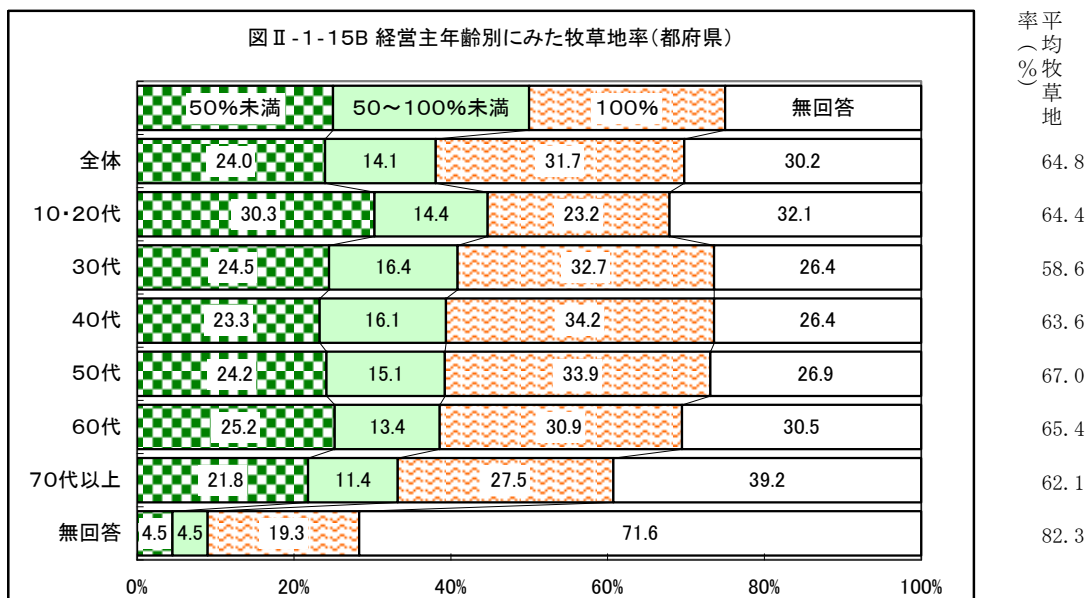
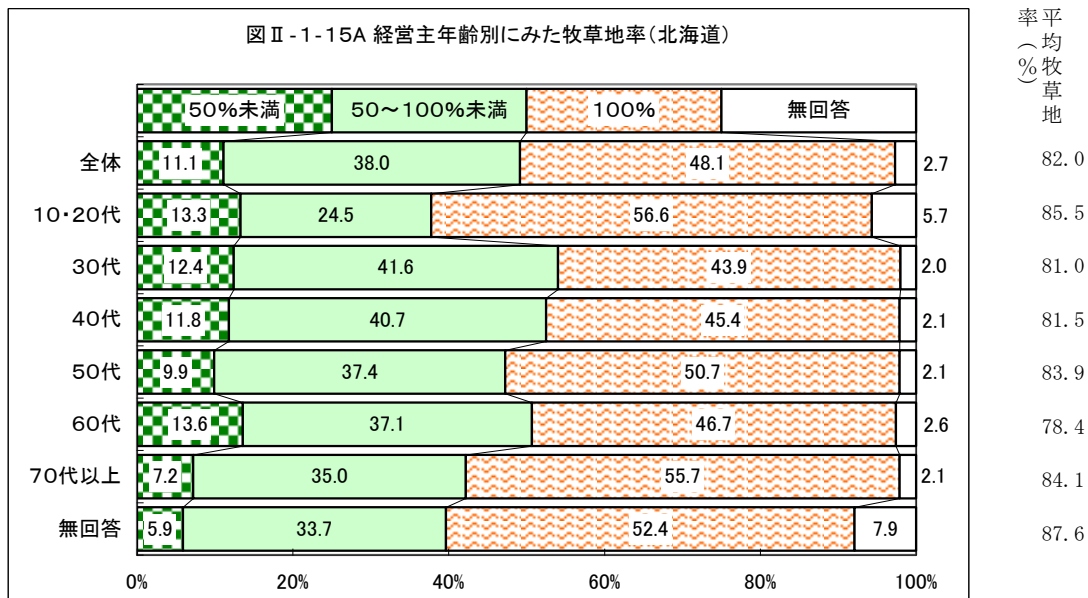
(飼1平  
h料頭均  
a)作当経  
面た産  
積り牛

0.19  
0.33  
0.21  
0.18  
0.19  
0.19  
0.20  
0.20

### [3] 飼料作物作付地の牧草地率

飼料作物作付地の牧草地率と経営主年齢との間の関係についてもあまり明瞭な傾向性はみられない。

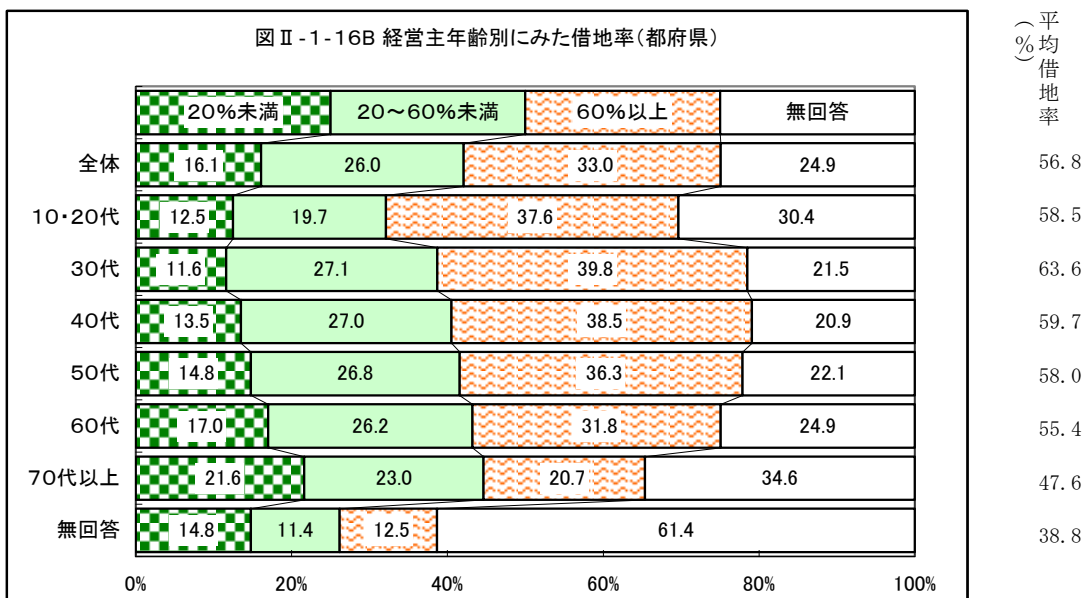
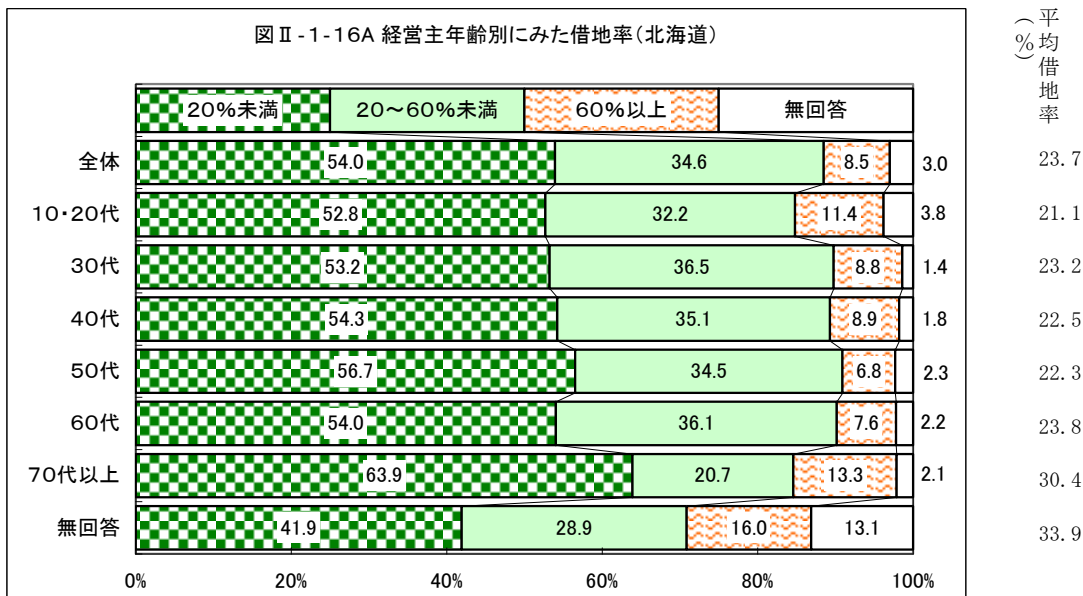
平均牧草地率を経営主年齢階層間で比較すると、北海道では『10・20代』(85.5%)、『70代以上』(84.1%)、『50代』(83.9%)が比較的高くて、『60代』(78.4%)が比較的低く、都府県では『50代』(67.0%)が比較的高くて、『30代』(58.6%)が比較的低くなっている。



#### [ 4 ] 飼料作物作付地の借地率

都府県については、飼料作物作付地の借地率と経営主年齢との間に次のような関係が見うけられる。即ち、借地率 60%以上の経営の割合と平均借地率は、『30代』(60%以上 39.8%、平均 63.6%)で最も高く、以後『70代以上』(60%以上 20.7%、平均 47.6%)にかけて一貫して減少している。また、『10・20代』(60%以上 37.6%、平均 58.5%)は概ね中位の高さとなっている。

一方、北海道では、借地率 20%以上の経営の割合は『30代』(45.3%)、『40代』(44.0%)で高く、『70代以上』(34.0%)で最低となっているが、平均借地率は『70代以上』(30.4%)で最高、『10・20代』(21.1%)で最低となっており、傾向性がほとんど見出せない。



## (6) 酪農経営の状況

### [1] 酪農経営の現状

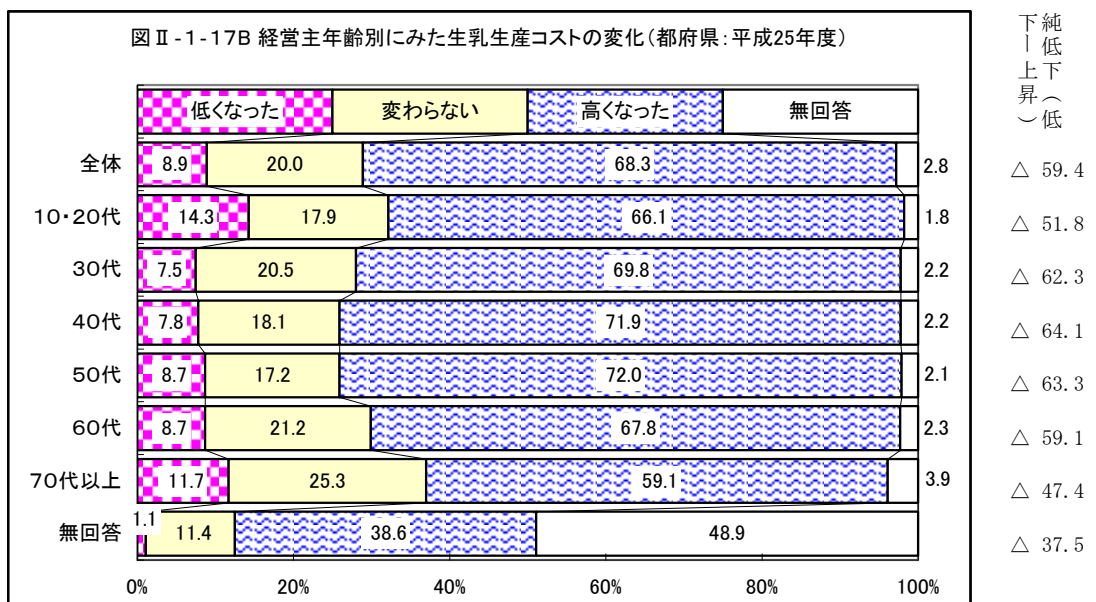
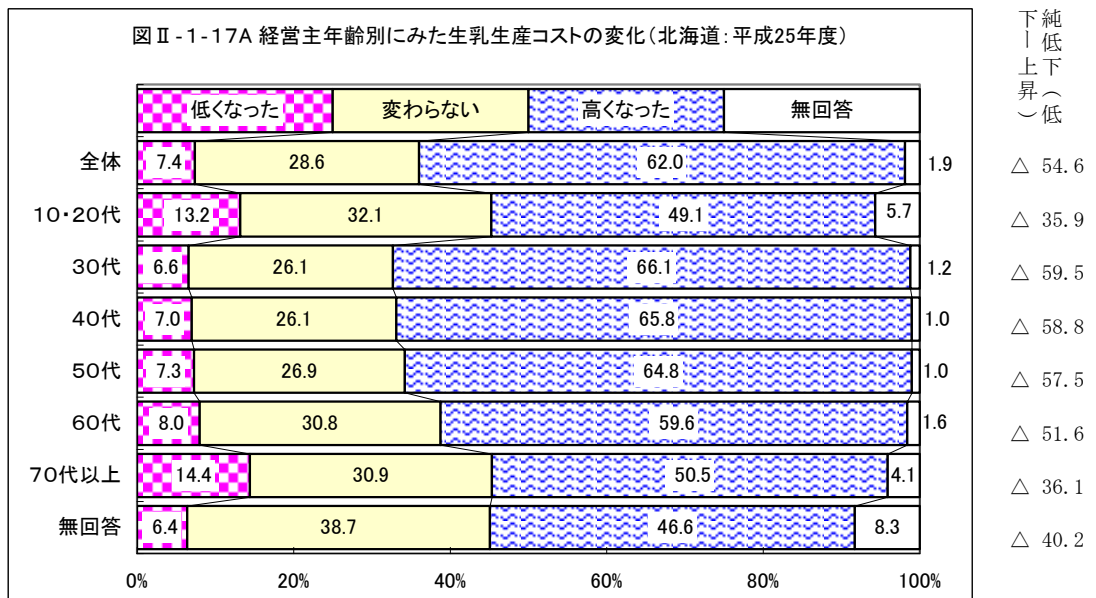
#### ①生乳生産コストの変化(平成25年度)

生乳生産コストの面からみた場合、平成24年度から25年度にかけて、各経営主年齢階層の経営が好転(低下)したか悪化(上昇)したかを、その純低下割合(『低くなった』割合 - 『高くなった』割合)に基づいてみて行くと次のような傾向が認められる。

まず、北海道と都府県とを問わず、全ての年齢階層で純低下割合はマイナス(△)となっており、この期間に生乳生産コストが全体として低下した階層は皆無であった。

次に、北海道においては、『10・20代』（△35.9ポイント）、『70代以上』（△36.1ポイント）の純低下割合が他の階層に比べて高く、以下は『60代』（51.6%）から『30代』（△59.5ポイント）にかけて年齢階層の低下とともに純低下割合は漸減している。

一方、都府県においては、年齢の高い階層と低い階層から『40代』、『50代』に近づくにつれて純低下割合が低くなっている。即ち、純低下割合は『70代以上』（△47.4ポイント）で最も高く、以下『10・20代』（△51.8ポイント）、『60代』（△59.1ポイント）、『30代』（△62.3ポイント）、『50代』（△63.3ポイント）、『40代』（△64.1ポイント）と進むにつれて純低下割合は低下している。



平成24年度から25年度にかけての生乳生産コストの変化状況を経営者経験年数別に示すと、表Ⅱ-1-5A、表Ⅱ-1-5Bのようになる。

これらの表によれば、生乳生産コストの純低下割合（『低くなった』割合－『高くなった』割合）は、北海道、都府県のいずれにおいても、『10年未満』～『30年未満』の各階層に比べて両端の『5年未満』層と『30年以上』層で高くなっている。前述の経営主年齢別分析でもこれと類似した傾向がみられたことから、経営者経験年数は前述の経営主年齢と高い相関関係にあるものと考えられる。

表Ⅱ - 1 - 5A 経営者経験年数別にみた生乳生産コストの変化（北海道：平成25年度）

[単位：戸、%]

	酪農家数	低 く な っ た	変 わ ら な い	高 く な っ た	無 回 答	(純 低 下 割 合 上 昇)
全 体	6,086	7.4	28.6	62.0	1.9	△ 54.6
5 年 未 満	664	7.8	28.5	61.3	2.4	△ 53.5
1 0 年 未 満	555	7.6	24.7	67.2	0.5	△ 59.6
2 0 年 未 満	1,095	6.9	26.6	66.2	0.3	△ 59.3
3 0 年 未 満	1,637	6.3	28.5	64.8	0.4	△ 58.5
3 0 年 以 上	1,871	8.8	32.6	58.1	0.5	△ 49.3
無 回 答	264	5.3	18.6	47.7	28.4	△ 42.4

表Ⅱ - 1 - 5B 経営者経験年数別にみた生乳生産コストの変化（都府県：平成25年度）

[単位：戸、%]

	酪農家数	低 く な っ た	変 わ ら な い	高 く な っ た	無 回 答	(純 低 下 割 合 上 昇)
全 体	10,297	8.9	20.0	68.3	2.8	△ 59.4
5 年 未 満	712	9.3	21.6	67.4	1.7	△ 58.1
1 0 年 未 満	662	9.4	19.0	71.5	0.2	△ 62.1
2 0 年 未 満	1,480	8.8	18.5	72.2	0.5	△ 63.4
3 0 年 未 満	2,142	8.8	18.4	72.2	0.5	△ 63.4
3 0 年 以 上	4,729	9.3	21.8	68.3	0.5	△ 59.0
無 回 答	572	4.2	14.2	40.6	41.1	△ 36.4

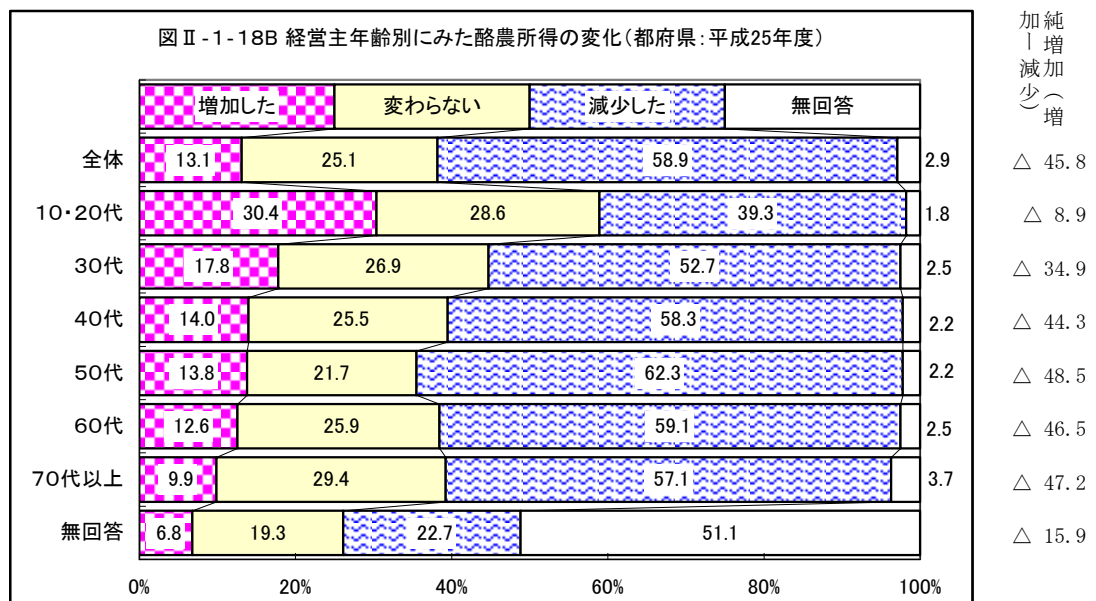
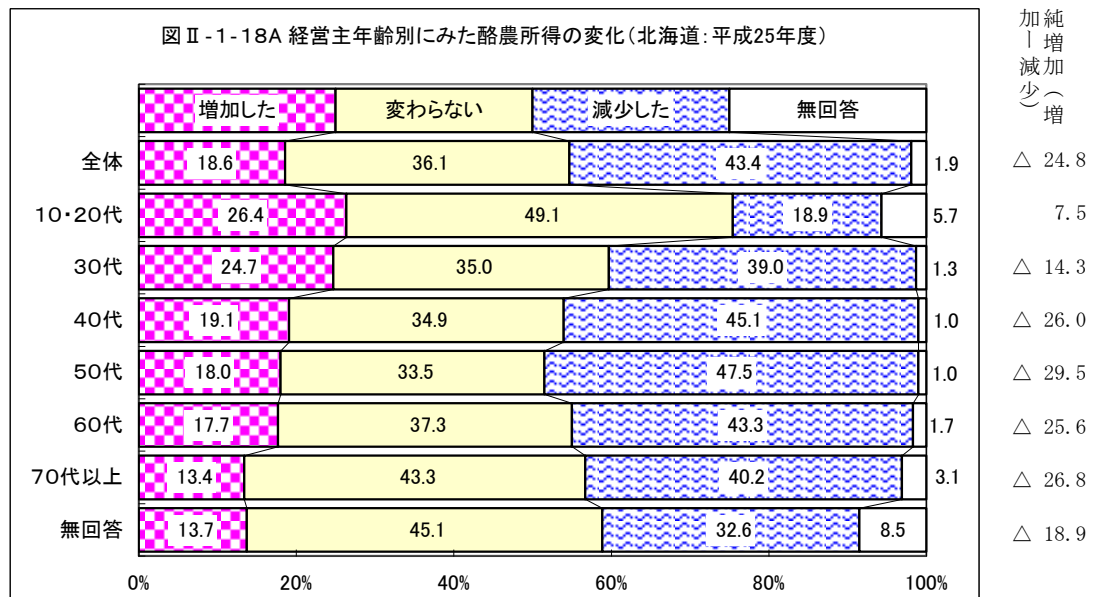
## ②酪農所得の変化（平成25年度）

平成24年度から25年度にかけての酪農所得の変化状況に関して、経営主年齢階層別に純増加割合（『増加した』割合－『減少した』割合）を求め、酪農所得の面で各階層の経営がどの程度好転（増加）または悪化（減少）したかをみると次のような傾向がみられる。

まず、北海道、都府県を通じて、純増加割合がプラス（好転）になったのは、北海道の『10・20代』層のみであり、その他は全てマイナス（悪化）という状況であった。また、全ての年齢階層について北海道の値が都府県の値を上回っており、年齢階層の如何を問わず都府県より北海道の方が悪化の程度が低かったといえる。

次に、北海道においては『10・20代』（+7.5ポイント）、『30代』（△14.3ポイント）の純増加割合が比較的高く、『40代』～『70代以上』（△20ポイント台後半）の純増加割合が比較的低かった。このことから、酪農所得の面からみると、北海道では経営主年齢が40代以上の階層で経営悪化の程度が深かったといえる。

一方、都府県においては、酪農所得の純増加割合は『10・20代』（△8.9ポイント）が最も高く、『30代』以上の階層（△30ポイント台～△40ポイント台）との差が顕著であった。このことから、酪農所得の悪化は経営主が『30代』～『70代以上』の階層で特に深刻であり、これらの階層と比べると『10・20代』層の深刻度はかなり小さかったといえる。



平成24年度から25年度にかけての酪農所得の変化状況を経営者経験年数別に表示すると、表Ⅱ-1-6A、表Ⅱ-1-6Bのようになる。

酪農所得の純増加割合（『増加した』割合 - 『減少した』割合）を経営者経験年数階層間で比較すると、北海道においては『5年未満』層（△7.5ポイント）と『10年未満』層～『30年以上』層（△20ポイント台）との間の差が大きく、酪農所得の悪化の程度は経営者経験5年以上の階層で特に大きかったとみることができる。

一方、都府県においては、『5年未満』（△34.3ポイント）、『10年未満』（△38.7ポイント）の2階層と『20年未満』層～『30年以上』層（△40ポイント台後半）との間の差が大きく、酪農所得の悪化は特に経営者経験10年以上の階層で深刻であったといえることができる。

表Ⅱ-1-6A 経営者経験年数別にみた酪農所得の変化（北海道：平成25年度）

[単位：戸、%]

	酪農家数	増加した	変わらない	減少した	無回答	（純増加割合 増加 ↓ 減少）
全 体	6,086	18.6	36.1	43.4	1.9	△ 24.8
5 年 未 満	664	25.5	39.0	33.0	2.6	△ 7.5
1 0 年 未 満	555	22.0	31.0	46.7	0.4	△ 24.7
2 0 年 未 満	1,095	18.9	36.0	44.8	0.3	△ 25.9
3 0 年 未 満	1,637	17.3	35.2	47.0	0.4	△ 29.7
3 0 年 以 上	1,871	17.7	38.6	43.1	0.6	△ 25.4
無 回 答	264	7.6	27.3	37.1	28.0	△ 29.5

表Ⅱ-1-6B 経営者経験年数別にみた酪農所得の変化（都府県：平成25年度）

[単位：戸、%]

	酪農家数	増加した	変わらない	減少した	無回答	（純増加割合 増加 ↓ 減少）
全 体	10,297	13.1	25.1	58.9	2.9	△ 45.8
5 年 未 満	712	18.1	27.5	52.4	2.0	△ 34.3
1 0 年 未 満	662	19.3	22.7	58.0	-	△ 38.7
2 0 年 未 満	1,480	13.9	24.6	60.9	0.5	△ 47.0
3 0 年 未 満	2,142	13.9	24.6	61.0	0.5	△ 47.1
3 0 年 以 上	4,729	11.8	26.5	61.0	0.7	△ 49.2
無 回 答	572	5.4	17.0	36.7	40.9	△ 31.3

## [2] 酪農経営の見通し

### ①生乳生産コストの変化見通し（平成26年度）

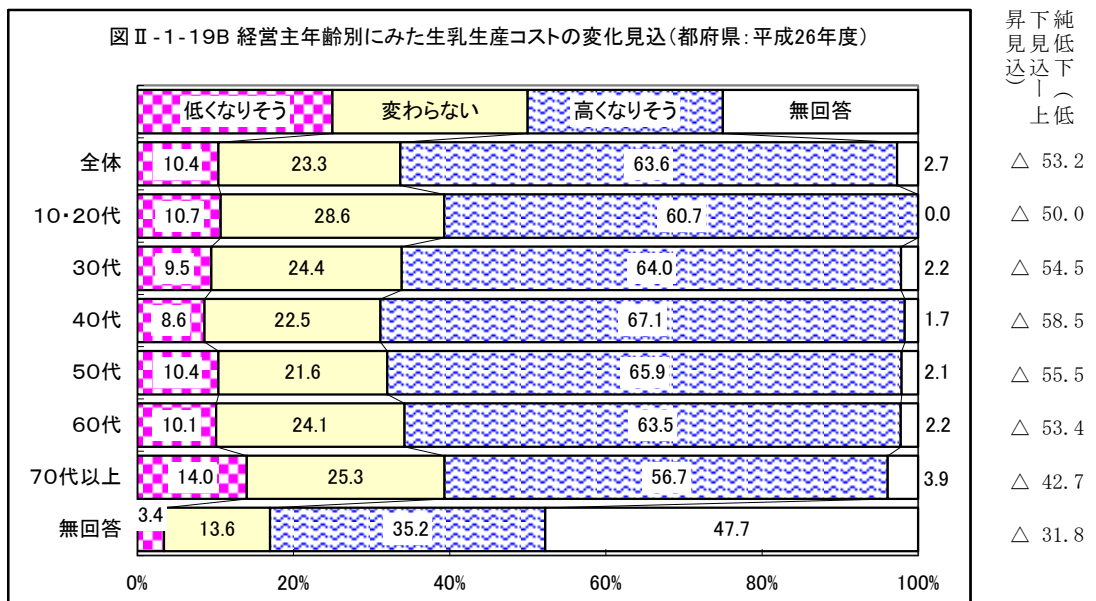
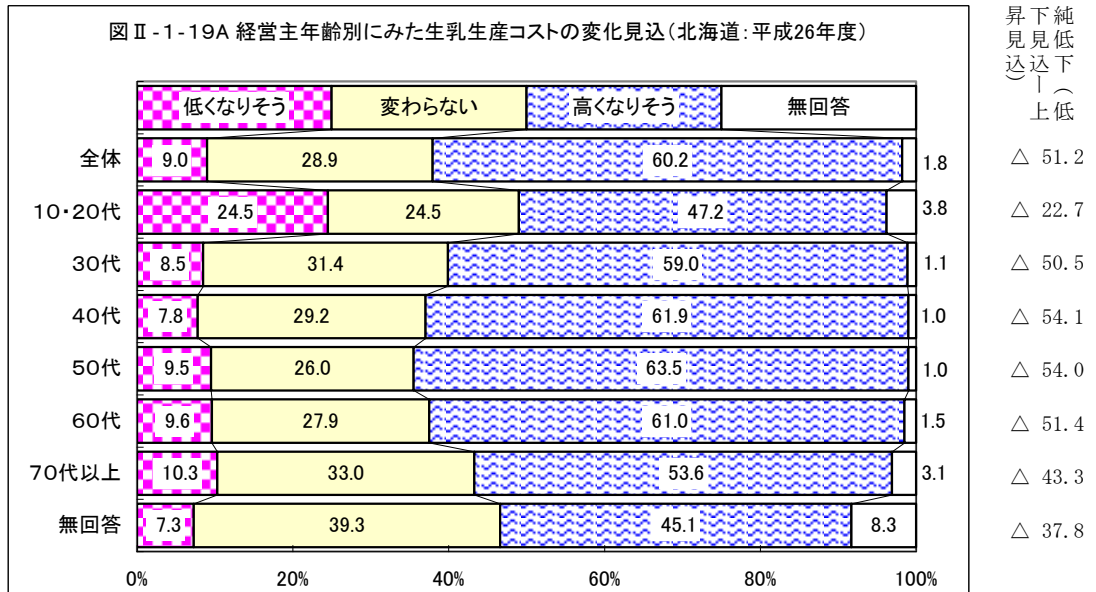
平成26年度における生乳生産コストの変化見通しを、経営主年齢別に図示すると図Ⅱ-1-19A、図Ⅱ-1-19Bのようになる。そして、この2図に従って年齢階層別の純低下見込割合（『低くなりそう』の割合－『高くなりそう』の割合）を北海道・都府県間で比較すると、次のような傾向を指摘することができる。

まず、いずれの地域においても、生乳生産コストの純低下見込割合は全ての年齢階層で大きなマイナス（△）値をとっており、経営主の年齢に係わりなく平成26年度には生乳生産コストが悪化（上昇）するという見通しが圧倒的に強い。

次に、北海道と都府県の純低下見込割合は、『10・20代』で北海道（△22.7ポイント）が都府県（△50.0ポイント）を大きく上回っている以外は、どの年齢階層においても値がかなり近似しており、生乳生産コストに関する北海道と都府県の変化見通しはそれほど変わっていないといえることができる。

また、北海道、都府県ともに、純低下見込割合は『10・20代』（北海道△22.7ポイント、都府県△50.0ポイント）、『70代以上』（北海道△43.3ポイント、都府県△42.7ポイント）の

両端の年齢階層で高く、『40代』（北海道△54.1ポイント、都府県△58.5ポイント）、『50代』（北海道△54.0ポイント、都府県△55.5ポイント）に近づくにつれて徐々に低下している。即ち、平成26年度の生乳生産コストに関する見通しは、最若年齢層、最高年齢層に比べて『40代』、『50代』でより悲観的であるといえることができる。



平成25年度から26年度にかけての生乳生産コストの変化見通しを経営者経験年数別に表すと、表Ⅱ-1-7A、表Ⅱ-1-7Bのようになる。

これらの表によれば、生乳生産コストの純低下見込割合（『低くなりそう』の割合 - 『高くなりそう』の割合）は、地域と経験年数階層の如何を問わず、△40ポイント台～△50ポイント台の大きな負値をとっており、平成26年度の生乳生産コストの変化見通しに関してはかなり悲観的な見方をしているといえることができる。

また、純低下見込割合を経営者経験年数階層間で比較すると、北海道においては『5年未満』層（△47.2ポイント）で最も高く、『20年未満』層（△55.6ポイント）と『10年未満』層（△54.8ポイント）でやや低くなっている。

一方、都府県においては、『30年以上』層（△53.2ポイント）で最も高く、『30年未満』層と『20年未満』層（ともに△56.0ポイント）でやや低くなっている。

表Ⅱ - 1 - 7A 経営者経験年数別にみた生乳生産コストの変化見込（北海道：平成26年度）

[単位：戸、%]

	酪農家数	低くなりそう	変わらない	高くなりそう	無回答	昇（純見込） ↓ 降（純見込） ↑ 割合
全 体	6,086	9.0	28.9	60.2	1.8	△ 51.2
5 年 未 満	664	10.2	30.7	57.4	1.7	△ 47.2
1 0 年 未 満	555	8.1	28.5	62.9	0.5	△ 54.8
2 0 年 未 満	1,095	7.9	28.2	63.5	0.4	△ 55.6
3 0 年 未 満	1,637	9.5	27.9	62.2	0.4	△ 52.7
3 0 年 以 上	1,871	9.6	29.9	60.0	0.5	△ 50.4
無 回 答	264	6.1	26.9	38.6	28.4	△ 32.5

表Ⅱ - 1 - 7B 経営者経験年数別にみた生乳生産コストの変化見込（都府県：平成26年度）

[単位：戸、%]

	酪農家数	低くなりそう	変わらない	高くなりそう	無回答	昇（純見込） ↓ 降（純見込） ↑ 割合
全 体	10,297	10.4	23.3	63.6	2.7	△ 53.2
5 年 未 満	712	9.8	24.4	64.9	0.8	△ 55.1
1 0 年 未 満	662	10.9	23.7	65.4	-	△ 54.5
2 0 年 未 満	1,480	11.0	21.4	67.0	0.5	△ 56.0
3 0 年 未 満	2,142	10.0	23.4	66.0	0.5	△ 56.0
3 0 年 以 上	4,729	11.0	24.2	64.2	0.5	△ 53.2
無 回 答	572	4.9	18.0	36.7	40.4	△ 31.8

## ②酪農所得の変化見通し（平成26年度）

平成26年度の酪農所得に関する変化見通しを経営主年齢別に図示すると図Ⅱ - 1 - 20 A、図Ⅱ - 1 - 20 B のようになる。そして、この2図に従って年齢階層別の純増加見込割合（『増加しそう』の割合－『減少しそう』の割合）を北海道・都府県間で比較すると次のような特徴がみられる。

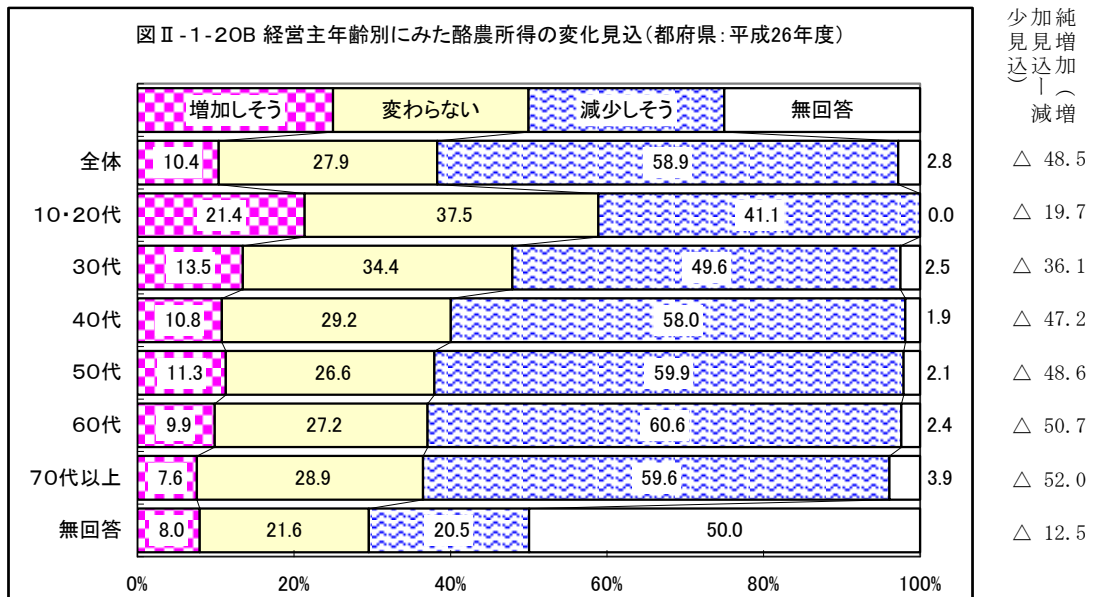
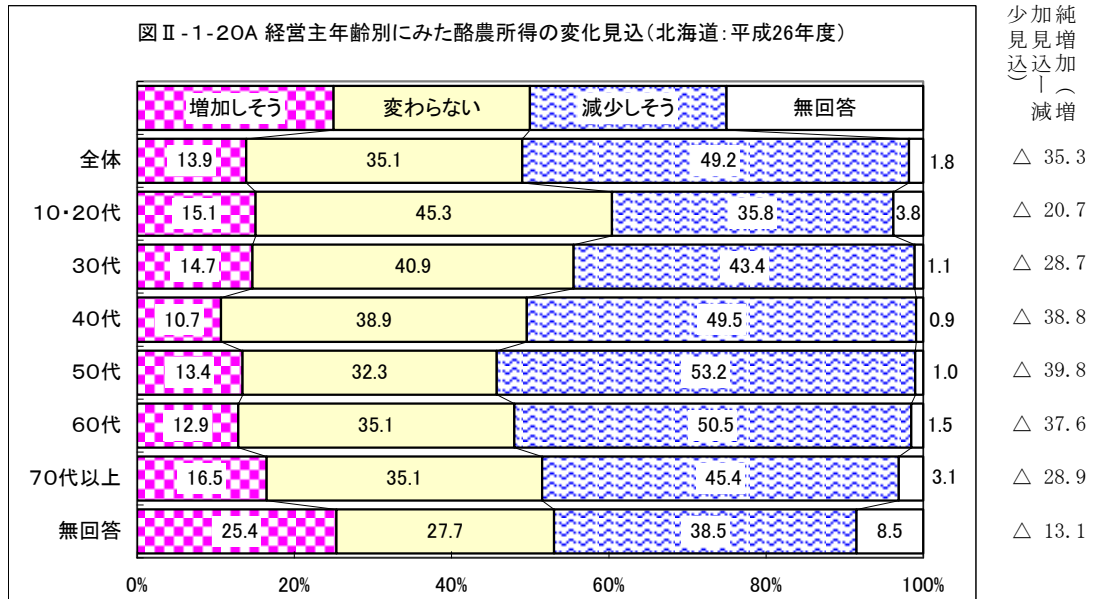
まず、両地域ともに、酪農所得の純増加見込割合は全ての年齢階層で大きなマイナス（△）値をとっており、平成26年度には酪農所得が減少するという悲観的な見通しが経営主の年齢に係わりなく非常に強いということがわかる。

次に、純増加見込割合は、『10・20代』（北海道△20.7ポイント、都府県△19.7ポイント）を除けば、どの年齢階層においても北海道の値が都府県の値を上回っており、酪農所得に関する変化見通しについては北海道より都府県の方が一層悲観的であるといえる。

また、北海道においては、酪農所得の純増加見込割合は『10・20代』（△20.7ポイント）、『30代』（△28.7ポイント）、『70代以上』（△28.9ポイント）に比べて『50代』（△39.8ポイント）、『40代』（△38.8ポイント）で低く、平成26年度の酪農所得に関する見通しは『50代』、『40代』でより悲観的であるといえる。

一方、都府県においては、酪農所得の純増加見込割合は『10・20代』（△19.7ポイント）から『70代以上』（△52.0ポイント）へと年齢階層が高まるにつれて急激に低下しており、

経営主の年齢が高まるにつれて悲観的な見方がますます強くなる傾向があるということを示している。



次に、平成25年度から26年度にかけての酪農所得の変化見通しを経営者経験年数別に表すと、表II-1-8A、表II-1-8Bのようになり、これらの表から以下のような特徴を指摘することができる。

まず、酪農所得の純増加見込割合（『増加しそう』の割合 - 『減少しそう』の割合）は、経験年数階層の如何を問わず、北海道では△20ポイント～△40ポイント、都府県では△30ポイント台後半～△50ポイント台前半の大きな負値をとっており、平成26年度酪農所得の変化見通しに関してもかなり悲観的な見方をしているということがわかる。

また、純増加見込割合を経営者経験年数階層間で比較すると、北海道では『5年未満』層（△21.2ポイント）で最も高く、『20年未満』層（△40.1ポイント）でやや低くなっている。一方、都府県でも、『5年未満』層（△37.4ポイント）で最も高く、『30年以上』層（△51.8ポイント）と『20年未満』層（△51.4ポイント）でやや低くなっており、平成26年

度の酪農所得に関する変化見通しは経営者経験年数の最も浅い層で悲観度がやや低いとい  
うことができる。

表Ⅱ - 1 - 8A 経営者経験年数別にみた酪農所得の変化見込（北海道：平成26年度）

[単位：戸、%]

	酪農 家数	増 加 し そ う	変 わ ら な い	減 少 し そ う	無 回 答	少（純 見増加 込）見 込見 込割 減合
全 体	6,086	13.9	35.1	49.2	1.8	△ 35.3
5 年 未 満	664	18.7	39.9	39.9	1.5	△ 21.2
1 0 年 未 満	555	13.0	38.6	48.1	0.4	△ 35.1
2 0 年 未 満	1,095	11.1	37.3	51.2	0.4	△ 40.1
3 0 年 未 満	1,637	15.0	32.9	51.8	0.3	△ 36.8
3 0 年 以 上	1,871	14.2	34.3	50.9	0.5	△ 36.7
無 回 答	264	7.2	25.8	37.9	29.2	△ 30.7

表Ⅱ - 1 - 8B 経営者経験年数別にみた酪農所得の変化見込（都府県：平成26年度）

[単位：戸、%]

	酪農 家数	増 加 し そ う	変 わ ら な い	減 少 し そ う	無 回 答	少（純 見増加 込）見 込見 込割 減合
全 体	10,297	10.4	27.9	58.9	2.8	△ 48.5
5 年 未 満	712	13.9	33.1	51.3	1.7	△ 37.4
1 0 年 未 満	662	13.7	27.8	58.3	0.2	△ 44.6
2 0 年 未 満	1,480	9.7	28.7	61.1	0.5	△ 51.4
3 0 年 未 満	2,142	11.0	28.2	60.2	0.6	△ 49.2
3 0 年 以 上	4,729	10.0	27.7	61.8	0.5	△ 51.8
無 回 答	572	4.9	19.1	35.1	40.9	△ 30.2

## （7）今後の予定・経営計画

### 〔1〕生乳出荷目標数量の達成見通し

平成26年度生乳生産目標数量の達成可能性を経営主年齢階層別に図示すると、図Ⅱ - 1 - 2 1 A、図Ⅱ - 1 - 2 1 B のようになる。ここで、平均評価点は各階層の達成可能性の程度を集約的に表すために、評価係数を「必ず」または「絶対」＝2点、「たぶん」＝1点、「わからない」＝0点として、次式により算出された値であり、数値が大きくなるほど達成可能性が高いということを示している。

平均評価点

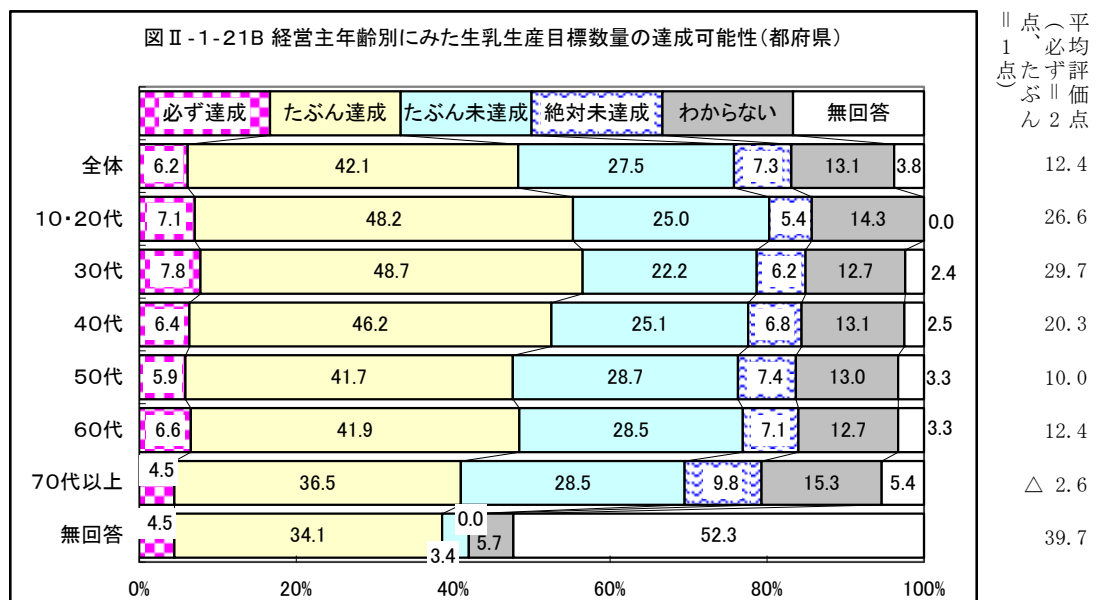
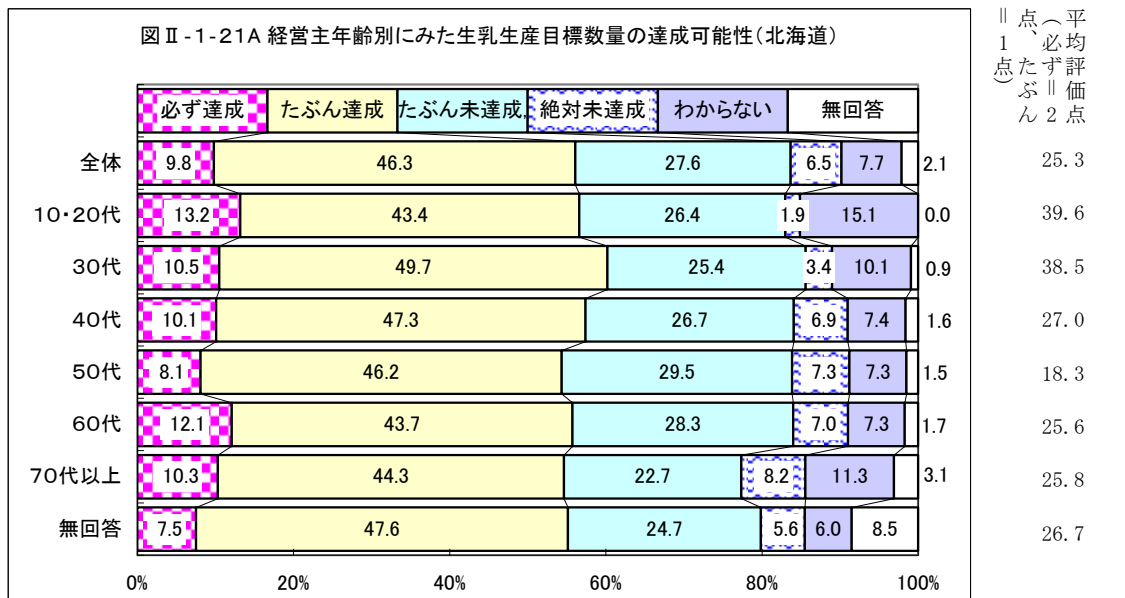
$$= 2 \times \text{「必ず達成」} + \text{「たぶん達成」} - \text{「たぶん達成不可能」} - 2 \times \text{「絶対達成不可能」}$$

まず、経営主年齢別の平均評価点を北海道・都府県間で比較すると、いずれの年齢階層においても北海道の値が都府県の値を上回っており、生乳生産目標の達成可能性は年齢階層の如何を問わず都府県より北海道の方が高いといえる。

また、北海道、都府県の双方を通じて、唯一、都府県の『70代以上』層で平均評価点（△

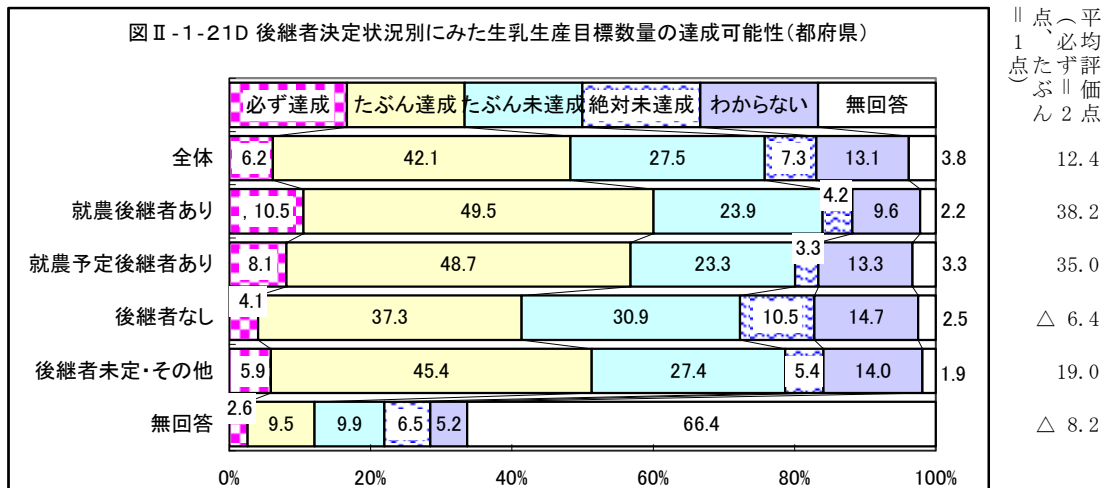
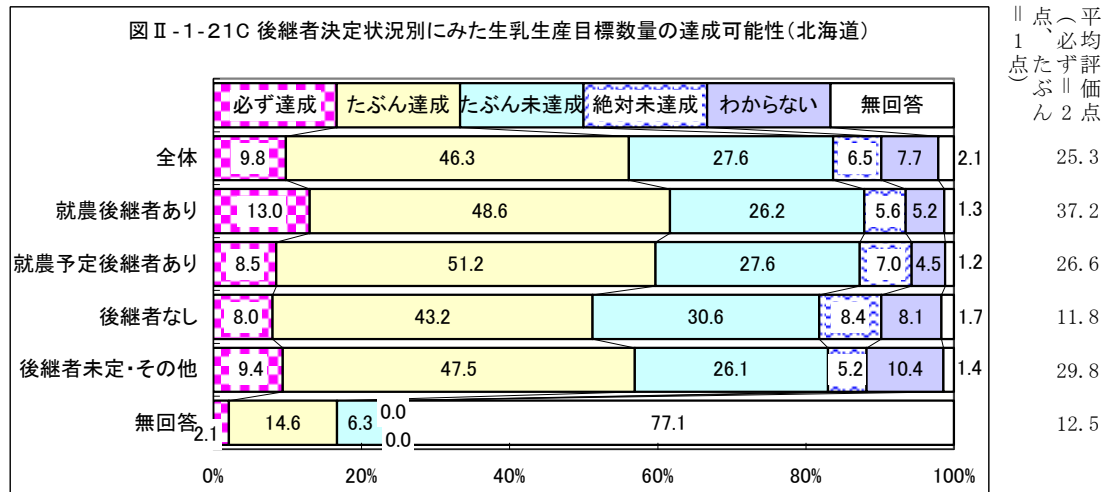
2.6ポイント)が負値をとっており、目標が達成できる可能性より達成できない可能性の方が高いという状況にある。

次に、平均評価点を経営主の年齢階層間で比較すると、北海道、都府県ともに、『10・20代』（北海道 39.6ポイント、都府県 26.6ポイント）、『30代』（北海道 38.5ポイント、都府県 29.7ポイント）の値が『40代』以上の値を上回っており、経営主年齢が低い階層の方が高い階層よりも生産目標の達成可能性が高いことを表している。特に、都府県では、高年齢階層になるほど平均評価点が概ね低下しており、経営主が高齢であればあるほど生産目標の達成可能性が低くなることを示している。



平成 26 年度生乳生産目標数量の達成可能性(平均評価点)を後継者の確保状況との関係からみると、北海道では『就農後継者あり』層(37.2ポイント)が断然高く、これに『後継者未定・その他』層(29.8ポイント)と『就農予定後継者あり』層(26.6ポイント)が続き、『後継者なし』層(11.8ポイント)が著しく低い値となっている。

一方、都府県においては、『就農後継者あり』層（38.2ポイント）、『就農予定後継者あり』層（35.0ポイント）の達成可能性（平均評価点）が断然高く、以下『後継者未定・その他』層（19.0ポイント）、『後継者なし』層（△6.4ポイント）となっており、『後継者なし』層では平成26年度生乳生産目標数量が若干未達成に終わる可能性を示している。



また、平成26年度生乳生産目標数量の達成可能性（平均評価点）を経営者経験年数との関係からみると、北海道においては『5年未満』層（40.8ポイント）が断然高く、これに『10年未満』層（31.6ポイント）が続き、その後に『20年未満』層～『30年以上』層が20ポイント台前半で並んでいる。

一方、都府県では、『5年未満』層の達成可能性（平均評価点）（25.0ポイント）が最高となっている点は北海道と同じだが、『10年未満』層の値（7.4ポイント）が極端に低くなっている点が大きく異なっている。なお、その後は、経営者経験年数が高まるにつれて達成可能性（平均評価点）が漸減している。

表Ⅱ - 1 - 8A 経営者経験年数別にみた生乳生産目標数量の達成可能性（北海道）

[単位：戸、%]

	酪農家数	必ず達成できる	たぶん達成できる	いたぶん達成できない	なぜつたい達成できない	わからない	無回答	た（平均）ぶ（必ず）ん（評価）ず（12点）点、
全 体	6,086	9.8	46.3	27.6	6.5	7.7	2.1	25.3
5 年 未 満	664	11.3	50.5	24.5	3.9	9.5	0.3	40.8
1 0 年 未 満	555	10.1	48.6	27.4	4.9	8.6	0.4	31.6
2 0 年 未 満	1,095	10.0	46.3	29.3	6.4	7.8	0.2	24.2
3 0 年 未 満	1,637	8.9	47.8	28.2	7.8	7.2	0.2	21.8
3 0 年 以 上	1,871	10.7	45.4	28.6	7.2	7.6	0.5	23.8
無 回 答	264	4.2	28.0	18.6	4.5	4.5	40.2	8.8

表Ⅱ - 1 - 8B 経営者経験年数別にみた生乳生産目標数量の達成可能性（都府県）

[単位：戸、%]

	酪農家数	必ず達成できる	たぶん達成できる	いたぶん達成できない	なぜつたい達成できない	わからない	無回答	た（平均）ぶ（必ず）ん（評価）ず（12点）点、
全 体	10,297	6.2	42.1	27.5	7.3	13.1	3.8	12.4
5 年 未 満	712	7.2	47.5	25.1	5.9	13.5	0.8	25.0
1 0 年 未 満	662	5.7	42.9	29.9	8.5	12.8	0.2	7.4
2 0 年 未 満	1,480	5.6	45.1	28.4	6.4	13.9	0.7	15.1
3 0 年 未 満	2,142	6.0	43.6	28.3	7.3	13.8	1.0	12.7
3 0 年 以 上	4,729	6.8	42.2	29.0	8.1	12.8	1.1	10.6
無 回 答	572	2.8	19.9	10.1	4.2	10.7	52.3	7.0

## [2] 生乳出荷の増減意向

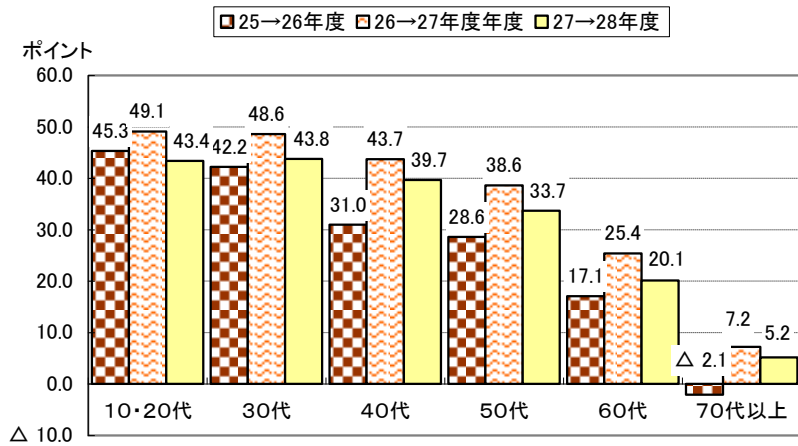
平成 26 年度から 28 年度までの出荷乳量に対する増減意向を経営主年齢階層別に 1 年度刻みで捉え、その変化を純増加予定割合（「増やす」－「減らす」）の動きによって追うと、図Ⅱ - 1 - 2 2A、図Ⅱ - 1 - 2 2B のようになっている。

まず、この 2 図によって北海道と都府県を比較すると、平成 26 年度の純増加予定割合について『10・20 代』層で極僅か都府県（48.2 ポイント）が北海道（45.3 ポイント）を上回っている以外は、どの年度、どの年齢階層においても北海道が都府県を上回っており、少なくとも今後 3 年間についてみる限りでは北海道の酪農家の増産意欲は都府県の酪農家のそれを凌いでいるといえることができる。

次に、北海道、都府県ともに、全ての年齢階層において、平成 26 年度から 27 年度にかけて純増加予定割合が上昇し、27 年度から 28 年度にかけてそれが低下している。このことから、地域と経営主の年齢を問わず、酪農家の増産意欲は再来年度に向けて最高の高まりをみせているといえることができる。

また、出荷乳量の純増加予定割合を経営主の年齢階層間で比較すると、北海道、都府県のいずれにおいても、平成 26 年度から 28 年度を通して、経営主年齢の低い階層ほど純増加予定割合が高くなっており、生乳の増産意欲は若い経営主ほど高く、年齢が高まるにつれて漸減して行く傾向があるということを示している。

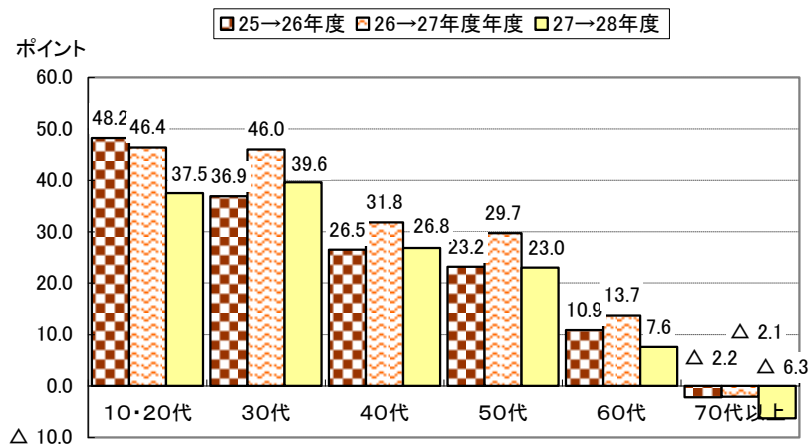
図Ⅱ-1-22A 経営主年齢別にみた生乳出荷の純増加予定割合(北海道)



[単位：ポイント]

	25→26年度	26→27年度	27→28年度
全酪農家	16.4	20.6	14.6

図Ⅱ-1-22B 経営主年齢別にみた生乳出荷の純増加予定割合(都府県)



[単位：ポイント]

	25→26年度	26→27年度	27→28年度
全酪農家	16.4	20.6	14.6

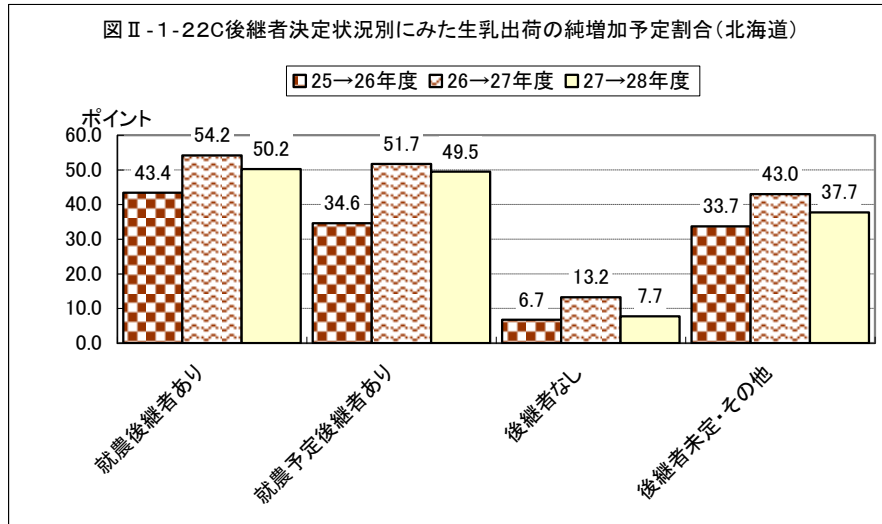
平成25年度から26年度、26年度から27年度、27年度から28年度の3期間に関する出荷乳量の純増加予定割合（「増やす」－「減らす」）を後継者の確保状況別に図示すると図Ⅱ-1-22C、図Ⅱ-1-22Dのようになる。

まず、この2図によって北海道と都府県を比較すると、年度と後継者の確保状況を問わず北海道の値が都府県の値を上回っており、少なくとも今後3年間については北海道の酪農家の増産意欲が都府県の酪農家の増産意欲を凌いでいるといえる。

次に、北海道、都府県ともに、後継者の確保状況に係わらず、平成26年度から27年度にかけて純増加予定割合が上昇し、27年度から28年度にかけてそれが低下している。このことから、地域と後継者の確保状況を問わず、酪農家の増産意欲は再来年度に向けて最高の高まりをみせているといえる。

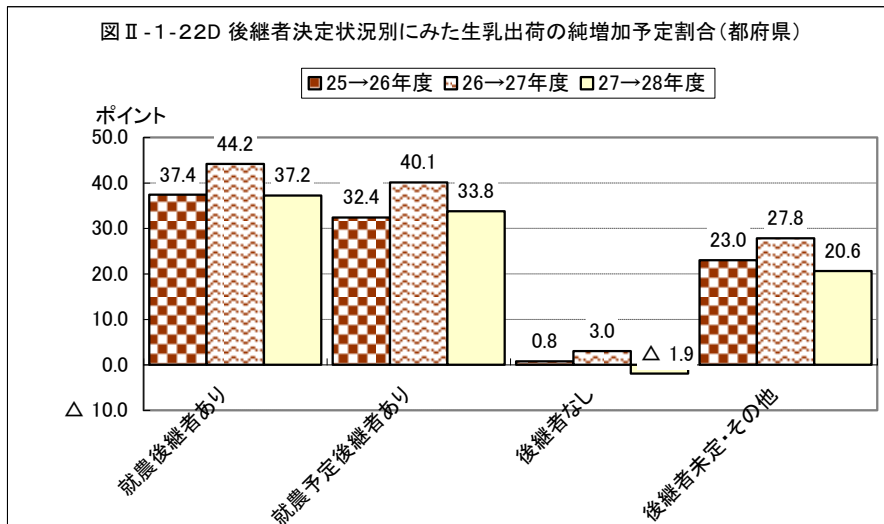
また、出荷乳量の純増加予定割合を後継者の確保状況間で比較すると、北海道、都府県のいずれにおいても、平成26年度から28年度を通して、『就農後継者あり』の層、『就農予定後継者あり』の層、『後継者未定・その他』の層、『後継者なし』の層の順に高く、後継者の有

無と生乳生産意欲が密接に関連していることが分かる。



[単位：ポイント]

	25→26年度	26→27年度	27→28年度
全酪農家	26.8	35.9	31.2



[単位：ポイント]

	25→26年度	26→27年度	27→28年度
全酪農家	16.4	20.6	14.6

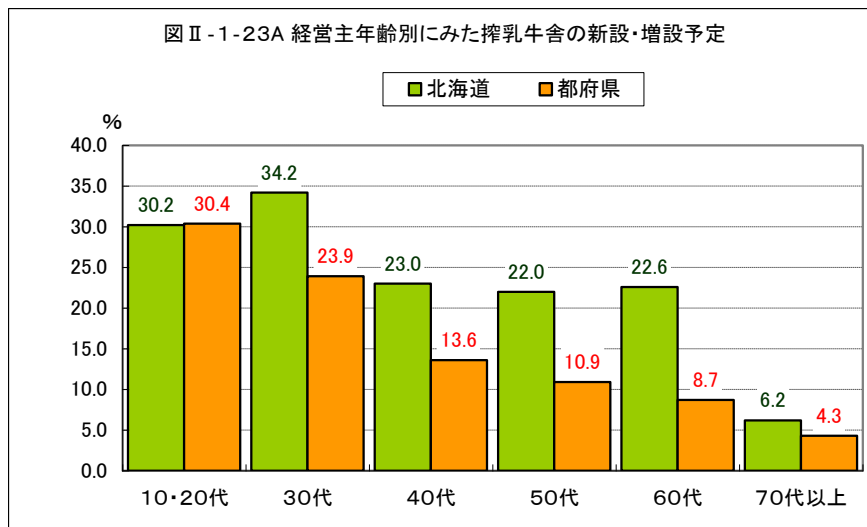
### [3] 搾乳牛舎の増改築意向

搾乳牛舎に関する増改築意向の状況を、経営主年齢階層別に図示すると図Ⅱ-1-33Aのようになる。また、その詳細は表Ⅱ-1-9A、表Ⅱ-1-9Bのとおりである。

まず、図Ⅱ-1-23Aによって、年齢階層別の増改築意向（「新設予定」と「増設予定」の合計）の状況を北海道・都府県間で比較すると、『10・20代』層でほぼ同程度となっている以外は、北海道の意向が都府県の意向を上回っており、前述の出荷乳量に関する増減意向の状況を反映した形になっている。これを表Ⅱ-1-9A、表Ⅱ-1-9Bによって今少し詳細にみると、「新設予定」経営の割合、「増設予定」経営の割合のいずれについても、大部分の年齢階層で北海道の値が都府県の値を上回っている。

なお、表Ⅱ-1-9A、表Ⅱ-1-9Bから明らかなように、北海道では経営主年齢階層の如何を問わず「新設予定」割合と「増設予定」割合が非常に近似しているが、都府県では全ての年齢階層で「増設予定」割合が「新設予定」割合を上回っている。

次に、図Ⅱ-1-23Aによって、増改築意向（「新設予定」と「増設予定」の合計）の状況を経営主年齢階層間で比較すると、都府県においては経営主年齢の低い階層ほど増改築意向が高く、年齢階層が高まるにつれてそれが低下している。北海道においては、増改築意向の状況は『10・20代』・『30代』層、『40代』～『60代』層、『70代以上』層の3群に分かれており、この3群の間で概ね都府県と類似した傾向が認められる。なお、このような傾向は、表Ⅱ-1-9A、表Ⅱ-1-9Bによって「改築意向（新設予定）」・「増築意向（増設予定）」別にみてもほぼ同様である。



[単位：%]

	北海道	都府県
全酪農家	23.3	10.3

表Ⅱ-1-9A 経営主年齢別にみた搾乳牛舎の新設・増設予定（北海道）

[単位：戸、%]

	酪農家数	【新設意向】			【増設意向】			あり 新設 予定・ 増設 予定
		ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	
全	6,086	12.0	86.7	1.3	11.3	87.4	1.3	23.3
10・20代	53	15.1	84.9	-	15.1	83.0	1.9	30.2
30代	761	18.0	81.5	0.5	16.2	83.2	0.7	34.2
40代	1,153	10.9	88.6	0.5	12.1	87.6	0.3	23.0
50代	2,055	11.0	88.2	0.7	11.0	88.0	1.0	22.0
60代	1,486	12.5	86.4	1.1	10.1	88.9	1.0	22.6
70代以上	97	3.1	95.9	1.0	3.1	95.9	1.0	6.2
無回答	481	8.9	84.0	7.1	7.9	85.2	6.9	16.8

表Ⅱ - 1 - 9B 経営主年齢別にみた搾乳牛舎の新設・増設予定（都府県）

[単位：戸、%]

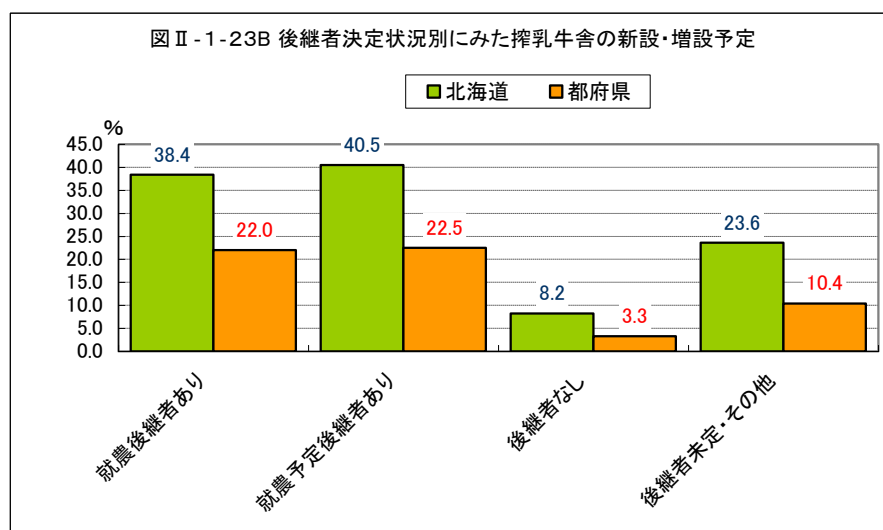
	酪農家数	【新設意向】			【増設意向】			あり 新設 予定 ・ 増設 予定
		ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	
全 体	10,297	4.2	92.0	3.9	6.1	89.9	3.9	10.3
10・20代	56	14.3	83.9	1.8	16.1	78.6	5.4	30.4
30代	550	9.5	87.5	3.1	14.4	82.0	3.6	23.9
40代	1,344	5.1	91.7	3.3	8.5	88.2	3.3	13.6
50代	2,896	4.4	92.4	3.2	6.5	90.4	3.1	10.9
60代	4,117	3.7	92.8	3.5	5.0	91.4	3.7	8.7
70代以上	1,246	1.6	94.1	4.3	2.7	93.1	4.2	4.3
無 回 答	88	4.5	43.2	52.3	5.7	43.2	51.1	10.2

搾乳牛舎に関する増改築意向の状況を、後継者確保状況別に図示すると図Ⅱ - 1 - 23B のようになる。また、その詳細は表Ⅱ - 1 - 9C、表Ⅱ - 1 - 9Dのとおりである。

まず、後継者確保状況別の増改築意向を北海道・都府県間で比較すると、表Ⅱ - 1 - 9C、表Ⅱ - 1 - 9Dにみられるように、「新設予定」経営の割合、「増設予定」経営の割合ともに、後継者の確保状況に係わりなく北海道の意向が都府県の意向を上回っている。

次に、増改築意向の状況を後継者確保状況間で比較すると、北海道、都府県の双方において、「改築意向（新設予定）」、「増築意向（増設予定）」のいずれについても、『就農後継者がいる』層及び『就農予定後継者がいる』層、『後継者未定・その他』の層、『後継者不在』の層の順に高くなっている。

なお、北海道の『就農後継者がいる』層と『就農予定後継者がいる』層では「増設予定」割合より「新設予定」割合の方が高いが、都府県では後継者の確保状況に係わりなく「増設予定」割合が「新設予定」割合を上回っている。



[単位：%]

	北海道	都府県
全酪農家	23.3	10.3

表Ⅱ - 1 - 9C 後継者決定状況別にみた搾乳牛舎の新設・増設予定（北海道）

[単位：戸、%]

	酪農家数	【新設意向】			【増設意向】			新設予定・増設予定あり計
		ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	
全体	6,086	12.0	86.7	1.3	11.3	87.4	1.3	23.3
16歳以上の就農後継者がいる	1,681	21.0	78.2	0.8	17.4	81.6	1.1	38.4
16歳以上の就農予定後継者がいる	402	21.6	77.6	0.7	18.9	80.6	0.5	40.5
後継者はいない	2,111	4.1	95.6	0.2	4.1	95.7	0.2	8.2
分からない・未定・その他	1,844	11.0	88.5	0.5	12.6	86.9	0.5	23.6
無回答	48	-	6.3	93.8	-	6.3	93.8	-

表Ⅱ - 1 - 9D 後継者決定状況別にみた搾乳牛舎の新設・増設予定（都府県）

[単位：戸、%]

	酪農家数	【新設意向】			【増設意向】			新設予定・増設予定あり計
		ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	
全体	10,297	4.2	92.0	3.9	6.1	89.9	3.9	10.3
16歳以上の就農後継者がいる	2,334	9.1	87.1	3.7	12.9	83.2	3.9	22.0
16歳以上の就農予定後継者がいる	571	8.8	88.3	3.0	13.7	83.2	3.2	22.5
後継者はいない	4,607	1.3	97.7	1.0	2.0	96.9	1.0	3.3
分からない・未定・その他	2,553	4.2	93.7	2.2	6.2	91.5	2.2	10.4
無回答	232	0.4	16.8	82.8	0.4	16.8	82.8	0.8

#### [4] 酪農経営の廃業意向

酪農経営の廃業意向状況を、経営主年齢階層別に示すと図Ⅱ - 1 - 24A、図Ⅱ - 1 - 24Bのようになる。

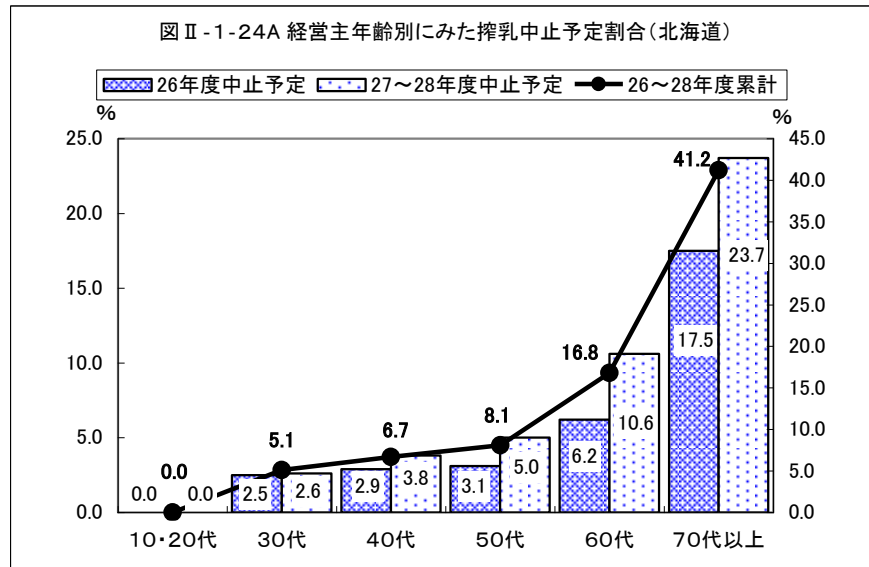
まず、経営主年齢階層別の廃業意向状況を北海道・都府県間で比較すると、『10・20代』については都府県（平成26年度3.6%、26～28年度累積12.5%）が北海道（平成26年度0.0%、26～28年度累積0.0%）を大きく上回っており、逆に『70代以上』については北海道（平成26年度17.5%、26～28年度累積41.2%）が都府県（平成26年度10.0%、26～28年度累積28.1%）を大きく上回っている点が注目される。

次に、平成26年度中の廃業意向割合と27～28年度にかけての廃業意向割合を比較すると、都府県の『30代』を除き、北海道、都府県のいずれの年齢階層でも27～28年度の割合の方が著しく大きくなっている。言い換えれば、現時点で既に、この1年内の廃業予定経営を上回る数の経営が2～3年後の廃業を予定している。

また、酪農経営の廃業意向状況を経営主年齢階層間で比較すると、北海道では年齢階層の高まりとともに廃業意向割合が漸増しており、特に『60代』（平成26年度6.2%、26～28年度

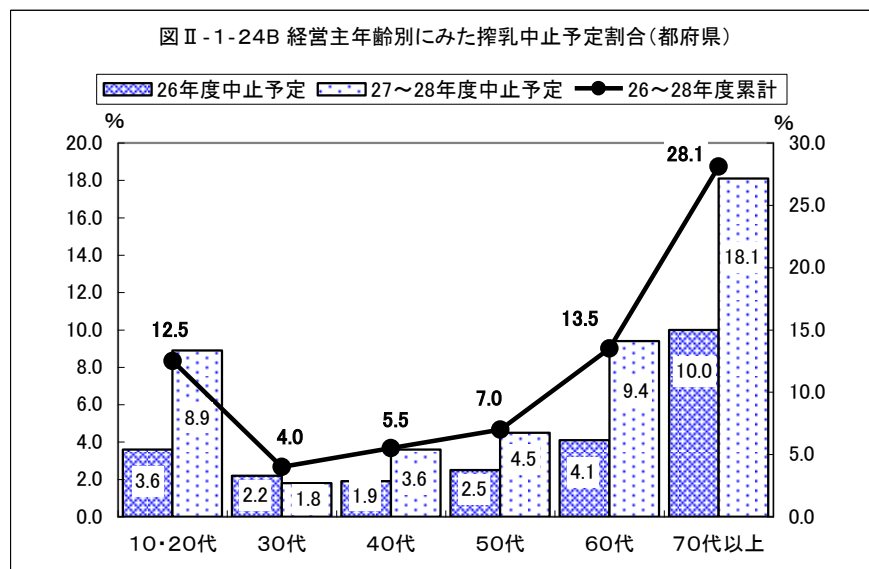
累積 16.8%) から『70 代以上』(平成 26 年度 17.5%、26～28 年度累積 41.2%) にかけて著しく上昇している。

一方、都府県では『10・20 代』の廃業意向割合(平成 26 年度 3.6%、26～28 年度累積 12.5%)が『60 代』(平成 26 年度 4.1%、26～28 年度累積 13.5%)並みに高いという点が特異な傾向としてあげられる。『30 代』以上の層については、概ね年齢階層の高まりに伴って廃業意向割合が漸増しており、『60 代』から『70 代以上』(平成 26 年度 10.0%、26～28 年度累積 28.1%)にかけては大きく上昇しているが、北海道と比べるとその上昇幅は小さい。



[単位: %]

	26年度中止予定	27～28年度中止予定	26～28年度累計
全酪農家	4.0	6.1	10.1



[単位: %]

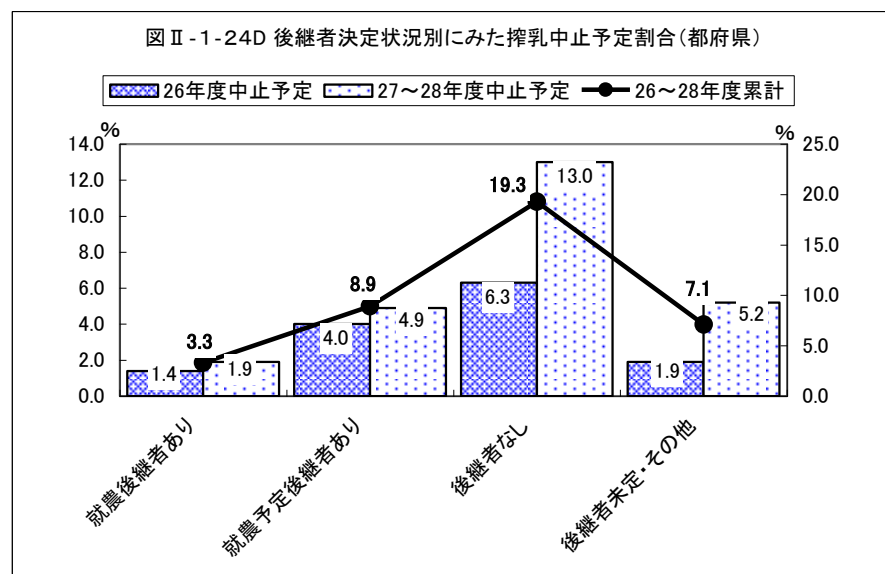
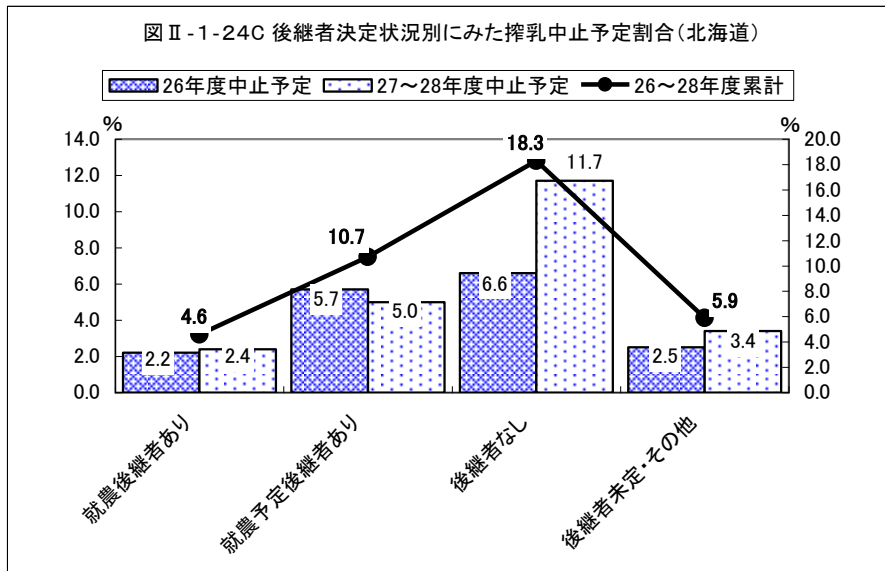
	26年度中止予定	27～28年度中止予定	26～28年度累計
全酪農家	3.9	7.9	11.8

酪農経営の廃業意向状況は、後継者の確保状況とも密接に関連している。図 II - 1 - 24C、図 II - 1 - 24D は、後継者確保状況別の廃業意向割合を図示したものである。

まず、後継者確保状況別の廃業意向状況を北海道・都府県間で比較すると、平成26年度内の廃業意向については、確保状況にかかわらず北海道が都府県を上回っている。また、27～28年度の廃業意向については、『就農後継者がいる』層と『就農予定後継者がいる』層では北海道、『後継者不在』層と『後継者未定・その他』層では都府県の方が高くなっている。ただし、いずれの場合も北海道・都府県間の差異は極僅かである。

次に、平成26年度中の廃業意向割合と27～28年度にかけての廃業意向割合を比較すると、北海道の『就農予定後継者がいる』層を除く全ての層で、26年度の割合より27～28年度の割合の方が若干大きくなっている。この傾向は、北海道、都府県のいずれについても、他層に比べて『後継者不在』層でやや強く、今後同層からの廃業がますます増えて行くことが推測される。

また、酪農経営の廃業意向状況を後継者確保状況間で比較すると、北海道、都府県ともに、『就農後継者がいる』層で最も低く、『後継者不在』の層で最も高くなっている。ただし、『就農予定後継者がいる』層と『後継者未定・その他』の層とでは、むしろ前者の方が廃業意向割合が僅かながら高いケースが多い。



## (8) 生乳生産の阻害要因・促進条件

### [1] 生乳増産の阻害要因

生乳の増産を図る上での主な阻害要因を経営主年齢階層別に列挙すると、表Ⅱ-1-10A、表Ⅱ-1-10Bのようになる。

先ず、これを北海道・都府県間で比較すると、北海道では大部分の年齢階層で「労働力不足（飼養管理が限界）」が筆頭にあげられているのに対して、都府県では多くの経営階層で「購入飼料価格が今後不透明」が筆頭にあげられている。また、北海道では「酪農制度・政策が今後不透明」、「設備・機械不足で飼養頭数が限界」、「資金不足で土地・施設の確保が困難」を上位にあげる年齢階層が多いのに対して、都府県では「労働力不足（飼養管理が限界）」に加えて「労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）」を上位にあげる年齢階層が多くみられる等の差異がみられる。

反面、『60代』、『70代以上』といった高齢経営主層で「経営者が高齢化」が筆頭もしくはそれに近い高率で上位にあげられているというように北海道と都府県に共通した傾向もみられる。

次に、生乳増産上の阻害要因を経営主年齢階層間で比較すると、次のような特徴が見受けられる。

北海道では、『10・20代』～『50代』までは「労働力不足（飼養管理が限界）」、『70代以上』は「経営者が高齢化」をあげる経営が断然多くみられる。また、『60代』では、「労働力不足（飼養管理が限界）」をあげる経営と「経営者が高齢化」をあげる経営が拮抗している。

その他、『10・20代』では「購入飼料価格が今後不透明」、「設備・機械不足で飼養頭数が限界」、『30代』～『60代』では「設備・機械不足で飼養頭数が限界」、「酪農制度・政策が今後不透明」、『70代以上』では「経営後継者難」をあげる経営が他の年齢階層に比べて多くみられる。

一方、都府県では、『10・20代』～『50代』までは「購入飼料価格が今後不透明」、『60代』、『70代以上』は「経営者が高齢化」が筆頭にあげられている。ただし、「購入飼料価格が今後不透明」は『60代』、『70代以上』においても大きな阻害要因の一つである点は変わらない。また、『30代』以上の層で、「労働力不足（飼養管理が限界）」が2～3位と比較的上位にあげられている点も注目される。

その他、『10・20代』では「資金不足（土地・施設の確保が困難）」、「資金不足（乳牛更新・増頭が困難）」、『30代』では「農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）」、『40代』～『60代』では「労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）」、『70代以上』では「経営後継者難」をあげる経営が他の年齢階層に比べて多いという点も特徴的である。

表Ⅱ - 1 - 1 OA 経営主年齢別にみた生乳増産の阻害要因（北海道）

[単位：%]

[ 全 体 ]		[ 50代 ]	
1位	労働力不足（飼養管理）	37.7	労働力不足（飼養管理）
2位	酪農制度・政策が今後不透明	28.0	酪農制度・政策が今後不透明
3位	設備・機械不足（飼養頭数）	27.3	設備・機械不足（飼養頭数）
4位	資金不足（土地・施設確保）	21.3	資金不足（土地・施設確保）
5位	経営者が高齢化	20.4	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）
6位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.5	経営者が高齢化
7位	購入飼料価格が今後不透明	18.4	購入飼料価格が今後不透明
8位	生乳価格・需給が今後不透明	16.3	経営後継者難
9位	経営後継者難	15.7	生乳価格・需給が今後不透明
10位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	13.6	資金不足（乳牛更新・増頭）
[ 10・20代 ]		[ 60代 ]	
1位	労働力不足（飼養管理）	47.2	労働力不足（飼養管理）
2位	購入飼料価格が今後不透明	30.2	経営者が高齢化
3位	設備・機械不足（飼養頭数）	26.4	設備・機械不足（飼養頭数）
4位	資金不足（土地・施設確保）	22.6	酪農制度・政策が今後不透明
5位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	17.0	経営後継者難
6位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	17.0	購入飼料価格が今後不透明
7位	資金不足（乳牛更新・増頭）	17.0	資金不足（土地・施設確保）
8位	酪農制度・政策が今後不透明	15.1	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）
9位	経営者が高齢化	15.1	生乳価格・需給が今後不透明
10位	生乳価格・需給が今後不透明	15.1	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）
[ 30代 ]		[ 70代以上 ]	
1位	労働力不足（飼養管理）	39.4	経営者が高齢化
2位	設備・機械不足（飼養頭数）	30.1	経営後継者難
3位	酪農制度・政策が今後不透明	29.3	労働力不足（飼養管理）
4位	資金不足（土地・施設確保）	28.3	酪農制度・政策が今後不透明
5位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.7	設備・機械不足（飼養頭数）
6位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	20.8	資金不足（土地・施設確保）
7位	購入飼料価格が今後不透明	20.4	購入飼料価格が今後不透明
8位	生乳価格・需給が今後不透明	17.5	資金不足（乳牛更新・増頭）
9位	現在の経営規模に満足	14.7	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）
10位	施設用地が狭い（施設の増改築）	13.3	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）
[ 40代 ]			
1位	労働力不足（飼養管理）	44.4	
2位	設備・機械不足（飼養頭数）	28.6	
3位	酪農制度・政策が今後不透明	28.4	
4位	資金不足（土地・施設確保）	23.9	
5位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.8	
6位	購入飼料価格が今後不透明	19.3	
7位	生乳価格・需給が今後不透明	19.1	
8位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	14.5	
9位	資金不足（乳牛更新・増頭）	14.5	
10位	経営後継者難	13.2	

表Ⅱ - 1 - 10B 経営主年齢別にみた生乳増産の阻害要因（都府県）

[単位：％]

〔 全 体 〕		〔 50代 〕		
1位	経営者が高齢化	30.1	購入飼料価格が今後不透明	31.0
2位	購入飼料価格が今後不透明	29.9	労働力不足（飼養管理）	25.9
3位	労働力不足（飼養管理）	25.1	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	23.1
4位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.1	資金不足（乳牛更新・増頭）	22.9
5位	資金不足（乳牛更新・増頭）	19.7	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.0
6位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	18.1	生乳価格・需給が今後不透明	18.4
7位	生乳価格・需給が今後不透明	17.1	経営者が高齢化	18.3
8位	酪農制度・政策が今後不透明	16.2	酪農制度・政策が今後不透明	17.9
9位	経営後継者難	16.1	経営後継者難	16.4
10位	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	15.4	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	15.4
〔 10・20代 〕		〔 60代 〕		
1位	購入飼料価格が今後不透明	33.9	経営者が高齢化	40.6
2位	資金不足（土地・施設確保）	30.4	購入飼料価格が今後不透明	30.2
3位	資金不足（乳牛更新・増頭）	25.0	労働力不足（飼養管理）	24.0
4位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	23.2	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.6
5位	労働力不足（飼養管理）	21.4	経営後継者難	17.9
6位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.6	資金不足（乳牛更新・増頭）	17.6
7位	設備・機械不足（飼養頭数）	17.9	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	16.7
8位	施設用地が狭い（施設の増改築）	17.9	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	16.2
9位	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	16.1	生乳価格・需給が今後不透明	16.2
10位	生乳価格・需給が今後不透明	16.1	酪農制度・政策が今後不透明	15.8
〔 30代 〕		〔 70代以上 〕		
1位	購入飼料価格が今後不透明	35.1	経営者が高齢化	55.4
2位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	25.5	労働力不足（飼養管理）	26.7
3位	労働力不足（飼養管理）	24.9	購入飼料価格が今後不透明	23.9
4位	資金不足（乳牛更新・増頭）	24.4	経営後継者難	21.2
5位	生乳価格・需給が今後不透明	21.8	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	19.2
6位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.5	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	18.2
7位	資金不足（土地・施設確保）	19.6	資金不足（乳牛更新・増頭）	14.8
8位	酪農制度・政策が今後不透明	18.4	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	14.1
9位	設備・機械不足（飼養頭数）	14.5	生乳価格・需給が今後不透明	12.0
10位	施設用地が狭い（施設の増改築）	14.5	酪農制度・政策が今後不透明	10.4
〔 40代 〕				
1位	購入飼料価格が今後不透明	30.1		
2位	労働力不足（飼養管理）	26.1		
3位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	24.9		
4位	資金不足（乳牛更新・増頭）	22.9		
5位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.4		
6位	生乳価格・需給が今後不透明	20.7		
7位	酪農制度・政策が今後不透明	19.1		
8位	設備・機械不足（飼養頭数）	16.3		
9位	資金不足（土地・施設確保）	15.9		
10位	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	12.1		

生乳増産上の主な阻害要因を後継者の確保状況別に整理すると、表Ⅱ-1-10C、表Ⅱ-1-10Dのようになる。

これを北海道・都府県間で比較すると、後継者確保状況の如何を問わず、北海道では都府県よりも「設備・機械不足で飼養頭数が限界」、「資金不足で土地・施設の確保が困難」、「労働力不足（飼養管理が限界）」が上位にあげられており、「購入飼料価格が今後不透明」、「農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）」、「資金不足で乳牛更新・増頭が困難」が下位に止まっている。ただし、都府県の中でも『後継者不在』層、『後継者未定・その他』層にとっては、「労働力不足（飼養管理が限界）」は非常に大きな阻害要因の1つになっている。また、当然のことながら、『後継者不在』層で「経営者が高齢化」、「経営後継者難」が大きな増産阻害要因である点は北海道、都府県に共通している。

次に、生乳増産上の阻害要因を、『就農後継者確保』層、『就農予定後継者確保』層、『後継者未定・その他』層、『後継者不在』層と後継者確保の度合いに沿って見て行くと次のような特徴が指摘できる。

北海道においては、後継者確保の度合いが高い層で「設備・機械不足で飼養頭数が限界」、「資金不足（土地・施設の確保が困難）」、逆に後継者確保の度合いが低い層で「労働力不足（飼養管理が限界）」、「労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）」が上位にあげられている。

また、『後継者不在』層では、当然予想されることながら、「経営者が高齢化」、「経営後継者難」をあげる経営が非常に多い。

一方、都府県においては、『後継者不在』層を除く3層で「購入飼料価格が今後不透明」が筆頭にあげられている。

また、後継者確保の度合いが高い層で「酪農制度・政策が今後不透明」、「生乳価格・需給が今後不透明」、「農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）」、逆に後継者確保の度合いが低い層で「経営者が高齢化」、「経営後継者難」、「労働力不足（飼養管理が限界）」、「労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）」が上位にあげられている。

表Ⅱ - 1 - 1 OC 後継者決定状況別にみた生乳増産の阻害要因（北海道）

[単位：％]

〔 全 体 〕		〔 後継者なし 〕		
1位	労働力不足（飼養管理）	37.7	労働力不足（飼養管理）	45.7
2位	酪農制度・政策が今後不透明	28.0	経営者が高齢化	33.0
3位	設備・機械不足（飼養頭数）	27.3	経営後継者難	29.2
4位	資金不足（土地・施設確保）	21.3	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	24.2
5位	経営者が高齢化	20.4	設備・機械不足（飼養頭数）	22.9
6位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.5	酪農制度・政策が今後不透明	22.2
7位	購入飼料価格が今後不透明	18.4	資金不足（土地・施設確保）	14.4
8位	生乳価格・需給が今後不透明	16.3	購入飼料価格が今後不透明	13.3
9位	経営後継者難	15.7	現在の経営規模に満足	12.1
10位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	13.6	生乳価格・需給が今後不透明	12.0
〔 就農後継者あり 〕		〔 後継者未定・その他 〕		
1位	酪農制度・政策が今後不透明	35.3	労働力不足（飼養管理）	42.2
2位	設備・機械不足（飼養頭数）	32.9	酪農制度・政策が今後不透明	29.0
3位	資金不足（土地・施設確保）	28.0	設備・機械不足（飼養頭数）	27.3
4位	労働力不足（飼養管理）	26.1	資金不足（土地・施設確保）	22.0
5位	購入飼料価格が今後不透明	23.8	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.4
6位	生乳価格・需給が今後不透明	21.2	購入飼料価格が今後不透明	18.7
7位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	15.6	経営者が高齢化	17.5
8位	資金不足（乳牛更新・増頭）	14.3	生乳価格・需給が今後不透明	16.4
9位	施設用地が狭い（施設の増改築）	13.3	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	14.9
10位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	12.8	資金不足（乳牛更新・増頭）	13.4
〔 就農予定後継者あり 〕				
1位	設備・機械不足（飼養頭数）	30.8		
2位	資金不足（土地・施設確保）	29.6		
3位	労働力不足（飼養管理）	28.1		
4位	酪農制度・政策が今後不透明	26.4		
5位	購入飼料価格が今後不透明	22.9		
6位	資金不足（乳牛更新・増頭）	18.9		
7位	生乳価格・需給が今後不透明	18.4		
8位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	17.4		
9位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	16.4		
10位	施設用地が狭い（施設の増改築）	14.4		

表Ⅱ - 1 - 1 OD 後継者決定状況別にみた生乳増産の阻害要因（都府県）

[単位：％]

〔 全 体 〕		〔 後継者なし 〕		
1位	経営者が高齢化	30.1	経営者が高齢化	44.1
2位	購入飼料価格が今後不透明	29.9	労働力不足（飼養管理）	31.2
3位	労働力不足（飼養管理）	25.1	購入飼料価格が今後不透明	26.2
4位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.1	経営後継者難	25.5
5位	資金不足（乳牛更新・増頭）	19.7	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	24.4
6位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	18.1	資金不足（乳牛更新・増頭）	17.3
7位	生乳価格・需給が今後不透明	17.1	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	15.6
8位	酪農制度・政策が今後不透明	16.2	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	15.5
9位	経営後継者難	16.1	生乳価格・需給が今後不透明	13.4
10位	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	15.4	設備・機械不足（飼養頭数）	11.9
〔 就農後継者あり 〕		〔 後継者未定・その他 〕		
1位	購入飼料価格が今後不透明	37.5	購入飼料価格が今後不透明	30.3
2位	酪農制度・政策が今後不透明	23.6	労働力不足（飼養管理）	26.8
3位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	23.4	経営者が高齢化	25.2
4位	生乳価格・需給が今後不透明	23.1	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	23.5
5位	資金不足（乳牛更新・増頭）	21.7	資金不足（乳牛更新・増頭）	22.8
6位	設備・機械不足（飼養頭数）	18.5	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.0
7位	資金不足（土地・施設確保）	17.4	生乳価格・需給が今後不透明	18.9
8位	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	17.3	酪農制度・政策が今後不透明	17.8
9位	施設用地が狭い（施設の増改築）	15.9	設備・機械不足（飼養頭数）	14.8
10位	労働力不足（飼養管理）	14.5	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	13.7
〔 就農予定後継者あり 〕				
1位	購入飼料価格が今後不透明	33.5		
2位	酪農制度・政策が今後不透明	22.9		
3位	資金不足（乳牛更新・増頭）	22.6		
4位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.0		
5位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	20.3		
6位	生乳価格・需給が今後不透明	18.9		
7位	労働力不足（飼養管理）	18.6		
8位	経営者が高齢化	17.7		
9位	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	16.6		
10位	資金不足（土地・施設確保）	15.4		

生乳増産上の主な阻害要因を経営者経験年数別に整理すると、表Ⅱ - 1 - 10E、表Ⅱ - 1 - 10Fのようになる。

これを北海道・都府県間で比較すると、経営者経験年数の如何を問わず、北海道では都府県よりも「労働力不足（飼養管理が限界）」、「設備・機械不足で飼養頭数が限界」、「酪農制度・政策が今後不透明」、「資金不足で土地・施設の確保が困難」が上位にあげられており、「購入飼料価格が今後不透明」、「農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）」、「資金不足（乳牛更新・増頭が困難）」が下位に止まっている。ただし、都府県においても「労働力不足（飼養管理が限界）」は2位～3位にあげられ、非常に大きな阻害要因の1つになっている。また、北海道の『30年以上』層、都府県の『30年未満』及び『30年以上』層では「経営者が高齢化」が1位～2位にあげられている。

次に、生乳増産上の阻害要因を経営者経験年数別にみると、以下のような傾向がみられる。

北海道においては、経営者経験年数による差異がさほど小さくなく、『5年未満』層から『30年以上』層のほとんどの階層で、「労働力不足（飼養管理が限界）」、「設備・機械不足で飼養頭数が限界」、「酪農制度・政策が今後不透明」、「資金不足で土地・施設の確保が困難」、「労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）」が上位5位を占めている。

一方、都府県においては、ほとんどの経験年数階層で「購入飼料価格が今後不透明」が筆頭、「労働力不足（飼養管理が限界）」が2位または3位にあげられている。

ただし、都府県では北海道と異なって経営者経験年数による差異も認められ、概ね経験年数の少ない階層ほど「農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）」、「資金不足で乳牛更新・増頭が困難」が上位にあげられており、逆に経験年数の多い階層ほど「経営者が高齢化」が上位にあげられている。

表Ⅱ - 1 - 1 OE 経営者経験年数別にみた生乳増産の阻害要因（北海道）

[単位：%]

〔 全 体 〕		〔 20年未満 〕		
1位	労働力不足（飼養管理）	37.7	労働力不足（飼養管理）	44.7
2位	酪農制度・政策が今後不透明	28.0	酪農制度・政策が今後不透明	30.1
3位	設備・機械不足（飼養頭数）	27.3	設備・機械不足（飼養頭数）	28.0
4位	資金不足（土地・施設確保）	21.3	資金不足（土地・施設確保）	22.2
5位	経営者が高齢化	20.4	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.8
6位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.5	購入飼料価格が今後不透明	19.3
7位	購入飼料価格が今後不透明	18.4	生乳価格・需給が今後不透明	18.5
8位	生乳価格・需給が今後不透明	16.3	経営後継者難	14.4
9位	経営後継者難	15.7	資金不足（乳牛更新・増頭）	14.3
10位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	13.6	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	14.2
〔 5年未満 〕		〔 30年未満 〕		
1位	労働力不足（飼養管理）	39.8	労働力不足（飼養管理）	37.0
2位	設備・機械不足（飼養頭数）	32.5	酪農制度・政策が今後不透明	29.1
3位	酪農制度・政策が今後不透明	28.0	設備・機械不足（飼養頭数）	26.5
4位	資金不足（土地・施設確保）	28.0	資金不足（土地・施設確保）	20.6
5位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	20.2	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.7
6位	購入飼料価格が今後不透明	19.7	経営者が高齢化	19.3
7位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.0	経営後継者難	17.7
8位	生乳価格・需給が今後不透明	18.1	購入飼料価格が今後不透明	17.5
9位	現在の経営規模に満足	15.7	生乳価格・需給が今後不透明	15.1
10位	施設用地が狭い（施設の増改築）	13.0	資金不足（乳牛更新・増頭）	14.0
〔 10年未満 〕		〔 30年以上 〕		
1位	労働力不足（飼養管理）	41.6	労働力不足（飼養管理）	34.7
2位	設備・機械不足（飼養頭数）	27.0	経営者が高齢化	32.8
3位	酪農制度・政策が今後不透明	26.5	酪農制度・政策が今後不透明	27.9
4位	資金不足（土地・施設確保）	26.5	設備・機械不足（飼養頭数）	26.5
5位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	24.9	資金不足（土地・施設確保）	19.1
6位	購入飼料価格が今後不透明	19.1	経営後継者難	18.9
7位	生乳価格・需給が今後不透明	18.0	購入飼料価格が今後不透明	18.3
8位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	16.9	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	17.5
9位	資金不足（乳牛更新・増頭）	14.1	生乳価格・需給が今後不透明	15.4
10位	現在の経営規模に満足	13.9	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	11.9

表Ⅱ - 1 - 1 OF 経営者経験年数別にみた生乳増産の阻害要因（都府県）

[単位：％]

〔 全 体 〕		〔 20年未満 〕		
1位	経営者が高齢化	30.1	購入飼料価格が今後不透明	34.5
2位	購入飼料価格が今後不透明	29.9	労働力不足（飼養管理）	25.9
3位	労働力不足（飼養管理）	25.1	資金不足（乳牛更新・増頭）	23.4
4位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.1	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	23.0
5位	資金不足（乳牛更新・増頭）	19.7	生乳価格・需給が今後不透明	20.1
6位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	18.1	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.5
7位	生乳価格・需給が今後不透明	17.1	酪農制度・政策が今後不透明	18.3
8位	酪農制度・政策が今後不透明	16.2	設備・機械不足（飼養頭数）	16.3
9位	経営後継者難	16.1	経営者が高齢化	15.4
10位	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	15.4	資金不足（土地・施設確保）	14.3
〔 5年未満 〕		〔 30年未満 〕		
1位	購入飼料価格が今後不透明	32.0	購入飼料価格が今後不透明	30.6
2位	労働力不足（飼養管理）	26.8	経営者が高齢化	25.7
3位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	23.7	労働力不足（飼養管理）	25.3
4位	資金不足（乳牛更新・増頭）	23.3	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	23.1
5位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.8	資金不足（乳牛更新・増頭）	21.8
6位	生乳価格・需給が今後不透明	19.2	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.5
7位	設備・機械不足（飼養頭数）	18.7	酪農制度・政策が今後不透明	18.4
8位	資金不足（土地・施設確保）	17.8	生乳価格・需給が今後不透明	17.2
9位	酪農制度・政策が今後不透明	16.6	経営後継者難	17.1
10位	施設用地が狭い（施設の増改築）	13.9	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	16.3
〔 10年未満 〕		〔 30年以上 〕		
1位	購入飼料価格が今後不透明	32.3	経営者が高齢化	43.3
2位	資金不足（乳牛更新・増頭）	26.0	購入飼料価格が今後不透明	28.6
3位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	24.8	労働力不足（飼養管理）	25.9
4位	労働力不足（飼養管理）	24.6	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	20.4
5位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	23.4	経営後継者難	18.9
6位	生乳価格・需給が今後不透明	21.1	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	17.6
7位	資金不足（土地・施設確保）	17.2	資金不足（乳牛更新・増頭）	17.5
8位	酪農制度・政策が今後不透明	16.8	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	16.5
9位	経営者が高齢化	13.9	生乳価格・需給が今後不透明	16.0
10位	施設用地が狭い（施設の増改築）	13.6	酪農制度・政策が今後不透明	15.5
	設備・機械不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	13.6		

平成26年度における酪農経営の継続意向との関係から生乳増産上の阻害要因をみると、次のような点が特徴としてあげられる。

先ず、継続意向別の増産阻害要因を北海道・都府県間で比較してみると、継続意向の如何に係わらず、「労働力不足（飼養管理が限界）」、「酪農制度・政策が今後不透明」、「設備・機械不足で飼養頭数が限界」、「資金不足で土地・施設の確保が困難」は北海道、「経営者が高齢化」、「購入飼料価格が今後不透明」、「農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理が限界）」は都府県においてより上位にあげられている。

次に、酪農経営の継続意向状況別に増産阻害要因をみると、北海道では「酪農制度・政策が今後不透明」、「設備・機械不足で飼養頭数が限界」、「資金不足で土地・施設の確保が困難」は継続意向層、「経営者が高齢化」、「経営後継者難」は廃業意向層で高位にあげられている。

一方、都府県では、「購入飼料価格が今後不透明」、「資金不足で乳牛更新・増頭が困難」は継続意向層、「経営者が高齢化」、「経営後継者難」は廃業意向層においてより高位にあげられている。

表Ⅱ - 1 - 1 OG 平成26年度廃業意向状況別にみた生乳増産の阻害要因（北海道）

[単位：%]

〔 全 体 〕			〔 平成26年度中止予定あり 〕		
1位	労働力不足（飼養管理）	37.7	労働力不足（飼養管理）	39.0	
2位	酪農制度・政策が今後不透明	28.0	経営者が高齢化	36.2	
3位	設備・機械不足（飼養頭数）	27.3	経営後継者難	31.7	
4位	資金不足（土地・施設確保）	21.3	酪農制度・政策が今後不透明	28.0	
5位	経営者が高齢化	20.4	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.1	
6位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.5	資金不足（土地・施設確保）	16.3	
7位	購入飼料価格が今後不透明	18.4	購入飼料価格が今後不透明	15.4	
8位	生乳価格・需給が今後不透明	16.3	資金不足（乳牛更新・増頭）	15.4	
9位	経営後継者難	15.7	設備・機械不足（飼養頭数）	15.0	
10位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	13.6	生乳価格・需給が今後不透明	12.2	
〔 平成26年度中止予定なし 〕					
1位	労働力不足（飼養管理）	38.0			
2位	酪農制度・政策が今後不透明	28.2			
3位	設備・機械不足（飼養頭数）	28.1			
4位	資金不足（土地・施設確保）	21.7			
5位	経営者が高齢化	19.8			
6位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	19.7			
7位	購入飼料価格が今後不透明	18.7			
8位	生乳価格・需給が今後不透明	16.5			
9位	経営後継者難	15.1			
10位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	13.9			

表Ⅱ - 1 - 1 OH 平成26年度廃業意向状況別にみた生乳増産の阻害要因（都府県）

[単位：%]

〔 全 体 〕			〔 平成26年度中止予定あり 〕		
1位	経営者が高齢化	30.1	経営者が高齢化	46.7	
2位	購入飼料価格が今後不透明	29.9	経営後継者難	27.5	
3位	労働力不足（飼養管理）	25.1	購入飼料価格が今後不透明	25.1	
4位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.1	労働力不足（飼養管理）	25.1	
5位	資金不足（乳牛更新・増頭）	19.7	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	17.9	
6位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	18.1	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	17.1	
7位	生乳価格・需給が今後不透明	17.1	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	12.9	
8位	酪農制度・政策が今後不透明	16.2	資金不足（乳牛更新・増頭）	12.4	
9位	経営後継者難	16.1	生乳価格・需給が今後不透明	11.9	
10位	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	15.4	酪農制度・政策が今後不透明	8.9	
〔 平成26年度中止予定なし 〕					
1位	購入飼料価格が今後不透明	30.6			
2位	経営者が高齢化	29.6			
3位	労働力不足（飼養管理）	25.5			
4位	労働力不足（自給飼料生産・ふん尿処理）	21.7			
5位	資金不足（乳牛更新・増頭）	20.3			
6位	農地が狭い（自給飼料生産・ふん尿処理）	18.6			
7位	生乳価格・需給が今後不透明	17.7			
8位	酪農制度・政策が今後不透明	16.9			
9位	経営後継者難	15.7			
10位	出荷ペナルティ（細菌・体細胞数）	15.4			

## [2] 酪農経営継続上の期待事項

酪農経営を継続して行く上での期待事項を経営主年齢階層別に整理すると、表Ⅱ - 1 - 1 1A、表Ⅱ - 1 - 1 1Bのようになる。

これを北海道と都府県の間で照合すると次のような傾向が明らかになる。まず、北海道と都府県、経営主年齢の如何を問わず、「乳価の引上げ」が筆頭にあげられている。そして、この「乳価の引上げ」次いで期待する事項としては、北海道、都府県の多くの年齢階層から「生産資材の安定的供給」、「酪農振興のための補助事業の拡充」があげられている。ただし、都府県においては全ての年齢階層で「補助事業の拡充」より「生産資材の安定的供給」の方が重視されているのに対して、北海道では半数位の階層で「補助事業の拡充」の方が重視されており、全体的にみると「生産資材の安定的供給」への待望度は北海道より都府県の方がより強いといえることができる。その他、北海道では「作業労働支援の充実」、次いで「生乳需給の安定」、都府県では「生乳需給の安定」、次いで「作業労働支援の充実」又は「搾乳後継牛の安定的供給」を期待する年齢階層が多い。

次に、酪農継続上の期待事項を経営主年齢階層間で比較すると、次のような点が特徴的である。北海道においては、『10・20代』と『30代』以上の年齢階層との間の差異が特に大きい。『30代』以上の階層では、「作業労働支援の充実」、「生乳需給の安定」より「補助事業の拡充」、「生産資材の安定的供給」を重視する経営が多いのに対して、『10・20代』では「生産資材の安定的供給」、「補助事業の拡充」より「生乳需給の安定」、「作業労働支援の充実」、「生産需要の拡大」を重視する経営が多い。

一方、都府県では、酪農継続上の期待事項に関して、経営主年齢階層間にあまり大きな差異はみられない。『10・20代』～『70代以上』の全ての年齢階層で、「乳価の引上げ」に次いで「生産資材の安定的供給」が重視されており、以下「補助事業の拡充」、「生乳需給の安定」が3位～4位、「搾乳後継牛の安定的供給」又は「作業労働支援の充実」が5位で続いている。年齢階層間の差異を敢えてあげれば、『10・20代』では「生乳需給の安定」をあげる経営がやや多く、「作業労働支援の充実」をあげる経営がやや少ないこと、また『30代』、『40代』では「作業労働支援の充実」の充実を望む経営がやや多いこと位のものである。

表Ⅱ - 1 - 1 1 A 経営主年齢別にみた酪農経営継続上の期待事項（北海道）

[単位：％]

〔 全 体 〕		〔 50代 〕	
1位	乳価の引き上げ	72.1	乳価の引き上げ
2位	酪農振興補助事業の拡充	39.8	酪農振興補助事業の拡充
3位	生産資材の安定的供給	39.3	生産資材の安定的供給
4位	作業労働支援の充実	30.1	作業労働支援の充実
5位	生乳需給の安定	23.0	生乳需給の安定
6位	後継者の育成・確保対策	11.9	後継者の育成・確保対策
7位	生産需要の拡大	11.2	生産需要の拡大
8位	搾乳後継牛の安定的供給	10.0	搾乳後継牛の安定的供給
9位	乳製品輸入量の抑制	9.2	乳製品輸入量の抑制
10位	土地の売買や賃借の斡旋	7.6	土地の売買や賃借の斡旋
〔 10・20代 〕		〔 60代 〕	
1位	乳価の引き上げ	56.6	乳価の引き上げ
2位	生乳需給の安定	37.7	生産資材の安定的供給
3位	作業労働支援の充実	30.2	酪農振興補助事業の拡充
4位	生産需要の拡大	28.3	作業労働支援の充実
5位	生産資材の安定的供給	26.4	生乳需給の安定
6位	酪農振興補助事業の拡充	22.6	後継者の育成・確保対策
7位	生産技術指導の充実	18.9	乳製品輸入量の抑制
8位	搾乳後継牛の安定的供給	15.1	搾乳後継牛の安定的供給
9位	土地の売買や賃借の斡旋	13.2	生産需要の拡大
10位	乳製品輸入量の抑制	11.3	土地の売買や賃借の斡旋
〔 30代 〕		〔 70代以上 〕	
1位	乳価の引き上げ	75.3	乳価の引き上げ
2位	生産資材の安定的供給	37.2	酪農振興補助事業の拡充
3位	酪農振興補助事業の拡充	36.4	生産資材の安定的供給
4位	作業労働支援の充実	32.3	作業労働支援の充実
5位	生乳需給の安定	27.3	生乳需給の安定
6位	生産需要の拡大	15.6	後継者の育成・確保対策
7位	土地の売買や賃借の斡旋	9.9	生産需要の拡大
8位	乳製品輸入量の抑制	9.3	土地の売買や賃借の斡旋
9位	搾乳後継牛の安定的供給	8.0	乳製品輸入量の抑制
10位	経営管理指導の充実	7.0	生産技術指導の充実
			経営管理指導の充実
〔 40代 〕			
1位	乳価の引き上げ	77.9	
2位	酪農振興補助事業の拡充	42.2	
3位	生産資材の安定的供給	38.9	
4位	作業労働支援の充実	32.3	
5位	生乳需給の安定	23.7	
6位	生産需要の拡大	12.0	
7位	搾乳後継牛の安定的供給	9.5	
8位	後継者の育成・確保対策	8.6	
9位	乳製品輸入量の抑制	8.2	
10位	土地の売買や賃借の斡旋	6.4	

表Ⅱ - 1 - 1 1 B 経営主年齢別にみた酪農経営継続上の期待事項（都府県）

[単位：％]

〔 全 体 〕		〔 50代 〕		
1位	乳価の引き上げ	79.8	乳価の引き上げ	82.9
2位	生産資材の安定的供給	43.4	生産資材の安定的供給	45.8
3位	酪農振興補助事業の拡充	32.2	酪農振興補助事業の拡充	34.7
4位	生乳需給の安定	21.8	生乳需給の安定	21.0
5位	搾乳後継牛の安定的供給	16.0	搾乳後継牛の安定的供給	16.9
6位	作業労働支援の充実	15.2	作業労働支援の充実	15.4
7位	乳製品輸入量の抑制	9.7	乳製品輸入量の抑制	8.8
8位	生産需要の拡大	8.1	生産需要の拡大	7.7
9位	後継者の育成・確保対策	6.8	後継者の育成・確保対策	6.6
10位	土地の売買や賃借の斡旋	4.1	土地の売買や賃借の斡旋	4.4
〔 10・20代 〕		〔 60代 〕		
1位	乳価の引き上げ	76.8	乳価の引き上げ	78.8
2位	生産資材の安定的供給	48.2	生産資材の安定的供給	44.0
3位	生乳需給の安定	39.3	酪農振興補助事業の拡充	31.7
4位	酪農振興補助事業の拡充	35.7	生乳需給の安定	21.4
5位	搾乳後継牛の安定的供給	10.7	搾乳後継牛の安定的供給	16.9
6位	土地の売買や賃借の斡旋	10.7	作業労働支援の充実	14.5
7位	作業労働支援の充実	8.9	乳製品輸入量の抑制	11.0
8位	後継者の育成・確保対策	7.1	生産需要の拡大	7.6
9位	乳製品輸入量の抑制	5.4	後継者の育成・確保対策	7.1
10位	生産需要の拡大	5.4	土地の売買や賃借の斡旋	3.4
	6次産業化の支援	5.4		
	経営管理指導の充実	5.4		
〔 30代 〕		〔 70代以上 〕		
1位	乳価の引き上げ	81.3	乳価の引き上げ	74.9
2位	生産資材の安定的供給	44.2	生産資材の安定的供給	38.3
3位	酪農振興補助事業の拡充	36.5	酪農振興補助事業の拡充	25.0
4位	生乳需給の安定	25.1	生乳需給の安定	19.8
5位	作業労働支援の充実	21.6	搾乳後継牛の安定的供給	17.4
6位	生産需要の拡大	11.6	作業労働支援の充実	10.8
7位	搾乳後継牛の安定的供給	11.3	乳製品輸入量の抑制	10.7
8位	土地の売買や賃借の斡旋	9.5	後継者の育成・確保対策	8.8
9位	乳製品輸入量の抑制	7.3	生産需要の拡大	8.3
10位	6次産業化の支援	6.0	生産技術指導の充実	2.9
〔 40代 〕				
1位	乳価の引き上げ	82.5		
2位	生産資材の安定的供給	42.4		
3位	酪農振興補助事業の拡充	33.6		
4位	生乳需給の安定	24.8		
5位	作業労働支援の充実	19.1		
6位	搾乳後継牛の安定的供給	12.7		
7位	生産需要の拡大	9.4		
8位	乳製品輸入量の抑制	8.6		
9位	後継者の育成・確保対策	5.5		
10位	土地の売買や賃借の斡旋	4.6		

酪農経営継続上の期待事項を後継者の確保状況別に列挙すると、表Ⅱ - 1 - 1 1 C、表Ⅱ - 1 - 1 1 D のようになる。

後継者確保状況別の期待事項を、北海道・都府県間で照合すると、次のような特徴がみられる。まず、北海道、都府県のいずれにおいても、全ての層で「乳価の引上げ」が筆頭にあげられており、これに「生産資材の安定的供給」、「酪農振興のための補助事業の拡充」が2位～3位で続いている。ただし、北海道では大部分の層で「補助事業の拡充」の方が「生産資材の安定的供給」より上位にあげられているのに対して、都府県では大部分の層で「生産資材の安定的供給」の方が「補助事業の拡充」より上位にあげられている。

また、北海道では、後継者の確保状況に係わりなく、上記の3事項に次いで「作業労働支援の充実」が多くあげられているのに対して、都府県では全ての層で「生乳需給の安定」が多くあげられており、「作業労働支援の充実」はやや下位におかれている。

次に、後継者確保状況の違いによる期待事項の差異に関しては、北海道、都府県のいずれについても特筆すべき事柄は見当たらない。北海道では、後継者確保状況に係わりなく、「乳価の引上げ」、「補助事業の拡充」、「生産資材の安定的供給」、「作業労働支援の充実」、「生乳需給の安定」が上位5位を占めており、都府県では全ての層で「乳価の引上げ」、「生産資材の安定的供給」、「補助事業の拡充」、「生乳需給の安定」が上位4位を占めている。

敢えて後継者確保状況の違いによる期待事項の差異をあげるとすれば次のとおりである。まず、北海道では、多くの層で「補助事業の拡充」が「生産資材の安定的供給」より上位におかれている中で、『後継者不在』層では「生産資材の安定的供給」の方が上位にあげられている。一方、都府県では、多くの層で「生産資材の安定的供給」が「補助事業の拡充」より上位におかれている中で、『就農予定後継者確保』層では「補助事業の拡充」の方が上位にあげられている。

表Ⅱ - 1 - 11C 後継者決定状況別にみた酪農経営継続上の期待事項（北海道）

[単位：%]

〔 全 体 〕		〔 後継者なし 〕	
1位	乳価の引き上げ	72.1	乳価の引き上げ
2位	酪農振興補助事業の拡充	39.8	生産資材の安定的供給
3位	生産資材の安定的供給	39.3	酪農振興補助事業の拡充
4位	作業労働支援の充実	30.1	作業労働支援の充実
5位	生乳需給の安定	23.0	生乳需給の安定
6位	後継者の育成・確保対策	11.9	後継者の育成・確保対策
7位	生産需要の拡大	11.2	生産需要の拡大
8位	搾乳後継牛の安定的供給	10.0	搾乳後継牛の安定的供給
9位	乳製品輸入量の抑制	9.2	乳製品輸入量の抑制
10位	土地の売買や賃借の斡旋	7.6	土地の売買や賃借の斡旋
〔 就農後継者あり 〕		〔 後継者未定・その他 〕	
1位	乳価の引き上げ	72.8	乳価の引き上げ
2位	酪農振興補助事業の拡充	46.6	酪農振興補助事業の拡充
3位	生産資材の安定的供給	43.0	生産資材の安定的供給
4位	作業労働支援の充実	26.2	作業労働支援の充実
5位	生乳需給の安定	22.9	生乳需給の安定
6位	生産需要の拡大	10.5	生産需要の拡大
7位	後継者の育成・確保対策	9.8	後継者の育成・確保対策
8位	搾乳後継牛の安定的供給	9.6	乳製品輸入量の抑制
9位	土地の売買や賃借の斡旋	9.2	搾乳後継牛の安定的供給
10位	乳製品輸入量の抑制	8.6	土地の売買や賃借の斡旋
〔 就農予定後継者あり 〕			
1位	乳価の引き上げ	67.7	
2位	酪農振興補助事業の拡充	46.0	
3位	生産資材の安定的供給	39.3	
4位	作業労働支援の充実	21.9	
5位	生乳需給の安定	19.7	
6位	搾乳後継牛の安定的供給	17.7	
7位	後継者の育成・確保対策	16.9	
8位	生産需要の拡大	11.4	
9位	土地の売買や賃借の斡旋	9.5	
10位	乳製品輸入量の抑制	7.5	

表Ⅱ - 1 - 1 1 D 後継者決定状況別にみた酪農経営継続上の期待事項（都府県）

[単位：％]

〔 全 体 〕		〔 後継者なし 〕		
1位	乳価の引き上げ	79.8	乳価の引き上げ	80.8
2位	生産資材の安定的供給	43.4	生産資材の安定的供給	43.9
3位	酪農振興補助事業の実施	32.2	酪農振興補助事業の実施	26.1
4位	生乳需給の安定	21.8	生乳需給の安定	21.2
5位	搾乳後継牛の安定的供給	16.0	搾乳後継牛の安定的供給	17.1
6位	作業労働支援の充実	15.2	作業労働支援の充実	16.0
7位	乳製品輸入量の抑制	9.7	乳製品輸入量の抑制	10.1
8位	生産需要の拡大	8.1	生産需要の拡大	7.7
9位	後継者の育成・確保対策	6.8	後継者の育成・確保対策	5.1
10位	土地の売買や賃借の斡旋	4.1	生産技術指導の充実	3.1
〔 就農後継者あり 〕		〔 後継者未定・その他 〕		
1位	乳価の引き上げ	82.3	乳価の引き上げ	80.3
2位	生産資材の安定的供給	44.3	生産資材の安定的供給	45.4
3位	酪農振興補助事業の実施	42.5	酪農振興補助事業の実施	33.8
4位	生乳需給の安定	23.2	生乳需給の安定	22.4
5位	搾乳後継牛の安定的供給	16.2	作業労働支援の充実	17.4
6位	作業労働支援の充実	13.0	搾乳後継牛の安定的供給	14.6
7位	乳製品輸入量の抑制	10.5	乳製品輸入量の抑制	9.0
8位	生産需要の拡大	9.2	生産需要の拡大	8.2
9位	土地の売買や賃借の斡旋	7.1	後継者の育成・確保対策	8.1
10位	後継者の育成・確保対策	6.8	土地の売買や賃借の斡旋	4.3
〔 就農予定後継者あり 〕				
1位	乳価の引き上げ	80.0		
2位	酪農振興補助事業の実施	41.0		
3位	生産資材の安定的供給	39.4		
4位	生乳需給の安定	21.7		
5位	後継者の育成・確保対策	15.8		
6位	搾乳後継牛の安定的供給	15.2		
7位	作業労働支援の充実	13.1		
8位	生産需要の拡大	9.3		
9位	乳製品輸入量の抑制	8.6		
10位	土地の売買や賃借の斡旋	6.3		

経営者経験年数別に酪農経営継続上の期待事項を整理すると、表Ⅱ - 1 - 1 1 E、表Ⅱ - 1 - 1 1 F のようになる。

経営者経験年数別の期待事項を、北海道・都府県間で比較すると、北海道では全階層で「作業労働支援の充実」が「生乳需給の安定」より上位にあげられているのに対して、都府県では逆に全階層で「生乳需給の安定」が「作業労働支援の充実」より上位にあげられている点がやや異なっている。

次に、北海道・都府県別に経営者の経験年数と経営継続上の期待事項との関係を見ると、以下のような特徴を指摘することができる。北海道においては、経験年数の如何に係わらず、「乳価の引上げ」を筆頭として、「補助事業の拡充」、「生産資材の安定的供給」、「作業労働支援の充実」、「生乳需給の安定」が上位5位を占めており、経営者の経験年数による期待事項の差異はあまり大きくない。敢えて違いをあげれば、経験年数『5年未満』～『10年未満』層では「生乳需要の拡大」、『30年未満』～『30年以上』層では「後継者の育成・確保対策」を期待する経営がやや多いという程度である。

同様に、都府県でも、経験年数の如何を問わず、期待度の上位4位は「乳価の引上げ」、「生産資材の安定的供給」、「補助事業の拡充」、「生乳需給の安定」順となっており、経験年数による期待事項の差異はほとんどみられない。敢えて違いをあげれば、経験年数『5年未満』～『10年未満』層では「作業労働支援の充実」、『30年以上』層では「搾乳後継牛の安定的供給」をあげる経営が若干ながら多いという程度である。

表Ⅱ - 1 - 1 1 E 経営者経験年数別にみた酪農経営継続上の期待事項（北海道）

[単位：%]

〔 全 体 〕		〔 20年未満 〕		
1位	乳価の引き上げ	72.1	乳価の引き上げ	76.9
2位	酪農振興補助事業の拡充	39.8	酪農振興補助事業の拡充	42.2
3位	生産資材の安定的供給	39.3	生産資材の安定的供給	40.1
4位	作業労働支援の充実	30.1	作業労働支援の充実	31.5
5位	生乳需給の安定	23.0	生乳需給の安定	24.1
6位	後継者の育成・確保対策	11.9	生産需要の拡大	11.7
7位	生産需要の拡大	11.2	搾乳後継牛の安定的供給	11.0
8位	搾乳後継牛の安定的供給	10.0	後継者の育成・確保対策	10.6
9位	乳製品輸入量の抑制	9.2	乳製品輸入量の抑制	9.3
10位	土地の売買や賃借の斡旋	7.6	土地の売買や賃借の斡旋	7.8
〔 5年未満 〕		〔 30年未満 〕		
1位	乳価の引き上げ	73.9	乳価の引き上げ	73.8
2位	生産資材の安定的供給	38.1	酪農振興補助事業の拡充	41.5
3位	酪農振興補助事業の拡充	36.7	生産資材の安定的供給	40.5
4位	作業労働支援の充実	32.5	作業労働支援の充実	29.1
5位	生乳需給の安定	26.5	生乳需給の安定	21.7
6位	生産需要の拡大	16.0	後継者の育成・確保対策	12.2
7位	乳製品輸入量の抑制	9.8	生産需要の拡大	11.5
8位	土地の売買や賃借の斡旋	9.3	搾乳後継牛の安定的供給	10.2
9位	搾乳後継牛の安定的供給	8.3	乳製品輸入量の抑制	9.2
10位	後継者の育成・確保対策	8.1	土地の売買や賃借の斡旋	7.3
〔 10年未満 〕		〔 30年以上 〕		
1位	乳価の引き上げ	76.0	乳価の引き上げ	70.7
2位	生産資材の安定的供給	38.6	酪農振興補助事業の拡充	40.8
3位	酪農振興補助事業の拡充	38.6	生産資材の安定的供給	40.0
4位	作業労働支援の充実	32.8	作業労働支援の充実	30.4
5位	生乳需給の安定	28.5	生乳需給の安定	22.2
6位	生産需要の拡大	12.6	後継者の育成・確保対策	15.0
7位	後継者の育成・確保対策	9.9	搾乳後継牛の安定的供給	10.7
8位	土地の売買や賃借の斡旋	9.2	乳製品輸入量の抑制	10.0
9位	乳製品輸入量の抑制	8.5	生産需要の拡大	9.3
10位	搾乳後継牛の安定的供給	6.8	土地の売買や賃借の斡旋	7.5

表Ⅱ - 1 - 1 1 F 経営者経験年数別にみた酪農経営継続上の期待事項（都府県）

[単位：％]

〔 全 体 〕		〔 20年未満 〕		
1位	乳価の引き上げ	79.8	乳価の引き上げ	82.6
2位	生産資材の安定的供給	43.4	生産資材の安定的供給	46.5
3位	酪農振興補助事業の実施	32.2	酪農振興補助事業の実施	36.6
4位	生乳需給の安定	21.8	生乳需給の安定	23.6
5位	搾乳後継牛の安定的供給	16.0	作業労働支援の充実	16.4
6位	作業労働支援の充実	15.2	搾乳後継牛の安定的供給	15.3
7位	乳製品輸入量の抑制	9.7	生産需要の拡大	9.0
8位	生産需要の拡大	8.1	乳製品輸入量の抑制	8.9
9位	後継者の育成・確保対策	6.8	後継者の育成・確保対策	6.6
10位	土地の売買や賃借の斡旋	4.1	土地の売買や賃借の斡旋	4.9
〔 5年未満 〕		〔 30年未満 〕		
1位	乳価の引き上げ	81.5	乳価の引き上げ	84.7
2位	生産資材の安定的供給	46.1	生産資材の安定的供給	45.0
3位	酪農振興補助事業の実施	35.5	酪農振興補助事業の実施	35.2
4位	生乳需給の安定	26.1	生乳需給の安定	21.3
5位	作業労働支援の充実	19.9	搾乳後継牛の安定的供給	16.6
6位	搾乳後継牛の安定的供給	14.5	作業労働支援の充実	16.2
7位	生産需要の拡大	8.8	乳製品輸入量の抑制	10.7
8位	乳製品輸入量の抑制	7.7	生産需要の拡大	6.9
9位	土地の売買や賃借の斡旋	6.9	後継者の育成・確保対策	6.4
10位	後継者の育成・確保対策	5.5	土地の売買や賃借の斡旋	4.5
〔 10年未満 〕		〔 30年以上 〕		
1位	乳価の引き上げ	82.5	乳価の引き上げ	81.1
2位	生産資材の安定的供給	45.5	生産資材の安定的供給	44.2
3位	酪農振興補助事業の実施	33.7	酪農振興補助事業の実施	31.4
4位	生乳需給の安定	23.6	生乳需給の安定	21.5
5位	作業労働支援の充実	19.8	搾乳後継牛の安定的供給	17.4
6位	搾乳後継牛の安定的供給	15.1	作業労働支援の充実	14.1
7位	生産需要の拡大	10.9	乳製品輸入量の抑制	10.8
8位	乳製品輸入量の抑制	8.2	生産需要の拡大	8.4
9位	後継者の育成・確保対策	6.3	後継者の育成・確保対策	7.5
10位	土地の売買や賃借の斡旋	6.0	生産技術指導の充実	3.4

なお、酪農経営の継続意向状況による期待事項の内容的な差異はほとんどみられない。

表Ⅱ - 1 - 1 1 G 平成26年度廃業意向状況別にみた酪農経営継続上の期待事項（北海道）

[単位：％]

〔 全 体 〕		〔 平成26年度中止予定あり 〕		
1位	乳価の引き上げ	79.3	乳価の引き上げ	56.9
2位	生産資材の安定的供給	43.2	酪農振興補助事業の拡充	32.5
3位	酪農振興補助事業の拡充	32.1	生産資材の安定的供給	24.0
4位	生乳需給の安定	21.6	生乳需給の安定	23.2
5位	搾乳後継牛の安定的供給	15.8	作業労働支援の充実	20.3
6位	作業労働支援の充実	15.1	後継者の育成・確保対策	16.3
7位	乳製品輸入量の抑制	9.7	搾乳後継牛の安定的供給	11.4
8位	生産需要の拡大	8.0	生産需要の拡大	11.0
9位	後継者の育成・確保対策	6.8	乳製品輸入量の抑制	9.8
10位	土地の売買や賃借の斡旋	4.1	土地の売買や賃借の斡旋	7.7
〔 平成26年度中止予定なし 〕				
1位	乳価の引き上げ	73.2		
2位	酪農振興補助事業の拡充	40.3		
3位	生産資材の安定的供給	40.2		
4位	作業労働支援の充実	30.8		
5位	生乳需給の安定	23.2		
6位	後継者の育成・確保対策	11.7		
7位	生産需要の拡大	11.3		
8位	搾乳後継牛の安定的供給	10.0		
9位	乳製品輸入量の抑制	9.3		
10位	土地の売買や賃借の斡旋	7.7		

表Ⅱ - 1 - 1 H 平成26年度廃業意向状況別にみた酪農経営継続上の期待事項（都府県）

[単位：%]

[ 全 体 ]			[ 平成26年度中止予定あり ]		
1位	乳価の引き上げ	79.8	乳価の引き上げ		65.3
2位	生産資材の安定的供給	43.4	生産資材の安定的供給		27.8
3位	酪農振興補助事業の実施	32.2	酪農振興補助事業の実施		16.9
4位	生乳需給の安定	21.8	生乳需給の安定		14.4
5位	搾乳後継牛の安定的供給	16.0	搾乳後継牛の安定的供給		12.4
6位	作業労働支援の充実	15.2	作業労働支援の充実		11.2
7位	乳製品輸入量の抑制	9.7	後継者の育成・確保対策		10.4
8位	生産需要の拡大	8.1	乳製品輸入量の抑制		5.7
9位	後継者の育成・確保対策	6.8	生産需要の拡大		4.7
10位	土地の売買や賃借の斡旋	4.1	土地の売買や賃借の斡旋		2.5
[ 平成26年度中止予定なし ]					
1位	乳価の引き上げ	81.7			
2位	生産資材の安定的供給	44.9			
3位	酪農振興補助事業の実施	33.4			
4位	生乳需給の安定	22.4			
5位	搾乳後継牛の安定的供給	16.4			
6位	作業労働支援の充実	15.7			
7位	乳製品輸入量の抑制	10.1			
8位	生産需要の拡大	8.4			
9位	後継者の育成・確保対策	6.7			
10位	土地の売買や賃借の斡旋	4.2			

## 2 生乳生産構造の変容に関する分析

以下では、全国9地域の酪農家を（1）「経営主年齢と経営後継者の確保状況」、（2）「経営主年齢と生乳出荷規模」、（3）「経産牛飼養規模と経産牛1頭当たり出荷乳量」の3視点から類型化し、それぞれの視点から9地域別に生乳生産構造の現状と変容について分析する。

なお、生乳生産構造の現状と変容を捉える指標としては、①酪農家戸数、②経産牛飼養頭数、③年間出荷乳量、④飼料作物作付面積、⑤継続意向酪農家数<sup>(注)</sup>に関する各類型のシェアを取り上げた。

また、構造変容の様相は、今回と前回の悉皆調査（「平成26年度酪農全国基礎調査」、「平成19年度酪農全国基礎調査」）の結果を比較することにより把握することとした。

(注)「継続意向酪農家」に関する正確な定義は、平成19年度及び26年度調査における質問形式の違いにより若干異なっている。即ち、平成19年度調査に基づく定義では『5年後も「現状規模で酪農を継続」、「規模拡大して酪農を継続」、「規模縮小して酪農を継続」』のいずれかに該当する経営、平成26年度調査に基づく定義では『「平成26年度に搾乳中止予定」、「平成27～28年度に搾乳中止予定」』のいずれにも該当しない経営となっている。

## (1) 「経営主年齢×後継者確保状況」に基づく類型化と生産構造の変容分析

以下の分析で取り上げる経営類型化の基準と各類型の定義は、表Ⅱ-2-1に示したとおりである。

表Ⅱ-2-1 「経営主年齢と経営後継者の確保状況」に基づく類型化の基準と定義

		経営後継者の確保状況	
		後継者既定	後継者未定・不在
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型ⅠA】</b> ①経営主年齢：50歳未満 ②後継者：既に決まっている ※経営主は若・壮齢で、後継者も確保	<b>【類型ⅠB】</b> ①経営主年齢：50歳未満 ②後継者：未定または不在 ※経営主は若・壮齢で、後継者は未確保
	50歳以上	<b>【類型ⅡA】</b> ①経営主年齢：50歳以上 ②後継者：既に決まっている ※経営主は熟・高齢で、後継者は確保	<b>【類型ⅡB】</b> ①経営主年齢：50歳以上 ②後継者：未定または不在 ※経営主は熟・高齢で、後継者も未確保

この定義に従って、地域別に生乳生産の構造とその変容に関する指標を整理すると「表Ⅱ-2-2A」～「表Ⅱ-2-2J」のようになる。

### [1] 北海道

表Ⅱ-2-2Aは、北海道について、経営類型別に主要指標のシェアとその変化状況を表示したものである。同表によれば、北海道における生乳生産構造の現状と変容について、次のような点を指摘することができる。

- 北海道においては、【類型ⅠB】（経営主は若・壮齢／後継者未確保：以下「若・壮齢／未確保」と略す）、【類型ⅡA】（経営主は熟・高齢／後継者確保：以下「熟・高齢／確保」と略す）、【類型ⅡB】（経営主は熟・高齢／後継者未確保：以下「熟・高齢／未確保」と略す）のウェイトがそれぞれ3割前後でほぼ拮抗しており、【類型ⅠA】（経営主は若・壮齢／後継者確保：以下「若・壮齢／確保」と略す）のウェイトは1割未満と小さい。
- 平成19年度～26年度にかけての変化状況をみると、【類型ⅠA】（若・壮齢／確保）のウェイトダウンと【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）のウェイトアップが目立つ。
- 【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）では、「①酪農家戸数」のシェアよりも「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアの方が大きく上昇しており、規模拡大に向かう度合が他の類型よりも強かったことを示している。一方、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）では、「①酪農家戸数」のシェアは変化していないのに、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアが低下していて、規模縮小に向かう度合が他の類型よりも強かったことを示している。

表Ⅱ - 2 - 2A 経営主年齢・後継者確保状況別類型の主要シェアの変化（北海道）

集計酪農家戸数=3,398戸、5,588戸

		経営後継者の確保状況	
		後継者既定	後継者未定・不在
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型ⅠA】</b>	<b>【類型ⅠB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
	①酪農家戸数 : 6.7%→3.4%(△3.3P)	①酪農家戸数 : 27.2%→31.7%( 4.5P)	
	②経産牛頭数 : 8.0%→4.3%(△3.7P)	②経産牛頭数 : 26.9%→32.1%( 5.2P)	
		③出荷乳量 : 8.0%→4.4%(△3.6P)	③出荷乳量 : 26.6%→32.0%( 5.4P)
		④飼料作面積 : 7.2%→3.7%(△3.5P)	④飼料作面積 : 28.0%→31.0%( 3.0P)
		⑤継続意向農家 : 7.3%→3.5%(△3.8P)	⑤継続意向農家 : 27.9%→33.0%( 5.1P)
	50歳以上	<b>【類型ⅡA】</b>	<b>【類型ⅡB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 32.5%→31.2%(△1.3P)	①酪農家戸数 : 33.7%→33.7%( 0.0P)
		②経産牛頭数 : 37.4%→38.1%( 0.7P)	②経産牛頭数 : 27.7%→25.5%(△2.2P)
		③出荷乳量 : 38.3%→39.3%( 1.0P)	③出荷乳量 : 27.1%→24.3%(△2.8P)
		④飼料作面積 : 35.7%→36.7%( 1.0P)	④飼料作面積 : 29.1%→28.6%(△0.5P)
		⑤継続意向農家 : 36.2%→32.6%(△3.6P)	⑤継続意向農家 : 28.6%→31.0%( 2.4P)

## 〔2〕都府県

都府県全体について、経営類型別に主要指標のシェアとその変化状況を表示すると表Ⅱ - 2 - 2Bのようになる。同表によって、都府県における生乳生産構造の現状と変容の状況を見ると、次のような傾向を指摘することができる。

- 都府県における各類型のウェイトを「①酪農家戸数」に基づいてみると、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）が過半数を占めて断然高く、以下【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）、【類型ⅠA】（若・壮齢／確保）と続いている。

しかし、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」でみると、1戸当たり生産・出荷規模の大きさを反映して、【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトがそれぞれ4割弱を占めて拮抗しており、次いで【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）が約2割で続いている。

【類型ⅠA】（若・壮齢／確保）のウェイトは、戸数でも生産・出荷規模でも、2～4%と極めて小さい。

- 平成19年度～26年度にかけての変化状況を見ると、酪農家戸数では【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）のウェイトアップと【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトダウン、また生産・出荷規模では【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）及び【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）のウェイトアップと【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトダウンが目立つ。

- 【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）では、「①酪農家戸数」のシェアより「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアの方が大きく上昇しており、規模拡大に向かう度合が他の類型より強かったといえる。一方、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）では、「①酪農家戸数」のシェアより「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアの方が大きく低下しており、規模縮小に向かう度合が他の類型より強かったといえる。

表Ⅱ - 2 - 2B 経営主年齢・後継者確保状況別類型の主要シェアの変化（都府県）

集計酪農家戸数=10,851戸、10,021戸

		経営後継者の確保状況	
		後継者既定	後継者未定・不在
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型ⅠA】</b>	<b>【類型ⅠB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
	①酪農家戸数 : 2.4%→2.2%(△0.2P)	①酪農家戸数 : 16.9%→17.0%( 0.1P)	
	②経産牛頭数 : 3.6%→4.0%( 0.4P)	②経産牛頭数 : 19.5%→21.7%( 2.2P)	
		③出荷乳量 : 3.6%→4.1%( 0.5P)	③出荷乳量 : 20.0%→21.9%( 1.9P)
		④飼料作面積 : 3.8%→4.1%( 0.3P)	④飼料作面積 : 19.3%→21.6%( 2.3P)
		⑤継続意向農家 : 3.0%→2.3%(△0.7P)	⑤継続意向農家 : 18.2%→18.2%( 0.0P)
	50歳以上	<b>【類型ⅡA】</b>	<b>【類型ⅡB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 24.1%→26.7%( 2.6P)	①酪農家戸数 : 56.6%→54.2%(△2.4P)
		②経産牛頭数 : 35.5%→37.7%( 2.2P)	②経産牛頭数 : 41.3%→36.6%(△4.7P)
		③出荷乳量 : 36.5%→38.5%( 2.0P)	③出荷乳量 : 39.9%→35.5%(△4.4P)
		④飼料作面積 : 36.5%→36.1%(△0.4P)	④飼料作面積 : 40.4%→38.2%(△2.2P)
		⑤継続意向農家 : 31.0%→29.0%(△2.0P)	⑤継続意向農家 : 47.8%→50.5%( 2.7P)

### [3] 東北

表Ⅱ - 2 - 2Cによって、東北における生乳生産構造の現状と変容の状況をみると、次のような傾向を指摘することができる。

- 東北における各類型間のウェイト較差は都府県全体でみた場合と比較的類似している。先ず、「①酪農家戸数」に基づいてみると、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）が過半数を占めて断然高く、以下【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）が3割弱、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）が2割弱で続いている。

ただし、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」でみると、酪農家1戸当たり生産・出荷規模の大きさを反映して、【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトがそれぞれ4割前後を占めて拮抗しており、次いで【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）が2割弱で続いている。

【類型ⅠA】（若・壮齢／確保）のウェイトは、戸数でも生産・出荷規模でも、2～4%と極めて小さい。

- 平成19年度～26年度にかけての変化状況をみると、酪農家戸数に関するウェイトはどの類型もあまり大きく変化していない。

ただし、生産・出荷規模でみると、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）のウェイトアップと【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトダウンが目を引く。

また、これらの点を勘案すると、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）では1戸当たり生乳生産・出荷規模が拡大に向かう度合、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）ではそれが縮小に向かう度合が他の類型よりも強かったことがわかる。

- また、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）で「⑤継続意向農家」のウェイトが大きく高まっており、今後は特にこの層のウェイトが上昇して行くものと推測される。

表Ⅱ - 2 - 2C 経営主年齢・後継者確保状況別類型の主要シェアの変化（東北）

集計酪農家戸数=2,253戸、2,433戸

		経営後継者の確保状況	
		後継者既定	後継者未定・不在
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型ⅠA】</b>	<b>【類型ⅠB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 2.8%→2.2%(△0.6P)	①酪農家戸数 : 15.7%→16.2%( 0.5P)
		②経産牛頭数 : 4.5%→3.2%(△1.3P)	②経産牛頭数 : 16.5%→19.3%( 2.8P)
		③出荷乳量 : 4.6%→3.1%(△1.5P)	③出荷乳量 : 16.5%→19.4%( 2.9P)
	④飼料作面積 : 3.8%→3.3%(△0.5P)	④飼料作面積 : 18.4%→17.0%(△1.4P)	
	⑤継続意向農家 : 3.6%→2.4%(△1.2P)	⑤継続意向農家 : 16.4%→16.8%( 0.4P)	
	50歳以上	<b>【類型ⅡA】</b>	<b>【類型ⅡB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 25.8%→27.0%( 1.2P)	①酪農家戸数 : 55.7%→54.5%(△1.2P)
②経産牛頭数 : 37.2%→38.5%( 1.3P)		②経産牛頭数 : 41.8%→39.0%(△2.8P)	
③出荷乳量 : 38.3%→40.0%( 1.7P)		③出荷乳量 : 40.6%→37.5%(△3.1P)	
④飼料作面積 : 37.7%→39.5%( 1.8P)	④飼料作面積 : 40.0%→40.2%( 0.2P)		
⑤継続意向農家 : 31.6%→29.3%(△2.3P)	⑤継続意向農家 : 48.5%→51.5%( 3.0P)		

#### [4] 関東

表Ⅱ - 2 - 2Dによって、関東における生乳生産構造の現状と変容の状況をみると、次のような傾向を指摘することができる。

- 関東における各類型のウェイトは、都府県全体でみた場合に比べて、若・壮齢層（【類型ⅠA】、【類型ⅠB】）で僅かながら低く、熟・高齢層（【類型ⅡA】、【類型ⅡB】）で僅かながら高いという差があるのみで、傾向的にはほぼ類似している。

先ず、「①酪農家戸数」でみると、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）が6割前後を占めて断然高く、以下【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）が2割台、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）が1割台で続いている。

ただし、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」でみると、【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトがそれぞれ4割前後を占めて近似しており、次いで【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）が2割前後で続いている。

なお、【類型ⅠA】（若・壮齢／確保）のウェイトは、戸数でみても生産・出荷規模でみても、2～3%と極めて小さい。

- 平成19年度～26年度にかけての変化状況をみると、【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）のウェイトアップと【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトダウンが目立つ。
- また、【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）では、「①酪農家戸数」のシェアより「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアの方が大きく上昇しており、1戸当たり生産・出荷規模が拡大に向かう度合が他の類型より強かったとすることができる。一方、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）では、「①酪農家戸数」のシェアより「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアの方が大きく低下しており、規模縮小に向かう度合が他の類型より強かったとすることができる。
- 飼料生産に関しては、「①酪農家戸数」と「④飼料作物作付面積」の変化状況から、特に【類型ⅠA】（若・壮齢／確保）のウェイトが高まり、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトが低下する方向にあるとすることができる。

表Ⅱ - 2 - 2D 経営主年齢・後継者確保状況別類型の主要シェアの変化（関東）

集計酪農家戸数=3,427戸、3,189戸

		経営後継者の確保状況	
		後継者既定	後継者未定・不在
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型ⅠA】</b>	<b>【類型ⅠB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 1.9%→2.0%( 0.1P)	①酪農家戸数 : 15.1%→14.1%(△1.0P)
		②経産牛頭数 : 3.0%→3.5%( 0.5P)	②経産牛頭数 : 18.0%→20.0%( 2.0P)
		③出荷乳量 : 3.0%→3.5%( 0.5P)	③出荷乳量 : 18.5%→20.4%( 1.9P)
	④飼料作面積 : 2.9%→5.6%( 2.7P)	④飼料作面積 : 18.1%→18.5%( 0.4P)	
	⑤継続意向農家 : 2.4%→2.2%(△0.2P)	⑤継続意向農家 : 16.3%→15.3%(△1.0P)	
	50歳以上	<b>【類型ⅡA】</b>	<b>【類型ⅡB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 22.6%→26.2%( 3.6P)	①酪農家戸数 : 60.5%→57.7%(△2.8P)
②経産牛頭数 : 33.9%→39.7%( 5.8P)		②経産牛頭数 : 45.0%→36.8%(△8.2P)	
③出荷乳量 : 35.0%→40.7%( 5.7P)		③出荷乳量 : 43.5%→35.4%(△8.1P)	
④飼料作面積 : 35.0%→35.4%( 0.4P)	④飼料作面積 : 44.0%→40.5%(△3.5P)		
⑤継続意向農家 : 29.3%→29.0%(△0.3P)	⑤継続意向農家 : 51.9%→53.5%( 1.6P)		

## [5] 北陸

表Ⅱ - 2 - 2Eによって、北陸における生乳生産構造の現状と変容の状況をみると、次のような傾向を指摘することができる。

- 北陸における「経営主年齢×後継者確保状況」別類型の特徴を一言でいうと、都府県全体でみた場合に比べて、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトが高く、【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）のウェイトが低いということである。

「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のいずれでも、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトが断然高く、以下に続く【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）、【類型ⅠA】（若・壮齢／確保）との差が著しく大きい。

- 平成19年度～26年度にかけての変化状況をみると、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）がウェイトアップし、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）がウェイトダウンするという他の地域にはみられない動きがみられる。即ち、多くの地域で【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトが低下している中で、北陸では逆にこの類型のウェイトが上昇している。

この傾向は、「⑤継続意向農家」の戸数シェアの類型別変化にも表れており、今後も【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトの増大傾向は続くものと推測される。

- また、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）では、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアの上昇が「①酪農家戸数」のシェアの上昇を上回っている点も、他の地域にはみられない傾向である。

- ただし、「④飼料作物作付面積」に関しては、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)が大きくウェイトダウンし、【類型ⅠB】(若・壮齢/未確保)、【類型ⅠA】(若・壮齢/確保)がウェイトアップしている。

表Ⅱ - 2 - 2E 経営主年齢・後継者確保状況別類型の主要シェアの変化(北陸)

集計酪農家戸数=465戸、342戸

		経営後継者の確保状況	
		後継者既定	後継者未定・不在
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型ⅠA】</b>	<b>【類型ⅠB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 1.7%→2.0%( 0.3P)	①酪農家戸数 : 15.7%→11.7%(△4.0P)
		②経産牛頭数 : 1.9%→2.3%( 0.4P)	②経産牛頭数 : 18.3%→14.8%(△3.5P)
		③出荷乳量 : 1.9%→2.3%( 0.4P)	③出荷乳量 : 18.8%→14.7%(△4.1P)
	④飼料作面積 : 2.9%→5.6%( 2.7P)	④飼料作面積 : 15.8%→22.2%( 6.4P)	
	⑤継続意向農家 : 2.2%→2.0%(△0.2P)	⑤継続意向農家 : 17.1%→13.1%(△4.0P)	
	50歳以上	<b>【類型ⅡA】</b>	<b>【類型ⅡB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 18.7%→20.5%( 1.8P)	①酪農家戸数 : 63.9%→65.8%( 1.9P)
②経産牛頭数 : 27.8%→27.1%(△0.7P)		②経産牛頭数 : 52.0%→55.9%( 3.9P)	
③出荷乳量 : 28.2%→27.7%(△0.5P)		③出荷乳量 : 51.1%→55.3%( 4.2P)	
④飼料作面積 : 33.8%→33.3%(△0.5P)	④飼料作面積 : 47.4%→39.0%(△8.4P)		
⑤継続意向農家 : 22.5%→22.6%( 0.1P)	⑤継続意向農家 : 58.2%→62.3%( 4.1P)		

## [6] 東海

表Ⅱ - 2 - 2Fによって、東海における生乳生産構造の現状と変容の状況をみると、次のような傾向を指摘することができる。

- 東海における各類型のウェイトは、都府県全体でみた場合に比較的近似している。
 

先ず、「①酪農家戸数」でみると、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)が5割を占めて断然高く、以下【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)が3割弱、【類型ⅠB】(若・壮齢/未確保)が2割弱で続いている。【類型ⅠA】(若・壮齢/確保)のウェイトは2%前後と極めて小さい。

次に、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」でみると、【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)のウェイトがそれぞれ3割台で近似しており、次いで【類型ⅠB】(若・壮齢/未確保)が2割台で続いている。【類型ⅠA】(若・壮齢/確保)のウェイトは、平成19年度から26年度にかけて上昇してきたが未だ1割に届いていない。
- 平成19年度～26年度にかけての変化状況をみると、どの類型についても「①酪農家戸数」のウェイトはあまり変化しておらず、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」でみたウェイトが【類型ⅠA】(若・壮齢/確保)で上昇し、【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)で低下している。
- このことから、【類型ⅠA】(若・壮齢/確保)では1戸当たり生産・出荷規模が拡大に向かう度合が他の類型より強く、【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)では規模縮小に向かう度合が他の類型より強かったといえる。

- 飼料生産に関しては、「④飼料作物作付面積」のシェアが【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）で上昇し、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）で低下している。酪農家戸数のシェアがあまり変化していないことを勘案すると、前者では1戸当たり作付面積が拡大に向かう度合、後者ではそれが縮小に向かう度合が他の類型より高かったことを表しているといえる。
- また、「⑤継続意向農家」のシェアが【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）で上昇、【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）で低下しており、後継者の有無による継続率の較差が今後縮小して行く可能性があることを示している。

表Ⅱ - 2 - 2F 経営主年齢・後継者確保状況別類型の主要シェアの変化（東海）

集計酪農家戸数=1,012戸、863戸

		経営後継者の確保状況	
		後継者既定	後継者未定・不在
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型ⅠA】</b>	<b>【類型ⅠB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 2.1%→1.7%(△0.4P)	①酪農家戸数 : 18.6%→19.6%( 1.0P)
		②経産牛頭数 : 4.0%→7.6%( 3.6P)	②経産牛頭数 : 22.1%→23.3%( 1.2P)
		③出荷乳量 : 3.6%→8.6%( 5.0P)	③出荷乳量 : 23.3%→23.3%( 0.0P)
	④飼料作面積 : 4.2%→3.8%(△0.4P)	④飼料作面積 : 19.8%→26.0%( 6.2P)	
	⑤継続意向農家 : 2.9%→1.9%(△1.0P)	⑤継続意向農家 : 21.0%→20.6%(△0.4P)	
	50歳以上	<b>【類型ⅡA】</b>	<b>【類型ⅡB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 27.6%→26.9%(△0.7P)	①酪農家戸数 : 51.8%→51.8%( 0.0P)
②経産牛頭数 : 37.5%→35.0%(△2.5P)		②経産牛頭数 : 36.4%→34.1%(△2.3P)	
③出荷乳量 : 37.7%→34.8%(△2.9P)		③出荷乳量 : 35.4%→33.3%(△2.1P)	
④飼料作面積 : 33.8%→34.0%( 0.2P)	④飼料作面積 : 42.1%→36.3%(△5.8P)		
⑤継続意向農家 : 35.7%→29.1%(△6.6P)	⑤継続意向農家 : 40.4%→48.3%( 7.9P)		

## [7] 近畿

表Ⅱ - 2 - 2Gによって、近畿における生乳生産構造の現状と変容の状況をみると、次のような傾向を指摘することができる。

- 近畿における「経営主年齢×後継者確保状況」別類型の構造は関東や北陸に比較的類似しており、都府県全体でみた場合より【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトが高く、【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）のウェイトが低い。そのため、「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のいずれからみても、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）のウェイトが著しく高く、以下に続く【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）、【類型ⅠA】（若・壮齢／確保）との差が大きい。
- ただし、平成19年度～26年度にかけての変化状況をみると、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）が大きくウェイトダウンして、その他の類型がウェイトアップしているため、【類型ⅡB】とその他の類型の間の差は縮小する方向にある。特に、【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）におけるウェイトアップが顕著である。
- また、【類型ⅡA】（熟・高齢：確保）では「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアが「①酪農家戸数」のシェアよりも大きく上昇しており、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）では「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアが「①酪農家戸数」のシェアよりも大き

く低下している。このことから、【類型ⅡA】(熟・高齢：確保)は1戸当たり生産・出荷規模が拡大の方向に向かう度合が高く、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)はそれが縮小の方向に向かう度合が大きかったといえる。

- 「④飼料作物作付面積」に関しては、【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)が大きくウェイトダウンし、【類型ⅠB】(若・壮齢/未確保)が大きくウェイトアップしている。

表Ⅱ - 2 - 2G 経営主年齢・後継者確保状況別類型の主要シェアの変化(近畿)

集計酪農家戸数=711戸、457戸

		経営後継者の確保状況	
		後継者既定	後継者未定・不在
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型ⅠA】</b>	<b>【類型ⅠB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 0.8%→1.1%( 0.3P)	①酪農家戸数 : 12.4%→14.7%( 2.3P)
		②経産牛頭数 : 1.1%→2.4%( 1.3P)	②経産牛頭数 : 15.2%→18.7%( 3.5P)
		③出荷乳量 : 1.2%→2.5%( 1.3P)	③出荷乳量 : 16.2%→18.8%( 2.6P)
	④飼料作面積 : 0.1%→0.8%( 0.7P)	④飼料作面積 : 14.8%→31.6%( 16.8P)	
	⑤継続意向農家 : 1.0%→1.3%( 0.3P)	⑤継続意向農家 : 15.2%→16.1%( 0.9P)	
	50歳以上	<b>【類型ⅡA】</b>	<b>【類型ⅡB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 19.5%→24.5%( 5.0P)	①酪農家戸数 : 67.2%→59.7%(△7.5P)
②経産牛頭数 : 29.7%→36.1%( 6.4P)		②経産牛頭数 : 54.0%→42.8%(△11.2P)	
③出荷乳量 : 28.5%→36.5%( 8.0P)		③出荷乳量 : 54.1%→42.3%(△11.8P)	
④飼料作面積 : 33.7%→16.9%(△16.8P)	④飼料作面積 : 51.4%→50.7%(△0.7P)		
⑤継続意向農家 : 27.5%→26.5%(△1.0P)	⑤継続意向農家 : 56.3%→56.1%(△0.2P)		

## [8] 中国

表Ⅱ - 2 - 2Hによって、中国における生乳生産構造の現状と変容の状況をみると、次のような傾向を指摘することができる。

- 中国における「経営主年齢×後継者確保状況」別類型の構造は関東、北陸、近畿に類似しており、「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のいずれでみても、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)のウェイトが最も高く、以下【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)、【類型ⅠB】(若・壮齢/未確保)、【類型ⅠA】(若・壮齢/確保)の順で続いている。ただし、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)と【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)の間の差は、北陸や近畿の場合ほど大きくない。
- 平成19年度～26年度にかけての変化状況を見ると、【類型ⅠB】(若・壮齢/未確保)が大きくウェイトアップし、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)が大きくウェイトダウンしている。また、【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)は「①酪農家戸数」でみるとウェイトアップしているが、「②経産牛頭数」や「③出荷乳量」でみると、大きくウェイトダウンしている。

- 次に、【類型ⅠB】(若・壮齢/未確保)では「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアが「①酪農家戸数」のシェアよりも大きく上昇しており、【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)では、「①酪農家戸数」のシェアが上昇しているにも拘らず「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアが低下している。このことから、【類型ⅠB】(若・壮齢/未確保)は1戸当たり生産・出荷規模が拡大の方向に向かう度合が高く、【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)はそれが縮小の方向に向かう度合が大きかったといえる。
- 「④飼料作物作付面積」に関しては、【類型ⅠB】(若・壮齢/未確保)がウェイトアップし、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)が大きくウェイトダウンしている。

表Ⅱ - 2 - 2H 経営主年齢・後継者確保状況別類型の主要シェアの変化(中国)

集計酪農家戸数=605戸、711戸

		経営後継者の確保状況	
		後継者既定	後継者未定・不在
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型ⅠA】</b>	<b>【類型ⅠB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 2.5%→1.5%(△1.0P)	①酪農家戸数 : 15.0%→20.3%( 5.3P)
		②経産牛頭数 : 3.8%→3.9%( 0.1P)	②経産牛頭数 : 16.8%→27.8%( 11.0P)
		③出荷乳量 : 4.1%→4.0%(△0.1P)	③出荷乳量 : 16.4%→27.5%( 11.1P)
	④飼料作面積 : 4.1%→3.9%(△0.2P)	④飼料作面積 : 15.1%→33.8%( 18.7P)	
	⑤継続意向農家 : 3.4%→1.7%(△1.7P)	⑤継続意向農家 : 16.1%→22.2%( 6.1P)	
	50歳以上	<b>【類型ⅡA】</b>	<b>【類型ⅡB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 20.8%→23.8%( 3.0P)	①酪農家戸数 : 61.7%→54.4%(△7.3P)
②経産牛頭数 : 35.8%→31.2%(△4.6%)		②経産牛頭数 : 43.6%→37.1%(△6.5P)	
③出荷乳量 : 37.2%→31.8%(△5.4%)		③出荷乳量 : 42.2%→36.7%(△5.5P)	
④飼料作面積 : 35.1%→32.2%(△2.9P)	④飼料作面積 : 45.7%→30.0%(△15.7P)		
⑤継続意向農家 : 27.1%→25.6%(△1.5P)	⑤継続意向農家 : 53.5%→50.5%(△3.0P)		

#### [9] 四国

表Ⅱ - 2 - 2I によって、四国における生乳生産構造の現状と変容の状況をみると、次のような傾向を指摘することができる。

- 四国における各類型のウェイトを「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)が約6割を占めて断然高く、関東、北陸、近畿に類似した構成になっており、都府県全体でみた場合と比べると【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)、【類型ⅠB】(若・壮齢/未確保)、【類型ⅠA】(若・壮齢/確保)のウェイトが僅かずつ低い。
- 平成19年度～26年度にかけての変化は、他の地域に比べて著しく小さく、「⑤継続意向農家」のシェアが【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)で低下、【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)で上昇しているのが目に付く程度である。  
なお、「⑤継続意向農家」に関する変化については、その結果【類型ⅡA】(熟・高齢/確保)と【類型ⅡB】(熟・高齢/未確保)の双方で「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家」のシェアが著しく接近しており、両類型における廃業意向率がかなり近似してきているということを表している。

表Ⅱ - 2 - 2 I 経営主年齢・後継者確保状況別類型の主要シェアの変化（四国）

集計酪農家戸数=544戸、387戸

		経営後継者の確保状況	
		後継者既定	後継者未定・不在
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型ⅠA】</b>	<b>【類型ⅠB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 1.5%→0.8%(△0.7P)	①酪農家戸数 : 16.5%→16.0%(△0.5P)
		②経産牛頭数 : 2.0%→0.8%(△1.2P)	②経産牛頭数 : 18.8%→19.6%( 0.8P)
		③出荷乳量 : 2.0%→0.9%(△1.1P)	③出荷乳量 : 18.6%→18.8%( 0.2P)
	④飼料作面積 : 3.7%→3.1%(△0.6P)	④飼料作面積 : 18.9%→20.6%( 1.7P)	
	⑤継続意向農家 : 1.8%→0.9%(△0.9P)	⑤継続意向農家 : 19.3%→17.2%(△2.1P)	
	50歳以上	<b>【類型ⅡA】</b>	<b>【類型ⅡB】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 21.9%→24.0%( 2.1P)	①酪農家戸数 : 60.1%→59.2%(△0.9P)
②経産牛頭数 : 36.0%→35.6%(△0.4P)		②経産牛頭数 : 43.2%→44.0%( 0.8P)	
③出荷乳量 : 37.8%→37.3%(△0.5P)		③出荷乳量 : 41.7%→43.0%( 1.3P)	
④飼料作面積 : 37.0%→36.3%(△0.7P)	④飼料作面積 : 40.3%→40.0%(△0.3P)		
⑤継続意向農家 : 30.1%→24.9%(△5.2P)	⑤継続意向農家 : 48.8%→57.0%( 8.2P)		

[10] 九州

表Ⅱ - 2 - 2 Jによって、九州における生乳生産構造の現状と変容の状況をみると、次のような傾向を指摘することができる。

- 九州における「経営主年齢×後継者確保状況」別類型の構成は、都府県の他の地域よりも寧ろ北海道に類似している。

即ち、「①酪農家戸数」のシェアで見ると【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）、【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）、【類型ⅠA】（若・壮齢／確保）の順、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアで見ると【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）、【類型ⅠA】（若・壮齢／確保）の順に大きな値を取っているが、都府県の他の地域と比べると【類型ⅡA】（熟・高齢／確保）、【類型ⅡB】（熟・高齢／未確保）、【類型ⅠB】（若・壮齢／未確保）の間の差が非常に小さい。

- 平成19年度～26年度にかけての類型別構成の変化は、北海道も含む他の地域に比べて著しく小さく、九州では従来からの類型間のバランスが非常に安定しているといえることができる。

表Ⅱ - 2 - 2J 経営主年齢・後継者確保状況別類型の主要シェアの変化（九州）

集計酪農家戸数=1,834戸、1,638戸

		経営後継者の確保状況	
		後継者既定	後継者未定・不在
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型ⅠA】</b> H19 →H26（増減）	<b>【類型ⅠB】</b> H19 →H26（増減）
		①酪農家戸数 : 4.1%→3.5%(△0.6P) ②経産牛頭数 : 5.3%→4.6%(△0.7P) ③出荷乳量 : 5.2%→4.8%(△0.4P) ④飼料作面積 : 4.8%→4.8%( 0.0P) ⑤継続意向農家 : 4.5%→3.6%(△0.9P)	①酪農家戸数 : 23.4%→23.0%(△0.4P) ②経産牛頭数 : 25.2%→25.8%( 0.6P) ③出荷乳量 : 25.6%→26.0%( 0.4P) ④飼料作面積 : 24.3%→27.9%( 3.6P) ⑤継続意向農家 : 24.2%→24.8%( 0.6P)
	50歳以上	<b>【類型ⅡA】</b> H19 →H26（増減）	<b>【類型ⅡB】</b> H19 →H26（増減）
		①酪農家戸数 : 27.9%→30.9%( 3.0P) ②経産牛頭数 : 38.6%→39.6%( 1.0P) ③出荷乳量 : 40.2%→40.6%( 0.4P) ④飼料作面積 : 38.1%→34.4%(△3.7P) ⑤継続意向農家 : 35.6%→32.8%(△2.8P)	①酪農家戸数 : 44.6%→42.7%(△1.9P) ②経産牛頭数 : 31.0%→29.9%(△1.1P) ③出荷乳量 : 29.0%→28.7%(△0.3P) ④飼料作面積 : 32.8%→32.9%( 0.1P) ⑤継続意向農家 : 35.6%→38.7%( 3.1P)

(2) 「経営主年齢×生乳出荷規模」に基づく類型化と生産構造の変容分析

以下の分析で取り上げる経営類型化の基準と各類型の定義は、表Ⅱ - 2 - 3に示したとおりである。

この類型化を行うに当たっては、生乳出荷規模を「大規模」、「中規模」、「小規模」の3階層に区分したが、酪農家1戸当たり出荷乳量に関する北海道・都府県間の著しい較差を考慮して、北海道と都府県では異なった区分の基準を設定することとした。従って、北海道と都府県の結果をそのまま比較することはできないので注意されたい。

表Ⅱ - 2 - 3 「経営主年齢と生乳出荷規模」に基づく類型化の基準と定義

＜北海道＞

		生乳の年間出荷規模		
		大規模	中規模	小規模
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型Ⅰa】</b> ①経営主年齢：50歳未満 ②年単出荷乳量：600 t 以上 ※経営主は若・壮齢で、経営は大規模	<b>【類型Ⅰb】</b> ①経営主年齢：50歳未満 ②年単出荷乳量：400～600 t ※経営主は若・壮齢で、経営は中規模	<b>【類型Ⅰc】</b> ①経営主年齢：50歳未満 ②年単出荷乳量：400 t 未満 ※経営主は若・壮齢で、経営は小規模
	50歳以上	<b>【類型Ⅱa】</b> ①経営主年齢：50歳以上 ②年単出荷乳量：600 t 以上 ※経営主は熟・高齢で、経営は大規模	<b>【類型Ⅱb】</b> ①経営主年齢：50歳以上 ②年単出荷乳量：400～600 t ※経営主は熟・高齢で、経営は中規模	<b>【類型Ⅱc】</b> ①経営主年齢：50歳以上 ②年単出荷乳量：400 t 未満 ※経営主は熟・高齢で、経営は小規模

＜都府県＞

		生乳の年間出荷規模		
		大規模	中規模	小規模
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型Ⅰa】</b> ①経営主年齢：50歳未満 ②年単出荷乳量：300 t 以上 ※経営主は若・壮齢で、経営は大規模	<b>【類型Ⅰb】</b> ①経営主年齢：50歳未満 ②年単出荷乳量：200～300 t ※経営主は若・壮齢で、経営は中規模	<b>【類型Ⅰc】</b> ①経営主年齢：50歳未満 ②年単出荷乳量：200 t 未満 ※経営主は若・壮齢で、経営は小規模
	50歳以上	<b>【類型Ⅱa】</b> ①経営主年齢：50歳以上 ②年単出荷乳量：300 t 以上 ※経営主は熟・高齢で、経営は大規模	<b>【類型Ⅱb】</b> ①経営主年齢：50歳以上 ②年単出荷乳量：200～300 t ※経営主は熟・高齢で、経営は中規模	<b>【類型Ⅱc】</b> ①経営主年齢：50歳以上 ②年単出荷乳量：200 t 未満 ※経営主は熟・高齢で、経営は小規模

上記の定義に従って、地域別に生乳生産の構造とその変容に関する指標を整理すると「表Ⅱ - 2 - 4A」～「表Ⅱ - 2 - 4J」のようになる。これらの表を概観すると、生産構造の現状やその変化の様は地域により様々であるが、「①酪農家戸数」のシェアで見ると【類型 ii c】（経営主は熟・高齢：規模は小規模）のウェイトが最も高く、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアで見ると【類型 ii a】（経営主は熟・高齢：規模は大規模）のウェイトが最も高いという点は全ての地域に共通してみられる傾向である。

また、東海、中国を除く多くの地域で、「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のいずれで見ても、【類型 ii a】（経営主は熟・高齢：規模は大規模）のシェアが大きく増加してきているといった特徴もみられる。

地域別分析結果の詳細は以下のとおりである。

なお、以下では、

【類型 i a】（経営主は若・壮齢／規模は大規模）は【類型 i a】（若・壮齢／大規模）、  
【類型 i b】（経営主は若・壮齢／規模は中規模）は【類型 i b】（若・壮齢／中規模）、  
【類型 i c】（経営主は若・壮齢／規模は小規模）は【類型 i c】（若・壮齢／小規模）、  
【類型 ii a】（経営主は熟・高齢／規模は大規模）は【類型 ii a】（熟・高齢／大規模）、  
【類型 ii b】（経営主は熟・高齢／規模は中規模）は【類型 ii b】（熟・高齢／中規模）、  
【類型 ii c】（経営主は熟・高齢／規模は小規模）は【類型 ii c】（熟・高齢／小規模）、  
と表示する。

## [1] 北海道

表Ⅱ - 2 - 4A は、北海道について、経営類型別に主要指標のシェアとその変化状況を表示したものである。同表によれば、北海道における生乳生産構造の現状と変容について、次のような点を指摘することができる。

- 各類型のウェイトを「①酪農家戸数」の側面からみると、前述のように北海道においても【類型 ii c】（熟・高齢／小規模）が約3割を占めて最も高く、他の類型は概ね1割台となっている。また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型 ii a】（熟・高齢／大規模）が3～4割を占めて最も高く、他の類型は概ね1～2割となっている。
- 平成19年度～26年度にかけての変化状況を見ると、まず【類型 ii a】（熟・高齢／大規模）、次いで【類型 i a】（若・壮齢／大規模）のウェイトアップと、【類型 i c】（若・壮齢／小規模）、次いで【類型 i b】（若・壮齢／中規模）のウェイトダウンが目立つ。
- 【類型 ii a】（熟・高齢／大規模）では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが5.8ポイントの増加をみせているが、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは9.0～10.0ポイントとそれ以上に大きな増加をみせており、この類型に属する酪農家の戸数が増えたというだけでなく、1戸当たりの生産・出荷規模も相対的に大きく拡大したといえる。
- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型 ii c】（熟・高齢／小規模）で「⑤継続意向農家数」の方がやや低くなっており、今後は同類型のウェイトが漸減して行くことが推測される。

- 飼料生産に関しては、先ず【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)、次いで【類型 i a】(若・壮齢/大規模)で「④飼料作物作付面積」のシェアが高まっているが、いずれも「②経産牛頭数」シェアの上昇分と比べると小さく、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積はむしろ減少の傾向にあるといえる。逆に、「②経産牛頭数」と「④飼料作物作付面積」のシェアの増減分から経産牛1頭当たり飼料作物作付面積が増加の傾向にあると推測されるのは【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)と【類型 ii b】(熟・高齢/中規模)である。

表Ⅱ - 2 - 4A 経営主年齢・生乳出荷規模別類型の主要シェアの変化(北海道)

集計酪農家戸数=4,135戸、5,598戸

		生乳の年間出荷規模		
		大規模(600t以上)	中規模(400~600t)	小規模(400t未満)
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型 i a】</b>	<b>【類型 i b】</b>	<b>【類型 i c】</b>
		H19 → H26 (増減)	H19 → H26 (増減)	H19 → H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 10.0%→12.8%( 2.8P)	①酪農家戸数 : 12.7%→9.9%(△2.8P)	①酪農家戸数 : 19.0%→12.5%(△6.5P)
		②経産牛頭数 : 18.1%→21.4%( 3.3P)	②経産牛頭数 : 12.0%→8.1%(△3.9P)	②経産牛頭数 : 12.2%→6.9%(△5.3P)
		③出荷乳量 : 19.5%→22.8%( 3.3P)	③出荷乳量 : 12.1%→7.9%(△4.2P)	③出荷乳量 : 10.6%→5.7%(△4.9P)
	④飼料作面積 : 14.3%→16.6%( 2.3P)	④飼料作面積 : 13.2%→9.1%(△4.1P)	④飼料作面積 : 15.0%→9.1%(△5.9P)	
	⑤継続意向農家 : 11.3%→13.5%( 2.2P)	⑤継続意向農家 : 13.7%→10.4%(△3.3P)	⑤継続意向農家 : 18.1%→12.6%(△5.5P)	
	50歳以上	<b>【類型 ii a】</b>	<b>【類型 ii b】</b>	<b>【類型 ii c】</b>
		H19 → H26 (増減)	H19 → H26 (増減)	H19 → H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 13.7%→19.5%( 5.8P)	①酪農家戸数 : 14.4%→15.8%( 1.4P)	①酪農家戸数 : 30.2%→29.5%(△0.7P)
②経産牛頭数 : 26.6%→35.6%( 9.0P)		②経産牛頭数 : 13.4%→13.1%(△0.3P)	②経産牛頭数 : 17.6%→14.9%(△2.7P)	
③出荷乳量 : 28.7%→38.7%( 10.0P)		③出荷乳量 : 13.6%→12.6%(△1.0P)	③出荷乳量 : 15.5%→12.4%(△3.1P)	
④飼料作面積 : 21.9%→29.0%( 7.1P)	④飼料作面積 : 14.5%→15.5%( 1.0P)	④飼料作面積 : 21.1%→20.7%(△0.4P)		
⑤継続意向農家 : 15.6%→20.4%( 4.8P)	⑤継続意向農家 : 15.0%→15.6%( 0.6P)	⑤継続意向農家 : 26.3%→27.5%( 1.2P)		

## [2] 都府県

表Ⅱ - 2 - 4Bは、都府県全体について、経営類型別に主要指標のシェアとその変化状況を表示したものである。同表によれば、都府県における生乳生産構造の現状と変容について、次のような点を指摘することができる。

- 各類型のウェイトを「①酪農家戸数」の側面からみると、都府県においても【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)が約4割を占めて断然高く、他の類型との間には北海道以上の差がみられる。なお、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)以下は、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)、【類型 ii b】(熟・高齢/中規模)が2割前後、【類型 i a】(若・壮齢/大規模)、【類型 i c】(若・壮齢/小規模)、【類型 i b】(若・壮齢/中規模)が1割未満で続いている。
- 一方、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)が4~5割を占めて断然大きく、以下【類型 i a】(若・壮齢/大規模)、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)、【類型 ii b】(熟・高齢/中規模)が1~2割、【類型 i b】(若・壮齢/中規模)、【類型 i c】(若・壮齢/小規模)が1割未満で続いている。
- 平成19年度~26年度にかけての変化状況を見ると、大部分の類型のウェイトが低下又は現状維持に止まる中で、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)のウェイトが大きく上昇している点が目を引く。
- 【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが5.9ポイントの増加をみせているが、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは7.8~7.9ポイントとそれをやや上回る増加をみせており、この類型に属する酪農家の戸数が

増えただけではなく、その1戸当たりの生産・出荷規模も相対的に拡大したといえることができる。

- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型ii a】(熟・高齢/大規模)で「⑤継続意向農家数」、【類型ii c】(熟・高齢/小規模)で「①酪農家戸数」の方がやや高くなっており、今後は【類型ii a】(熟・高齢/大規模)のウェイトが更に高まり、【類型ii c】(熟・高齢/小規模)のウェイトが漸減して行くことが推測される。
- 飼料生産に関しては、【類型ii a】(熟・高齢/大規模)と【類型i a】(若・壮齢/大規模)で「④飼料作物作付面積」のシェアが高まっている。これを、「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」のシェア変化と対比させてみると、【類型ii a】(熟・高齢/大規模)のシェアアップは主として酪農家戸数の変化、【類型i a】(若・壮齢/大規模)のシェアアップは主として経産牛飼養頭数の変化と連動していることがわかる。

表Ⅱ-2-4B 経営主年齢・生乳出荷規模別類型の主要シェアの変化(都府県)

集計酪農家戸数=11,912戸、9,689戸

		生乳の年間出荷規模					
		大規模(300t以上)		中規模(200~300t)		小規模(200t未満)	
		【類型i a】	H19 →H26(増減)	【類型i b】	H19 →H26(増減)	【類型i c】	H19 →H26(増減)
経営主年齢	50歳未満	①酪農家戸数	: 9.5%→9.2%(△0.3P)	①酪農家戸数	: 5.6%→4.1%(△1.5P)	①酪農家戸数	: 8.6%→5.8%(△2.8P)
		②経産牛頭数	: 18.2%→19.8%( 1.6P)	②経産牛頭数	: 5.4%→3.3%(△2.1P)	②経産牛頭数	: 4.6%→2.8%(△1.8P)
		③出荷乳量	: 19.6%→20.8%( 1.2P)	③出荷乳量	: 5.1%→3.1%(△2.0P)	③出荷乳量	: 3.9%→2.1%(△1.8P)
		④飼料作面積	: 14.3%→16.4%( 2.1P)	④飼料作面積	: 7.3%→4.9%(△2.4P)	④飼料作面積	: 7.5%→5.0%(△2.5P)
		⑤継続意向農家	: 11.8%→10.2%(△1.6P)	⑤継続意向農家	: 6.2%→4.5%(△1.7P)	⑤継続意向農家	: 8.1%→5.9%(△2.2P)
	50歳以上	【類型ii a】	H19 →H26(増減)	【類型ii b】	H19 →H26(増減)	【類型ii c】	H19 →H26(増減)
		①酪農家戸数	: 19.5%→25.4%( 5.9P)	①酪農家戸数	: 16.3%→17.2%( 0.9P)	①酪農家戸数	: 40.6%→38.3%(△2.3P)
		②経産牛頭数	: 37.9%→45.8%( 7.9P)	②経産牛頭数	: 15.3%→13.2%(△2.1P)	②経産牛頭数	: 18.6%→15.2%(△3.4P)
		③出荷乳量	: 40.8%→48.6%( 7.8P)	③出荷乳量	: 14.8%→12.7%(△2.1P)	③出荷乳量	: 15.9%→12.6%(△3.3P)
		④飼料作面積	: 29.9%→35.6%( 5.7P)	④飼料作面積	: 17.9%→16.3%(△1.6P)	④飼料作面積	: 23.2%→21.8%(△1.4P)
	⑤継続意向農家	: 24.0%→27.3%( 3.3P)	⑤継続意向農家	: 18.2%→17.5%(△0.7P)	⑤継続意向農家	: 31.8%→34.5%( 2.7P)	

### [3] 東北

表Ⅱ-2-4Cによって、東北における生乳生産構造の現状と変容についてみると、次のような特徴を指摘することができる。

- 各類型のウェイトを「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型ii c】(熟・高齢/小規模)が約5割を占めて断然高く、他の類型との間には都府県全体でみた場合以上に大きな差がみられる。逆に、【類型i a】(若・壮齢/大規模)、【類型i b】(若・壮齢/中規模)のシェアは5%前後と著しく低い。一方、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型ii a】(熟・高齢/大規模)が約4割を占めて著しく高く、【類型i b】(若・壮齢/中規模)、【類型i c】(若・壮齢/小規模)が5%前後と著しく低い。ただし、【類型ii a】(熟・高齢/大規模)と他の類型との間の差は、都府県全体でみた場合ほど大きくない。
- 平成19年度~26年度にかけての変化状況を見ると、大部分の類型のウェイトが低下又は現状維持に止まる中で、【類型ii a】(熟・高齢/大規模)のウェイトが大きく上昇している点が目を引く。逆に、ウェイトダウンが目立つのは、【類型i c】(若・壮齢/小

規模)と【類型ii c】(熟・高齢/小規模)である。

- このうち、【類型ii a】(熟・高齢/大規模)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが6.2ポイントの増加をみせているが、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは10.6~11.3ポイントとそれを上回る増加をみせており、この類型に属する酪農家の戸数が増えただけではなく、その1戸当たりの生産・出荷規模も相対的に拡大したといえることができる。

一方、【類型ii c】(熟・高齢/小規模)では、「①酪農家戸数」のシェアが3.5ポイント減少しているが、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは△5.3~△5.5ポイントとそれ以上に減少しており、この類型に属する酪農家の戸数が減っただけではなく、その1戸当たり生産・出荷規模も相対的に縮小したといえることができる。

- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、どの類型でも双方の値が比較的近似しており、東北における「経営主年齢×生乳出荷規模」類型の戸数構成は今後も現在に近い状態で推移して行くものと推測される。
- 飼料生産に関しては、【類型ii a】(熟・高齢/大規模)のシェアが大きく高まり、【類型i c】(若・壮齢/小規模)のシェアが低下している。これを、「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」のシェア変化と対比させてみると、【類型ii a】(熟・高齢/大規模)のシェアアップは主として経産牛飼養頭数の変化、【類型i c】(若・壮齢/小規模)のシェアダウンは主として酪農家戸数の変化と連動していることがわかる。

表Ⅱ-2-4C 経営主年齢・生乳出荷規模別類型の主要シェアの変化(東北)

集計酪農家戸数=2,438戸、2,059戸

		生乳の年間出荷規模					
		大規模(300t以上)		中規模(200~300t)		小規模(200t未満)	
		【類型ia】	【類型ib】	【類型ic】	H19→H26(増減)	H19→H26(増減)	H19→H26(増減)
経営主年齢	50歳未満	H19→H26(増減)		H19→H26(増減)		H19→H26(増減)	
		①酪農家戸数	: 5.2%→5.8%(0.6P)	①酪農家戸数	: 5.2%→4.0%(△1.2P)	①酪農家戸数	: 13.0%→8.7%(△4.3P)
		②経産牛頭数	: 11.7%→13.5%(1.8P)	②経産牛頭数	: 6.8%→4.3%(△2.5P)	②経産牛頭数	: 8.6%→5.1%(△3.5P)
		③出荷乳量	: 12.9%→14.1%(1.2P)	③出荷乳量	: 6.9%→4.3%(△2.6P)	③出荷乳量	: 7.5%→4.3%(△3.2P)
		④飼料作面積	: 10.6%→9.8%(△0.8P)	④飼料作面積	: 8.1%→5.3%(△2.8P)	④飼料作面積	: 10.1%→6.1%(△4.0P)
	⑤継続意向農家	: 6.4%→6.3%(△0.1P)	⑤継続意向農家	: 6.5%→4.3%(△2.2P)	⑤継続意向農家	: 12.4%→8.8%(△3.6P)	
	50歳以上	H19→H26(増減)		H19→H26(増減)		H19→H26(増減)	
		①酪農家戸数	: 11.8%→18.0%(6.2P)	①酪農家戸数	: 12.7%→14.9%(2.2P)	①酪農家戸数	: 52.1%→48.6%(△3.5P)
		②経産牛頭数	: 27.8%→38.4%(10.6P)	②経産牛頭数	: 16.2%→15.3%(△0.9P)	②経産牛頭数	: 28.8%→23.5%(△5.3P)
		③出荷乳量	: 30.5%→41.8%(11.3P)	③出荷乳量	: 16.7%→15.6%(△1.1P)	③出荷乳量	: 25.5%→20.0%(△5.5P)
④飼料作面積		: 23.2%→32.5%(9.3P)	④飼料作面積	: 19.3%→19.1%(△0.2P)	④飼料作面積	: 28.6%→27.3%(△1.3P)	
⑤継続意向農家	: 14.2%→19.2%(5.0P)	⑤継続意向農家	: 14.6%→15.4%(0.8P)	⑤継続意向農家	: 45.9%→46.0%(0.1P)		

#### [4] 関東

表Ⅱ-2-4Dによって、関東における生乳生産構造の現状と変容についてみると、次のような特徴を指摘することができる。

- 関東における「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の類型別構成は都府県全体でみた場合と極めて類似している。まず、「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型ii c】(熟・高齢/小規模)が約4割を占めて断然高く、以下【類型ii a】(熟・高齢/大規模)、【類型ii b】(熟・高齢/中規模)が2割前後、【類型ia】(若・壮齢/大規模)、【類型ic】(若・壮齢/小規模)、【類型ib】(若・壮齢/中規模)が1割

未満で続いている。

一方、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型 ii a】(熟・高齢／大規模)が約5割を占めて断然高く、以下【類型 i a】(若・壮齢／大規模)、【類型 ii c】(熟・高齢／小規模)、【類型 ii b】(熟・高齢／中規模)が1～2割、【類型 i b】(若・壮齢／中規模)、【類型 i c】(若・壮齢／小規模)が1割未満で続いている。

●平成19年度～26年度にかけての変化状況を見ると、大部分の類型のウェイトが低下又は現状維持に止まる中で、【類型 ii a】(熟・高齢／大規模)のウェイトが大きく上昇している点が目を引く。逆に、【類型 ii c】(熟・高齢／小規模)と【類型 ii b】(熟・高齢／中規模)では、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」に関するウェイトがやや低下している。

●このうち、【類型 ii a】(熟・高齢／大規模)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが5.0ポイント増加したのに対して、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは7.4～7.6ポイント増加しており、この類型に属する酪農家の戸数が増えただけではなく、その1戸当たり生産・出荷規模も若干拡大したといえることができる。

一方、【類型 ii c】(熟・高齢／小規模)では、「①酪農家戸数」の減少以上に「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアが減少しており、この類型に属する酪農家の戸数が減少したのと同時に、1戸当たりの生産・出荷規模も縮小したといえることができる。

●平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型 ii c】(熟・高齢／小規模)で「⑤継続意向農家数」のシェアが「①酪農家戸数」のシェアを若干下回っており、今後同類型のウェイトが微減して行くことが推測される。

表Ⅱ-2-4D 経営主年齢・生乳出荷規模別類型の主要シェアの変化(関東)

集計酪農家戸数=3,771戸、3,196戸

		生乳の年間出荷規模														
		大規模(300t以上)		中規模(200～300t)		小規模(200t未満)										
経営主年齢	50歳未満	【類型 i a】	H19 → H26 (増減)		【類型 i b】	H19 → H26 (増減)		【類型 i c】	H19 → H26 (増減)							
		①酪農家戸数	: 9.6%	→	7.9%	(△1.7P)	①酪農家戸数	: 5.1%	→	3.6%	(△1.5P)	①酪農家戸数	: 6.3%	→	4.5%	(△1.8P)
		②経産牛頭数	: 17.2%	→	18.5%	( 1.3P)	②経産牛頭数	: 4.7%	→	2.8%	(△1.9P)	②経産牛頭数	: 3.6%	→	2.1%	(△1.5P)
		③出荷乳量	: 18.3%	→	19.6%	( 1.3P)	③出荷乳量	: 4.5%	→	2.6%	(△1.9P)	③出荷乳量	: 3.1%	→	1.6%	(△1.5P)
		④飼料作面積	: 15.1%	→	16.7%	( 1.6P)	④飼料作面積	: 6.1%	→	3.8%	(△2.3P)	④飼料作面積	: 5.1%	→	3.6%	(△1.5P)
	⑤継続意向農家	: 11.8%	→	8.8%	(△3.0P)	⑤継続意向農家	: 5.3%	→	4.0%	(△1.3P)	⑤継続意向農家	: 5.8%	→	4.7%	(△1.1P)	
	50歳以上	【類型 ii a】	H19 → H26 (増減)		【類型 ii b】	H19 → H26 (増減)		【類型 ii c】	H19 → H26 (増減)							
		①酪農家戸数	: 21.3%	→	26.3%	( 5.0P)	①酪農家戸数	: 18.1%	→	19.2%	( 1.1P)	①酪農家戸数	: 39.6%	→	38.4%	(△1.2P)
		②経産牛頭数	: 39.1%	→	46.7%	( 7.6P)	②経産牛頭数	: 16.6%	→	14.4%	(△2.2P)	②経産牛頭数	: 18.8%	→	15.5%	(△3.3P)
		③出荷乳量	: 42.1%	→	49.5%	( 7.4P)	③出荷乳量	: 16.1%	→	13.7%	(△2.4P)	③出荷乳量	: 15.9%	→	12.9%	(△3.0P)
④飼料作面積		: 33.5%	→	36.9%	( 3.4P)	④飼料作面積	: 18.1%	→	17.1%	(△1.0P)	④飼料作面積	: 22.0%	→	21.9%	(△0.1P)	
⑤継続意向農家	: 26.9%	→	28.5%	( 1.6P)	⑤継続意向農家	: 20.8%	→	20.0%	(△0.8P)	⑤継続意向農家	: 29.4%	→	34.0%	( 4.6P)		

## [5] 北陸

表Ⅱ-2-4Eによって、北陸における生乳生産構造の現状と変容をみると、次のような特徴を指摘することができる。

●北陸における「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の類型別構成は都府県全体でみた場合と比較的類似している。まず、「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型 ii c】(熟・高齢／小規模)が約4割を占めて断然高く、以下【類型 ii a】(熟・

高齢：規模／大規模)、【類型 ii b】(熟・高齢／中規模)が2割前後、【類型 i a】(若・壮齢／大規模)、【類型 i c】(若・壮齢／小規模)、【類型 i b】(若・壮齢／中規模)が1割未満で続いている。

一方、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型 ii a】(熟・高齢／大規模)が4割前後を占めて断然高く、以下【類型 ii b】(熟・高齢／中規模)、【類型 ii c】(熟・高齢／小規模)、【類型 i a】(若・壮齢／大規模)が1～2割、【類型 i b】(若・壮齢／中規模)、【類型 i c】(若・壮齢／小規模)が1割未満で続いている。

- 平成19年度～26年度にかけての変化状況を見ると、大部分の類型のウェイトが低下又は現状維持に止まる中で、【類型 ii a】(熟・高齢／大規模)のウェイトが上昇している点が目を引く。ただし、都府県全体でみた場合と比べると、その上昇幅はやや小さい。
- 【類型 ii a】(熟・高齢／大規模)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが3.9ポイント増加したが、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは5.4～5.8ポイントとそれをやや上回る増加をみせており、この類型に属する酪農家戸数の増加と同時に、1戸当たり生産・出荷規模も相対的に拡大したということがわかる。
- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型 ii c】(熟・高齢／小規模)で「⑤継続意向農家数」のシェアの方がやや低く、今後は同類型のウェイトが微減して行くことが推測される。
- 飼料生産に関しては、【類型 i c】(若・壮齢／小規模)で「④飼料作物作付面積」のシェアがやや高まっている。同類型では「②経産牛頭数」のシェアは減少しているため、このことは経産牛1戸当たり飼料作物作付面積が相対的に高まったということを示している。

表Ⅱ-2-4E 経営主年齢・生乳出荷規模別類型の主要シェアの変化(北陸)

集計酪農家戸数=490戸、341戸

		生乳の年間出荷規模		
		大規模(300t以上)	中規模(200～300t)	小規模(200t未満)
		【類型 i a】 H19 →H26 (増減)	【類型 i b】 H19 →H26 (増減)	【類型 i c】 H19 →H26 (増減)
経営主年齢	50歳未満	①酪農家戸数 : 7.8%→7.3%(△0.5P)	①酪農家戸数 : 5.3%→2.3%(△3.0P)	①酪農家戸数 : 7.1%→4.1%(△3.0P)
		②経産牛頭数 : 14.2%→12.2%(△2.0P)	②経産牛頭数 : 5.6%→2.2%(△3.4P)	②経産牛頭数 : 3.9%→2.6%(△1.3P)
		③出荷乳量 : 15.5%→12.7%(△2.8P)	③出荷乳量 : 5.1%→2.3%(△2.8P)	③出荷乳量 : 3.5%→2.0%(△1.5P)
		④飼料作面積 : 13.3%→14.6%( 1.3P)	④飼料作面積 : 7.6%→6.7%(△0.9P)	④飼料作面積 : 3.3%→6.5%( 3.2P)
		⑤継続意向農家 : 9.7%→8.2%(△1.5P)	⑤継続意向農家 : 5.9%→2.6%(△3.3P)	⑤継続意向農家 : 6.8%→4.3%(△2.5P)
	50歳以上	【類型 ii a】 H19 →H26 (増減)	【類型 ii b】 H19 →H26 (増減)	【類型 ii c】 H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 19.6%→23.5%( 3.9P)	①酪農家戸数 : 18.8%→21.7%( 2.9P)	①酪農家戸数 : 41.4%→41.1%(△0.3P)
		②経産牛頭数 : 37.2%→43.0%( 5.8P)	②経産牛頭数 : 18.6%→19.9%( 1.3P)	②経産牛飼養 : 20.5%→20.1%(△0.4P)
		③出荷乳量 : 39.2%→44.6%( 5.4P)	③出荷乳量 : 18.3%→20.3%( 2.0P)	③出荷乳量 : 18.4%→18.1%(△0.3P)
		④飼料作面積 : 37.4%→36.3%(△1.1P)	④飼料作面積 : 17.0%→14.7%(△2.3P)	④飼料作面積 : 21.4%→21.2%(△0.2P)
	⑤継続意向農家 : 23.9%→25.3%( 1.4P)	⑤継続意向農家 : 21.2%→23.0%( 1.8P)	⑤継続意向農家 : 32.4%→36.5%( 4.1P)	

## [6] 東海

表Ⅱ-2-4Fによって、東海における生乳生産構造の現状と変容をみると、次のような特徴を指摘することができる。

- 東海における「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の類型別構成は、北海道も含めて他の地域とはやや異なっている。まず、各類型のウェイトを「①酪農家

戸数」の側面からみると、他の地域に比べて【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)のウェイトが著しく高く、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)と並んで3割前後に及んでいる。一方、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)が四国、九州と並んで約5割、【類型 i a】(若・壮齢/大規模)が中国、九州と並んで3割弱と他地域に比べてウェイトが高い。逆に、他の地域では1～2割を占めている【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)のウェイトが東海では1割未満と著しく低い。

- 平成19年度～26年度にかけての変化状況を見ると、大部分の地域で【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)のウェイトが大きく上昇している中で、東海では中国とともに【類型 i a】(若・壮齢/大規模)のウェイトが大きく上昇している点が目を引く。
- 【類型 i a】(若・壮齢/大規模)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが0.1ポイント減少したのに対して、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは3.4～4.0ポイント増加しており、このタイプの1戸当たりの生産・出荷規模が相対的に拡大したことがわかる。一方、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが3.9ポイント増加したのに対して、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは0.2～0.8ポイントの増加に止まっており、このタイプの1戸当たりの生産・出荷規模は相対的に縮小したといえることができる。
- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)で「⑤継続意向農家数」、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)で「①酪農家戸数」の方がやや高くなっており、今後は【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)のウェイトが更に高まり、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)のウェイトが漸減して行くことが推測される。
- 飼料生産に関しては、【類型 i a】(若・壮齢/大規模)、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)で「④飼料作物作付面積」のシェアがやや高まり、【類型 i b】(若・壮齢/中規模)でそれがやや低下している。これを、「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」のシェア変化と対比してみると、いずれも経産牛1頭当たり飼料作物作付面積の増減に起因するものであるといえることができる。

表Ⅱ-2-4F 経営主年齢・生乳出荷規模別類型の主要シェアの変化(東海)

集計酪農家戸数=1,138戸、889戸

		生乳の年間出荷規模					
		大規模(300t以上)		中規模(200～300t)		小規模(200t未満)	
経営主年齢		【類型 i a】	【類型 i b】	【類型 i c】	【類型 ii a】	【類型 ii b】	【類型 ii c】
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
50歳未満	①酪農家戸数	: 12.5%→12.4%(△0.1P)	: 6.4%→4.0%(△2.4P)	: 5.8%→5.1%(△0.7P)	: 30.0%→33.9%( 3.9P)	: 16.2%→16.5%( 0.3P)	: 29.2%→28.1%(△1.1P)
	②経産牛頭数	: 23.0%→27.0%( 4.0P)	: 4.6%→2.5%(△2.1P)	: 2.3%→1.8%(△0.5P)	: 49.4%→49.6%( 0.2P)	: 11.1%→10.3%(△0.8P)	: 9.7%→8.7%(△1.0P)
	③出荷乳量	: 24.6%→28.0%( 3.4P)	: 4.2%→2.4%(△1.8P)	: 1.9%→1.4%(△0.5P)	: 50.6%→51.4%( 0.8P)	: 10.5%→9.6%(△0.9P)	: 8.3%→7.3%(△1.0P)
	④飼料作面積	: 18.1%→23.1%( 5.0P)	: 7.7%→3.6%(△4.1P)	: 4.9%→2.8%(△2.1P)	: 36.5%→40.7%( 4.2P)	: 16.6%→15.3%(△1.3P)	: 16.2%→14.6%(△1.6P)
	⑤継続意向農家	: 16.4%→13.3%(△3.1P)	: 6.5%→4.4%(△2.1P)	: 5.4%→5.1%(△0.3P)	: 35.8%→36.7%( 0.9P)	: 16.7%→15.9%(△0.8P)	: 19.2%→24.6%( 5.4P)
50歳以上	①酪農家戸数	: 12.5%→12.4%(△0.1P)	: 6.4%→4.0%(△2.4P)	: 5.8%→5.1%(△0.7P)	: 30.0%→33.9%( 3.9P)	: 16.2%→16.5%( 0.3P)	: 29.2%→28.1%(△1.1P)
	②経産牛頭数	: 23.0%→27.0%( 4.0P)	: 4.6%→2.5%(△2.1P)	: 2.3%→1.8%(△0.5P)	: 49.4%→49.6%( 0.2P)	: 11.1%→10.3%(△0.8P)	: 9.7%→8.7%(△1.0P)
	③出荷乳量	: 24.6%→28.0%( 3.4P)	: 4.2%→2.4%(△1.8P)	: 1.9%→1.4%(△0.5P)	: 50.6%→51.4%( 0.8P)	: 10.5%→9.6%(△0.9P)	: 8.3%→7.3%(△1.0P)
	④飼料作面積	: 18.1%→23.1%( 5.0P)	: 7.7%→3.6%(△4.1P)	: 4.9%→2.8%(△2.1P)	: 36.5%→40.7%( 4.2P)	: 16.6%→15.3%(△1.3P)	: 16.2%→14.6%(△1.6P)
	⑤継続意向農家	: 16.4%→13.3%(△3.1P)	: 6.5%→4.4%(△2.1P)	: 5.4%→5.1%(△0.3P)	: 35.8%→36.7%( 0.9P)	: 16.7%→15.9%(△0.8P)	: 19.2%→24.6%( 5.4P)

## [7] 近畿

表Ⅱ-2-4Gによって、近畿における生乳生産構造の現状と変容をみると、次のような特徴を指摘することができる。

●近畿における「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の類型別構成は都府県全体でみた場合と比較的類似している。まず、「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)が約4割を占めて断然高く、以下【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)、【類型 ii b】(熟・高齢/中規模)が約2割、【類型 i a】(若・壮齢/大規模)、【類型 i c】(若・壮齢/小規模)、【類型 i b】(若・壮齢/中規模)が1割未満で続いている。

一方、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)が約5割を占めて断然高く、以下【類型 i a】(若・壮齢/大規模)、【類型 ii b】(熟・高齢/中規模)、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)が1~2割、【類型 i b】(若・壮齢/中規模)、【類型 i c】(若・壮齢/小規模)が1割未満で続いている。

●平成19年度~26年度にかけての変化状況をみると、都府県全体でみた場合と同様、多くのタイプのウェイトが低下又は現状維持に止まる中で、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)のウェイトが大きく上昇している点が目を引く。

●【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)では、この7年間に「①酪農家戸数」と「③出荷乳量」のシェアがほぼ同率で上昇しており、同類型における「③出荷乳量」のシェアの上昇は主としてこれに属する酪農家戸数の増加に起因しているともみることができる。

●平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)で「⑤継続意向農家数」のシェアの方が低く、今後は【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)のウェイトが漸減して行くことが推測される。

●飼料生産に関しては、【類型 i c】(若・壮齢/小規模)、【類型 i a】(若・壮齢/大規模)、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)で「④飼料作物作付面積」のシェアが高まっており、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)のシェアが大きく低下している。

このうち、【類型 i c】(若・壮齢/小規模)、【類型 i a】(若・壮齢/大規模)では、「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」以上に「④飼料作物作付面積」のシェアが上昇しており、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積が相対的に増加したことを示している。

一方、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)では、「④飼料作物作付面積」のシェアアップ幅が「②経産牛頭数」のそれを下回っており、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積は相対的に減少したことを示している。

また、【類型 ii c】では、「②経産牛頭数」のシェアダウン幅よりも「④飼料作物作付面積」のシェアダウン幅の方が大きく、同類型でも経産牛1頭当たり飼料作物作付面積が相対的に減少したものと推察される。

表Ⅱ - 2 - 4G 経営主年齢・生乳出荷規模別類型の主要シェアの変化（近畿）

集計酪農家戸数=755戸、524戸

		生乳の年間出荷規模		
		大規模（300 t 以上）	中規模（200～300 t）	小規模（200 t 未満）
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型 i a】</b> H19 →H26（増減）	<b>【類型 i b】</b> H19 →H26（増減）	<b>【類型 i c】</b> H19 →H26（増減）
		①酪農家戸数 : 7.8%→6.7%(△1.1P)	①酪農家戸数 : 4.2%→3.6%(△0.6P)	①酪農家戸数 : 5.8%→5.5%(△0.3P)
		②経産牛頭数 : 14.8%→15.6%( 0.8P)	②経産牛頭数 : 4.3%→3.0%(△1.3P)	②経産牛頭数 : 3.5%→2.6%(△0.9P)
		③出荷乳量 : 15.7%→16.6%( 0.9P)	③出荷乳量 : 4.1%→2.9%(△1.2P)	③出荷乳量 : 2.9%→2.1%(△0.8P)
		④飼料作面積 : 12.6%→19.3%( 6.7P)	④飼料作面積 : 7.5%→1.4%(△6.1P)	④飼料作面積 : 2.7%→11.5%( 8.8P)
	⑤継続意向農家 : 11.1%→7.4%(△3.7P)	⑤継続意向農家 : 5.3%→4.9%(△0.4P)	⑤継続意向農家 : 6.4%→5.1%(△1.3P)	
	50歳以上	<b>【類型 ii a】</b> H19 →H26（増減）	<b>【類型 ii b】</b> H19 →H26（増減）	<b>【類型 ii c】</b> H19 →H26（増減）
		①酪農家戸数 : 19.1%→25.2%( 6.1P)	①酪農家戸数 : 16.6%→20.2%( 3.6P)	①酪農家戸数 : 46.5%→38.7%(△7.8P)
		②経産牛頭数 : 38.1%→47.4%( 9.3P)	②経産牛頭数 : 17.7%→16.3%(△1.4P)	②経産牛頭数 : 21.7%→15.1%(△6.6P)
		③出荷乳量 : 42.7%→49.6%( 6.9P)	③出荷乳量 : 16.3%→15.9%(△0.4P)	③出荷乳量 : 18.3%→12.9%(△5.4P)
④飼料作面積 : 33.0%→39.0%( 6.0P)		④飼料作面積 : 16.3%→11.7%(△4.6P)	④飼料作面積 : 28.0%→17.2%(△10.8P)	
⑤継続意向農家 : 25.5%→29.2%( 3.7P)	⑤継続意向農家 : 18.0%→22.1%( 4.1P)	⑤継続意向農家 : 33.7%→31.3%(△2.4P)		

## [ 8 ] 中国

表Ⅱ - 2 - 4H によって、中国における生乳生産構造の現状と変容をみると、次のような特徴を指摘することができる。

- 中国における「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の類型別構成も都府県全体でみた場合と比較的類似している。まず、「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型 ii c】（熟・高齢／小規模）が約4割を占めて断然高く、以下【類型 ii a】（熟・高齢／大規模）が3割弱、【類型 ii b】（熟・高齢／中規模）、【類型 i a】（若・壮齢／大規模）が1～2割、【類型 i c】（若・壮齢／小規模）、【類型 i b】（若・壮齢／中規模）が1割未満で続いている。

一方、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型 ii a】（熟・高齢／大規模）が4～5割を占めて断然高く、以下【類型 i a】（若・壮齢／大規模）が3割弱、【類型 ii b】（熟・高齢／中規模）、【類型 ii c】（熟・高齢／小規模）が約1割、【類型 i b】（若・壮齢／中規模）、【類型 i c】（若・壮齢／小規模）が1割未満で続いている。ただし、【類型 i a】（若・壮齢／大規模）については、中国におけるシェアの方が都府県全体でみたシェアよりも高い。

- 平成19年度～26年度にかけての変化状況を見ると、他の地域とは異なり、【類型 i a】（若・壮齢／大規模）で「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアが大きく上昇している点が目を引く。同類型では、「①酪農家戸数」のシェアはあまり変化していないので、これは主として1戸当たり生産・出荷規模が相対的に拡大したことによるものと推察される。

【類型 ii a】（熟・高齢／大規模）でも「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアが上昇しているが、その上昇幅は都府県全体についてみられるほど大きくない。また、上記3シェアの上昇幅が近似しているところから、主として同類型に属する酪農家戸数の相対的増加に起因する変化と考えられる。

逆に、【類型 ii b】（熟・高齢／中規模）、【類型 ii c】（熟・高齢／小規模）では、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」のシェアが低下しているが、いずれも「①酪農家戸数」のシェア変化が小さいところから、1戸当たり生産・出荷規模が相対的に縮小したことによ

るものと推察される。

●平成 26 年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)で「⑤継続意向農家数」のシェアの方が「①酪農家戸数」のシェアより低く、今後は同類型のウェイトが漸減して行くことが推測される。

●飼料生産に関しては、【類型 i a】(若・壮齢/大規模)で「④飼料作物作付面積」のシェアが大きく高まり、【類型 ii b】(熟・高齢/中規模)でそれが低下している。

このうち、【類型 i a】(若・壮齢/大規模)では、「②経産牛頭数」以上に「④飼料作物作付面積」のシェアが上昇しており、1戸当たり経産牛飼養頭数の相対的増加だけではなく、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積の相対的増加によるところも大きいといえることができる。

一方、【類型 ii b】(熟・高齢/中規模)では、「②経産牛頭数」のシェア低下幅より大きく「④飼料作物作付面積」のシェアが低下しており、1戸当たり経産牛飼養頭数の相対的減少だけではなく、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積の相対的減少も影響しているといえることができる。

表 II - 2 - 4H 経営主年齢・生乳出荷規模別類型の主要シェアの変化 (中国)

集計酪農家戸数=695戸、729戸

		生乳の年間出荷規模		
		大規模 (300 t 以上)	中規模 (200~300 t)	小規模 (200 t 未満)
経営主年齢	50歳未満	<b>【類型 i a】</b>	<b>【類型 i b】</b>	<b>【類型 i c】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 10.4%→11.8%( 1.4P)	①酪農家戸数 : 4.6%→4.9%( 0.3P)	①酪農家戸数 : 8.2%→4.8%(△3.4P)
		②経産牛頭数 : 18.9%→25.5%( 6.6P)	②経産牛頭数 : 4.3%→3.6%(△0.7P)	②経産牛頭数 : 4.1%→2.3%(△1.8P)
		③出荷乳量 : 20.0%→26.0%( 6.0P)	③出荷乳量 : 4.0%→3.3%(△0.7P)	③出荷乳量 : 3.6%→1.8%(△1.8P)
	④飼料作面積 : 15.3%→28.8%( 13.5P)	④飼料作面積 : 5.5%→4.4%(△1.1P)	④飼料作面積 : 7.4%→4.8%(△2.6P)	
	⑤継続意向農家 : 13.6%→13.3%(△0.3P)	⑤継続意向農家 : 5.1%→5.2%( 0.1P)	⑤継続意向農家 : 7.4%→5.1%(△2.3P)	
	50歳以上	<b>【類型 ii a】</b>	<b>【類型 ii b】</b>	<b>【類型 ii c】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 20.4%→24.0%( 3.6P)	①酪農家戸数 : 17.7%→17.3%(△0.4P)	①酪農家戸数 : 38.7%→37.2%(△1.5P)
②経産牛頭数 : 41.0%→44.2%( 3.2P)		②経産牛頭数 : 15.3%→11.8%(△3.5P)	②経産牛頭数 : 16.3%→12.6%(△3.7P)	
③出荷乳量 : 43.4%→46.7%( 3.3P)		③出荷乳量 : 14.7%→11.3%(△3.4P)	③出荷乳量 : 14.3%→10.9%(△3.4P)	
④飼料作面積 : 33.5%→31.8%(△1.7P)	④飼料作面積 : 19.7%→13.7%(△6.0P)	④飼料作面積 : 18.6%→16.6%(△2.0P)		
⑤継続意向農家 : 24.3%→25.7%( 1.4P)	⑤継続意向農家 : 19.3%→17.3%(△2.0P)	⑤継続意向農家 : 30.2%→33.3%( 3.1P)		

[ 9 ] 四国

表 II - 2 - 4 I によって、四国における生乳生産構造の現状と変容をみると、次のような特徴を指摘することができる。

●四国における「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の類型別構成は都府県全体でみた場合と比較的類似している。まず、「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)が約4割で断然高く、以下【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)、【類型 ii b】(熟・高齢/中規模)が2割前後、【類型 i a】(若・壮齢/大規模)、【類型 i b】(若・壮齢/中規模)、【類型 i c】(若・壮齢/小規模)が1割未満で続いている。また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)が約5割で断然高く、以下【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)、【類型 i a】(若・壮齢/大規模)、【類型 ii b】(熟・高齢/中規模)が1~2割、【類型 i b】(若・壮齢/中規模)、【類型 i c】(若・壮齢/小規模)が1割未満で続いている。

ただし、東北に次いで【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)における「①酪農家戸数」のウェイト(4割強)が高く、東海、九州と並んで【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)における「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のウェイト(約5割)が著しく高いといった差異もみられる。

- 平成19年度～26年度にかけての変化状況を見ると、大部分の類型のウェイトが低下又は現状維持に止まる中で、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)のウェイトが大きく上昇しているのが目を引く。このような傾向は他の地域においても同様に認められるが、とりわけ四国と九州で顕著である。
- 詳細にみると、【類型 ii a】(熟・高齢/大規模)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが9.2ポイント増加したが、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは14.2～14.5ポイントとそれを上回る増加をみせており、この類型に属する酪農家戸数が増加したのと同時に、1戸当たり生産・出荷規模も相対的に拡大したといえることができる。
- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)で「⑤継続意向農家数」のシェアの方がやや低く、今後は【類型 ii c】のウェイトが微減して行くことが推測される。
- 飼料生産に関しては、【類型 i c】(若・壮齢/小規模)、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)で「④飼料作物作付面積」のシェアが低下し、他の類型でそのシェアが微増している。これらの類型について、「④飼料作物作付面積」のシェア変化と「②経産牛頭数」のシェア変化を比較してみると、【類型 i c】(若・壮齢/小規模)では前者、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)では後者の方が大きく低下しており、【類型 i c】(若・壮齢/小規模)では1頭当たり面積が相対的に減少したが、【類型 ii c】(熟・高齢/小規模)ではむしろ相対的に増加したものと推察される。・・・いるところから、「②経産牛頭数」のシェアとほぼ同じ位上昇していることから、この類型に属する酪農家戸数と1戸当たり飼養頭数の増加がその主因であったことがわかる。

表Ⅱ-2-4I 経営主年齢・生乳出荷規模別類型の主要シェアの変化(四国)

集計酪農家戸数=587戸、393戸

		生乳の年間出荷規模		
		大規模(300t以上)	中規模(200～300t)	小規模(200t未満)
		【類型 ii a】 H19 →H26 (増減)	【類型 ii b】 H19 →H26 (増減)	【類型 ii c】 H19 →H26 (増減)
経営主年齢	50歳未満	①酪農家戸数 : 7.3%→5.6%(△1.7P)	①酪農家戸数 : 3.7%→5.3%( 1.6P)	①酪農家戸数 : 9.4%→5.6%(△3.8P)
		②経産牛頭数 : 15.8%→12.8%(△3.0P)	②経産牛頭数 : 4.3%→4.7%( 0.4P)	②経産牛頭数 : 5.1%→2.8%(△2.3P)
		③出荷乳量 : 16.9%→13.0%(△3.9P)	③出荷乳量 : 4.0%→4.3%( 0.3P)	③出荷乳量 : 4.5%→2.2%(△2.3P)
		④飼料作面積 : 9.1%→10.8%( 1.7P)	④飼料作面積 : 7.8%→9.8%( 2.0P)	④飼料作面積 : 8.5%→2.9%(△5.6P)
		⑤継続意向農家 : 10.1%→6.0%(△4.1P)	⑤継続意向農家 : 4.5%→5.7%( 1.2P)	⑤継続意向農家 : 9.3%→6.3%(△3.0P)
	50歳以上	①酪農家戸数 : 15.5%→24.7%( 9.2P)	①酪農家戸数 : 14.5%→15.5%( 1.0P)	①酪農家戸数 : 49.6%→43.3%(△6.3P)
		②経産牛頭数 : 35.1%→49.3%( 14.2P)	②経産牛頭数 : 14.6%→12.6%(△2.0P)	②経産牛頭数 : 25.2%→17.8%(△7.4P)
		③出荷乳量 : 38.9%→53.4%( 14.5P)	③出荷乳量 : 14.6%→12.1%(△2.5P)	③出荷乳量 : 21.1%→14.9%(△6.2P)
		④飼料作面積 : 27.8%→31.7%( 3.9P)	④飼料作面積 : 17.7%→18.9%( 1.2P)	④飼料作面積 : 29.2%→25.9%(△3.3P)
		⑤継続意向農家 : 21.1%→26.1%( 5.0P)	⑤継続意向農家 : 17.1%→14.9%(△2.2P)	⑤継続意向農家 : 37.9%→41.0%( 3.1P)

[10] 九州

表Ⅱ-2-4Jによって、九州における生乳生産構造の現状と変容をみると、次のような特徴を指摘することができる。

- 九州における「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の類型別構成は、東海とともに都府県の他の地域とは異なった傾向をみせている。まず、各類型のウェイトを「①酪農家戸数」の側面からみると、他の地域に比べて【類型ii a】(熟・高齢／大規模)のウェイトが著しく高く、【類型ii c】(熟・高齢／小規模)と並んで3割前後に及んでいる。
- 一方、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型ii a】(熟・高齢／大規模)のウェイトが東海、四国と並んで約5割、【類型i a】(若・壮齢／大規模)のウェイトが東海、中国と並んで2～3割と他地域に比べて高い。
- 平成19年度～26年度にかけての変化状況をみると、【類型ii a】(熟・高齢／大規模)のウェイトが著しく大きく上昇している。この傾向は他の多くの地域についても認められるが、九州と四国において特に顕著である。
- 【類型ii a】(熟・高齢／大規模)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが約10ポイント増加したのに対して、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは12～13ポイント増加しており、この類型の1戸当たりの生産・出荷規模は以前よりも大きく拡大したことがわかる。
- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型ii c】(熟・高齢／小規模)で「⑤継続意向農家数」よりも「①酪農家戸数」の方がやや高くなっており、今後はこの類型のウェイトが微減して行くことが推測される。
- 飼料生産に関しては、【類型ii a】(熟・高齢／大規模)で「④飼料作物作付面積」のシェアがやや高まり、【類型i b】(若・壮齢／中規模)でそれがやや低下している。これを、「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」のシェア変化と対比してみると、【類型ii a】(熟・高齢／大規模)では「④飼料作物作付面積」のシェア上昇分が「①酪農家戸数」のシェア上昇分を下回っており、その1戸当たり面積はむしろ縮小の方向にあるということが出来る。また、【類型i b】(若・壮齢／中規模)では「④飼料作物作付面積」のシェア低下分が「②経産牛頭数」のシェア低下分と近似しており、同類型における経産牛飼養頭数の減少が「④飼料作物作付面積」のシェア低下の主因であると考えられる。

表Ⅱ-2-4J 経営主年齢・生乳出荷規模別類型の主要シェアの変化(九州)

集計酪農家戸数=2,038戸、1,560戸

		生乳の年間出荷規模								
		大規模(300t以上)		中規模(200~300t)		小規模(200t未満)				
		【類型i a】	【類型i b】	【類型i c】	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)			
経営主年齢	50歳未満	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)			
		①酪農家戸数 : 14.0%→15.3%( 1.3P)	①酪農家戸数 : 7.8%→ 5.3%(△2.5P)	①酪農家戸数 : 10.4%→ 6.0%(△4.4P)	②経産牛頭数 : 23.7%→24.4%( 0.7P)	②経産牛頭数 : 6.7%→ 3.5%(△3.2P)	②経産牛頭数 : 5.4%→ 2.8%(△2.6P)	③出荷乳量 : 25.6%→25.5%(△0.1P)	③出荷乳量 : 6.3%→ 3.3%(△3.0P)	③出荷乳量 : 4.4%→ 2.0%(△2.4P)
		④飼料作面積 : 18.7%→22.0%( 3.3P)	④飼料作面積 : 7.4%→ 5.8%(△1.6P)	④飼料作面積 : 7.8%→ 5.0%(△2.8P)	⑤継続意向農家 : 16.6%→17.0%( 0.4P)	⑤継続意向農家 : 8.4%→ 5.6%(△2.8P)	⑤継続意向農家 : 9.0%→ 5.9%(△3.1P)			
		②経産牛頭数 : 23.7%→24.4%( 0.7P)	②経産牛頭数 : 6.7%→ 3.5%(△3.2P)	②経産牛頭数 : 5.4%→ 2.8%(△2.6P)	③出荷乳量 : 25.6%→25.5%(△0.1P)	③出荷乳量 : 6.3%→ 3.3%(△3.0P)	③出荷乳量 : 4.4%→ 2.0%(△2.4P)			
		⑤継続意向農家 : 16.6%→17.0%( 0.4P)	⑤継続意向農家 : 8.4%→ 5.6%(△2.8P)	⑤継続意向農家 : 9.0%→ 5.9%(△3.1P)						
	50歳以上	【類型ii a】	【類型ii b】	【類型ii c】	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)			
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)			
		①酪農家戸数 : 20.3%→30.1%( 9.8P)	①酪農家戸数 : 16.4%→14.6%(△1.8P)	①酪農家戸数 : 31.1%→28.8%(△2.3P)	②経産牛頭数 : 35.7%→48.1%( 12.4P)	②経産牛頭数 : 14.0%→ 9.8%(△4.2P)	②経産牛頭数 : 14.5%→11.4%(△3.1P)	③出荷乳量 : 38.4%→50.9%( 12.5P)	③出荷乳量 : 13.2%→ 9.3%(△3.9P)	③出荷乳量 : 12.1%→ 8.9%(△3.2%)
		④飼料作面積 : 32.2%→38.7%( 6.5P)	④飼料作面積 : 15.7%→11.7%(△4.0P)	④飼料作面積 : 18.2%→16.7%(△1.5P)	⑤継続意向農家 : 25.0%→31.7%( 6.7P)	⑤継続意向農家 : 17.9%→14.6%(△3.3P)	⑤継続意向農家 : 23.1%→25.3%( 2.2P)			
		⑤継続意向農家 : 25.0%→31.7%( 6.7P)	⑤継続意向農家 : 17.9%→14.6%(△3.3P)	⑤継続意向農家 : 23.1%→25.3%( 2.2P)						

### (3) 「経産牛飼養規模×1頭当り出荷乳量」に基づく類型化と生産構造の変容分析

以下の分析で取り上げる経営類型化の基準と各類型の定義は、表Ⅱ-2-5に示したとおりである。

この類型化を行うに当たっては、経産牛規模を「大規模」、「中規模」、「小規模」の3階層に区分したが、酪農家1戸当たり経産牛飼養頭数に関する北海道・都府県間の著しい較差を考慮して、北海道と都府県では異なった区分の基準を設定することとした。従って、北海道と都府県の結果をそのまま比較することはできないので注意されたい。

表Ⅱ-2-5 「経産牛飼養規模と経産牛1頭当り乳量」に基づく類型化の基準と定義

#### ＜北海道＞

		経産牛1頭当り乳量		
		高乳量	中乳量	低乳量
経産牛飼養規模	大規模	<b>【類型1α】</b> ①経産牛飼養頭数：100頭以上 ②1頭当り乳量：9000kg以上 ※高乳量牛を大規模飼養	<b>【類型1β】</b> ①経産牛飼養頭数：100頭以上 ②1頭当り乳量：7000～9000kg未満 ※中乳量牛を大規模飼養	<b>【類型1γ】</b> ①経産牛飼養頭数：100頭以上 ②1頭当り乳量：7000kg未満 ※低乳量牛を大規模飼養
	中規模	<b>【類型2α】</b> ①経産牛飼養頭数：50～100頭未満 ②1頭当り乳量：9000kg以上 ※高乳量牛を中規模飼養	<b>【類型2β】</b> ①経産牛飼養頭数：50～100頭未満 ②1頭当り乳量：7000～9000kg未満 ※中乳量牛を中規模飼養	<b>【類型2γ】</b> ①経産牛飼養頭数：50～100頭未満 ②1頭当り乳量：7000kg未満 ※低乳量牛を中規模飼養
	小規模	<b>【類型3α】</b> ①経産牛飼養頭数：50頭未満 ②1頭当り乳量：9000kg以上 ※高乳量牛を小規模飼養	<b>【類型3β】</b> ①経産牛飼養頭数：50頭未満 ②1頭当り乳量：7000～9000kg未満 ※中乳量牛を小規模飼養	<b>【類型3γ】</b> ①経産牛飼養頭数：50頭未満 ②1頭当り乳量：7000kg未満 ※低乳量牛を小規模飼養

#### ＜都府県＞

		経産牛1頭当り乳量		
		高乳量	中乳量	低乳量
経産牛飼養規模	大規模	<b>【類型1α】</b> ①経産牛飼養頭数：50頭以上 ②1頭当り乳量：9000kg以上 ※高乳量牛を大規模飼養	<b>【類型1β】</b> ①経産牛飼養頭数：50頭以上 ②1頭当り乳量：7000～9000kg未満 ※中乳量牛を大規模飼養	<b>【類型1γ】</b> ①経産牛飼養頭数：50頭以上 ②1頭当り乳量：7000kg未満 ※低乳量牛を大規模飼養
	中規模	<b>【類型2α】</b> ①経産牛飼養頭数：20～50頭未満 ②1頭当り乳量：9000kg以上 ※高乳量牛を中規模飼養	<b>【類型2β】</b> ①経産牛飼養頭数：20～50頭未満 ②1頭当り乳量：7000～9000kg未満 ※中乳量牛を中規模飼養	<b>【類型2γ】</b> ①経産牛飼養頭数：20～50頭未満 ②1頭当り乳量：7000kg未満 ※低乳量牛を中規模飼養
	小規模	<b>【類型3α】</b> ①経産牛飼養頭数：20頭未満 ②1頭当り乳量：9000kg以上 ※高乳量牛を小規模飼養	<b>【類型3β】</b> ①経産牛飼養頭数：20頭未満 ②1頭当り乳量：7000～9000kg未満 ※中乳量牛を小規模飼養	<b>【類型3γ】</b> ①経産牛飼養頭数：20頭未満 ②1頭当り乳量：7000kg未満 ※低乳量牛を小規模飼養

上記の定義に従って、地域別に生乳生産の構造とその変容に関する指標を整理すると「表Ⅱ-2-6A」～「表Ⅱ-2-6J」のようになる。これらの表を概観すると、生産構造の現状やその変化の様は地域により様々であるが、「①酪農家戸数」のシェアで見ると大部分の地域で**【類型2β】**（中規模／中乳量）のシェアが最も高く、**【類型1γ】**（大規模／低乳量）のシェアが最も低くなっている。また、最近7年間の「①酪農家戸数」のシェア変化で見ると、**【類型1α】**（大規模／高乳量）、**【類型2α】**（中規模／高乳量）がシェアアップし、**【類型3γ】**（小規模／低乳量）、**【類型2γ】**（中規模／低乳量）がシェアダウンしている地域が多い。なお、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアでは、多くの地域で**【類型1β】**（大規模／中乳量）か**【類型2β】**（中規模／中乳量）が最高となっている。

地域別分析結果の詳細は以下のとおりである。

## [1] 北海道

表Ⅱ-2-6Aは、北海道について、「経産牛飼養規模×経産牛1頭当たり出荷乳量」類型別に主要指標のシェアとその変化状況を表示したものである。同表によれば、北海道における生乳生産構造の現状と変容について、次のような点を指摘することができる。

●各類型のウェイトを「①酪農家戸数」の側面からみると、前述のように【類型2β】(中規模/中乳量)が22%を占めて最も高く、これに【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)が15%前後で続いている。逆に、【類型1γ】(大規模/低乳量)は3%と著しく低い。

また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型2β】(中規模/中乳量)、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)が比較的高く、【類型3α】(小規模/高乳量)、【類型1γ】(大規模/低乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)が著しく低い。

●平成19年度～26年度にかけての各類型のウェイト変化を「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2α】(中規模/高乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトアップと、【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)のウェイトダウンが目を見られる。

また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトアップが著しい外、【類型2α】(中規模/高乳量)のウェイトアップと【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)のウェイトダウンが目につく。

●【類型1α】(大規模/高乳量)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアも増加したが、それ以上に「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアが増加しており、この類型に属する酪農家戸数が相対的に増加しただけではなく、1戸当たり生産・出荷規模も相対的に拡大したといえる。

●平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、どの類型でも双方の値が近似しており、類型別酪農家戸数の構成は今後も現状に近い形で推移して行くものと推測される。

●「④飼料作物作付面積」に関しては、【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型2α】(中規模/高乳量)でシェアが高まり、【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)でシェアが低下している。

このうち、【類型2α】(中規模/高乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)、【類型2γ】(中規模/低乳量)では「④飼料作物作付面積」と「②経産牛頭数」のシェア変化分が近似しており、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積はあまり変化していないものと推察される。一方、【類型1α】(大規模/高乳量)では、「②経産牛頭数」に関するシェアの増分より「④飼料作物作付面積」に関するシェアの増分の方が小さく、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積はむしろ減少の方向にあるといえる。

表Ⅱ - 2 - 6A 経産牛飼養規模・経産牛1頭当たり乳量別類型の主要シェアの変化（北海道）

集計酪農家戸数=4,162戸、6,020戸

		経産牛1頭当たり乳量		
		高乳量(9000kg)	中乳量(7000~9000kg未満)	低乳量(7000kg未満)
経産牛飼養規模	大規模 (100頭以上)	【類型1α】	【類型1β】	【類型1γ】
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 2.4%→6.8%(4.4P)	①酪農家戸数 : 8.1%→8.3%(0.2P)	①酪農家戸数 : 3.3%→2.5%(△0.8P)
		②経産牛頭数 : 6.7%→17.5%(10.8P)	②経産牛頭数 : 19.0%→18.9%(△0.1P)	②経産牛頭数 : 7.4%→5.2%(△2.2P)
		③出荷乳量 : 8.5%→21.2%(12.7P)	③出荷乳量 : 20.1%→19.0%(△1.1P)	③出荷乳量 : 5.6%→3.7%(△1.9P)
	④飼料作面積 : 4.9%→12.1%(7.2P)	④飼料作面積 : 14.9%→14.1%(△0.8P)	④飼料作面積 : 5.1%→4.3%(△0.8P)	
	⑤継続意向農家 : 2.7%→7.2%(4.5P)	⑤継続意向農家 : 9.2%→8.8%(△0.4P)	⑤継続意向農家 : 3.7%→2.5%(△1.2P)	
	中規模 (50~100頭未満)	【類型2α】	【類型2β】	【類型2γ】
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
①酪農家戸数 : 7.4%→12.2%(4.8P)		①酪農家戸数 : 23.4%→21.7%(△1.7P)	①酪農家戸数 : 16.4%→12.2%(△4.2P)	
②経産牛頭数 : 7.4%→11.3%(3.9P)		②経産牛頭数 : 23.0%→19.4%(△3.6P)	②経産牛頭数 : 15.6%→10.7%(△4.9P)	
③出荷乳量 : 9.5%→13.7%(4.2P)		③出荷乳量 : 24.0%→19.1%(△4.9P)	③出荷乳量 : 12.4%→7.8%(△4.6P)	
④飼料作面積 : 6.8%→11.1%(4.3P)	④飼料作面積 : 25.4%→22.0%(△3.4P)	④飼料作面積 : 17.3%→13.0%(△4.3P)		
⑤継続意向農家 : 8.2%→12.6%(4.4P)	⑤継続意向農家 : 25.0%→22.2%(△2.8P)	⑤継続意向農家 : 16.6%→12.3%(△4.3P)		
小規模 (50頭未満)	【類型3α】	【類型3β】	【類型3γ】	
	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	
	①酪農家戸数 : 4.7%→5.9%(1.2P)	①酪農家戸数 : 16.3%→14.9%(△1.4P)	①酪農家戸数 : 18.0%→15.5%(△2.5P)	
	②経産牛頭数 : 2.6%→2.9%(0.3P)	②経産牛頭数 : 9.0%→7.3%(△1.7P)	②経産牛頭数 : 9.3%→6.9%(△2.4P)	
	③出荷乳量 : 3.3%→3.5%(0.2P)	③出荷乳量 : 9.3%→7.1%(△2.2P)	③出荷乳量 : 7.1%→4.9%(△2.2P)	
④飼料作面積 : 2.7%→3.6%(0.9P)	④飼料作面積 : 10.5%→9.7%(△0.8P)	④飼料作面積 : 12.3%→10.2%(△2.1P)		
⑤継続意向農家 : 4.6%→5.4%(0.8P)	⑤継続意向農家 : 14.8%→14.2%(△0.6P)	⑤継続意向農家 : 15.2%→14.8%(△0.4P)		

## 〔2〕都府県

都府県全体について、「経産牛飼養規模×経産牛1頭当たり出荷乳量」類型別に主要指標のシェアとその変化状況を表示すると表Ⅱ - 2 - 6Bのようになる。同表によれば、都府県における生乳生産構造の現状と変容について、次のような点を指摘することができる。

- 各類型のウェイトを「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2β】(中規模/中乳量)が27%を占めて北海道と同様最も高く、逆に【類型1γ】(大規模/低乳量)、【類型3α】(小規模/高乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)は10%未満と低い。その他の類型のシェアはそれぞれ11~13%で並んでいる。

また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)が比較的高く、【類型3α】(小規模/高乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型1γ】(大規模/低乳量)が特に低い。

- 平成19年度~26年度にかけての各類型のウェイト変化をみると、北海道と比較的類似した傾向がみられる。即ち、「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型2α】(中規模/高乳量)、【類型1β】(大規模/中乳量)のウェイトアップと、【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型2γ】(中規模/低乳量)のウェイトダウンが目を引く。

また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトアップが著しい外、【類型1β】(大規模/中乳量)のウェイトアップと【類型2β】(中規模/中乳量)、【類型2γ】(中規模/低乳量)のウェイトダウンも目を引く。

- 【類型1α】(大規模/高乳量)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアも増加したが、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアはそれよりもはるかに大きく増

加しており、この類型に属する酪農家戸数が相対的に増加しただけではなく、1戸当たり生産・出荷規模も大きく拡大したといえる。

●平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、どの類型でも双方の値が近似しており、類型別酪農家戸数の構成は今後も現状に近い形で推移して行くものと推測される。

●「④飼料作物作付面積」に関しては、特に【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)でシェアが高まり、【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)でシェアが低下している。

このうち、【類型2γ】(中規模/低乳量)では「④飼料作物作付面積」と「②経産牛頭数」のシェア変化分が近似しており、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積はあまり変化していないものと推察される。また、【類型1β】(大規模/中乳量)では「②経産牛頭数」シェアの増加分より「④飼料作物作付面積」シェアの増加分の方がやや大きく、【類型2β】(中規模/中乳量)では「②経産牛頭数」シェアの減少分よりも「④飼料作物作付面積」シェアの減少分の方がやや小さいところから、両類型の経産牛1頭当たり飼料作物作付面積は若干ながら増加したとみることができる。一方、【類型1α】(大規模/高乳量)では、「②経産牛頭数」に関するシェアの増加分より「④飼料作物作付面積」に関するシェアの増加分の方が小さく、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積はむしろ減少の方向にあるといえる。

表Ⅱ-2-6B 経産牛飼養規模・経産牛1頭当たり乳量別類型の主要シェアの変化(都府県)

集計酪農家戸数=12,052戸、9,714戸

		経産牛1頭当たり乳量					
		高乳量(9000kg)		中乳量(7000~9000kg未満)		低乳量(7000kg未満)	
経産牛飼養規模	大規模(50頭以上)	【類型1α】	【類型1β】		【類型1γ】		
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		
		①酪農家戸数 : 4.5%→7.4%( 2.9P)	①酪農家戸数 : 8.7%→10.5%( 1.8P)	①酪農家戸数 : 2.3%→2.2%(△0.1P)			
		②経産牛頭数 : 12.8%→20.6%( 7.8P)	②経産牛頭数 : 22.6%→25.5%( 2.9P)	②経産牛頭数 : 5.1%→5.2%( 0.1P)			
		③出荷乳量 : 15.8%→24.5%( 8.7P)	③出荷乳量 : 23.1%→25.4%( 2.3P)	③出荷乳量 : 3.8%→3.7%(△0.1P)			
	④飼料作面積 : 7.1%→10.6%( 3.5P)	④飼料作面積 : 15.5%→19.8%( 4.3P)	④飼料作面積 : 4.9%→5.0%( 0.1P)				
	⑤継続意向農家 : 5.8%→8.0%( 2.2P)	⑤継続意向農家 : 11.1%→11.4%( 0.3P)	⑤継続意向農家 : 2.9%→2.4%(△0.5P)				
	中規模(50~100頭未満)	【類型2α】	【類型2β】		【類型2γ】		
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		
①酪農家戸数 : 8.8%→11.6%( 2.8P)		①酪農家戸数 : 27.6%→26.8%(△0.8P)	①酪農家戸数 : 15.5%→12.8%(△2.7P)				
②経産牛頭数 : 8.4%→9.4%( 1.0P)		②経産牛頭数 : 26.4%→21.5%(△4.9P)	②経産牛頭数 : 13.6%→9.4%(△4.2P)				
③出荷乳量 : 10.4%→11.2%( 0.8P)		③出荷乳量 : 26.5%→21.0%(△5.5P)	③出荷乳量 : 10.4%→6.8%(△3.6P)				
④飼料作面積 : 9.3%→11.0%( 1.7P)	④飼料作面積 : 30.9%→27.6%(△3.3P)	④飼料作面積 : 17.1%→12.5%(△4.6P)					
⑤継続意向農家 : 9.7%→11.8%( 2.1P)	⑤継続意向農家 : 31.1%→28.1%(△3.0P)	⑤継続意向農家 : 16.1%→13.0%(△3.1P)					
小規模(20頭未満)	【類型3α】	【類型3β】		【類型3γ】			
	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)			
	①酪農家戸数 : 4.9%→5.1%( 0.2P)	①酪農家戸数 : 11.1%→11.2%( 0.1P)	①酪農家戸数 : 16.7%→12.5%(△4.2P)				
	②経産牛頭数 : 1.6%→1.5%(△0.1P)	②経産牛頭数 : 4.0%→3.5%(△0.5P)	②経産牛頭数 : 5.6%→3.5%(△2.1P)				
	③出荷乳量 : 2.1%→1.8%(△0.3P)	③出荷乳量 : 4.0%→3.3%(△0.7P)	③出荷乳量 : 3.9%→2.4%(△1.5P)				
④飼料作面積 : 2.2%→2.6%( 0.4P)	④飼料作面積 : 5.0%→5.0%( 0.0P)	④飼料作面積 : 8.1%→6.0%(△2.1P)					
⑤継続意向農家 : 3.2%→4.1%( 0.9P)	⑤継続意向農家 : 7.8%→10.0%( 2.2P)	⑤継続意向農家 : 12.4%→11.1%(△1.3P)					

### [3] 東北

表Ⅱ-2-6Cによって、東北における生乳生産構造の現状と変容をみると、次のような特徴を指摘することができる。

- 東北における経営類型別構成を「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2β】(中規模/中乳量)が24%を占めて最も高く、これに【類型3γ】(小規模/低乳量)が19%、【類型3β】(小規模/中乳量)が16%で続いている。逆に、【類型1γ】(大規模/低乳量)は1%、【類型1α】(大規模/高乳量)は4%と極めて低い。  
また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型2β】(中規模/中乳量)が26%、【類型1β】(大規模/中乳量)が20%で比較的高く、逆に【類型3α】(小規模/高乳量)は2~3%と著しく低い。  
これを都府県全体でみた場合と比較すると、東北は都府県全体に比べて【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)のウェイトが高く、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトが低い。
- 平成19年度~26年度にかけての各類型のウェイト変化を「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2α】(中規模/高乳量)のウェイトアップと、【類型3γ】(小規模/低乳量)のウェイトダウンが目を見られる。  
また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1β】(大規模/中乳量)のウェイトアップが著しい外、【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型2α】(中規模/高乳量)のウェイトアップと、【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)のウェイトダウンも目を見られる。  
これを都府県全体でみた場合と比較すると、東北は都府県全体よりも【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型2α】(中規模/高乳量)のウェイトが大きく上昇しており、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトの上昇幅が小さい。また、【類型3γ】(小規模/低乳量)のウェイトが都府県全体より大きく低下している点も目を見られる。
- 【類型1β】(大規模/高乳量)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアも増加したが、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアはそれ以上に増加しており、この類型に属する酪農家戸数の相対的増加に加えて、1戸当たり生産・出荷規模も相対的に拡大したといえることができる。
- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、どの類型でも双方の値が近似しており、類型別酪農家戸数の構成は今後も現状に近い形で推移して行くものと推測される。
- 「④飼料作物作付面積」に関しては、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型2α】(中規模/高乳量)でシェアが高まり、【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)でシェアが低下している。  
このうち、【類型2α】(中規模/高乳量)、【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)では「④飼料作物作付面積」と「②経産牛頭数」のシェア変化分が近似しており、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積はあまり変化していないものと推察される。また、【類型1β】(大規模/中乳量)では「②経産牛頭数」シェアの増分よりも「④飼料作物作付面積」シェアの増分の方が若干小さいところから、この類型の経産牛1頭当たり飼料作物作付面積は僅かではあるがむしろ減少の方向にあるといえる。

表Ⅱ - 2 - 6C 経産牛飼養規模・経産牛1頭当たり乳量別類型の主要シェアの変化（東北）

集計酪農家戸数=2,465戸、2,071戸

		経産牛1頭当たり乳量					
		高乳量(9000kg)		中乳量(7000~9000kg未満)		低乳量(7000kg未満)	
経産牛飼養規模	大規模 (50頭以上)	【類型1α】	【類型1β】		【類型1γ】		
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		
		①酪農家戸数 : 2.0%→3.8%( 1.8P)	①酪農家戸数 : 4.4%→6.6%( 2.2P)	①酪農家戸数 : 1.7%→1.4%(△0.3P)			
		②経産牛頭数 : 6.2%→9.9%( 3.7P)	②経産牛頭数 : 14.5%→19.7%( 5.2P)	②経産牛頭数 : 4.6%→6.4%( 1.8P)			
		③出荷乳量 : 8.0%→12.5%( 4.5P)	③出荷乳量 : 15.3%→20.4%( 5.1P)	③出荷乳量 : 3.3%→4.3%( 1.0P)			
	④飼料作面積 : 4.3%→5.9%( 1.6P)	④飼料作面積 : 10.5%→14.6%( 4.1P)	④飼料作面積 : 4.5%→4.9%( 0.4P)				
	⑤継続意向農家 : 2.5%→4.0%( 1.5P)	⑤継続意向農家 : 5.4%→7.2%( 1.8P)	⑤継続意向農家 : 2.0%→1.5%(△0.5P)				
	中規模 (50~100頭未満)	【類型2α】	【類型2β】		【類型2γ】		
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		
①酪農家戸数 : 6.6%→10.4%( 3.8P)		①酪農家戸数 : 22.9%→24.1%( 1.2P)	①酪農家戸数 : 13.7%→12.4%(△1.3P)				
②経産牛頭数 : 8.3%→10.9%( 2.6P)		②経産牛頭数 : 29.2%→25.7%(△3.5P)	②経産牛頭数 : 16.1%→12.1%(△4.0P)				
③出荷乳量 : 10.8%→13.8%( 3.0P)		③出荷乳量 : 30.7%→26.3%(△4.4P)	③出荷乳量 : 12.8%→8.7%(△4.1P)				
④飼料作面積 : 8.9%→12.0%( 3.1P)	④飼料作面積 : 31.3%→30.5%(△0.8P)	④飼料作面積 : 19.2%→14.7%(△4.5P)					
⑤継続意向農家 : 7.4%→10.9%( 3.5P)	⑤継続意向農家 : 26.2%→25.3%(△0.9P)	⑤継続意向農家 : 15.4%→13.0%(△2.4P)					
小規模 (20頭未満)	【類型3α】	【類型3β】		【類型3γ】			
	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)			
	①酪農家戸数 : 5.5%→6.6%( 1.1P)	①酪農家戸数 : 17.0%→16.0%(△1.0P)	①酪農家戸数 : 26.1%→18.8%(△7.3P)				
	②経産牛頭数 : 2.2%→2.4%( 0.2P)	②経産牛頭数 : 8.0%→6.2%(△1.8P)	②経産牛頭数 : 10.9%→6.6%(△4.3P)				
	③出荷乳量 : 3.0%→3.1%( 0.1P)	③出荷乳量 : 8.3%→6.2%(△2.1P)	③出荷乳量 : 7.9%→4.7%(△3.2P)				
④飼料作面積 : 2.4%→3.1%( 0.7P)	④飼料作面積 : 7.4%→7.1%(△0.3P)	④飼料作面積 : 11.6%→7.3%(△4.3P)					
⑤継続意向農家 : 4.4%→5.8%( 1.4P)	⑤継続意向農家 : 14.4%→15.0%( 0.6P)	⑤継続意向農家 : 22.2%→17.4%(△4.8P)					

#### [4] 関東

表Ⅱ - 2 - 6Dによって、関東における生乳生産構造の現状と変容をみると、前述の都府県全体でみた場合と類似した傾向が多くみられる。詳細は、以下のとおりである。

●関東における「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の類型別構成は、都府県全体でみた場合と比較的類似している。

先ず、「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2β】（中規模／中乳量）が28%を占めて他の地域と同様最も大きく、これに【類型2γ】（中規模／低乳量）が15%で続いている。逆に、【類型1γ】（大規模／低乳量）は2%、【類型3α】（小規模／高乳量）は4%と著しく低い。

また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1β】（大規模／中乳量）、【類型1α】（大規模／高乳量）、【類型2β】（中規模／中乳量）が比較的高く、【類型3α】（小規模／高乳量）、【類型3β】（小規模／中乳量）、【類型3γ】（小規模／低乳量）が著しく低い。

●平成19年度～26年度にかけての各類型のウェイト変化を「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型1α】（大規模／高乳量）、【類型1β】（大規模／中乳量）のウェイトアップと、【類型3γ】（小規模／低乳量）のウェイトダウンが目立つ。

また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1α】（大規模／高乳量）のウェイトアップが著しい外、【類型1β】（大規模／中乳量）のウェイトアップと【類型2β】（中規模／中乳量）、【類型2γ】（中規模／低乳量）のウェイトダウンも目立つ。

- 【類型1α】(大規模/高乳量)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアも増加したが、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアはそれ以上に大きく増加しており、この類型に属する酪農家戸数が相対的に増加しただけではなく、1戸当たり生産・出荷規模も大きく拡大したといえることができる。
- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、どの類型でも双方の値が近似しており、類型別酪農家戸数の構成は今後も現状に近い形で推移して行くものと推測される。
- 「④飼料作物作付面積」に関しては、都府県全体でみた場合と同様、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)でシェアが高まり、【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)でシェアが低下している。  
このうち、【類型1β】(大規模/中乳量)では「④飼料作物作付面積」と「②経産牛頭数」のシェア変化分が近似しており、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積はあまり変化していないものと推察される。また、【類型2β】(中規模/中乳量)では「②経産牛頭数」シェアの減少分よりも「④飼料作物作付面積」シェアの減少分の方が小さく、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積は相対的に増加したものと推察される。一方、【類型1α】(大規模/高乳量)では、「②経産牛頭数」に関するシェアの増加分より「④飼料作物作付面積」に関するシェアの増加分の方が小さく、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積はむしろ減少の方向にあるといえる。同様に、【類型2γ】(中規模/低乳量)では「②経産牛頭数」シェアの減少分よりも「④飼料作物作付面積」シェアの減少分の方がやや大きいところから、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積は若干ながら減少したとみることができる。

表Ⅱ-2-6D 経産牛飼養規模・経産牛1頭当たり乳量別類型の主要シェアの変化(関東)

集計酪農家戸数=3,803戸、3,191戸

		経産牛1頭当たり乳量		
		高乳量(9000kg)	中乳量(7000~9000kg未満)	低乳量(7000kg未満)
経産牛飼養規模	大規模 (50頭以上)	【類型1α】	【類型1β】	【類型1γ】
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 4.5%→6.9%( 2.4P)	①酪農家戸数 : 8.1%→10.2%( 2.1P)	①酪農家戸数 : 2.6%→2.4%(△0.2P)
		②経産牛頭数 : 13.2%→21.2%( 8.0P)	②経産牛頭数 : 20.5%→24.9%( 4.4P)	②経産牛頭数 : 5.5%→5.3%(△0.2P)
		③出荷乳量 : 16.2%→25.1%( 8.9P)	③出荷乳量 : 20.8%→24.8%( 4.0P)	③出荷乳量 : 4.2%→3.9%(△0.3P)
	④飼料作面積 : 9.0%→12.4%( 3.4P)	④飼料作面積 : 14.4%→19.4%( 5.0P)	④飼料作面積 : 5.4%→5.3%(△0.1P)	
	⑤継続意向農家 : 5.9%→7.7%( 1.8P)	⑤継続意向農家 : 10.3%→11.1%( 0.8P)	⑤継続意向農家 : 3.3%→2.5%(△0.8P)	
	中規模 (50~100頭未満)	【類型2α】	【類型2β】	【類型2γ】
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
①酪農家戸数 : 10.2%→11.3%( 1.1P)		①酪農家戸数 : 29.6%→28.4%(△1.2P)	①酪農家戸数 : 16.5%→15.0%(△1.5P)	
②経産牛頭数 : 9.6%→8.9%(△0.7P)		②経産牛頭数 : 27.5%→21.7%(△5.8P)	②経産牛頭数 : 13.9%→10.4%(△3.5P)	
③出荷乳量 : 11.8%→10.6%(△1.2P)		③出荷乳量 : 27.6%→21.2%(△6.4P)	③出荷乳量 : 10.7%→7.7%(△3.0P)	
④飼料作面積 : 10.3%→9.3%(△1.0P)	④飼料作面積 : 31.5%→27.9%(△3.6P)	④飼料作面積 : 17.7%→12.7%(△5.0P)		
⑤継続意向農家 : 11.2%→11.7%( 0.5P)	⑤継続意向農家 : 34.2%→29.8%(△4.4P)	⑤継続意向農家 : 17.8%→15.5%(△2.3P)		
小規模 (20頭未満)	【類型3α】	【類型3β】	【類型3γ】	
	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	
	①酪農家戸数 : 4.5%→4.0%(△0.5P)	①酪農家戸数 : 9.3%→10.1%( 0.8P)	①酪農家戸数 : 14.7%→11.8%(△2.9P)	
	②経産牛頭数 : 1.5%→1.1%(△0.4P)	②経産牛頭数 : 3.4%→3.1%(△0.3P)	②経産牛頭数 : 4.9%→3.3%(△1.6P)	
	③出荷乳量 : 1.9%→1.4%(△0.5P)	③出荷乳量 : 3.3%→3.0%(△0.3P)	③出荷乳量 : 3.5%→2.3%(△1.2P)	
④飼料作面積 : 1.9%→1.5%(△0.4P)	④飼料作面積 : 3.6%→4.3%( 0.7P)	④飼料作面積 : 6.1%→7.2%( 1.1P)		
⑤継続意向農家 : 2.5%→3.0%( 0.5P)	⑤継続意向農家 : 5.7%→8.5%( 2.8P)	⑤継続意向農家 : 9.2%→10.1%( 0.9P)		

[5] 北陸

表Ⅱ-2-6Eによって、北陸における生乳生産構造の現状と変容をみると、前述の都府

県全体でみた場合と共通した傾向もみられるが、それとは異なる傾向も少なくない。詳細は、以下のとおりである。

- 北陸における経営類型別構成を「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2β】(中規模/中乳量)が28%を占めて、他の地域と同様、ウェイトが最も大きい。ただし、都府県全体でみた場合とは異なり、これに【類型2α】(中規模/高乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)が15%で続いている。逆に、【類型1γ】(大規模/低乳量)は2%、【類型3α】(小規模/高乳量)は4%と著しく低い。
- 次に、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、都府県全体でみた場合とは異なり、【類型2β】(中規模/中乳量)が28%を占めて最も大きい。また、都府県全体でみた場合と比べると、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトが低く、【類型2α】(中規模/高乳量)のウェイトが高い。【類型3α】(小規模/高乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)が著しく低い点は、都府県全体でみた場合と同様である。
- 平成19年度～26年度にかけての各類型のウェイト変化については、都府県全体でみた場合には大きな上昇を示した【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトはほとんど変化しておらず、ほとんど変化を示さなかった【類型1γ】(大規模/低乳量)のウェイトが大きく上昇している。
- 【類型1γ】(大規模/低乳量)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが3ポイント増加したのに対して、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは6～8ポイント増加しており、この類型に属する酪農家戸数が相対的に増加しただけではなく、1戸当たり生産・出荷規模も大きく拡大したといえる。
- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型3γ】(小規模/低乳量)で「①酪農家戸数」より「⑤継続意向農家数」のシェアの方が僅かながら小さく、今後この類型のウェイトが相対的に微減して行くことが推測される。

表Ⅱ-2-6E 経産牛飼養規模・経産牛1頭当たり乳量別類型の主要シェアの変化(北陸)

集計酪農家戸数=492戸、341戸

		経産牛1頭当たり乳量					
		高乳量(9000kg)		中乳量(7000~9000kg未満)		低乳量(7000kg未満)	
経産牛飼養規模	大規模 (50頭以上)	【類型1α】	【類型1β】		【類型1γ】		
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		
		①酪農家戸数 : 4.3%→4.4%(0.1P)	①酪農家戸数 : 9.3%→7.0%(△2.3P)	①酪農家戸数 : 0.8%→4.1%(3.3P)			
		②経産牛頭数 : 10.7%→11.3%(0.6P)	②経産牛頭数 : 22.8%→15.0%(△7.8P)	②経産牛頭数 : 1.4%→9.1%(7.7P)			
		③出荷乳量 : 13.2%→14.0%(0.8P)	③出荷乳量 : 22.2%→15.0%(△7.2P)	③出荷乳量 : 0.9%→6.9%(6.0P)			
	中規模 (50~100頭未満)	【類型2α】	【類型2β】		【類型2γ】		
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		
		①酪農家戸数 : 12.6%→15.0%(2.4P)	①酪農家戸数 : 29.5%→27.9%(△1.6P)	①酪農家戸数 : 9.1%→9.7%(0.6P)			
		②経産牛頭数 : 13.1%→14.7%(1.6P)	②経産牛頭数 : 29.4%→28.2%(△1.2P)	②経産牛頭数 : 9.0%→9.6%(0.6P)			
小規模 (20頭未満)	【類型3α】	【類型3β】		【類型3γ】			
	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)			
	①酪農家戸数 : 6.7%→6.5%(△0.2P)	①酪農家戸数 : 14.4%→15.0%(0.6P)	①酪農家戸数 : 13.2%→10.6%(△2.6P)				
	②経産牛頭数 : 2.7%→2.4%(△0.3P)	②経産牛頭数 : 6.2%→6.3%(0.1P)	②経産牛頭数 : 4.6%→3.4%(△1.2P)				

## [6] 東海

表Ⅱ-2-6Fによって、東海における生乳生産構造の現状と変容をみると、前述の都府県全体でみた場合と類似した傾向が比較的多くみられる。詳細は、以下のとおりである。

●東海における経営類型別構成を「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2β】(中規模/中乳量)が27%を占めて最も大きく、これに【類型1β】(大規模/中乳量)が15%で続いている。逆に、【類型1γ】(大規模/低乳量)は3%と著しく小さい。

また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトが特に高く、これに【類型2β】(中規模/中乳量)が続いている。逆に、【類型3α】(小規模/高乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)のウェイトが著しく低い。

「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」に関する東海の経営類型別構成は、都府県全体でみた場合とかなり類似しているが、次のような点で若干異なっている。東海は都府県全体に比べて【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトが若干高く、【類型3γ】(小規模/低乳量)のウェイトが若干低い。また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」に関して【類型2β】(中規模/中乳量)のウェイトが都府県全体でみた場合より僅かながら低い。

●平成19年度～26年度にかけての各類型のウェイト変化を「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2α】(中規模/高乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)が僅かながら上昇し、【類型3γ】(小規模/低乳量)が僅かながら低下している。

また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトが上昇し、【類型2β】(中規模/中乳量)のウェイトが僅かながら低下している。

これを都府県全体のウェイト変化と比べると傾向的には類似した点が多いが、東海は都府県よりもウェイトの変化幅が全体的にやや小さい。

●【類型1α】(大規模/高乳量)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアも増加したが、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアはそれ以上に増加しており、この類型に属する酪農家戸数が相対的に増加しただけではなく、1戸当たり生産・出荷規模も相対的に拡大したといえることができる。

●平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、どの類型でも双方の値が近似しており、類型別酪農家戸数の構成は今後も現状に近い形で推移して行くものと推測される。

●「④飼料作物作付面積」に関しては、都府県全体でみた場合と同様、【類型1β】(大規模/中乳量)でシェアが大きく高まり、【類型2β】(中規模/中乳量)、【類型2γ】(中規模/低乳量)でシェアが低下している。ただし、都府県全体でみた場合とは異なり、【類型2α】(中規模/高乳量)のシェアが上昇し、【類型1α】(大規模/高乳量)のシェアがあまり変化していない。

このうち、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型2α】(中規模/高乳量)では「②経産牛頭数」シェアの増加分よりも「④飼料作物作付面積」シェアの増加分の方が著しく大きく、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積は大きく拡大したものと推察される。一方、【類型2β】(中規模/中乳量)、【類型2γ】(中規模/低乳量)では「②経産牛頭数」

シェアの減少分よりも「④飼料作物作付面積」シェアの減少分の方が大きいことから、  
 経産牛1頭当たり飼料作物作付面積は縮小したものと推察される。

表Ⅱ-2-6F 経産牛飼養規模・経産牛1頭当たり乳量別類型の主要シェアの変化（東海）

集計酪農家戸数=1,146戸、885戸

		経産牛1頭当たり乳量					
		高乳量(9000kg)		中乳量(7000~9000kg未満)		低乳量(7000kg未満)	
経産牛飼養規模	大規模 (50頭以上)	<b>【類型1α】</b>		<b>【類型1β】</b>		<b>【類型1γ】</b>	
		H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)	
		①酪農家戸数	: 8.6%→10.4%( 1.8P)	①酪農家戸数	: 15.1%→15.7%( 0.6P)	①酪農家戸数	: 3.5%→ 3.1%(△0.4P)
		②経産牛頭数	: 20.6%→25.4%( 4.8P)	②経産牛頭数	: 31.0%→32.2%( 1.2P)	②経産牛頭数	: 7.1%→ 5.4%(△1.7P)
		③出荷乳量	: 25.1%→30.0%( 4.9P)	③出荷乳量	: 30.4%→31.2%( 0.8P)	③出荷乳量	: 5.3%→ 3.7%(△1.6P)
	④飼料作面積	: 11.0%→ 9.1%(△1.9P)	④飼料作面積	: 21.5%→30.9%( 9.4P)	④飼料作面積	: 7.0%→ 6.2%(△0.8P)	
	⑤継続意向農家	: 11.8%→11.2%(△0.6P)	⑤継続意向農家	: 19.1%→17.0%(△2.1P)	⑤継続意向農家	: 4.6%→ 3.1%(△1.5P)	
	中規模 (50~100頭未満)	<b>【類型2α】</b>		<b>【類型2β】</b>		<b>【類型2γ】</b>	
		H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)	
①酪農家戸数		: 9.3%→12.2%( 2.9P)	①酪農家戸数	: 27.8%→26.8%(△1.0P)	①酪農家戸数	: 12.5%→11.3%(△1.2P)	
②経産牛頭数		: 6.8%→ 7.9%( 1.1P)	②経産牛頭数	: 20.3%→17.6%(△2.7P)	②経産牛頭数	: 8.7%→ 7.0%(△1.7P)	
③出荷乳量		: 8.0%→ 9.2%( 1.2P)	③出荷乳量	: 19.6%→16.9%(△2.7P)	③出荷乳量	: 6.4%→ 5.0%(△1.4P)	
④飼料作面積	: 9.1%→13.6%( 4.5P)	④飼料作面積	: 29.4%→21.8%(△7.6P)	④飼料作面積	: 12.2%→ 8.7%(△3.5P)		
⑤継続意向農家	: 9.7%→12.4%( 2.7P)	⑤継続意向農家	: 29.7%→27.4%(△2.3P)	⑤継続意向農家	: 11.4%→11.4%( 0.0P)		
小規模 (20頭未満)	<b>【類型3α】</b>		<b>【類型3β】</b>		<b>【類型3γ】</b>		
	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		
	①酪農家戸数	: 5.6%→ 4.9%(△0.7P)	①酪農家戸数	: 7.4%→ 8.0%( 0.6P)	①酪農家戸数	: 10.1%→ 7.7%(△2.4P)	
	②経産牛頭数	: 1.3%→ 1.1%(△0.2P)	②経産牛頭数	: 1.9%→ 1.8%(△0.1P)	②経産牛頭数	: 2.3%→ 1.6%(△0.7P)	
	③出荷乳量	: 1.7%→ 1.4%(△0.3P)	③出荷乳量	: 1.9%→ 1.7%(△0.2P)	③出荷乳量	: 1.6%→ 1.1%(△0.5P)	
④飼料作面積	: 3.0%→ 4.5%( 1.5P)	④飼料作面積	: 2.8%→ 3.2%( 0.4P)	④飼料作面積	: 4.1%→ 1.9%(△2.2P)		
⑤継続意向農家	: 3.1%→ 3.7%( 0.6P)	⑤継続意向農家	: 4.3%→ 6.7%( 2.4P)	⑤継続意向農家	: 6.3%→ 7.2%( 0.9P)		

## [7] 近畿

表Ⅱ-2-6Gによって、近畿における生乳生産構造の現状と変容をみると、前述の都府県全体でみた場合と共通した傾向もみられるが、それとは異なる傾向も少なくない。詳細は、以下のとおりである。

- 「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」、「③出荷乳量」に関する近畿の経営類型別構成は、都府県全体でみた場合と比較的類似している。まず、「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2β】(中規模/中乳量)が26%を占めて最も大きく、これに【類型3γ】(小規模:低乳量)、【類型2α】(中規模:高乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)が13%前後で続いている。逆に、【類型1γ】(大規模/低乳量)は1%と著しく小さい。次に、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)が23~26%を占めて特に大きい。逆に、【類型1γ】(大規模/低乳量)、【類型3α】(小規模/高乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)は1~4%と著しく小さい。
- 「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」に関する各経営類型のウェイト変化についても、都府県全体でみた場合と類似した傾向が多くみられる。即ち、「①酪農家戸数」については【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型2α】(中規模/高乳量)のウェイトが比較的大きく上昇し、【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型2γ】(中規模/低乳量)のウェイトが比較的大きく低下している。また、「②経産牛頭数」及び「③

出荷乳量」については、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトが比較的大きく上昇し、【類型2β】(中規模/中乳量)、【類型2γ】(中規模/低乳量)のウェイトが比較的大きく低下している。

ただし、近畿では都府県全体でみた場合に比べてこれらの変化幅が大きいこと、都府県全体でみた場合とは異なり【類型2α】(中規模/高乳量)のウェイトが目に見えて上昇していること等の相違点も散見される。

- 【類型1α】(大規模/高乳量)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが4ポイント増加したのに対して、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは14~15ポイント増加しており、この類型に属する酪農家戸数が相対的に増加しただけではなく、1戸当たり生産・出荷規模も相対的に拡大したといえる。他方、【類型2α】(中規模/高乳量)では「①酪農家戸数」のシェア上昇分より「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェア上昇分の方が小さく、1戸当たり生産・出荷規模もむしろ相対的に縮小したといえる。
- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型2β】(中規模/中乳量)、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型2α】(中規模/高乳量)で「⑤継続意向農家数」、【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)、【類型3α】(小規模/高乳量)で「①酪農家戸数」の方が僅かながら大きく、今後は前3タイプのウェイトが徐々に上昇、後3タイプのウェイトが徐々に低下して行くことが推測される。

表Ⅱ-2-6G 経産牛飼養規模・経産牛1頭当たり乳量別類型の主要シェアの変化(近畿)

集計酪農家戸数=778戸、533戸

		経産牛1頭当たり乳量		
		高乳量(9000kg)	中乳量(7000~9000kg未満)	低乳量(7000kg未満)
経産牛飼養規模	大規模(50頭以上)	<b>【類型1α】</b>	<b>【類型1β】</b>	<b>【類型1γ】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 3.5% → 7.3% ( 3.8P)	①酪農家戸数 : 8.4% → 9.8% ( 1.4P)	①酪農家戸数 : 1.4% → 1.3%(△0.1P)
		②経産牛頭数 : 8.5% → 22.5% ( 14.0P)	②経産牛頭数 : 23.1% → 23.7% ( 0.6P)	②経産牛頭数 : 3.6% → 2.2%(△1.4P)
		③出荷乳量 : 10.5% → 25.8% ( 15.3P)	③出荷乳量 : 23.8% → 23.2%(△0.6P)	③出荷乳量 : 2.6% → 1.7%(△0.9P)
	中規模(50~100頭未満)	<b>【類型2α】</b>	<b>【類型2β】</b>	<b>【類型2γ】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 6.9% → 12.6% ( 5.7P)	①酪農家戸数 : 28.3% → 26.3%(△2.0P)	①酪農家戸数 : 14.5% → 10.5%(△4.0P)
		②経産牛頭数 : 7.2% → 10.4% ( 3.2P)	②経産牛頭数 : 30.1% → 22.7%(△7.4P)	②経産牛頭数 : 14.0% → 8.3%(△5.7P)
小規模(20頭未満)	<b>【類型3α】</b>	<b>【類型3β】</b>	<b>【類型3γ】</b>	
	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	
	①酪農家戸数 : 5.3% → 6.4% ( 1.1P)	①酪農家戸数 : 12.3% → 12.6% ( 0.3P)	①酪農家戸数 : 19.4% → 13.3%(△6.1P)	
	②経産牛頭数 : 1.8% → 2.1% ( 0.3P)	②経産牛頭数 : 4.9% → 4.2%(△0.7P)	②経産牛頭数 : 6.8% → 3.9%(△2.9P)	
	③出荷乳量 : 2.5% → 2.5% ( 0.0P)	③出荷乳量 : 4.9% → 3.9%(△1.0P)	③出荷乳量 : 4.8% → 2.7%(△2.1P)	
	④飼料作面積 : 3.0% → 2.7%(△0.3P)	④飼料作面積 : 5.7% → 4.2%(△1.5P)	④飼料作面積 : 8.5% → 7.1%(△1.4P)	
	⑤継続意向農家 : 2.8% → 4.1% ( 1.3P)	⑤継続意向農家 : 8.0% → 10.2% ( 2.2P)	⑤継続意向農家 : 15.5% → 10.2%(△5.3P)	

[8] 中国

表Ⅱ-2-6Hによって、中国における生乳生産構造の現状と変容をみると、前述の都府県全体でみた場合と共通した傾向もみられるが、それとは異なる傾向も少なからずみられる。詳細は、以下のとおりである。

- 中国における経営類型別構成を「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2β】(中規模/中乳量)が24%を占めて最も大きく、これに【類型2α】(中規模/高乳量)が16%で続いている。逆に、【類型1γ】(大規模/低乳量)は3%と著しく小さい。  
次に、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1α】(大規模/高乳量)が32~36%を占めて断然大きく、これに【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)が17~18%で続いている。逆に、【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型3α】(小規模/高乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)は1~4%と著しく小さい。  
これを都府県全体でみた場合と比べると、「①酪農家戸数」のウェイトが【類型2β】(中規模/中乳量)で最も高く、【類型1γ】(大規模/低乳量)で著しく低いこと、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のウェイトが【類型1α】(大規模/高乳量)で著しく高く、【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型3α】(小規模/高乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)で極めて低いこと等の共通点が認められる。しかし、中国では、「①酪農家戸数」に関して【類型2α】(中規模/高乳量)のウェイトの方が【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)のウェイトより高いこと、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」に関して【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトの方が【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)のウェイトよりも高いこと等の相違点も少なからず認められる。
- 平成19年度~26年度にかけての各類型のウェイト変化を「①酪農家戸数」の側面からみると、都府県全体でみた場合と同様、【類型2α】(中規模/高乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトが最も大きく上昇している。ただし、都府県全体でみた場合には【類型3γ】(小規模/低乳量)が最も大きな低下を示したが、中国では【類型2β】(中規模/中乳量)のウェイトが最も大きく低下している。  
また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、都府県全体でみた場合と同様、中国でも【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトが最も大きく上昇し、【類型2β】(中規模/中乳量)のウェイトが最も大きく低下している。ただし、都府県全体でみた場合より、中国の方が【類型1α】(大規模/高乳量)の上昇の幅と【類型2β】(中規模/中乳量)の低下の幅が大きい。
- 【類型1α】(大規模/高乳量)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが3ポイント増加したのに対して、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは11ポイント増加しており、この類型に属する酪農家戸数が相対的に増加しただけではなく、1戸当たり生産・出荷規模も大きく拡大したといえる。他方、【類型2β】(中規模/中乳量)では「①酪農家戸数」のシェアより「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアの方が大きく低下しており、1戸当たり生産・出荷規模も相対的に縮小したといえる。
- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、【類型3γ】(小規模/低乳量)で「①酪農家戸数」より「⑤継続意向農家数」のシェアの方が僅かながら小さく、今後この類型のウェイトが相対的に微減して行くことが推測される。
- 「④飼料作物作付面積」に関しては、【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型1β】(大規模/中乳量)でシェアが上昇、【類型2β】(中規模/中乳量)でシェアが低下しており、都府県全体でみた場合と共通の傾向が認められる。

このうち、【類型1α】(大規模/高乳量)では「②経産牛頭数」のシェア上昇分より「④飼料作物作付面積」のシェア上昇分の方が小さく、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積はむしろ縮小したものと推察される。また、【類型2β】(中規模/中乳量)では「②経産牛頭数」と「④飼料作物作付面積」シェア変化分が近似しており、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積はあまり大きく変化しなかったものとみられる。一方、【類型1β】(大規模/中乳量)では「②経産牛頭数」のシェアはほとんど変化していないのに「④飼料作物作付面積」のシェアが増加しており、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積は相対的に増加したものと推察される。

表Ⅱ-2-6H 経産牛飼養規模・経産牛1頭当たり乳量別類型の主要シェアの変化(中国)

集計酪農家戸数=701戸、725戸

		経産牛1頭当たり乳量					
		高乳量(9000kg)		中乳量(7000~9000kg未満)		低乳量(7000kg未満)	
経産牛飼養規模	大規模 (50頭以上)	【類型1α】	【類型1β】		【類型1γ】		
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		
		①酪農家戸数 : 7.3%→10.3%( 3.0P)	①酪農家戸数 : 6.8%→7.2%( 0.4P)	①酪農家戸数 : 2.0%→2.5%( 0.5P)			
		②経産牛頭数 : 21.2%→31.9%( 10.7P)	②経産牛頭数 : 18.2%→18.0%(△0.2P)	②経産牛頭数 : 3.7%→5.5%( 1.8P)			
		③出荷乳量 : 25.0%→36.4%( 11.4P)	③出荷乳量 : 17.7%→17.0%(△0.7P)	③出荷乳量 : 2.6%→3.9%( 1.3P)			
	④飼料作面積 : 15.9%→23.6%( 7.7P)	④飼料作面積 : 9.9%→13.4%( 3.5P)	④飼料作面積 : 5.3%→6.5%( 1.2P)				
	⑤継続意向農家 : 9.4%→11.6%( 2.2P)	⑤継続意向農家 : 8.6%→8.0%(△0.6P)	⑤継続意向農家 : 2.2%→2.5%( 0.3P)				
	中規模 (50~100頭未満)	【類型2α】	【類型2β】		【類型2γ】		
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)		
①酪農家戸数 : 12.7%→16.0%( 3.3P)		①酪農家戸数 : 28.5%→24.3%(△4.2P)	①酪農家戸数 : 9.3%→7.7%(△1.6P)				
②経産牛頭数 : 11.6%→12.3%( 0.7P)		②経産牛頭数 : 26.2%→17.7%(△8.5P)	②経産牛頭数 : 7.8%→5.4%(△2.4P)				
③出荷乳量 : 13.6%→13.9%( 0.3P)		③出荷乳量 : 25.0%→16.6%(△8.4P)	③出荷乳量 : 5.7%→3.7%(△2.0P)				
④飼料作面積 : 12.9%→14.6%( 1.7P)	④飼料作面積 : 30.6%→21.0%(△9.6P)	④飼料作面積 : 10.2%→9.2%(△1.0P)					
⑤継続意向農家 : 14.1%→15.9%( 1.8P)	⑤継続意向農家 : 31.4%→26.0%(△5.4P)	⑤継続意向農家 : 10.0%→7.2%(△2.8P)					
小規模 (20頭未満)	【類型3α】	【類型3β】		【類型3γ】			
	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)		H19 →H26 (増減)			
	①酪農家戸数 : 8.4%→10.2%( 1.8P)	①酪農家戸数 : 13.3%→12.8%(△0.5P)	①酪農家戸数 : 11.7%→9.0%(△2.7P)				
	②経産牛頭数 : 2.7%→2.9%( 0.2P)	②経産牛頭数 : 4.8%→3.9%(△0.9P)	②経産牛頭数 : 3.8%→2.3%(△1.5P)				
	③出荷乳量 : 3.3%→3.6%( 0.3P)	③出荷乳量 : 4.5%→3.5%(△1.0P)	③出荷乳量 : 2.6%→1.4%(△1.2P)				
④飼料作面積 : 3.5%→3.5%( 0.0P)	④飼料作面積 : 5.4%→4.0%(△1.4P)	④飼料作面積 : 6.1%→4.2%(△1.9P)					
⑤継続意向農家 : 5.9%→8.6%( 2.7P)	⑤継続意向農家 : 9.2%→11.6%( 2.4P)	⑤継続意向農家 : 9.2%→8.6%(△0.6P)					

## [9] 四国

表Ⅱ-2-6Iによって、四国における生乳生産構造の現状と変容をみると、前述の都府県全体でみた場合と共通した傾向が比較的多くみられる。詳細は、以下のとおりである。

●四国における経営類型別構成を「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2β】(中規模/中乳量)が25%を占めて最も大きく、これに【類型3γ】(小規模:低乳量)、【類型2γ】(中規模:低乳量)が13~14%で続いている。逆に、【類型1γ】(大規模/低乳量)、【類型3α】(小規模/高乳量)は3~5%と著しく小さい。

次に、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)が20~25%を占めて特に大きく、逆に【類型3α】(小規模/高乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)は1~5%と著しく小さい。

四国に関する以上の特徴は、若干の数値的な差異はあるものの、傾向的には都府県全体でみた場合とほぼ合致しており、「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」

からみた四国の経営類型別構成は都府県の中ではほぼ標準的な形となっているとい  
ことができる。

- 平成19年度～26年度にかけての各類型のウェイト変化を「①酪農家戸数」の側面からみると、都府県全体でみた場合と同様、【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型2α】(中規模/高乳量)のウェイトが大きく上昇し、【類型3γ】(小規模/低乳量)、【類型2γ】(中規模/低乳量)のウェイトが大きく低下した。

また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみても、【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型1β】(大規模/中乳量)のウェイトが大きく上昇し、【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)のウェイトが大きく低下するという都府県全体でみた場合と同じ傾向が認められる。ただし、都府県全体でみた場合とは異なり、四国では【類型3γ】(小規模/低乳量)のウェイトも比較的大きく低下している。

- 【類型1α】(大規模/高乳量)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが5ポイント増加したのに対して、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは8～10ポイント増加しており、この類型に属する酪農家戸数が相対的に増加しただけではなく、1戸当たり生産・出荷規模も相対的に大きく拡大したといことができる。他方、【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)では「①酪農家戸数」のシェアより「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアの方が大きく低下しており、1戸当たり生産・出荷規模は相対的に縮小したといことができる。

- 平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、どの類型でも双方の値が近似しており、類型別酪農家戸数の構成は今後も現状に近い形で推移して行くものと推測される。

表Ⅱ-2-6Ⅰ 経産牛飼養規模・経産牛1頭当たり乳量別類型の主要シェアの変化(四国)

集計酪農家戸数=616戸、396戸

		経産牛1頭当たり乳量		
		高乳量(9000kg)	中乳量(7000~9000kg未満)	低乳量(7000kg未満)
経産牛飼養規模	大規模 (50頭以上)	<b>【類型1α】</b>	<b>【類型1β】</b>	<b>【類型1γ】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 3.6%→8.8%( 5.2P)	①酪農家戸数 : 7.0%→8.6%( 1.6P)	①酪農家戸数 : 1.6%→2.5%( 0.9P)
		②経産牛頭数 : 12.7%→20.9%( 8.2P)	②経産牛頭数 : 20.0%→23.1%( 3.1P)	②経産牛頭数 : 4.7%→7.0%( 2.3P)
		③出荷乳量 : 15.7%→25.4%( 9.7P)	③出荷乳量 : 20.7%→23.2%( 2.5P)	③出荷乳量 : 3.7%→5.2%( 1.5P)
	④飼料作面積 : 4.7%→13.9%( 9.2P)	④飼料作面積 : 14.8%→14.1%(△0.7P)	④飼料作面積 : 1.5%→7.6%( 6.1P)	
	⑤継続意向農家 : 4.9%→9.7%( 4.8P)	⑤継続意向農家 : 10.3%→8.8%(△1.5P)	⑤継続意向農家 : 2.2%→2.8%( 0.6P)	
	中規模 (50~100頭未満)	<b>【類型2α】</b>	<b>【類型2β】</b>	<b>【類型2γ】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
①酪農家戸数 : 7.8%→10.4%( 2.6P)		①酪農家戸数 : 22.9%→24.5%( 1.6P)	①酪農家戸数 : 18.5%→13.4%(△5.1P)	
②経産牛頭数 : 7.7%→8.5%( 0.8P)		②経産牛頭数 : 23.4%→20.0%(△3.4P)	②経産牛頭数 : 16.9%→10.5%(△6.4P)	
③出荷乳量 : 9.9%→10.7%( 0.8P)		③出荷乳量 : 23.9%→19.5%(△4.4P)	③出荷乳量 : 13.1%→7.4%(△5.7P)	
④飼料作面積 : 10.5%→8.1%(△2.4P)	④飼料作面積 : 28.5%→23.8%(△4.7P)	④飼料作面積 : 20.9%→17.0%(△3.9P)		
⑤継続意向農家 : 8.1%→9.7%( 1.6P)	⑤継続意向農家 : 29.0%→25.4%(△3.6P)	⑤継続意向農家 : 19.2%→13.7%(△5.5P)		
小規模 (20頭未満)	<b>【類型3α】</b>	<b>【類型3β】</b>	<b>【類型3γ】</b>	
	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	
	①酪農家戸数 : 6.3%→5.1%(△1.2P)	①酪農家戸数 : 10.7%→12.6%( 1.9P)	①酪農家戸数 : 21.6%→14.1%(△7.5P)	
	②経産牛頭数 : 2.3%→1.5%(△0.8P)	②経産牛頭数 : 3.9%→4.0%( 0.1P)	②経産牛頭数 : 8.3%→4.5%(△3.8P)	
	③出荷乳量 : 3.0%→1.8%(△1.2P)	③出荷乳量 : 3.9%→3.8%(△0.1P)	③出荷乳量 : 6.0%→3.0%(△3.0P)	
④飼料作面積 : 4.1%→3.1%(△1.0P)	④飼料作面積 : 4.4%→6.2%( 1.8P)	④飼料作面積 : 10.5%→6.2%(△4.3P)		
⑤継続意向農家 : 4.1%→4.6%( 0.5P)	⑤継続意向農家 : 6.2%→11.7%( 5.5P)	⑤継続意向農家 : 16.0%→13.7%(△2.3P)		

## [10] 九州

表Ⅱ-2-6Jによって、九州における生乳生産構造の現状と変容をみると、前述の都府県全体についてみた場合と共通した傾向が比較的多くみられる。詳細は、以下のとおりである。

●九州における経営類型別構成を「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型2β】(中規模/中乳量)が29%を占めて最も大きく、これに【類型1β】(大規模/中乳量)が16%、【類型2γ】(中規模/低乳量)が13%で続いている。逆に、【類型1γ】(大規模/低乳量)、【類型3α】(小規模/高乳量)は2%と著しく小さい。

次に、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1β】(大規模/中乳量)が33%を占めて最も大きく、これに【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)が20~26%で続いている。逆に、【類型3α】(小規模/高乳量)、【類型3β】(小規模/中乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)は1~3%と著しく小さい。

九州に関する以上の特徴は、【類型1β】における「①酪農家戸数」、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のウェイトが都府県全体でみた場合以上に高い点を除けば、都府県全体でみた場合と概ね合致している。

●平成19年度~26年度にかけての各類型のウェイト変化を「①酪農家戸数」の側面からみると、【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型1β】(大規模/中乳量)、【類型2α】(中規模/高乳量)のウェイトが大きく上昇し、【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型3γ】(小規模/低乳量)のウェイトが大きく低下している。

また、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」の側面からみると、【類型1α】(大規模/高乳量)のウェイトが大きく上昇し、【類型2γ】(中規模/低乳量)、【類型2β】(中規模/中乳量)のウェイトが大きく低下している。

都府県全体でみた場合には「①酪農家戸数」に関する【類型1β】(大規模/中乳量)のウェイトアップと【類型2γ】(中規模/低乳量)のウェイトダウンがさほど大きくないといった相違点もあるが、その他の九州に関する特徴は概ね都府県全体についてみられる特徴と合致している。

●【類型1α】(大規模/高乳量)では、この7年間に「①酪農家戸数」のシェアが6ポイント増加したのに対して、「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアは10~12ポイント増加しており、この類型に属する酪農家戸数が相対的に増加しただけではなく、1戸当たり生産・出荷規模も相対的に大きく拡大したといえる。また、【類型2γ】(中規模/低乳量)では「①酪農家戸数」と「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェア変化分が比較的近似しており、1戸当たり生産・出荷規模はあまり変化しなかったものと推察される。一方、【類型2β】(中規模/中乳量)では「①酪農家戸数」のシェアより「②経産牛頭数」及び「③出荷乳量」のシェアの方が大きく低下しており、1戸当たり生産・出荷規模は相対的に縮小したといえる。

●平成26年度における「①酪農家戸数」と「⑤継続意向農家数」のシェアを比較すると、どの類型でも双方の値が近似しており、類型別酪農家戸数の構成は今後も現状に近い形で推移して行くものと推測される。

●「④飼料作物作付面積」に関しては、都府県全体でみた場合と同様、【類型1α】(大規模/高乳量)、【類型1β】(大規模/中乳量)でシェアが高まり、【類型2γ】(中規模

／低乳量)、【類型2β】(中規模／中乳量)でシェアが低下している。

このうち、【類型1α】(大規模／高乳量)、【類型1β】(大規模／中乳量)、【類型2γ】(中規模／低乳量)は「④飼料作物作付面積」と「②経産牛頭数」のシェア変化分が近似しており、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積はあまり変化していないものと推察される。一方、【類型2β】(中規模／中乳量)では「②経産牛頭数」シェアの減少分よりも「④飼料作物作付面積」シェアの減少分の方が若干小さいことから、経産牛1頭当たり飼料作物作付面積は相対的にやや増加したものと推察される。

表Ⅱ-2-6J 経産牛飼養規模・経産牛1頭当たり乳量別類型の主要シェアの変化(九州)

集計酪農家戸数=2,051戸、1,571戸

		経産牛1頭当たり乳量		
		高乳量(9000kg)	中乳量(7000~9000kg未満)	低乳量(7000kg未満)
経産牛飼養規模	大規模 (50頭以上)	<b>【類型1α】</b>	<b>【類型1β】</b>	<b>【類型1γ】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
		①酪農家戸数 : 4.8%→10.3%( 5.5P)	①酪農家戸数 : 12.5%→16.2%( 3.7P)	①酪農家戸数 : 2.9%→ 2.2%(△0.7P)
		②経産牛頭数 : 10.9%→21.3%( 10.4P)	②経産牛頭数 : 28.4%→33.0%( 4.6P)	②経産牛頭数 : 5.1%→ 3.7%(△1.4P)
		③出荷乳量 : 13.5%→25.0%( 11.5P)	③出荷乳量 : 29.8%→33.1%( 3.3P)	③出荷乳量 : 3.9%→ 2.5%(△1.4P)
	④飼料作面積 : 5.5%→15.3%( 9.8P)	④飼料作面積 : 23.4%→27.2%( 3.8P)	④飼料作面積 : 5.1%→ 2.1%(△3.0P)	
	⑤継続意向農家 : 5.9%→11.1%( 5.2P)	⑤継続意向農家 : 16.0%→17.7%( 1.7P)	⑤継続意向農家 : 3.6%→ 2.4%(△1.2P)	
	中規模 (50~100頭未満)	<b>【類型2α】</b>	<b>【類型2β】</b>	<b>【類型2γ】</b>
		H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)
①酪農家戸数 : 7.2%→10.4%( 3.2P)		①酪農家戸数 : 30.0%→28.7%(△1.3P)	①酪農家戸数 : 20.3%→13.4%(△6.9P)	
②経産牛頭数 : 6.3%→ 7.7%( 1.4P)		②経産牛頭数 : 25.6%→20.5%(△5.1P)	②経産牛頭数 : 16.1%→ 8.5%(△7.6P)	
③出荷乳量 : 7.9%→ 9.1%( 1.2P)		③出荷乳量 : 25.9%→19.8%(△6.1P)	③出荷乳量 : 12.4%→ 5.9%(△6.5P)	
④飼料作面積 : 7.1%→ 8.4%( 1.3P)	④飼料作面積 : 30.3%→27.1%(△3.2P)	④飼料作面積 : 17.7%→11.2%(△6.5P)		
⑤継続意向農家 : 7.9%→10.3%( 2.4P)	⑤継続意向農家 : 32.1%→29.4%(△2.7P)	⑤継続意向農家 : 19.7%→12.9%(△6.8P)		
小規模 (20頭未満)	<b>【類型3α】</b>	<b>【類型3β】</b>	<b>【類型3γ】</b>	
	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	H19 →H26 (増減)	
	①酪農家戸数 : 2.1%→ 2.2%( 0.1P)	①酪農家戸数 : 7.2%→ 6.7%(△0.5P)	①酪農家戸数 : 13.0%→ 9.9%(△3.1P)	
	②経産牛頭数 : 0.7%→ 0.6%(△0.1P)	②経産牛頭数 : 2.5%→ 2.0%(△0.5P)	②経産牛頭数 : 4.5%→ 2.7%(△1.8P)	
	③出荷乳量 : 0.9%→ 0.7%(△0.2P)	③出荷乳量 : 2.5%→ 1.9%(△0.6P)	③出荷乳量 : 3.2%→ 1.9%(△1.3P)	
④飼料作面積 : 1.0%→ 1.4%( 0.4P)	④飼料作面積 : 3.3%→ 2.8%(△0.5P)	④飼料作面積 : 6.6%→ 4.5%(△2.1P)		
⑤継続意向農家 : 1.6%→ 2.0%( 0.4P)	⑤継続意向農家 : 4.5%→ 5.9%( 1.4P)	⑤継続意向農家 : 8.6%→ 8.2%(△0.4P)		

### Ⅲ 生乳生産構造の将来展望と生乳生産量の予測



# 1 生乳生産構造の将来動向と生産量に関する推定

## (1) 分析の課題と内容

以下は、生乳生産構造の将来展望を行う上での足掛かりとして、経営規模別酪農家戸数の将来動向を推定するとともに、その推定過程で算出された統計値を用いて構造変化の様相の把握を試みたものである。また、経営規模別酪農家戸数推定の延長として、経営規模別経産牛飼養頭数、経営規模別生乳出荷量の試算も試みた。

なお、この分析・推定作業は、本年度の酪農全国基礎調査の地域別データにマルコフ分析を適用するという方法で行った。その基本的な考え方と結果の概要は以下のとおりである。

## (2) マルコフ分析の適用方法

この分析・推定作業では、以下のような考え方と方法に従ってマルコフ分析を適用した。先ず、将来の経営規模別酪農家戸数の推定値は次式に従って算出される。

$$\begin{aligned} & \text{(次期の経産牛飼養規模別酪農家戸数ベクトル (推定値))} \\ & = \text{(当期の経産牛飼養規模別酪農家戸数ベクトル)} \times \text{[推移確率行列]} \end{aligned}$$

### [1] 推移確率行列の形

上記の式で、「経産牛飼養規模別酪農家戸数ベクトル」と「推移確率行列」は、具体的には以下のよう形をとるものとした。

#### 【経産牛飼養規模別酪農家戸数ベクトル】

<北海道>

( 30 頭未満戸数, 30 - 50 頭未満戸数, 50 - 70 頭未満戸数, 70 - 100 頭未満戸数, 100 頭以上戸数 )

<都府県>

( 20 頭未満戸数, 20 - 30 頭未満戸数, 30 - 50 頭未満戸数, 50 - 70 頭未満戸数, 70 - 100 頭未満戸数, 100 頭以上戸数 )

#### 【推移確率行列】

<北海道>

		次 期					
		30頭未満	30~50頭未満	50~70頭未満	70~100頭未満	100頭以上	酪農離脱
当 期	30頭未満	...	...	...	...	...	...
	30~50頭未満	...	...	...	...	...	...
	50~70頭未満	...	...	...	...	...	...
	70~100頭未満	...	...	...	...	...	...
	100頭以上	...	...	...	...	...	...

<都府県>

		次 期					
		20頭未満	20～30頭未満	30～50頭未満	50～70頭未満	70～100頭未満	100頭以上
当 期	20頭未満	...	...	...	...	...	...
	20～30頭未満	...	...	...	...	...	...
	30～50頭未満	...	...	...	...	...	...
	50～70頭未満	...	...	...	...	...	...
	70～100頭未満	...	...	...	...	...	...
	100頭以上	...	...	...	...	...	...

なお、上記の「経産牛飼養規模別酪農家戸数ベクトル」及び「推移確率行列」で、小規模階層の区分が北海道については『30頭未満』で一括、都府県については『20頭未満』と『20～30頭未満』に分割してあるのは、北海道では『30頭未満』の割合が1割に満たないのに対して、都府県では『30頭未満』の割合が5割（『20頭未満』3割、『20～30頭未満』2割）にも及んでいるためである。

[2] 経産牛飼養規模別酪農家数の初期値の算出方法

推定計算開始時点の経産牛飼養規模別酪農家戸数（初期値）は、「平成26年4月における生乳出荷戸数」（中央酪農会議調べ）に「平成26年4月における酪農家の経産牛飼養規模別戸数シェア」（平成26年度酪農全国基礎調査：酪農家調査）を乗ずることによって推定した。

[3] 推移確率行列の推定方法

推移確率行列は、先ず以下の方法により『酪農継続農家の経産牛飼養規模間移動分布』及び『酪農離脱農家の離脱時経産牛飼養規模別分布』を推定し、次いでこれらを統合して『酪農継続農家・離脱農家の経産牛飼養規模及び酪農離脱間移動分布の推定結果』を作成することを通じて算出した。

<酪農継続農家・離脱農家の経産牛飼養規模及び酪農離脱間移動分布>

		H26年					
		20頭未満	20～30頭未満	...	70～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
H 2 5 年	20頭未満	酪農継続農家					酪農 離 脱 農 家
	20～30頭未満						
	...						
	70～100頭未満						
	100頭以上						

このうち、『酪農継続農家の規模間移動分布の推定』は、「平成26年4月における生乳出荷戸数」（中央酪農会議調べ）に「平成25年4月→平成26年4月の経産牛飼養規模間移行パターン別シェア」（平成26年度酪農全国基礎調査：酪農家調査）を乗ずるという方法で行った。

また、『酪農離脱農家の規模別分布の推定』は、「平成25年4月及び26年4月における生乳出荷戸数」（中央酪農会議調べ）から算出した「平成25年度における生乳出荷戸数の減少数」に「平成25年度における生乳出荷中止農家の経産牛飼養規模別戸数シェア」（平成26年度酪農全国基礎調査：生乳出荷中止農家調査）を乗ずるという方法で行った。

#### [4] 経産牛飼養頭数、総生乳出荷量推定の前提

前述のように、この分析では経産牛飼養規模別酪農家戸数の推定結果を用いて、経営規模別経産牛飼養頭数、経営規模別生乳出荷量の試算を試みた。

この際、酪農家1戸当たり平均経産牛飼養頭数、経産牛1頭当たり平均出荷乳量<sup>(注)</sup>については、「平成26年度酪農全国基礎調査（酪農家調査）」から得られた地域別・経産牛飼養規模別平均値を充当することとし、規模別時間経過に係わらず一定であるものと仮定した。

従って、ここでの経産牛飼養規模別経産牛頭数及び経産牛飼養規模別総出荷乳量の推定は、予測精度の高い推定値を得ることを主目的としたものではないので注意されたい。

(注)「経産牛1頭当たり平均出荷乳量」は、『平成25年度年間総出荷乳量』、『平成25年4月現在経産牛飼養頭数』、『平成26年4月現在経産牛飼養頭数』の各データを用いて次式により推定した。

「経産牛1頭当たり平均出荷乳量」

$$= \text{『平成25年度年間総出荷乳量』} / \{ (\text{『平成25年4月現在経産牛飼養頭数』} + \text{『平成26年4月現在経産牛飼養頭数』}) / 2 \}$$

### (3) 生乳生産構造と生産量に関する推定結果

生乳生産構造の将来的変化の様相に関する分析結果、及び経営規模別酪農家戸数、経営規模別経産牛飼養頭数、経営規模別生乳出荷量の将来動向に関する推定結果を、地域別に示すと以下のとおりである。

#### 【1】北海道

##### [1] 経営規模別戸数分布に関する変化傾向

表Ⅲ-1-1Aは、平成25年4月から26年4月にかけての酪農家の経営規模間移動に関する分布状況を示したものである。これによれば、北海道では経産牛70頭未満の階層における移動が特に多く、「30頭未満」層から規模拡大した経営が酪農家全体の1.4%、廃業した経営が0.8%、「30頭～50頭未満」層から規模拡大した経営が酪農家全体の2.5%、規模縮小または廃業した経営が2.6%、「50頭～70頭未満」層から規模拡大した経営が酪農家全体の2.1%、規模縮小または廃業した経営が3.4%という状況であった。また、比較的大きい規模階層で、規模拡大経営の割合を規模縮小または廃業の割合が上回る傾向がみられた。

表Ⅲ-1-1A 酪農家全体からみた規模変化状況別シェアの推定結果(平成25年4月～26年4月) <北海道>

合計		6,353戸					
		H26年4月					
		30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
H 4 2 5 年	30頭未満	6.7%	1.1%	0.2%	0.1%	0.0%	0.8%
	30頭～50頭未満	1.3%	22.6%	2.5%	0.0%	0.0%	1.3%
	50頭～70頭未満	0.1%	2.4%	21.9%	2.0%	0.1%	0.9%
	70頭～100頭未満	0.0%	0.1%	1.7%	15.6%	1.2%	0.2%
	100頭以上	0.0%	0.0%	0.1%	0.8%	16.2%	0.1%

なお、表Ⅲ-1-1Aをベースとして算出した推移確率行列は下表のとおりである。

表Ⅲ-1-1B 推移確率行列の推定結果 <北海道>

		翌年4月						
		(計)	30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
当 年 4 月	30頭未満	563	0.7607	0.1219	0.0213	0.0058	0.0039	0.0864
	30頭～50頭未満	1,766	0.0450	0.8140	0.0907	0.0012	0.0012	0.0478
	50頭～70頭未満	1,732	0.0019	0.0887	0.8024	0.0730	0.0025	0.0314
	70頭～100頭未満	1,201	0.0009	0.0027	0.0917	0.8280	0.0636	0.0131
	100頭以上	1,091	0.0000	0.0000	0.0030	0.0489	0.9428	0.0052

## [2] 経営規模別生乳生産・出荷動向の推定結果

経営規模別生乳生産動向の推定結果によれば、北海道全体としての総酪農家戸数、総経産牛飼養頭数、総年間出荷乳量は今後減少の一途を辿るものと推測される。

ただし、経産牛100頭未満の各階層で酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総出荷乳量が漸減傾向をみせる中で、「100頭以上」の階層では年々それらが増加して行くという結果が得られている。(注)

(注) この点については、本推定で用いる酪農離脱農家の離脱時経産牛頭数データの制約から、「100頭以上」の酪農家が一括して取り扱われていることに留意する必要がある。即ち、北海道では「100頭～150頭未満」の酪農家が全体の10%（都府県3%）、「150頭以上」の酪農家が同じく7%（都府県2%）と非常に多く、推定期間中の規模増加が「100頭以上」層の前半に位置する酪農家を中心として行われる場合には、経産牛飼養頭数及び生乳出荷量の推定値が過大に計測される可能性がある。

また、経営規模階層別シェアで見ると、酪農家戸数については経産牛50頭未満の階層では低下傾向、50頭以上の階層では上昇傾向を辿ることが推測される。一方、経産牛飼養頭数、総出荷乳量については経産牛70頭未満の階層では低下傾向、70頭以上の階層では上昇傾向を示すものとみられる。

表Ⅲ-1-1C 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(実数) <北海道>  
[単位:戸、頭、kg、トン]

		30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計	
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	512	1,663	1,675	1,179	1,114	6,144
	推定値	27年4月	469	1,568	1,618	1,158	1,133	5,946
		28年4月	431	1,480	1,560	1,137	1,150	5,759
		29年4月	399	1,399	1,503	1,116	1,164	5,581
		30年4月	370	1,324	1,447	1,095	1,175	5,411
		31年4月	345	1,254	1,393	1,074	1,185	5,250
1戸当たり経産牛頭数(回答値)		20.2	39.9	57.8	81.0	177.0	-	
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	10,325	66,421	96,885	95,490	197,189	466,311
		27年4月	9,449	62,623	93,548	93,790	200,642	460,053
		28年4月	8,694	59,113	90,210	92,089	203,585	453,691
		29年4月	8,038	55,867	86,916	90,378	206,053	447,252
		30年4月	7,462	52,862	83,696	88,657	208,076	440,753
		31年4月	6,953	50,078	80,572	86,927	209,684	434,213
1頭当たり乳量(推定値)		6,595.6	7,400.0	7,849.4	8,126.6	8,607.8	-	
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	68,100	491,518	760,493	776,010	1,697,357	3,793,478
		27年度	62,325	463,412	734,299	762,194	1,727,079	3,749,309
		28年度	57,345	437,440	708,097	748,367	1,752,412	3,703,661
		29年度	53,013	413,420	682,237	734,466	1,773,654	3,656,791
		30年度	49,215	391,183	656,964	720,478	1,791,072	3,608,913
		31年度	45,859	370,577	632,440	706,420	1,804,912	3,560,208

表Ⅲ-1-1D 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(比率) <北海道>  
[単位:%]

		30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計	
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	8.3	27.1	27.3	19.2	18.1	100.0
	推定値	27年4月	7.9	26.4	27.2	19.5	19.1	100.0
		28年4月	7.5	25.7	27.1	19.7	20.0	100.0
		29年4月	7.1	25.1	26.9	20.0	20.9	100.0
		30年4月	6.8	24.5	26.7	20.2	21.7	100.0
		31年4月	6.6	23.9	26.5	20.4	22.6	100.0
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	2.2	14.2	20.8	20.5	42.3	100.0
		27年4月	2.1	13.6	20.3	20.4	43.6	100.0
		28年4月	1.9	13.0	19.9	20.3	44.9	100.0
		29年4月	1.8	12.5	19.4	20.2	46.1	100.0
		30年4月	1.7	12.0	19.0	20.1	47.2	100.0
		31年4月	1.6	11.5	18.6	20.0	48.3	100.0
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	1.8	13.0	20.0	20.5	44.7	100.0
		27年度	1.7	12.4	19.6	20.3	46.1	100.0
		28年度	1.5	11.8	19.1	20.2	47.3	100.0
		29年度	1.4	11.3	18.7	20.1	48.5	100.0
		30年度	1.4	10.8	18.2	20.0	49.6	100.0
		31年度	1.3	10.4	17.8	19.8	50.7	100.0

## 【2】東北

### 【1】経営規模別戸数分布に関する変化傾向

平成25年4月から26年4月にかけての経営規模間移動の分布状況をみると、大部分の経営規模階層で規模拡大経営の割合を規模縮小または廃業経営の割合が大きく上回っている。そして、この傾向は特に経産牛50頭未満の規模階層で顕著に現れており、東北の酪農家全体に占める割合で見ると、『20頭未満』層では規模拡大経営2.7%に対して廃業経営4.4%、『20頭～30頭未満』層では規模拡大経営2.5%に対して規模縮小または廃業経営4.2%、『30頭～50頭未満』層では規模拡大経営

1.0%に対して規模縮小または廃業経営 4.2%となっている。

表Ⅲ-1-2A 酪農家全体からみた規模変化状況別シェアの推定結果(平成25年4月～26年4月) <東北>

合計		2,697戸						
		H26年4月						
		20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
H 2 5 年 4 月	20頭未満	35.2%	2.1%	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%	4.4%
	20頭～30頭未満	3.6%	14.8%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	30頭～50頭未満	0.6%	3.3%	19.2%	1.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	50頭～70頭未満	0.0%	0.2%	1.0%	4.7%	0.4%	0.0%	0.1%
	70頭～100頭未満	0.0%	0.0%	0.3%	0.4%	2.3%	0.1%	0.0%
	100頭以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	2.0%	0.0%

なお、表Ⅲ-1-2Aをベースとして算出した推移確率行列は下表のとおりである。

表Ⅲ-1-2B 推移確率行列の推定結果 <東北>

		翌年4月							
		(計)	20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
当 年 4 月	20頭未満	1,140	0.8319	0.0505	0.0098	0.0037	0.0000	0.0000	0.1041
	20頭～30頭未満	579	0.1671	0.6903	0.1163	0.0000	0.0000	0.0000	0.0263
	30頭～50頭未満	660	0.0255	0.1359	0.7838	0.0425	0.0000	0.0000	0.0123
	50頭～70頭未満	174	0.0000	0.0322	0.1611	0.7329	0.0564	0.0000	0.0175
	70頭～100頭未満	83	0.0000	0.0000	0.0847	0.1356	0.7458	0.0339	0.0000
	100頭以上	61	0.0000	0.0000	0.0000	0.0457	0.0686	0.8691	0.0165

## [2] 経営規模別生乳生産・出荷動向の推定結果

経営規模別生乳生産動向の推定結果によれば、全ての経営規模階層で酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総出荷乳量がいずれも減少の一途を辿って行くことが推測される。

また、経営規模階層別シェアで見ると、酪農家戸数、経産牛飼養頭数、出荷乳量のいずれについても、経産牛「20頭未満」の階層と70頭以上の階層は年々ウェイトを低下させ、20頭～70頭未満の階層のウェイトが高まって行くという結果が得られている。

表Ⅲ-1-2C 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(実数) <東北>

[単位:戸、頭、kg、トン]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	1,062	553	631	174	76	56	2,551
	推定値	27年4月	992	526	604	171	70	51	2,414
		28年4月	928	501	578	166	65	47	2,286
		29年4月	871	477	553	161	61	43	2,165
		30年4月	818	453	528	155	58	39	2,052
		31年4月	770	431	505	149	55	36	1,945
1戸当たり経産牛頭数(回答値)			9.4	21.1	33.7	50.6	68.1	210.4	-
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	9,963	11,659	21,255	8,794	5,161	11,801	68,631
		27年4月	9,306	11,107	20,335	8,648	4,779	10,796	64,970
		28年4月	8,711	10,571	19,457	8,419	4,461	9,883	61,503
		29年4月	8,171	10,056	18,610	8,142	4,186	9,056	58,222
		30年4月	7,677	9,564	17,790	7,838	3,942	8,309	55,119
		31年4月	7,224	9,094	16,996	7,519	3,720	7,634	52,186
1頭当たり乳量(推定値)			6,601.6	7,474.7	7,882.6	8,467.4	7,897.0	8,271.4	-
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	65,769	87,147	167,546	74,460	40,754	97,607	533,282
		27年度	61,432	83,023	160,293	73,223	37,740	89,298	505,008
		28年度	57,510	79,018	153,369	71,290	35,228	81,746	478,161
		29年度	53,943	75,168	146,695	68,943	33,057	74,907	452,713
		30年度	50,683	71,485	140,234	66,363	31,127	68,726	428,618
		31年度	47,691	67,971	133,973	63,669	29,374	63,142	405,821

表Ⅲ-1-2D 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(比率) <東北>

[単位:%]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	41.6	21.7	24.7	6.8	3.0	2.2	100.0
	推定値	27年4月	41.1	21.8	25.0	7.1	2.9	2.1	100.0
		28年4月	40.6	21.9	25.3	7.3	2.9	2.1	100.0
		29年4月	40.2	22.0	25.5	7.4	2.8	2.0	100.0
		30年4月	39.9	22.1	25.7	7.6	2.8	1.9	100.0
		31年4月	39.6	22.2	25.9	7.6	2.8	1.9	100.0
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	14.5	17.0	31.0	12.8	7.5	17.2	100.0
		27年4月	14.3	17.1	31.3	13.3	7.4	16.6	100.0
		28年4月	14.2	17.2	31.6	13.7	7.3	16.1	100.0
		29年4月	14.0	17.3	32.0	14.0	7.2	15.6	100.0
		30年4月	13.9	17.4	32.3	14.2	7.2	15.1	100.0
		31年4月	13.8	17.4	32.6	14.4	7.1	14.6	100.0
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	12.3	16.3	31.4	14.0	7.6	18.3	100.0
		27年度	12.2	16.4	31.7	14.5	7.5	17.7	100.0
		28年度	12.0	16.5	32.1	14.9	7.4	17.1	100.0
		29年度	11.9	16.6	32.4	15.2	7.3	16.5	100.0
		30年度	11.8	16.7	32.7	15.5	7.3	16.0	100.0
		31年度	11.8	16.7	33.0	15.7	7.2	15.6	100.0

### 【3】 関東

#### 【1】 経営規模別戸数分布に関する変化傾向

平成25年4月から26年4月にかけての経営規模間移動の分布状況をみると、都府県の他の地域と同様、大部分の経営規模階層で規模拡大経営の割合を規模縮小または廃業経営の割合が大幅に上回っている。この傾向は、経産牛70頭未満の階層で特に顕著に現れており、酪農家全体に占める割合でみると、『20頭未満』層では規模拡大経営1.6%に対して廃業経営3.4%、『20頭～30頭未満』層では規模拡大経営1.1%に対して規模縮小または廃業経営5.1%、『30頭～50頭未満』層では規模

拡大経営 0.9%に対して規模縮小または廃業経営 6.1%、『50 頭～70 頭未満』層では規模拡大経営 0.5%に対して規模縮小または廃業経営 2.5%となっている。

表Ⅲ-1-3A 酪農家全体からみた規模変化状況別シェアの推定結果(平成25年4月～26年4月) <関東>

合 計		H26年4月						
		20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未 満	100頭以 上	酪農離脱
H 2 5 年 4 月	20頭未満	20.0%	1.3%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	3.4%
	20頭～30頭未満	3.9%	16.1%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
	30頭～50頭未満	0.4%	4.9%	25.6%	0.9%	0.0%	0.0%	0.8%
	50頭～70頭未満	0.0%	0.3%	2.1%	7.4%	0.5%	0.0%	0.1%
	70頭～100頭未満	0.0%	0.0%	0.2%	0.6%	3.4%	0.2%	0.1%
	100頭以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%	4.7%	0.0%

なお、表Ⅲ-1-3Aをベースとして算出した推移確率行列は下表のとおりである。

表Ⅲ-1-3B 推移確率行列の推定結果 <関東>

		翌年4月							
		(計)	20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未 満	100頭以 上	酪農離脱
当 年 4 月	20頭未満	847	0.7997	0.0502	0.0072	0.0060	0.0012	0.0000	0.1358
	20頭～30頭未満	754	0.1733	0.7253	0.0484	0.0000	0.0000	0.0000	0.0531
	30頭～50頭未満	1,109	0.0128	0.1499	0.7822	0.0283	0.0009	0.0000	0.0259
	50頭～70頭未満	352	0.0000	0.0288	0.1988	0.7175	0.0461	0.0000	0.0088
	70頭～100頭未満	154	0.0066	0.0000	0.0526	0.1316	0.7564	0.0395	0.0133
	100頭以上	173	0.0000	0.0000	0.0000	0.0175	0.0585	0.9240	0.0000

## [2] 経営規模別生乳生産・出荷動向の推定結果

関東に関する経営規模別生乳生産動向の推定結果によれば、全ての規模階層で酪農家戸数、経産牛飼養頭数、出荷乳量がいずれも漸減傾向を辿るものと推測される。

また、経営規模階層別シェアの将来動向に関しては、酪農家戸数、経産牛飼養頭数、出荷乳量のいずれからみても、経産牛「100 頭以上」の階層と 30 頭未満の階層のシェアは年々上昇し、30 頭～100 頭未満の階層のシェアは年々低下して行くという推定結果が得られている。

表Ⅲ-1-3C 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(実数) <関東>

[単位:戸、頭、kg、トン]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	824	766	988	312	145	166	3,200
	推定値	27年4月	805	754	885	279	136	159	3,017
		28年4月	786	728	797	250	126	152	2,841
		29年4月	766	694	721	226	118	146	2,671
		30年4月	743	656	654	205	110	139	2,508
		31年4月	717	617	595	187	102	133	2,352
1戸当たり経産牛頭数(回答値)			12.2	24.3	37.6	56.9	80.9	243.1	-
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	10,057	18,609	37,106	17,750	11,712	40,383	135,616
		27年4月	9,828	18,316	33,253	15,857	10,960	38,703	126,918
		28年4月	9,604	17,685	29,946	14,251	10,226	37,061	118,771
		29年4月	9,354	16,864	27,078	12,875	9,525	35,457	111,152
		30年4月	9,071	15,948	24,570	11,687	8,865	33,891	104,033
		31年4月	8,754	14,998	22,361	10,652	8,251	32,367	97,383
1頭当たり乳量(推定値)			6,542.4	7,248.5	7,878.2	8,174.4	8,693.1	8,930.2	-
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	65,795	134,889	292,328	145,094	101,813	360,628	1,100,546
		27年度	64,301	132,767	261,974	129,621	95,280	345,622	1,029,565
		28年度	62,831	128,187	235,918	116,491	88,895	330,960	963,281
		29年度	61,200	122,235	213,323	105,249	82,800	316,635	901,442
		30年度	59,346	115,601	193,566	95,536	77,069	302,656	843,773
		31年度	57,269	108,716	176,168	87,072	71,730	289,041	789,995

表Ⅲ-1-3D 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(比率) <関東>

[単位:%]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	25.7	23.9	30.9	9.7	4.5	5.2	100.0
	推定値	27年4月	26.7	25.0	29.3	9.2	4.5	5.3	100.0
		28年4月	27.7	25.6	28.1	8.8	4.5	5.4	100.0
		29年4月	28.7	26.0	27.0	8.5	4.4	5.5	100.0
		30年4月	29.6	26.2	26.1	8.2	4.4	5.6	100.0
		31年4月	30.5	26.2	25.3	8.0	4.3	5.7	100.0
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	7.4	13.7	27.4	13.1	8.6	29.8	100.0
		27年4月	7.7	14.4	26.2	12.5	8.6	30.5	100.0
		28年4月	8.1	14.9	25.2	12.0	8.6	31.2	100.0
		29年4月	8.4	15.2	24.4	11.6	8.6	31.9	100.0
		30年4月	8.7	15.3	23.6	11.2	8.5	32.6	100.0
		31年4月	9.0	15.4	23.0	10.9	8.5	33.2	100.0
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	6.0	12.3	26.6	13.2	9.3	32.8	100.0
		27年度	6.2	12.9	25.4	12.6	9.3	33.6	100.0
		28年度	6.5	13.3	24.5	12.1	9.2	34.4	100.0
		29年度	6.8	13.6	23.7	11.7	9.2	35.1	100.0
		30年度	7.0	13.7	22.9	11.3	9.1	35.9	100.0
		31年度	7.2	13.8	22.3	11.0	9.1	36.6	100.0

#### 【4】北陸

##### [1] 経営規模別戸数分布に関する変化傾向

表Ⅲ-1-4Aによって、平成25年4月から26年4月にかけての経営規模間移動に関する分布状況をみると、都府県の他の地域と同様、大部分の経営規模階層で規模拡大経営の割合を規模縮小または廃業経営の割合が大幅に上回っている。この傾向は、関東と同様、経産牛70頭未満の階層で特に顕著に現れており、北陸の酪農家全体に占める割合でみると、『20頭未満』層では規模拡大経営

3.8%に対して廃業経営7.1%、『20頭～30頭未満』層では規模拡大経営2.9%に対して規模縮小または廃業経営6.6%、『30頭～50頭未満』層では規模拡大経営0.8%に対して規模縮小または廃業経営4.1%、『50頭～70頭未満』層では規模拡大経営0.4%に対して規模縮小経営3.7%となっている。

表Ⅲ-1-4A 酪農家全体からみた規模変化状況別シェアの推定結果(平成25年4月～26年4月) <北陸>

合計		254戸						
		H26年4月						
		20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
H 2 5 年 4 月	20頭未満	39.4%	3.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%
	20頭～30頭未満	5.0%	29.3%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
	30頭～50頭未満	0.4%	2.1%	31.9%	0.8%	0.0%	0.0%	1.6%
	50頭～70頭未満	0.0%	0.8%	2.9%	13.4%	0.4%	0.0%	0.0%
	70頭～100頭未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.5%	0.0%	0.0%
	100頭以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%

なお、表Ⅲ-1-4Aをベースとして算出した推移確率行列は下表のとおりである。

表Ⅲ-1-4B 推移確率行列の推定結果 <北陸>

		翌年4月							
		(計)	20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
当 年 4 月	20頭未満	128	0.7841	0.0667	0.0083	0.0000	0.0000	0.0000	0.1409
	20頭～30頭未満	99	0.1294	0.7547	0.0755	0.0000	0.0000	0.0000	0.0405
	30頭～50頭未満	94	0.0114	0.0570	0.8661	0.0228	0.0000	0.0000	0.0428
	50頭～70頭未満	45	0.0000	0.0476	0.1667	0.7619	0.0238	0.0000	0.0000
	70頭～100頭未満	14	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	1.0000	0.0000	0.0000
	100頭以上	3	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	1.0000	0.0000

## [2] 経営規模別生乳生産・出荷動向の推定結果

北陸に関する経営規模別生乳生産動向の推定結果によれば、都府県の他の地域とは異なり、経産牛70頭未満の階層では酪農家戸数、経産牛飼養頭数、出荷乳量が全て漸減傾向を示し、逆に「70頭～100頭未満」層では漸増傾向、「100頭以上」層では現状維持の動きをみせている。

また、経営規模階層別シェアで見ると、酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総出荷乳量のいずれについても、経産牛30頭未満及び「50頭～70頭未満」の各階層のシェアは低下傾向、「30頭～50頭未満」及び70頭以上の各階層のシェアは上昇する傾向を示している。

表Ⅲ-1-4C 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(実数) <北陸>

[単位:戸、頭、kg、トン]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	114	91	97	36	15	3	356
	推定値	27年4月	102	83	98	30	16	3	332
		28年4月	92	77	97	25	16	3	310
		29年4月	83	71	95	21	17	3	290
		30年4月	75	65	91	18	18	3	271
		31年4月	69	60	88	16	18	3	254
1戸当たり経産牛頭数(回答値)			11.8	24.5	37.3	57.3	77.9	174.0	-
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	1,342	2,220	3,616	2,077	1,163	556	10,973
		27年4月	1,203	2,039	3,647	1,709	1,230	556	10,385
		28年4月	1,083	1,878	3,610	1,430	1,285	556	9,842
		29年4月	979	1,732	3,526	1,216	1,332	556	9,340
		30年4月	888	1,600	3,410	1,050	1,371	556	8,875
		31年4月	808	1,480	3,275	919	1,405	556	8,443
1頭当たり乳量(推定値)			6,981.5	7,959.4	8,114.5	8,115.7	7,869.8	9,922.6	-
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	9,366	17,667	29,343	16,854	9,151	5,521	87,902
		27年度	8,397	16,232	29,596	13,869	9,681	5,521	83,295
		28年度	7,559	14,944	29,294	11,604	10,116	5,521	79,039
		29年度	6,832	13,784	28,611	9,868	10,480	5,521	75,096
		30年度	6,196	12,733	27,673	8,521	10,790	5,521	71,433
		31年度	5,638	11,778	26,571	7,462	11,058	5,521	68,027

表Ⅲ-1-4D 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(比率) <北陸>

[単位:%]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	32.0	25.4	27.2	10.2	4.2	0.9	100.0
	推定値	27年4月	30.8	25.1	29.5	9.0	4.8	1.0	100.0
		28年4月	29.7	24.7	31.2	8.0	5.3	1.0	100.0
		29年4月	28.7	24.4	32.6	7.3	5.9	1.1	100.0
		30年4月	27.8	24.1	33.7	6.8	6.5	1.2	100.0
		31年4月	27.0	23.8	34.6	6.3	7.1	1.3	100.0
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	12.2	20.2	33.0	18.9	10.6	5.1	100.0
		27年4月	11.6	19.6	35.1	16.5	11.8	5.4	100.0
		28年4月	11.0	19.1	36.7	14.5	13.1	5.7	100.0
		29年4月	10.5	18.5	37.7	13.0	14.3	6.0	100.0
		30年4月	10.0	18.0	38.4	11.8	15.4	6.3	100.0
		31年4月	9.6	17.5	38.8	10.9	16.6	6.6	100.0
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	10.7	20.1	33.4	19.2	10.4	6.3	100.0
		27年度	10.1	19.5	35.5	16.7	11.6	6.6	100.0
		28年度	9.6	18.9	37.1	14.7	12.8	7.0	100.0
		29年度	9.1	18.4	38.1	13.1	14.0	7.4	100.0
		30年度	8.7	17.8	38.7	11.9	15.1	7.7	100.0
		31年度	8.3	17.3	39.1	11.0	16.3	8.1	100.0

## 【5】東海

### [1] 経営規模別戸数分布に関する変化傾向

表Ⅲ-1-5Aによって、平成25年4月から26年4月にかけての経営規模間移動に関する分布状況をみると、都府県の他の地域と同様、大部分の経営規模階層で規模拡大経営の割合を規模縮小または廃業経営の割合が大幅に上回っている。

この傾向は経産牛 70 頭未満の階層で顕著に現れており、中でも『30 頭～50 頭未満』層からの規模縮小・廃業経営が多い。これを、東海の酪農家全体に占める割合でみると、『20 頭未満』層では規模拡大経営 2.5%に対して廃業経営 3.0%、『20 頭～30 頭未満』層では規模拡大経営 1.7%に対して規模縮小または廃業経営 3.8%、『30 頭～50 頭未満』層では規模拡大経営 0.7%に対して規模縮小または廃業経営 6.5%、『50 頭～70 頭未満』層では規模拡大経営 1.1%に対して規模縮小経営 2.6%となっている。

表Ⅲ-1-5A 酪農家全体からみた規模変化状況別シェアの推定結果(平成25年4月～26年4月) <東海>

合計		757戸						
		H26年4月						
		20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
H 2 5 年 4 月	20頭未満	20.0%	1.5%	0.8%	0.0%	0.1%	0.1%	3.0%
	20頭～30頭未満	3.4%	16.7%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
	30頭～50頭未満	1.2%	3.2%	31.8%	0.7%	0.0%	0.0%	2.1%
	50頭～70頭未満	0.0%	0.1%	2.2%	14.2%	1.1%	0.0%	0.3%
	70頭～100頭未満	0.0%	0.0%	1.0%	1.2%	6.5%	0.4%	0.3%
	100頭以上	0.1%	0.0%	0.0%	0.3%	0.6%	10.5%	0.0%

なお、表Ⅲ-1-5Aをベースとして算出した推移確率行列は下表のとおりである。

表Ⅲ-1-5B 推移確率行列の推定結果 <東海>

		翌年4月							
		(計)	20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
当 年 4 月	20頭未満	193	0.7816	0.0593	0.0323	0.0000	0.0054	0.0054	0.1160
	20頭～30頭未満	168	0.1551	0.7505	0.0744	0.0000	0.0000	0.0000	0.0200
	30頭～50頭未満	295	0.0318	0.0813	0.8161	0.0177	0.0000	0.0000	0.0532
	50頭～70頭未満	136	0.0000	0.0077	0.1229	0.7914	0.0615	0.0000	0.0165
	70頭～100頭未満	71	0.0000	0.0000	0.1027	0.1321	0.6896	0.0440	0.0316
	100頭以上	87	0.0120	0.0000	0.0000	0.0241	0.0482	0.9157	0.0000

## [2] 経営規模別生乳生産・出荷動向の推定結果

表Ⅲ-1-5Cに示した東海に関する経営規模別生産動向の推定結果によれば、全ての規模階層で酪農家戸数、経産牛飼養頭数、出荷乳量がいずれも漸減傾向を辿るものと推測される。

ただし、経営規模階層別シェアの動向でみると、都府県の多くの地域とはやや傾向が異なり、酪農家戸数、経産牛飼養頭数、出荷乳量のいずれに関しても、経産牛「100 頭以上」と 30 頭未満層の両端の階層のシェアが年々上昇し、50 頭～100 頭未満の階層のシェアが年々低下して行くという結果になっている。また、「30～50 頭未満」の階層については、酪農家戸数に関するシェアは上昇傾向から低下傾向へと転ずるが、経産牛飼養頭数及び出荷乳量に関するシェアは一貫して上昇傾向を辿ることが推測される。

表Ⅲ-1-5C 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(実数) <東海>

[単位:戸、頭、kg、トン]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	188	163	284	124	63	83	904
	推定値	27年4月	182	157	271	113	56	80	860
		28年4月	176	152	259	104	50	77	818
		29年4月	170	146	246	95	46	74	777
		30年4月	165	140	234	88	42	70	738
		31年4月	159	135	221	81	39	67	701
1戸当たり経産牛頭数(回答値)			10.8	23.8	37.3	56.4	80.2	204.1	-
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	2,035	3,871	10,586	7,000	5,020	17,025	45,537
		27年4月	1,972	3,741	10,127	6,402	4,478	16,358	43,077
		28年4月	1,910	3,610	9,655	5,861	4,036	15,679	40,752
		29年4月	1,847	3,477	9,183	5,375	3,669	15,003	38,554
		30年4月	1,784	3,343	8,718	4,940	3,358	14,336	36,478
		31年4月	1,720	3,209	8,265	4,549	3,091	13,684	34,518
1頭当たり乳量(推定値)			7,675.1	7,709.1	8,006.5	8,229.6	8,499.5	8,873.5	-
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	15,617	29,844	84,759	57,606	42,666	151,069	381,560
		27年度	15,139	28,842	81,080	52,683	38,057	145,148	360,948
		28年度	14,659	27,830	77,304	48,235	34,305	139,131	341,463
		29年度	14,175	26,805	73,523	44,237	31,186	133,127	323,053
		30年度	13,689	25,772	69,800	40,651	28,543	127,208	305,664
		31年度	13,200	24,737	66,178	37,438	26,268	121,422	289,242

表Ⅲ-1-5D 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(比率) <東海>

[単位:%]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	20.8	18.0	31.4	13.7	6.9	9.2	100.0
	推定値	27年4月	21.2	18.3	31.6	13.2	6.5	9.3	100.0
		28年4月	21.5	18.6	31.6	12.7	6.2	9.4	100.0
		29年4月	21.9	18.8	31.7	12.3	5.9	9.5	100.0
		30年4月	22.3	19.0	31.6	11.9	5.7	9.5	100.0
		31年4月	22.6	19.2	31.6	11.5	5.5	9.6	100.0
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	4.5	8.5	23.2	15.4	11.0	37.4	100.0
		27年4月	4.6	8.7	23.5	14.9	10.4	38.0	100.0
		28年4月	4.7	8.9	23.7	14.4	9.9	38.5	100.0
		29年4月	4.8	9.0	23.8	13.9	9.5	38.9	100.0
		30年4月	4.9	9.2	23.9	13.5	9.2	39.3	100.0
		31年4月	5.0	9.3	23.9	13.2	9.0	39.6	100.0
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	4.1	7.8	22.2	15.1	11.2	39.6	100.0
		27年度	4.2	8.0	22.5	14.6	10.5	40.2	100.0
		28年度	4.3	8.2	22.6	14.1	10.0	40.7	100.0
		29年度	4.4	8.3	22.8	13.7	9.7	41.2	100.0
		30年度	4.5	8.4	22.8	13.3	9.3	41.6	100.0
		31年度	4.6	8.6	22.9	12.9	9.1	42.0	100.0

## 【6】近畿

### 〔1〕経営規模別戸数分布に関する変化傾向

表Ⅲ-1-6Aによって、平成25年4月から26年4月にかけての経営規模間移動に関する分布状況をみると、都府県の他の地域と同様、大部分の経営規模階層で規模拡大経営の割合を規模縮小または廃業経営の割合が大幅に上回っている。

この傾向は特に経産牛 50 頭未満の階層に顕著に現れており、近畿の酪農家全体に占める割合で見ると、『20 頭未満』層では規模拡大経営 2.9%に対して廃業経営 6.0%、『20 頭～30 頭未満』層では規模拡大経営 1.3%に対して規模縮小または廃業経営 5.3%、『30 頭～50 頭未満』層では規模拡大経営 1.8%に対して規模縮小または廃業経営 9.0%と、他の地域以上に高い値となっている。

表Ⅲ-1-6A 酪農家全体からみた規模変化状況別シェアの推定結果(平成25年4月～26年4月) <近畿>

合 計		600戸						
		H26年4月						
		20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
H 2 5 年 4 月	20頭未満	22.0%	1.8%	0.5%	0.3%	0.0%	0.3%	<b>6.0%</b>
	20頭～30頭未満	<b>4.3%</b>	12.6%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
	30頭～50頭未満	1.0%	<b>7.6%</b>	21.2%	1.8%	0.0%	0.0%	0.4%
	50頭～70頭未満	0.0%	0.0%	1.5%	<b>6.8%</b>	0.8%	0.0%	0.2%
	70頭～100頭未満	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	<b>3.3%</b>	0.3%	0.0%
	100頭以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	<b>3.8%</b>	0.0%

なお、表Ⅲ-1-6Aをベースとして算出した推移確率行列は下表のとおりである。

表Ⅲ-1-6B 推移確率行列の推定結果 <近畿>

		翌年4月							
		(計)	20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
当 年 4 月	20頭未満	185	0.7146	0.0575	0.0164	0.0082	0.0000	0.0082	0.1951
	20頭～30頭未満	115	0.2234	0.6571	0.0657	0.0000	0.0000	0.0000	0.0538
	30頭～50頭未満	192	0.0316	0.2369	0.6633	0.0553	0.0000	0.0000	0.0129
	50頭～70頭未満	56	0.0000	0.0000	0.1630	0.7333	0.0815	0.0000	0.0222
	70頭～100頭未満	27	0.0000	0.0000	0.0000	0.2222	0.7222	0.0556	0.0000
	100頭以上	24	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0625	0.9375	0.0000

## [2] 経営規模別生乳生産・出荷動向の推定結果

近畿に関する経営規模別出荷動向の推定結果によれば、経産牛 100 頭未満の各階層で酪農家戸数、経産牛飼養頭数、出荷乳量がいずれも漸減傾向をみせる中で、「100 頭以上」の階層では年々それらが増加して行くということが推測される。このような結果は、他に北海道と九州で得られているのみであり、都府県の多くの地域とは傾向を異にしている。

一方、経営規模階層別シェアの推移で見ると、都府県の他の地域より寧ろ北海道に近い変化をみせるものと推測される。即ち、近畿においては、酪農家戸数に関しては経産牛 50 頭以上、経産牛飼養頭数及び出荷乳量に関しては経産牛 70 頭以上の階層のシェアが年々上昇して行くという結果が得られている。近畿と北海道との相違点は、経産牛 70 頭未満の一部の階層で、北海道では一貫して低下傾向を示したシェアが、近畿では上昇傾向から低下傾向へと転ずる動きを示しているということ位のものである。

表Ⅲ-1-6C 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(実数) <近畿>

[単位:戸、頭、kg、トン]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	164	132	147	59	26	26	554
	推定値	27年4月	151	131	119	59	25	27	512
		28年4月	141	123	99	56	25	28	472
		29年4月	131	112	85	53	24	29	436
		30年4月	122	102	75	50	24	29	402
		31年4月	112	92	67	47	23	30	370
1戸当たり経産牛頭数(回答値)			12.5	25.3	37.1	58.0	78.9	217.9	-
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	2,042	3,341	5,467	3,431	2,035	5,624	21,940
		27年4月	1,884	3,316	4,407	3,398	1,978	5,878	20,861
		28年4月	1,758	3,110	3,690	3,267	1,938	6,085	19,848
		29年4月	1,637	2,844	3,174	3,098	1,900	6,255	18,909
		30年4月	1,516	2,573	2,784	2,919	1,857	6,391	18,039
		31年4月	1,396	2,317	2,473	2,742	1,809	6,494	17,231
1頭当たり乳量(推定値)			6,769.7	7,903.5	8,094.7	8,557.5	8,888.3	9,153.0	-
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	13,822	26,404	44,252	29,363	18,090	51,473	183,405
		27年度	12,756	26,208	35,670	29,082	17,577	53,801	175,094
		28年度	11,900	24,581	29,867	27,960	17,225	55,696	167,229
		29年度	11,084	22,481	25,696	26,511	16,883	57,250	159,906
		30年度	10,265	20,332	22,532	24,975	16,504	58,495	153,104
		31年度	9,450	18,310	20,021	23,461	16,081	59,443	146,766

表Ⅲ-1-6D 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(比率) <近畿>

[単位:%]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	29.6	23.8	26.6	10.7	4.7	4.7	100.0
	推定値	27年4月	29.6	25.6	23.2	11.5	4.9	5.3	100.0
		28年4月	29.9	26.0	21.0	11.9	5.2	5.9	100.0
		29年4月	30.2	25.8	19.6	12.3	5.5	6.6	100.0
		30年4月	30.3	25.3	18.7	12.5	5.9	7.3	100.0
		31年4月	30.3	24.7	18.0	12.8	6.2	8.0	100.0
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	9.3	15.2	24.9	15.6	9.3	25.6	100.0
		27年4月	9.0	15.9	21.1	16.3	9.5	28.2	100.0
		28年4月	8.9	15.7	18.6	16.5	9.8	30.7	100.0
		29年4月	8.7	15.0	16.8	16.4	10.0	33.1	100.0
		30年4月	8.4	14.3	15.4	16.2	10.3	35.4	100.0
		31年4月	8.1	13.4	14.4	15.9	10.5	37.7	100.0
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	7.5	14.4	24.1	16.0	9.9	28.1	100.0
		27年度	7.3	15.0	20.4	16.6	10.0	30.7	100.0
		28年度	7.1	14.7	17.9	16.7	10.3	33.3	100.0
		29年度	6.9	14.1	16.1	16.6	10.6	35.8	100.0
		30年度	6.7	13.3	14.7	16.3	10.8	38.2	100.0
		31年度	6.4	12.5	13.6	16.0	11.0	40.5	100.0

## 【7】中国

### 〔1〕経営規模別戸数分布に関する変化傾向

表Ⅲ-1-7Aによって、平成25年4月から26年4月にかけての経営規模間移動に関する分布状況をみると、都府県の他の地域と同様、大部分の経営規模階層で規模拡大経営の割合を規模縮小または廃業経営の割合が上回っている。

この傾向は特に経産牛 50 頭未満層に顕著に現れており、中でも『20 頭～30 頭未満』層からの規模縮小・廃業経営が多い。これを、中国の酪農家全体に占める割合でみると、『20 頭未満』層では規模拡大経営 1.4%に対して廃業経営 3.5%、『20 頭～30 頭未満』層では規模拡大経営 1.4%に対して規模縮小または廃業経営 6.6%、『30 頭～50 頭未満』層では規模拡大経営 1.2%に対して規模縮小または廃業経営 4.6%となっている。

表Ⅲ-1-7A 酪農家全体からみた規模変化状況別シェアの推定結果(平成25年4月～26年4月) <中国>

合計		828戸						
		H26年4月						
		20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
H 2 5 年 4 月	20頭未満	24.6%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%
	20頭～30頭未満	4.9%	13.5%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%
	30頭～50頭未満	0.0%	3.7%	23.4%	1.2%	0.0%	0.0%	0.9%
	50頭～70頭未満	0.0%	0.1%	1.0%	6.2%	0.3%	0.0%	0.4%
	70頭～100頭未満	0.0%	0.0%	0.1%	0.7%	4.6%	0.1%	0.0%
	100頭以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	5.8%	0.0%

なお、表Ⅲ-1-7Aをベースとして算出した推移確率行列は下表のとおりである。

表Ⅲ-1-7B 推移確率行列の推定結果 <中国>

		翌年4月							
		(計)	20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
当 年 4 月	20頭未満	245	0.8320	0.0487	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.1194
	20頭～30頭未満	178	0.2268	0.6271	0.0667	0.0000	0.0000	0.0000	0.0794
	30頭～50頭未満	242	0.0000	0.1281	0.8032	0.0394	0.0000	0.0000	0.0293
	50頭～70頭未満	67	0.0000	0.0179	0.1251	0.7682	0.0357	0.0000	0.0531
	70頭～100頭未満	46	0.0000	0.0000	0.0256	0.1282	0.8205	0.0256	0.0000
	100頭以上	50	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0476	0.9524	0.0000

## [2] 経営規模別生乳生産・出荷動向の推定結果

中国に関する経営規模別生産動向の推定結果によれば、都府県の多くの地域と同様、全ての経営規模階層で酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総出荷乳量が漸減して行く傾向を示している。

一方、経営規模階層別シェアでみると、都府県の他の地域と共通した傾向も認められるが、それらの地域にはみられない傾向も多々みられる。即ち、経産牛「20 頭未満」、「50 頭～70 頭未満」、「100 頭以上」の各階層では酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総出荷乳量に関するシェアが上昇し、逆に 20 頭～50 頭未満の階層ではそれらに関するシェアが低下して行くものと推測される。また、「70 頭～100 頭未満」層では酪農家戸数に関するシェアは漸増して行くが、経産牛飼養頭数及び総出荷乳量に関するシェアは漸減して行くという計測結果が得られている。

表Ⅲ-1-7C 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(実数) <中国>

[単位:戸、頭、kg、トン]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	244	156	216	67	43	49	774
	推定値	27年4月	238	139	193	65	40	48	723
		28年4月	230	124	173	63	37	46	674
		29年4月	219	112	156	60	35	45	628
		30年4月	208	102	141	57	33	44	585
		31年4月	196	93	128	53	31	43	545
1戸当たり経産牛頭数(回答値)			12.3	24.2	36.9	57.8	82.4	204.4	-
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	3,009	3,775	7,944	3,852	3,534	9,978	32,091
		27年4月	2,939	3,352	7,112	3,767	3,288	9,727	30,185
		28年4月	2,833	3,009	6,391	3,629	3,076	9,473	28,411
		29年4月	2,704	2,722	5,763	3,459	2,891	9,217	26,758
		30年4月	2,565	2,476	5,215	3,273	2,726	8,962	25,216
		31年4月	2,420	2,261	4,732	3,081	2,576	8,709	23,779
1頭当たり乳量(推定値)			7,645.7	7,980.9	8,429.1	8,577.0	8,791.7	9,423.4	-
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	23,005	30,128	66,960	33,037	31,068	94,024	278,221
		27年度	22,474	26,750	59,945	32,311	28,904	91,664	262,048
		28年度	21,659	24,015	53,868	31,123	27,047	89,268	246,981
		29年度	20,678	21,727	48,580	29,666	25,419	86,860	232,930
		30年度	19,608	19,763	43,955	28,072	23,964	84,456	219,817
		31年度	18,501	18,045	39,889	26,428	22,644	82,067	207,573

表Ⅲ-1-7D 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(比率) <中国>

[単位:%]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	31.5	20.2	27.8	8.6	5.5	6.3	100.0
	推定値	27年4月	33.0	19.2	26.7	9.0	5.5	6.6	100.0
		28年4月	34.1	18.4	25.7	9.3	5.5	6.9	100.0
		29年4月	34.9	17.9	24.9	9.5	5.6	7.2	100.0
		30年4月	35.5	17.5	24.2	9.7	5.6	7.5	100.0
		31年4月	36.0	17.1	23.5	9.8	5.7	7.8	100.0
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	9.4	11.8	24.8	12.0	11.0	31.1	100.0
		27年4月	9.7	11.1	23.6	12.5	10.9	32.2	100.0
		28年4月	10.0	10.6	22.5	12.8	10.8	33.3	100.0
		29年4月	10.1	10.2	21.5	12.9	10.8	34.4	100.0
		30年4月	10.2	9.8	20.7	13.0	10.8	35.5	100.0
		31年4月	10.2	9.5	19.9	13.0	10.8	36.6	100.0
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	8.3	10.8	24.1	11.9	11.2	33.8	100.0
		27年度	8.6	10.2	22.9	12.3	11.0	35.0	100.0
		28年度	8.8	9.7	21.8	12.6	11.0	36.1	100.0
		29年度	8.9	9.3	20.9	12.7	10.9	37.3	100.0
		30年度	8.9	9.0	20.0	12.8	10.9	38.4	100.0
		31年度	8.9	8.7	19.2	12.7	10.9	39.5	100.0

## 【8】四国

### [1] 経営規模別戸数分布に関する変化傾向

表Ⅲ-1-8Aによって、平成25年4月から26年4月にかけての経営規模間移動に関する分布状況をみると、都府県の他の地域と同様、大部分の経営規模階層で規模拡大経営の割合を規模縮小または廃業経営の割合が大幅に上回っている。

この傾向は特に経産牛 50 頭未満の階層に顕著に現れており、四国の酪農家全体に占める割合で見ると、『20 頭未満』層では規模拡大経営 1.8%に対して廃業経営 5.2%、『20 頭～30 頭未満』層では規模拡大経営 0.8%に対して規模縮小または廃業経営 6.3%、『30 頭～50 頭未満』層では規模拡大経営 1.6%に対して規模縮小または廃業経営 4.8%と、近畿と並んで他の地域以上に高い値となっている。

表Ⅲ-1-8A 酪農家全体からみた規模変化状況別シェアの推定結果(平成25年4月～26年4月) <四国>

合計		432戸						
		H26年4月						
		20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
H 2 5 年 4 月	20頭未満	24.1%	1.3%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.2%
	20頭～30頭未満	5.7%	14.5%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
	30頭～50頭未満	0.3%	3.9%	22.3%	1.6%	0.0%	0.0%	0.6%
	50頭～70頭未満	0.0%	0.3%	1.3%	8.8%	0.3%	0.0%	0.0%
	70頭～100頭未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	3.1%	0.0%	0.0%
	100頭以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	4.1%	0.0%

なお、表Ⅲ-1-8Aをベースとして算出した推移確率行列は下表のとおりである。

表Ⅲ-1-8B 推移確率行列の推定結果 <四国>

		翌年4月							
		(計)	20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
当 年 4 月	20頭未満	134	0.7749	0.0417	0.0167	0.0000	0.0000	0.0000	0.1668
	20頭～30頭未満	93	0.2635	0.6706	0.0359	0.0000	0.0000	0.0000	0.0300
	30頭～50頭未満	124	0.0090	0.1357	0.7783	0.0543	0.0000	0.0000	0.0226
	50頭～70頭未満	46	0.0000	0.0244	0.1220	0.8293	0.0244	0.0000	0.0000
	70頭～100頭未満	16	0.0000	0.0000	0.0000	0.1429	0.8571	0.0000	0.0000
	100頭以上	19	0.0000	0.0000	0.0000	0.0588	0.0000	0.9412	0.0000

## [2] 経営規模別生乳生産・出荷動向の推定結果

四国に関する経営規模別生産動向の推定結果によれば、都府県の多くの地域と同様、全ての経営規模階層で酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総出荷乳量がいずれも漸減して行く傾向を示している。

一方、経営規模階層別シェアの推移についてみると、経産牛 50 頭以上の階層では酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総出荷乳量に関するシェアがいずれも上昇し、20 頭～50 頭未満の階層ではそれらのシェアがいずれも低下して行くという推定結果が得られている。ただし、経産牛「20 頭未満」の階層では、今後 4～5 年間はそれらのシェアが微増して行くことが推測される。これと比較的類似した傾向が関東、東海、中国等においてもみられるが、四国ではこれらの地域よりも小さい規模階層からシェアアップする傾向を示しており、相対的に小さい規模階層が厚く存続して行く可能性を示している。

表Ⅲ-1-8C 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(実数) <四国>

[単位:戸、頭、kg、トン]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	130	86	107	48	15	18	404
	推定値	27年4月	124	79	95	49	14	17	377
		28年4月	118	72	85	49	13	16	352
		29年4月	111	66	76	48	12	15	328
		30年4月	104	60	69	46	12	14	306
		31年4月	97	55	64	45	11	13	285
1戸当たり経産牛頭数(回答値)			12.0	24.1	36.9	57.2	79.8	230.0	-
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	1,555	2,077	3,965	2,754	1,160	4,118	15,629
		27年4月	1,488	1,903	3,496	2,797	1,088	3,876	14,649
		28年4月	1,413	1,740	3,122	2,782	1,028	3,648	13,732
		29年4月	1,332	1,590	2,817	2,729	976	3,433	12,877
		30年4月	1,248	1,456	2,563	2,651	929	3,232	12,078
		31年4月	1,165	1,335	2,347	2,556	886	3,041	11,332
1頭当たり乳量(推定値)			6,747.0	7,286.0	7,894.4	8,668.9	8,932.7	8,870.0	-
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	10,489	15,131	31,299	23,877	10,365	36,530	127,691
		27年度	10,041	13,864	27,601	24,249	9,720	34,381	119,856
		28年度	9,531	12,674	24,647	24,121	9,181	32,358	112,512
		29年度	8,984	11,588	22,237	23,658	8,714	30,455	105,635
		30年度	8,422	10,608	20,231	22,978	8,297	28,663	99,200
		31年度	7,863	9,730	18,529	22,162	7,917	26,977	93,178

表Ⅲ-1-8D 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(比率) <四国>

[単位:%]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	32.1	21.3	26.6	11.9	3.6	4.4	100.0
	推定値	27年4月	32.9	20.9	25.1	13.0	3.6	4.5	100.0
		28年4月	33.5	20.5	24.0	13.8	3.7	4.5	100.0
		29年4月	33.9	20.1	23.2	14.5	3.7	4.5	100.0
		30年4月	34.1	19.7	22.7	15.1	3.8	4.6	100.0
		31年4月	34.1	19.4	22.3	15.7	3.9	4.6	100.0
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	9.9	13.3	25.4	17.6	7.4	26.4	100.0
		27年4月	10.2	13.0	23.9	19.1	7.4	26.5	100.0
		28年4月	10.3	12.7	22.7	20.3	7.5	26.6	100.0
		29年4月	10.3	12.4	21.9	21.2	7.6	26.7	100.0
		30年4月	10.3	12.1	21.2	21.9	7.7	26.8	100.0
		31年4月	10.3	11.8	20.7	22.6	7.8	26.8	100.0
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	8.2	11.8	24.5	18.7	8.1	28.6	100.0
		27年度	8.4	11.6	23.0	20.2	8.1	28.7	100.0
		28年度	8.5	11.3	21.9	21.4	8.2	28.8	100.0
		29年度	8.5	11.0	21.1	22.4	8.2	28.8	100.0
		30年度	8.5	10.7	20.4	23.2	8.4	28.9	100.0
		31年度	8.4	10.4	19.9	23.8	8.5	29.0	100.0

## 【9】九州

### 〔1〕経営規模別戸数分布に関する変化傾向

表Ⅲ-1-9Aによって、平成25年4月から26年4月にかけての酪農家の経営規模間移動に関する分布状況を見ると、九州でも大部分の経営規模階層で規模拡大経営の割合を規模縮小または廃業経営の割合が上回っているが、都府県の他の地域と比べると規模縮小・廃業の動きと規模拡大の動きの差はさほど大きくない。九州の中ではその差が比較的大きい経産牛50頭未満の階層について、九州の

酪農家全体に占める割合でみると、『20 頭未満』層では規模拡大経営 2.2%に対して廃業経営 2.9%、『20 頭～30 頭未満』層では規模拡大経営 2.7%に対して規模縮小または廃業経営 3.9%、『30 頭～50 頭未満』層では規模拡大経営 1.4%に対して規模縮小または廃業経営 4.5%という程度に止まっている。

表Ⅲ-1-9A 酪農家全体からみた規模変化状況別シェアの推定結果(平成25年4月～26年4月) <九州>

合計		1,798戸						
		H26年4月						
		20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
H 2 5 年 4 月	20頭未満	15.1%	1.9%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	2.9%
	20頭～30頭未満	2.8%	13.8%	2.6%	0.0%	0.1%	0.0%	1.1%
	30頭～50頭未満	0.1%	3.8%	25.9%	1.4%	0.0%	0.0%	0.6%
	50頭～70頭未満	0.0%	0.1%	1.5%	9.3%	1.0%	0.1%	0.1%
	70頭～100頭未満	0.0%	0.0%	0.2%	0.9%	7.2%	0.6%	0.1%
	100頭以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	6.1%	0.1%

なお、表Ⅲ-1-9Aをベースとして算出した推移確率行列は下表のとおりである。

表Ⅲ-1-9B 推移確率行列の推定結果 <九州>

		翌年4月							
		(計)	20頭未満	20頭～30頭未満	30頭～50頭未満	50頭～70頭未満	70頭～100頭未満	100頭以上	酪農離脱
当 年 4 月	20頭未満	363	0.7467	0.0937	0.0121	0.0060	0.0000	0.0000	0.1414
	20頭～30頭未満	366	0.1381	0.6784	0.1261	0.0000	0.0030	0.0000	0.0544
	30頭～50頭未満	572	0.0038	0.1191	0.8145	0.0442	0.0000	0.0000	0.0183
	50頭～70頭未満	217	0.0000	0.0101	0.1213	0.7680	0.0808	0.0101	0.0096
	70頭～100頭未満	159	0.0000	0.0000	0.0207	0.0966	0.8140	0.0621	0.0066
	100頭以上	120	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0734	0.9178	0.0088

## [2] 経営規模別生乳生産・出荷動向の推定結果

九州に関する経営規模別生産動向の推定結果によれば、経産牛100頭未満の全ての階層で酪農家戸数、経産牛飼養頭数、出荷乳量の全てが漸減傾向を示しており、唯一「100頭以上」層についてのみ酪農家戸数、経産牛飼養頭数、出荷乳量が一貫して増加して行く傾向を示している。このような将来動向は、九州の他に北海道、近畿に関しても推測されており、都府県の他の地域とは傾向を異にしている。

一方、経営規模階層別シェアの推移についてみると、北海道と比較的類似した傾向が認められる。即ち、経産牛30頭未満の階層では酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総出荷乳量に関するシェアが一貫して低下して行き、逆に70頭以上の階層ではそれらに関するシェアが一貫して上昇して行くという推定結果が得られている。

なお、経産牛「50頭～70頭未満」の階層については、酪農家戸数に関するシェアは暫くは上昇するが、経産牛飼養頭数、総出荷乳量に関するシェアは一貫して低下して行くという動きをみせている。

表Ⅲ-1-9C 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(実数) <九州>  
[単位:戸、頭、kg、トン]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	324	353	546	210	157	122	1,712
	推定値	27年4月	293	337	522	202	155	124	1,633
		28年4月	267	320	499	195	153	125	1,559
		29年4月	246	304	477	188	150	126	1,491
		30年4月	227	288	456	182	148	127	1,427
		31年4月	211	273	435	175	145	128	1,367
1戸当たり経産牛頭数(回答値)			12.5	23.7	35.8	57.1	79.8	175.7	-
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	4,063	8,360	19,575	11,989	12,533	21,432	77,952
		27年4月	3,671	7,983	18,708	11,565	12,355	21,758	76,039
		28年4月	3,349	7,588	17,882	11,155	12,169	22,019	74,163
		29年4月	3,079	7,196	17,091	10,761	11,976	22,220	72,323
		30年4月	2,848	6,819	16,330	10,381	11,777	22,367	70,521
		31年4月	2,647	6,460	15,599	10,016	11,573	22,462	68,757
1頭当たり乳量(推定値)			6,693.7	7,284.8	7,940.9	8,497.3	8,558.0	8,889.1	-
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	27,196	60,899	155,445	101,874	107,257	190,512	643,183
		27年度	24,571	58,156	148,558	98,273	105,730	193,406	628,694
		28年度	22,419	55,278	142,002	94,792	104,138	195,728	614,357
		29年度	20,611	52,425	135,713	91,439	102,487	197,520	600,196
		30年度	19,063	49,674	129,672	88,214	100,785	198,821	586,229
		31年度	17,715	47,061	123,871	85,110	99,042	199,669	572,469

表Ⅲ-1-9D 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(比率) <九州>  
[単位:%]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	18.9	20.6	31.9	12.3	9.2	7.1	100.0
	推定値	27年4月	17.9	20.6	32.0	12.4	9.5	7.6	100.0
		28年4月	17.1	20.5	32.0	12.5	9.8	8.0	100.0
		29年4月	16.5	20.4	32.0	12.6	10.1	8.5	100.0
		30年4月	15.9	20.2	31.9	12.7	10.3	8.9	100.0
		31年4月	15.4	19.9	31.8	12.8	10.6	9.4	100.0
経産牛頭数	推定値	平成26年4月	5.2	10.7	25.1	15.4	16.1	27.5	100.0
		27年4月	4.8	10.5	24.6	15.2	16.2	28.6	100.0
		28年4月	4.5	10.2	24.1	15.0	16.4	29.7	100.0
		29年4月	4.3	10.0	23.6	14.9	16.6	30.7	100.0
		30年4月	4.0	9.7	23.2	14.7	16.7	31.7	100.0
		31年4月	3.8	9.4	22.7	14.6	16.8	32.7	100.0
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	4.2	9.5	24.2	15.8	16.7	29.6	100.0
		27年度	3.9	9.3	23.6	15.6	16.8	30.8	100.0
		28年度	3.6	9.0	23.1	15.4	17.0	31.9	100.0
		29年度	3.4	8.7	22.6	15.2	17.1	32.9	100.0
		30年度	3.3	8.5	22.1	15.0	17.2	33.9	100.0
		31年度	3.1	8.2	21.6	14.9	17.3	34.9	100.0

## 【10】都府県計

上述の「【2】東北」から「【9】九州」までの推定結果を合計して、都府県全体としての生乳生産動向を推測すると表Ⅲ-1-10Aのようになる。

同表によれば、今後、全ての規模階層で酪農家戸数、経産牛飼養頭数、年間出荷乳量がいずれも減少の一途を辿って行くということが推測される。

また、表Ⅲ-1-10Aに基づいて規模階層別シェアの将来動向を推定すると、表Ⅲ-1-10Bのようになり、北海道とはやや異なった傾向を示している。

先ず、酪農家戸数に関する規模別シェアの推移をみると、北海道では経産牛 50 頭未満の階層で低下傾向、50 頭以上の階層で上昇傾向を辿ることが推測されたが、都府県では 70 頭以上の階層と 20 頭未満の階層では上昇傾向、30 頭～70 頭未満の階層では低下傾向を辿るという結果が得られている。なお、「20 頭～30 頭未満」の階層のシェアは上昇傾向から低下傾向へと転向するものと推測される。

また、経産牛飼養頭数及び年間出荷乳量に関する規模別シェアの推移をみると、北海道では経産牛 70 頭未満の階層で低下傾向、70 頭以上の階層で上昇傾向を辿ることが推測されたが、都府県では 70 頭以上の階層では上昇傾向、30 頭～70 頭未満の階層では低下傾向、30 頭未満の階層では上昇傾向から低下傾向へと転向するといった複雑な将来動向が推定されている。

表Ⅲ-1-10A 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(実数) <都府県計>  
[単位:戸、頭、kg、トン]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	3,049	2,299	3,016	1,030	538	523	10,455
	推定値	27年4月	2,888	2,206	2,786	968	511	509	9,868
		28年4月	2,739	2,097	2,587	909	486	495	9,312
		29年4月	2,598	1,982	2,409	853	464	481	8,786
		30年4月	2,462	1,867	2,249	801	443	467	8,289
		31年4月	2,331	1,756	2,103	753	424	453	7,820
経産牛頭数	推定値	平成26年度	34,064	53,911	109,514	57,646	42,318	110,916	408,369
		27年度	32,292	51,758	101,084	54,143	40,155	107,651	387,084
		28年度	30,660	49,191	93,752	50,795	38,219	104,405	367,021
		29年度	29,103	46,482	87,241	47,656	36,454	101,198	348,134
		30年度	27,596	43,778	81,379	44,738	34,825	98,044	330,359
		31年度	26,133	41,154	76,049	42,035	33,311	94,947	313,629
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	231,059	402,108	871,930	482,165	361,165	987,362	3,335,790
		27年度	219,111	385,842	804,717	453,311	342,689	958,839	3,164,508
		28年度	208,067	366,528	746,268	425,615	326,135	930,408	3,003,023
		29年度	197,507	346,212	694,378	399,571	311,027	902,275	2,850,971
		30年度	187,273	325,968	647,662	375,310	297,080	874,545	2,707,838
		31年度	177,327	306,348	605,200	352,802	284,113	847,281	2,573,070

表Ⅲ-1-10B 経営規模別酪農家戸数、経産牛飼養頭数、総生乳出荷量の推定結果(比率) <都府県計>  
[単位:%]

			20頭未満	20頭～ 30頭未満	30頭～ 50頭未満	50頭～ 70頭未満	70頭～ 100頭未	100頭以 上	計
酪農家戸数	現在値	平成26年4月	29.2	22.0	28.8	9.9	5.1	5.0	100.0
	推定値	27年4月	29.3	22.4	28.2	9.8	5.2	5.2	100.0
		28年4月	29.4	22.5	27.8	9.8	5.2	5.3	100.0
		29年4月	29.6	22.6	27.4	9.7	5.3	5.5	100.0
		30年4月	29.7	22.5	27.1	9.7	5.3	5.6	100.0
		31年4月	29.8	22.5	26.9	9.6	5.4	5.8	100.0
経産牛頭数	推定値	平成26年度	8.3	13.2	26.8	14.1	10.4	27.2	100.0
		27年度	8.3	13.4	26.1	14.0	10.4	27.8	100.0
		28年度	8.4	13.4	25.5	13.8	10.4	28.4	100.0
		29年度	8.4	13.4	25.1	13.7	10.5	29.1	100.0
		30年度	8.4	13.3	24.6	13.5	10.5	29.7	100.0
		31年度	8.3	13.1	24.2	13.4	10.6	30.3	100.0
総生乳出荷量	推定値	平成26年度	6.9	12.1	26.1	14.5	10.8	29.6	100.0
		27年度	6.9	12.2	25.4	14.3	10.8	30.3	100.0
		28年度	6.9	12.2	24.9	14.2	10.9	31.0	100.0
		29年度	6.9	12.1	24.4	14.0	10.9	31.6	100.0
		30年度	6.9	12.0	23.9	13.9	11.0	32.3	100.0
		31年度	6.9	11.9	23.5	13.7	11.0	32.9	100.0

## 2 「酪農全国基礎調査」に基づく業況分析

### (1) 分析の課題と内容

前節では、平成 25 年 4 月 1 日から 26 年 4 月 1 日の 1 年間における個別酪農家の搾乳継続状況及び経産牛飼養頭数の変化状況に基づいて計測した「推移確率行列（マルコフ分析）」を用いて、生乳生産構造及び生産量の将来動向を推定した。ただし、この推定は、前節の推定方法に関する説明からも明らかなように、調査期間における酪農家の搾乳継続状況や経産牛飼養頭数の変化状況が将来も続いて行くという仮定の下に行われたものであり、酪農経営を取り巻く諸条件の変化等を勘案して形成される酪農家の将来計画や将来意向は全く反映されていない。

そこで、以下では「平成 26 年度酪農全国基礎調査」から得られる将来計画・将来意向関連データに基づいて酪農業に関する業況分析を行い、前節のマルコフ分析に基づく推定結果を補完することとした。

その基本的な考え方と結果の概要は以下のとおりである。

### (2) 基本的な考え方と分析方法

#### 【1】基本的な考え方

酪農業に関する業況分析は、その課題と「平成 26 年度酪農全国基礎調査」から得られるデータ内容を勘案して、以下の 4 視点から行うこととした。

- [1] 生乳生産の継続性：酪農家数の将来動向を推測するために、今後の「酪農経営の継続意向（中止意向）」の強さを把握する。
- [2] 生乳生産の成長性：酪農家の生乳生産・出荷規模に関する将来動向を推測するために、今後の「生乳出荷量の拡大意向（縮小意向）」の強さを把握する。
- [3] 設備投資意欲の強さ：生産・出荷規模拡大意向の堅固さを推測するために、その裏付け指標として、「搾乳牛舎の増改築意向」の強さを把握する。
- [4] 将来意向の実現可能性：生乳生産の継続・拡大意向の実現度を推測する上での代理指標として、「生乳生産目標数量の達成可能性」の強さを把握する。

なお、ここでの分析は単年度（平成 26 年度）の調査結果に基づくものであり、また用いるデータが定量的なものではないので、以下の分析結果を用いて定量的な予測値推定を行ったり、前節のマルコフ分析による予測値推定結果を補正することは極めて困難である。

そこで、以下では、分析で得られる地域別指標の計測結果を地域間で比較することにより、今後の生乳生産に関する相対的な優位性を把握し、前節の地域別推定結果を評価する際の基礎情報とすることを念頭において作業を実行することとする。

## 【2】業況指標の作成方法

この業況分析で用いる業況指標は、前述の考え方にに基づき、以下のデータと計測方法によって作成した。

### 〔1〕生乳生産の継続性

「平成 26 年度」、「平成 27～28 年度」の両期間に向けての酪農継続意向を別々に計測して時間経過に伴う意向変化の状況を把握するとともに、「平成 26～28 年度」の全期間を通じての酪農継続意向を計測して全体的な意向の強さを把握した。

〈1〉利用データ：「平成 26 年度内の搾乳中止予定の有無」、「平成 27～28 年度内の搾乳中止予定の有無」に関する調査結果

〈2〉計測方法：①「100-搾乳中止予定農家の割合」によって、酪農継続意向率を算出した。

②「平成 26～28 年度」の全期間を通じての酪農継続意向率は、「100-平成 26 年度・27～28 年度累積の搾乳中止予定農家の割合」によって算出した。

③今後の生乳生産に関する相対的有望度を表わす「将来性ランク」は、地域別継続意向率の最高値と最低値の間を 5 等分し、降順に「高い」、「やや高い」、「標準並み」、「やや低い」、「低い」の 5 ランクを設定した。

### 〔2〕生乳生産の成長性

「平成 26 年度」、「平成 27 年度」、「平成 28 年度」の 3 期間に関する生乳出荷の純増加意向を別々に計測して時間経過に伴う意向変化の状況を把握するとともに、「平成 26～28 年度」の全期間平均の純増加意向を計測して全体的な増加意向の強さを把握した。

〈1〉利用データ：「平成 26 年度出荷乳量の増減意向」、「平成 27 年度出荷乳量の増減意向」、「平成 28 年度出荷乳量の増減意向」に関する調査結果

〈2〉計測方法：①「増加予定農家の割合-減少予定農家の割合」によって、純増加意向率を算出した。

②「平成 26～28 年度」の全期間を通じての平均純増加意向率は、「平成 26 年度」、「平成 27 年度」、「平成 28 年度」の純増加意向率を平均することによって算出した。

③今後の生乳生産に関する相対的有望度を表わす「将来性ランク」は、地域別純増加意向率の最高値と最低値の間を 5 等分し、降順に「高い」、「やや高い」、「標準並み」、「やや低い」、「低い」の 5 ランクを設定した。

### 〔3〕設備投資意欲の強さ

搾乳牛舎の「新設意向」、「増設意向」の強さを別々に計測して生産拡大計画の程度別に意向の強さを把握するとともに、「新設・増設合計の意向」を計測して全体的な増加意向の強さを把握した。

〈1〉利用データ：「搾乳牛舎の新設意向」、「搾乳牛舎の増設意向」に関する調査結果

- <2>計測方法：①「新設（増設）意向がある」農家の割合を新設（増設）意向率とした。
- ②「新設・増設合計の意向率」は、「新設意向率」に「増設意向率」に加算することによって算出した。
- ③今後の生乳生産に関する相対的有望度を表わす「将来性ランク」は、地域別新設（増設）意向率の最高値と最低値の間を5等分し、降順に「高い」、「やや高い」、「標準並み」、「やや低い」、「低い」の5ランクを設定した。

#### 【4】将来意向の実現可能性

生乳生産の継続・拡大意向の堅固さを相対的に把握するための代理指標として、「生乳生産目標の達成可能性」の程度を計測した。

<1>利用データ：「生乳生産目標数量の達成可能性」に関する調査結果

<2>計測方法：①「必ず達成」、「たぶん達成」、「たぶん達成不可能」、「絶対達成不可能」の各回答にそれぞれ2点、1点、1点、2点を付与し、下式に従って平均評価点を算出した。

$$\text{平均評価点} = 2 \times \text{「必ず達成」} + \text{「たぶん達成」} \\ - \text{「たぶん達成不可能」} - 2 \times \text{「絶対達成不可能」}$$

②今後の生乳生産に関する相対的有望度を表わす「将来性ランク」は、地域別平均評価点の最高値と最低値の間を5等分し、降順に「高い」、「やや高い」、「標準並み」、「やや低い」、「低い」の5ランクを設定した。

### （3）業況指標の計測及び分析結果

以上の方法で計測した業況指標とその分析結果は以下のとおりである。

#### 【1】生乳生産の継続性

「平成26年度内の搾乳中止予定率」、「平成27～28年度内の搾乳中止予定率」、及びそれらから算出した「平成26年度～28年度累積の搾乳中止予定率」に基づいて地域別に計測した『平成26年度』、『平成27～28年度』、『平成26～28年度』の酪農継続意向率は表Ⅲ-2-1A～表Ⅲ-2-1Cのとおりである。

まず、表Ⅲ-2-1Cによって、平成26年度～28年度を通しての全般的な傾向をみると、酪農家戸数の維持、生乳生産の継続性という観点では北海道、中国の優位性が特に高く、東北、東海も優位性が相対的に高いといえることができる。これに対して、近畿、北陸は相対的に優位性が低く、特に近畿の優位性の低さが目立つ。

また、表Ⅲ-2-1A、表Ⅲ-2-1Bによって、時間経過に伴う優位性の変化状況をみると、現在から1～2年後まで長期にわたって優位性が高い地域としては中国、東北、現在はさほどでないが1～2年後まで長い目で見た時に優位性が高い地域としては北海道があげられる。逆に、現在から1～2年後まで長期にわたって優位性が低い地域としては近畿、現在は優位性が高いが1～2年後まで長い目で見た時に優位性が低い地域としては北陸があげられる。

表Ⅲ - 2 - 1 A 平成26年度内の酪農継続意向率

[単位：戸、%]

	有効回答数	継続意向率	将来性ランク
全 体	15,962	96.0	-
北 海 道	6,029	95.9	標準並み
東 北 道	2,443	96.3	やや高い
関 東 圏	3,188	95.0	低 い
北 陸 道	342	96.8	高 い
東 海 道	862	96.3	やや高い
近 畿 圏	391	95.7	やや低い
中 国 道	705	97.0	高 い
四 国 道	367	95.9	標準並み
九 州 道	1,635	96.7	高 い
(都府県計)	9,933	96.0	(標準並み)

【将来性に関するランク付けの基準】

① 高 い	96.6%以上
② やや高い	96.2%～96.6%未満
③ 標準並み	95.8%～96.2%未満
④ やや低い	95.4%～95.8%未満
⑤ 低 い	95.4%未満

表Ⅲ - 2 - 1 B 平成27～28年度内の酪農継続意向率

[単位：戸、%]

	有効回答数	継続意向率	将来性ランク
全 体	15,647	92.5	-
北 海 道	5,973	93.8	高 い
東 北 道	2,406	91.9	やや高い
関 東 圏	3,025	92.6	やや高い
北 陸 道	340	89.7	低 い
東 海 道	846	91.8	標準並み
近 畿 圏	383	89.0	低 い
中 国 道	689	92.0	やや高い
四 国 道	358	91.6	標準並み
九 州 道	1,627	90.6	やや低い
(都府県計)	9,674	91.7	(標準並み)

【将来性に関するランク付けの基準】

① 高 い	92.8%以上
② やや高い	91.9%～92.8%未満
③ 標準並み	90.9%～91.9%未満
④ やや低い	90.0%～90.9%未満
⑤ 低 い	90.0%未満

表Ⅲ - 2 - 1 C 平成26～28年度を通しての酪農継続意向率

[単位：戸、%]

	有効回答数	継続意向率	将来性ランク
全 体	15,647	88.4	-
北 海 道	5,973	89.7	高 い
東 北 道	2,406	88.2	やや高い
関 東 圏	3,025	87.6	標準並み
北 陸 道	340	86.5	やや低い
東 海 道	846	88.1	やや高い
近 畿 圏	383	84.7	低 い
中 国 道	689	89.0	高 い
四 国 道	358	87.5	標準並み
九 州 道	1,627	87.3	標準並み
(都府県計)	9,674	87.6	(標準並み)

【将来性に関するランク付けの基準】

① 高 い	88.7%以上
② やや高い	87.7%～88.7%未満
③ 標準並み	86.7%～87.7%未満
④ やや低い	85.7%～86.7%未満
⑤ 低 い	85.7%未満

## 【2】生乳生産の成長性

「平成26年度出荷乳量の増減意向」、「平成27年度出荷乳量の増減意向」、「平成28年度出荷乳量の増減意向」に基づいて地域別に計測した『平成26年度』、『平成27年度』、『平成28年度』、及び『平成26～28年度平均』の純増加意向率（増加意向率－減少意向率）は、表Ⅲ - 2 - 2 A～表Ⅲ - 2 - 2 Dに示したとおりである。

先ず、表Ⅲ-2-2Dによって、平成26年度～28年度を通しての平均的な傾向をみると、1戸当たり生乳出荷規模の拡大、生乳生産の成長性という観点では北海道、九州の優位性が特に高く、関東、東海、近畿、四国の優位性が特に低い。その他、東北、北陸の優位性も相対的に低く、北海道と九州の優位性の高さが目立つ。

また、表Ⅲ-2-2A、表Ⅲ-2-2B、表Ⅲ-2-2Cによって、時間経過に伴う優位性の変化状況をみると、北海道、九州では現在から2年後まで一貫して優位性が高く、関東、東海、四国では同期間を通して優位性が低い。近畿では、平成26年度に関しては標準並みの高さを確保したが、来年度以降に関しては優位性が急落している。

表Ⅲ-2-2A 出荷乳量の純増加意向率（平成26年度）表Ⅲ-2-2B 出荷乳量の純増加意向率（平成27年

[単位：戸、%]

	有効回答数	純増加意向率	将来性ランク
全 体	15,957	20.7	-
北 海 道	6,031	27.0	高 い
東 北 道	2,434	17.6	やや低い
関 東 圏	3,182	12.1	低 い
北 陸 道	342	16.1	やや低い
東 海 道	856	10.4	低 い
近 畿 圏	391	18.7	標準並み
中 国 道	708	14.0	低 い
四 国 道	367	11.2	低 い
九 州 道	1,646	30.6	高 い
(都府県計)	9,926	16.9	(やや低い)

[単位：戸、%]

	有効回答数	純増加意向率	将来性ランク
全 体	15,749	27.2	-
北 海 道	6,003	36.4	高 い
東 北 道	2,368	21.1	やや低い
関 東 圏	3,123	17.8	低 い
北 陸 道	339	19.5	やや低い
東 海 道	842	17.5	低 い
近 畿 圏	385	15.6	低 い
中 国 道	705	27.5	やや高い
四 国 道	357	13.7	低 い
九 州 道	1,627	32.3	高 い
(都府県計)	9,746	21.5	(やや低い)

**【将来性に関するランク付けの基準】**

① 高 い	26.5%以上
② やや高い	22.5%～26.5%未満
③ 標準並み	18.5%～22.5%未満
④ やや低い	14.4%～18.5%未満
⑤ 低 い	14.4%未満

**【将来性に関するランク付けの基準】**

① 高 い	31.9%以上
② やや高い	27.3%～31.9%未満
③ 標準並み	22.8%～27.3%未満
④ やや低い	18.3%～22.8%未満
⑤ 低 い	18.3%未満

表Ⅲ-2-2C 出荷乳量の純増加意向率（平成28年度）表Ⅲ-2-2D 出荷乳量の平均純増加意向率（平成26～28年度平均）

[単位：戸、%]

	有効回答数	増加－減少	将来性ランク
全 体	15,681	21.6	-
北 海 道	5,999	31.6	高 い
東 北 道	2,347	15.4	やや低い
関 東 圏	3,111	12.4	やや低い
北 陸 道	339	10.0	低 い
東 海 道	833	12.2	低 い
近 畿 圏	380	8.7	低 い
中 国 道	701	18.7	標準並み
四 国 道	353	7.6	低 い
九 州 道	1,618	25.7	やや高い
(都府県計)	9,682	15.4	(やや低い)

[単位：戸、%]

	有効回答数	増加－減少	将来性ランク
全 体	15,681	23.2	-
北 海 道	5,999	31.7	高 い
東 北 道	2,347	18.1	やや低い
関 東 圏	3,111	14.1	低 い
北 陸 道	339	15.2	やや低い
東 海 道	833	13.4	低 い
近 畿 圏	380	14.3	低 い
中 国 道	701	20.1	標準並み
四 国 道	353	10.8	低 い
九 州 道	1,618	29.5	高 い
(都府県計)	9,682	17.9	(やや低い)

**【将来性に関するランク付けの基準】**

① 高 い	26.8%以上
② やや高い	22.0%～26.8%未満
③ 標準並み	17.2%～22.0%未満
④ やや低い	12.4%～17.2%未満
⑤ 低 い	12.4%未満

**【将来性に関するランク付けの基準】**

① 高 い	27.5%以上
② やや高い	23.4%～27.5%未満
③ 標準並み	19.2%～23.4%未満
④ やや低い	15.0%～19.2%未満
⑤ 低 い	15.0%未満

### 【3】設備投資意欲の強さ

「搾乳牛舎の新設意向」、「搾乳牛舎の増設意向」に基づいて地域別に計測した搾乳牛舎の『改築意向率』、『増築意向率』、及び『増改築意向率（改築意向率＋増築意向率）』は、表Ⅲ-2-3A～表Ⅲ-2-3Cに示したとおりである。

まず、表Ⅲ-2-3Cによって、搾乳牛舎の増改築意向率（改築意向率＋増築意向率）を地域別にみると、設備投資意欲の強さという観点では北海道の優位性が特に高く、九州の優位性も相対的に高い。しかし、この2地域と他の地域との間の差が著しく、特に関東、北陸、東海、近畿、中国の優位性が低い。

また、表Ⅲ-2-3A、表Ⅲ-2-3Bによって、搾乳牛舎の改築意向・増築意向別に将来的優位性をみると、北海道と九州ではどちらについても他地域に比べて意向率が高いということがわかる。ただし、一般的により大きな生産拡大に繋がる可能性の高い改築意向率と比べると、増築意向率の方が地域差が少なく、これに関しては中国、四国も相対的に高い値を示している。

表Ⅲ-2-3A 搾乳牛舎の改築意向率

[単位：戸、%]

	有効回答数	改築意向率	将来性ランク
全 体	15,820	7.3	-
北 海 道	6,009	12.1	高 い
東 北 道	2,382	4.9	やや低い
関 東 圏	3,185	3.6	低 い
北 陸 道	342	3.2	低 い
東 海 道	855	2.7	低 い
近 畿 圏	391	2.8	低 い
中 国 圏	708	4.0	低 い
四 国 圏	355	4.2	低 い
九 州 圏	1,593	6.7	やや高い
(都府県計)	9,811	4.3	(低 い)

**【将来性に関するランク付けの基準】**

① 高 い	10.3%以上
② やや高い	8.4%～10.3%未満
③ 標準並み	6.5%～8.4%未満
④ やや低い	4.6%～6.5%未満
⑤ 低 い	4.6%未満

表Ⅲ-2-3B 搾乳牛舎の増築意向率

[単位：戸、%]

	有効回答数	増築意向率	将来性ランク
全 体	15,812	8.3	-
北 海 道	6,006	11.4	高 い
東 北 道	2,386	7.6	標準並み
関 東 圏	3,186	5.1	やや低い
北 陸 道	342	3.5	低 い
東 海 道	857	4.1	低 い
近 畿 圏	385	2.9	低 い
中 国 圏	706	5.2	やや低い
四 国 圏	354	8.2	やや高い
九 州 圏	1,590	10.1	高 い
(都府県計)	9,806	6.4	(標準並み)

**【将来性に関するランク付けの基準】**

① 高 い	9.7%以上
② やや高い	8.0%～9.7%未満
③ 標準並み	6.3%～8.0%未満
④ やや低い	4.6%～6.3%未満
⑤ 低 い	4.6%未満

表Ⅲ-2-3C 搾乳牛舎の増改築意向率

[単位：戸、%]

	有効回答数	増改築意向率	将来性ランク
全 体	15,812	15.6	-
北 海 道	6,006	23.6	高 い
東 北 道	2,386	12.5	やや低い
関 東 圏	3,186	8.7	低 い
北 陸 道	342	6.7	低 い
東 海 道	857	6.8	低 い
近 畿 圏	385	5.7	低 い
中 国 圏	706	9.2	低 い
四 国 圏	354	12.4	やや低い
九 州 圏	1,590	16.7	やや高い
(都府県計)	9,806	10.7	(やや低い)

**【将来性に関するランク付けの基準】**

① 高 い	20.0%以上
② やや高い	16.4%～20.0%未満
③ 標準並み	12.8%～16.4%未満
④ やや低い	9.3%～12.8%未満
⑤ 低 い	9.3%未満

## 【4】将来意向の実現可能性

「平成 26 年度生乳生産目標数量の達成可能性」に基づいて地域別に計測した『生乳生産目標の達成可能性に関する平均評価点（2×必ず達成＋たぶん達成－たぶん達成不可能－2×絶対達成不可能）』は、表Ⅲ-2-4に示したとおりである。

まず、表Ⅲ-2-4によって平均評価点の地域間比較を行うと、目標達成の堅固さ、生産の継続・拡大意向の実現度という観点から優位性が高いのは九州のみであり、同地域と北海道、四国を除く6地域の優位性は相対的に低いという結果になる。とりわけ、東海、近畿、中国の優位性が低い。

表Ⅲ-2-4 生乳生産目標の達成可能性に関する平均評価点

[単位：戸、%]

	有効回答数	平均評価点	将来性ランク
全 体	15,866	17.6	-
北 海 道	5,959	25.8	標準並み
東 北	2,400	10.3	やや低い
関 東	3,176	7.1	やや低い
北 陸	342	7.6	やや低い
東 海	858	△ 14.1	低 い
近 畿	440	△ 2.5	低 い
中 国	679	△ 7.1	低 い
四 国	381	17.8	標準並み
九 州	1,631	53.8	高 い
(都府県計)	9,907	12.7	(やや低い)

### 【将来性に関するランク付けの基準】

① 高 い	40.2%以上
② やや高い	26.7%～40.2%未満
③ 標準並み	13.1%～26.7%未満
④ やや低い	△0.5%～13.1%未満
⑤ 低 い	△0.5%未満

## 【5】業況指標の総合評価

生乳生産の継続性、生乳生産の成長性、設備投資意欲の強さ、将来意向の実現可能性の4視点から捉えた業況指標を総合化すると表Ⅲ-2-5のようになる<sup>(注)</sup>。

(注) 生乳生産の継続性（酪農継続意向率）に関しては「平成 26～28 年度通算の継続意向率」、生乳生産の成長性（出荷乳量の純増加意向率）に関しては「平成 26～28 年度平均の純増加意向率」、設備投資意欲の強さ（搾乳牛舎の増改築意向率）に関しては「新設・増設合計の意向率」を取り上げた。

なお、総合化に当たっては、各業況指標毎に「高い」に2点、「やや高い」に1点、「標準並み」に0点、「やや低い」に△1点、「低い」に△2点を付与し、これを合計して総合評価点とした。また、各業況指標の「将来性ランク」を設定した時と同様、総合評価点の最高値と最低値の間を5等分して、「高い」、「やや高い」、「標準並み」、「やや低い」、「低い」の5ランクにランク付けした。

地域別の業況を総合的に評価すると、北海道と九州の将来性が高く、相対的にみると今後この2地域の生乳生産・出荷活動が最も活発になって行くものと推測される。

次いで将来性を期待されるのは東北、中国であるが、北海道及び九州との間の較差は大きい。

総合的な評価点が最も低いのは近畿で、当該地域の生乳生産・出荷活動が相対的に後退して行くことが懸念される。

その他の4地域は、東北、中国と近畿の間にあるが、これらの地域の生産・出荷活動も徐々に後退して行く可能性を否定できない。

従って、前節の生乳生産構造及び生乳出荷量の推定結果をみる際には、中期的には北海道、九州の結果はやや過小推定の可能性、近畿の結果はやや過大推定の可能性があるということを念頭においてみるのが適当と考えられる。その他、関東、北陸、東海、四国の4地域についても若干低めにみた方が過誤が少ないものと推察される。

表Ⅲ - 2 - 5 業況指標の総合評価

[単位：点]

	継続性（酪農 継続意向率） の評価点	成長性（出荷 の純増加意向 率）の評価点	設備投資意欲 （増海幾意向 率）の評価点	実現可能性 （生産目標達 成可能性）の 評価点	総合評価点 （4指標合計）	将来性ランク
北海道	2	2	2	0	6	高い
東北	1	△1	△1	△1	△2	標準並み
関東	0	△2	△2	△1	△5	やや低い
北陸	△1	△1	△2	△1	△5	やや低い
東海	1	△2	△2	△2	△5	やや低い
近畿	△2	△2	△2	△2	△8	低い
中国	2	0	△2	△2	△2	標準並み
四国	0	△2	△1	0	△3	やや低い
九州	0	2	1	2	5	高い
（都府県計）	0	△1	△1	△1	△3	やや低い

（注1）各業況指標の評価点は、「高い」=2点、「やや高い」=1点、「標準並み」=0点、「やや低い」=△1点、「低い」=△2点とした。

（注2）総合評価点のランク付けは、総合評価点の最高値と最低値の間を5等分し、降順に「高い」、「やや高い」、「標準並み」、「やや低い」、「低い」と設定した。

【総合評価点に関するランク付けの基準】

① 高い	3点以上
② やや高い	0点～ 3点未満
③ 標準並み	△2点～ 0点未満
④ やや低い	△5点～△2点未満
⑤ 低い	△5点未満

## IV 統計表

( I 調査結果掲載項目以外)



[単位：戸、%]

	全体	北海道	都府県計	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
酪農家数	16,383	6,086	10,297	2,476	3,199	342	900	562	747	402	1,669
<b>II (3) 肉専用種・雑種(F1)頭数</b>											
0頭	66.2	77.4	59.6	62.3	67.6	60.5	59.3	30.4	67.6	34.8	52.5
1～5頭未満	15.6	11.6	18	17.2	17.6	26.9	15.9	16.2	13.8	17.9	21.7
5～10頭未満	4.9	3	6.1	5.5	6	6.1	8	2.7	5.5	7.7	7
10～20頭未満	3.7	2.5	4.4	3.3	4	2.9	6.2	2.5	3.2	6	7.2
20～30頭未満	1.5	0.9	1.9	1.2	1.9	2	1.8	0.9	1.1	2	3.7
30～40頭未満	0.9	0.6	1.1	1.2	0.8	0.6	1.9	0.2	0.8	0.2	1.8
40～50頭未満	0.5	0.4	0.5	0.4	0.3	0.3	0.7	0.4	0.5	0.5	1.1
50～75頭未満	0.8	0.5	0.9	0.5	0.9	0.3	1.4	1.1	0.7	0.5	1.4
75～100頭未満	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	0.3	0.8	0.2	0.3	-	0.7
100～150頭未満	0.3	0.2	0.3	0.1	0.2	-	1	0.2	-	1.5	0.3
150頭以上	0.5	0.3	0.6	0.2	0.5	-	2.6	0.5	0.7	-	0.5
0頭・無回答を除く合計	29.0	20.3	34.1	29.6	32.4	39.5	40.2	24.7	26.5	36.3	45.4
有効回答平均(0含む)頭	6.2	4.2	7.4	4.9	7.9	2.4	16.1	9.2	4.9	6.1	7.3
平均(0除く)頭	20.4	20.2	20.4	15.3	24.4	6.2	39.8	20.5	17.3	11.9	15.7
<b>II (4) ii) 飼料作物作付地面積(自己所有面積)</b>											
0ha	11.8	1.7	17.7	7.6	23.7	45.3	37.2	19.8	4.8	13.9	11.1
1ha未満(ゼロを除く)	9.1	0.2	14.4	10.1	18.6	17.5	16.2	19.8	9.9	27.4	8.5
1～3ha未満	17.9	0.5	28.2	25.2	33.4	20.2	27.9	10.9	15.8	23.9	36.8
3～5ha未満	8.4	0.9	12.9	16.8	12.4	6.4	7.1	1.2	7.8	5.7	20.3
5～10ha未満	7.4	3.3	9.8	17.9	7.3	5.8	5.6	0.9	5.9	4.2	11.6
10～20ha未満	6	9.6	3.9	9.6	2.3	2.3	1	1.1	1.2	2	3.1
20～30ha未満	5.2	12.3	1	2.5	0.5	1.2	0.4	0.2	0.3	0.5	1.1
30～40ha未満	5	12.9	0.4	1	0.1	0.3	0.4	-	-	0.2	0.2
40～50ha未満	5.1	13.5	0.1	0.1	0.1	0.3	0.4	-	-	-	0.2
50～75ha未満	10.2	26.9	0.3	0.7	0.1	0.3	0.2	0.5	-	-	0.2
75～100ha未満	3.6	9.7	0.1	0.1	0	-	0.4	-	-	-	-
100ha以上	2.3	5.9	0.2	0.2	-	0.3	0.4	0.2	-	-	0.3
0ha・無回答除く合計	80.4	95.7	71.3	84.3	74.9	54.7	60.2	34.7	40.8	63.9	82.4
有効回答平均(0含む)ha	21.2	48.6	3.4	5.8	2.1	2.2	2.7	2.5	2.5	1.8	3.8
平均(0除く)ha	24.3	49.5	4.2	6.3	2.8	4.1	4.4	4	2.8	2.2	4.3
<b>III (4) 平成25年度廃用頭数</b>											
<b>1 繁殖障害</b>											
0頭	17.3	14.4	19	6.3	35.2	2.3	23.4	1.8	13.7	2.5	20.3
1～5頭未満	45.2	47.4	43.9	42	49.1	42.4	42.3	34.5	39.6	44.5	42.9
5～10頭未満	13.4	19.6	9.8	6.6	10.4	8.2	11.3	7.3	9.8	8.5	13.7
10～20頭未満	4.9	7.3	3.4	2.2	3.5	2.3	5.7	2.5	2.5	1.7	5.2
20～30頭未満	1	1.5	0.8	0.4	0.8	0.6	1.3	0.7	0.5	1.5	0.8
30～40頭未満	0.3	0.5	0.2	0.1	0.4	-	0.2	0.4	0.3	0.5	0.1
40～50頭未満	0.1	0.1	0.1	0	0.2	-	-	0.2	0.1	-	0.1
50頭以上	0.3	0.4	0.2	0.1	0.3	-	0.4	0.2	0.4	-	0.1
有効回答平均(0含む)頭	3.6	4.3	3	2.9	2.7	3.1	3.5	4.1	3.3	3.7	3.3
平均(0除く)頭	4.5	5.2	4	3.3	4.2	3.3	4.8	4.3	4.2	3.8	4.3
<b>2 乳房炎</b>											
0頭	21.1	18.1	22.9	7.7	42.5	3.5	30.1	3.9	15.9	5	21.7
1～5頭未満	42.6	46.1	40.4	36	45.8	38	40.4	29.4	39.4	34.6	42.8
5～10頭未満	10.5	16.5	7	4	8.5	4.1	8.9	4.4	6.2	7.5	9.3
10～20頭未満	3.6	6	2.1	1.1	2	0.9	3.3	1.6	2.4	1.5	3.6
20～30頭未満	0.7	1.2	0.4	0.2	0.4	-	0.9	0.2	0.8	0.7	0.4
30～40頭未満	0.2	0.3	0.2	0.1	0.3	-	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1
40～50頭未満	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	-	-	-	-	0.2	-
50頭以上	0.2	0.3	0.1	-	0.3	-	0.2	0.2	0.1	-	0.1
有効回答平均(0含む)頭	3	3.8	2.5	2.3	2.2	2.2	2.6	3.3	2.7	3.3	2.7
平均(0除く)頭	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.4	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3
<b>3 産前産後の代謝障害</b>											
0頭	29	34.5	25.8	8.2	48.1	5.3	34.7	3.2	17.5	4.7	24.7
1～5頭未満	40.4	36.9	42.5	39.9	44.6	37.7	40.3	37.2	46.7	35.8	46.2
5～10頭未満	7.1	9.8	5.5	4.2	5.6	3.8	6.7	5.2	3.3	5	8.2
10～20頭未満	1.8	2.7	1.2	0.8	1.4	0.6	2.2	0.2	0.7	1.2	1.4
20～30頭未満	0.3	0.6	0.2	0.1	0.1	-	0.3	0.2	-	0.2	0.3
30～40頭未満	0.1	0.2	0	-	-	-	0.1	-	-	-	-
40～50頭未満	0	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50頭以上	0.1	0	0.1	-	0.1	-	0.1	0.2	-	-	0.2
有効回答平均(0含む)頭	2	2.3	1.9	2.1	1.5	2.1	1.9	2.5	1.7	2.5	2.2
平均(0除く)頭	0.3	0.3	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4	0.3

※無回答は表示していないため、合計は100%にはならない。以下同様。

[単位：戸、％]

	全体	北海道	都府県計	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	
酪農家数	16,383	6,086	10,297	2,476	3,199	342	900	562	747	402	1,669	
<b>4 肢蹄障害</b>												
0頭	30.2	29.4	30.8	9.7	56.5	1.5	37	2.8	22.9	4.7	34.3	
1～5頭未満	36	39.2	34	27.1	38	38.3	37.4	33.6	29.7	32.6	36.1	
5～10頭未満	6.1	10.3	3.6	2.9	3.9	2.9	5.8	2.1	2.4	3.2	4	
10～20頭未満	1.9	3.6	0.9	0.6	0.9	-	2.3	0.5	0.8	0.2	0.8	
20～30頭未満	0.4	0.7	0.1	0	0.2	-	0.4	0.4	0.1	-	-	
30～40頭未満	0.1	0.2	0.1	0	0.1	-	-	0.2	0.1	-	0.1	
40～50頭未満	0	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	
50頭以上	0	0	0	0	0.1	-	0.1	-	-	-	-	
有効回答平均(0含む)頭	1.9	2.6	1.5	2	1.2	2	1.9	2.4	1.5	2.1	1.3	
平均(0除く)頭	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.5	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	
<b>5 その他の機能障害</b>												
0頭	39.7	42.9	37.9	11.9	69.8	6.4	52.3	3.7	25	6.7	38.5	
1～5頭未満	24.9	27.4	23.5	20	25.9	30.4	23.4	20.8	13.9	19.9	28.6	
5～10頭未満	4.5	7.1	3	2.1	3.1	1.2	4.1	2.3	4	3.2	3.6	
10～20頭未満	1.5	2.6	0.8	0.5	0.8	0.3	1.4	0.5	1.1	0.2	0.9	
20～30頭未満	0.3	0.6	0.1	0	0.1	-	-	-	0.3	0.5	0.1	
30～40頭未満	0.1	0.2	0	-	0.1	-	-	0.2	-	-	-	
40～50頭未満	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
50頭以上	0	0	0	-	0.1	-	0.1	-	-	-	0.1	
有効回答平均(0含む)頭	1.5	1.9	1.2	1.6	0.9	1.5	1.4	2.4	1.8	2.3	1.3	
平均(0除く)頭	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.5	0.3	0.4	0.2	0.3	0.4	
<b>6 その他</b>												
0頭	40.7	43	39.4	13.2	71.5	9.4	54	3.7	22.2	5	43	
1～5頭未満	21.2	23.5	19.8	19.3	21.2	21.3	19.1	22.1	15.9	17.9	19.4	
5～10頭未満	6.4	9.8	4.4	3	5.2	2.9	5.1	3.6	5.8	3	4.8	
10～20頭未満	2.7	4.8	1.4	0.9	1.3	0.6	3	1.4	1.7	1.5	1.6	
20～30頭未満	0.5	0.9	0.3	0	0.3	0.6	0.8	-	0.3	0.2	0.4	
30～40頭未満	0.2	0.3	0.1	0	0.1	-	-	0.4	0.1	0.2	0.1	
40～50頭未満	0.1	0.2	0.1	-	0.1	-	-	-	0.1	-	0.1	
50頭以上	0.2	0.3	0.1	0	0.2	-	0.3	-	0.1	-	0.1	
有効回答平均(0含む)頭	2.2	2.9	1.8	2	1.4	2.4	2	2.9	2.6	3.1	1.7	
平均(0除く)頭	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2	0.3	0.2	
<b>Ⅲ (7) 平成25年度平均生菌数・平均細菌数</b>												
0万	2.2	5.5	0.3	1.1	-	0.6	0.1	-	-	-	-	
0～0.25万/ml未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
0.25～0.5万/ml未満	0	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
0.5～1.0万/ml未満	37.6	41.7	35.2	33.8	64.7	22.2	10.7	25.1	33.7	25.4	2.8	
1.0～2.0万/ml未満	4.7	2.6	5.9	2.7	8.3	3.8	2.9	14.8	16.2	6.5	0.4	
2.0～3.0万/ml未満	13.3	18.8	10.1	19.5	6.4	25.4	1.6	12.5	10.6	20.1	1.1	
3.0～4.0万/ml未満	2.2	1.5	2.6	1.3	2.9	0.9	1.4	8.9	8.8	3.2	0.1	
4.0～5.0万/ml未満	15.9	10.5	19.1	9.6	10.4	13.5	10.9	6.4	5.5	13.2	67	
5.0～10.0万/ml未満	1.6	0.6	2.2	0.4	0.9	0.3	5.1	7.5	5.6	0.5	3.1	
10.0万/ml以上	12.3	10.2	13.5	13.5	3.9	24.6	46	16.7	11.2	23.6	9.3	
有効回答平均(0含む)万/ml	0.25	0.22	0.27	0.25	0.18	0.31	0.47	0.31	0.26	0.3	0.34	
<b>Ⅲ (8) 平成25年度平均体細胞数</b>												
0万	0.2	0.5	0	0.1	-	-	0.1	-	-	-	-	
0～0.25万個/ml未満	13.6	16.5	11.8	13.8	12	9.9	13	10.5	13.4	7.2	9.3	
0.25～0.5万個/ml未満	20.4	23.4	18.6	20.1	19.1	16.7	18.7	14.4	17.8	13.7	18.7	
0.5～1.0万個/ml未満	24.5	26.4	23.3	21.5	23.2	19.9	24.3	16.2	25.3	21.6	28.2	
1.0～2.0万個/ml未満	17.5	16.4	18.1	13.7	18.4	13.2	20.1	15.5	17.9	23.1	23.5	
2.0～3.0万個/ml未満	8.5	5.1	10.5	9	12.8	15.2	8.9	13	8.6	11.9	7.9	
3.0～4.0万個/ml未満	3.3	1.6	4.4	3	4.8	9.4	3.9	8.9	4.7	6.7	2.7	
4.0～5.0万個/ml未満	1.8	0.7	2.5	2	2.8	7	2.3	3.4	2.1	4.5	1.2	
5.0～10.0万個/ml未満	1	0.4	1.3	0.8	1.1	2.9	2.1	4.3	1.7	2.2	0.5	
10.0万個/ml以上	6.4	7	6	6.1	5.6	5.6	6.1	13.9	6.8	8.7	3.1	
有効回答平均(0含む)個/ml	2.6	2.5	2.6	2.5	2.7	2.8	2.7	3.2	2.7	2.9	2.4	
<b>Ⅲ (9) 平成25年度平均空胎日数</b>												
80日未満	5.2	4.3	5.7	9	6	6.1	5.1	4.1	2.5	3.2	3.4	
80～100日未満	8.7	7.7	9.3	12.2	9.9	11.4	11.9	7.1	5.2	8.7	4.9	
100～120日未満	11.4	11	11.6	10.6	13	17.5	12.9	8	9.2	15.7	9.9	
120～140日未満	19.1	21.5	17.7	16.9	20.2	24.9	19	11.4	14.7	17.2	15.8	
140～160日未満	17.7	21.4	15.6	13.4	18.3	15.2	12.4	8.4	15.8	18.4	16.8	
160～180日未満	9.9	13.1	8	5.2	9.5	10.8	6.4	3.4	9.6	6.7	10.8	
180～200日未満	7.6	8.1	7.3	5.5	9.2	5.3	5.1	3.7	6.8	6	9.9	
200日以上	6.2	5.7	6.5	4.7	6.9	6.4	4.1	5.2	7.4	5.5	10.2	
有効回答平均(0含む)日	136.3	139.9	133.9	124.3	134.5	130.6	126.5	133	144.2	133	146.7	

[単位：戸、%]

	全体	北海道	都府県計	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
酪農家数	16,383	6,086	10,297	2,476	3,199	342	900	562	747	402	1,669
<b>V (1) 個体管理</b>											
<b>i) 発情を見逃さない工夫</b>											
出来ている	47.6	50.9	45.7	45.8	45.5	50.0	48.8	43.4	45.6	44.8	44.0
不十分	45.6	44.2	46.5	47.7	48.2	46.5	42.1	34.7	44.3	43.0	49.5
出来ていない	5.1	4.1	5.7	5.7	6.1	3.5	6.7	3.9	4.7	8.2	5.2
「出来ている」－ 「出来ていない」	42.5	46.8	40.0	40.1	39.4	46.5	42.1	39.5	41.0	36.6	38.9
<b>ii) 乳量維持のための給与内容</b>											
出来ている	54.2	58.8	51.4	51.6	51.0	58.8	56.1	47.3	47.4	50.0	51.4
不十分	39.8	36.9	41.5	42.8	43.9	38.3	36.6	30.8	41.0	39.3	42.8
出来ていない	4.1	3.4	4.6	4.1	4.9	2.9	4.4	3.0	6.2	6.5	4.3
「出来ている」－ 「出来ていない」	50.0	55.4	46.9	47.5	46.1	55.8	51.7	44.3	41.2	43.5	47.2
<b>iii) 定期的な飼料分析</b>											
出来ている	38.7	55.4	28.9	27.7	30.3	30.4	29.0	24.2	21.8	25.9	33.0
不十分	33.9	25.4	39.0	39.7	40.0	40.9	39.0	30.2	34.8	35.3	41.3
出来ていない	25.6	18.4	29.8	31.5	29.4	28.7	29.7	27.2	37.6	34.6	24.6
「出来ている」－ 「出来ていない」	13.2	37.1	△ 0.9	△ 3.8	0.8	1.8	△ 0.7	△ 3.0	△ 15.8	△ 8.7	8.4
<b>iv) 泌乳ステージに応じた飼料給与</b>											
出来ている	50.6	54.7	48.3	49.9	48.0	55.8	52.8	47.9	43.6	47.3	44.6
不十分	38.5	35.7	40.1	40.3	42.2	38.0	35.3	28.3	39.2	33.6	45.1
出来ていない	9.0	8.8	9.2	8.7	9.4	6.1	9.3	5.7	11.6	14.2	8.9
「出来ている」－ 「出来ていない」	41.6	45.9	39.1	41.2	38.6	49.7	43.4	42.2	32.0	33.1	35.7
<b>v) 適切なボディコンディションスコアの維持</b>											
出来ている	37.6	42.3	34.8	35.0	35.1	41.8	39.3	31.9	29.6	35.8	32.8
不十分	51.2	48.9	52.6	52.5	53.9	50.3	50.1	44.7	53.4	48.0	55.5
出来ていない	9.2	7.9	10.0	11.0	10.8	7.9	7.7	4.4	11.5	11.2	9.9
「出来ている」－ 「出来ていない」	28.3	34.4	24.7	24.0	24.4	33.9	31.7	27.4	18.1	24.6	22.9
<b>vi) 定期的削蹄</b>											
出来ている	75.9	82.1	72.2	71.0	74.5	81.0	80.6	69.2	66.9	65.7	67.9
不十分	17.7	12.8	20.6	23.4	20.0	15.2	13.9	10.0	20.3	22.4	25.3
出来ていない	4.9	4.3	5.2	5.0	5.3	3.8	3.6	2.5	7.6	7.7	5.7
「出来ている」－ 「出来ていない」	71.0	77.9	67.0	66.0	69.3	77.2	77.0	66.7	59.3	58.0	62.3
<b>(2) 畜舎・器具の清掃・消毒</b>											
<b>i) 牛舎の定期的清掃・消毒</b>											
出来ている	57.7	62.2	55.1	56.3	55.0	57.6	60.0	49.1	41.1	51.5	59.4
不十分	36.5	33.2	38.5	39.2	40.5	38.0	34.1	30.4	43.0	37.8	36.9
出来ていない	4.2	3.8	4.4	4.1	4.3	4.4	3.6	3.0	10.7	7.0	2.7
「出来ている」－ 「出来ていない」	53.5	58.4	50.7	52.1	50.8	53.2	56.4	46.1	30.4	44.5	56.7
<b>ii) 管理機器類の定期的清掃・消毒</b>											
出来ている	76.5	79.1	75.0	78.0	74.5	76.3	77.6	65.5	71.8	73.9	74.9
不十分	20.4	18.7	21.4	20.2	23.8	21.9	18.9	16.2	19.1	19.4	22.9
出来ていない	1.5	1.4	1.6	1.3	1.6	1.8	1.2	0.7	4.0	2.7	1.1
「出来ている」－ 「出来ていない」	75.0	77.7	73.4	76.7	72.9	74.6	76.3	64.8	67.7	71.1	73.8
<b>iii) 作業衣・作業靴の定期的清掃・消毒</b>											
出来ている	74.1	80.2	70.5	73.6	69.4	76.0	77.8	62.3	62.8	65.2	70.4
不十分	22.4	17.6	25.2	23.8	27.8	22.5	18.3	18.9	27.3	25.9	27.6
出来ていない	2.0	1.4	2.3	2.1	2.5	1.5	1.7	1.2	4.8	5.2	1.1
「出来ている」－ 「出来ていない」	72.1	78.8	68.2	71.5	66.9	74.6	76.1	61.0	58.0	60.0	69.3
<b>iv) 除糞作業、敷料交換</b>											
出来ている	80.7	83.8	78.9	83.1	79.3	87.7	83.0	68.5	66.9	77.9	76.8
不十分	16.4	14.5	17.6	14.9	18.6	12.0	14.1	12.8	24.1	16.4	21.5
出来ていない	1.3	0.9	1.5	1.5	1.9	0.3	0.7	0.9	3.9	1.5	0.8
「出来ている」－ 「出来ていない」	79.4	82.9	77.3	81.6	77.4	87.4	82.3	67.6	63.1	76.4	75.9

[単位：戸、%]

	全体	北海道	都府県計	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
酪農家数	16,383	6,086	10,297	2,476	3,199	342	900	562	747	402	1,669
<b>V (3) 基本的搾乳方法</b>											
<b>i) 専用手袋等の使用、出荷不適切牛の確認</b>											
出来ている	83.4	89.5	79.8	78.7	81.5	76.6	80.2	70.6	83.8	77.6	80.2
不十分	13.9	8.8	16.9	19.5	16.7	22.8	16.1	10.9	8.6	17.2	18.1
出来ていない	1.2	0.8	1.4	1.5	1.6	0.6	1.2	0.9	2.5	2.0	0.8
「出来ている」－ 「出来ていない」	82.2	88.8	78.3	77.2	79.9	76.0	79.0	69.8	81.3	75.6	79.4
<b>ii) 前搾りによる乳の異常の確認</b>											
出来ている	80.5	81.6	79.8	80.2	81.3	81.6	78.1	68.5	72.4	80.8	83.8
不十分	16.0	15.5	16.3	18.0	16.7	17.0	16.9	11.9	18.5	13.4	13.7
出来ていない	2.0	2.0	2.0	1.6	1.9	1.5	2.7	1.8	3.7	2.5	1.6
「出来ている」－ 「出来ていない」	78.5	79.7	77.8	78.6	79.4	80.1	75.4	66.7	68.7	78.4	82.2
<b>iii) 1頭1乳房の清拭とマッサージ</b>											
出来ている	72.1	80.5	67.2	65.3	62.6	77.2	73.7	68.1	69.9	66.2	72.1
不十分	20.0	14.2	23.4	27.9	28.0	16.7	18.8	10.5	14.3	22.4	20.6
出来ていない	6.2	4.4	7.3	6.5	9.2	6.1	4.7	3.4	10.4	7.7	6.3
「出来ている」－ 「出来ていない」	65.9	76.1	59.9	58.8	53.5	71.1	69.0	64.8	59.4	58.5	65.8
<b>iv) 1分程度のライナー装着</b>											
出来ている	74.0	76.0	72.8	75.4	70.6	74.9	73.0	63.5	71.5	74.4	75.9
不十分	21.6	20.7	22.2	21.3	25.8	23.1	21.4	16.5	19.0	19.4	21.0
出来ていない	2.6	2.3	2.7	2.5	3.3	2.0	2.3	1.6	4.1	2.7	2.0
「出来ている」－ 「出来ていない」	71.4	73.8	70.1	72.9	67.3	72.8	70.7	61.9	67.3	71.6	73.9
<b>v) 過搾乳の注意</b>											
出来ている	77.2	80.1	75.4	78.2	75.9	81.3	76.0	65.5	63.1	76.4	77.4
不十分	19.8	17.6	21.1	20.1	22.4	18.1	20.1	15.1	28.4	17.7	20.7
出来ていない	1.3	1.3	1.3	0.8	1.5	0.6	1.0	1.1	3.3	2.5	1.0
「出来ている」－ 「出来ていない」	75.8	78.8	74.1	77.4	74.4	80.7	75.0	64.4	59.7	73.9	76.5
<b>vi) 乳頭2/3以上のポストデイッピング</b>											
出来ている	80.0	84.4	77.3	75.9	78.0	80.1	78.8	68.0	70.3	77.6	83.0
不十分	12.7	9.7	14.5	16.8	16.0	13.5	13.7	10.3	9.4	12.4	13.2
出来ていない	5.2	4.6	5.6	5.0	5.8	6.4	4.6	3.2	14.9	6.2	2.8
「出来ている」－ 「出来ていない」	74.7	79.8	71.7	70.9	72.1	73.7	74.2	64.8	55.4	71.4	80.2
<b>(4) 畜舎出入時の手指・作業衣の消毒</b>											
<b>i) 踏み込み消毒槽の設置</b>											
出来ている	64.4	77.2	56.8	55.9	49.6	82.7	73.9	49.5	49.4	41.0	66.8
不十分	27.0	18.2	32.3	33.6	39.9	15.5	21.0	23.5	29.0	36.8	28.4
出来ていない	7.0	3.8	8.9	9.6	10.3	1.8	4.0	7.8	16.5	18.4	4.0
「出来ている」－ 「出来ていない」	57.4	73.4	47.9	46.3	39.3	81.0	69.9	41.6	32.9	22.6	62.8
<b>ii) 手洗い消毒</b>											
出来ている	63.0	63.9	62.6	66.8	62.9	71.3	67.9	56.2	42.2	60.7	62.7
不十分	30.0	29.6	30.2	27.3	32.2	25.4	27.6	21.2	40.6	26.4	32.5
出来ていない	5.3	5.7	5.0	4.8	4.6	3.2	3.3	3.6	12.2	9.0	3.8
「出来ている」－ 「出来ていない」	57.8	58.2	57.5	61.9	58.2	68.1	64.6	52.7	30.0	51.7	59.0
<b>iii) 牛舎毎の作業衣・作業靴の使用</b>											
出来ている	62.8	65.6	61.1	66.1	62.0	72.8	71.0	55.2	38.6	59.7	56.7
不十分	27.4	24.5	29.2	27.7	30.4	22.5	21.3	20.5	33.1	27.4	36.1
出来ていない	8.2	9.0	7.7	5.7	7.3	4.7	6.3	5.5	23.0	9.2	6.1
「出来ている」－ 「出来ていない」	54.6	56.7	53.4	60.4	54.7	68.1	64.7	49.6	15.5	50.5	50.6

[単位：戸、%]

	全体	北海道	都府県計	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
酪農家数	16,383	6,086	10,297	2,476	3,199	342	900	562	747	402	1,669
<b>V (5) 飼料・水への排泄物混入防止</b>											
<b>i) 飼料庫、給水施設の定期点検</b>											
出来ている	75.2	79.9	72.4	79.0	76.9	84.5	80.6	60.3	18.2	74.4	74.7
不十分	20.6	17.9	22.2	18.6	21.0	14.9	16.6	18.9	50.7	18.7	23.3
出来ていない	2.6	1.4	3.3	1.5	1.8	0.6	1.4	1.4	25.7	3.0	0.9
「出来ている」－ 「出来ていない」	72.6	78.4	69.1	77.5	75.1	83.9	79.1	58.9	△ 7.5	71.4	73.8
<b>ii) 飼料等への野生動物の排泄物混入防止対策</b>											
出来ている	50.8	51.2	50.6	59.1	47.6	61.7	52.1	38.1	44.8	48.8	47.8
不十分	42.4	42.8	42.2	37.1	46.1	36.3	41.4	37.2	40.0	41.5	46.7
出来ていない	5.1	5.1	5.1	3.2	6.0	2.0	5.1	5.9	9.9	5.7	4.2
「出来ている」－ 「出来ていない」	45.7	46.1	45.5	55.9	41.6	59.6	47.0	32.2	34.9	43.0	43.6
<b>iii) 衛生的な飲用水の確保</b>											
出来ている	86.3	86.2	86.4	90.6	88.4	93.0	90.7	72.8	65.2	82.6	87.7
不十分	11.3	12.3	10.7	8.2	10.7	7.0	7.8	7.5	25.2	11.9	11.3
出来ていない	0.8	0.6	0.9	0.5	0.8	-	0.4	0.9	4.4	1.7	0.2
「出来ている」－ 「出来ていない」	85.5	85.6	85.5	90.1	87.6	93.0	90.2	71.9	60.8	80.8	87.5
<b>(6) 導入家畜の隔離・健康観察</b>											
<b>i) 導入牛専用隔離施設、管理器具の整備</b>											
出来ている	26.2	29.3	24.3	23.2	23.9	19.6	33.7	23.1	16.1	20.4	27.7
不十分	39.0	33.7	42.1	43.3	43.9	54.1	38.3	30.4	28.4	38.3	47.5
出来ていない	23.7	22.3	24.4	22.5	27.2	22.2	23.6	19.4	35.5	24.1	19.9
「出来ている」－ 「出来ていない」	2.5	7.0	△ 0.1	0.7	△ 3.3	△ 2.6	10.1	3.7	△ 19.4	△ 3.7	7.8
<b>ii) 隔離の実施、隔離期間中の健康観察</b>											
出来ている	32.7	35.6	30.9	30.1	29.2	32.5	40.7	27.8	22.2	28.4	35.5
不十分	37.1	32.0	40.1	40.1	43.8	44.2	35.9	30.6	29.5	34.8	44.0
出来ていない	18.3	17.2	19.0	17.0	21.9	19.0	18.3	13.9	27.8	18.2	14.6
「出来ている」－ 「出来ていない」	14.4	18.4	12.0	13.1	7.3	13.5	22.3	13.9	△ 5.6	10.2	20.9
<b>iii) 導入元農場の家畜衛生状況の確認</b>											
出来ている	34.2	39.7	31.0	29.5	30.3	36.5	38.2	29.2	17.8	31.8	35.8
不十分	32.1	26.0	35.6	34.7	38.7	41.2	34.6	24.7	26.2	29.6	39.8
出来ていない	21.0	18.4	22.5	20.4	25.7	17.8	21.2	17.3	35.5	19.4	18.0
「出来ている」－ 「出来ていない」	13.3	21.4	8.4	9.0	4.6	18.7	17.0	11.9	△ 17.7	12.4	17.9
<b>(7) 人や車両出入の制限・消毒の実施</b>											
<b>i) 施設への立入り制限措置</b>											
出来ている	68.3	76.5	63.5	54.9	59.1	64.3	84.7	61.9	64.3	70.9	71.4
不十分	23.9	18.6	27.0	32.6	32.6	29.2	12.2	13.9	21.2	19.9	24.6
出来ていない	6.1	4.0	7.4	11.7	8.1	6.4	2.1	5.3	9.2	5.5	3.0
「出来ている」－ 「出来ていない」	62.2	72.5	56.1	43.2	51.0	57.9	82.6	56.6	55.0	65.4	68.4
<b>ii) 車両消毒の実施</b>											
出来ている	26.6	36.2	21.0	17.8	18.2	19.0	35.8	14.6	17.5	14.7	28.6
不十分	52.2	47.9	54.8	53.0	59.8	62.0	50.1	48.2	41.8	56.7	56.4
出来ていない	19.3	14.9	21.9	28.1	21.8	19.0	12.9	17.8	35.2	24.1	13.5
「出来ている」－ 「出来ていない」	7.3	21.3	△ 1.0	△ 10.3	△ 3.6	0.0	22.9	△ 3.2	△ 17.7	△ 9.5	15.1
<b>iii) 立入り者の衣服・靴等の交換・消毒</b>											
出来ている	26.6	33.3	22.7	24.7	20.2	28.9	33.0	18.3	14.3	23.9	22.3
不十分	50.4	46.9	52.4	50.1	56.5	52.0	51.4	44.5	38.8	45.5	59.1
出来ていない	21.2	18.9	22.5	24.0	23.0	19.0	14.3	18.1	41.0	25.4	17.0
「出来ている」－ 「出来ていない」	5.4	14.4	0.1	0.7	△ 2.8	9.9	18.7	0.2	△ 26.6	△ 1.5	5.3

[単位：戸、%]

	全体	北海道	都府県計	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
酪農家数	16,383	6,086	10,297	2,476	3,199	342	900	562	747	402	1,669
<b>V (8) 野生動物や害虫の侵入防止</b>											
<b>i) 施設、設備の保守点検、補修・修繕</b>											
出来ている	40.9	49.2	36.0	41.6	34.9	38.9	47.8	29.7	22.6	36.3	30.6
不十分	48.1	43.3	51.0	48.5	54.0	53.5	43.7	42.2	46.7	46.8	58.3
出来ていない	9.1	6.7	10.6	8.5	10.8	7.6	6.7	8.5	25.2	12.7	9.8
「出来ている」－ 「出来ていない」	31.7	42.5	25.4	33.1	24.2	31.3	41.1	21.2	△ 2.5	23.6	20.9
<b>ii) 野生鳥獣・衛生害虫の侵入防止対策</b>											
出来ている	26.2	32.8	22.4	30.2	19.3	26.0	27.1	19.0	13.7	19.9	19.1
不十分	57.5	55.1	58.9	56.2	62.7	62.9	58.7	44.7	48.2	56.0	65.3
出来ていない	14.5	11.2	16.4	12.5	17.8	11.1	12.7	16.9	32.7	19.9	14.2
「出来ている」－ 「出来ていない」	11.8	21.6	6.0	17.7	1.4	14.9	14.4	2.1	△ 19.0	0.0	4.9
<b>iii) 衛生害虫の定期的駆除</b>											
出来ている	36.9	41.8	34.0	40.1	33.6	42.4	39.0	23.3	19.1	29.9	32.9
不十分	50.3	47.9	51.6	50.1	54.1	48.8	51.0	41.1	48.6	49.8	55.4
出来ていない	11.0	9.3	12.0	8.7	12.1	8.8	8.4	16.0	26.8	16.2	10.5
「出来ている」－ 「出来ていない」	25.9	32.4	22.0	31.4	21.4	33.6	30.6	7.3	△ 7.6	13.7	22.4
<b>(9) 出荷時の家畜の健康確認</b>											
<b>i) 出荷牛の健康状態の確認</b>											
出来ている	87.2	90.3	85.3	86.1	86.8	86.8	89.4	72.8	72.8	83.6	88.8
不十分	10.1	8.1	11.4	11.6	11.9	12.9	8.2	5.9	20.1	10.7	9.4
出来ていない	0.7	0.7	0.8	0.8	0.9	0.3	0.7	0.7	1.6	1.5	0.2
「出来ている」－ 「出来ていない」	86.4	89.7	84.5	85.3	86.0	86.5	88.8	72.1	71.2	82.1	88.6
<b>(10) 異常家畜の早期発見・早期受信</b>											
<b>i) 毎日の臨床観察・健康状態の把握</b>											
出来ている	84.1	85.9	83.1	81.7	84.9	85.4	85.7	72.2	84.2	78.1	84.3
不十分	13.6	12.7	14.2	17.0	14.2	14.6	12.7	9.4	8.7	16.7	14.3
出来ていない	0.6	0.7	0.5	0.3	0.7	-	0.2	0.2	1.6	1.5	0.2
「出来ている」－ 「出来ていない」	83.6	85.2	82.6	81.4	84.2	85.4	85.4	72.1	82.6	76.6	84.1
<b>ii) 獣医師への早期連絡、診療記録の保管</b>											
出来ている	86.9	89.7	85.2	84.0	88.4	89.5	87.9	73.8	84.2	81.1	83.9
不十分	10.8	8.8	12.0	14.4	10.9	10.2	10.6	7.5	8.7	12.9	14.4
出来ていない	0.6	0.6	0.6	0.7	0.5	0.3	0.2	0.4	1.6	1.7	0.4
「出来ている」－ 「出来ていない」	86.3	89.1	84.6	83.3	87.9	89.2	87.7	73.5	82.6	79.4	83.6
<b>(11) 過密状態での飼養回避</b>											
<b>i) 牛舎環境の整備、防暑対策</b>											
出来ている	71.7	72.6	71.1	72.1	71.9	79.5	75.2	61.2	68.8	70.9	68.5
不十分	25.7	25.2	26.0	26.5	27.1	19.9	22.8	19.9	23.7	24.1	30.0
出来ていない	1.0	1.4	0.7	0.6	0.8	0.6	0.2	0.4	2.0	1.2	0.4
「出来ている」－ 「出来ていない」	70.7	71.2	70.4	71.6	71.1	78.9	75.0	60.9	66.8	69.7	68.1
<b>ii) 適正な飼養密度</b>											
出来ている	77.5	78.5	76.9	77.8	79.6	86.8	82.4	68.5	64.0	73.6	75.1
不十分	19.1	18.9	19.2	19.7	19.0	12.6	14.9	11.6	24.9	19.4	22.3
出来ていない	1.4	1.7	1.2	1.0	1.0	0.6	0.8	0.7	3.2	2.5	1.2
「出来ている」－ 「出来ていない」	76.1	76.7	75.8	76.9	78.6	86.3	81.7	67.8	60.8	71.1	73.9
<b>(12) 家畜伝染病に関する知識の習得</b>											
<b>i) 家畜の伝染性疾患の発生予防知識</b>											
出来ている	66.2	68.3	65.0	64.4	63.2	67.0	72.1	59.6	64.1	58.5	68.6
不十分	30.3	29.1	31.0	32.7	34.4	32.2	25.1	21.4	26.5	34.3	29.0
出来ていない	1.8	1.6	2.0	2.3	2.3	0.9	1.2	0.5	3.9	3.0	1.0
「出来ている」－ 「出来ていない」	64.4	66.7	63.0	62.1	60.9	66.1	70.9	59.1	60.2	55.5	67.6

付. 調 査 票



## 加工原料乳供給安定緊急特別対策事業 自己点検用紙

### I 基本情報（平成26年4月1日現在）

(1) 牧場の県コード、農協コード、酪農家整理番号を記入してください。

県コード	農協コード	酪農家整理番号
<input type="text"/> <input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>

(2) 牧場の個体識別における農家コードを記入してください。

<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
---

(3) 牧場名（施設名）を記入してください。

(4) 牧場主（経営主）の名前を記入してください。

\_\_\_\_\_

(5) 牧場主（経営主）の年齢を記入してください。

\_\_\_\_\_ 歳

(6) 生乳を出荷している農業協同組合等の名称を記入してください。

\_\_\_\_\_

(7) 牛を繋養している牧場の所在地を記入してください。

〒

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

(8) 牧場主も含む従事者の人数を記入してください。

家族等 \_\_\_\_\_ 人 家族以外(雇用等) \_\_\_\_\_ 人

(9) 経営形態は次のうちどれですか。

- |          |
|----------|
| 1 法人経営   |
| 2 法人経営以外 |

(10) 飼養形態は次のうちどれですか。

- |           |
|-----------|
| 1 フリーストール |
| 2 フリーバーン  |
| 3 繋ぎ      |
| 4 その他     |

(11) 主な搾乳形態は次のうちどれですか。

- |          |
|----------|
| 1 パーラー   |
| 2 パイプライン |
| 3 搾乳ロボット |
| 4 その他    |

II 飼養管理状況（平成 26 年 4 月 1 日現在）

(1) 経産牛頭数を記入してください。

\_\_\_\_\_ 頭

(2) 未経産牛頭数を記入してください。

\_\_\_\_\_ 頭

i) うち 2 歳未満を記入してください。

\_\_\_\_\_ 頭

(3) 肉専用種・交雑種(F1)の合計頭数を記入してください。

\_\_\_\_\_ 頭

(4) 飼料作物作付面積を記入してください。

\_\_\_\_\_ ha

i) うち牧草地（デントコーン等青刈類以外）の面積を記入してください。

\_\_\_\_\_ ha

ii) うち自己所有面積を記入してください。

\_\_\_\_\_ ha

iii) うち借地面積を記入してください。

\_\_\_\_\_ ha

(5) 搾乳牛舎の築年数を記入してください。

およそ \_\_\_\_\_ 年

(6) 搾乳牛舎に空きスペースはありますか。ある場合は頭数も記入してください。

1 ない

2 ある

\_\_\_\_\_ 頭程度

(7) TMR（完全混合飼料）センターの利用状況を記入してください。

- 1 利用している
- 2 利用していない
- 3 今後利用したい

(8) 農作業受託組織（コントラクター）の利用状況を記入してください。

- 1 利用している
- 2 利用していない
- 3 今後利用したい

(9) 性判別精液・受精卵の利用状況を記入してください。

- 1 利用している
- 2 利用していない
- 3 今後利用したい

(10) 高栄養粗飼料（コーンサイレージ等）の利用状況を記入してください。

- 1 利用している
- 2 利用していない
- 3 今後利用したい

Ⅲ 平成 25 年度の実績（平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで）

(1) 平成 25 年度 1 年間の経産牛の増・減頭数（期末頭数－期首頭数）を記入してください。

	_____ 頭	増・減
(2) 平成 25 年度の出生牛頭数を記入してください。		_____ 頭
i) うち乳用牛メス頭数を記入してください。		_____ 頭
ii) うち乳用牛オス頭数を記入してください。		_____ 頭
iii) うち交雑種(F1)頭数を記入してください。		_____ 頭
iv) うち肉専用種頭数を記入してください。		_____ 頭

(3) 平成 25 年度の妊娠牛（初妊牛等）販売・導入頭数を記入してください。

	販売 _____ 頭	導入 _____ 頭
--	------------	------------

(4) 平成 25 年度に廃用した頭数を理由別に記入してください。

1 繁殖障害	_____ 頭
2 乳房炎	_____ 頭
3 産前産後の代謝障害	_____ 頭
4 肢蹄障害	_____ 頭
5 上記以外の機能障害	_____ 頭
6 その他	_____ 頭

(5) 平成 25 年度の平均廃用産次を記入してください。

\_\_\_\_\_ 産

(6) 平成 25 年度の総出荷乳量と平均乳量を記入してください。

総出荷乳量 _____ t	1 頭あたり平均乳量 _____ kg
---------------	---------------------

(7) 平成 25 年度の平均生菌数あるいは平均細菌数を記入してください。

\_\_\_\_\_ 万/ml

(8) 平成 25 年度の平均体細胞数を記入してください。

\_\_\_\_\_ 万個/ml

(9) 平成 25 年度の平均空胎日数を記入してください。

\_\_\_\_\_ 日

(10) 平成 25 年度の平均分娩間隔日数を記入してください。

\_\_\_\_\_ 日

#### IV 今後の計画

(1) 今後の生乳出荷予定を記入してください。

前年度の出荷乳量と比べて

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
1 増やす	1 増やす	1 増やす
2 減らす	2 減らす	2 減らす
3 同程度	3 同程度	3 同程度

(2) 今後の畜舎等の増改築・購入予定を記入してください。

搾乳牛舎の新設	1 ある	2 ない
搾乳牛舎の増設	1 ある	2 ない
乾乳舎の新設	1 ある	2 ない
乾乳舎の増設	1 ある	2 ない
搾乳機器の導入・更新	1 ある	2 ない
給餌機器の導入・更新	1 ある	2 ない
哺乳機器の導入・更新	1 ある	2 ない
堆肥処理機器の導入・更新	1 ある	2 ない

(3) 後継者の有無を選んでください。

- |                      |
|----------------------|
| 1 16歳以上の就農している後継者がいる |
| 2 16歳以上の就農予定の後継者がいる  |
| 3 後継者はいない            |
| 4 わからない・未定・その他       |

(4) 今年度(平成 26 年度)に搾乳を中止する予定の有無を選んでください。

- |     |     |
|-----|-----|
| 1 無 | 2 有 |
|-----|-----|

(5) 来年度以降(平成 27～28 年度)に搾乳を中止する予定の有無を選んでください。

- |     |     |
|-----|-----|
| 1 無 | 2 有 |
|-----|-----|

## V 飼養衛生管理状況

### (1) 適切な個体管理

i) 発情を見逃さない工夫を行っていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

ii) 乳量維持のための給与内容としていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

iii) 定期的に飼料分析を行っていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

iv) 泌乳ステージに応じた飼料給与を行っていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

v) 適切なボディコンディションスコアの維持を行っていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

vi) 定期的に削蹄を行っていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

### (2) 畜舎や器具の清掃又は消毒の励行

i) 牛舎の定期的な清掃・消毒を行っていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

ii) 管理機器類の定期的な清掃・消毒・点検整備を行っていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

iii) 作業衣・作業靴の定期的な洗浄・消毒を行っていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

iv) 除糞作業を適切に行い、定期的に敷料交換を行っていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

### (3) 基本的な搾乳方法の励行

i) 専用手袋、清拭用・水分拭取りタオル、デIPPING剤の使用や出荷不適牛を確認していますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

ii) 搾乳前に前搾りして、乳の異常を確認していますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

iii) 1頭1布で乳房の清拭とマッサージを行っていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

iv) 清拭・マッサージ後、空気流入をさせないよう1分程度でライナーを装着していますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

v) 過搾乳に注意してユニットを外していますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

vi) ユニット離脱直後に乳頭2/3以上のポストデIPPINGを行っていますか。

1 出来ている      2 不十分      3 出来ていない

- (4) 畜舎出入り時の手指・作業衣等の消毒
- i) 踏み込み消毒槽を設置していますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- ii) 手洗い消毒を実施していますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- iii) 牛舎毎の専用作業衣・作業靴を使用していますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- (5) 飼料や水への排泄物等の混入防止
- i) 飼料庫、給水施設を定期的に点検していますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- ii) 飼料等への野生動物の排泄物の混入防止対策をとっていますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- iii) 衛生的な飲用水の確保を行っていますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- (6) 導入家畜の隔離・健康観察の実施
- i) 導入牛専用隔離施設、管理器具等を整備していますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- ii) 隔離の実施及び隔離期間中の綿密な健康観察を行っていますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- iii) 導入元農場の家畜衛生状況の確認(証明書の添付)を行っていますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- (7) 人や車両の出入り制限・消毒の実施
- i) 施設への立入り制限措置(立て看板の設置等)を行っていますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- ii) 車両消毒を実施していますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- iii) 立ち入り者の衣服・靴等の交換・消毒を行っていますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- (8) 野生動物や害虫の侵入防止
- i) 施設及び周辺、設備の保守点検、補修・修繕を実施していますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- ii) 野生鳥獣及び衛生害虫の侵入防止対策をとっていますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- iii) ネズミ、衛生害虫の定期的な駆除を行っていますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- (9) 出荷時における家畜の健康確認
- i) 出荷牛の健康状態の確認を行っていますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|

- (10) 異常家畜の早期発見・早期受診
- i) 毎日の臨床観察の実施・健康状態を把握していますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- ii) 獣医師への早期連絡、診療記録を保管していますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- (11) 過密な状態での家畜の飼養回避
- i) 牛舎環境(温・湿度、換気)の整備、防暑対策をとっていますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- ii) 適正な飼養密度にしていますか。
- |         |       |          |
|---------|-------|----------|
| 1 出来ている | 2 不十分 | 3 出来ていない |
|---------|-------|----------|
- (12) 家畜伝染病に関する知識の習得
- i) 家畜の伝染性疾病の発生予防に関する知識はありますか。
- |      |       |      |
|------|-------|------|
| 1 ある | 2 不十分 | 3 ない |
|------|-------|------|

以上、ありがとうございました。

この調査は、加工原料乳供給安定緊急特別対策事業において、酪農家の現状や飼養衛生管理状況等を把握することにより、生乳生産量の減少を防ぐための対策等を検討するために実施するものです。

今回の調査にて収集した情報は、農林水産省、(独)農畜産業振興機構、指定生乳生産者団体(委託先含む)、(一社)中央酪農会議及び(独)農畜産業振興機構理事長が必要と認めた者で、次の目的の必要な範囲でのみ利用します。

- ・事業実施主体が事業要綱に基づき、(独)農畜産業振興機構理事長へ提出する報告書作成のため
- ・記載内容に関する問い合わせ、確認の連絡のため
- ・酪農行政に関する資料作成のため
- ・酪農振興に必要と認められる資料作成のため

また、調査にご協力いただいた酪農家の方々の不利益とならないように、収集した情報は「個人情報の保護に関する法律」に基づき適正に管理し、個人を特定できる情報は公開いたしません。

県コード	農協コード	酪農家整理番号
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

## 平成26年度酪農全国基礎調査票

(1) あなたの酪農経営についてお聞きします。(1つだけ○印をつけて下さい)

- i) 昨年度(平成25年度)の生乳生産コストは、  
平成24年度に比べて、 1 低くなった。 2 変わらない。 3 高くなった。
- ii) 昨年度(平成25年度)の酪農所得(家族労働費を含む)は、  
平成24年度に比べて、 1 増加した。 2 変わらない。 3 減少した。
- iii) 本年度(平成26年度)の生乳生産コストは、  
平成25年度に比べて、 1 低くなりそう。 2 変わらない。 3 高くなりそう。
- iv) 本年度(平成26年度)の酪農所得(家族労働費を含む)は、  
平成25年度に比べて、 1 増加しそう。 2 変わらない。 3 減少しそう。

(2) なぜ、酪農経営者は生乳を増産できない(しない)のでしょうか。すでに増産した経営者の方も含めて、すべての方の意見をお聞かせください。

(3つまで○印をつけて下さい)

- 1 農地が狭くて、自給飼料生産やふん尿処理が限界だから。
- 2 施設用地が狭くて、牛舎など施設を増改築できないから。
- 3 労働力不足で、自給飼料生産やふん尿処理が限界だから。
- 4 労働力不足で、乳牛の飼養管理が限界だから。
- 5 資金不足で、規模拡大のための土地や施設が確保できないから。
- 6 資金不足で、乳牛の更新や増頭ができないから。
- 7 今の設備・機械では、自給飼料生産やふん尿処理が限界だから。
- 8 今の設備・機械では、飼養頭数が限界だから。
- 9 経営者が高齢化しているから。
- 10 経営後継者が確保できないから。
- 11 生乳の出荷ペナルティ(細菌数、体細胞数)が厳しすぎるから。
- 12 生乳の出荷ペナルティ(乳脂肪分、無脂乳固形分)が厳しすぎるから。
- 13 生産枠(生乳計画生産)が、今後どうなるか分からないから。
- 14 生乳の価格や需給が、今後どうなるか分からないから。
- 15 購入飼料価格が、今後どうなるか分からないから。
- 16 酪農制度・政策が、今後どうなるか分からないから。
- 17 現在の経営規模(生乳生産量)に満足しているから。
- 18 その他(具体的に )

(3) あなたの酪農経営では、平成26年度の生乳生産目標数量を達成できそうですか。

(1つだけ○印をつけて下さい)

- 1 必ず達成できると思う。
- 2 たぶん達成できると思う。
- 3 たぶん達成できないと思う。
- 4 ぜったい達成できないと思う。
- 5 わからない。

(4) あなたが酪農経営を継続していくうえで、今後どのようなことを期待しますか。

(3つまで○印をつけて下さい)

- 1 生乳需給の安定
- 2 乳価の引き上げ
- 3 生産需要の拡大
- 4 乳製品輸入量の抑制
- 5 搾乳後継牛の安定的な供給
- 6 飼料など生産資材の安定的な供給
- 7 経営管理指導（経営コンサルなど）の充実
- 8 生産技術指導の充実
- 9 作業労働支援（コントラクター、ヘルパーなど）の充実
- 10 酪農経営に関する情報の提供
- 11 後継者の育成・確保のための対策（支援）
- 12 土地の売買や貸借の斡旋
- 13 牛乳乳製品の製造・販売、消費者との交流など6次産業化の支援
- 14 酪農振興のための補助事業の拡充
- 15 その他（具体的に）

(5) あなた（現在の酪農経営者）の酪農経験についてお聞きします。

i) あなたは、酪農に従事して何年目ですか。

\_\_\_\_\_年目

ii) あなたは、酪農経営者になって何年目ですか。

\_\_\_\_\_年目

(6) あなたが酪農部門以外に取り組んでいる部門に○印をつけて下さい。

(いくつでも○印をつけて下さい)

- 1 肉牛（肥育）
- 2 肉牛（繁殖）
- 3 稲作
- 4 畑作（飼料生産以外）
- 5 園芸（野菜・果樹）
- 6 乳製品製造
- 7 消費者交流（教育ファームを含む）
- 8 その他（具体的に）

ご協力ありがとうございました。